V60
CROSS COUNTRY

OWNER'S MANUAL

VÄLKOMMEN!

ボルボ社では、末永くお車をご愛顧いただけることを願っております。お買い上げいただいた車両は、運転者および同乗者の方々に安全で快適なドライビングをご提供できるように設計されています。ボルボ車は世界でもっとも安全な車の 1 つです。ボルボ車は、現在の安全・環境基準も満たしています。

ボルボ車をより一層お楽しみいただくために、本オーナーズマニュアルに記載されている説明およびメンテナンス情報をよくお読みになることをお薦めします。オーナーズマニュアルには、モバイルアプリ版(ボルボマニュアル)およびボルボ・カーズサポートサイト(support.volvocars.com)で利用できるウェブ版もあります。

TP 23453

目次

イントロダクション

オーナーズインフォメーションのご利用について 14
車載のデジタルオーナーズマニュアル 15
Volvo Cars サポートサイト 18
オーナーズマニュアルを読む 19
データの記録 22
アクセサリーおよび追加装備 23
Volvo ID 24
環境理念 25
オーナーズマニュアルと環境 28
ラミネーテッドガラス 28

重要です。必ずお読みください。

ご使用に際して！ 30
重要な安全上のご注意！ 31
火災および排気ガスに関するご注意 36
エンジン始動時のご注意！ 39
発進時のご注意！ 40
重要な操作上のご注意！ 40
してはいけないこと！ 45
その他使用上のご注意！ 54
踏切などで動けなくなったとき！ 55
万が一、事故を起こしてしまったら… 55
冬道での安全走行のポイント！ 56
タイヤ・ホイールについて！ 57
タイヤチェーンについて！ 58
燃料補給時のご注意！ 59
保証とアフターサービス 60

セーフティ

シートベルトの概要 62
シートベルト – 着用 63
シートベルト – 外す 64
シートベルト – 妊娠中 64
シートベルトリマインダー 65
シートベルトテンショナー 65
セーフティ – 警告灯 66
エアバッグシステム 67
運転席側エアバッグ 68
助手席側エアバッグ 68
助手席側エアバッグ – 作動/解除* 70
サイドエアバッグ(SIPS) 72
インフレータブルカーテン(IC) 73
WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)について 73
WHIPS – 着座姿勢 74
セーフティモードについて 75
セーフティモード – 車両の始動を試行する 76
セーフティモード – 車両の移動 77
お子様の安全について 77
チャイルドシート 79
チャイルドシート – 位置 85
チャイルドシート – インテグレーテッドチャイルドシート* 86

インテグレーテッドチャイルドシート* - シートクッションを上げる 87
インテグレーテッドチャイルドシート* - シートクッションを下げる 89
チャイルドシート - ISOFIX 89
ISOFIX - サイズ等級 90
ISOFIX - チャイルドシートの種類 91
チャイルドシート - アッパーマウンティングポイント 93

計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置、左ハンドル車 - 概要 96
計器およびコントロール装置、右ハンドル車 - 概要 99
コンバインド・メーター・パネル 102
アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要 102
液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 103
Eco guide および Power guide* 106
コンバインド・メーター・パネル - 表示灯の意味 108
コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 110
外気温計 112
トリップメーター(走行距離計) 113
時計 113
コンバインド・メーター・パネル - ライセンス契約 114
ディスプレイのシンボル 115
ボルボ・センサス 118
キー位置 119
キー位置 - 各レベルでの機能 119
シート、フロント 121
シート、フロント - 電動* 122
シート、リア 124
ステアリングホイール 126
ステアリングホイールのヒーター* 127
ライトスイッチ 128
ポジションランプ 130
デイタイムランニングライト 131
トンネル検知* 132
ハイ/ロービーム 132
アクティブハイビーム* 133
アクティブキセノンヘッドライト* 135
ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン 136
リアフォグランプ 137
ブレーキランプ 137
非常点滅灯 138
方向指示器 138
ルームランプ 139
ホームセーフライト 140
アプローチライト 141
ワイパーおよびウォッシャー 141
パワーウインド 144
ドアミラー 145
ウインドおよびドアミラー - ヒーター 147
ルームミラー 147
コンパス* 148
サンルーフ* 149

メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル 151
メニュー概要 - コンバインド・メーター・パネル 152
ディスプレイテキスト 153
メッセージ - 取り扱い 154
MY CAR 154
トリップコンピューター 156
トリップコンピューター - アナログ式コンバインド･メーター･パネル 158
トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル 162
トリップコンピューター - 走行統計* 166

エアコンディショナー

エアコンディショナーご使用にあたって 168
実際の温度 169
センサー - エアコンディショナー 169
エア・クオリティ 169
エア・クオリティ - クリーンエアフィルター 170
エア・クオリティ - クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)* 170
空気の質 - IAQS* 170
エア・クオリティ - 素材 171
メニュー設定 - エアコンディショナー 171
車内のエアディストリビューション 171
オートマチック・エアコンディショナー - ECC 174
フロントシートヒーター* 175
リアシートヒーター* 176
ファン 176
自動調節 177
車内の温度コントロール 177
エアコンディショナー 178
ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去 178
エアディストリビューション - リサーキュレーション 179
エアディストリビューション - 一覧表 180
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* 183
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート 184
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - 即時停止 185
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー 185
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ 187
アディショナルヒーター* 189
フューエルドリブンアディショナルヒーター* 189
電気アディショナルヒーター* 190

荷物の積み込みおよび収納

収納スペース 192
トンネルコンソール 194
グローブボックス 194
フロアマット* 194
メイクアップミラー 195
トンネルコンソール – 12V 電源ソケット 195
荷物の積み込み 196
荷物の積み込み – 長いもの 197
ルーフの荷物 198
荷物固定用アイレット 198
荷物の積み込み – バッグホルダー* 198
12V 電源ソケット – カーゴスペース* 199
カーゴネット* 199
スチールガードネット* 201
ラゲッジカバー* 201

ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー 204
リモートコントロールキー – 紛失 204
リモートコントロールキー – パーソナライズ* 205
ロック/ロック解除 – インジケーター 206
ロックインジケーター 207
イモビライザー 207
追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー* 208
リモートコントロールキー – 機能 208
リモートコントロールキー – 作動範囲 209
PCC 付きリモートコントロールキー* – 独自機能 210
PCC 付きリモートコントロールキー* – 作動範囲 211
脱着式キーブレード 212
脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け 212
脱着式キーブレード – ドアロック解除 213
プライバシーロック* 213
リモートコントロールキー – 電池の交換 215
キーレスドライブ* 216
キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの作動範囲 217
キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの安全な取り扱い 217
キーレスドライブ* – リモートコントロールキー機能への干渉 218
キーレスドライブ* – ロック 218
キーレスドライブ* – ロック解除 219
キーレスドライブ* – キーブレードによるロック解除 219
キーレスドライブ* – ロック設定 220
キーレスドライブ* – アンテナ位置 220
ロック/ロック解除 – 車外から 221
手動ドアロック 221
ロック/ロック解除 – 車内から 222
グローバルオープニング機能 223
ロック/ロック解除 – グローブボックス 224
ロック/ロック解除 – テールゲート 224
デッドロック* 226
チャイルドロック – 手動による作動 227
チャイルドロック – 電動ロック* 227
アラーム* 228
アラームインジケーター* 229
アラーム* – 自動再セット 229
アラーム* – リモートコントロールキーが使用できない 230

アラームシグナル* 230
アラームの機能解除* 230
型式認定 – リモートコントロールキーシステム 231

運転者サポート

ステアリングホイール操舵力の調節* 234
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 概要 234
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 操作 235
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – シンボルおよびメッセージ 237
速度リミッター* 239
速度リミッター* – 開始する 239
速度リミッター* – 速度変更 240
速度リミッター* – 一時的解除およびスタンバイモード 240
速度リミッター* – 速度超過時のアラーム 241
速度リミッター* – 解除 241
クルーズコントロール* 242
クルーズコントロール* – 速度の管理 243
クルーズコントロール* – 一時解除およびスタンバイモード 244
クルーズコントロール* – 設定速度の再開 244
クルーズコントロール* – 解除 245
車間警告機能* 245
車間警告機能* – 機能限界 247
車間警告機能* – シンボルおよびメッセージ 248
アダプティブクルーズコントロール – ACC* 249
アダプティブクルーズコントロール* – 機能 250
アダプティブクルーズコントロール* – 概要 252
アダプティブクルーズコントロール* – 速度の管理 253
アダプティブクルーズコントロール* – 車間時間設定 254
アダプティブクルーズコントロール* – 一時解除およびスタンバイモード 255
アダプティブクルーズコントロール* – 追い越し 256
アダプティブクルーズコントロール* – 解除 257
アダプティブクルーズコントロール* – 渋滞アシスタント 257
アダプティブクルーズコントロール* – クルーズコントロール機能に切り替える 259
アダプティブクルーズコントロール* – 故障点検および対処 260
アダプティブクルーズコントロール* – シンボルおよびメッセージ 261
レーダーセンサー 263
レーダーセンサー – 機能限界 263
型式認定 – レーダーシステム 265

City Safety™ 269
City Safety™ - 機能 270
City Safety™ - 操作 270
City Safety™ - 機能の限界 271
City Safety™ - レーザーセンサー 273
City Safety™ - シンボルおよびメッセージ 275
衝突警告システム* 276
衝突警告システム* - 機能 277
衝突警告システム* - サイクリストの検知 278
衝突警告システム* - 歩行者の検知 279
衝突警告システム* - 操作 280
衝突警告システム* - 機能の限界 282
衝突警告システム* - カメラセンサー機能限界 283
衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ 285
BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)* 287
BLIS* - 操作 288
CTA* 289
BLIS - シンボルおよびメッセージ 291
ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* 292
ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 操作 293
ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 機能限界 295
ドライバー・アラート・システム* 296
Driver Alert Control(DAC)* 296
Driver Alert Control(DAC)* - 操作 297
Driver Alert Control(DAC)* - シンボルおよびメッセージ 298
レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能* 299
レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能 300
レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 操作 301
レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能限界 301
レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - シンボルおよびメッセージ 302
レーン・キーピング・エイド(LKA)* 303
レーン・キーピング・エイド(LKA) - 機能 304
レーン・キーピング・エイド(LKA) - 作動 305
レーン・キーピング・エイド(LKA) - 機能限界 306
レーン・キーピング・エイド(LKA) - シンボルおよびメッセージ 307
パークアシスト* 308
パークアシスト* - 機能 308
パークアシスト* - リア 309
パークアシスト* - フロント 310
パークアシスト* - 異常表示 311
パークアシスト* - センサーの清掃 311
パークアシスト・カメラ* 312
パークアシスト・カメラ - 設定 315
パークアシスト・カメラ - 機能限界 316
パークアシスト・パイロット(PAP)* 316
パークアシスト・パイロット(PAP)* - 機能 317
パークアシスト・パイロット(PAP)* - 操作 318
パークアシスト・パイロット(PAP)* - 制限事項 320
パークアシスト・パイロット(PAP)* - シンボルおよびメッセージ 321

運転操作の要領

エンジンの始動 324
エンジンを切る 325
ステアリングホイールロック 325
エンジンリモートスタート(ERS)* 326
エンジンリモートスタート(ERS) - 操作 326
エンジンリモートスタート(ERS) - シンボルおよびメッセージ 328
別のバッテリーによるジャンプスタート 329
トランスミッション 331
マニュアルトランスミッション 331
ギヤシフトインジケーター* 332
オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* 332
ギヤセレクターインヒビター 336
坂道発進補助装置(HSA)* 337
全輪駆動(AWD)* 337
Hill Descent Control(HDC)* 338
Start/Stop* 339
Start/Stop* - 機能と操作 340
Start/Stop* - エンジンが停止しない 342
Start/Stop* - エンジンがオートスタートする 343
Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない 344
Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) 344
Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ 345
ECO ドライブモード* 347
フットブレーキ 349
フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム 350
フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 351
フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス 351
パーキングブレーキ 352
水たまりでの運転 356
オーバーヒート 356
テールゲート/トランクリッドを開けたままでの走行 357
過負荷 - メインバッテリー 357
長距離走行の前に 358
冬季の運転 358
燃料給油口フラップ - 開閉 359
燃料給油口フラップ - 手動 359
適切な給油方法 360
燃料 - 取り扱い 361
燃料 - ガソリン 362
燃料 - ディーゼル 362
ディーゼル微粒子除去フィルター(DPF) 364
触媒コンバーター 365
経済走行 365
トレーラーなどのけん引* 366
トレーラーなどのけん引* - マニュアルトランスミッション 368
トレーラーなどのけん引* - オートマチックトランスミッション 368
トーイングブラケット/トウバー* 369
脱着式トウバー* - 保管 369
脱着式トウバー* - 仕様 370
脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し 371
トレーラー・スタビリティ・アシスト - TSA 373
けん引 374
けん引フック 375
車両移動 376

ホイールおよびタイヤ

タイヤ – メンテナンス 378
タイヤ – 回転方向 379
タイヤ – トレッド磨耗インジケーター 380
タイヤ – 空気圧 380
ホイールおよびホイールリムサイズ 382
タイヤ – サイズ 382
タイヤ – ロードインデックス 383
タイヤ – 速度記号 383
ホイールボルト 384
ウインタータイヤ 384
タイヤの交換 – タイヤを取り外す 385
タイヤの交換 – 取り付け 388
三角警告板(停止表示板) 389
ツール 390
ジャッキ* 390
救急用品キット* 391
タイヤ・プレッシャー・モニタリング* 391
タイヤ・モニタリング(TM)* 392
緊急パンクリペアー 394
緊急パンクリペアーキット – 位置 394
緊急パンクリペアーキット – 概要 395
緊急パンクリペアーキット – 操作 396
緊急パンクリペアー – 再点検 398
緊急パンクリペアーキット – タイヤへの空気注入 399

保守点検

ボルボサービスプログラム 402
コネクテッド・サービス予約* 402
車両リフトアップ 405
ボンネット – 開閉 407
エンジンルーム – 概要 407
エンジンルーム – 点検 409
エンジンオイル – 概要 409
エンジンオイル – 点検および補充 410
クーラント – レベル 414
ブレーキおよびクラッチフルード – レベル 415
パワーステアリングフルード – レベル 415
エアコンディショナーシステム – 故障点検と修理 416
ランプ交換 – 概要 417
ランプ交換 – ヘッドライト 418
ランプ交換 – ハイ/ロービームバルブ用カバー 419
ランプ交換 – ロービーム 419
ランプ交換 – ハイビーム 420
ランプ交換 – エクストラハイビーム 421
ランプ交換 – フロント方向指示器 421
ランプ交換 – リアランプ 422
ランプ交換 – リアランプの位置 422

ランプ交換 – ナンバープレートランプ 423
ランプ交換 – カーゴスペースランプ 423
ランプ交換 – メイクアップミラーランプ 423
ランプ – 仕様 424
ワイパーブレード 425
ウォッシャー液 – 補充 427
メインバッテリー – 概要 428
バッテリー – シンボル 430
メインバッテリー – 交換 430
バッテリー – Start/Stop 432
電気系統 434
ヒューズ – 概要 435
ヒューズ – エンジンルーム内 436
ヒューズ – グローブボックス下 440
ヒューズ – グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内 442
ヒューズ – カーゴスペース内 444
ヒューズ – エンジンルームのコールドゾーン内 446
洗車 448
磨きおよびワックスがけ 450
撥水/防塵加工コーティング 451
防錆 451
内装の清掃 452
塗装の損傷 453

仕様

タイプの表示 456
寸法 459
重量 461
けん引重量およびトウボール荷重 462
エンジンの仕様 464
エンジンオイル – 過酷な走行条件 465
エンジンオイル – グレードおよび容量 466
クーラント – グレードおよび容量 468
トランスミッションフルード – グレードおよび容量 469
ブレーキフルード – グレードおよび容量 470
パワーステアリングフルード – グレード 470
燃料タンク – 容量 471
エアコンディショナーの仕様 472
燃料消費量および CO2 排出量 473
タイヤ – 承認された空気圧 474

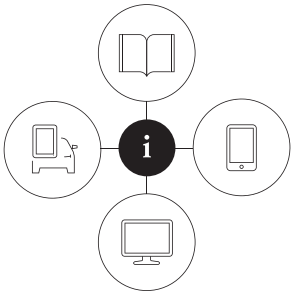
50 音順索引

50 音順索引 475

イントロダクション

オーナーズインフォメーションのご利用について

オーナーズインフォメーションは、デジタル版および印刷版ともに、さまざまな形式でご利用いただけます。オーナーズマニュアルは、車両の画面、モバイルアプリ、およびボルボ・カーズ・サポートサイトにてご覧いただけます。さらに、グローブボックスには Quick Guide や、仕様およびヒューズの情報などを収録したオーナーズマニュアルの付録冊子をご用意しています。オーナーズマニュアルの印刷版は別売りです。

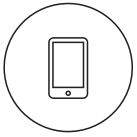


車両の画面 [1]

車両の画面でデジタルオーナーズマニュアル を使用することができます。センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押して、**OK/MENU**、続いて **オーナーズマニュアル** を選択します。情報は検索が可能で、カテゴリー別に分けることもできます。

詳しくは車載のデジタルオーナーズマニュアルをご覧ください。

モバイルアプリ



App Store または Google Play で「ボルボ・マニュアル」を検索します。ご利用のスマートフォンまたはタブレットにアプリをダウンロードして、車両を選択してください。

アプリには、車両のエクステリア画像およびインテリア画像を使用したビジュアル操作ガイドやビデオチュートリアルが含まれています。オーナーズマニュアルはセクション間を簡単に移動することができます。また、内容は検索可能です。詳しくはモバイル機器対応のオーナーズマニュアルをご覧ください。

ボルボ・カーズ・サポートサイト

support.volvocars.com でお住いの国を選択してください。このサイトでは、オーナーズマニュアルをオンラインおよび PDF ファイル形式で利用することができます。また、ボルボ・カーズ・サポートサイトでは、ビデオチュートリアルや、ご利用のボルボ車および車両の所有権に関する詳細情報およびサポートをご提供しています。このページは、ほとんどの市場にてご利用いただけます。詳しくは ボルボ・カーズ・サポートサイトを参照してください。

印刷版

グローブボックスには、仕様およびヒューズに関する情報を収録したオーナーズマニュアル付録冊子(SUPPLEMENT TO OWNER'S MANUAL)[2] が収納されています。この付録冊子には、重要情報や実用的な情報もまとめられています。

Quick Guide も印刷版として提供され、車両でよく使われる機能について最初に読んでおくと役立つ情報が収録されています。

[1] 画面表示のオーナーズマニュアルに非対応の市場では、印刷版のオーナーズマニュアル(完全版)が提供されます。
[2] 画面表示のオーナーズマニュアルに非対応の市場では、印刷版のオーナーズマニュアル(完全版)が提供されます。

選択した装備レベルや市場などにより、他にも印刷版で提供される可能性のあるオーナーズインフォメーションがあります。

印刷版オーナーズマニュアルおよび関連の付録は別途ご注文いただくこともできます。ボルボディーラーまでお問い合わせください。オーナーズマニュアルの構成については、「オーナーズマニュアルを読む」を参照してください。

車両の画面の言語を変更する

車両の画面の言語は変更できますが、情報が国や地域の法令と一致しないことがあります。理解しづらい言語には変更しないでください。画面のメニューに戻る方法がわかりにくくなる場合があります。

重要

安全運転を行い、適用される法律や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。また、オーナーズマニュアルに記載されているボルボの推奨事項に従って、車両の維持および取り扱いを行うことも重要です。

万が一、画面の情報とマニュアル(印刷版)の情報が異なる場合、必ず印刷版のマニュアルに記載されている情報に従ってください。

関連情報

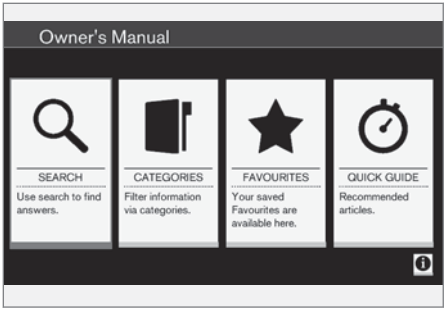
- 車載のデジタルオーナーズマニュアル (p. 15)
- Volvo Cars サポートサイト (p. 18)
- オーナーズマニュアルを読む (p. 19)

車載のデジタルオーナーズマニュアル

車内[3]の画面でオーナーズマニュアルを読むことができます。コンテンツは検索可能で、セクション間の移動も簡単です。

デジタルオーナーズマニュアルを見る – センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押し、**OK/MENU** を押して、**オーナーズマニュアル** を選択します。

ナビゲーションの基本操作については、「システムの操作」を参照してください。詳しくは以下を参照してください。



オーナーズマニュアル、スタートページ

デジタル版オーナーズマニュアルの中で目的の情報を見つけるには、以下の 4 通りの方法があります。

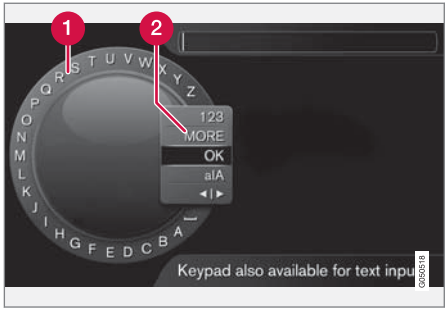
- **検索** – 項目を見つけるための検索機能
- **カテゴリー** – すべての項目がカテゴリー別に分類されています。
- **お気に入り** – ブックマークに登録したお気に入りの項目を素早く表示できます。
- **Quick Guide** – よく使う機能の項目が集められています。

デジタルオーナーズマニュアルに関する情報を入手するには、右下隅のインフォメーションシンボルを選択してください。

注意

走行中にデジタルオーナーズマニュアルを利用することはできません。

検索



テキストホイールによる検索

1 文字リスト

2 入力モードの変更(次の表を参照してください。)

テキストホイールを使用して、検索語(「シートベルト」など)を入力します。

1. **TUNE** を入力したい文字まで回して、**OK/MENU** を押して確定します。センターコンソールのコントロールパネルの番号や文字ボタンも使用できます。
2. 同様に順々に次の文字に進みます。
3. 入力モードを数字や特殊文字に変える場合、または検索を実行するには、**TUNE** を入力モードの変更(2)のリストにあるオプションのいずれか(以下の一覧表の説明を参照)まで回し、**OK/MENU** を押します。

123/ABC	**OK/MENU** で文字と番号を切り替えます。
記号	**OK/MENU** で特殊文字に切り替えます。
OK	検索を実行します。**TUNE** を回して検索結果項目を選択し、**OK/MENU** を押して項目に移動します。
a|A	**OK/MENU** を押して、小文字と大文字を切り替えます。
◀ | ▶	テキストホイールから検索フィールドに変わります。**TUNE** でカーソルを動かします。**EXIT** を押して、スペルミスを削除します。テキストホイールに戻るには、**OK/MENU** を押します。 コントロールパネルの数字ボタンおよび文字ボタンは、検索フィールドでの編集にも使用することができます。

[3] 一部の車両モデルに適用されます。

番号キーで入力する

番号キー

文字の入力方法には、センターコンソールのボタン **0**～**9**、*、#を使用する方法もあります。

例えば、**9** を押すと、バーが表示され、そのボタンに関連付けられている文字[4]（**W**、**x**、**y**、**z**、**9**）がすべて表示されます。ボタンを軽く押すと、カーソルがこれらの文字を移動します。

- 目的の文字でカーソルを止めると、その文字が選択され、入力ラインに表示されます。
- **EXIT** を使用すると、削除する/元に戻すことができます。

番号を入力するには、対応する番号キーを押したままにします。

カテゴリー

オーナーズマニュアルの項目は、メインカテゴリーおよびサブカテゴリーの形式に構成されています。検索性を向上させるために、同じ項目が複数の適切なカテゴリーに分類されています。

TUNE を回すとカテゴリーツリー内を移動でき、**OK/MENU** を押すとカテゴリー（選択された ）または項目（選択された ）が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

お気に入り

ここには、お気に入りとして保存されている項目があります。任意の項目をお気に入りとして選択する方法については、「項目内での移動」の項を参照してください。

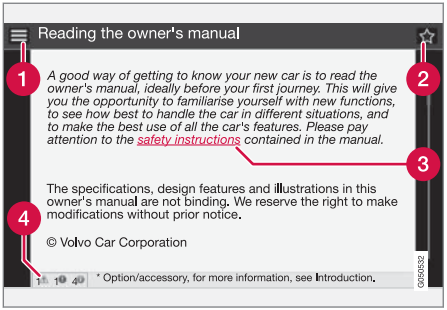
TUNE を回すとお気に入りリスト内を移動でき、**OK/MENU** を押すと項目が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

Quick Guide

ここには、車両のよく使われる機能を理解するための項目が集められています。項目はカテゴリーを使用して閲覧することもできますが、ここでは、素早く閲覧できるようにまとめられています。

TUNE を回すと Quick Guide 内を移動でき、**OK/MENU** を押すと項目が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

項目内での移動



1. **ホーム** – オーナーズマニュアルのスタートページに移動します。
2. **お気に入り** – 項目をお気に入りに追加/お気に入りから削除します。項目をお気に入りに追加/お気に入りから削除するには、センターコンソールの **FAV** ボタンを押す方法もあります。
3. **ハイライト表示のリンク** – リンクされている項目に移動します。
4. **特別なメッセージ** – 項目に警告、重要メッセージまたは参考メッセージが含まれている場合、該当するシンボルと項目に含まれている当該メッセージの数がここに表示されます。

TUNE を回すと、リンク間の移動、または項目内でのスクロール移動ができます。画面を項目の

[4] 各ボタンの文字は、市場/国/言語により異なることがあります。

先頭/末尾までスクロールした後、さらに 1 ステップ上/下にスクロールすると、ホームおよびお気に入りオプションが表示されます。**OK/MENU** を押すと、選択項目/ハイライト表示のリンク先にジャンプできます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

Volvo Cars サポートサイト

車両に関する詳しい情報は、ボルボ・カーズのウェブサイトとサポートサイトで入手できます。

インターネットによるサポート

URL、support.volvocars.com を入力するか、または以下の QR コードを使用してサポートページへアクセスしてください。サポートページは、ほとんどの市場にてご利用いただけます。

サポートページへのアクセス用 QR コード

サポートページ上の情報は検索が可能で、さまざまなカテゴリー別に分けることもできます。ここでは、例えばインターネット接続サービスおよび機能、Volvo On Call*、ナビゲーションシステム*、アプリなどに関するオプション用サポートをご利用いただけます。ビデオおよびステップごとのインストラクションにより、携帯電話を使用して車両をインターネットに接続する方法など、さまざまな手順をご説明しています。

サポートページからダウンロード可能な情報

地図

Sensus Navigation*装備車では、サポートページから地図をダウンロードすることができます。

アプリ

モデルイヤー 2014 年および 2015 年のボルボモデルの一部では、アプリ形式でオーナーズマニュアルをご利用いただけます。ここから Volvo On Call*アプリへアクセスすることも可能です。

旧モデルイヤー車両のオーナーズマニュアル

旧モデルイヤー車両のオーナーズマニュアルは、PDF 形式でここからご利用いただけます。Quick Guide および補足情報もサポートページからアクセスが可能です。車両モデルおよびモデルイヤーを選択して、必要なドキュメントをダウンロードしてください。

お問い合わせ

サポートページでは、カスタマーサポートおよび最寄りのボルボディーラーのお問い合わせ先をご案内しています。

ボルボ・カーズのウェブサイトにログインする

個人用 Volvo ID を作成して、www.volvocars.com にログインします。ログインすると、サービス、契約および保証などの概要を把握することができます。ここには、お客

* オプション/アクセサリー。

様の車両モデルに対応するアクセサリーやソフトウェアに関する情報もあります。

関連情報

- Volvo ID (p. 24)

オーナーズマニュアルを読む

新しい車両について理解するために、初めての運転の前にオーナーズマニュアルをお読みになることをお薦めします。

オーナーズマニュアルをお読みになると、新しい機能をご理解いただけると共に、さまざまな状況で適切な判断ができ、また車両の色々な機能を十分にご活用いただけます。オーナーズマニュアルに記載されている、注意、警告指示を厳守してください。

製品改良のため、開発作業はつねに継続されています。改良により、オーナーズマニュアルに収録されている情報、説明および図が実際の車両と異なる場合があります。製造者(メーカー)が予告なく変更する場合があります。

© Volvo Car Corporation

重要

車両からこのマニュアルを持ち出さないでください。万が一問題が発生した場合に、どこでどのようにして専門家のヘルプが受けられるかに関する情報を入手できなくなります。

モバイル機器対応のオーナーズマニュアル

注意

オーナーズマニュアルはモバイルアプリケーションとしてダウンロードすることができます(一部の車両モデルおよびモバイル機器のみ)。www.volvocars.com をご覧ください。

モバイルアプリケーションは、ビデオや検索可能なコンテンツが含まれているだけでなく、セクション間の移動も簡単です。

オプション/アクセサリー

このオーナーズマニュアルでは、オプション装備には* マークが付いています。

標準装備の他に、オプション装備(メーカーオプション)やアクセサリー装備(ディーラーオプション)などについても記載されています。

オーナーズマニュアルに記載されていても、車両にその装備がない場合もあります。車両の装備は、各市場でのニーズや国、地域の法規に適合するものになっています。

標準装備またはオプション/アクセサリー装備についてご不明な点は、ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください。

特別なテキスト

⚠ 警告

ケガのおそれがある場合は、警告テキストが表示されます。

重要

損傷のおそれがある場合は、「重要」と表示されます。

注意

「注意」には、装備や機能を使いやすくするためのヒントなどが記載されています。

脚注

オーナーズマニュアルでは、ページの下に脚注が記載されています。これは、本文中の番号に対応した補足情報です。表内の記載に対応した脚注の場合は、参照先の番号ではなく文字が使用されています。

ディスプレイテキスト

車内には、メニューテキストとディスプレイテキストを表示するディスプレイがあります。オーナーズマニュアルでは、画面に表示されるテキストと通常のテキストは書体が異なります。メニューテキストおよびディスプレイテキストの例：**メディア**、**車両位置を送信中**。

表示ラベル

重要な情報を簡潔かつ明確な方法で表示するように、車内にはさまざまな表示ラベルが使用されています。表示ラベルは、警告/情報の重要度に応じて次のように分類されています。

ケガに対する警告

黄色地に黒の ISO シンボル、メッセージ欄は黒地に白字テキスト/イメージ。危険な状況であることを示すために使用。この警告を無視した場合、大ケガや死亡にいたるおそれがあります。

重大な損傷のおそれ

黒地または青地の警告欄およびメッセージ欄に、白の ISO シンボルおよび白字テキスト/イメージ。危険な状況であることを示すために使用。この警告を無視した場合、物品などが損傷を受けるおそれがあります。

インフォメーション

黒地のメッセージ欄に、白の ISO シンボルおよび白字テキスト/イメージ。

注意

オーナーズマニュアルに掲載されている表示ラベルは、車両の表示ラベルと若干異なっている場合があります。ラベル掲載の目的は、ラベルの概観と車両に貼られている位置を示すことです。お客様の車両に関する情報は、車両内の各ラベルに記載されています。

作業手順のリスト

オーナーズマニュアルでは、指定の順番で行うべき作業手順には番号が付いています。

1 作業手順がステップ・バイ・ステップで図示されている場合は、図の中に手順に対応した番号が付いています。

A 作業手順を指定の順番で行う必要がない場合は、文字の付いた箇条書きの説明が図の近くにあります。

1 矢印(番号付きの矢印、番号のない矢印の両方があります)は、可動部分の動きを示すためのものです。

A 順序を変えても問題がない場合には、動きをはっきりさせるために文字を伴った矢印が使用されています。

作業手順がステップ・バイ・ステップで図示されていない場合は、手順を示す番号には普通の字体が使われています。

位置リスト

1 図の中の色々なコンポーネントを指し示すには、赤丸付きの番号が使用されています。図のそばに位置リストがあり、それぞれの番号は図の中の番号と対応しています。

箇条書き

順不同のものを表記するときは、黒丸付きの箇条書きが使用されています。

例：

- クーラント
- エンジンオイル

関連情報
密接に関連している情報を含む他の項目を指しています。

図
本書の図には概略図が使用されていることがあるため、装備レベルや市場によっては、実際の車両と外観が異なる場合があります。

次ページに続く
▶▶ このシンボルは、項目が次ページに続いている場合、ページの右下に表示されます。

前ページから続く
◀◀ このシンボルは、項目が前ページから続いている場合、ページの左上に表示されます。

関連情報
- オーナーズマニュアルと環境 (p. 28)
- Volvo Cars サポートサイト (p. 18)

データの記録

ボルボ社の安全および品質保証の一環として、車両の作動、機能および事故に関する特定の情報が車両に記録されます。

この車両には「Event Data Recorder」(EDR)が搭載されています。この装置の主な目的は、交通事故や、エアバッグが作動する、または車両が路上の障害物にぶつかるといった、衝突に似た状況に関連するデータを記録することです。データは、こういった種類の状況下で車両システムがどのように作動するかについて理解を深めるために記録されます。EDR は車両の運動状態および安全システムに関するデータを、短時間(通常 30 秒以下)記録するよう設計されています。

この車両に搭載された EDR は交通事故、または衝突に似た状況があった場合に、以下に関するデータを記録するよう設計されています。

- 車内のさまざまなシステムがどのように作動したか
- 運転席および助手席のシートベルトは作動したか
- 運転者によるアクセルまたはブレーキペダルの使用
- 車両の走行速度

この情報は、弊社が交通事故、ケガ、車両の損傷が発生する状況をより把握するために役立ちます。EDR は、重大な衝突状況が発生した場合にのみデータを記録します。EDR は、通常の走行状況下では一切データの記録を行いません。同様に、誰が運転しているか、または事故やニアミス状況の地理的な位置に関するデータをシステムが記録することはありません。ただし警察などの第三者が、交通事故後に規定に沿って収集した個人情報の類と共に記録されたデータを使用する場合があります。データを解析するには、車両または EDR にアクセスするための特殊な機器およびアクセス権が必要です。

EDR に加え、車両には車両の機能を継続的に確認しモニターするよう設計された、多数のコンピューターが搭載されています。これらのコンピューターは通常条件での走行中にデータを記録することが可能ですが、特に車両の操作や機能性に影響する不具合、または車両のアクティブドライバーサポート機能(例: City Safety やオートブレーキ機能)の起動時の不具合を記録します。

記録された一部のデータは、サービスおよびメンテナンステクニシャンが車両に発生した不具合を診断し、修正するために必要です。記録された情報はまた、ボルボが法律および政府当局によって定められた法的要件を満たすために必要です。車両で記録された情報は、該当の車両がサービスまたは修理を受けるまで、車内のコンピューターに保存されます。

上記に加え、記録された情報は、ボルボ車両の安全性および品質の継続的な向上を目的とした

研究や製品開発のために、集計形式で使用される場合があります。

車両所有者の同意なしに、ボルボが上述の情報を第三者に開示することはありません。国の法令および規制を順守するため、ボルボはこれらの情報へアクセスする法的権利を行使する警察または当局へ、関わる情報を開示せざるを得ない場合があります。車両のコンピューターに記録された情報を読み取り、解析するためには特殊な機器が必要です。ボルボ社およびボルボ社と契約を結んでいるサービス工場がこの機器へのアクセス権を持っています。ボルボ社は、点検整備時にボルボに転送される情報が、安全な方法で保管ならびに処理され、その処理が適用される法的要件を満たすものであるように保証する責任を負っています。詳しくはボルボ・ディーラーにお問い合わせください。

アクセサリーおよび追加装備

アクセサリーの接続不良または取り付け不良は、車両の電気系統に悪影響をおよぼすおそれがあります。

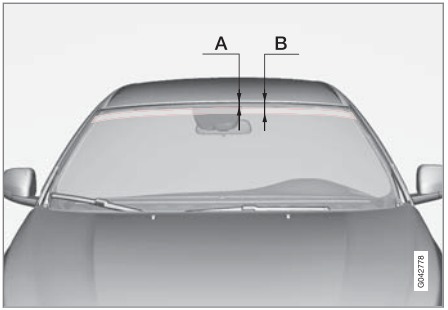
一部のアクセサリーは、車両のコンピューターシステムに関連ソフトウェアをインストールしないと正常に作動しません。このため、ボルボは、電気系統に接続または影響するアクセサリーを取り付ける前には、ボルボ指定のサービス工場へのお問い合わせを推奨します。

熱反射ウインドスクリーン*

ウインドスクリーンには、熱を反射するフィルム(赤外線)が装備され、車内に入り込む太陽熱放射を削減します。

トランスポンダーなどの電子機器を熱反射フィルムの後ろなどに配置すると、機能や性能を低下させる場合があります。

電子機器の機能を最適に保つためには、機器はウインドスクリーンの、熱反射フィルムが貼られていない場所に配置してください(図のハイライトされた場所を参照)。



赤外線フィルムが貼付されていない範囲

A は、ウインドスクリーンの上端部から範囲の開始位置までの距離です。B は、ウインドスクリーンの上端部から範囲の終了位置までの距離です。

	寸法
A	40 mm
B	80 mm

Volvo ID

Volvo ID を使用すると、幅広い個人向けボルボメンテナンスサービス[5]にオンラインでアクセスすることができます。

サービスの例：

- オンライン車両* – 一部の機能およびサービスを利用するには、車両を個人の Volvo ID に登録する必要があります。例えば、インターネット上の地図サービスから住所を車両へ直接送信するサービスなどがこれに含まれます。
- Volvo On Call* – Volvo On Call アプリへのログイン時に Volvo ID が使用されます。

Volvo ID の利点

- ユーザー名 1 つとパスワード 1 つでオンラインサービスにアクセスできます。ユーザー名 1 つとパスワード 1 つを覚えておくだけです。
- 1 つのサービス(Volvo On Call など)のユーザー名/パスワードを変更すると、その他のサービスについても自動的に変更されます。

Volvo ID の作成

Volvo ID を作成するには、個人用メールアドレスを入力する必要があります。次に、指定のメールアドレスに自動的に送信されてきたメールメッセージの指示に従って、登録を完了します。Volvo ID は、以下のサービスのいずれかを使用して作成することができます。

- ボルボ・カーズのウェブサイト – www.volvocars.com へ移動し、右上のアイコンからログイン[6] します。Volvo ID の作成を選択します。
- オンライン車両* – Volvo ID の必要なアプリでメールアドレスを入力して、指示に従います。または、センターコンソールの接続ボタン を 2 回押して、**アプリ ➔ 設定** を選択し、指示に従う方法もあります。
- Volvo On Call* – 最新バージョンの Volvo On Call アプリをダウンロードします。スタートページから Volvo ID の作成を選択し、メールアドレスを入力して、指示に従います。

関連情報

- Volvo Cars サポートサイト (p. 18)

[5] 利用できるサービスは、時間の経過とともに変化することがあります。また、装備レベルや市場によっても異なります。
[6] 一部の市場でのみ利用可能。

環境理念

ボルボでは、環境への悪影響を減らすために、より安全でより効率的な製品およびソリューションの開発に取り組み続けています。

環境への配慮はボルボ・カーズの本質的価値であり、すべての事業に影響をおよぼします。環境研究は車両のライフサイクル全体に基づくもので、設計から廃棄およびリサイクルにいたるまでの期間で車両が環境におよぼす影響を考慮します。ボルボ・カーズには、「ボルボの開発する新製品は必ず先代の製品よりも環境への影響が小さいものでなければならない」という基本理念があります。

ボルボで環境管理に取り組んだ結果、環境保護にさらに効果的で、低公害化を実現するドライブライン Drive-E が開発されました。ボルボは個人環境も重視します。例えば、エアコンディショナーシステムの働きにより、車内の空気は車外の空気よりもきれいです。

ボルボ車は厳しい国際環境基準に適合します。ボルボの製造工場はすべて、ISO 14001 認証を取得する必要があります。この認証取得により、事業に伴う環境問題に対して体系的な取り組みが可能になり、環境影響を低減しつつ改善を継続することができます。ISO 認証の取得は、現行の環境法令および規制を順守していることも意味します。ボルボはパートナーにもこの認証の取得を要求しています。

燃費

車両の全体的な環境影響の大部分はその使用によるものであるため、ボルボ・カーズの環境への取り組みでは、燃料消費量、二酸化炭素排出量、その他の空気汚染物質の低減を重視しています。ボルボ車は、非常に効率のよい燃費を誇っています。燃費が良ければよいほど、温室効果の原因となる二酸化炭素の排出量が少なくなります。

環境向上への貢献

エネルギー効率および燃料効率に優れた車両は、環境影響の低減に貢献するだけでなく、維持費の低減にもつながります。運転者は簡単に燃料消費量の低減を図ることができるため、燃料費を節約すると同時に環境の向上に貢献することになります。以下はいくつかのヒントです。

- 効果的な平均速度をあらかじめ想定してください。速度が約 80 km/h (50 mph)を超える場合、または 50 km/h (30 mph)未満の場合、エネルギー消費量が増加します。
- メンテナンスノート(整備手帳)で推奨されている間隔に従って、車両の点検整備を実施してください。
- 無用なアイドリングは避けてください。長時間停車するときは、エンジンを停止してください。地域の規則に従って、交通法規を遵守してください。
- 計画的に走行してください。何度も不必要に停止したり、走行速度にバラツキがあると、燃料消費量が増加します。
- 車両にエンジンブロックヒーター*が装着されている場合は、冷寒時始動の前に使用してください。始動しやすくなり、寒冷時の摩耗を低減させます。また通常の作動温度に到達できるまでの時間も短縮されます。このため、燃費が向上し、排気ガスを低減できます。

使用済みのバッテリーやオイルなど、環境に有害な廃棄物は、環境に配慮した適切な方法で処理してください。この種の廃棄物の処理についてご不明な点は、ボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

このようなアドバイスに従うことで、倹約できるだけでなく、地球の資源も節約でき、車両の寿命も長くなります。詳しい情報やアドバイスは さらに詳しい情報やその他のアドバイスについては、 エコガイド (p. 106)、経済走行 (p. 365)および 燃費 (p. 473)を参照してください。

効率のよいエミッションコントロール

ボルボ車は「内も外もクリーン」というコンセプトの基に設計されています。このコンセプトは、車内の空気を清浄に保ち、なおかつ車外に排出されるガスをできるだけ効率よくコントロールすることを指しています。ボルボ車の排気ガスは、現在の排気ガス規制値のほとんどを大幅に下回ります。

車内の空気を清浄に保つ

クリーンエアフィルターは、空気取入口から埃や花粉が車内に侵入することを防ぎます。

インテリア・エア・クオリティ・システム (IAQS)*が、車内に取り入れられる空気を外気よりも清浄に保ちます。

このシステムは、車内の空気から、粒子状物質、炭化水素、窒素酸化物、地表オゾンなどの有害物質を除去します。センサーが外気の汚れを感知すると空気取入口を閉じて、内気のリサーキュレーションに切り替えます。このような状況は、渋滞走行時やトンネル通過時などに発生する場合があります。

IAQS はクリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)*に含まれています。このパッケージには、車両をリモートコントロールキーでロック解除したときにファンを作動できるようにする機能も含まれています。

インテリア

ボルボ車のインテリアには厳選された素材が使用されており、快適にお使いいただけるように検査を実施しています。細部の中には手製の箇所もあります。ステアリングホイールの継ぎ目などは手で縫合されています。インテリアは、高温や強い光にさらされたときに不快感の原因になる強烈な臭いや化学物質を発することがないようにモニターされます。

ボルボのサービス工場と環境

定期的にメンテナンスを受けることにより、車両の耐用年数が長くなるだけでなく、燃料消費量も低減します。これは、環境保全への貢献にもつながります。ボルボ指定のサービス工場に修理やメンテナンスをご依頼いただければ、ボルボ社のシステムに基づいて適切な整備を実施します。ボルボ社では、サービス工場から出るガス、廃液、廃棄物などはできるだけ環境に悪影響を与えない方法で処理するなど、環境対策を徹底させています。ボルボ指定のサービス工場には、環境対策に関するボルボの教育・訓練

* オプション/アクセサリー。

を受けたメカニックがおり、必要な機器や工具も揃っておりますので、最善の環境対策をご提供することができます。

リサイクル

ボルボはライフサイクルの視点で取り組んでいるため、環境に優しい方法で車両をリサイクルすることも重要視しています。車両のほとんどの部品がリサイクルできます。車両を廃車にされるオーナーの皆様には、ディーラーから認定/承認リサイクル施設の紹介を受けていただくようお願いいたします。

関連情報

- オーナーズマニュアルと環境（p. 28）

オーナーズマニュアルと環境

オーナーズマニュアルは、Forest Stewardship Council®(森林管理協議会)が認証した森またはその他の管理資源からの紙パルプを使用しています。

FSC® のシンボルは、オーナーズマニュアルに使用されている紙パルプが FSC® が認証した森やその他の管理資源からのものであることを示します。

関連情報

- 環境理念（p. 25）

ラミネーテッドガラス

ガラスは補強されているため、不法侵入に対する保護が強化され、車内の防音効果も高くなっています。ウインドスクリーンとすべてのウインド*に、ラミネーテッドガラスが使用されています。

* オプション/アクセサリー。

重要です。必ずお読みください。

ご使用に際して！

このオーナーズマニュアルは、標準で取り付けられていない装備品、機能および日本仕様以外の装備品、機能についても記載されています。**このオーナーズマニュアルで説明されていても、車にその装備などが装着されていない/装着できない場合がありますのでご了承ください。**

スウェーデン・ボルボ社の原稿を元に、日本語版を作成していますが、現車と記述内容などが異なる場合は現車が優先されます。

後付けのオプションパーツおよびアクセサリーパーツなどの使用方法、あるいは取付方法については、各製品ごとに添付されている取扱説明書(または取付説明書)の指示に従ってください。

ご不明な点がございましたら、ボルボ指定のディーラーにお尋ねください。

このオーナーズマニュアルに記載されている取扱説明は、一般的な使用状況を想定したものです。従って、車の使用場所、使用環境、取扱方法により異なる場合がありますので、十分ご注意ください。

このマニュアルに記載してあるすべての情報、イラスト、および仕様は、最新の製品情報に基づいていますが、製造者が予告なく変更する場合があります。

マニュアル内のイラストは、大まかなものであり正確な描写を目的とするものではありませんので、実際の車両と一致しない場合があります。

また、安全・快適なドライブのために知っておいていただきたい項目が、次ページから説明されていますので、必ずお読みください。

このマニュアルは、車両の一部とみなされます。

車を売却される場合は、次のオーナーの方のためにこのマニュアルとメンテナンスノート(整備手帳)および点検整備記録簿を車内に保管しておいてください。

道路運送車両法により、点検整備と日常点検が義務付けられています。

車を適切な状態に維持し、安心してご使用いただくために点検整備を必ず実施してください。

また、**お客様ご自身で日常点検も必ず実施してください。**

このオーナーズマニュアルに記載されている取扱方法と異なる使用や、点検整備を実施していないなどの場合は、ボルボ社の保証が適用されないことがありますので十分ご注意ください。

また、このオーナーズマニュアルの記載事項を守らなかったために生じた損傷、事故などに関しては、弊社は責任を負うことができませんのでご了承ください。

(オーナーズマニュアル掲載の写真、イラスト、文章の無断転載、複写を禁じます。)

© Volvo Car Corporation

⚠ 警告

このオーナーズマニュアルは、ボルボ・カー・ジャパンによる正規の販売ルートで輸入および販売された車両にのみ適用されます。

追加装備品の取り付けについて：

追加装備品を装着する場合は、製品に付属の取付要領書および注意事項に従って装着を行ってください。

ご不明な点がございましたら、ボルボ指定のディーラーにお尋ねください。

⚠ 警告

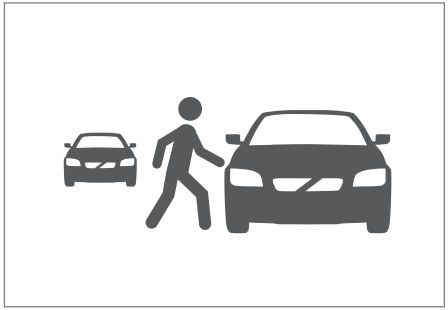
ボルボ純正以外の追加装備品の装着や、装置の不適切な取り付けは、運転に悪影響をおよぼし故障や火災の原因となります。

無線機などについて：

無線機など、アンテナを介して通信する通信機器を車内で使用すると、車両の電子機器(エンジンマネジメントシステム、ABS、エアバッグなど)に影響をおよぼすおそれがあります。

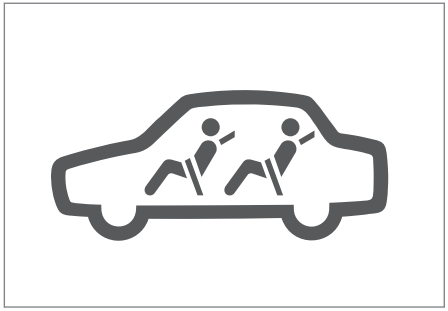
詳しくは、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。

重要な安全上のご注意！



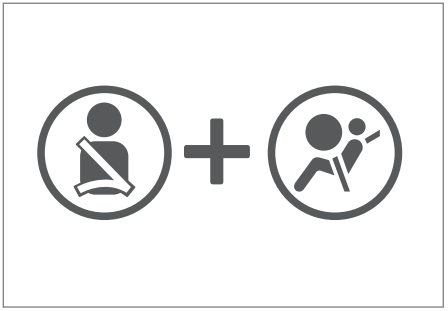
ドアを開ける際は、必ず周囲の安全を確認してください。特に路上では、後続車や他の交通に十分注意してください。

- ドアを確実に閉めてください。ドアが確実に閉められていないと、走行中にドアが突然開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。



シートベルトは正しい姿勢で、必ず正しく着用してください。シートベルトを正しく着用できない場所に、同乗者を乗車させないでください。

- シートベルトのロックタブを、バックルに確実にロックしてください。同乗者のシートベルトも正しく着用しているか、必ず確認してください。

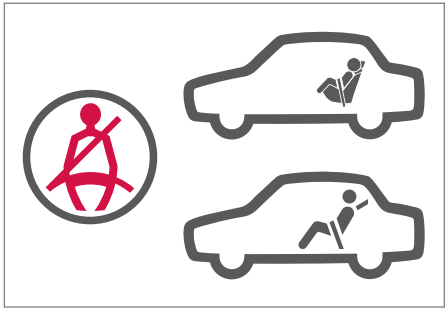


エアバッグは、シートベルトの補助装置です。エアバッグが取り付けられていても、シートベルトは必ず着用してください。

- シートベルトを着用していないと、エアバッグが作動した際の衝撃で大ケガをするおそれがあります。
- 同乗者にもエアバッグシステムについての注意事項を、十分に説明してください。
- エアバッグは膨張速度が極めて速く、また、布でできているため、エアバッグ作動時に摩擦熱で皮膚にヤケドや擦過傷を負うおそれがあります。

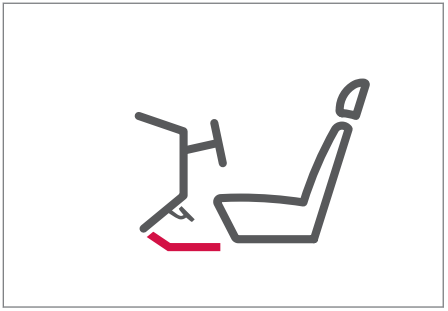
必ず、助手席側エアバッグとチャイルドシートの取り付けに関する安全注意事項に従ってください。

- 助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを使用しないでください。
- 助手席側エアバッグが無効になっている場合、絶対に乗員（お子様および大人）を前向きで助手席に座らせないでください。
- この指示を守らないと、生命に危険がおよぶ、または大ケガをするおそれがあります。



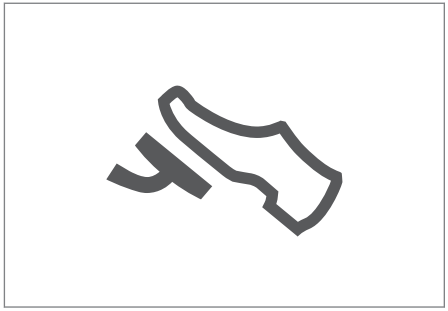
後席であってもシートベルトは必ず正しく着用し、お子様にもシートベルトを着用させてください。

- シートベルトが首やあごに当たるような小さなお子様や幼児を乗車させる際は、チャイルドシートを必ずご使用ください。
- シートベルトが合わないまま使用すると、衝突の際に頭部や腹部などに強い衝撃を受けて大ケガをするおそれがあります。

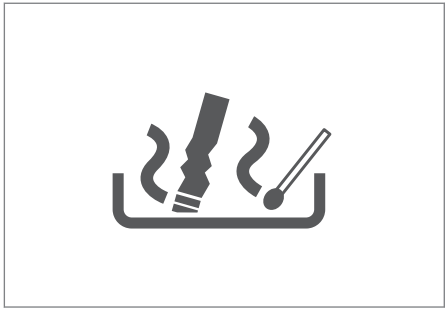


フロアマットは敷く前に運転席用、助手席用を必ず確認し、アクセルペダルに引っかからない位置に正しく敷いてください。

- エンジンを始動する前にフロアマットが正しく固定されているか確認してください。
- フロアマットを固定していない状態で使用したり、二重に敷いたり正しく敷かれていないと、運転中にフロアマットが移動してペダルと干渉し、暴走などのおそれがあります。
- アクセルペダルの上に、フロアマットを乗せないでください。ペダルが戻らなくなり、大変危険です。



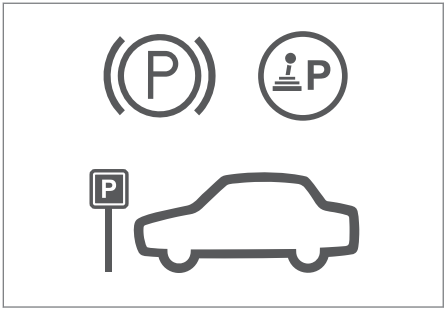
ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンを始動する前に右足で各ペダルを踏み、ペダルの位置を確認してください。



タバコやマッチなどは、完全に火を消してから灰皿に入れてください。使用後は、必ず灰皿を閉めてください。

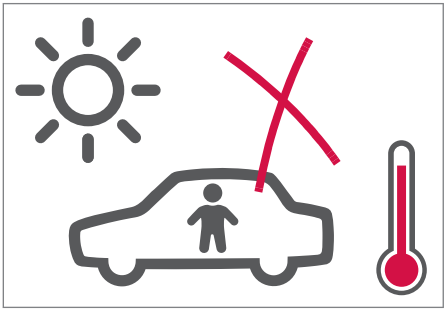
開けたままにしたり、火を消さずに入れると火災になるおそれがあり、大変危険です。

- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、紙などの可燃物は入れないでください。
- タバコの火などによって、引火するおそれがあり大変危険です。



駐停車する場合は傾斜した場所を避け、パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーがP(パーキング)の位置に入っていることを確認してください。

- エンジンを止めてください。

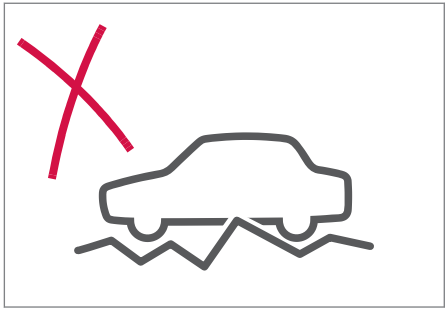


車から離れる場合は、お子様もご一緒にお連れください。

- お子様だけを車内に残すことは危険です。特に炎天下に駐車した場合は、車内およびシートベルトやシートは高温になり、熱射病/熱中症やヤケドなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子様がパワーウインドやその他の装置を動かしたり、あるいは車を発進させてしまう場合があり、大ケガをしたり火災や事故につながるおそれがあります。

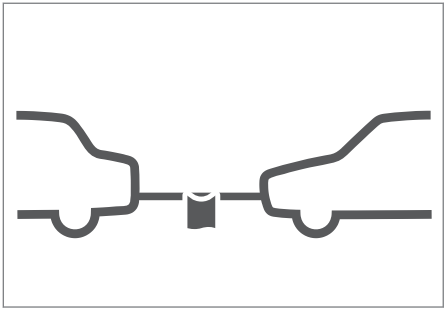
盗難やいたずらを未然に防ぐためにも車から離れる際は、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止してキーを抜き、施錠してください。

- 車内に、貴重品を置いたままにしないでください。

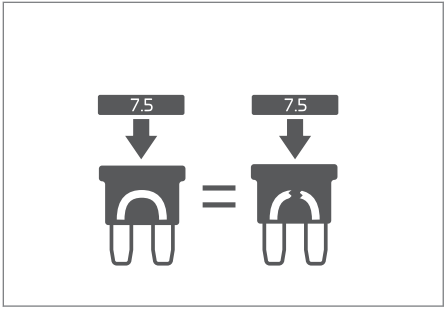


悪路や未舗装路の走行は、十分ご注意ください。

- タイヤ、床下、サスペンションなどを損傷し、さらには障害物に挟まれたり、ぬかるみにはまって脱出できなくなるおそれがあります。
- やむをえず走行する場合は、低速でゆっくり走行してください。
- 走行後、すみやかに車の点検を行ってください。
- AWD 車といっても、万能ではありません。

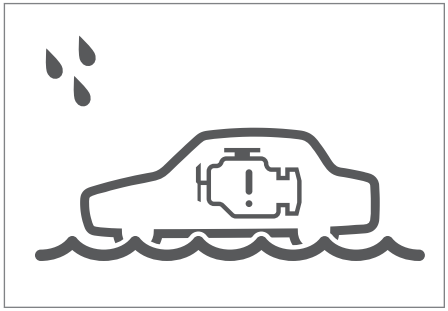


けん引が必要な場合は、事故を起こさないように十分注意してください。オーナーズマニュアルの「けん引」の項を参照してください。また、周囲の交通状況にも注意してください。



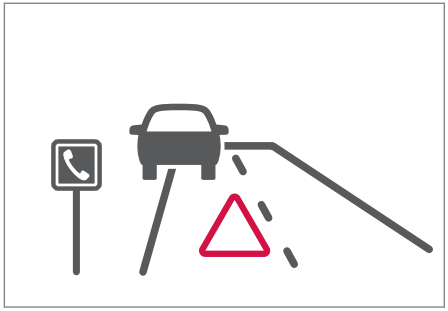
ヒューズを交換する場合は必ず同じ色、同じアンペアのヒューズと交換してください。高アンペアのヒューズを使用すると過大な

電流が流れてもヒューズが切れず、配線や電装品を損傷させて発火し火災が発生するおそれがあり大変危険です。



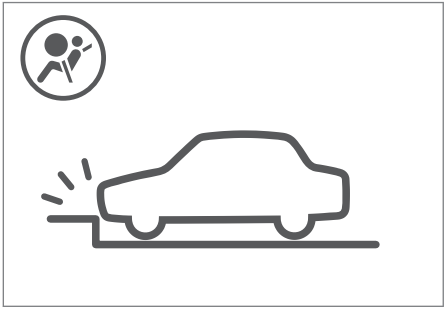
深い水たまりや、極端な冠水路を走行、また、突然の大雨などにより水しぶきを上げて走行した場合は、エンジンルーム内の電気配線やドライブベルト、タイミングベルトに水分が付着しているおそれがあります。早めに点検を受けてください。

- 水分が付着していると、エンジン不調やベルト類の損傷劣化の原因となります。



高速道路や自動車専用道路を走行中に故障したときなどは、急ブレーキをかけずに惰力で路肩に車を止めてください。

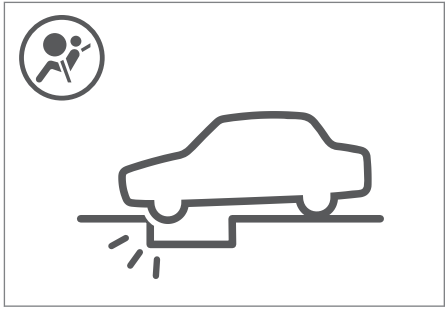
- 故障やパンクで驚き、急ブレーキを踏むと、衝突されたりスリップするおそれがあります。
- 車を惰性で直進させて、路肩に止めてください。
- 前輪がパンクしたときは、ハンドルが取られて大変危険です。
- 路肩に停車したときは、後続車にわかるように、停止表示器材を置いてください。なお、夜間の場合は、非常点滅灯およびリアランプを点灯してください。
- 非常電話は 1 km おき(トンネル内は 200 m おき)に設置されています。
- 近い場所の非常電話で通報しようとして、反対車線へ横断しないでください。
- 通報後は、必ず全員安全な場所に避難してください。



エアバッグ(運転席、助手席、サイドエアバッグ、インフレータブルカーテン)が作動しない場合があります。

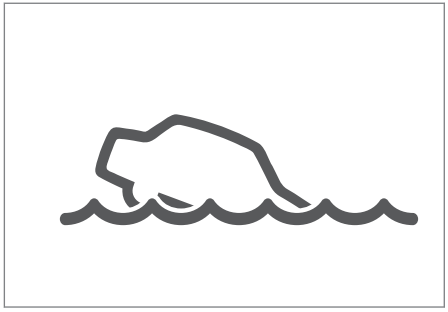
- 衝突の位置/角度、衝撃の度合いによっては、エアバッグが作動しない場合があります。
- 斜めに塀や、ガードレール、車などに衝突したとき。
- トラックなどの荷台の下に潜り込み衝突したとき。
- 衝突されたり、転覆、横転したとき。
- 衝突の方向が、車の中心からずれていたとき。
- 電柱、道路標識などのポールに衝突したとき。

- 前後フェンダー部など、車内以外に側面から衝突されたとき。
- 電柱などに側面をぶつけたとき。
- 車内部に斜めに衝突されたとき。
- 側面にバイクなどが衝突したとき。



車の外見上の損傷が少なくても、エアバッグが作動する場合があります。

- 道路上の物や車止めなどの縁石にぶつかったとき。
- 穴や溝に落ちる、またはジャンプしたとき。
- 車両の下面に強い衝撃を受けたとき。
- その他、中央分離帯などに衝突したとき。



もしも、川や海などに転落した場合は…

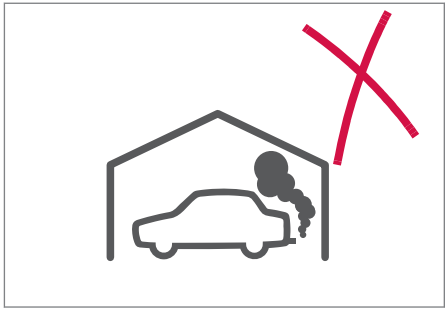
水中に車が転落したときの脱出方法：

- 水中ではドアロックやパワーウインドが使用できず、閉じ込められるおそれがあります。このような場合は、脱出用ハンマーなどを使用してください。（脱出用ハンマーは、カーショップなどで購入することができます。）
- 浮いている車のドアは、水圧で開きません。落ち着いてシートベルトを外し、窓が開けられる状態であれば、窓を開けて脱出してください。
- 窓が開けられない場合は、水面より高い位置の割りやすい側面の窓ガラスを脱出用ハンマーなどで割って脱出します。ドアをロック解除できる場合などには、車両内と車両外の水位がほぼ同じ高さになるまで待ち、ドアを開けて脱出します。

火災および排気ガスに関するご注意

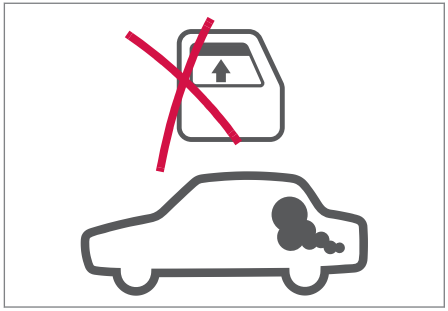
エンジンをかけたまま、車内で仮眠をとることは大変危険です。

- 仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏んだり、セレクターレバーを動かすおそれがあり、排気系統の過熱による車両火災や車が走り出して事故が発生する場合があります。
- やむをえず仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。



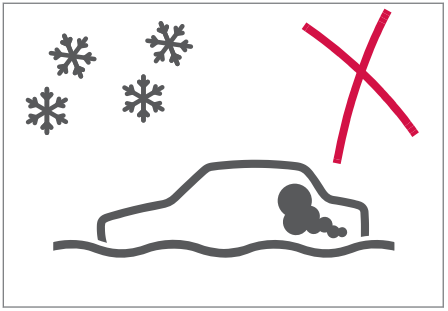
ガレージのような換気の悪い場所や密閉された場所で、エンジンをアイドリングしないでください。

- 人体に有害な排気ガスが充満し、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。
- このような場所でエンジンを始動する場合は、その前に必ずガレージのドアや窓を開放してください。



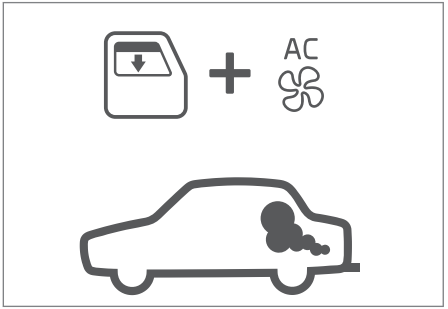
車内を閉めきった状態で、エンジンをアイドリングしないでください。

- 排気ガスが車体の水抜き穴や溶接の隙間、マフラーの腐食部から車内に侵入し、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。
- 広い場所でも、しばらくアイドリングする必要があるときは、換気のため窓などを開けるか、エアコンディショナーを作動させてください。
- 熱せられた排気系統に接触するような枯れ草や枯葉、紙、木材など燃えやすい物の上に車を駐停車しないでください。風や気象条件によって、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



大雪で停車してしまった場合は、排気ガスの侵入に注意してください。

- 車の周囲に積もった雪や、特に排気管の出口を塞いでいる雪を取りはらってください。



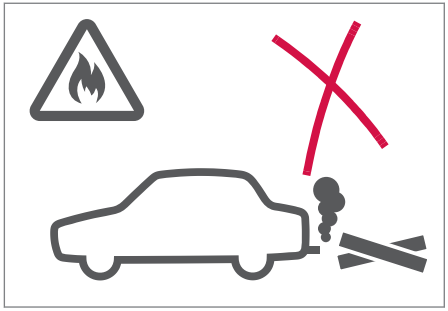
排気ガスの臭いがしたり、排気ガスが車内に侵入している疑いがある場合は、すべての窓

を開放してエアコンディショナーを作動させて換気してください。

ただちに車の点検、または整備を受けてください。そのまま放置すると、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。

次のような場合も車内に排気ガスが侵入する原因となりますので、排気系統はときどき点検してください。

- 排気管などの排気系統に異常音が聞こえるとき。
- 車の床下まわりに錆が発生しているとき。
- 衝突などにより車が損傷を受けたとき。
- 走行中、路上の障害物などにより損傷を受けたとき。
- 修理や整備が正しく行われていなかったとき。
- その他、車や排気系統が不適切に改造されているとき。



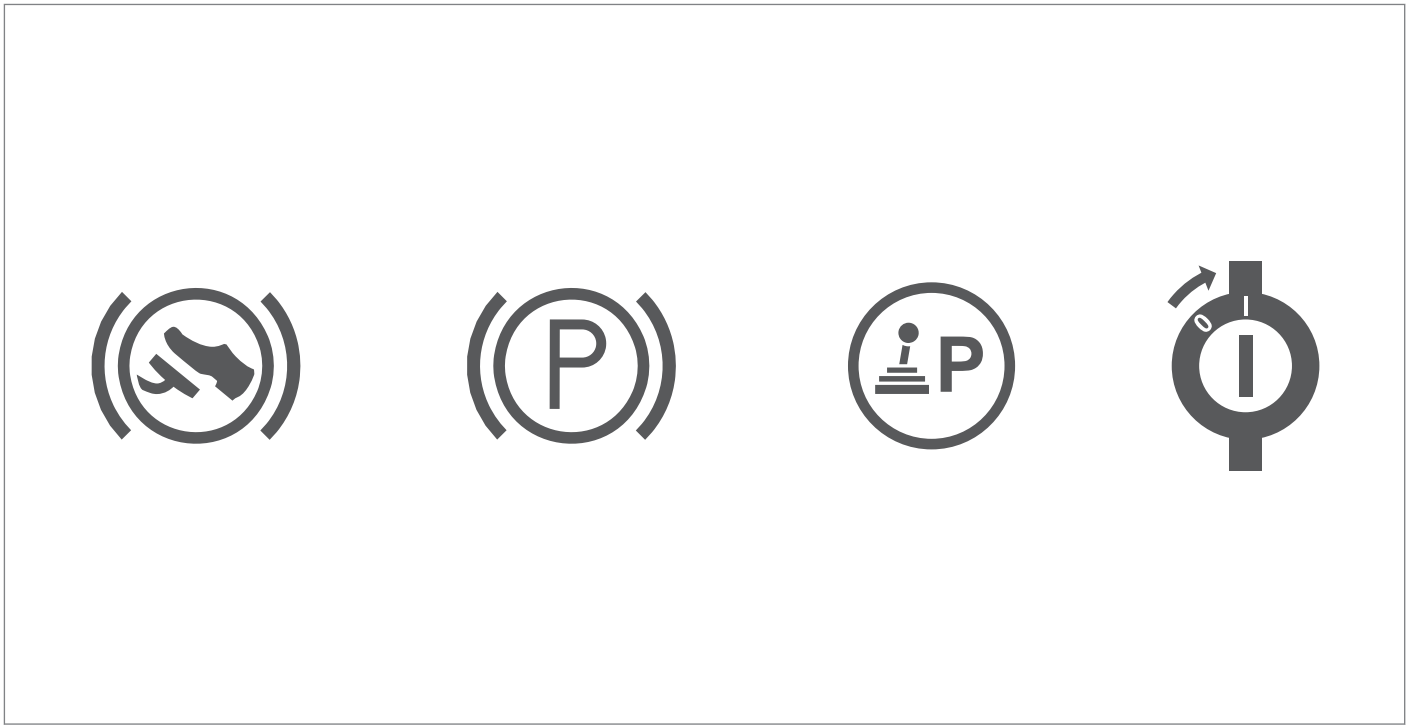
可燃物の近くに、車を止めないでください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすい物があると、火災になるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を 60 cm 以上離して止めてください。木材との距離が短いと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあります。

エンジンルーム内に可燃物などがないことを確認してください。

- 走行前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないか確認してください。エンジンや排気管の熱により火災になるおそれがあります。
- 車両を長期間使用しなかった場合は、エンジンルーム内に小動物や鳥類によって持ち込まれた小枝などがないことを確認してください。エンジンや排気管の熱により火災になるおそれがあります。
- 走行中に焦げたような異臭などを感じたときは、ただちにエンジンを止めて車両から離れてください。

エンジン始動時のご注意！



エンジン始動時は、ブレーキペダルを踏み、パーキング（駐車）ブレーキをかけて、トランスミッションのセレクターレバーをP（パーキング）の位置にしてください。

発進時のご注意！

オートマチック車を発進させるときは、以下の点にご注意して正しい方法で操作してください。

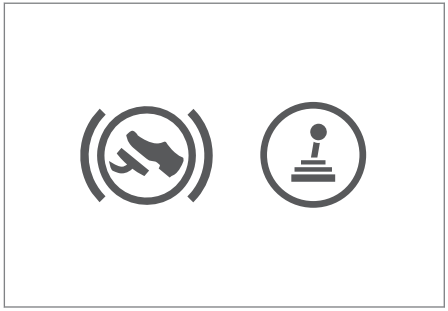
誤った方法で操作すると、思わぬ事故につながります。

セレクターレバーを**P**(パーキング)または**N**(ニュートラル)から他へシフトするときは、アクセルペダルは踏まずに**必ずブレーキペダルを確実に踏みながら**行ってください。

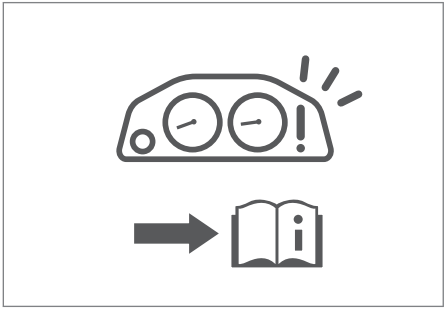
- ブレーキペダルを踏まずに、セレクターレバーを**D**(ドライブ)または**R**(リバース)にシフトすると、アクセルペダルを踏まなくても車は動き出しますのでご注意ください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、アイドル回転が高いときは、車が動こうとする力が強くなるので特にご注意ください。

発進時はブレーキペダルを、ゆっくりゆるめることをつねに心がけてください。ブレーキペダルを徐々にゆるめてアクセルペダルを踏み込み、パーキングブレーキを解除します。

- 急発進を防ぐために、アクセルペダルは徐々に踏み込んでください。ルームミラーやドアミラーで、確認できない死角範囲があります。
- 発進するときは、周りの状況にも十分ご注意ください。
- 適切な始動方法と運転操作をご理解いただくために、「運転操作の要領」の説明もあわせてご覧ください。

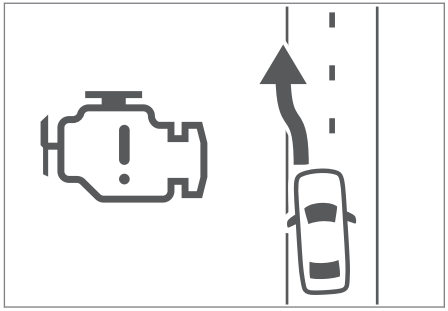


重要な操作上のご注意！



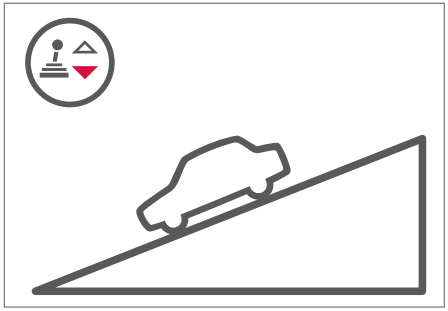
走行中にメーター・パネルにある警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、オーナーズマニュアルに従って適切な処理をおこなってください。

- 走行中の車の状態にも注意し、いつもと違うエンジン、排気系統からの異音、臭い、運転感覚などの違いを感じた場合は、すみやかに点検を行ってください。そのまま走行を続けると、重大な事故につながるおそれがあります。



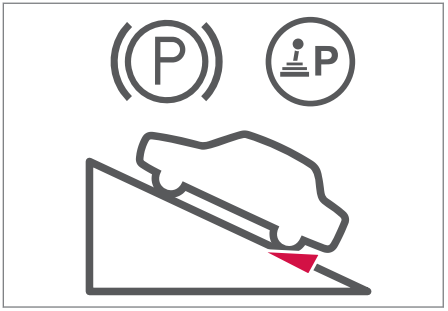
走行中にエンジンが停止した場合は、安全な場所に停車してください。

- 特に高速道路などで停車する場合は、後続車両に十分注意してください。
- 走行中にエンジンが停止すると、ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置の倍力補助が正常に作動しなくなるので、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドルが重くなります。

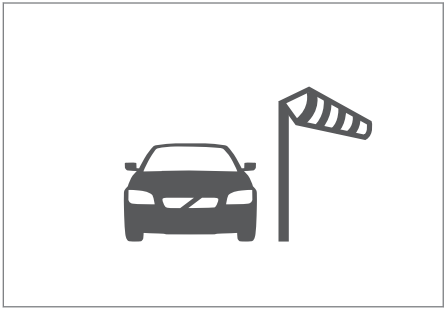


長い下り坂や急な坂道を下る場合は、低いシフトレンジにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。

- ブレーキペダルを踏み続けたり急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが過熱して効きが悪くなり、最悪の場合は停止できなくなるおそれもあります。
- エンジンブレーキを使用する際は、車のコントロールを失ってしまうような過度な効かせ方をしないでください。

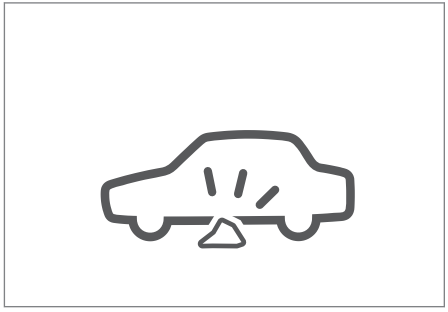


坂道で駐車する場合は、パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーをP(パーキング)に入れてください。さらに急な坂道では、タイヤに輪止めをしてください。



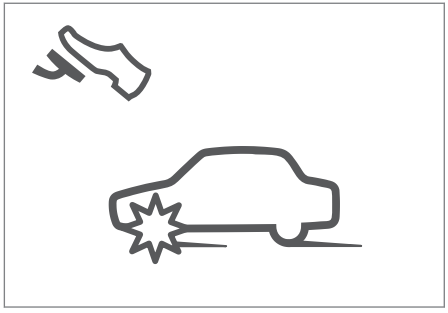
強風で車が横に流されるようなときは、ハンドルを確実に握りスピードはひかえめに走行してください。

- 特にトンネルの出口や橋、土手の上、山の切り通し、大型車を追い越したり追い越されたりする場合、強い横風が発生しやすいので十分ご注意ください。

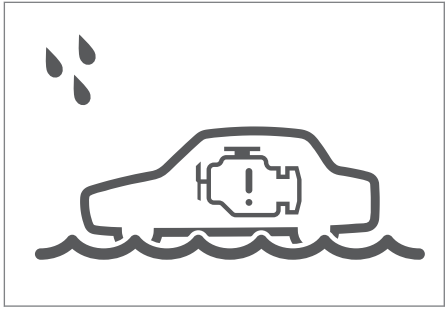


走行中に路上の障害物によって、車の床下に衝撃を受けた場合は、安全な場所に停車し、車の下にブレーキオイルや燃料などの漏れがないか、また各部に損傷がないかも必ず確認してください。

- そのまま走行を続けると、大変危険です。

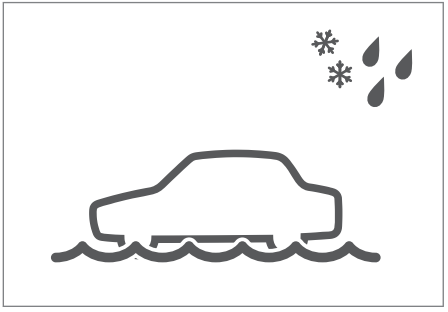


走行中にタイヤがパンクした場合は、タイヤ、ホイールを損傷させないように徐々にブレーキをかけてゆっくり減速してください。急ブレーキをかけると、ハンドルを取られて大変危険です。



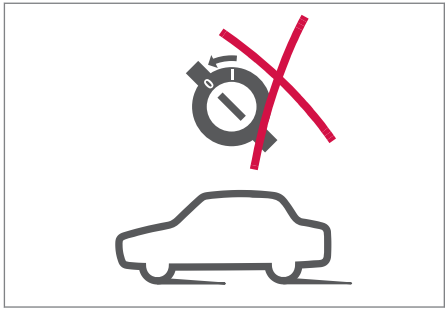
水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

- ブレーキペダルを軽く踏み、効き具合を確認してください。ブレーキの効きが悪いときは、しばらく低速で走行しながらブレーキペダルを軽く数回踏み、ブレーキを乾かしてください。



雨天時は路面が滑りやすくなっているので急加速、急ブレーキ、急ハンドルを避け、スピードをひかえめにして走行してください。

- 積雪路や凍結路など、普段と異なる環境で走行する場合は、特に慎重に運転してください。

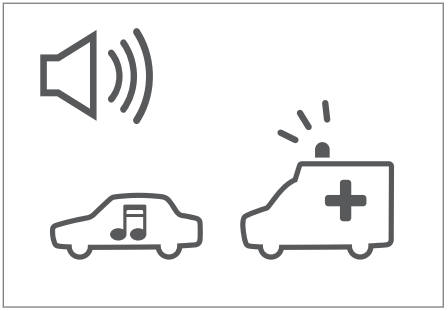


走行中は、エンジンを止めないでください。

- 走行中にエンジンを止めると、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドル操作も非常に重くなって事故につながるおそれがあり危険です。
- リモートコントロールキーをロック位置にしてキーを抜くと、ハンドルがロックされてハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

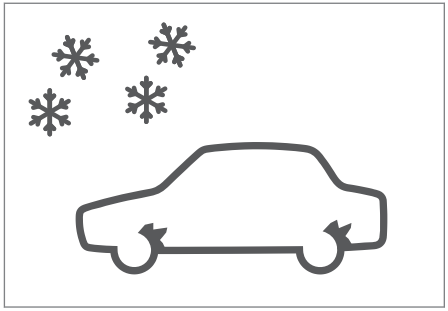
走行中は、ハンドルやシートの位置を調節しないでください。

- 走行中に調節すると、正しい運転操作ができず重大な事故につながるおそれがあり大変危険です。



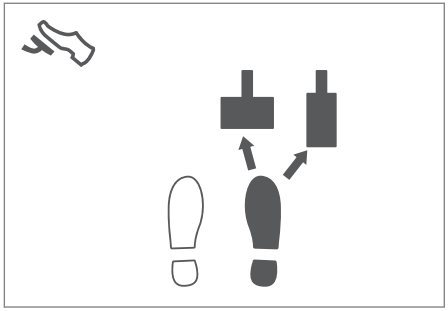
オーディオの音量はほどほどに、テレビやカーナビを見ながらの運転はおやめください。

- 過大な音量で聞いていると、緊急車両が近づいてもわからない場合があります。
- テレビやカーナビを見ながら、あるいは携帯電話を使用しながらの運転も事故につながるおそれがあり大変危険です。また、道路交通法違反にもなります。



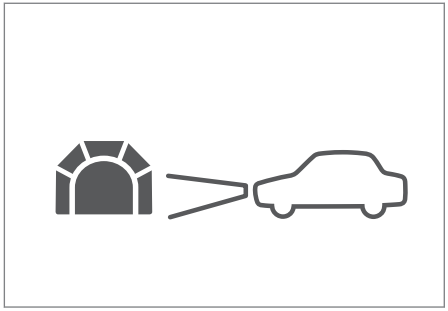
雪路を走行中は、はね上げた雪や氷が車のフェンダーの裏側に少しずつ溜まって氷結し、ハンドルの切れを悪くします。ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。

- ブレーキシステムに付着して、ブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏み、ブレーキの効き具合を確認してください。



ブレーキペダルはアクセルペダルのように、右足で踏む習慣をつけてください。

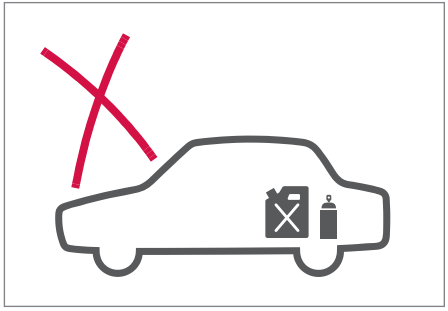
- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど適切なブレーキ操作ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。



トンネル内を走行する際は、ライトを点灯して速度を落として進入してください。

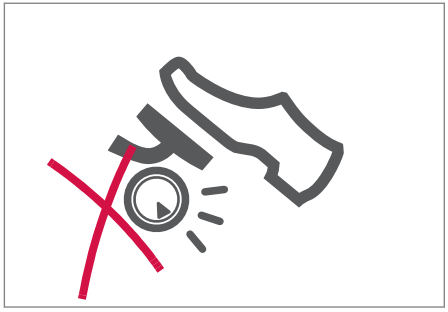
- 照明が暗いトンネルでは、進入直後に急に視界が悪くなる場合がありますので注意してください。また、トンネルを出た後は、ライトの消し忘れにもご注意ください。

してはいけないこと！



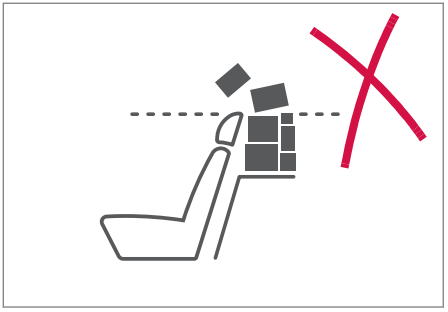
車内やラゲッジルーム内などに、燃料の入った容器やスプレー缶などの可燃物を載せないでください。

- 特に夏期には可燃物が気化しやすく、膨張して引火、爆発するおそれがあり大変危険です。



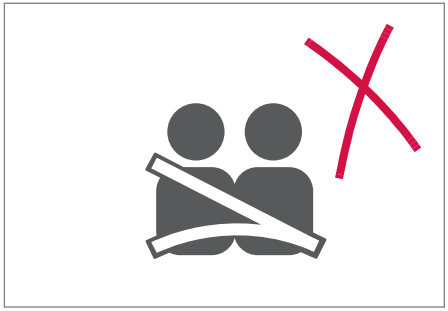
運転席の足元付近に、物を置かないでください。

- 空き缶などが足元にあると、アクセルペダルやブレーキペダルの下に挟まって操作の妨げとなり、重大な事故につながるおそれがあります。



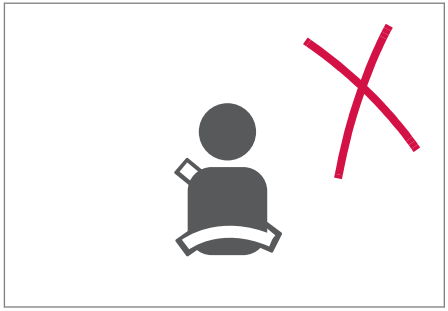
荷物を、シートバックよりも高く積み上げないでください。また、後席のシートバックの後方にあるハットシェルフの上に、荷物を置かないでください。

- 急ブレーキや衝突の際に物が移動したり飛び出してケガをしたり、荷物が損傷して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転視界を妨げないためにも、荷物はできるだけラゲッジルームに載せ、あるいはシートバックの高さよりも低く水平に積み、走行中に荷物が動かないように確実に固定してください。



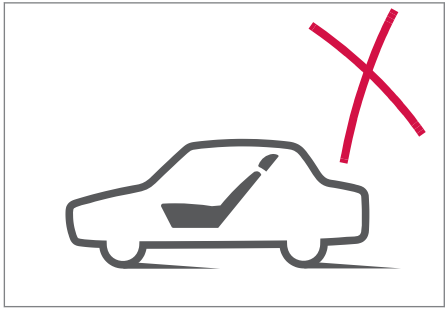
二人で、同一のシートベルトを使用しないでください。

- 衝突した際に二人が互いにぶつかり合い、大ケガをするおそれがあります。また、シートベルトが本来の機能を発揮しません。



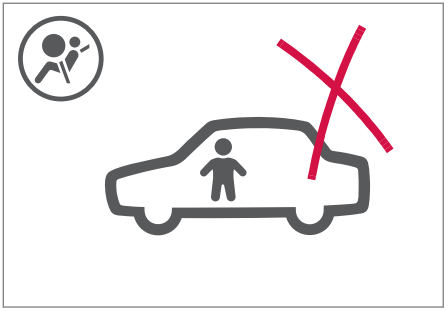
肩ベルトを、肩の後ろに通さないでください。また、脇の下に通したり、ベルトをねじったり、たるみをつけて着用することもしないでください。

- 衝突の際に、上半身が前方へ移動してベルトの力が直接腹部にかかり、大ケガをするおそれがあります。



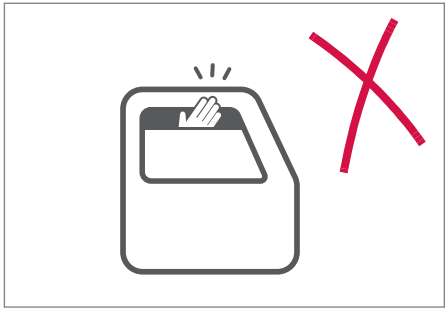
走行中はシートバックを、大きくリクライニングさせないでください。

- リクライニングしていると、衝突した際にシートベルトが十分に機能しないため、大ケガをするおそれがあります。



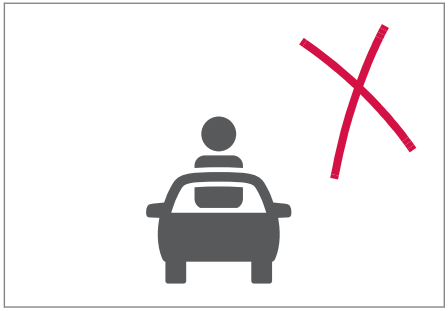
お子様をエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

エアバッグが作動した際に衝撃を受け、大ケガをするおそれがあり大変危険です。乗車させる場合は、チャイルドシートを必ず使用してください。



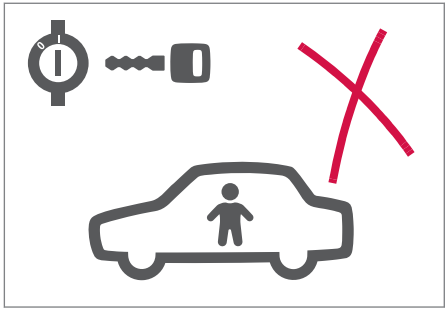
お子様にドアやパワーウインド、サンルーフの操作をさせないでください。

- 閉めるときに手や頭などを挟んで、思わぬケガをするおそれがあり大変危険です。
- 走行中、あるいは後方を確認しないでドアを開けると、大変危険です。



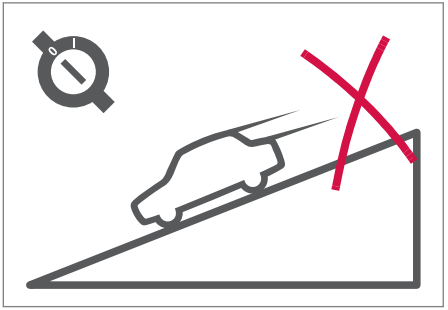
走行中にウインドやサンルーフから、顔や手を出さないでください。

- 車外の障害物に当たったり、急ブレーキの際に車外に投げ出されて、大ケガをするおそれがあります。



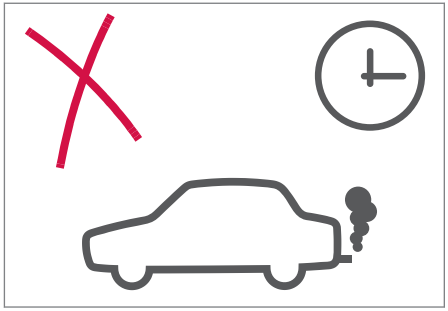
リモートコントロールキーを付けたまま、お子様を車内に残さないでください。

- お子様がパワーウインドやその他の装置を動かしたり、あるいは車を発進させてしまう場合があり、大ケガをしたり火災や事故につながるおそれがあります。
- 車から離れる場合は、お子様もご一緒にお連れください。また、リモートコントロールキーを必ず抜いてください。

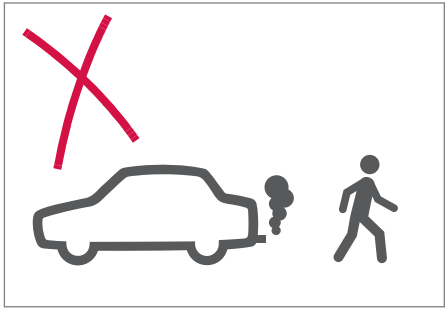


エンジンが停止しているときは、車を移動させないでください。車を少しでも移動する場合は、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンが作動していないと、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドル操作も重くなって思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 特に坂道を利用しての移動は、事故を起こす可能性が高く危険です。

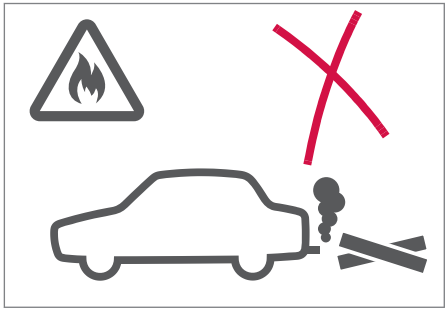


エンジンを始動したら、長時間アイドリングをしないでください。エンジンに悪影響を与え、燃費も悪くなります。



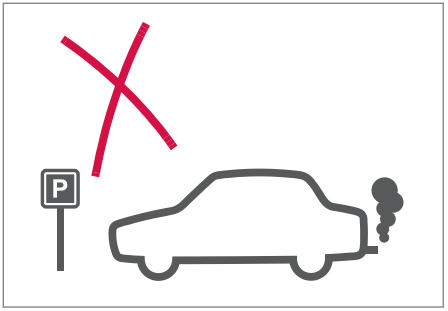
エンジンが作動しているときは、車から離れないでください。

- パーキングブレーキが完全にかけられていない場合や、セレクターレバーが **P**(パーキング)に確実に入っていない場合、車が急に動き出すおそれがあります。
- 短い時間でも、車から離れたときに車内の貴重品を盗まれたり、車ごと盗難されるおそれがあります。



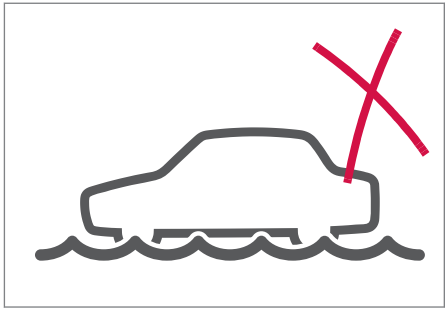
枯れ草や紙、木材など、燃えやすい物があるところで駐停車したり、走行しないでください。

- 排気管や排気ガスの熱により着火し、火災が発生するおそれがあります。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を 60 cm 以上離して止めてください。木材との距離が短いと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあります。



停車中に、エンジンを空吹かししないでください。

- セレクターレバーが **P**(パーキング)または **N**(ニュートラル)以外にあると、車が動き出して思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。近隣の方の迷惑にもなります。

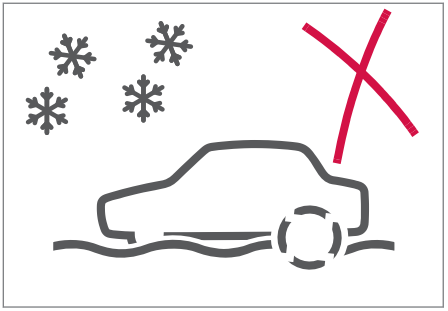


深い水たまりや冠水路は、走行しないでください。

- 水が吸気口や排気管からエンジンに侵入して、エンジンを損傷させるおそれがあります。
- 車内の床面に少しでも水が入ってしまった場合は、ただちに運転を中止してください。浸水した水が車の電子システムの作動に悪影響を与えて、誤作動するおそれがあり大変危険です。
- 冠水してエンジンが停止した場合は、絶対にエンジンを再始動させずに修理を依頼してください。エンジン内部が損傷する原因となります。

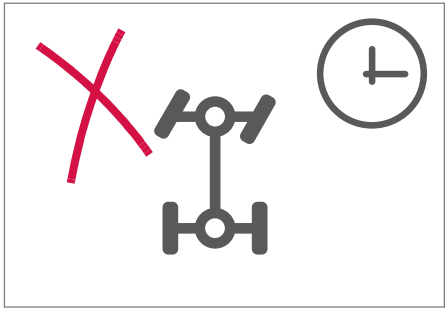
河原や砂地は、できる限り走行しないでください。

- タイヤ、床下、サスペンションなどを損傷し、さらには砂利石など障害物に挟まれたり、砂地にはまって脱出できなくなるおそれがあります。
- AWD 車といっても、万能ではありません。

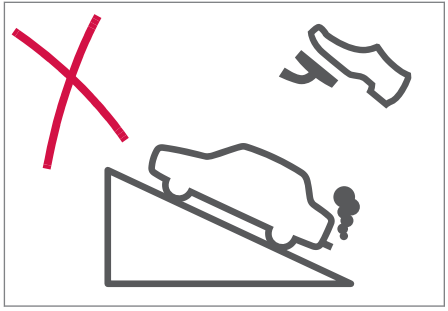


車が新雪やぬかるみにはまり込んでしまった場合は、脱出するときに高速でホイールスピンをさせないでください。

- タイヤを高速で回転させると、タイヤが破裂したり、車体や駆動システムが損傷して思わぬ事故につながるおそれがあります。

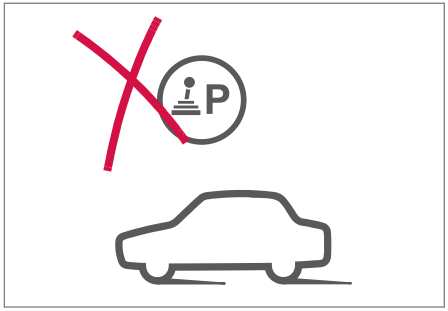


ハンドルをいっぱいに回した状態を、長く続けないでください。



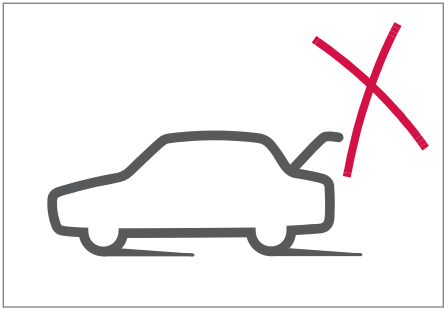
上り坂の途中で、ブレーキの代わりにアクセルペダルを踏んで、車を停止状態に保つことはしないでください。

- トランスミッションが損傷する原因となります。



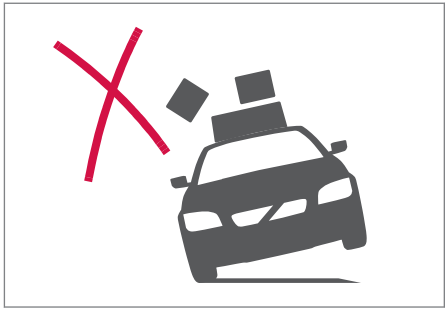
車が動いているときは、セレクターレバーをP(パーキング)に入れないください。

- 車が停止しているときにのみ、P(パーキング)にシフトしてください。走行中にPにシフトすると、トランスミッションが損傷します。
- 前進中に、R(リバース)にシフトしないでください。また、後退中に前進位置にシフトしないでください。トランスミッションが損傷する原因となります。



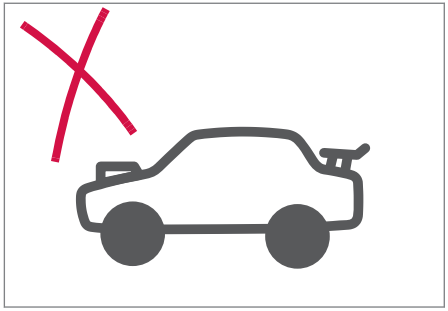
トランクリッドまたはテールゲートを開けたまま、走行しないでください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあり大変危険です。

- トランクリッドまたはテールゲートを開けたまま走行すると、車外の物などに当たったり、車内の物が落ちて、思わぬ事故につながるおそれがあります。



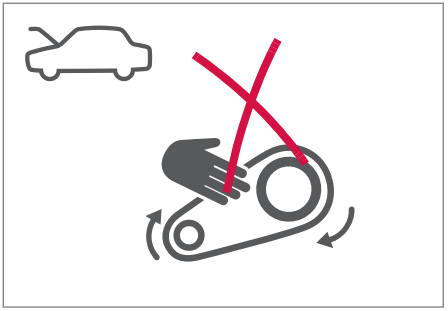
ルーフには直接、物を載せないでください。

- 荷崩れなどを起こして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ロードキャリアなどを付けた場合でも、重い物や大きな物は載せないでください。重心が高くなり、走行不安定になり大変危険です。



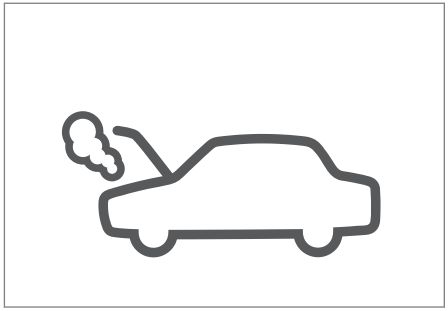
違法改造はしないでください。

- 車の性能や機能に適さない部品を装着すると故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボルボ純正部品を、必ずご使用ください。

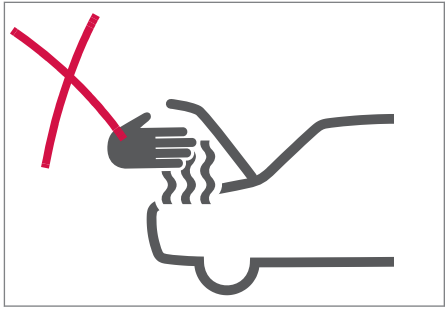


エンジン作動中は、ドライブベルトなど回転している部分に手や衣服、髪の毛などを近付けないでください。

- 電動クーリングファンは、エンジン停止中でも自動的に回転する場合があり大変危険です。ご注意ください。

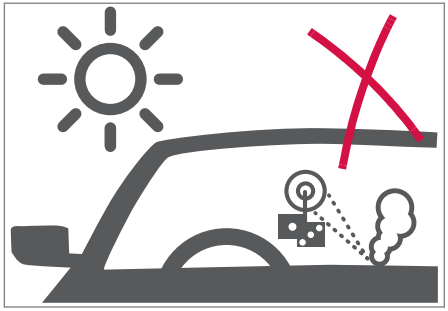


過熱したエンジンから噴き出す蒸気によって、ボンネットを開けただけでも大ヤケドをするおそれがあります。蒸気が噴き出すのが見えたり、噴き出す音が聞こえた場合は、エンジンに近寄らないでください。



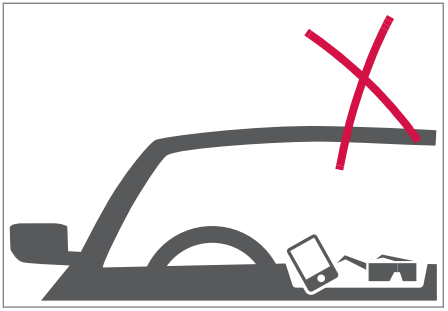
エンジンやラジエータが熱いときは、エキスパンションタンクキャップを開けないでください。

- 沸騰した液体と蒸気が噴き出して、ヤケドをするおそれがあります。冷えるまでお待ちください。



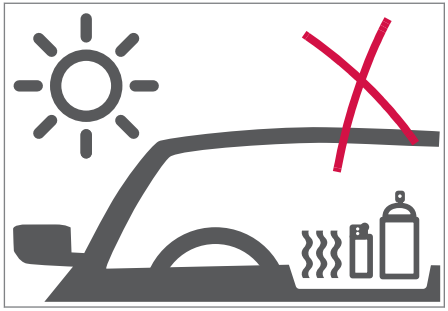
ウインドスクリーンに、アクセサリーなどを取り付けないでください。

- 運転視界を妨げたり、吸盤などがレンズの役目をして火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。



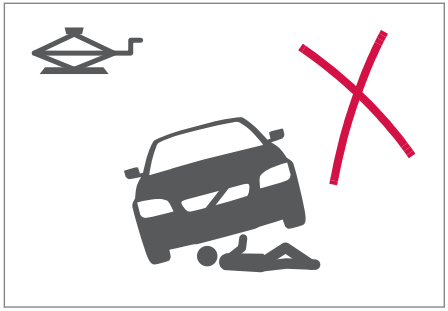
メーター・パネルやダッシュボードの上に、物を置いたまま走行しないでください。

- 運転視界を妨げたり、発進時や走行中にそれらが移動して、安全運転の妨げになります。
- 衝突の際にエアバッグが正常に作動せず、大ケガをするおそれがあります。



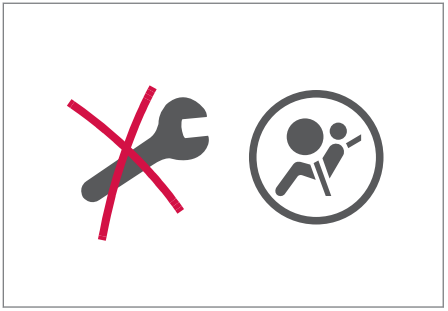
車内にライターやスプレー缶、炭酸飲料などの缶類を、放置しないでください。

- 炎天下などに駐車していると、車内が高温になり、ライターなどの可燃物が自然発火したり、缶類が破裂するおそれがあり大変危険です。



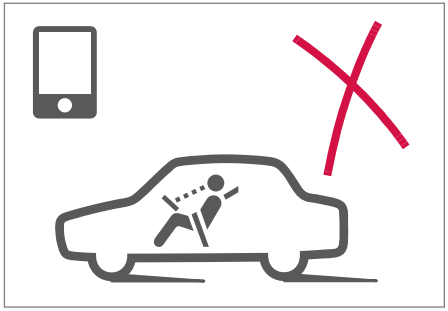
ジャッキアップした車の下には、絶対に入らないでください。

- ジャッキが突然外れて、大ケガをするおそれがあり危険です。また、ジャッキは必ず水平な場所で、正しいジャッキ取り付け位置にあてがってください。
- ジャッキをかけたまま、エンジンをかけないでください。車が突然動き出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ交換の際、車が動き出さないようにパーキングブレーキをかけ、地面に接しているタイヤの前後に輪止めをしてください。



エアバッグ装置を、ご自分で修理・交換しないでください。

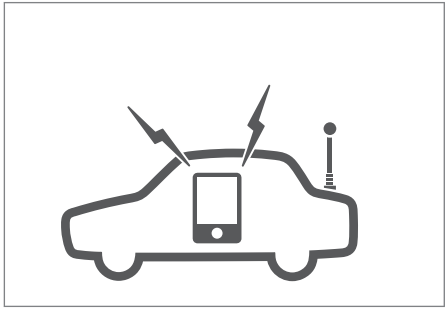
- エアバッグ装置の修理・交換は、必ずボルボ指定のサービス工場にご用命ください。ご自分で不適切な修理・交換を行うと、誤って作動して大ケガをしたり、正常に作動しないおそれがあり大変危険です。



運転中はナビゲーションシステムを眺め続けたり、携帯電話を使用したりしないでください。

- 運転中のナビゲーションシステム(RTI など)の注視/使用により前方不注意となり、事故を起こす原因となります。
- 携帯電話を探したり、電話の操作に気をとられる、また、会話に夢中になるなどして、運転に集中できず大変危険で、事故を起こす原因となります。また、道路交通法違反にもなります。

その他使用上のご注意！



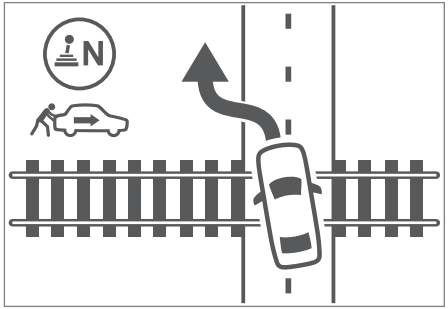
車に無線機、自動車電話などの電子機器を取り付けると、エンジンなどを制御する電子システムの作動に障害を与える場合があり、正常な走行ができなくなったり最悪の場合、火災など、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- このような装置を取り付ける際は、必ずボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

走行中の飛び石などによるボディーの傷は、すみやかに補修をしてください。また、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰などがボディーにかかった場合も、すみやかに洗い流すなどして取り除いてください。

- ボディーの傷をそのままにしておくと、塗装面ばかりではなくボディーそのものを腐食させてしまいます。
- 鳥の糞などの成分で塗装を急速に変色させ、洗っただけでは取れないシミが残ります。

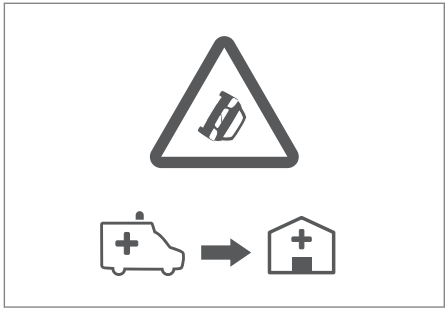
踏切などで動けなくなったとき！



安全な場所まで押し出してください。(シフトレバーは、N(ニュートラル)位置にしてください)ただし、列車が近づいている場合は、ただちに全員安全な場所に避難してください。

- ただちに、車から全員降りて安全な場所に避難してください。
- 踏切から脱出できない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがない所では、非常信号用具/懐中電灯や目立ちやすい赤い布などで、安全な場所から列車に合図してください。

万が一、事故を起こしてしまったら…



事故現場での対処法は、次の通りです。

事故発生

ケガ人を救助する：

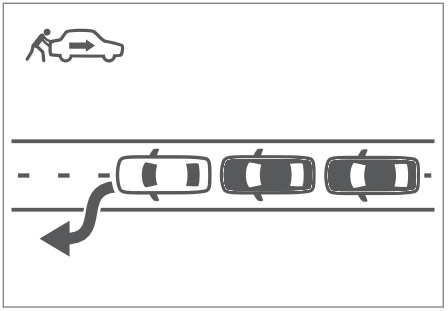
- どんなに軽いケガでも病院へ。ただし、むやみにケガ人を動かさない方がよい場合があります。必要であれば救急車を呼んでください。(警察・消防に連絡するときは、場所や目印になるもの、ケガ人の状況、事故の様子などを伝える。)

加害者、被害者に関わらず、相手を確認する：

- 氏名、住所、勤務先、車の登録番号(ナンバープレート)、相手の加入先の保険会社名、証券番号、契約者名などを確認する。

可能であれば、車を安全な場所に移動する：

- 渋滞や二次災害を起こさないように。



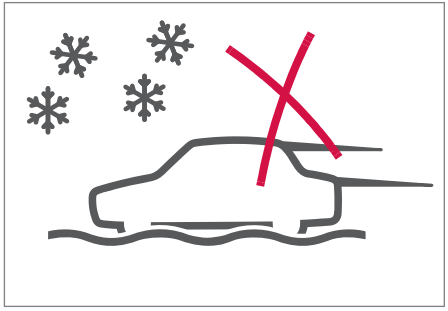
事故状況を確認してメモをとる：

- スピード、信号、停車位置などを確認します。目撃者の証言も重要です。忘れない内にメモしましょう。

必ず警察に連絡をする：

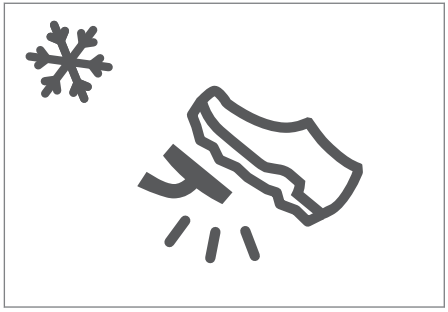
- 警察に事故届を、必ず出してください。

冬道での安全走行のポイント！

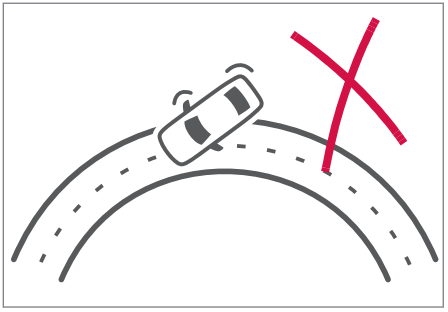


路面の積雪、雪質、凍結状況に応じた適切な運転を行ってください。

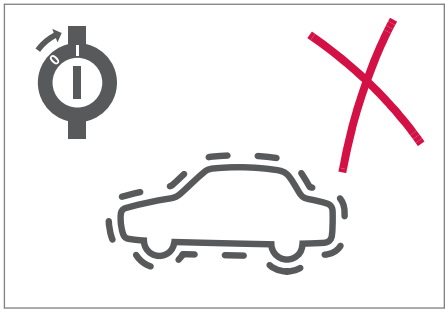
- 車に雪が積もっている場合は、雪を落としてから走行してください。
- 車に雪が積もっている場合、ドアの開閉時に車内に入らないようにご注意してください。
- 降雪時や前走車で巻き上げられる雪煙などで、視界が妨げられるのでご注意してください。また、ヘッドライトやテールランプに付着した雪は、こまめに取り除いてください。

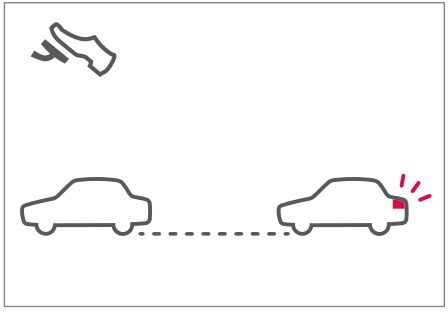


- ペダル操作を誤らないように、靴底の雪などを落としてください。
- ブレーキは一度に強く踏み込まずに、ソフトに踏んでください。
- 急ハンドルは避けて、スムーズなハンドル操作をしてください。
- 交差点付近やカーブの手前では、早めに減速してください。



- 急なアクセル操作によるスリップを避けるため、カーブは一定の速度で走行してください。
- 橋の上や山間部では、凍結やスリップにご注意してください。
- 日中でも、日陰などは雪や氷が残っている場合がありますので、十分ご注意してください。





急発進は避け、ゆっくり発進してください。

- ブレーキは早めに踏んでください。急ブレーキは避けて、エンジンブレーキを上手に使用してください。
- 下り坂では、エンジンブレーキを有効に使用してください。状況に応じて、シフトダウンしてください。
- 車間距離は十分にとり、車線変更は慎重に行ってください。
- つねに、2〜3 台前の車の動き・状況を見て、判断するようにしてください。
- 車両前部を風下に向けて、**パーキング(駐車)ブレーキ**はかけずに、**P** 位置に入れてください。パーキング(駐車)ブレーキを使用すると、凍り付くおそれがあります。
- ワイパーブレードがウインドスクリーンに凍り付いてしまわないように、ご注意してください。
- ドアキーシリンダーが凍り付いてしまう場合がありますので、ご注意してください。

タイヤ・ホイールについて！

- タイヤローテーションをする場合、タイヤのサイドウォール部にタイヤの回転方向(→)が表示されている際には、前進方向のタイヤの回転方向に合わせて、すべてのタイヤの(→)が前進方向になるように装着してください。
- 積雪路など走行時は、ウインタータイヤの残り溝が新品時の 50 %以上ある(トレッドに残り溝マークが出ていない)ことを確認してください。溝の深さが 50 %未満のウインタータイヤは、ウインタータイヤとしての機能を十分発揮しません。
- スチールおよびアルミホイールに、亀裂、変形などの損傷や著しい腐食があるもの、また溶接や手直しした物は絶対に使用しないでください。
- タイヤやリムの側面を縁石に接触させたり、道路上の物体や段差を乗り越えたりすることを避けてください。タイヤやリムに傷が付くおそれがあります。
- 急発進、急加速、急停止、急旋回は、大変危険ですので絶対にしないでください。特に、積雪路など滑りやすい道路では、事故を起こすおそれがありますので、カーブでは減速するなど道路状況に応じた適切な運転をしてください。
- 走行中は、つねに走行速度に応じた車間距離を取ってください。 特に、積雪路など滑り

▶▶

やすい道路走行時は、十分な車間距離を取ってください。

- 走行中に操縦不安定、または異常な音および振動を感じたときは、すみやかに安全な場所に停車して、車両およびタイヤなどを点検してください。外観上、異常が見当たらなくても、早い時期にボルボ指定のサービス工場に点検を依頼してください。
- 瞬間パンク修理剤、またはタイヤ艶出し剤などで、タイヤに劣化など有害な影響をおよぼすおそれのあるものは、使用しないでください。
- タイヤのタイプやサイズを変更したとき(ウインタータイヤ←→夏タイヤ)などの場合は、タイヤの運動特性・操縦特性が変化しますので、十分注意して運転してください。
- ウインタータイヤで乾燥舗装路を走行する場合は、急発進、急加速、急停止、急旋回を避けて、安全運転を心がけてください。
- 車体と接触する状態で、タイヤを装着しないでください。また、フェンダーからはみ出すタイヤ・ホイールの装着は、違法改造となりますので、絶対にしないでください。なお、フェンダーからはみ出さない場合でも、ホイールハウスの内側、フェンダーの折り返しなどとの干渉にも注意してください。
- タイヤを取り外して保管する場合は、直射日光、雨および水、油類、その他熱源、火花などがかからないようにしてください。
- ホイールバランス調整時は、必ず 4 本調整してください。
- 定期的にホイールボルト・ナットの締め付け状態、ホイールバランスウエートの取り付け状態を確認してください。
- 自動洗車機を使用するとアルミホイールに傷が付くおそれがありますので、なるべく手作業で行ってください。

タイヤチェーンについて！

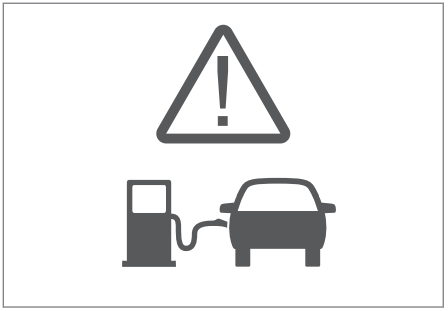
- 装着するタイヤとサイズが合ったタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンの装着を、事前に練習してください。
- タイヤチェーンは、必ず前輪左右に同じ物を装着してください。
- タイヤチェーン装着時、車体との隙間が十分にある事を確認してください。(詳しくは、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。)
- タイヤチェーンの脱着は、安全な場所で行ってください。
- タイヤチェーンを脱着する際に車を動かす場合は、チェーンの金具類をタイヤで踏まないでください。
- タイヤチェーン装着後、約 200 m 程走行して異常な音、振動などがないか確認し、安全な場所で停車して再度、タイヤチェーンの取り付け状態を確認してください。
- タイヤチェーン装着時は、時速 50 km/h (30 mph)以下で走行してください。
- タイヤチェーン装着時は、急発進、急加速、急停止、急旋回やタイヤを空転させる運転は絶対にしないでください。

- タイヤチェーン装着走行中、異常な音や振動がしたら、安全な場所に車を止めて点検してください。
- 雪のない舗装路面を、タイヤチェーンを装着して連続走行しないでください。

燃料補給時のご注意！

燃料補給時は、次の事項を必ず守ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、ヤケドをするおそれがあります。

- **エンジンは、必ず止めてください。**
- 車のドア、窓を閉めてください。
- **タバコなどの火気を、近付けないでください。**
- 燃料キャップを**開ける前に**、ボディまたは給油機などの金属部分に触れて、身体の**静電気除去を行ってください**。
- 給油口のフラップを開くなどの**給油操作はすべて、必ず一人で行ってください**。（複数で行うと、静電気が除去できない場合があります。）
- 燃料キャップを開ける場合は、キャップを少しゆるめてタンク内部の圧力を抜いてから、ゆっくり回してください。
- **給油中、再び車内のシートに戻らないでください。**（座ることで再帯電する場合があります。）
- **給油口に、他の人を近付けないでください**。
- ガソリンスタンドの計量器が、最初に自動停止した時点で給油をやめてください。過度に給油すると、気温が高いときに燃料が外に漏れ出すおそれがあり、大変危険です。



- 燃料補給後は燃料キャップを「カチッ」と音がするまで右に回して、確実に閉まっていることを確認してください。
- その他、**ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を必ず守ってください**。
- アルコール系燃料や不適切な燃料添加剤を給油/使用すると、走行性能の悪化、およびエンジン/燃料系統に重大な障害を与え、燃料漏れなどの不具合や火災などの事故にいたる危険性があり、また車を長期間ご使用されずにいた場合、燃料が劣化するおそれがあります。

必ず、適正なガソリンをご使用ください。

- ディーゼルエンジン搭載車にディーゼル以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- ガソリンエンジン搭載車にガソリン以外の燃料を補給しては絶対にいけません。

▶▶

- 指定グレードの燃料を使用してください。
- 誤った燃料を少量でも使用すると、燃料系統やエンジンが損傷するおそれがあります。

保証とアフターサービス

保証書（別冊）

- 保証書は、必ず「お名前、ご住所、ディーラー名」などの必要事項が記入され、ディーラー印が押印されていることをご確認の上、保証規定の内容をよくお読みください。保証書は、大切に保管してください。 **保証期間、保証内容などは、保証書（別冊）に記載しています。**

修理を依頼されるとき

- お買い上げいただいたボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。なお、保証期間中に修理を依頼される際は、保証書/メンテナンスノート（整備手帳）、点検整備記録簿をご提示ください。保証規定に示す条件に従って、ボルボ指定のサービス工場で修理させていただきます。

ご不明な点や修理に関するご相談

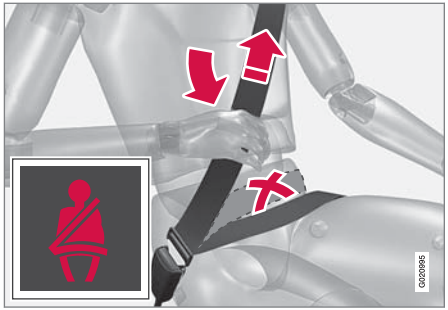
- 修理などに関するご相談、ご不明な点は、お買い上げいただいたボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。

なお、故障などの緊急時にボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場に連絡が取れない場合（定休日など）は、ロードサイド・アシスタンスサービス、JAF などに対応を依頼してください。

セーフティ

シートベルトの概要

シートベルトを着用していないと、急ブレーキの際に大ケガをしたり、生命に危険がおよぶおそれがあります。走行中は、乗員全員が必ずシートベルトを着用してください。



斜めにかかった肩ベルトを肩の方に引き上げて、腰ベルトを締めてください。腰ベルトは、なるべく低い位置にかけてください(腹部は避けてください)。

シートベルトの保護機能が最大の効果を発揮するためには、シートベルトが体に密着していることが重要です。バックレストはできるだけ倒さずに、立てた位置で使用してください。シートベルトは、通常の着座姿勢のときに効果を発揮するようにできています。

シートベルトを着用していない乗員に対して、警告音と警告灯(p. 65)でシートベルトの着用(p. 63)を促します。

次のことに注意してください

- シートベルトにクリップなどを取り付けないでください。正常な着用ができなくなるおそれがあります。
- シートベルトがねじれていたり、なにかに引っかかるようなことがないようにしてください。

⚠ 警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

⚠ 警告

各シートベルトは 1 人用です。

⚠ 警告

ご自身で、シートベルトの改造や修理を絶対にしないでください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

衝突などが原因でシートベルトに大きな力が加わった場合は、必ずシートベルト装置全体を交換してください。シートベルトに損傷が見当たらなくても、体を保持する力が失われているおそれがありますのでご注意ください。シートベルトがすり切れていたり損傷している場合は、新しいシートベルトと交換してください。新しいシートベルトは必ず認定されたタイプを使用し、交換前と同じ位置に取り付けてください。

関連情報

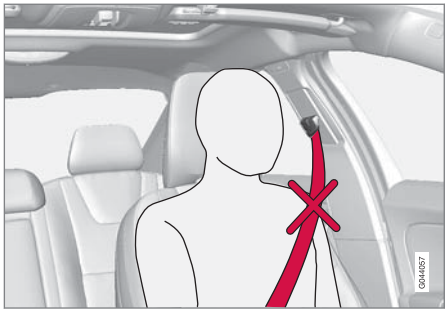
- シートベルト – 妊娠中 (p. 64)
- シートベルト – 外す (p. 64)
- シートベルトテンショナー (p. 65)

シートベルト – 着用

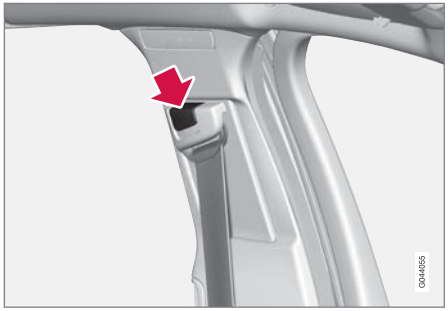
走行を開始する前にシートベルト(p. 62)を着用してください。

シートベルトをゆっくり引き出し、ロックタブをシートベルトバックルに押し込んでください。ロックすると、カチッと音がします。

正しく装着されたシートベルト



不適切に装着されたシートベルト。シートベルトは必ず肩にかけてください。



シートベルト高さ調節ボタンを押して、ベルトを上下に動かしてください。ベルトがのどにかからない範囲で、ベルトをできるだけ高い位置に配置してください。

リアシート[1]のシートベルトは、それぞれの専用のバックルにのみロックできるようになっています。

次のことに注意してください

以下のような場合には、シートベルトがロックして引き出せなくなります:

- シートベルトを急激に引き出したとき
- ブレーキ時や加速時
- 車体が大きく傾いたとき

関連情報

- シートベルト – 妊娠中 (p. 64)
- シートベルト – 外す (p. 64)
- シートベルトテンショナー (p. 65)
- シートベルトリマインダー (p. 65)

[1] 特定市場。

シートベルト – 外す

車両が停止しているときにシートベルト (p. 62)を外してください。

シートベルトバックルの赤いリリースボタンを押すと、シートベルトは自動的に巻き取られます。シートベルトが完全に巻き取られない場合は、手で押し戻して、ゆるみが残らない状態まで完全に巻き取らせてください。

関連情報

- シートベルト – 着用 (p. 63)
- シートベルトリマインダー (p. 65)

シートベルト – 妊娠中

妊娠中もシートベルト (p. 62)をつねに着用してください。シートベルトは正しく着用することが重要です。

肩ベルトは肩から胸の中央を通り、腹部の横にくるようにかけてください。

腰ベルトは、骨盤のできる限り下の位置にかけてください。絶対に腹部を圧迫しないように注意してください。シートベルトはゆるみがない状態で、体に確実に密着させてください。さらに、シートベルトがねじれていないことを点検してください。

妊娠中の運転では、妊娠月が進むにしたがって、フットブレーキやステアリングホイールの操作など車両の操作がしやすいようにシート (p. 121)およびステアリングホイール (p. 126)を調節してください。シートを腹部とステアリングホイールの間の距離が最大となる場所に配置してください。

関連情報

- シートベルト – 着用 (p. 63)
- シートベルト – 外す (p. 64)

シートベルトリマインダー

シートベルトを着用していない乗員に対して、警告音と警告灯でシートベルトの着用(p. 63)を促します。

警告音は車速に応じて作動し、また時間に応じて作動する場合もあります。警告灯は、ルーフコンソールおよびコンバインド・メーター・パネル(p. 102)にあります。

チャイルドシートは、シートベルトリマインダーの対象外となります。

リアシート

リアシートのシートベルトリマインダーには、2つの補助機能があります：

- リアシートのシートベルト(p. 62)の使用状況を、インフォメーション・ディスプレイに表示します。シートベルトが使用されている場合、またはリアドアのいずれかが開かれた場合には、コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。メッセージは、約 30 秒走行すると自動的に消えます。または、方向指示器レバーの **OK** ボタン(p. 151)を押して確認すると消えます。
- 走行中に、いずれかのリアシートベルトが外されると作動します。コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示され、警告音/警告灯が作動します。この警告は、シートベルトを再び着用するか、または **OK** ボタンを押して確認すると停止します。

どのシートベルトが使用されているかを示すコンバインド・メーター・パネルのメッセージは、つねに表示されます。記憶されたメッセージを確認するときは、**OK** ボタンを押してください。

特定市場

運転者および助手席乗員がシートベルトを着用していない場合、警告音および警告灯が作動して着用を促します。低速走行時は、警告音が最初の 6 秒間鳴り続けます。

シートベルトテンショナー

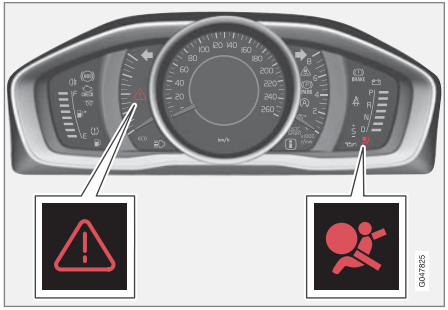
すべてのシートベルト (p. 62)に、シートベルトテンショナーが装着されています。衝突により一定レベル以上の衝撃を受けると、シートベルトのゆるみを素早く取り除きます。衝突の際に、乗員をより効果的に保護します。

⚠ 警告

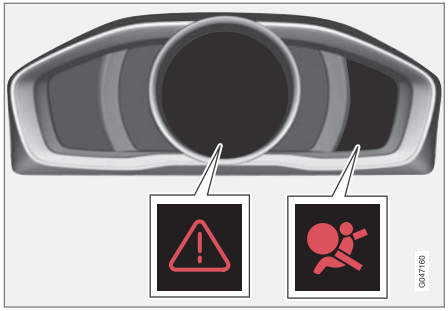
助手席側シートベルトを、運転席側シートベルトバックルに絶対に差し込まないでください。シートベルトは、必ず正しい側のバックルに差し込んでください。シートベルトに傷を付けたり、バックルの中に異物を入れたりしないでください。衝突時にシートベルトやバックルが正常に機能しないおそれがあります。大ケガを負うおそれがあります。

セーフティ – 警告灯

警告灯は、故障診断中に不具合が検出されるか、システムが既に起動されている場合に表示されます。必要な場合には、警告灯がメッセージと共にコンバインド・メーター・パネル (p. 102) のインフォメーション・ディスプレイに表示されます。



アナログ式コンバインド・メーター・パネルのエアバッグシステム (p. 67) 三角警告灯および警告灯



液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルのエアバッグシステム三角警告灯および警告灯

コンバインド・メーター・パネル内の警告灯はリモートコントロールキーがキー位置 II (p. 119) にあるときに点灯します。エアバッグシステムに不具合がない場合、シンボルは約 6 秒後に消灯します。

⚠ 警告

エアバッグシステムの警告灯が点灯し続けたり、走行中に点灯した場合は、エアバッグシステムの機能に不具合があることを示しています。警告灯が点灯した場合、シートベルトテンショナーシステム、SIPS、IC システム、またはその他のシステムに不具合が発生しているおそれがあります。すみやかに、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

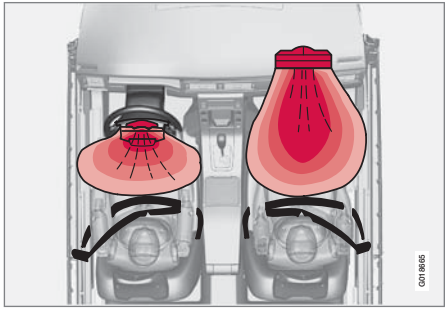
警告灯に不具合がある場合は、三角警告灯が点灯して、ディスプレイに **SRSｴｱﾊﾞｯｸﾞ ｻｰﾋﾞｽが必要です**または **SRSｴｱﾊﾞｯｸﾞ 直ちにｻｰﾋﾞｽが 必要です**が表示されます。ただちに、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

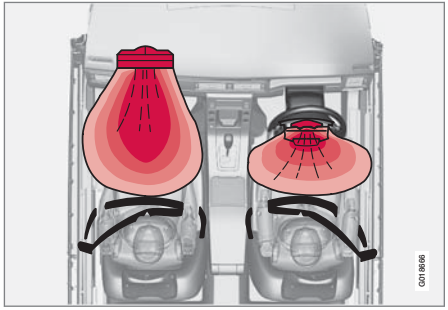
- セーフティモードについて (p. 75)

エアバッグシステム

前面衝突の際、エアバッグシステムが運転者と助手席乗員の頭部、顔面、胸部を衝撃から保護します。



上から見たエアバッグ、左ハンドル車



上から見たエアバッグ、右ハンドル車

このシステムは、エアバッグとセンサーで構成されています。衝突事故により一定レベル以上の衝撃を受けると、センサーが反応してエアバッグが膨張し、高温になります。エアバッグにより、衝突時に乗員に対する当初の衝撃が緩和されます。エアバッグは、衝突による圧力がかかると内部のガスが抜け、収縮します。このとき、車内に煙が放出されますが、これは異常ではありません。エアバッグが膨張・収縮する一連の動作は、瞬間的に行われます。

エアバッグが作動したときは、次の指示に従ってください：

- 車両を回収してください。車両をボルボ指定のサービス工場に搬送します。エアバッグ作動後は、絶対に自走しないでください。
- ボルボ指定のサービス工場に、車両のセーフティシステム部品の交換を依頼してください。
- 医師の診察を必ず受けてください。

⚠ 警告

エアバッグコントロールモジュールは、センターコンソールの中にあります。センターコンソールに、水その他の液体が入った場合は、バッテリーケーブルの接続を外してください。エアバッグが展開するおそれがありますので、エンジンを始動しないでください。この場合、車両を回収します。車両をボルボ指定のサービス工場に搬送してください。

⚠ 警告

エアバッグ作動後は、絶対に自走しないでください。エアバッグによってハンドル操作が妨げられるおそれがあります。他のセーフティシステムも損傷を受けているおそれがあります。エアバッグ作動時に放出された煙や埃が原因で、目や皮膚に傷や炎症を起こす場合があります。炎症を起こした場合は、冷水でよく洗ってください。エアバッグの展開速度は極めて速く、エアバッグの布との摩擦熱で皮膚にヤケドや擦過傷を負うおそれがあります。

⚠ 警告

修理は、必ずボルボ指定のサービス工場に依頼してください。エアバッグシステムへの作業に不具合があると、誤作動につながり、大ケガをするおそれがあります。

ⓘ 注意

センサーは、衝突の性質やシートベルトが着用されているかどうかを判断し、それに応じて作動条件が変化します。これは、どのベルト位置にも該当します。

そのためエアバッグ 1 つだけが作動する場合や、1 つも作動しない場合があります。センサーは、車両が受けた衝撃の強さを感知して、必要なエアバッグだけを作動させます。

関連情報

- 運転席側エアバッグ（p. 68）
- 助手席側エアバッグ（p. 68）
- セーフティ – 警告灯（p. 66）

運転席側エアバッグ

シートベルト(p. 62)を補助する目的で運転席にエアバッグ(p. 67)が装備されています。

このエアバッグは、ステアリングホイールの中央に収納されています。ステアリングホイールに **AIRBAG** の文字が表示されています。

⚠ 警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

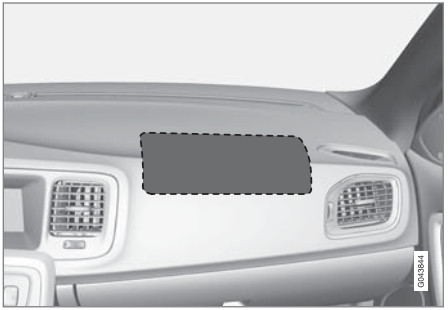
関連情報

- 助手席側エアバッグ（p. 68）

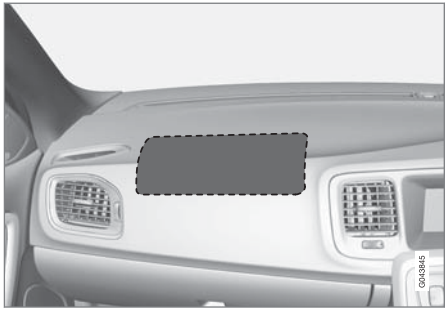
助手席側エアバッグ

シートベルト(p. 62)を補助する目的で、助手席側にエアバッグ(p. 67)が装備されています。

このエアバッグは、グローブボックス上のパネル内に収納されています。パネルに、**AIRBAG** の文字が表示されています。



助手席側エアバッグの位置(左ハンドル車)



助手席側エアバッグの位置(右ハンドル車)

助手席側エアバッグラベル

助手席側サンバイザーのラベル

助手席側ドアピラーのラベル。ラベルは助手席側ドアを開くと見えます。

助手席側エアバッグの警告ラベルは、前図の位置に表示されています。

⚠ 警告

後ろ向きのチャイルドシートはエアバッグが作動可能状態のシート上で絶対使用しないでください。この指示を守らないと、お子様が死亡するまたは重傷を負う可能性があります。

⚠ 警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

エアバッグ作動時にケガをする危険を減らすため、乗員は背中全体がバックレストに接するように背筋を伸ばしてまっすぐに座り、足はフロアに置いてください。シートベルトを必ず着用してください。

⚠ 警告

助手席側エアバッグが装着されているダッシュボードの前や上には、絶対に物を置いたりアクセサリーなどを取り付けないでください。

⚠ 警告

助手席シートの前には、絶対に誰も立たせたり座らせたりしないでください。

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

助手席側エアバッグが無効になっている場合、絶対に乗員(お子様および大人)を前向きで助手席に座らせないでください。

この指示を守らないと、命を危険にさらす、または大ケガをするおそれがあります。

スイッチ – PACOS*

車両にPACOS(Passenger Airbag Cut Off Switch)が装着されている場合は、助手席側エアバッグの作動をオフ(p. 70)にすることができます。

⚠ 警告

車両に助手席側エアバッグが装備されており、PACOS(Passenger Airbag Cut Off Switch)がない場合には、エアバッグはつねに作動可能状態です。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 68)
- チャイルドシート (p. 79)

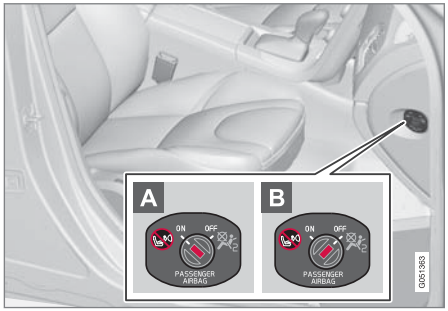
助手席側エアバッグ – 作動/解除*

助手席側エアバッグ(p. 68) は、車両にPACOS(Passenger Airbag Cut Off Switch)スイッチが装備されている場合にはオフにすることができます。

スイッチ – PACOS

助手席側エアバッグのPACOS スイッチは、ダッシュボードの助手席側端にあります。助手席ドアを開けて操作します。

スイッチが希望の位置になっているか確認してください。リモートコントロールキーのキーブレード(p. 212)を使用して位置を変更してください。



エアバックスイッチの位置

A **ON** – エアバッグが作動可能状態になっています。スイッチがこの位置にあるときは、すべての乗員(大人およびお子様)が助手席に前を向いて安全に座ることができます。

B **OFF** – エアバッグが非作動状態になっています。スイッチがこの位置にあるときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを使用して、お子様を安全に助手席に座らせることができます。

⚠ 警告

助手席側エアバッグが作動可能状態の場合:

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

助手席側エアバッグが非作動状態の場合:

助手席側エアバッグが無効になっている場合、絶対に乗員(お子様および大人)を前向きで助手席に座らせないでください。

この指示を守らないと、命を危険にさらす、または大ケガをするおそれがあります。

* オプション/アクセサリー。

注意

リモートコントロールキーをキー位置 II (p. 119)にすると、コンバインド・メーター・パネルのエアバッグ警告灯(p. 66)が約 6 秒間点灯します。

続いてルーフコンソールのインジケーターが点灯し、助手席側エアバッグの作動可能/非作動状態を表示します。

助手席側エアバッグが作動状態であることを表示するインジケーター

ルーフコンソールの警告灯が点灯している場合には、助手席側エアバッグが作動可能状態であることを示します(前図参照)。

警告

助手席側エアバッグが有効で、ルーフコンソールの シンボルが点灯してこの状態を示している場合、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。この指示を守らないと、お子様の生命に危険がおよぶおそれがあります。

助手席側エアバッグが非作動状態であることを表示するインジケーター

ルーフコンソールにディスプレイテキストおよびシンボルが表示されれば、助手席側エアバッグが非作動状態であることを示します(前図参照)。

警告

ルーフコンソールにエアバッグ非作動のメッセージが表示され、コンバインド・メーター・パネルのエアバッグ 警告灯 (p. 66)も点灯しているときは、助手席に誰も座らせないでください。重大な故障が発生しているおそれがあります。すみやかに、サービス工場で点検を受けてください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

警告

この指示を守らないと、乗員の生命に危険がおよぶおそれがあります。

関連情報

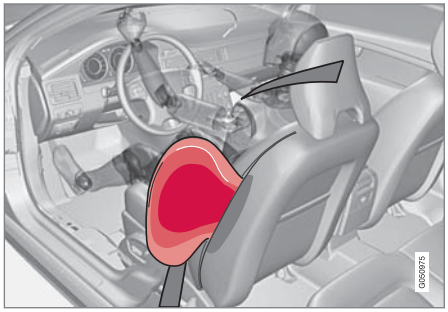
- チャイルドシート (p. 79)

サイドエアバッグ(SIPS)

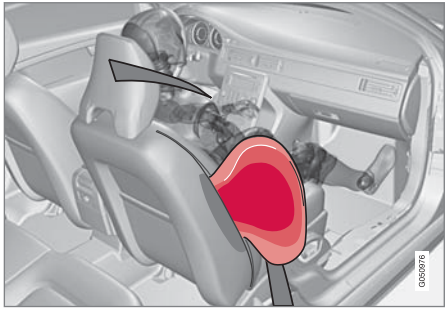
側面衝突時にかかる衝撃の大部分が、側面衝撃吸収システム、SIPS(Side Impact Protection System)によって、ビーム、ピラー、フロア、ルーフ、車体のその他の構造部分へ分散されます。運転席と助手席のサイドエアバッグは、胸部および腰を保護するSIPSの重要なシステムです。

SIPSバッグシステムは、サイドエアバッグおよびセンサーで構成されています。サイドエアバッグは、フロントシートバックレスト内に取り付けられています。

側面からの衝突によって一定レベル以上の衝撃を受けるとセンサーが反応し、サイドエアバッグが膨張します。サイドエアバッグは、乗員とドアの間で膨張して衝突の衝撃を和らげます。エアバッグは、衝突による圧力がかかると内部のガスが抜け、収縮します。作動するのは、側面から衝撃を受けた側のエアバッグのみです。



運転席シート(左ハンドル車)



助手席シート(左ハンドル車)

⚠ 警告

- 修理は、必ずボルボ指定のサービス工場に依頼してください。SIPSバッグシステムへの作業に不具合があると、誤作動につながり、大ケガをするおそれがあります。
- シートの外側とドアパネルの間に、なにも物を置かないでください。このスペースは、サイドエアバッグの作動に必要です。
- シートカバーは、ボルボ社が認可した製品以外は使用しないでください。それ以外のシートカバーは、サイドエアバッグの作動の妨げになるおそれがあります。
- サイドエアバッグは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

SIPSおよびチャイルドシート

サイドエアバッグはチャイルドシート/ブースタークッションに座っているお子様の保護効果を損なうものではありません。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 68)
- 助手席側エアバッグ (p. 68)
- インフレータブルカーテン(IC) (p. 73)

インフレータブルカーテン(IC)

インフレータブルカーテンは、ドア側の乗員の頭部を衝突の衝撃から保護します。

インフレータブルカーテン IC (Inflatable Curtain)はSIPSシステム(p. 72)、およびエアバッグシステム(p. 67)の一部です。ヘッドライニングの両サイド沿ってに取り付けられており、運転者と車両のドア側シートにいる乗員を保護します。衝突によって一定レベル以上の衝撃を受けると、センサーが作動してインフレータブルカーテンが展開します。

⚠ 警告

ルーフのハンドルに、絶対に重い物を吊り下げたり取り付けないでください。ハンドルに付いているフックは、軽量の衣服のみをかけるために設計されたものです(傘などの硬い物はかけないでください)。

ヘッドライニング、ドアピラー、およびサイドパネルに、スクリューをねじ込んだり物を取り付けないでください。保護効果が損なわれるおそれがあります。この部分への取り付けが認められている、ボルボ純正品以外の物を取り付けないでください。

⚠ 警告

ドア内のウインドの上端から 50 mm 下の位置に達するまで、荷物を積み上げないでください。荷物を積むと、ヘッドライニングの内側に装着されているインフレータブルカーテンの保護効果が損なわれるおそれがあります。

⚠ 警告

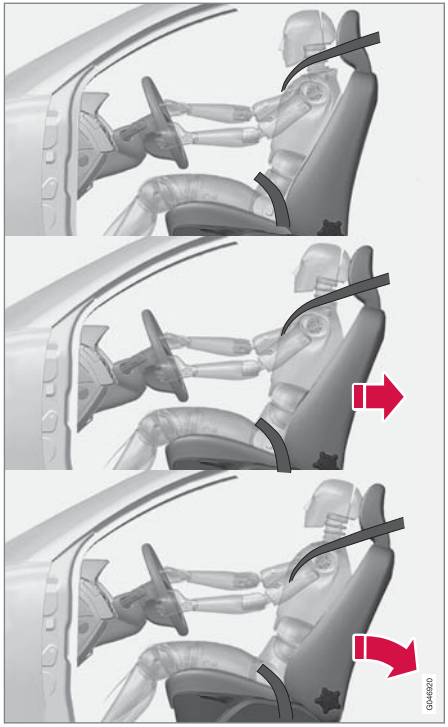
インフレータブルカーテンは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

関連情報

- シートベルトの概要 (p. 62)

WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)について

WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)はむち打ち症を防ぐ機能です。このシステムは、衝撃を吸収するバックレストおよび特別な機構を持つフロントシートのヘッドレストで構成されています。



WHIPS は衝突時に起動します。この際、衝突の角度、速度、および衝突車の状態などが作動条件に合うと作動します。

⚠ 警告

WHIPS システムは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

シートの特性

WHIPS システムが作動すると、フロントシートバックレストを後方に傾斜させて運転席および助手席の乗員の着座姿勢を変えます。この機能は、むち打ち症になる危険性を低減します。

⚠ 警告

ご自身で、シートや WHIPS システムの改造や修理を絶対にしないでください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

WHIPS およびチャイルドシート

WHIPS システムはチャイルドシートやブースタークッションに座っているお子様の保護効果を損なうものではありません。

関連情報

- WHIPS – 着座姿勢 (p. 74)
- シートベルトの概要 (p. 62)

WHIPS – 着座姿勢

WHIPS システム(p. 73)の最大の保護効果を得るために、運転者と助手席乗員は正しい着座姿勢を保ち、システムの機能を妨げないようにすることが必要です。

着座姿勢

走行を開始する前に、フロントシート(p. 121)での正しい着座姿勢を確認してください。

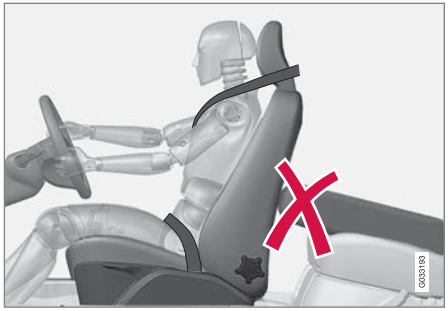
運転者と助手席乗員は、頭部とヘッドレストの間の隙間ができるだけ小さくなるような姿勢で、シートの中央に座ってください。

機能

WHIPS システムの作動が妨げられないよう、運転席および助手席の後ろの床にはなにも置かないようにしてください。

⚠ 警告

リアシートクッションとフロントシートバックレストの間に、硬い物を置かないでください。WHIPS システムの作動が妨げられていないことを確認してください。



WHIPS システムの作動が妨げられないよう、リアシートに物を置かないようにしてください。

⚠ 警告

リアシートのバックレストを倒す、または後ろ向き装着タイプのチャイルドシートをリアシートで使用する場合、倒したバックレストまたはチャイルドシートと接触しないように、該当する側のフロントシートを前方へ移動させる必要があります。

⚠ 警告

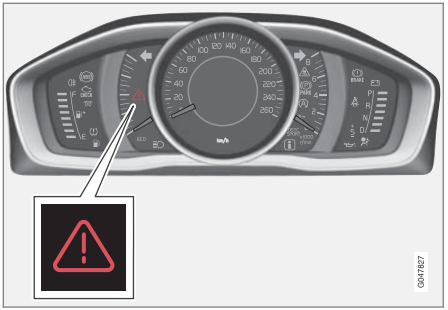
追突などでシートが衝撃を受けた後は、WHIPS システムの点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場で受けてください。

シートに損傷が見当たらなくても WHIPS システムの保護機能が一部失われているおそれがあります。

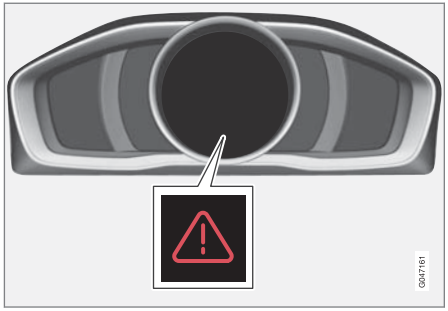
軽い追突の後でも、ボルボ指定のサービス工場でシステムの点検を受けてください。

セーフティモードについて

セーフティモードは、燃料パイプ、セーフティシステムのセンサー、ブレーキシステムなどの重要な機能が損傷を受けた可能性があるときに作動する保護機能です。



アナログ式コンバインド・メーター・パネルの三角警告灯



液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルの三角警告灯

衝突の際、**ｾｰﾌﾃｨﾓｰﾄﾞ ﾏﾆｭｱﾙを参照して 下さい** のテキストがコンバインド・メーター・パネル (p. 102) のインフォメーション・ディスプレイに表示されることがあります。この表示は、車両の機能が低下していることを意味します。

⚠ 警告

車両がセーフティモードになっているときは、絶対にご自身で車を修理したり、電子機器のリセットをしないでください。ケガをするおそれがあり、また不具合の原因となります。**ｾｰﾌﾃｨﾓｰﾄﾞ ﾏﾆｭｱﾙを参照して 下さい** が表示された場合には、ボルボ指定のサービス工場で車両の点検修理を必ず行ってください。

関連情報

- セーフティモード – 車両の始動を試行する (p. 76)
- セーフティモード – 車両の移動 (p. 77)

セーフティモード – 車両の始動を試行する

車両がセーフティモード (p. 75) になっている場合、車両全体が正常なように見え、燃料漏れがないことが確認できた場合、始動を試行することができます。

始めに、車両から燃料が漏れていないか確認してください。燃料の臭いがしていないことを、必ず確認してください。

なにも異常が見られず、燃料漏れもなければ、エンジンを始動してください。

リモートコントロールキーを取り出して、運転席ドアを開けてください。イグニッションがオンであるというメッセージが表示されたら、スタートボタンを押してください。その後、ドアを閉め、もう一度リモートコントロールキーを挿入してください。これにより、車両の電子機器が、ノーマルモードへのリセットを試みます。エンジンを始動します。

ｾｰﾌﾃｨﾓｰﾄﾞ ﾏﾆｭｱﾙを参照して 下さい のメッセージがまだ表示されている場合は、絶対に走行またはけん引をしないでください。 レッカーサービス (p. 376) を使用してください。隠れた損傷があった場合、移動中に車両を制御できなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

ｾｰﾌﾃｨﾓｰﾄﾞ ﾏﾆｭｱﾙを参照して 下さいが表示されているときに燃料の臭いを感じた場合は、エンジンを絶対に始動しないでください。ただちに、車両から離れてください。

⚠ 警告

車両がセーフティモードになっているときは、絶対に車両をけん引しないでください。ボルボ指定のサービス工場に積載車に載せて搬送してください。

関連情報

- セーフティモード – 車両の移動（p. 77）

セーフティモード – 車両の移動

車両の始動を試行（p. 76）した後で ｾｰﾌﾃｨﾓｰﾄﾞ ﾏﾆｭｱﾙを参照して 下さい がリセットされ、Normal mode が表示された場合は、車両を危険な場所から注意しながら移動させることが可能です。

必要以上に移動させないでください。

関連情報

- セーフティモードについて（p. 75）

お子様の安全について

ボルボ車には、特定の車両専用に設計されたチャイルドセーフティ製品（チャイルドシート、ブースタークッションおよび取付アタッチメント）が装備されています。

ボルボのチャイルドセーフティ製品をご利用いただくことで、お子様のためにもっとも安全な車内環境を整えることができます。また、ボルボのチャイルドセーフティ製品は車両に確実に対応し、取り扱い方法も簡単です。

お子様は、年齢や体格に関わらず、必ず適切な固定装置を使用して正しく座らせてください。お子様を、けっして乗員のひざの上に座らせないでください。

小さいお子様（少なくとも 3～4 歳ごろまで）には、できるだけ後ろ向きに装着するチャイルドシートをご使用ください。その後、身長が 140 cm に達するまでは、前向きのブースタークッション/チャイルドシートをご利用ください。

ⓘ 注意

お子様の年齢および身長に応じて使用する必要のあるチャイルドシートのタイプを規定した法律は、国ごとに異なります。適用される法律や規則を確認してください。

注意

チャイルドセーフティ製品の取り付けに関してご不明な点は、その用具の製造元(メーカー)にお問い合わせください。

チャイルドロック

リアドアとリアドアの窓*は車内から開けるのを防ぐため、手動でロック(p. 227)するか、電子的にロック(p. 227)*することができます。

関連情報

- チャイルドシート - 位置 (p. 85)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 89)
- チャイルドシート - アッパーマウンティングポイント (p. 93)

* オプション/アクセサリー。

チャイルドシート

お子様が、快適で安全な姿勢になるように座らせてください。チャイルドシートの正しい使用を確認してください。

注意

チャイルドセーフティ用具をご使用になる場合は、付属の取付説明書をよくお読みください。

注意

絶対に、チャイルドシートを未固定のまま車内に放置しないでください。お子様が座らないときでも、必ずチャイルドシートの取扱説明書に従って固定してください。

警告

チャイルドシートのストラップは、シートの前後方向調節バー、スプリング、またはシート下のレールやビームに取り付けないでください。これらの部分には鋭い角があるため、ストラップが損傷するおそれがあります。

正しい取り付け方法に関しては、チャイルドシートの取付説明書をご覧ください。

推奨チャイルドシート[2]

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下			ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、ISOFIX フィクスチャーシステムで固定するチャイルドシート。 型式認定：E1 04301146 (L)	
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下	ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定：E1 04301146 (U)		ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定：E1 04301146 (U)	ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定：E1 04301146 (U)
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下	一般に承認されているチャイルドシート (U)		一般に承認されているチャイルドシート (U)	一般に承認されているチャイルドシート (U)

[2] この表に記載されていないチャイルドシートをご使用になる場合は、車両とチャイルドシートが適合するか、必ず確認してください。チャイルドシートの製造元(メーカー)が提供する適合車種一覧表に該当車種が掲載されている、あるいはチャイルドシートが欧州基準 ECE R44 に合格したものであることを確認してください。

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 1 9〜18 kg	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04192 (L)		ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04192 (L)	
グループ 1 9〜18 kg	ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定：E5 04212 (L)		ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定：E5 04212 (L)	
グループ 1 9〜18 kg		一般に承認されている前向きのチャイルドシート[A] (UF)	一般に承認されているチャイルドシート (U)	一般に承認されているチャイルドシート (U)

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2 15～25 kg	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04192 (L)		ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04192 (L)	
グループ 2 15～25 kg	ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定：E5 04212 (L)		ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定：E5 04212 (L)	
グループ 2 15～25 kg		ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04191 (U)	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04191 (U)	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定：E5 04191 (U)

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2/3 15〜36 kg		ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest)。 型式認定 : E1 04301169 (UF)	ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest)。 型式認定 : E1 04301169 (UF)	ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest)。 型式認定 : E1 04301169 (UF)
グループ 2/3 15〜36 kg		ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest)。 型式認定 : E5 04216 (UF)	ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest)。 型式認定 : E5 04216 (UF)	ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest)。 型式認定 : E5 04216 (UF)
グループ 2/3 15〜36 kg		ボルボ純正ブースタークッション 型式認定 : E1 04301312 (UF)	ボルボ純正ブースタークッション 型式認定 : E1 04301312 (UF、L)	ボルボ純正ブースタークッション 型式認定 : E1 04301312 (UF)

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2/3 15～36 kg			インテグレーテッドチャイルドシート (Integrated Child Seat) - メーカーオプション 型式認定：E5 04189 (B)	

L：特定のチャイルドシートに適しています。この種のチャイルドシートは、限定カテゴリーや特殊性の高いカテゴリーの特殊車種で使用することを意図している場合があります。

U：この体重等級で一般的に承認されているチャイルドシートに適しています。

UF：この体重等級で一般的に承認されている前向きのチャイルドシートに適しています。

B：この体重等級用に承認されているビルトインチャイルドシート。

A このグループのお子様向けには、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのご使用をお薦めします。

関連情報

- チャイルドシート - 位置 (p. 85)
- チャイルドシート - アッパーマウンティングポイント (p. 93)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 89)
- お子様の安全について (p. 77)

チャイルドシート – 位置

お子様が車内で座る位置やチャイルドシートの種類は、お子様の体重と身長により異なります。

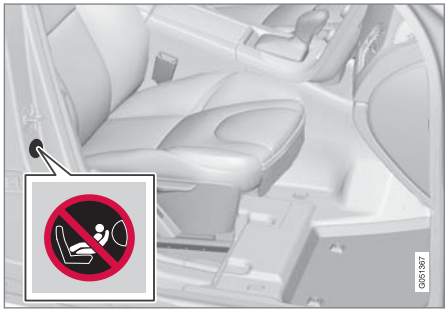
後ろ向き装着タイプのチャイルドシートとエアバッグを一緒に使用することはできません。

助手席側エアバッグがオン(作動可能状態)(p. 70)になっているときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシート(p. 79)は必ずリアシートに取り付けてください。お子様を助手席に座らせると、エアバッグ作動時に大ケガを負うおそれがあります。

助手席側エアバッグがオフ(非作動状態)になっているときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを助手席に取り付けることができます。

助手席側エアバッグラベル

助手席側サンバイザーのラベル



助手席側ドアピラーのラベル。ラベルは助手席側ドアを開くと見えます。

助手席側エアバッグの警告ラベルは、前図の位置に表示されています。

使用できる位置：

- 助手席側エアバッグがオフ(非作動状態)になっているときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを助手席に取り付けることができます。
- 助手席側エアバッグがオン(作動可能状態)になっているときは、前向き装着タイプのチャイルドシート/ブースタークッションを助手席に取り付けることができます。
- リアシートに 1 つ以上のチャイルドシート/ブースタークッション。

⚠ 警告

後ろ向きのチャイルドシートはエアバッグが作動可能状態のシート上で絶対使用しないでください。この指示を守らないと、お子様が死亡するまたは重傷を負う可能性があります。

⚠ 警告

助手席シートの前には、絶対に誰も立たせたり座らせたりしないでください。

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

助手席側エアバッグが無効になっている場合、絶対に乗員(お子様および大人)を前向きで助手席に座らせないでください。

この指示を守らないと、命を危険にさらす、または大ケガをするおそれがあります。

⚠ 警告

シートベルトバックルのリリースボタンに当たるようなタイプのスチール製ブレース付きブースタークッション/チャイルドシートなどは、絶対に使用しないでください。シートベルトバックルが、突然外れるおそれがあります。

チャイルドシート上部を、ウインドスクリーンに当てないでください。

ⓘ 注意

お子様を乗せる位置に関する規則は、国により異なります。適用される法律や規則を確認してください。

関連情報

- チャイルドシート (p. 79)
- お子様の安全について (p. 77)
- チャイルドシート - アッパーマウンティングポイント (p. 93)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 89)

チャイルドシート - インテグレーテッドチャイルドシート*

リアシートのインテグレーテッドチャイルドシートにより、お子様の快適さと安全を実現します。

チャイルドシートは、シートベルトと併用することによりお子様の安全を十分に確保できるように設計されています。シートクッションは、お子様の体重に合わせて 2 段階に調節できるようになっています。

このチャイルドシートは、体重が 15〜36 kg で身長が 95 cm 以上のお子様への使用が認められています。

正しい位置。シートベルトは必ず肩にかけてください。

* オプション/アクセサリー。

不適切な位置。シートベルトは肩よりも低い位置にかけないでください。

走行前に、次のことを確認してください:

- シートクッションがお子様の体重に適した位置に調節されていること
- シートクッションが所定位置でロックされていること
- シートベルトにねじれやゆるみがなく、シートベルトがお子様の体に確実に密着していること
- シートベルトがお子様の肩からずれたり、首にかかっていないこと(前図参照)
- 最大の保護効果を得るため、腰ベルトが骨盤の下の低い位置にかかっていること

シートクッションは高くする(p. 87)、または低くする(p. 89)ことにより、2 段階の高さに調節することができます。

⚠ 警告

インテグレーテッドチャイルドシートの修理または交換は、必ずボルボ指定のサービス工場に依頼してください。絶対に、ご自分でチャイルドシートの改造や修理をしないでください。衝突事故などによりインテグレーテッドチャイルドシートに大きな負荷が加わった場合、シートクッション、シートベルトおよびブラケット、またはシート全体を交換する必要があります。損傷が見当たらなくても、チャイルドシートの保護性能が低下しているおそれがあります。衝突などの際にシートクッションが低い位置にあった場合も同様です。シートクッションが著しく摩耗していたり、傷が付いている場合も、新品と交換してください。

⚠ 警告

インテグレーテッドチャイルドシートの取扱説明書に従わないと、事故の際にお子様が大ケガをするおそれがあります。

インテグレーテッドチャイルドシート* – シートクッションを上げる

インテグレーテッドチャイルドシート(p. 86)を使用するときには、シートクッションを引き上げる必要があります。

シートクッションは 2 段階に引き上げることができます。使用する位置はお子様の体重により異なります。

	ステージ 1	ステージ 2
体重	22〜36 kg	15〜25 kg

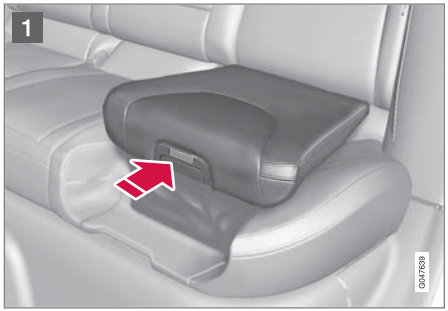
ステージ 1[3]

1 ハンドルを前方に引き上げて、シートクッションの固定を解除します。

2 シートクッションを後方に押して、定位置にロックします。

[3] 低いほうのステージ
[4] 高いほうのステージ

ステージ 2[4]



1 下段のレベルから始めます。ボタンを押します。

2 シートクッションの前端を持ち上げ、後方のバックレスト側に押し、定位置にロックします。

注意

シートクッションはステージ 2 からステージ 1 に調整することはできません。まずリアシートに完全に格納し(p. 89)てから、リセットする必要があります。

関連情報

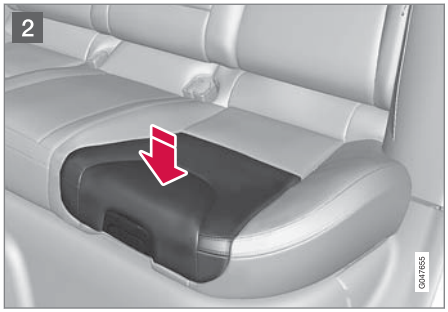
- インテグレーテッドチャイルドシート* – シートクッションを下げる (p. 89)

* オプション/アクセサリー。

インテグレーテッドチャイルドシート* – シートクッションを下げる

インテグレーテッドチャイルドシート(p. 86)を使用しないときには、シートクッションを下げてリアシートに収める必要があります。シートクッションはステージ 2 またはステージ 1 からもっとも低い位置に下げてリアシート内に収めることができます。ただし、ステージ 2 からステージ 1 に調節することはできません。

1 ハンドルを前方に引いて、シートクッションの固定を解除します。



2 シートクッションが定位置に収まるまで、クッションの中央を手で押し下げます。

重要

チャイルドシートのシートクッションを収納する前に、クッションの下に物(オモチャなど)が挟まっていないか確認してください。

注意

リアバックレストを倒す前に、まずチャイルドシートのシートクッションを下げる必要があります。

関連情報

- インテグレーテッドチャイルドシート* – シートクッションを上げる (p. 87)

チャイルドシート – ISOFIX

ISOFIX は国際標準規格に基づくチャイルドシート(p. 79)固定システムです。

左右リアシートのシートクッションとバックレストの間に、チャイルドシート用の ISOFIX 対応アタッチメントが工場装着されています。

アタッチメントの位置は、バックレストのトリムにシンボルで表示されています(前図参照)。

アタッチメントに手が届くように、シートクッションを押し下げます。

チャイルドシートを ISOFIX 対応アタッチメントに取り付けるときは、シートの製造元(メーカー)の取扱説明書に必ず従ってください。

関連情報

- ISOFIX – サイズ等級 (p. 90)
- ISOFIX – チャイルドシートの種類 (p. 91)
- お子様の安全について (p. 77)

ISOFIX – サイズ等級

ISOFIX (p. 89)対応のチャイルドシートにはサイズ等級があります。サイズ等級は、正しいタイプのチャイルドシート(p. 91)を選択するための参考にすることができます。

サイズ等級	説明
A	フルサイズ、前向きに装着するチャイルドシート
B	小型サイズ(タイプ 1)、前向きに装着するチャイルドシート
B1	小型サイズ(タイプ 2)、前向きに装着するチャイルドシート
C	フルサイズ、後ろ向きに装着するチャイルドシート
D	小型サイズ、後ろ向きに装着するチャイルドシート
E	後ろ向きに装着するベビーシート
F	横置きベビーシート(左側用)
G	横置きベビーシート(右側用)

⚠ 警告

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

ⓘ 注意

ISOFIX チャイルドシートにサイズ等級がない場合は、チャイルドシートの製造元(メーカー)が提供する適合車種一覧表に該当車種が掲載されていることが必要です。

ⓘ 注意

ボルボが推奨する ISOFIX チャイルドシートに関して、ボルボディーラーにお問い合わせください。

ISOFIX - チャイルドシートの種類

チャイルドシートにはさまざまなサイズがあり、車両の寸法も異なります。そのため、モデルにより取り付けることができないチャイルドシートがあります。

チャイルドシートのタイプ	体重	サイズ等級	ISOFIX アタッチメントによるチャイルドシートの取り付け	
			フロントシート	リアシート(ドア側)
横置きベビーシート	10 kg 以下	F	X	X
		G	X	X
後ろ向きに装着するベビーシート	10 kg 以下	E	X	OK (IL)
後ろ向きに装着するベビーシート	13 kg 以下	E	X	OK (IL)
		D	X	OK (IL)
		C	X	OK (IL)
後ろ向きに装着するチャイルドシート	9～18 kg	D	X	OK (IL)
		C	X	OK (IL)

チャイルドシートのタイプ	体重	サイズ等級	ISOFIX アタッチメントによるチャイルドシートの取り付け	
			フロントシート	リアシート(ドア側)
前向きに装着するチャイルドシート	9〜18 kg	B	X	OK[A] (IUF)
		B1	X	OK[A] (IUF)
		A	X	OK[A] (IUF)

X：この ISOFIX ポジションは、この体重等級やサイズ等級の ISOFIX チャイルドシートには適していません。

IL：特定の ISOFIX チャイルドシートに適しています。この種のチャイルドシートは、限定カテゴリーや特殊性の高いカテゴリーの特殊車種で使用することを意図している場合があります。

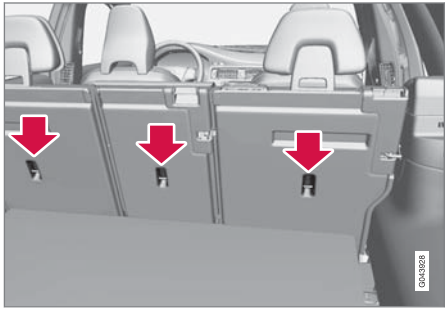
IUF：この体重等級用に一般的に承認されている前向きの ISOFIX チャイルドシートに適しています。

A ボルボ社は、このグループに後ろ向きに装着するチャイルドシートをお薦めします。

ISOFIX (p. 89)対応の適切なサイズ等級 (p. 90)のチャイルドシートを選択してください。

チャイルドシート – アッパーマウンティングポイント

車両には、前向きに装着する一部のチャイルドシート(p. 79)用のアッパーマウンティングポイントが装備されています。マウンティングポイントは、シートの裏側にあります。



アッパーマウンティングポイントは、前向きに装着するチャイルドシート用です。ボルボ社は、小さいお子様には、できるだけ後ろ向きに装着するチャイルドシートをご使用になることをお薦めします。

注意

ドア側シートに折りたたみ式ヘッドレストが装備されている場合には、このタイプのチャイルドシートが取り付けやすくなるように、ヘッドレストを折りたたんでください。

注意

カーゴスペースにラゲッジカバーが付いている車両は、マウンティングポイントにチャイルドシートを取り付ける前に、ラゲッジカバーを取り外してください。

アッパーマウンティングポイントにチャイルドシートを固定する方法については、シートの製造元(メーカー)の取扱説明書を参照してください。

警告

チャイルドシートのストラップは、必ずヘッドレスト脚部の穴を通してから、取り付け地点で張力を調節してください。

関連情報

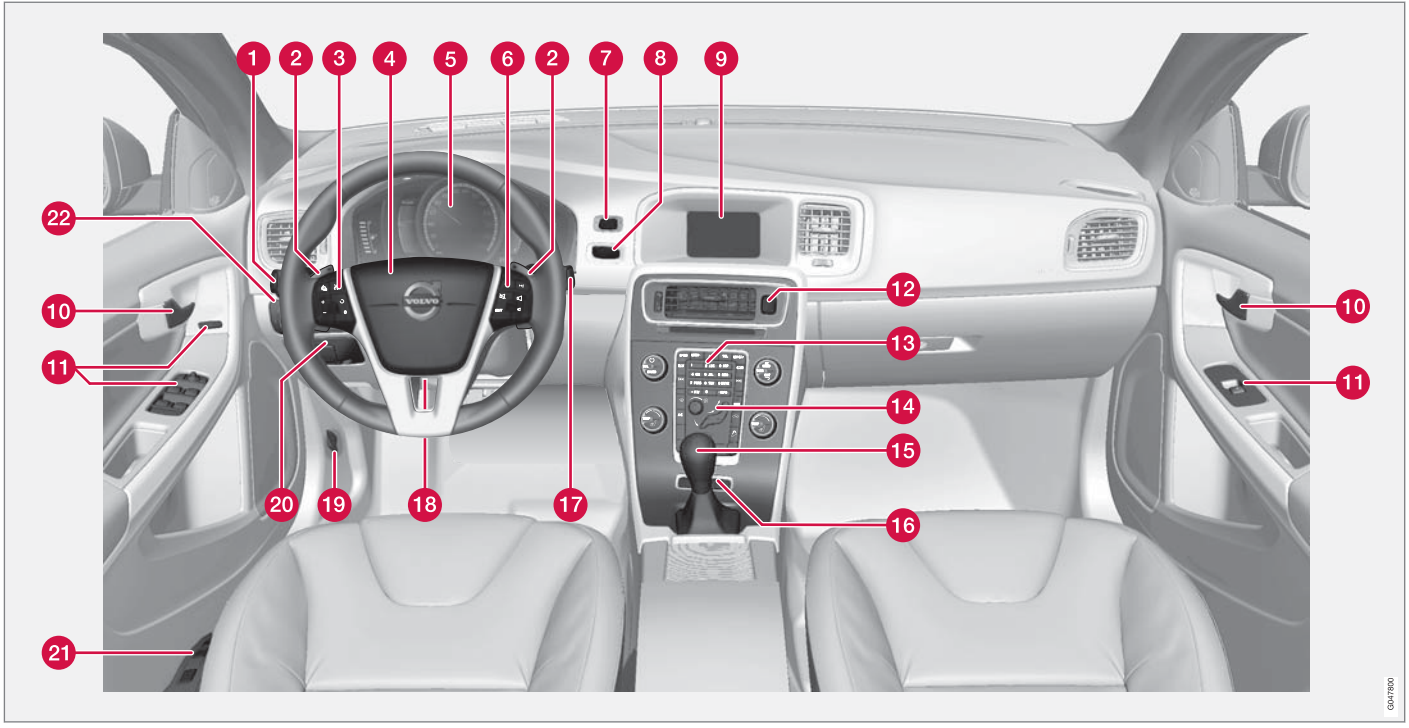
- お子様の安全について (p. 77)
- チャイルドシート – 位置 (p. 85)
- チャイルドシート – ISOFIX (p. 89)

計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置、左ハンドル車 – 概要

車両のディスプレイとコントロール装置の位置を示します。

左ハンドル車の各配置



	機能	参照
❶	メニューおよびメッセージ、方向指示器、ハイ/ロービーム、トリップコンピューター	(p. 151)、(p. 154)、(p. 138)、(p. 132) および(p. 156)。
❷	オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ*	(p. 332)。
❸	クルーズコントロール*	(p. 242) および(p. 249)。
❹	ホーン、エアバッグ	(p. 126) および(p. 67)。
❺	コンバインド・メーター・パネル	(p. 102)。
❻	メニューナビゲーション、オーディオコントロール、電話コントロール*	(p. 154)および付録「Sensus Infotainment」。
❼	START/STOP ENGINE ボタン	(p. 324)。

	機能	参照
❽	イグニッションスイッチ	(p. 119)。
❾	インフォテイメントシステムおよびメニュー表示画面	(p. 154)および付録「Sensus Infotainment」。
❿	ドアハンドル	–
⓫	コントロールパネル	(p. 222)、(p. 227)、(p. 144) および(p. 145)を参照してください。
⓬	非常点滅灯	(p. 138)。
⓭	インフォテイメントシステムおよびメニューナビゲーションのコントロールパネル	(p. 154)および付録「Sensus Infotainment」。
⓮	エアコンディショナー用コントロールパネル	(p. 174)。
⓯	ギヤセレクターレバー	(p. 331) または(p. 332)。

	機能	参照
⓰	–	–
⓱	ワイパー/ウォッシャー	(p. 141)。
⓲	ステアリングホイールの調節	(p. 126)。
⓳	ボンネットオープナー	(p. 407)。
⓴	パーキングブレーキ	(p. 352)。
㉑	シート調節*	(p. 122)。
㉒	ヘッドライトコントロール、燃料給油口フラップオープナー、テールゲートオープナー	(p. 128)、(p. 359) および(p. 224)。

関連情報

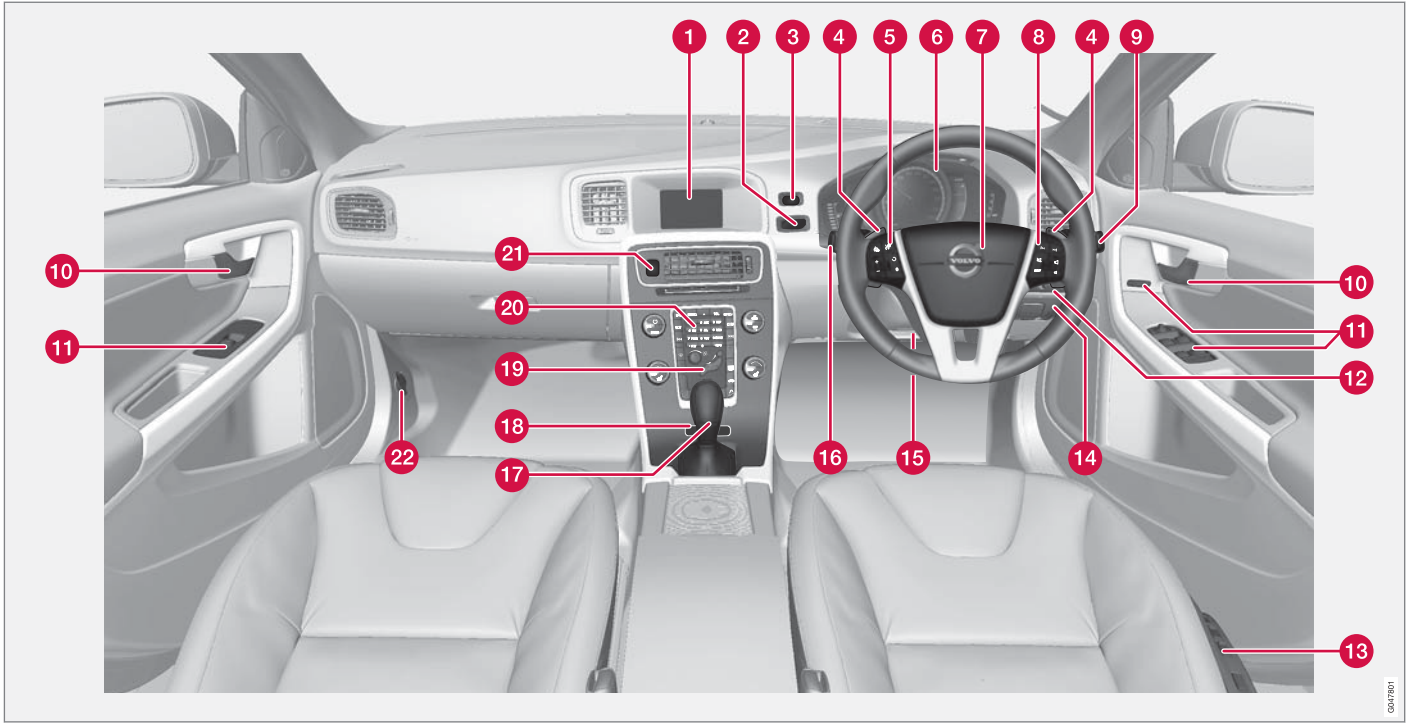
- 外気温計 (p. 112)
- トリップメーター(走行距離計) (p. 113)
- 時計 (p. 113)

* オプション/アクセサリー。

計器およびコントロール装置、右ハンドル車 – 概要

車両のディスプレイとコントロール装置の位置を示します。

右ハンドル車の各配置



	機能	参照
1	インフォテイメントシステムおよびメニュー表示画面	(p. 154)および付録「Sensus Infotainment」。
2	イグニッションスイッチ	(p. 119)。
3	START/STOP ENGINE ボタン	(p. 324)。
4	オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ*	(p. 332)。
5	クルーズコントロール*	(p. 242) および (p. 249)。
6	コンバインド・メーター・パネル	(p. 102)。
7	ホーン、エアバッグ	(p. 126) および (p. 67)。
8	メニューナビゲーション、オーディオコントロール、電話コントロール*	(p. 154)および付録「Sensus Infotainment」。

	機能	参照
9	ワイパー/ウォッシャー	(p. 141)。
10	ドアハンドル	–
11	コントロールパネル	(p. 222)、(p. 227)、(p. 144) および (p. 145)を参照してください。
12	ヘッドライトコントロール、燃料給油口フラップオープナー、テールゲートオープナー	(p. 128)、(p. 359) および (p. 224)。
13	シート調節*	(p. 122)。
14	パーキングブレーキ	(p. 352)。
15	ステアリングホイールの調節	(p. 126)。
16	メニューおよびメッセージ、方向指示器、ハイ/ロービーム、トリップコンピューター	(p. 151)、(p. 154)、(p. 138)、(p. 132) および (p. 156)。

	機能	参照
17	ギヤセレクターレバー	(p. 331) または (p. 332)。
18	–	–
19	エアコンディショナー用コントロールパネル	(p. 174)。
20	インフォテイメントシステムおよびメニューナビゲーションのコントロールパネル	(p. 154)および付録「Sensus Infotainment」。
21	非常点滅灯	(p. 138)。
22	ボンネットオープナー	(p. 407)。

関連情報

- 外気温計 (p. 112)
- トリップメーター(走行距離計) (p. 113)
- 時計 (p. 113)

コンバインド・メーター・パネル

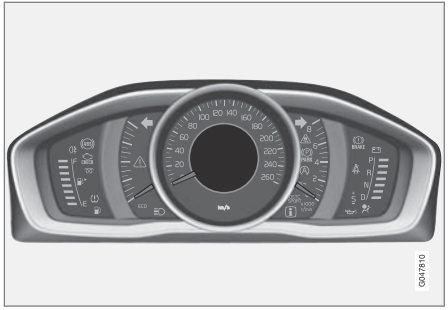
コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

- アナログ式コンバインド・メーター・パネル – 概要（p. 102）
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル – 概要（p. 103）
- コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味（p. 108）
- コンバインド・メーター・パネル – 警告灯の意味（p. 110）

アナログ式コンバインド・メーター・パネル – 概要

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

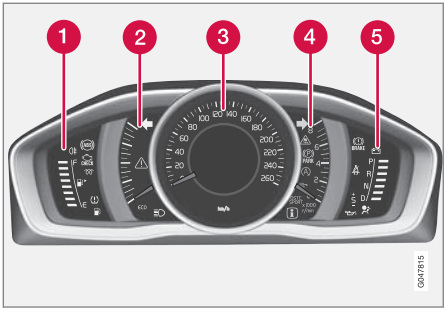
インフォメーション・ディスプレイ



インフォメーション・ディスプレイ、アナログ式メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、クルーズコントロール、トリップコンピューター、メッセージなど、車両の一部の機能に関する情報を表示します。これらの情報は、シンボルとテキストで表示されます。ディスプレイを使用する機能で詳しい説明があります。

計器およびインジケーター類



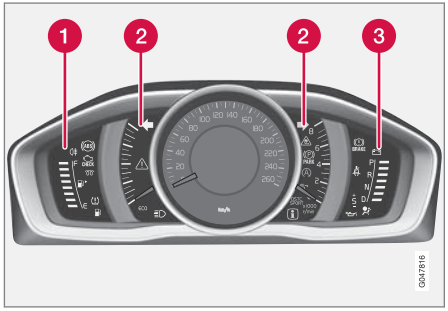
1. 燃料計。インジケーターが白のマーク[1] 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター（p. 156）および適切な給油方法（p. 360）も参照してください。
2. Eco Meter。この計器は、車両の経済走行がどの程度達成されているかを表示します。値が高ければ高いほど、経済走行が達成されていることを表します。
3. スピードメーター

[1] ディスプレイテキスト「**走行可能距離:**」が「――」を示し、マークが赤になります。

4 タコメーター(エンジン回転計)。1 分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。

5 ギヤシフトインジケーター[2] /ギヤポジションインジケーター[3]。ギヤシフトインジケーター*(p. 332)、またはオートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)*(p. 332)も参照してください。

インジケーターおよび警告灯



インジケーターおよび警告灯、アナログ式メーター・パネル

1 表示灯

2 インジケーターおよび警告灯

3 警告灯[4]

機能点検

インフォメーション・ディスプレイの中央にあるシンボルの他に、すべてのインジケーターおよび警告灯が、キー位置 II のとき、またはエンジンの始動時に点灯します。エンジン始動後、パーキングブレーキ作動表示灯以外はすべて消灯します。パーキングブレーキ作動表示灯は、パーキングブレーキを解除すると消灯します。

エンジンが始動しない場合、あるいは機能点検がキー位置 II で実施された場合には、エミッションシステム警告灯および油圧低下警告灯以外の警告灯はすべて数秒以内に消灯します。

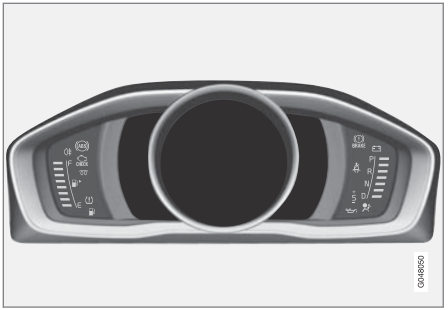
関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 102)
- コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味 (p. 108)
- コンバインド・メーター・パネル – 警告灯の意味 (p. 110)

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル – 概要

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

インフォメーション・ディスプレイ



インフォメーション・ディスプレイ、液晶デジタル式メーター・パネル*

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、クルーズコントロール、トリップコンピューター、メッセージなど、車両の一部の機能に関する情報を表示します。これらの情報は、シンボルとテキストで表示されます。ディスプレイを使用する機能で詳しい説明があります。

[2] マニュアルトランスミッション
[3] オートマチックトランスミッション
[4] エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル – 概要 (p. 409)を参照してください。

計器およびインジケーター類

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルではテーマの選択が可能です。選択可能なテーマは、「Elegance」、「Eco」、「Performance」です。

テーマはエンジン作動中にのみ選択することができます。

テーマを選択するには、左側レバースイッチの **OK** ボタンを押し、レバーのコントロールダイヤルを回して **テーマ** メニューオプションを選択します。**OK** ボタンを押します。コントロールダイヤルを回してテーマを選択し、**OK** ボタンを押して選択を確定します。

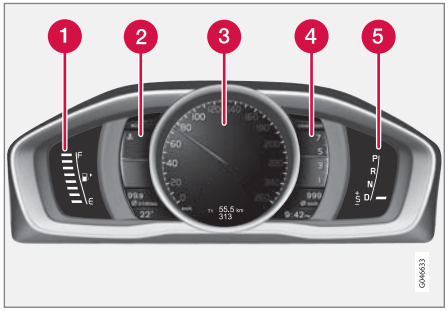
一部のモデルでは、センターコンソールの画面の外観はコンバインド・メーター・パネルのテーマ設定に応じて変わります。

左側レバースイッチを使用すると、インストルメントのコントラストモードおよびカラーモードを設定することもできます。

メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル (p. 151)を参照してください。

テーマの選択とコントラストモードおよびカラーモードの設定は、リモートコントロールキーごとにカーキーメモリー*に保存することができます。リモートコントロールキー – パーソナライズ* (p. 205)を参照してください。

テーマ「Elegance」

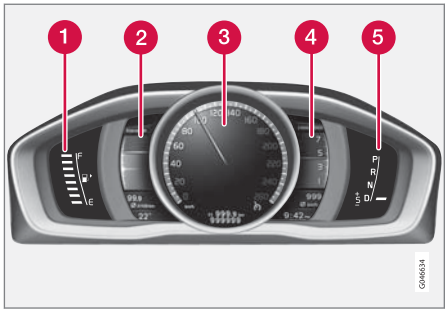


計器およびインジケーター類、テーマ「Elegance」

1. 燃料計。インジケーターが白のマーク[5] 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター (p. 156)および適切な給油方法 (p. 360)も参照してください。
2. エンジンクーラント水温計
3. スピードメーター
4. タコメーター(エンジン回転計)。1分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
5. ギヤシフトインジケーター[6] /ギヤポジションインジケーター[7]。ギヤシフトインジケーター* (p. 332)、またはオートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)も参照してください。

[5] ディスプレイテキスト「**走行可能距離:**」が「**——**」を示し、マークが赤になります。
[6] マニュアルトランスミッション
[7] オートマチックトランスミッション

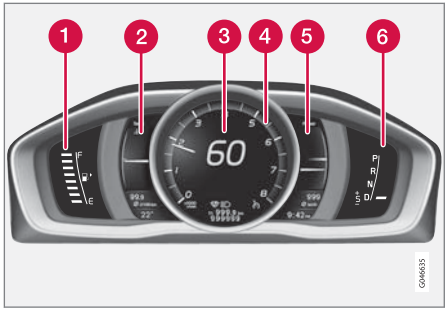
テーマ「Eco」



計器およびインジケーター類、テーマ「Eco」

1. 燃料計。インジケーターが白のマーク[5] 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター（p. 156）および適切な給油方法（p. 360）も参照してください。
2. Eco guide。Eco guide および Power guide*（p. 106）も参照してください。
3. スピードメーター
4. タコメーター（エンジン回転計）。1分あたりのエンジン回転数（rpm）を表示します。
5. ギヤシフトインジケーター[6] /ギヤポジションインジケーター[7]。ギヤシフトインジケーター*（p. 332）またはオートマチックトランスミッション - Geartronic（ギヤトロニック）*（p. 332）も参照してください。

テーマ「Performance」

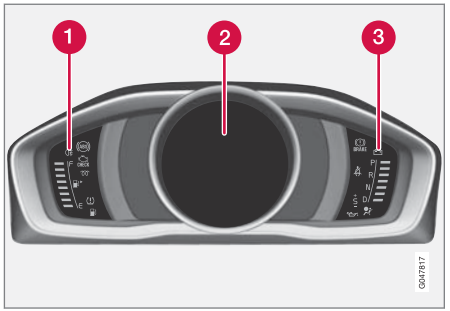


計器およびインジケーター類、テーマ「Performance」

1. 燃料計。インジケーターが白のマーク[5] 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター（p. 156）および適切な給油方法（p. 360）も参照してください。
2. エンジンクーラント水温計
3. スピードメーター
4. タコメーター（エンジン回転計）。1分あたりのエンジン回転数（rpm）を表示します。
5. Power guide。Eco guide および Power guide*（p. 106）も参照してください。
6. ギヤシフトインジケーター[6] /ギヤポジションインジケーター[7]。ギヤシフトインジケーター*（p. 332）またはオートマチックトランスミッション - Geartronic（ギヤトロニック）*（p. 332）も参照してください。

[5] ディスプレイテキスト「**走行可能距離:**」が「——」を示し、マークが赤になります。
[6] マニュアルトランスミッション
[7] オートマチックトランスミッション

インジケーターおよび警告灯



インジケーターおよび警告灯、液晶デジタル式メーター・パネル

1. 表示灯
2. インジケーターおよび警告灯
3. 警告灯 [8]

機能点検

インフォメーション・ディスプレイの中央にあるシンボルの他に、すべてのインジケーターおよび警告灯が、キー位置 II のとき、またはエンジンの始動時に点灯します。エンジン始動後、パーキングブレーキ作動表示灯以外はすべて消灯します。パーキングブレーキ作動表示灯は、パーキングブレーキを解除すると消灯します。

エンジンが始動しない場合、あるいは機能点検がキー位置 II で実施された場合には、エミッションシステム警告灯および油圧低下警告灯以外の警告灯はすべて数秒以内に消灯します。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル（p. 102）
- コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味（p. 108）
- コンバインド・メーター・パネル – 警告灯の意味（p. 110）

Eco guide および Power guide*

Eco guide および Power guide は、経済走行できるように運転者をサポートするコンバインド・メーター・パネル(p. 102)の 2 つの計器です。

車両にはその時点までの走行統計も保存されています。これはブロック図で確認することができます。トリップコンピューター – 走行統計*（p. 166)を参照してください。

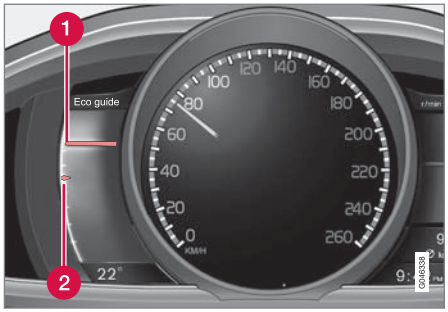
Eco guide

この計器は、車両の経済走行がどの程度達成されているかを表示します。

この機能を表示するには、「Eco」のテーマを選択します。液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル – 概要（p. 103)を参照してください。

[8] エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル – 概要（p. 409)を参照してください。

* オプション/アクセサリー。



1 瞬間値

2 平均値

瞬間値

瞬間値が表示されます。値が大きいほどよいことを表します。

瞬間値は車速、エンジン回転数、現在の出力値、フットブレーキの使用に基づいて計算されます。

最適速度(50–80 km/h (30–50 mph))と低エンジン回転数が推奨されます。ポインターは加速中および減速中に下がります。

瞬間値が非常に小さいと、(少し遅れてから)計器のレッドゾーンが点灯します。これは、経済走行ができていないことを意味するため、避ける必要があります。

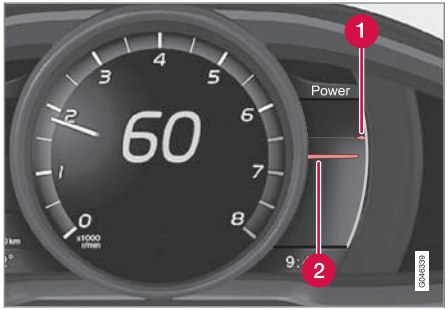
平均値

平均値は瞬間値にゆっくりと従い、車両の最新の走行状況を示します。ポインターが高い値を指している場合は、経済走行ができていることを示しています。

Power guide

この計器はエンジンからの出力の使用量(Power)と使用可能な出力の関係を示します。

この機能を表示するには、「Performance」のテーマを選択します。液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル – 概要 (p. 103)を参照してください。



1 最高出力値

2 現在の出力値

最高出力値

小さい上側のポインターは最高出力値[9]を示します。この値が高ければ高いほど、現在のギヤで使用できる出力量が多いことを示しています。

現在の出力値

大きな下側のポインターは現在の出力値[9]を示しています。この値が高ければ高いほど、エンジン出力を多く使用していることを示しています。

これら2つのポインターの差が大きいほど、予備の出力量がたくさん残っていることを示します。

[9] 出力はエンジン回転数に応じて変化します。

コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味

表示灯は、機能の作動、システムの作動、異常や故障の発生を運転者に知らせます。

表示灯

シンボル	意味
	ABL 不具合
	エミッションシステム
	ABS 不具合
	リアフォグランプオン
	スタビリティ・システム、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 概要 (p. 234)を参照してください。
	スタビリティ・システム、スポーツモード、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 操作 (p. 235)を参照してください。
	エンジンプレヒーター(ディーゼル)
	燃料残量低下

シンボル	意味
	インフォメーション(ディスプレイテキストを参照してください)
	ハイビーム作動
	方向指示インジケーター(左)
	方向指示インジケーター(右)
	Eco 機能オン、ECO ドライブモード* (p. 347)を参照してください。
	Start/Stop、エンジンがオートストップしました。Start/Stop* – 機能と操作 (p. 340)を参照してください。
	タイヤ・プレッシャー・システム、タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 391)を参照してください。

ABL 不具合
ABL 機能(アクティブベンディングランプ)に不具合が発生すると、このマークが点灯します。

エミッションシステム
エンジン始動後にこの警告灯が点灯した場合、車両のエミッションシステムに不具合が発生したおそれがあります。サービス工場まで走行し、点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

ABS 不具合
この警告灯が点灯した場合は、システムが機能していません。この状態でもブレーキシステムは通常通り作動しますが、ABS 機能は働きません。

1. 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。
2. エンジンを再始動してください。
3. 警告灯が点灯し続ける場合は、最寄りのボルボ指定のサービス工場まで走行し ABS システムの点検を受けてください。

リアフォグランプオン
リアフォグランプがオンのときに点灯します。

スタビリティ・システム
スタビリティ・システムが作動すると、点滅します。点灯し続ける場合は、システムに不具合があります。

* オプション/アクセサリー。

スタビリティ・システム、スポーツモード
スポーツモードがオンのときには、シンボルが点灯します。スポーツモードを選択すると、よりアクティブな運転が可能になります。システムがアクセルペダルやステアリングホイールの動き、さらにコーナリングをモニターし、通常よりもアクティブに運転しているとシステムが判断すると、一定範囲内で後輪の意図的なスリップを許容します。スリップが一定レベルを超えると、システムが介入し、車両を安定させます。

エンジンプレヒーター(ディーゼル)
エンジンプレヒーター作動中に点灯します。予熱は多くの場合低温時に実施されます。

燃料残量低下
燃料の残量が少なくなると点灯します。すみやかに給油してください。

インフォメーション(ディスプレイテキストを参照してください)
車両のシステムに不具合が発生するとインフォメーションシンボルが点灯し、インフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。ディスプレイテキストは、OK ボタンを押すと消えます(メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル (p. 151)参照)。または、しばらくするとディスプレイテキストは自動的に消えます。(ディスプレイテキストが消えるまでの時間はその機能によって異なります。)インフォメーションシンボルは、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

> **注意**
> サービスメッセージが表示されたとき、OK ボタンを押すとシンボルおよびメッセージを消去できます。または一定時間が経過すると自動的に消えます。

ハイビーム作動
このシンボルは、ハイビーム使用時またはパッシングライト位置で点灯します。

左/右方向指示器
非常点滅灯を使用すると、方向指示器のシンボルが両方とも点滅します。

Eco 機能オン
このシンボルは、Eco 機能がオンのときに点灯します。

Start/Stop
エンジンがオートストップすると、このシンボルが点灯します。

タイヤ空気圧システム
タイヤ空気圧が低下するか、タイヤ空気圧システムに不具合が発生すると、このシンボルが点灯します。

リマインダー(半ドア警告)
正常に閉まっていないドアがあるとインフォメーションシンボルまたは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにそれがイメージで表示されます。ただちに安全な場所に停車して、開いているドアを閉めてください。

車速が約 7 km/h (約 4 mph)以下のときは、インフォメーションシンボルが点灯します。

車速が約 7 km/h (約 4 mph)を超えると、警告灯が点灯します。

ボンネット[10] が正常に閉まっていないときは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにそれがイメージで表示されます。ただちに安全な場所に停車して、ボンネットを閉めてください。

テールゲートが正常に閉まっていないときは、インフォメーション・ディスプレイにインフォメーションシンボルが点灯し、同時にイメージが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、テールゲートを閉めてください。

関連情報
- コンバインド・メーター・パネル (p. 102)
- コンバインド・メーター・パネル – 警告灯の意味 (p. 110)

[10] アラーム* 装着車両のみ。

- アナログ式コンバインド・メーター・パネル – 概要（p. 102）
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル – 概要（p. 103）

コンバインド・メーター・パネル – 警告灯の意味

警告灯は、重要な機能の作動や、重大な異常や故障の発生を運転者に知らせます。

警告灯

シンボル	意味
	油圧低下 [A]
	パーキングブレーキ作動(液晶デジタル式メーター・パネル)
	パーキングブレーキ作動(アナログ式メーター・パネル)
	エアバッグ – SRS
	シートベルトリマインダー
	充電不良
	ブレーキシステムの不具合
	警告

[A] エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル – 概要（p. 409）を参照してください。

油圧低下

この警告灯が走行中に点灯した場合は、エンジンオイルの油圧が低下しています。ただちにエンジンを停止して、エンジンオイルのレベルを点検し、必要に応じて補充してください。オイルレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯する場合は、サービス工場にご連絡ください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

パーキングブレーキ作動

パーキングブレーキがかかっているときに、表示灯が点灯します。表示灯は、パーキングブレーキを作動させると点滅した後、点灯します。

その他の状況でシンボルが点灯した場合は、不具合があることを示しています。インフォメーション・ディスプレイのテキストを読んでください。

詳しくは、パーキングブレーキ（p. 352）を参照してください。

エアバッグ – SRS

警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯した場合は、車両のセーフティシステムのいずれかに不具合が検出されたことを表しています。すみやかにサービス工場まで走行し、点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

シートベルトリマインダー
この警告灯は、運転席/助手席の乗員がシートベルトを着用していないとき、またはリアシートの乗員がシートベルトを外したときに点滅します。

充電不良
走行中に電気系統に不具合が発生すると点灯します。サービス工場にご連絡ください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

ブレーキシステムの不具合
この警告灯が点灯したときは、ブレーキフルード量が規定量以下に減っているおそれがあります。安全な場所に停車して、リザーバータンクのブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 415)を参照してください。

ブレーキと ABS の警告灯が両方同時に点灯した場合は、制動力(ブレーキ力)分配システムに不具合が発生しているおそれがあります。

1. 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。
2. エンジンを再始動してください。
   - 両方の警告灯が消灯した場合は、走行を続けられます。
   - 警告灯が消灯しない場合は、リザーバータンクのブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 415)を参照してください。ブレーキフルードレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯したままの場合は、最寄りのサービス工場まで慎重に走行し、ブレーキシステムの点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

⚠ 警告

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。

サービス工場でブレーキフルードが減った原因を点検してもらってください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

ブレーキシステムと ABS の警告灯が両方同時に点灯しているときは、急ブレーキをかけた際に車体後部が横滑りするおそれがありますので、ご注意ください。

警告
車両の安全性または操縦安定性に関わるような不具合が発生すると、赤色の警告灯が点灯します。同時に、インフォメーション・ディスプレイにテキストが表示されます。異常が修正されるまで警告灯は点灯を続けますが、ディスプレイテキストは **OK** で消去することができます。メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 151)を参照してください。警告灯は、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

対処：

1. 安全な場所に停車してください。停車後は、走行しないでください。
2. インフォメーション・ディスプレイの表示を読んでください。ディスプレイテキストに従って処置を行います。**OK** ボタンを使用して、メッセージを消去します。

リマインダー(半ドア警告)

正常に閉まっていないドアがあるとインフォメーションシンボルまたは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにそれがイメージで表示されます。ただちに安全な場所に停車して、開いているドアを閉めてください。

車速が約 7 km/h (約 4 mph)以下のときは、インフォメーションシンボルが点灯します。

車速が約 7 km/h (約 4 mph)を超えると、警告灯が点灯します。

ボンネット[11] が正常に閉まっていないときは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにそれがイメージで表示されます。ただちに安全な場所に停車して、ボンネットを閉めてください。

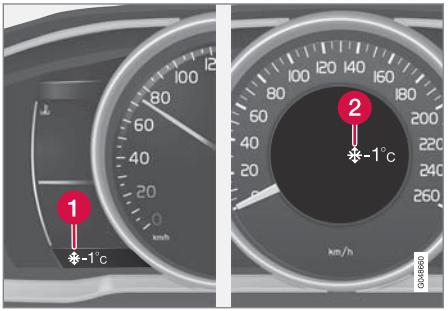
テールゲートが正常に閉まっていないときは、インフォメーション・ディスプレイにインフォメーションシンボルが点灯し、同時にイメージが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、テールゲートを閉めてください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 102)
- コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味 (p. 108)
- アナログ式コンバインド・メーター・パネル – 概要 (p. 102)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル – 概要 (p. 103)

外気温計

外気温計のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



1. 外気温計のディスプレイ、液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル
2. 外気温計のディスプレイ、アナログ式メーター・パネル

外気温が+2 ℃～−5 ℃のときは、低温警告のため雪の結晶マークが表示され、路面が凍結してスリップする危険があることを警告します。これにより、凍った路面に関する警告が得られます。車両が停止している場合、温度計は高すぎる値を示すことがあります。

関連情報

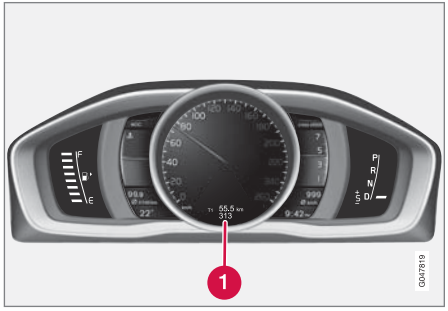
- コンバインド・メーター・パネル (p. 102)

11 アラーム* 装着車両のみ。

* オプション/アクセサリー。

トリップメーター(走行距離計)

トリップメーター(走行距離計)のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



トリップメーター(走行距離計)、液晶デジタル式メーター・パネル

1 トリップメーター(走行距離計)[12] のディスプレイ

短距離の測定には、**T1** および **T2** の双方のトリップメーターが使用されます。ディスプレイに距離が表示されます。

左側レバースイッチのコントロールダイヤルを回して、希望するトリップメーターを表示させます。

左側レバースイッチの **RESET** ボタンを(切り替わるまで)長押しすると、表示されたトリップメーターがリセットされます。詳しくは、トリップコンピューター (p. 156)を参照してください。

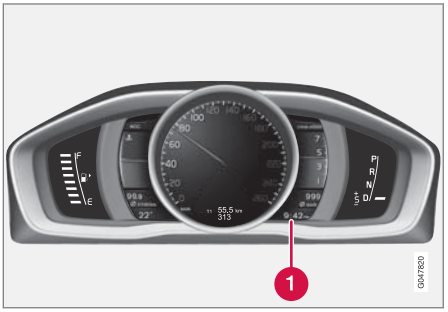
関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 102)

[12] 外観はメーターのタイプによって異なります。

時計

時計のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



クロック、液晶デジタル式メーター・パネル

1 ディスプレイの時刻表示[13]

時計の設定

時計は、メニューシステム MY CAR で調節できます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 102)

コンバインド・メーター・パネル – ライセンス契約

ライセンスとは、特定のアクティビティを操作する権利、または他人の権利を契約条件に基づいて使用する権利の許諾契約です。以下はボルボ社と製造元/開発元との使用許諾契約で、英語で記載されています。

Combined Instrument Panel Software
Open Source Software Notice

This product uses certain free / open source and other software originating from third parties, that is subject to the GNU Lesser General Public License version 2 (LGPLv2), The FreeType Project License ("FreeType License") and other different and/or additional copy right licenses, disclaimers and notices. The links to access the exact terms of LGPLv2, and the other open source software licenses, disclaimers, acknowledgements and notices are provided to you below. Please refer to the exact terms of the relevant License, regarding your rights under said licenses. Volvo Car Corporation (VCC) offers to provide the source code of said free/open source software to you for a charge covering the cost of performing such distribution, such as the cost of media, shipping and handling, upon written request. Please contact your nearest Volvo Dealer.

The offer is valid for a period of at least three (3) years from the date of the distribution of this product by VCC / or for as long as VCC offers spare parts or customer support.

Portions of this product uses software copyrighted © 2007 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Portions of this product uses software with Copyright © 1994-2013 Lua.org, PUC-Rio (http://www.lua.org/)

This product includes software under following licenses:

LGPL v2.1: http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html

- GNU FriBidi
- DevIL

The FreeType Project License: http://git.savannah.gnu.org/cgit/freetype/freetype2.git/tree/docs/FTL.TXT

- FreeType 2

MIT License: http://opensource.org/licenses/mit-license.html

- Lua

13 時刻がアナログ式メーター・パネルの中央に表示されます。

ディスプレイのシンボル

車両のディスプレイには、さまざまなシンボルが表示されます。これらのシンボルは、警告灯、表示灯、インフォメーションシンボルに分類されます。

以下に列挙されているのはもっとも一般的なシンボルで、その意味と、マニュアル内の詳細情報の記載場所に関する情報が表示されています。

– 車両の安全性や操縦安定性に関わるような不具合が発生すると、赤色の警告灯が点灯します。同時に、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに説明のテキストが表示されます。

– インフォメーションシンボル。車両のシステムになんらかの不具合が発生すると点灯し、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにテキストが表示されます。インフォメーションシンボルは、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

コンバインド・メーター・パネルの警告灯

シンボル	意味	参照
	油圧低下	(p. 110)
	パーキングブレーキ作動	(p. 110)、(p. 352)
	パーキングブレーキ、代替シンボル	(p. 110)
	エアバッグ - SRS	(p. 66)、(p. 110)
	シートベルトリマインダー	(p. 62)、(p. 110)
	充電不良	(p. 110)
	ブレーキシステムの不具合	(p. 110)、(p. 349)
	警告、セーフティモード	(p. 66)、(p. 75)、(p. 110)

コンバインド・メーター・パネルのコントロールシンボル

シンボル	意味	参照
	ABL 不具合*	(p. 108)、(p. 135)
	エミッションシステム	(p. 108)
	ABS 不具合	(p. 108)、(p. 349)
	リアフォグランプオン	(p. 108)、(p. 137)
	スタビリティ・システム、ESC（エレクトロニック・スタビリティ・コントロール）、トレーラー・スタビリティ・アシスト	(p. 108)、(p. 237)、(p. 373)
	スタビリティ・システム、スポーツモード	(p. 108)、(p. 237)
	エンジンプレヒーター(ディーゼル)	(p. 108)
	燃料残量低下	(p. 108)、(p. 187)
	インフォメーション(ディスプレイテキストを参照してください)	(p. 108)
	ハイビーム作動	(p. 108)、(p. 132)
	方向指示インジケーター(左)	(p. 108)

▶▶

シンボル	意味	参照
	方向指示インジケーター(右)	(p. 108)
	Start/Stop*、エンジンオートストップ	(p. 108)、(p. 345)
	ECO 機能*オン	(p. 108)、(p. 347)
	タイヤ空気圧システム*	(p. 108)、(p. 391)

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーションシンボル

シンボル	意味	参照
	クルーズコントロール*	(p. 242)
	アダプティブクルーズコントロール*	(p. 261)
	アダプティブクルーズコントロール*、車間時間	(p. 249)、(p. 252)

シンボル	意味	参照
	アダプティブクルーズコントロール*、車間警告機能*(車間警報システム)	(p. 254)、(p. 245)
	レーダーセンサー*	(p. 261)、(p. 248)、(p. 285)
	速度リミッター	(p. 239)
	ウインドスクリーンセンサー*、カメラセンサー*、レーザーセンサー*	(p. 133)、(p. 275)、(p. 285)、(p. 298)、(p. 302)、(p. 307)
	オートブレーキ*、車間警告機能*(車間警報システム)、City Safety™、衝突警告システム*	(p. 248)、(p. 275)、(p. 285)
	ABL システム*	(p. 135)

シンボル	意味	参照
	ドライバー・アラート・システム*、休憩してください。	(p. 297)
	ドライバー・アラート・システム*、休憩してください。	(p. 298)
	パーキングブレーキ	(p. 352)
	レインセンサー*	(p. 141)
	アクティブハイビーム、AHB (Active High Beam)*	(p. 133)
	Start/Stop*	(p. 345)
	Start/Stop*	(p. 345)

シンボル	意味	参照
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW)、レーン・キーピング・エイド(LKA)	(p. 298)、(p. 302)、(p. 307)
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・デパーチャー・ウォーニング*	(p. 301)
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・デパーチャー・ウォーニング*	(p. 302)、(p. 307)
	感知された速度情報*	(p. 293)
	エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*	(p. 187)

シンボル	意味	参照
	エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* サービスが必要です。	(p. 187)
	起動済みタイマー*	(p. 187)
	起動済みタイマー*	(p. 187)
	バッテリー電圧低下	(p. 187)
	燃料給油口フラップ、右側	(p. 359)
	ギヤシフトインジケーター	(p. 332)
	ギヤポジション	(p. 332)

シンボル	意味	参照
	オイルレベルの測定	(p. 410)
	パークアシスト・パイロット – PAP*	(p. 316)

ルーフコンソールディスプレイのインフォメーションシンボル

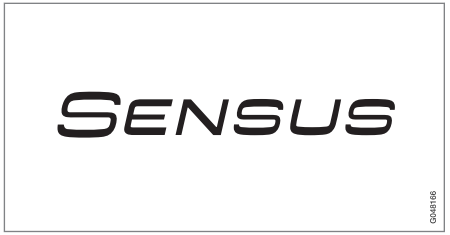
シンボル	意味	参照
	シートベルトリマインダー	(p. 65)
	エアバッグ、助手席、作動可能状態	(p. 70)
	エアバッグ、助手席、非作動状態	(p. 70)

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味 (p. 108)
- コンバインド・メーター・パネル – 警告灯の意味 (p. 110)
- メッセージ – 取り扱い (p. 154)

ボルボ・センサス

ボルボ・センサスは、ボルボ体験の中心をなすシステムで、お客様を車両および外部の世界とつなぐ役割を果たします。センサスは、必要なときに情報、エンターテイメントおよび支援の提供をします。センサスは、車での移動をさらに魅力的にする直感的な機能で構成されており、車両の所有に伴う面倒を減らします。



直感的なナビゲーション構成により、必要なときに、運転の邪魔をすることなく、適切なサポート、情報およびエンターテイメントを提供することができます。

センサスは、外部とのつながりを実現する*、あらゆるソリューションに対応するとともに、車両のすべての機能を直感的に操作するシステムです。

ボルボ・センサスは、車両システムのさまざまな機能を組み合わせて、センターコンソールの画面に表示します。ボルボ・センサスがあれば、直観的なインターフェースにより、車両をパーソナライズすることができます。車両設定、オーディオ・メディア、エアコンディショナーなどの設定が可能です。

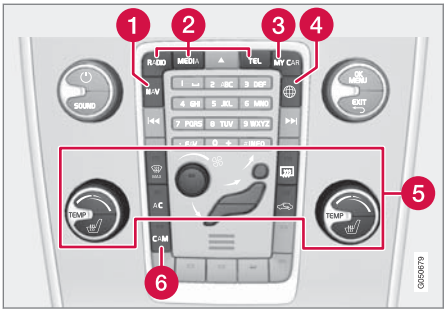
センターコンソールのボタンやコントロールスイッチ、またはステアリングホイール右側のステアリングリモコンを使用すると、機能を起動または解除し、さまざまな設定を行うことができます。

MY CAR を押すと、City Safety、ロックおよびアラーム、自動ファン速度、時計の設定など、走行や車両の操作に関するすべての設定が表示されます。

RADIO、**MEDIA**、**TEL**、🌐*、**NAV*** および **CAM**[14] など、関連のボタンを押すと、AM、FM、CD、DVD、TV*、Bluetooth®、ナビゲーション*、パークアシスト・カメラ*など、他のソースやシステム、機能が起動できます。

すべての機能/システムの詳細については、オーナーズマニュアルまたはその追補版の該当セクションを参照してください。

概要



センターコンソール内のコントロールパネル図には略図が使用されています。選択した装備や市場により、機能の数やボタンの配置が異なります。

1. ナビゲーション* – **NAV**
2. オーディオ・メディア – **RADIO**、**MEDIA**、**TEL**、別冊付録「Sensus Infotainment」を参照してください。
3. 機能設定 – **MY CAR**、MY CAR (p. 154)を参照してください。
4. オンライン車両 – 🌐 *
5. エアコンディショナーシステム(p. 168)
6. パークアシスト・カメラ* (p. 312) – **CAM***

14 一部の車両モデルに適用されます。

キー位置

リモートコントロールキーは、 車両の電気系統を各モード/レベルに設定し、各種機能を使用できるようにします。キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119)を参照してください。

リモートコントロールキーを抜いた/差し込んだ状態のイグニッションスイッチ

ⓘ 注意

キーレススタートおよびロックシステム*装備の車両では、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入する必要はなく、ポケットなどに入れておくことができます。キーレススタートおよびロックシステムについては、 キーレスドライブ* (p. 216)を参照してください。

リモートコントロールキーの差し込み

1. リモートコントロールキーの端(脱着式キーブレードが付いた側)を持ち、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに入れます。
2. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチの奥まで押し込みます。

Ⓘ 重要

イグニッションスイッチに異物を入れないでください。ロックが破損し、機能が正常に作動しなくなります。

リモートコントロールキーを不適切な向きで押し込まないでください。脱着式キーブレードが付いた側を持つようにしてください。脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け (p. 212)を参照してください。

リモートコントロールキーの抜き取り

リモートコントロールキーをイグニッションスイッチから引き出します。

キー位置 – 各レベルでの機能

エンジンが停止している間もいくつかの機能が利用できるように、車両の電気系統はリモートコントロールキーにより 3 つのレベル、0、I および II に設定できます。このオーナーズマニュアルではこれらのレベルを「キー位置」として表現しています。

次の表は、各キー位置/レベルで利用できる機能を示しています。

▶▶

レベル	機能
0	• オドメーター(積算距離計)、時計、水温計が点灯します。 • パワーシートが調節できます。 • 限られた時間であれば、オーディオシステムが利用できます。
I	• サンルーフ、パワーウインド、車内の 12V 電源ソケット、ナビゲーション、電話、ベンチレーションファンおよびウインドスクリーンワイパーが使用できます。
II	• ヘッドライトを点灯させることができます。 • 表示灯/警告灯が 5 秒間点灯します。 • 他にもいくつかのシステムが作動可能状態です。しかし、シートヒーターおよびリアウインドのデフロスターはエンジン始動後にしか起動できません。 **このキー位置では、バッテリーから大量の電流を消費するため、使用をひかえてください。**

15 キーレス始動およびロックシステム*装備車の場合は不要。
16 約 2 秒間

キー位置/レベルの選択

- **キー位置 0** – 車両のロックを解除します。車両の電気系統はレベル **0** です。

> **注意**
> エンジンを始動**せずに I** または **II** にアクセスするには、これらのキー位置を選択する際にブレーキ/クラッチペダルを**踏み込まないで**ください。

- **キー位置 I** – リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ[15] の奥まで差し込まれている状態で、**START/STOP ENGINE** を軽く押します。
- **キー位置 II** – リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ[15] の奥まで差し込まれている状態で、**START/STOP ENGINE** を長押し[16] します。
- **キー位置 0 へ戻す** – キー位置 **0** へ **II** および **I** から戻すには、**START/STOP ENGINE** を軽く押します。

エンジンの始動と停止

エンジンの始動/停止については、エンジンの始動 (p. 324)を参照してください。

けん引

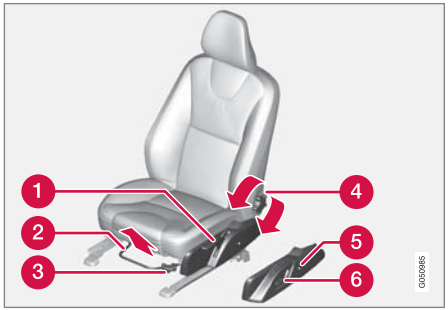
けん引中のリモートコントロールキーに関する重要な情報があります。 けん引 (p. 374)を参照してください。

関連情報

- キー位置 (p. 119)

シート、フロント

車両のフロントシートには、最適な座り心地を提供するためにさまざまな設定オプションがあります。

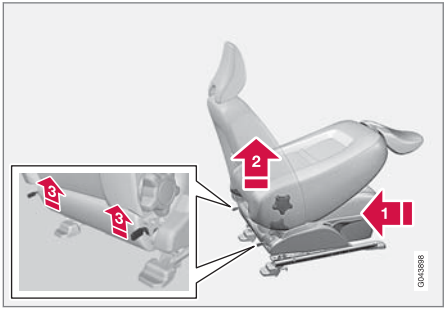


1. シートの高さ調節：上げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し引き上げます。下げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し押し下げます。
2. 前後の調節：レバーハンドルを持ち上げて、ステアリングホイールおよびペダルからの位置を調節します。調節後は、シートが確実に固定されているか確認してください。
3. シートクッション前端の高さ調節*：上げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し引き上げます。下げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し押し下げます。
4. バックレストの傾き：ダイヤルを回して、傾きの角度を調節します。
5. ランバーサポート*を変更し、ボタンを押します。
6. パワーシート用コントロールパネル*、シート、フロント – 電動* (p. 122)を参照してください。

⚠ 警告

運転席シートの調節は、必ず走行前に行ってください。走行中は絶対に調節しないでください。急ブレーキや事故の際に、ケガをすることがないように、シートが確実に固定されていることを確認してください。

助手席のバックレストを倒す*[17]



長尺物を載せる場合など、助手席のバックレストを前方に倒すことができます。

1. シートを一番後方の、一番低い位置にします。
2. バックレストを立てた位置にします。
3. バックレストの後部下側にあるキャッチを持ち上げて、バックレストを前方に倒します。
4. シートを前方に押し、ヘッドレストがグローブボックス下に「固定」されるようにします。

起こす場合は、逆の手順で行ってください。

17 コンフォートシートのみに適用されます。

⚠ 警告

バックレストを起こした後は、急ブレーキや事故の際にケガをすることがないように、バックレストをつかみ、バックレストが確実に固定されていることを確認してください。

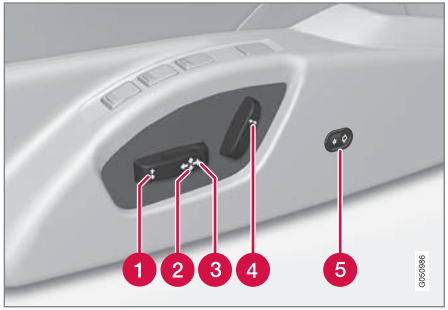
関連情報

- シート、フロント – 電動* (p. 122)
- シート、リア (p. 124)

シート、フロント – 電動*

車両のフロントシートには、最適な座り心地を提供するためにさまざまな設定オプションがあります。パワーシートは前後上下に動かすことができます。シートクッションの前端部は上下に動かすことができます。バックレストの角度とランバーサポート*は変更することができます。

パワーシート



1. シートクッション前端の高さ調節
2. シートの上下調節
3. シートの前後の位置調節
4. バックレストの傾き
5. ランバーサポート*が内側および外側方向に調節されます。

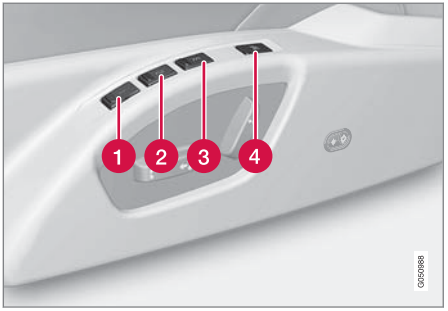
パワーシートの動きが妨げられると、オーバーロードプロテクションが作動します。オーバーロードプロテクションが作動した場合、車両の電気系統をキー位置 **I** または **0** にして、しばらく待ってから再度シートの調節を行ってください。

一度に 1 つのシート設定(前/後/上/下/内方向/外方向)のみ、調節することができます。

準備

シートは、ドアをリモートコントロールキーでロック解除した後、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込んでいない状態でも、一定時間内は調節することができます。通常、シートの調節はキー位置が **I** のときに行います。エンジン作動中はいつでも調節することができます。

メモリー機能付シート*



* オプション/アクセサリー。

メモリー機能は、シートおよびドアミラーの設定を保存します。

設定を保存する

1 メモリーボタン

2 メモリーボタン

3 メモリーボタン

4 設定保存ボタン

1. シートおよびドアミラーの位置を調節します。
2. **M** を押しながら、ボタン **1**、**2** または **3** を押します。作動音が鳴り、コンバインド・メーター・パネルにテキストが表示されるまでボタンを押したままにします。

新しいメモリーを設定するには、シートを再調節する必要があります。

ランバーサポートの設定は保存されません。

メモリー位置に移動する

シートとドアミラーが停止するまで、メモリーボタン **1** – **3** のいずれかを押します。途中でボタンから指を放すと、シートおよびドアミラーの動きは中断します。

リモートコントロールキーのキーメモリー*

全リモートコントロールキーとも、異なる運転者によって使用でき、各運転者用のシートとドアミラー[18] の設定を記憶させることができます。リモートコントロールキー – パーソナライズ*（p. 205）を参照してください。

非常停止

シートが不意に動き出した場合は、シート用設定ボタンまたはメモリーボタンいずれか 1 つを押すと停止します。

停止後、リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すと、シートはキーメモリーに記憶されている位置まで再び移動します。運転席ドアを、必ず開けておかなければなりません。

⚠ 警告

挟まれるおそれがあります。お子様にシートの操作をさせないでください。シートの調節は、シートの前後や下になにも物がない状態で行ってください。リアシートの乗員が挟まれないように注意してください。

シートヒーター

シートヒーターについては、フロントシートヒーター*（p. 175）およびリアシートヒーター*（p. 176）を参照してください。

関連情報

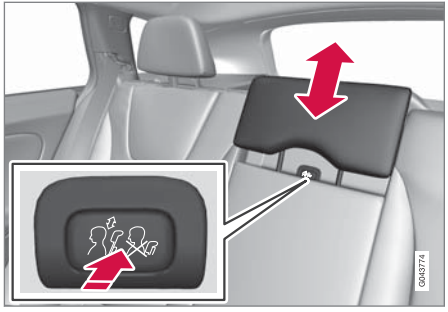
- シート、フロント（p. 121）
- シート、リア（p. 124）

[18] 車両にメモリー付きパワーシートと電動格納式ドアミラーが装備されている場合にのみ機能します。ランバーサポートの設定は保存されません。

シート、リア

リアシートのバックレストとドア側シートのヘッドレストは折りたたむことができます。センターシートのヘッドレストは乗員の座高に合わせて調節することができます。

リアセンターシート、ヘッドレスト



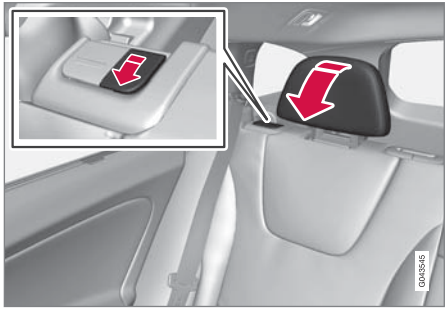
リアセンターシートヘッドレストは、ヘッドレストが頭全体を支えるよう、乗員の身長に合わせて調節することができます。必要に応じて、持ち上げます。

下げる場合は、ボタン(バックレストとヘッドレストの中間、図参照)を押しながら、ヘッドレストを慎重に押し下げます。

⚠ 警告

センターシートを使用しない場合は、センターシートのヘッドレストを必ず一番低い位置に設定してください。センターシートを使用する場合は、ヘッドレストを乗員の座高に合わせて正しく調節し、可能であれば後頭部全体をサポートするようにします。

ドア側のリアシートヘッドレストを手で倒す



ヘッドレストの横のロックハンドルを引き、ヘッドレストを前に倒します。

「カチッ」と音がするまで、ヘッドレストを元の位置に手で戻します。

⚠ 警告

ヘッドレストを持ち上げた場合には、必ずロック位置に固定してください。

リアシートバックレストを倒す

重要

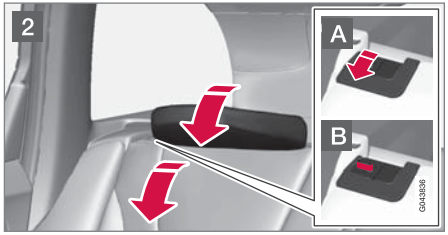
バックレストを折り畳む場合には、リアシートになにも置かないでください。また、シートベルトもバックルにはめないでください。リアシートの内装を傷付けるおそれがあります。

3 つの部分からなるバックレストは、さまざまな方法で倒すことができます。

注意

リアシートバックレストを前方に完全に倒す際は、フロントシートを前方に移動するかバックレストを立てる、またはその両方の作業をする必要があります。

- 左側バックレストのみを倒すことができます。
- センターバックレストのみを倒すことができます。
- 右側バックレストは、センターバックレストと共に倒すことしかできません。



1 センターバックレストを倒している場合は、センターシートのヘッドレストを解除して調節します。前述の「ヘッドレスト、センターシート、リア」の項を参照してください。

2 ドア側ヘッドレストは、ドア側バックレストを倒すと自動的に倒れます。バックレストのロックハンドル A を持ち上げながら、バックレストを前方に倒します。ロックキャッチ B の赤いインジケーターが見える場合は、バックレストが固定されていません。

注意

バックレストをたたむ場合には、シートクッションと接触しないように、ヘッドレストをわずかに前に動かすことが必要になる場合があります。

起こす場合は、逆の手順で行ってください。

注意

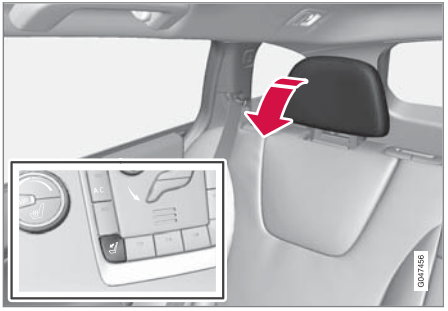
バックレストを起こして固定すると、赤いインジケーターは見えなくなります。それでも見える場合は、バックレストが正しく固定されていません。

警告

リアシートバックレストが倒されていた場合には、バックレストおよびヘッドレストが確実に固定されているか確認してください。

リアシートのいずれかに乗員がいる場合には、必ずドア側シートのヘッドレストを起こしてください。

外側リアシートのヘッドレストを電動で倒す*



1. リモートコントロールキーを必ず II 位置にしてください。
2. ボタンを押して外側リアシートのヘッドレストを倒し、後方の視界を確保してください。

⚠ 警告

ドア側のリアシートに乗員が座っているときは、ヘッドレストを倒さないでください。

カチッと音がするまで、ヘッドレストを手で元に戻してください。

⚠ 警告

ヘッドレストを持ち上げた場合には、必ずロック位置に固定してください。

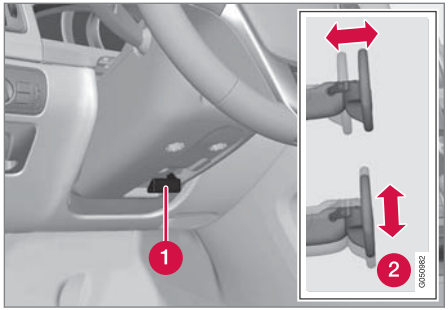
関連情報

- シート、フロント（p. 121）
- シート、フロント – 電動*（p. 122）

ステアリングホイール

ステアリングホイールは位置の調節が可能です。ステアリングホイールには、ホーン、クルーズコントロール、メニュー、オーディオ、電話のコントロール装置が備わっています。

調節



ステアリングホイールの調節

1. ステアリングホイールリリースレバー
2. 調節可能なステアリングホイールの位置

ステアリングホイールは、高さと前後の調節が可能です：

1. ステアリングホイールのロックを解除するときは、レバーを手前に引きます。
2. ステアリングホイールの位置を調節します。
3. レバーを元の位置に押し戻して、ステアリングホイールをロックします。レバーを動かしにくい時は、レバーを押し戻すと同時にステアリングホイールを少し押すようにしてロックしてください。

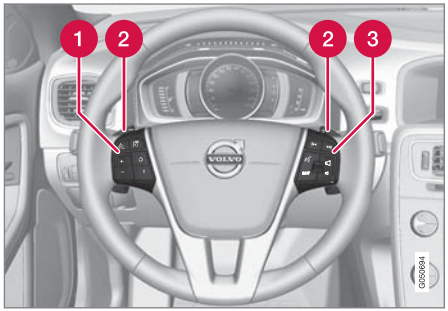
⚠ 警告

ステアリングホイールの調節およびロックは、走行前に行ってください。

速度感応式パワーステアリング*では、ステアリングホイールを回すために必要な力を調節することができます。ステアリングホイール操舵力の調節*（p. 234）を参照してください。

* オプション/アクセサリー。

ステアリングリモコン*およびパドル*



ステアリングホイールのステアリングリモコンおよびパドル

1. クルーズコントロール*（p. 242)*、 およびアダプティブクルーズコントロール – ACC*（p. 249)*。
2. オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ用パドル。オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)*（p. 332)を参照してください。
3. オーディオおよび電話コントロール、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。

ホーン

ホーン

ステアリングホイールのセンターパッドを押すと、ホーンが鳴ります。

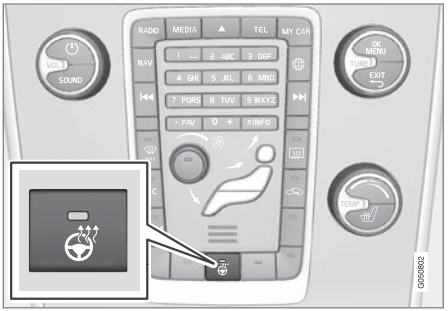
関連情報

- ステアリングホイールのヒーター*（p. 127）

ステアリングホイールのヒーター*

ステアリングホイールが電気ヒーターによって温められます。

機能



ボタンの配置は、選択した装備と市場に応じて異なる場合があります。

ボタンを繰り返し押すと、以下の機能が切り替わります。

機能	インジケーター
スイッチオフ	ボタンランプ消灯
ヒーター	ボタンランプ点灯

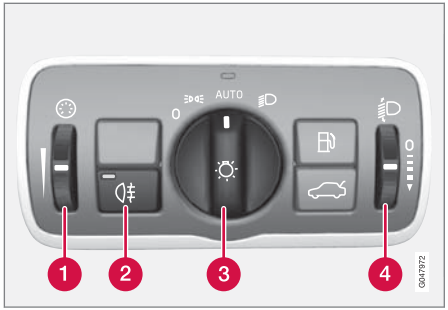
自動ステアリングホイールヒーター

ステアリングホイールヒーターの自動始動を作動させておくと、エンジンを始動するとステアリングホイールのヒーターがオンになります。自動始動は車両が冷えていて、周囲温度が約

10 ℃未満のときに作動します。この機能はメニューシステムの **MY CAR**(p. 154)で作動/解除します。

ライトスイッチ

ヘッドライトスイッチを操作して、車外の照明の点灯、調節を行います。また、ディスプレイやメーターパネルライト、アンビエントライト(p. 139)の調節にも使用します。



ライトスイッチの概要

1. ディスプレイ、メーター・パネルライト、アンビエントライトのコントロールダイヤル*
2. リアフォグランプボタン
3. 走行中および駐車中のライト用ノブ
4. ヘッドライト光軸補正用コントロールダイヤル

アクティブキセノンヘッドライト*装備車は、ヘッドライト光軸補正が自動的に行われるため、ヘッドライト光軸補正用のコントロールダイヤルはありません。

ノブ位置

注意

デイタイムランニングライトとポジションランプには、同じランプが使用されます。ランプの明るさは、デイタイムランニングライトとして使用されるときの方が明るくなります。

位置	意味
0	車両の電気系統がキー位置 II のとき、またはエンジンが作動しているとき、デイタイムランニングライト[A] が点灯します。 パッシングライトを使用することができます。
≡D◇≡	車両の電気系統がキー位置 II のとき、またはエンジンが作動しているとき、デイタイムランニングライト、テールランプおよびサイドマーカーランプが点灯します。 駐車時はポジションランプ/テールランプ、およびサイドマーカーランプが点灯します[B]。 パッシングライトを使用することができます。

* オプション/アクセサリー。

位置	意味
AUTO	昼間、車両の電気系統がキー位置 II のとき、またはエンジンが作動しているとき、デイタイムランニングライト、テールランプおよびサイドマーカーランプが点灯します。 薄暗いときや暗闇、またはリアフォグランプまたはウインドスクリーンワイパー(連続作動)が作動したとき、ロービームおよびポジションランプ/テールランプ、サイドマーカーランプが点灯します。 トンネル検知(p. 132)*機能が作動します。 アクティブハイビーム(p. 133)*機能を使用することができます。 ロービーム点灯中にハイビームにすることができます。 パッシングライトを使用することができます。

位置	意味
	ロービームおよびポジションランプ/テールランプ、サイドマーカーランプ。 ハイビームを作動させることができます。 パッシングライトを使用することができます。

A フロントバンパー内または下。
B ノブを別の位置からこの位置に動かした場合、アイドリング時にも点灯。

ボルボ社は、走行中は AUTO モードの使用をお薦めします。

⚠ 警告

霧、雨など日光が弱い、または十分な強さがない場合、車両のライトシステムは反応しません。

運転者には、適用される交通法規に従って交通状況に適した照射パターンを使用して走行する義務があります。

ディスプレイおよびメーター・パネルライト

キー位置に応じて各ディスプレイおよびメーター・パネルライトが点灯します。キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119)を参照してください。

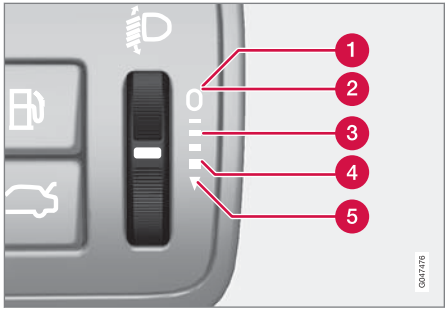
周囲が暗くなると、インフォメーション・ディスプレイの照度も自動的に低くなります。この感度はコントロールダイヤルで調節することができます。

メーター・パネル・ランプの照度は、コントロールダイヤルで調節することができます。

ヘッドライト光軸補正

荷重によって車体前後の傾きが変わり、ヘッドライトの光が対向車の視界を妨げることがあります。こうした状態を防ぐため、ヘッドライトの光軸を調節してください。車両に重い荷物を積載しているときは、光軸を低くしてください。

1. エンジンを回転させたままにするか、車両の電気系統をキー位置 I にします。
2. コントロールダイヤルを上/下に回して、ヘッドライトの光軸を調節します。



車内の乗員や積荷の状態に合わせたコントロールダイヤルの位置

1. 運転者のみ
2. 運転者と助手席乗員
3. 全シートに乗員がいる
4. 全シートに乗員がいて、カーゴスペースも満載の状態
5. 運転者がいて、カーゴスペースが満載の状態

関連情報

- ポジションランプ（p. 130）
- デイタイムランニングライト（p. 131）
- ハイ/ロービーム（p. 132）

ポジションランプ

ポジションランプ/テールランプはヘッドライトスイッチのノブを使用して点灯させます。

ヘッドライトスイッチのノブがポジションランプ/テールランプ点灯位置の状態

ノブを ≡D◯≡ の位置に回します(同時にナンバープレートランプが点灯します)。

車両の電気系統がキー位置 II の場合、またはエンジンが作動している場合、ポジションランプの代わりにデイタイムランニングライトが点灯します。

周囲が暗いときにテールゲートを開けた場合には、後続の車両に注意を促すために、リアポジションランプが点灯します。これは、ノブの位置や車両の電気系統のキー位置に関係なく作動します。

10 km/h（約 6 mph)以下の速度で 30 秒 以上走行すると、または走行速度が 10 km/h（約

6 mph)を超過すると、デイタイムランニングライトが点灯するとともにコンバインド・メーター・パネルに **ﾗｲﾄｽｲｯﾁの位置を ﾘｾｯﾄしました** というメッセージが表示され、 以外のモードに変更するよう促します。

関連情報

- ライトスイッチ（p. 128）

デイタイムランニングライト

ヘッドライトスイッチのノブが AUTO 位置にあり、車両の電気系統がキー位置 II に設定されているかエンジンが作動している場合、昼間はデイタイムランニングライトが自動的に点灯します。

デイタイムランニングライト(DRL)

ヘッドライトスイッチノブ、**AUTO** 位置

ヘッドライトスイッチのノブが AUTO 位置のとき、昼間の走行時にはデイタイムランニングライト(Daytime Running Lights – DRL)が自動的に点灯します。夕方の走行時や、走行中に太陽光が弱まると、ダッシュボード上部のライトセンサーがデイタイムランニングライトをロービームに切り替えます。ウインドスクリーンワイパーまたはリアフォグランプが作動している場合にもロービームへ切り替わります。

⚠ 警告

このシステムは、エネルギーの節約を助けます。霧や雨のときには、日光だけで十分かどうか見極めることができない場合がありますのでご注意ください。

運転者には、適用される交通法規に従って交通状況に合った照射パターンを使用して走行する義務があります。

関連情報

- ハイ/ロービーム（p. 132）
- ライトスイッチ（p. 128）

トンネル検知*

トンネルを検知し、車両がトンネルに入ると、デイタイムランニングライトからロービームに切り替わります。

トンネルの検知機能は、レインセンサー装備車で使用できます*。センサーはトンネルの入口を検知し、ライトをデイタイムランニングライトからロービームに変更します。車両がトンネルから出てから約 20 秒後にデイタイムランニングライトへ戻ります。この間に車両が別のトンネルへ入ると、ロービームが維持されます。これによって車両のヘッドライトが繰返し切り替わるのを防ぎます。

注意! トンネル検知を機能させるためには、ヘッドライトスイッチのノブが AUTO 位置になっていなければなりません。

関連情報

- ハイ/ロービーム（p. 132）
- ライトスイッチ（p. 128）

ハイ/ロービーム

ヘッドライト調整用ノブが AUTO 位置で、車両の電気系統がキー位置 II のとき、またはエンジンが作動しているとき、周辺の明るさが十分ではない場合には、ロービームが自動的に点灯します。

レバースイッチおよびヘッドライトスイッチノブ

1 パッシングライト位置

2 ハイビーム位置

ロービーム

ノブを AUTO 位置にすると、走行中に太陽の光が弱まったり、夕方になると、ロービームが自動的に点灯します。ロービームはウインドスクリーンワイパーまたはリアフォグランプが作動したときにも自動的に点灯します。

ノブを 位置にすると、エンジン始動中またはキー位置が II のときにロービームが常時作動します。

パッシングライト

レバーを手前に軽く引くと、パッシングライト位置になります。レバーを放すまで、ハイビームが点灯します。

ハイビーム

ハイビームは、ノブが AUTO[19] または 位置のときに点灯させることができます。レバースイッチをステアリングホイール側へいっぱいまで引いてから放してハイビームを点灯/消灯します。代わりに、レバースイッチをステアリングホイール側に軽く引いて、ハイビームを解除することができます。

ハイビームが点灯すると、 のシンボルがコンバインド・メーター・パネル内に点灯します。

補助ライト*

車両に補助ライトが装備されている場合は、運転者はメニューシステム MY CAR を使用して解除するか、ハイビーム[20] と同時にオン/オフするように設定するか選択することができます。MY CAR（p. 154）を参照してください。

19 ロービームがオンの場合
20 補助ライトはサービス工場にて電気系統への接続をご用命ください。ボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

* オプション/アクセサリー。

関連情報

- アクティブキセノンヘッドライト* (p. 135)
- アクティブハイビーム* (p. 133)
- ライトスイッチ (p. 128)
- ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン (p. 136)
- トンネル検知* (p. 132)

アクティブハイビーム*

アクティブハイビーム機能は、対向車のヘッドライトや先行車のリアランプを検知し、ハイビームからロービームに切り替える機能です。光を検知しなくなるとハイビームに戻ります。

アクティブハイビーム - AHB

アクティブハイビーム(Active High Beam - AHB)はウインドスクリーンの上部にあるカメラセンサーを利用して、対向車のヘッドライトや先行車両のリアランプを検知し、ハイビームからロービームに切り替える機能です。この機能では街路灯も検知対象になることがあります。

カメラセンサーが対向車または先行車を検知しなくなると、ハイビームが再度点灯します。

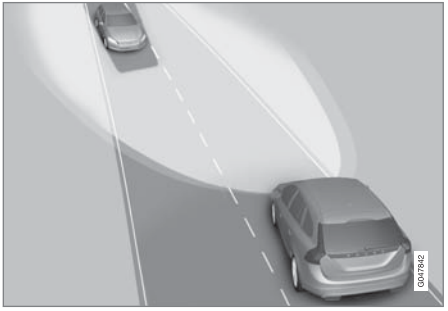
ハロゲンヘッドライト装備車

カメラセンサーが対向車のヘッドライトや先行車両のリアランプを検知しなくなってから約 1 秒経過後に、ライトはハイビームに戻ります。

アクティブキセノンヘッドライト装備車

アクティブハイビームにオン/オフ機能[21]がある場合、カメラセンサーが対向車のヘッドライトや先行車両のリアランプを検知しなくなってから約 1 秒経過後に、ライトはハイビームに戻ります。

アクティブハイビームにアダプティブ機能[21]が搭載されている場合、従来の切り替え機能とは異なり、対向車または先行車の両サイドではハイビームが維持されます。その車両に直接向けられる光線部分のみが暗くなります。



アダプティブ機能：対向車へ直接向けられるライトはロービームに切り替わりますが、その車両の両サイドではハイビームが維持されます。

カメラセンサーが対向車のヘッドライトや先行車両のリアランプを検知しなくなってから約 1 秒経過後に、ライトはフルハイビームに戻ります。

[21] 車両の装備レベルにより異なります。

作動/非作動

AHB は、ヘッドライトのスイッチノブが AUTO の位置のとき作動させることができます。(メニューシステム MY CAR でこの機能を解除している場合は除きます。MY CAR (p. 154)参照)

レバースイッチおよびヘッドライトスイッチノブ、AUTO 位置

この機能は、暗闇を約 20 km/h (12 mph)以上の速度で走行しているときに作動させることができます。

AHB を設定/解除するときは、左側レバースイッチをステアリングホイール側にいっぱいまで引いてから放します。ハイビーム点灯中に解除すると、ライトはすぐロービームに戻ります。

アナログ式コンバインド・メーター・パネル装備車両

AHB が作動すると、 のシンボルがパネルのインフォメーション・ディスプレイに点灯します。

ハイビームをオンにすると、コンバインド・メーター・パネルに のシンボルも点灯します。このことは、ハイビームがある程度減光されている場合(ライトがロービームよりも多少明るくなった直後)のアクティブキセノンヘッドライトにも当てはまります。

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル装備車両

AHB が作動すると、 のシンボルがパネルのインフォメーション・ディスプレイに点灯します。

ハイビームをオンにすると、シンボルが青色に変わります。このことは、ハイビームがある程度減光されている場合(ライトがロービームよりも多少明るくなった直後)のアクティブキセノンヘッドライトにも当てはまります。

マニュアル操作

注意

カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。

カメラセンサー前面のウインドスクリーンに、なにも貼り付けたり、取り付けたりしないでください。カメラの効力に支障が出て、カメラを使用している各システムが作動しなくなる原因となります。

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージ **ｱｸﾃｨﾌﾞﾊｲﾋﾞｰﾑ 一時的に利用できません 手動で操作して下さい** が表示された場合には、ハイビームとロービームの切り替えは手動で行うことが必要です。ただし、ヘッドライトスイッチのノブは AUTO の位置のままでかまいません。メッセージ **ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照** と シンボルが表示されている場合にも同じことが当てはまります。 シンボルはこれらのメッセージが表示されると消灯します。

AHB は、濃い霧や激しい雨の中では一時的に利用できなくなる場合があります。AHB が再び利用可能になったら、またはウインドスクリーンのセンサーを遮断するものがなくなったら、

メッセージが消えて、 のシンボルが点灯します。

警告

AHB は、好条件の下で最適なヘッドライトの使用をサポートする機能です。

運転手は、交通状況や天候により必要に応じて、ハイビームとロービームを手動で切り替える責任がありますので、ご注意ください。

重要

ハイビームとロービームの手動切り替えが必要になる場合の例:

- 激しい雨や霧の中を走行するとき
- 着氷性のある雨の中を走行するとき
- 雪嵐や溶けかかった雪の中を走行するとき
- 月明かりで走行するとき
- 明かりの乏しい建物密集地域を走行するとき
- 前方の車両のライトが暗いとき
- 道路上や道路脇に歩行者がいるとき
- 道路周辺に看板など反射性の高い物体があるとき
- 中央分離帯などにより、対向車のライトが遮られているとき
- 連絡道路に走行中の車両があるとき
- 稜線や谷底を走行するとき
- 急カーブを走行するとき

カメラセンサーの作動限界については、衝突警告システム* – カメラセンサー機能限界 (p. 283)を参照してください。

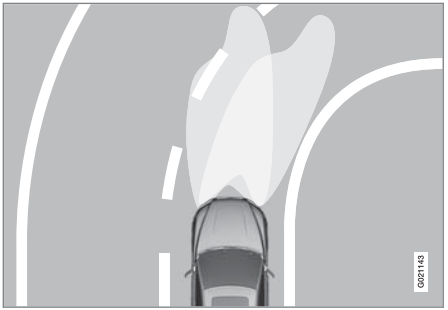
関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 132)
- ライトスイッチ (p. 128)

アクティブキセノンヘッドライト*

アクティブキセノンヘッドライト/アクティブベンディングランプは、カーブや交差点で最大限の明るさを確保して、安全性を高めるように設計されています。

アクティブキセノンヘッドライト/アクティブベンディングランプ – ABL



アクティブヘッドライトを解除したときの照射パターン(左)と作動したときの照射パターン(右)

アクティブキセノンヘッドライト/アクティブベンディングランプ(Active Bending Lights、ABL)装備車は、カーブや交差点で最大限の明るさを確保して安全性を高めるために、ヘッドライトがステアリングホイールの動きに追従します。

この機能は、エンジンを始動すると自動的に作動します。(メニューシステム MY CAR で解除されている場合を除きます。MY CAR (p. 154)参

照。)この機能に不具合が発生すると、コンバインド・メーター・パネルに の警告灯が点灯すると共に、インフォメーション・ディスプレイに説明のテキストが表示され、シンボルが点灯します。

シンボル	メッセージ	意味
	ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄｼｽﾃﾑ故障 ｻｰﾋﾞｽが必要です	システムが解除されています。メッセージが消えない場合には、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

この機能は、夕方や夜間、および車両走行時にのみ作動します。

この機能[22]は、メニューシステム MY CAR で解除/作動可能にすることができます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

コーナリングライト*

アクティブキセノンヘッドライト/アクティブベンディングランプにアダプティブ機能付きのアクティブハイビーム機能が搭載されている場合、コーナリングライトが装備されています。コーナリングライトは、急なカーブでステアリングホイールを回した方向または方向指示器を出している方向の斜め前方を一時的に照射する機能です。

この機能は、ハイビームまたはロービームを使用し、車速が約 30 km/h (20 mph)未満の場合に作動します。

また、両側のコーナリングライトは、後退時の後退灯の補助ランプとして点灯します。

関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 132)
- アクティブハイビーム* (p. 133)
- ライトスイッチ (p. 128)

ヘッドライト – 車両通行帯ヘッドライト照射パターン

車両がアクティブキセノンヘッドライト装備車で、アクティブハイビーム機能が搭載されている場合、右側通行から左側通行、またはその逆に変更するときには、ヘッドライト照射パターンをリセットする必要があります。

アクティブキセノンヘッドライト*

アクティブハイビーム*機能のない車両では、ヘッドライト照射パターンの調節は必要ありません。ヘッドライトの照射パターンは光が対向車の視界を妨げないように設計されています。

アクティブハイビーム装備車の場合、ヘッドライト照射パターンの調節が必要です。ヘッドライト照射パターンを右側通行用と左側通行用の間で変更する際には、車両はエンジンが始動した状態で静止していなければなりません。

ヘッドライト照射パターンは、メニューシステム MY CAR で変更されます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

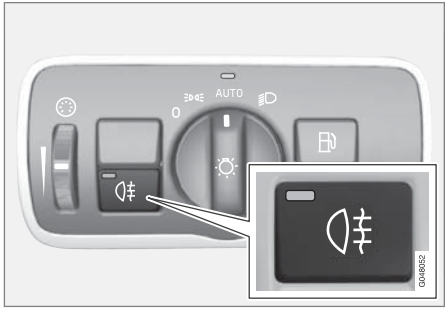
ハロゲンヘッドライト

ヘッドライト照射パターンの調節は必要ありません。ヘッドライトの照射パターンは光が対向車の視界を妨げないように設計されています。

[22] 工場からの出荷時に起動。

リアフォグランプ

霧で視界が悪い場合は、リアフォグランプを使用して他の道路使用者に車両の存在を早めに知らせます。



リアフォグランプボタン

リアフォグランプはキー位置が II の場合、またはエンジンが作動していてヘッドライトスイッチのノブが AUTO または の位置にある場合のみ点灯させることができます。

On/Off ボタンを押します。リアフォグランプが点灯すると、コンバインド・メーター・パネルの表示灯 およびボタンのランプが点灯します。

START/STOP ENGINE ボタンを押す、またはヘッドライトスイッチのノブを 0 または 位置に回すと、リアフォグランプは自動的に消灯します。

> **注意**
>
> リアフォグランプの使用に関する法規は、国によって異なります。

関連情報

- ライトスイッチ（p. 128）

ブレーキランプ

ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

ブレーキランプはブレーキペダルを踏むと点灯します。また、ブレーキランプはアダプティブクルーズコントロール(p. 249)、City Safety(p. 269)、衝突警告システム(p. 276)のいずれかの運転者サポートシステムが車両にブレーキをかけると点灯します。

関連情報

- フットブレーキ – アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯（p. 351）

非常点滅灯

非常点滅灯は、車両のすべての方向指示器を同時に点滅させて他の道路利用者に注意を促します。

非常点滅灯ボタン

ボタンを押すと、非常点滅灯が点滅します。非常点滅灯を使用すると、コンバインド・メーター・パネルの方向指示器のシンボルが両方とも点滅します。

車両に急ブレーキをかけてアダプティブブレーキランプが作動したとき、車速が約 10 km/h (6 mph)を下回ると、非常点滅灯が自動的に作動します。停車した後も非常点滅灯は点滅し続け、車両の走行を開始すると自動的に点滅が解除されます。ボタンを押して点滅を解除することもできます。

関連情報

- 方向指示器 (p. 138)
- フットブレーキ – アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 351)

方向指示器

車両の方向指示器は左側レバースイッチで操作します。レバーの位置に応じて、方向指示器が 3 回または連続で点滅します。

方向指示器

ワンタッチ方向指示位置

1. レバーを上または下に、1 段目の位置まで動かして放します。方向指示器が 3 回点滅します。この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

方向指示位置

2. レバーを上または下に、いっぱいまで動かします。

レバーはこの位置で止まります。手で元の中立位置に戻すか、右折または左折終了後にステアリングホイールを直進位置に戻すと、自動的に中立位置に戻ります。

方向指示器のシンボル
方向指示器のシンボルについては、コンバインド・メーター・パネル – 表示灯の意味（p. 108）を参照してください。

関連情報
- 非常点滅灯（p. 138）

ルームランプ
ルームランプはフロントシートおよびリアシートの上のスイッチから点灯/消灯します。

ルーフコンソールの読書灯およびルームランプのスイッチ

1. 左側読書灯
2. 右側読書灯
3. ルームランプ

次の場合、30 分以内ならルームランプを手動で点灯/消灯させることができます：

- エンジンを停止して、車両の電気系統をキー位置 **0** にした場合
- ドアをロック解除して、エンジンを始動していない場合

フロントルーフランプ
フロント読書灯は、ルーフコンソールのボタンを押して点灯/消灯します。

リアルーフランプ

リアルーフランプ

それぞれボタンを押して点灯/消灯します。

カーテシーランプ
カーテシーランプ(およびルームランプ)は、ドアの開閉と連動して点灯/消灯します。

グローブボックスランプ
グローブボックスランプは、グローブボックスリッドの開閉と連動して点灯/消灯します。

メイクアップミラーランプ
メイクアップミラー(p. 195)のランプは、カバーの開閉と連動して点灯/消灯します。

カーゴスペースランプ

カーゴスペースランプは、テールゲートの開閉と連動して点灯/消灯します。

自動点灯機能

ルームランプスイッチで、3 種類のルームランプの設定から選択することができます：

- **オフ** - 右側を押すと、自動点灯機能がオフになります。
- **中立位置** - 自動点灯機能がオンになります。
- **オン** - 左側を押すと、ルームランプが点灯します。

中立位置

スイッチが中立位置にあるときは、ルームランプは以下のように自動的に点灯/消灯します。

ルームランプは次の場合に点灯し、30 秒後に消灯します：

- リモートコントロールキーまたはキーブレードで、ドアをロック解除した場合。 リモートコントロールキー - 機能 (p. 208)、または脱着式キーブレード - ドアロック解除 (p. 213)を参照してください。
- エンジンを停止して、車両の電気系統をキー位置 **0** にした場合。

ルームランプは、次の場合に消灯します：

- エンジンを始動したとき
- 車両をロックしたとき

ルームランプはいずれかのドアを開けたときに点灯し、2 分後に消灯します。

いずれかのランプを手動で点灯させてドアをロックすると、ランプは 2 分後に自動的に消灯します。

アンビエントライト*

通常のルームランプがオフでエンジンが作動している場合には、ひかえめなライトで走行中のムードを向上させるために、ルーフランプのひとつを含む LED ランプが点灯します。外が暗い時間帯には、このランプにより小物入れの中なども見やすくなります。車両をロックすると、通常のルームランプの後、しばらくしてからこのランプは消灯します。明るさはヘッドライトスイッチ(p. 128)のコントロールダイヤルを使用して調節します。

ホームセーフライト

ホームセーフライトは、ロービーム、ポジションランプ、ドアミラーランプおよびナンバープレートランプで構成されています。

夜間に車両をロックした後、エクステリアランプの一部をホームセーフライトとして点灯させておくことができます。

1. イグニッションスイッチからリモートコントロールキーを抜きます。
2. 左側レバースイッチを、エンドポジションまで手前に引いてから放します。パッシングライトと同様の操作方法で作動させることができます。ハイ/ロービーム (p. 132)を参照してください。
3. 車外に出てドアをロックします。

機能が作動すると、ロービーム、ポジションランプ、ドアミラーランプおよびナンバープレートランプが点灯します。

ホームセーフライトの点灯時間は、メニューシステム MY CAR で設定することができます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- アプローチライト (p. 141)

* オプション/アクセサリー。

アプローチライト

アプローチライトは、ポジションランプ/テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアルーフランプ、カーテシーランプで構成されています。

アプローチライトはリモートコントロールキーで点灯させます(リモートコントロールキー - 機能 (p. 208)を参照)。車両から少し離れた場所からライトを点灯させることができます。

この機能をリモートコントロールキーで作動させると、ポジションランプ/テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアルーフランプ、およびカーテシーランプが点灯します。

アプローチライトの点灯時間は、メニューシステム MY CAR で設定することができます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

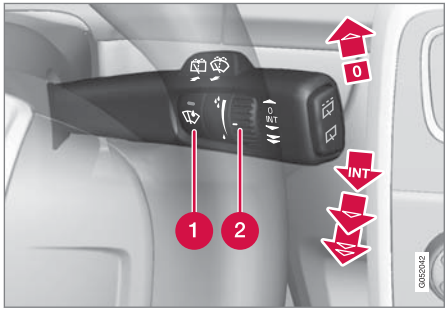
関連情報

- ホームセーフライト (p. 140)

ワイパーおよびウォッシャー

ワイパーおよびウォッシャーはウインドスクリーンおよびリアウインドを洗浄します。ヘッドライトは高圧洗浄で洗浄します。

ウインドスクリーンワイパー [23]



ウインドスクリーンワイパーおよびウインドスクリーンウォッシャー

1. レインセンサー - オン/オフ
2. コントロールダイヤルによる感度/作動回数の調節

ウインドスクリーンワイパーオフ

0 ワイパーレバーを **0** 位置に戻すと、ワイパーが停止します。

シングルストローク

ワイパーレバーを上に押して放すと、ワイパーが 1 回だけ作動します。

間欠ワイパー

INT 間欠ワイパー位置のときには、ワイパーの作動間隔をコントロールダイヤルで調節することができます。

ワイパー連続作動

ワイパーが通常速度で作動します。

ワイパーが高速で作動します。

重要

ワイパーを作動させる前に、ウインドスクリーン(およびリアウインド)とワイパーブレードが凍結していないか確認してください。積もった雪や凍結を取り除いてからワイパーを作動させてください。

[23] ワイパーブレードの交換およびワイパーブレードのサービスポジションについては、ワイパーブレード (p. 425)を参照してください。ウォッシャー液の補充については、ウォッシャー液 - 補充 (p. 427)を参照してください。

重要

冬期は、ワイパーを作動させる前に、ウインドスクリーン(およびリアウインド)とワイパーブレードが凍結していないか確認してください。積もった雪や凍結を取り除いてからワイパーを作動させてください。

重要

ワイパーを作動させるときは、ウォッシャー液を十分に使用してください。ウインドスクリーンが濡れている状態であることが必要です。

ワイパーブレード、サービスポジション

ウインドスクリーン/ワイパーブレードの清掃およびワイパーブレードの交換については、洗車 (p. 448)およびワイパーブレード (p. 425)を参照してください。

レインセンサー*

レインセンサーはウインドスクリーンに付着した水滴の量を感知して、フロントワイパーを自動的に作動・停止させます。レインセンサーの感度は、コントロールダイヤルで設定することができます。

レインセンサーが作動すると、ボタンのランプが点灯し、レインセンサーのシンボル がコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

作動/感度設定

レインセンサーを作動させる場合は、車両走行中またはリモートコントロールキーが I または II 位置のときに、ウインドスクリーンワイパーレバーを 0 位置またはシングルストローク作動位置にします。

レインセンサーボタン を押して、レインセンサーを作動させます。ワイパーが 1 回作動します。

ワイパーレバーを上げると、ワイパーがもう 1 回作動します。

コントロールダイヤルを上に回すと感度が増し、下に回すと感度が低下します(コントロールダイヤルを上に回すごとに、ワイパーが 1 回多く作動します)。

解除する

レインセンサーボタン を押すか、レバーを下げてワイパーの作動プログラムを変更すると、レインセンサーが解除されます。

レインセンサーは、イグニッションスイッチからリモートコントロールキーを抜いたとき、またはエンジンを停止してから 5 分後に、自動的に解除されます。

重要

自動洗車機で洗車する際、洗車中にレインセンサーが作動してワイパーが動き出し、ワイパー機構が損傷するおそれがあります。走行中またはリモートコントロールキーが I または II 位置のときには、レインセンサーを OFF にしてください。コンバインド・メーター・パネル内のシンボルとボタン内のランプが消灯します。

ヘッドライトウォッシャー/ウインドウォッシャー

ウォッシャー機能

ウインドスクリーンウォッシャー

レバーを手前に引くと、ウインドスクリーンおよびヘッドライトのウォッシャーが作動して、ウォッシャー液が噴射されます。

* オプション/アクセサリー。

レバースイッチから手を離したあともワイパーが数回作動し、ヘッドライトの洗浄が実行されます。

ヒーテッドウォッシャーノズル*

冷寒時は、ウォッシャー液の凍結を防止するため、ウォッシャーノズルが自動的に加熱されます。

高圧ヘッドライトウォッシャー*

高圧ヘッドライトウォッシャーは、大量のウォッシャー液を消費します。ウォッシャー液を節約するため、ウインドスクリーンウォッシャーが 5 回作動するごとに、ヘッドライトウォッシャーが自動的に 1 回作動します。

節約洗浄

リザーバータンク内のウォッシャー液残量が約 1 リットルになると、ウォッシャー液の充填を促すメッセージがコンバインド・メーター・パネルに表示され、ヘッドライトへのウォッシャー液の供給がオフになります。これは、ウインドスクリーンを洗浄し、視界を確保することを優先するためです。

リアウインドのワイピングと洗浄

1 リアウインドワイパー - 間欠作動

2 リアウインドワイパー - 通常速度で作動

レバーを前方に押すと(前図矢印参照)、リアウインドワイパー/ウォッシャーが作動します。

注意

リアウインドワイパーには過熱保護が装備されているため、過熱した場合にはモーターが停止します。リアウインドワイパーは、冷却時間の経過後に再度作動します。

ワイパー - 後退時

ウインドスクリーンワイパーを作動させているときにリバースギヤにシフトすると、リアウインドワイパーは間欠作動します[24]。この機能は、リバースギヤを解除すると停止します。

リアウインドワイパーが既に通常速度で作動している場合、作動モードは変更されません。

注意

レインセンサー装着車では、レインセンサーが起動していて雨天の場合には、後退時にリアウインドワイパーが作動します。

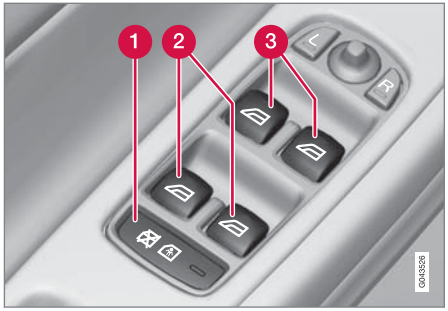
関連情報

- ウォッシャー液 – 補充 (p. 427)

24 後退時の間欠ワイパー機能は解除することができます。サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

パワーウインド

運転席ドアのコントロールパネルからはすべてのパワーウインドを操作することができます。他のドアのコントロールパネルからはそのドアのパワーウインドのみが操作できます。



運転席側ドアのコントロールパネル

1. お子様が内側からリアドアを開く行為*およびリアパワーウインドを開閉する行為を防止するパワー・チャイルドロック。チャイルドロック – 電動ロック*（p. 227）を参照してください。
2. リアパワーウインドスイッチ
3. フロントパワーウインドスイッチ

⚠ 警告

運転席側のドアから窓を閉める際は、お子様または乗員が挟まれることのないよう、確認してください。

⚠ 警告

リモートコントロールキーを使用して窓を閉めるときは、お子様や乗員が挟まれることのないよう、確認してください。

⚠ 警告

車内にお子様を残して車から離れる場合は、忘れずにキー位置を **0** にしてパワーウインドの電源を切り、リモートコントロールキーを携帯してください。キー位置については、キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。

操作

パワーウインドの操作

1. マニュアル作動
2. オート作動

運転席ドアのコントロールパネルからはすべてのパワーウインドを操作することができます。他のドアのコントロールパネルからはそのドアのパワーウインドのみが操作できます。同時に複数のコントロールパネルを操作することはできません。

パワーウインドを使用するには、キー位置が **I** 以上である必要があります。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。エンジンをオフにし、リモートコントロールキーを取り出した後も数分間はパワーウインドが操作できますが、いったんドアを開けると操作できなくなります。

* オプション/アクセサリー。

ウインドを閉めているときにその動きが妨げられると、ウインドが停止して自動的に開きます。氷などにより、ウインドが閉まらなくなった場合には、ピンチプロテクションを強制解除することができます。2 回続けて閉じる動作が中断された場合には、ピンチプロテクションがオーバーライドされ、自動保護機能が短時間解除されます。これにより、ボタンを持ち上げたままにすると、ウインドを閉めることができます。

注意

リアパワーウインドが開いているときに発生する風圧音は、フロントウインドを少し開けると低減させることができます。

マニュアル作動

スイッチを上/下に軽く動かします。パワーウインドは、スイッチを保持している間上/下に動きます。

オート作動

スイッチを上/下のエンドポジションまで動かして、手を離します。ウインドは自動的にエンドポジションまで上/下します。

リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンでの操作

パワーウインドをリモートコントロールキーで外側から操作する場合、またはセントラルロックボタンで内側から操作する場合については、リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)またはロック/ロック解除 – 車内から (p. 222)を参照してください。

リセット

バッテリーの接続を外した後は、パワーウインドのオート機能が正しく作動するようにリセットする必要があります。

1. ボタンの前端を軽く引き上げて、ウインドをいっぱいに上げ、そこでボタンを 1 秒間保持します。
2. 少しの間、ボタンから手を離します。
3. ボタンの前端を再度引き上げ、1 秒間保持します。

警告

ピンチプロテクションが作動するためにはリセットすることが必要です。

ドアミラー

ドアミラーの位置は運転席ドアのコントロールのレバーで調節します。

ドアミラースイッチ

調節

1. 左側のミラーを調節するときは **L**、右側のミラーを調節するときは **R** ボタンを押します。ボタンの LED が点灯します。
2. 中央のノブを使用して、位置を調節します。
3. **L** または **R** ボタンを再度押します。ボタンの LED が消灯します。

警告

両側のミラーは、最適な視野が得られるように湾曲しています。後続車や物体は、実際よりも遠くに見える場合がありますのでご注意ください。

設定の保存 [25]
ドアミラーと運転席シートの位置の設定は、リモートコントロールキーごとにカーキーメモリーに保存することができます*。リモートコントロールキー – パーソナライズ* (p. 205)を参照してください。

駐車時にドアミラーを傾ける [25]
駐車するときなどに路面がよく見えるように、ドアミラーを下向きに傾けることができます。

– リバースギヤに入れ、**L** または **R** ボタンを押します。

リバースギヤを解除すると、ドアミラーは約 10 秒後に元の位置に戻ります。あるいは、**L** または **R** ボタンを押すとただちに元の位置に戻ります。

駐車時に自動的にドアミラーを傾ける [25]
リバースギヤを選択すると、駐車するときなどに路面がよく見えるように、ドアミラーが自動的に下向きに傾きます。リバースギヤを解除すると、ドアミラーは数秒後に元の位置に戻ります。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

ロック時の自動格納*
リモートコントロールキーでロック/ロック解除すると、ドアミラーは自動的に格納位置/使用位置に動きます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

中立位置へセットし直す
外部からの影響でドアミラー本体の位置が動いてしまったときは、電動格納機能を正常に機能させるため、ドアミラーを基本位置に戻してリセットする必要があります。

1. **L** と **R** ボタンを同時に押して、ドアミラーを格納します。
2. **L** と **R** ボタンを再度同時に押して、ドアミラーを使用位置に戻します。
3. 必要に応じてこの手順を繰り返します。

これで、ドアミラー本体が中立位置にリセットされます。

自動防眩機能*
この機能をドアミラーに装備する場合は、ルームミラーにも自動防眩機能が装備されている必要があります。ルームミラー (p. 147)を参照してください。

電動格納式ドアミラー*
狭い場所に駐車するときや狭い場所を通過するときは、ドアミラーを格納することができます。

1. **L** ボタンと **R** ボタンを同時に押してください(キー位置は **I** 以上であることが必要です)。
2. 約 1 秒間押してから放します。ミラーは自動的に格納位置まで動いて停止します。

ドアミラーを使用位置に戻すときは、**L** と **R** ボタンを同時に押します。ミラーは自動的に、使用位置まで動いて停止します。

ホームセーフライト/アプローチライト
ドアミラーのランプはアプローチライト (p. 141)またはホームセーフライト(p. 140)使用時に点灯します。

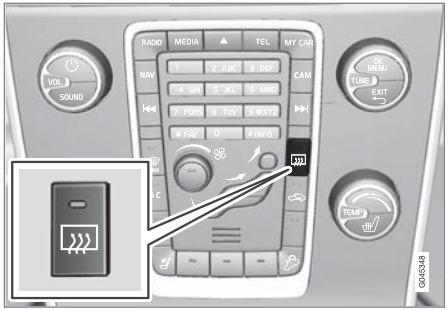
関連情報
- ルームミラー (p. 147)
- ウインドおよびドアミラー – ヒーター (p. 147)

[25] メモリー機能付きパワーシートが装備されている場合のみ。シート、フロント – 電動* (p. 122)を参照してください。

ウインドおよびドアミラー – ヒーター

リアウインドおよびドアミラーの霜や曇りを素早く取る場合は、デフロスターを使用します。

リアウインドおよびドアミラーデフロスター



デフロスター、リアウインドおよびドアミラー

この機能は、リアウインドやドアミラーから霜や曇り取るために使用します。

スイッチを 1 回押すと、リアウインドおよびドアミラーのデフロスターが同時に作動します。ボタンが点灯すると、機能がオンであることがわかります。バッテリーに不必要な負担がかからないように、霜や曇りが取れたらすぐに停止してください。ただし、この機能は一定時間が経過すると自動的にオフになります。

外気温が+7 ℃未満のときにエンジンを始動すると、ドアミラーやリアウインドのデフロスターが自動的にオンになり、ウインドの曇りを取り除きます。自動設定は、メニューシステム MY CAR で選択できます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

ルームミラー

ルームミラーは、ミラー下側のコントロールを使用して眩しさを調節することができます。または、自動的に眩しさが調節されます。

1 防眩切替レバー

手動防眩機能

ルームミラーに反射する後続車のヘッドライトの光を、自動的に和らげます。後続車のライトがルームミラーに反射して眩しいときは、防眩機能を使用してください：

1. 防眩機能を使用する場合は、防眩切替レバーを手前に引きます。
2. 防眩切替レバーを押して、通常位置に戻します。

自動防眩機能*

ルームミラーに反射する後続車のライトを、自動的に和らげます。自動防眩機能付ミラーには手動防眩機能のコントロールはありません。

ルームミラーには 2 つのセンサーが備わっています。ひとつは前向き、もうひとつは後ろ向きです。これらが連携して光を感知して眩しい光を和らげます。前向きのセンサーは周囲の光を感知します。後ろ向きのセンサーは後続車のヘッドライトの光を感知します。

注意

駐車証、トランスポンダー、サンバイザー、シートやカーゴスペースの荷物などで、センサーが遮られ、光がセンサーに届かない場合は、ルームミラーおよびドアミラーの防眩機能が低下します。

自動防眩機能付ルームミラーのみにコンパス (p. 148) を装備することができます。

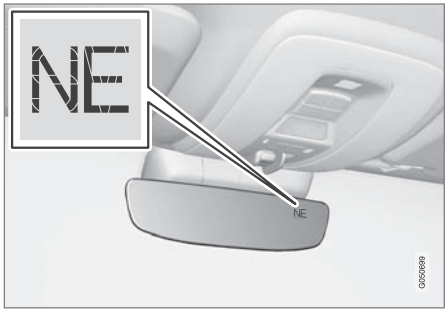
関連情報

- ドアミラー (p. 145)

コンパス*

ルームミラー右上の部分に、車両の進行方向を表示するディスプレイが組み込まれています。

操作



コンパス付きルームミラー

8 種類の方位が、英語の略字で表示されます：**N**(北)、**NE**(北東)、**E**(東)、**SE**(南東)、**S**(南)、**SW**(南西)、**W**(西)、**NW**(北西)。

コンパスは、エンジンが始動すると、あるいはキー位置 **II** になると自動的に起動します。キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119) を参照してください。コンパスを解除/起動するには、ミラー裏側のボタンをペーパークリップなどで押してください。

校正

コンパスが正しい方位を表示するように、校正が必要となる場合があります。

地球は地表の磁場により、15 の地域に分けることができます。他の磁場ゾーンに移動する場合は、コンパスを校正し直すことが必要です。

以下に従って校正を実施します。

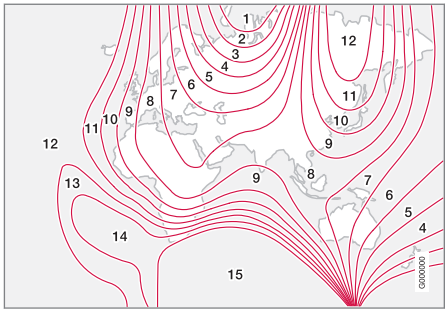
1. 鉄骨を使用した建物や高圧送電線などのない、広く安全な場所(屋外)に停車します。
2. エンジンを始動し、すべての電気機器(エアコンディショナー、ワイパーなど)をオフにし、すべてのドアが閉まっていることを確認します。

注意

電気機器をオフにしておかないと、校正が失敗する、またはまったく始まらないおそれがあります。

3. ルームミラー下側のボタンをペーパークリップなどの細い物で約 3 秒間押したままにします。ディスプレイに現在の地域の番号が表示されます。

* オプション/アクセサリー。



磁場の分布

4. 希望する地域の番号(**1-15**)が表示されるまで、ボタンを繰り返し押します。コンパス用の磁場分布図を参照してください。
5. ディスプレイに文字 **C** が表示されるまで待機するか、文字 **C** が表示されるまで(約 6 秒間)ルームミラー下側のボタンを押し続けます。
6. 10 km/h (6 mph)以下の低速で、ゆっくりと円を描くように走行します。ディスプレイにコンパスの方位が表示されれば校正終了です。校正を微調整するために、さらに 2 周走行してください。
7. **ヒーテッドウインドスクリーン装備車両*:** ヒーテッドウインドスクリーンの作動中に文字 **C** がディスプレイに表示された場合は、上記の 6 に従ってヒーテッドウインドスクリーンが作動した状態で校正を行ってください。ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去 (p. 178)を参照してください。
8. 必要に応じてこの手順を繰り返します。

サンルーフ*

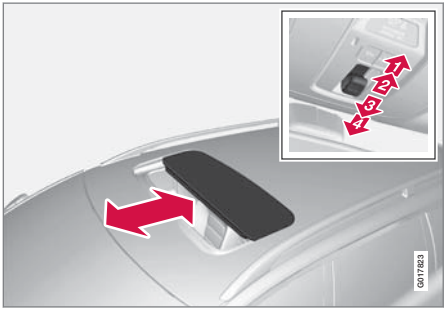
サンルーフはルーフにある操作スイッチで操作します。

サンルーフの内側のサンスクリーンは、手動で閉まります。

サンルーフにはウインドデフレクターが装備されています。

電動サンルーフの操作スイッチは、ルーフパネルにあります。チルトアップおよびスライドオープンの 2 通りの操作をすることができます。キーが、I または II の位置のときに操作することができます。

スライドオープニング



スライドオープニング(前後方向)

1. 自動的に開きます。
2. 手動で開きます。

3 手動で閉まります。

4 自動的に閉まります。

開ける

サンルーフをコンフォート位置[26] まで開けるには、操作スイッチを自動オープンの位置まで押して手を離します。サンルーフを全開にするには、操作スイッチを自動オープンの位置まで再度押して手を離します。

抵抗が感じられるところまで操作スイッチを後方に押すと、手動で開きます。操作スイッチを後方に押している間、サンルーフはコンフォート位置[26]へ移動します。サンルーフを全開にするには、操作スイッチを後方に再度押します。

閉める

抵抗が感じられるところまで操作スイッチを前方に押すと、手動で閉まります。操作スイッチを前方に押している間、サンルーフは閉位置へ移動します。

⚠ 警告

サンルーフを閉じる際は、挟み込みに注意してください。サンルーフ・ピンチプロテクション機能は、自動で閉めるときのみ作動します。

操作スイッチをオートクローズ位置まで押して放すと、自動的に閉まります。

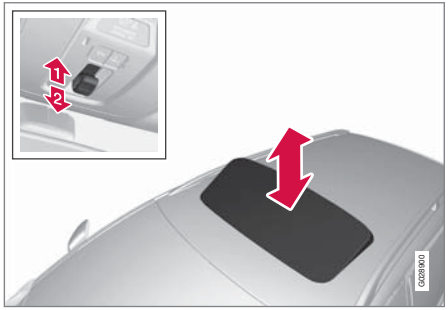
キー位置 **0** を選択し、イグニッションスイッチからリモートコントロールキーを抜くと、サンルーフの電源がオフになります。

⚠ 警告

車内にお子様が残る場合：

車両から離れる際には、キー位置を **0** にしてサンルーフへの電源を切り、リモートコントロールキーを携帯してください。キー位置については、キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119)を参照してください。

チルトアップ

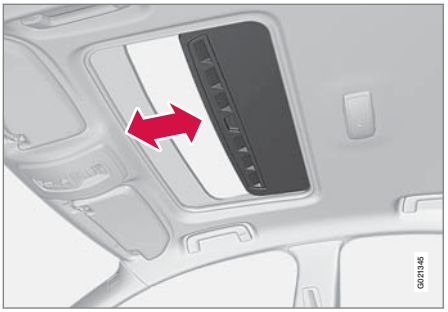


チルトアップ(後端を上げた状態)

1 スイッチの後端を上に押して開けます。

2 操作スイッチの後端を下に引いて閉じます。

リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンで閉める



リモートコントロールキー

– サンルーフとすべてのウインドが閉じるまでリモートコントロールキーのロックボタン を 1 回長押しすると、ドアおよびテールゲートがロックされます。

中断するには、リモートコントロールキーのロックボタンをもう一度押します。

[26] コンフォート位置はサンルーフの開位置の 1 つで、走行中の風切り音や共鳴音を十分に低く抑えられる位置です。

セントラルロックボタン

運転席ドアまたは助手席ドア*のセントラルロックボタンを使用してサンルーフを閉じることができます。

- サンルーフとすべてのウインドが閉じるまでセントラルロックボタン を1回長押しすると、ドアおよびテールゲートがロックされます。

中断するには、セントラルロックボタンをもう一度押します。

⚠ 警告

リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンを使用してサンルーフを閉める場合は、乗員の手などを挟まないように注意してください。

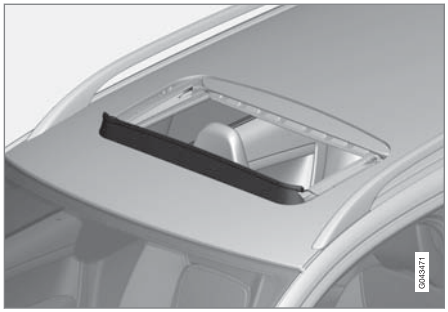
サンスクリーン

サンルーフには、手動でスライドさせるインテリアサンスクリーンが装着されています。サンスクリーンは、サンルーフを開けると一緒にスライドします。サンスクリーンを閉めるときは、ハンドルをつかんでサンスクリーンを前方へスライドさせます。

ピンチプロテクション

サンルーフには、オートクローズ中にサンルーフの動きが妨げられた場合に作動するピンチプロテクション機能があります。サンルーフは停止して、以前の位置まで開きます。

ウインドデフレクター



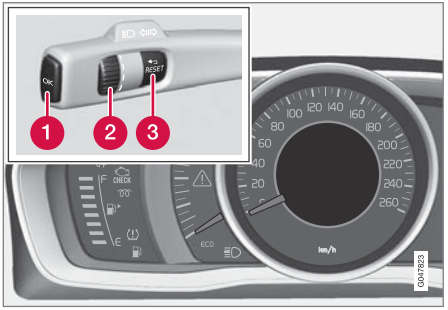
サンルーフには、ルーフを開けた状態で走行するときに使用できるウインドデフレクターが取り付けられています。

関連情報

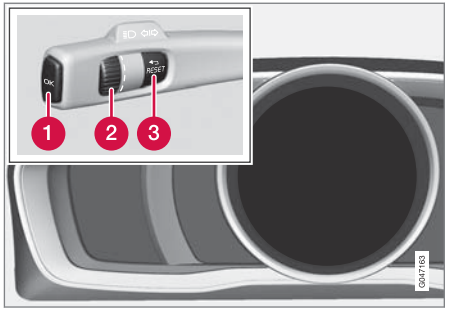
- リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)
- ロック/ロック解除 – 車内から (p. 222)

メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネル(p. 102)のインフォメーション・ディスプレイに表示されるメニュー(p. 152)は左側レバースイッチで操作します。表示されるメニューはキー位置(p. 119)によって異なります。



ディスプレイ(アナログ式コンバインド・メーター・パネル)およびメニューナビゲーションコントロール



ディスプレイ(液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル)およびメニューナビゲーションコントロール

1. **OK** - メッセージリストにアクセスするとき、およびメッセージを確認するときに使用します。
2. コントロールダイヤル - メニューオプションを参照するときに使用します。
3. **RESET** - 作動中の機能をリセットします。場合によっては、機能の選択や作動にも使用します。詳しくは、該当の章にある説明を参照してください。

メッセージ(p. 153)が表示されたときは、**OK**を押して確認すると、メニューが表示されます。

関連情報

- メッセージ - 取り扱い (p. 154)

メニュー概要 - コンバインド・メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネルに表示されるメニューはキー位置 (p. 119)によって異なります。

以下のメニューオプションの中には、機能およびハードウェアを車両にインストールすることが必要なものもあります。

アナログ式コンバインド・メーター・パネル

ﾃﾞｼﾞﾀﾙ速度

ﾋｰﾀｰ*

補助ﾋｰﾀｰ*

TCｵﾌﾟｼｮﾝ

ｻｰﾋﾞｽ状態

ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ[27]

ﾒｯｾｰｼﾞ (##)[28]

デジタル式コンバインド・メーター・パネル

設定*

ﾃｰﾏ

ｺﾝﾄﾗｽﾄﾓｰﾄﾞ/ｶﾗｰﾓｰﾄﾞ

ｻｰﾋﾞｽ状態

ﾒｯｾｰｼﾞ[28]

ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ[27]

ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾋｰﾀｰ*

ﾄﾘｯﾌﾟｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ ﾘｾｯﾄ

関連情報

- アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 102)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 103)
- メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 151)

27 一部のエンジン。
28 メッセージの数が()内に表示されています。

* オプション/アクセサリー。

ディスプレイテキスト

警告灯、表示灯、あるいはインフォメーションシンボルが点灯すると、関連したメッセージがインフォメーション・ディスプレイに表示されます。

メッセージ	意味
安全に停車 [A]	停車してエンジンを停止してください。重大な損傷のおそれがあります。サービス工場 [B] にご相談ください。
エンジンを停止してください [A]	停車してエンジンを停止してください。重大な損傷のおそれがあります。サービス工場 [B] にご相談ください。
ただちにサービスが必要 [A]	ただちにサービス工場 [B] に連絡し、点検を受けてください。
サービスが必要です [A]	すみやかにサービス工場 [B] に連絡し、点検を受けてください。
マニュアル参照 [A]	オーナーズマニュアルをお読みください。
ﾒﾝﾃﾅﾝｽを予約して下さい	定期点検整備を予約する時期です。サービス工場 [B] にご連絡ください。
定期ﾒﾝﾃﾅﾝｽの時期です	定期点検整備の時期です。サービス工場 [B] にご連絡ください。定期点検整備の時期は、走行距離、前回の点検整備からの経過月数、エンジン作動時間およびオイルグレードに基づいて算出されます。
ﾒﾝﾃﾅﾝｽの時期を 過ぎています	ボルボ社の保証が適用されるためには、メンテナンスノート(整備手帳)に従った点検を行う必要があります。サービス工場 [B] にご連絡ください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ オイル交換が必要です	すみやかにサービス工場 [B] に連絡し、点検を受けてください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ性能が低下しています	トランスミッションは全機能を処理できません。メッセージが消灯するまで慎重に運転してください [C]。 繰り返し表示される場合には、サービス工場 [B] にご連絡ください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ高温 減速して下さい	より穏やかに走行、または安全に停車してください。N または、P 位置にしてメッセージが消えるまでエンジンをアイドリングさせてください [C]。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ高温 安全に停車し 冷却するまで待機	重大な不具合が発生しているおそれがあります。ただちに安全に停車し、サービス工場 [B] にご連絡ください。
一時解除 [A]	機能が一時的に解除されていることを示します。この機能は、走行中またはエンジン再始動後に、自動的にリセットされます。
ﾊﾞｯﾃﾘｰ電圧低下 ﾊﾟﾜｰｾｰﾌﾞﾓｰﾄﾞ	節電のため、オーディオシステムのスイッチがオフになります。バッテリーを充電してください。

A メッセージの一部では、問題が発生した場所に関する情報が表示されます。
B ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。
C オートマチックトランスミッションに関する詳細は、オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)を参照してください。

重要

ボルボ社の保証が適用されるためには、メンテナンスノート(整備手帳)の指示に従った点検を実施する必要があります。

関連情報

- メッセージ – 取り扱い (p. 154)
- メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル (p. 151)

メッセージ – 取り扱い

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに表示されるメッセージ(p. 153)は、左側レバースイッチを使用して閲覧、確認します。

警告灯、表示灯、あるいはインフォメーションシンボルが点灯すると、同時に関連のメッセージがディスプレイに表示されます。エラーメッセージは、不具合が修正されるまでメモリーに記録されています。

左側レバースイッチの **OK** を押してメッセージを確認 します。コントロールダイヤル (p. 151)を使用してメッセージをスクロールします。

> **注意**
>
> トリップコンピューター使用中に警告メッセージが表示されたときは、必ず(**OK** を押して)その警告メッセージを読み、今までの操作に戻ってください。

関連情報

- メニュー概要 – コンバインド・メーター・パネル (p. 152)

MY CAR

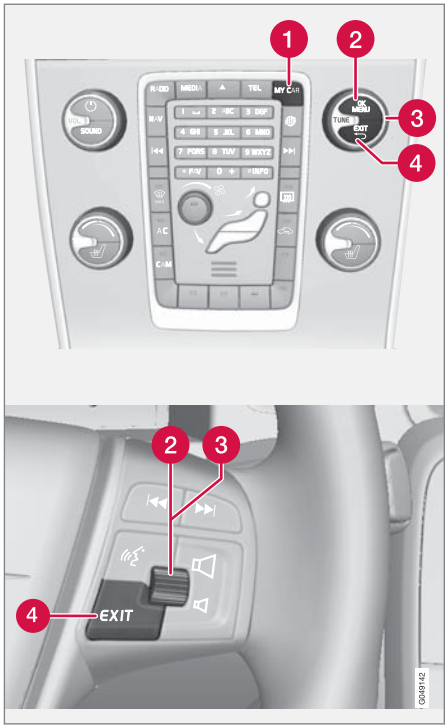
MY CAR は、City Safety™、ロックおよびアラーム、自動ファン速度、時計の設定など、車両の多くの機能を設定するためのメニューソースです。

一部機能は標準装備されていますが、オプション機能もあります。装備は、市場により異なっています。

操作

メニュー内のナビゲーションは、センターコンソール上のボタンやステアリングホイール右側のステアリングリモコン*を使用して操作できます。

* オプション/アクセサリー。



センターコンソールのコントロールパネルおよびステアリングホイールのステアリングリモコン。図には略図が使用されています。選択した装備や市場により、機能の数やボタンの配置が異なります。

1. **MY CAR** – メニューシステム MY CAR を開きます。
2. **OK/MENU** – センターコンソールのボタンまたはステアリングホイールのコントロールダイヤルを押すと、ハイライト表示されているメニューオプションの選択/チェックマーク付け、または選択した機能のメモリーへの保存を行うことができます。
3. **TUNE** – センターコンソールのノブまたはステアリングホイールのコントロールダイヤルを回すと、メニューオプションを上下にスクロールできます。
4. **EXIT**

EXIT 機能

EXIT を軽く押したときにカーソルが置かれていた機能とメニュー階層によって、次のいずれかが発生する場合があります。

- 通話が拒否される
- 現在の機能が中断される
- 入力された文字が削除される
- 直前の選択がキャンセルされる
- メニューシステムのひとつ前の画面に戻る

EXIT を長押しすると、MY CAR の通常ビューになり、通常ビューの場合には、トップのメニュー階層(メインソースメニュー)が表示されます。

メニューオプションおよびサーチパス

MY CAR のメニューオプションおよびサーチパスの説明については、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。

トリップコンピューター

車両のトリップコンピューターは、走行中の距離、燃料消費量および平均速度などの値を記録および計算します。

トリップコンピューターの内容と外観は、コンバインド・メーター・パネルがアナログ式か液晶デジタル式かによって異なります。

- トリップコンピューター – アナログ式コンバインド・メーター・パネル (p. 158)
- トリップコンピューター – 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル (p. 162)

トリップコンピューターの情報は、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイ [29] に表示することができます。

トリップメーター(走行距離計)

トリップコンピューターにはトリップメーターが 2 つと、総走行距離用のオドメーターが 1 つあります。

平均燃費

リセットした後の平均燃費を表示します。

注意

フューエルドリブンヒーター*が使用されている場合には、若干の誤差が生じる場合があります。

平均速度

平均速度は最後に 0 にリセットしてからの走行距離で計算されます。

現在の瞬間燃費

現在の燃費の情報はつねに更新されます(約 1 秒間に 1 回)。低速走行時は時間当たりの消費量情報が表示され、高速走行時は距離当たりの消費量情報が表示されます。

トリップコンピューターに表示する単位(km/miles)を選択することができます。「単位の変更」(p. 156)の項を参照してください。

走行可能距離

トリップコンピューターに、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離が表示されます。

走行可能距離 の項目が「――」を表示した場合、走行可能距離は残っていないことを示しています。

- その場合は、すみやかに燃料を補給してください。

30 km 前から現在までの平均燃費と、現在の燃料残量に基づいて、走行予想距離を算出します。

注意

車両走行状況の変動により、若干の誤差が生じる場合があります。

経済走行スタイルを心がけると、多くの場合、走行できる距離が長くなります。燃費への影響についての詳細は、「ボルボ・カー・コーポレーションの環境フィロソフィー」(p. 25)を参照してください。

デジタル速度表示の単位の変更 [30]

メインパネルに mph の目盛りがついている場合、同等の速度が km/h にてデジタル表示されます。

単位の変更

距離および燃料の単位は、メニューシステム **MY CAR** で変更することができます。MY CAR (p. 154)を参照してください。

[29] ディスプレイの外観と表示は、メーター・パネルのタイプに応じて異なることがあります。
[30] 特定市場の液晶デジタルメーター・パネル装備車両のみ

注意

これらの単位は、トリップコンピューターだけでなくボルボのナビゲーションシステム*でも変更されます。

関連情報

- トリップコンピューター – アナログ式コンバインド・メーター・パネル（p. 158）
- トリップコンピューター – 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル（p. 162）
- トリップコンピューター – 走行統計*（p. 166）

トリップコンピューター – アナログ式コンバインド・メーター・パネル

トリップコンピューターの情報はコンバインド・メーター・パネルに表示することができ、左側レバースイッチのコントロールおよびコンバインド・メーター・パネルのメニューで操作することができます。

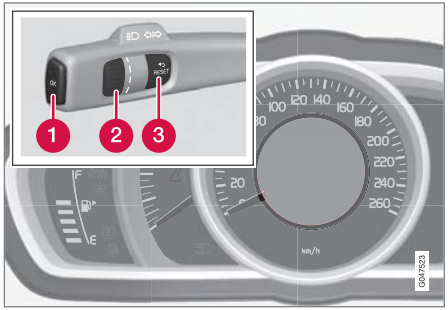
ロック解除でコンバインド・メーター・パネルが自動点灯するとすぐに確認および設定が可能です。運転席ドアが開いてから約 30 秒以内にどのトリップコンピューターのコントロールも起動しない場合は、メーターが消灯します。その後、トリップコンピューターを作動させるには、キー位置を II にするか、エンジンを始動する必要があります。

注意

トリップコンピューターを使用する際に警告メッセージが表示されたら、トリップコンピューターを再起動する前に、まずメッセージを確認してください。

- 方向指示器レバーの OK ボタンを軽く押して、メッセージを確認してください。

コントロール



インフォメーション・ディスプレイおよびメニューコントロール

1. **OK** – コンバインド・メーター・パネルのメニューを開く、メッセージを確認する、またはメニュー選択を確定するときに使用します。
2. **コントロールダイヤル** – メニューオプションまたはトリップコンピューターオプションをスクロールするときに使用します。
3. **RESET** – 現在のトリップメーターをリセットする、または前のメニュー項目に戻るときに使用します。

TC オプション

表示するトリップコンピューターを選択します。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
2. コントロールダイヤルを回してオプションをスクロールし、必要な項目を選択します。

コンバインド・メーター・パネルのトリップコンピューター表示は、走行中にいつでも別のオプションに切り替えることができます。トリップコンピューターを表示しないというオプションもあります。

コンバインド・メーター・パネルのトリップコンピューターの項目	インフォメーション
トリップメーター(走行距離計)**T1 総距離**	• **RESET** を長押しするとトリップメーター T1 がリセットされます。
トリップメーター(走行距離計)**T2 総距離**	• **RESET** を長押しするとトリップメーター T2 がリセットされます。
走行可能距離	詳細は「走行可能距離」(p. 156)を参照してください。
燃料消費	現在の燃費。
平均速度	• **RESET** を長押しすると **平均速度** がリセットされます。
トリップコンピューターインフォメーションなし。	このオプションではディスプレイになにも表示されません。また、ループの最初/最後を示します。

トリップコンピューターのリセット

1. コントロールダイヤルを回し、リセットするトリップコンピューターの項目を選択します(**T1 総距離**、**T2 総距離**、**平均速度**)。
2. **RESET** を長押しすると、選択した項目の値がリセットされます。

   それぞれ項目はひとつずつリセットする必要があります。

コンバインド・メーター・パネルのメニューの機能

コンバインド・メーター・パネルのメニューには、トリップコンピューターの設定オプションが含まれています。メニューを開いて、次表の機能を確認/調節します。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
2. **OK** を押します。
3. コントロールダイヤルで機能をスクロールし、**OK** で選択/決定します。
4. 確認/調節が終わったら、**RESET** を 2 回押して終了します。

機能	インフォメーション
ﾃﾞｼﾞﾀﾙ速度 • km/h • mph • ディスプレイなし	車速をコンバインド・メーター・パネルの中央にデジタル表示します。
ﾋｰﾀｰ* • ダイレクトスタート • タイマー１ – 時間を選択するためのメニューが表示されます。 • タイマー２ – 時間を選択するためのメニューが表示されます。	タイマーのプログラミングについては、エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – タイマー（p. 185)を参照してください。
補助ﾋｰﾀｰ* • **ｵｰﾄON** • **OFF**	詳しくは、アディショナルヒーター*（p. 189)を参照してください。
TCｵﾌﾟｼｮﾝ • 走行可能距離 • 燃費 • 平均速度 • トリップメーター(走行距離計)**T1 総距離** • トリップメーター(走行距離計)**T2 総距離**	ここから、トリップコンピューターで選択可能にしたいオプションを起動することができます。すでに選択しているオプションのシンボルは白で表示され、チェックマークが入っています。その他の項目はグレーで表示され、チェックマークは入っていません。
ｻｰﾋﾞｽ状態	次のサービスまでの月数および走行距離を表示します。

* オプション/アクセサリー。

機能	インフォメーション
ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ[A]	詳しくは、エンジンオイル – 点検および補充（p. 410）を参照してください。
ﾒｯｾｰｼﾞ（##）	詳しくは、メッセージ – 取り扱い（p. 154）を参照してください。

A 一部のエンジン。

関連情報

- トリップコンピューター（p. 156）
- トリップコンピューター – 走行統計*（p. 166）

トリップコンピューター – 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル

トリップコンピューターの情報はコンバインド・メーター・パネルに表示することができ、左側レバースイッチのコントロールおよびコンバインド・メーター・パネルのメニューで操作することができます。

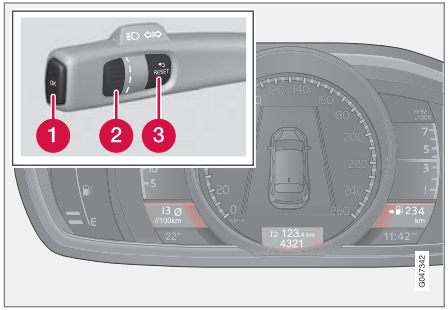
ロック解除でコンバインド・メーター・パネルが自動点灯するとすぐに確認および設定が可能です。運転席ドアが開いてから約 30 秒以内にどのトリップコンピューターのコントロールも起動しない場合は、メーターが消灯します。その後、トリップコンピューターを作動させるには、キー位置を II にするか、エンジンを始動する必要があります。

注意

トリップコンピューターを使用する際に警告メッセージが表示されたら、トリップコンピューターを再起動する前に、まずメッセージを確認してください。

- 方向指示器レバーの OK ボタンを軽く押して、メッセージを確認してください。

コントロール



トリップコンピューターの 3 つのオプションを各「ウィンドウ」に同時に表示することができます。

1. **OK** – コンバインド・メーター・パネルのメニューを開く、メッセージを確認する、またはメニュー選択を確定するときに使用します。
2. **コントロールダイヤル** – メニューオプションまたはトリップコンピューターオプションをスクロールするときに使用します。
3. **RESET** – 現在のトリップメーターをリセットする、または前のメニュー項目に戻るときに使用します。

TC オプション

表示するトリップコンピューターを選択します。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
2. コントロールダイヤルを回して項目の組み合わせをスクロールします。
3. この走行データをコンバインド・メーター・パネルに常時表示させるために必要な組み合わせを選択します。

コンバインド・メーター・パネルのトリップコンピューター表示は、走行中にいつでも別のオプションに切り替えることができます。トリップコンピューターを表示しないというオプションもあります。

項目の組み合わせ			インフォメーション
平均燃費	トリップメーター T1 + メーター値	平均速度	• **RESET** を長押しするとトリップメーター T1 がリセットされます。
現在の瞬間燃費	トリップメーター T2 + メーター値	走行可能距離	• **RESET** を長押しするとトリップメーター T2 がリセットされます。
現在の瞬間燃費	メーター値	kmh<>mph	kmh<>mph – 「デジタル速度表示の切替」(p. 156)の項を参照してください。
	トリップコンピューターインフォメーションなし。		このオプションはトリップコンピューターの 3 つすべての表示を消灯します。これはループの始まりと終わりの目安になります。

トリップコンピューターのリセット

トリップメーター(走行距離計)

1. コントロールダイヤルを回し、リセットするトリップメーターの項目の組み合わせを選択します。
2. **RESET** を長押しすると、選択した項目の値がリセットされます。

平均速度および平均燃費

1. **OK** を押して、コンバインド・メーター・パネルのメニューを開きます。
2. コントロールダイヤルで **ﾄﾘｯﾌﾟｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ ﾘｾｯﾄ** メニューオプションをスクロールし、**OK** で確定します。
3. 平均燃費のリセット、平均速度のリセットまたは両方のリセットを選択します。**OK** で選択を確定します。
4. **RESET** を押して手順を完了します。

コンバインド・メーター・パネルのメニューの機能

コンバインド・メーター・パネルのメニューには、トリップコンピューターの設定オプションが含まれています。メニューを開いて、次表の機能を確認/調節します。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
2. **OK** を押します。
3. コントロールダイヤルで機能をスクロールし、**OK** で選択/決定します。
4. 確認/調節が終わったら、**RESET** を 2 回押して終了します。

機能	インフォメーション
ﾄﾘｯﾌﾟｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ ﾘｾｯﾄ • 平均燃費 • 平均速度	平均燃費および平均速度の値をリセットします。 この機能では、トリップメーター T1 および T2 の両方はリセットされません。
ﾒｯｾｰｼﾞ	詳しくは、メッセージ – 取り扱い (p. 154)を参照してください。
ﾃｰﾏ	コンバインド・メーター・パネル(p. 102)の外観のテーマを選択します。
設定*	ｵｰﾄON または OFF を選択します。 詳しくは、アディショナルヒーター* (p. 189)を参照してください。
ｺﾝﾄﾗｽﾄﾓｰﾄﾞ/ｶﾗｰﾓｰﾄﾞ	コンバイド・メーター・パネルの輝度と色の強度を調節します。
ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾋｰﾀｰ* • ﾀﾞｲﾚｸﾄｽﾀｰﾄ • シンボル タイマー 1 – 時間を選択するためのメニューが表示されます。 • シンボル タイマー 2 – 時間を選択するためのメニューが表示されます。	タイマーのプログラミングについては、エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – タイマー (p. 185)を参照してください。
ｻｰﾋﾞｽ状態	次のサービスまでの月数および走行距離を表示します。
ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙA	詳しくは、エンジンオイル – 点検および補充 (p. 410)を参照してください。

A 一部のエンジン

関連情報

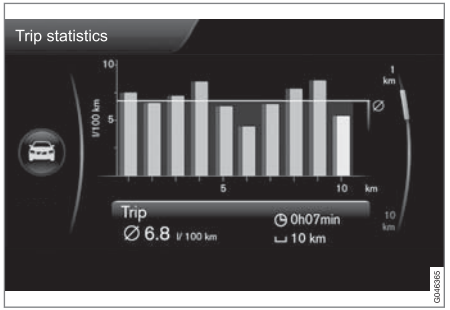
- トリップコンピューター（p. 156）
- トリップコンピューター – 走行統計*（p. 166）

トリップコンピューター – 走行統計*

トリップコンピューターの走行統計はセンターコンソールの画面に表示されます。この統計では、燃費の概要がグラフィック表示されます。

機能

– メニューシステム MY CAR (p. 154)を開き、**トリップ統計** を選択して棒グラフを表示させます。



走行統計 [31]

選択されている縮尺に応じて、各バーは走行済みの距離 1 km もしくは 10 km を意味します。もっとも右端のバーは、現在走行中の 1 km または 10 km を示します。

TUNE コントロールを使うと各バーの縮尺を 1 km と 10 km の間で切り替えることができます。選択した縮尺に応じて右端のカーソルの位置が上下に変化します。

設定

走行統計の設定はメニューシステム **MY CAR** – **トリップ統計** で変更することができます。

- **車が 4h 以上 OFF ならﾘｾｯﾄ** – **ENTER** を選択してボックスをハイライトし、**EXIT** を選択してメニューを終了します。このオプションが選択されている場合、走行を終えて車両を 4 時間以上静止させると、すべての統計データが自動的に削除されます。次回エンジンが始動すると、走行統計はゼロからスタートします。
- **新しいトリップの開始** – **ENTER** を使用すると今までの統計をすべて削除し、**EXIT** を選択するとメニューを終了することができます。4 時間が経過する前に次の走行サイクルを始める場合には、このオプションを使用して現在のデータを手動で消去する必要があります。

Eco guide(p. 106)についての情報もご覧下さい。

関連情報

- トリップコンピューター (p. 156)

[31] 図は概略図です。配置は、車両モデルまたはソフトウェアのアップデートにより異なる場合があります。

エアコンディショナー

エアコンディショナーご使用にあたって

車両には、オートマチック・エアコンディショナー(p. 174)が装備されています。車内の冷暖房と除湿をコントロールします。

注意

エアコンディショナーシステム(AC)(p. 178)をオフにすることもできますが、最適な車内環境を維持し、またウインドが曇ることを防ぐため、つねにオンの状態にしてください。

注意事項

- エアコンディショナーの効果を上げるため、パワーウインドおよびサンルーフ* を閉めてください。
- グローバルオープニング機能(p. 223)は、すべてのパワーウインドを同時に開閉します。気温が高く、空気を素早く取り入れたい場合などに使用できます。
- 車内への外気取入口は、ボンネットとウインドスクリーンの間のグリル部分にあります。この部分に溜った氷や雪は、必ず取り除いてください。
- 気温が高いときは、空気中の水分がエアコンディショナーの内部で凝結して、凝結水が車両の下へ流れ出る場合があります。これは異常ではありません。
- フル加速などのためにエンジンの全出力が必要な場合、エアコンディショナーが一時的にオフになることがあります。その間、車内温度が上がったように感じる場合があります。
- ウインドスクリーン内側の曇りをとる際は、デフロスター機能(p. 178)使用してください。ウインドの内側を曇りにくくするため、ウインド内側をガラスクリーナーで清掃してください。

Start/Stop* 装備の車両

エンジンがオートストップ(p. 339)した場合には、エアコンディショナーのファンの速度(p. 176)など一部の機器で機能が一時的に制限される場合があります。

ECO*装備の車両

ECO(p. 347)機能がオンのときには、エアコンディショナー(p. 178)など、一部の機器で機能が一時的に制限または解除される場合があります。

注意

ECO 機能をオンにすると、エアコンディショナーシステムの設定のいくつかのパラメーターが変更され、一部の電力消費機器の機能が制限されます。一部の設定は手動でリセットできますが、すべての機能を回復させるには、ECO 機能をオフにする必要があります。

関連情報

- 実際の温度 (p. 169)
- メニュー設定 – エアコンディショナー (p. 171)
- オートマチック・エアコンディショナー – ECC (p. 174)
- 車内のエアディストリビューション (p. 171)
- エア・クオリティ (p. 169)

* オプション/アクセサリー。

実際の温度

車内で選択する温度は、その時点での車内および車両付近の周辺温度、気流速度、湿度、日射量などによる体感温度に対応します。

システムには車内のどちら側に日光が当たっているかを感知するソーラーセンサー(p. 169)が備わっています。左右両側を同じ温度に設定しても、左右の空気吹出口から流れる空気の温度が異なる場合があります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)
- 車内の温度コントロール (p. 177)

センサー – エアコンディショナー

エアコンディショナーシステムは、複数のセンサーを使用して車内の温度(p. 169)を調節します。

- ソーラーセンサーは、ダッシュボード上部に装着されています。
- 車内温度センサーは、エアコンディショナーコントロールパネルの下に装着されています。
- 外気温センサーは、ドアミラーに装着されています。
- 湿度センサー*は、ルームミラーのそばに取り付けられています。

注意

センサーが衣服などで覆われることがないように注意してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)

エア・クオリティ

車内の内装は接触アレルギーや喘息を持つ方にも快適な設計です。

- クリーンエアフィルター(p. 170)
- 車内の素材(p. 171)
- クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)(p. 170)*
- インテリア・エア・クオリティ・システム(IAQS)(p. 170)*

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)

エア・クオリティ – クリーンエアフィルター

車内に入る空気は、クリーンエアフィルターを通過して浄化されます。

このフィルターは、定期的に交換することが必要です。推奨交換間隔は、ボルボ社のサービスプログラムに従ってください。埃や塵などの多い場所を走行する場合は、さらに頻繁な交換が必要です。

注意

クリーンエアフィルターには、数種類のタイプがあります。適切なクリーンエアフィルターを装着してください。

関連情報

- エア・クオリティ（p. 169）

エア・クオリティ – クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)*

CZIP は、アレルギー源や喘息を引き起こす物質を車内から除去する一連の機能で構成されています。

次の事項が含まれています。

- 拡張ファン機能は、リモートコントロールキーでロック解除したときにファンを作動させます。ファンにより、車内に新鮮な空気を導入します。この機能は必要に応じて作動し、一定時間が経過した後か、いずれかのドアを開けたときに解除されます。ファンの作動時間は、必要性の減少に応じ、車両製造後 4 年間を経過するまでの間に徐々に短くなります。
- 空気清浄システム IAQS（p. 170）は、車内の空気から、微粒子、炭化水素、窒素酸化物、地表オゾンなどの有害物質を除去するフルオートマチックシステムです。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって（p. 168）
- エア・クオリティ（p. 169）

空気の質 – IAQS*

エア・クオリティ・システム(IAQS)は、車内の空気から埃などの微粒子やガスを分離して、臭いや空気の汚れを低減します。

センサーが外気の汚れを感知すると空気取入口を閉じて、内気のリサーキュレーションに切り替えます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

注意

車内の空気を清浄に保つため、エア・クオリティ・センサーは常時作動させてください。

寒冷気候では、曇りを防止するためにリサーキュレーション機能は制限されています。

曇りが発生したら、エア・クオリティ・センサーの使用を停止し、ウインドスクリーンおよびパワーウインド、リアウインド用のデフロスター機能を使用してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって（p. 168）
- エア・クオリティ（p. 169）
- エア・クオリティ – クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)*（p. 170）

* オプション/アクセサリー。

エア・クオリティ – 素材

これらの素材は、車内に埃を発生させにくく、清掃しやすいように開発されたものです。

車内およびカーゴスペースのカーペットは、簡単に取り外して清掃することができます。ボルボ推奨のクリーナーとカーケア用品を使用して、車内を清掃(p. 452)してください。

関連情報

- エア・クオリティ (p. 169)

メニュー設定 – エアコンディショナー

エアコンディショナーの機能の 6 つについては、センターコンソールを使用して、起動/解除または出荷時の設定から変更することができます。

- オートマチック・エアコンディショナー(p. 177)作動中のファン速度
- リサーキュレーションタイマー(p. 179)
- リアウインドデフロスター(p. 147)のオートスタート
- インテリア・エア・クオリティ・システム* (p. 170)
- 運転席シートヒーター(p. 175)のオートスタート
- ステアリングホイールヒーター(p. 127)のオートスタート

詳しくは、メニューシステム(p. 154) の説明を参照してください。

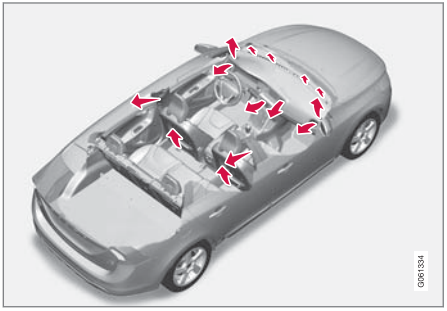
エアコンディショナーシステムの機能は、メニューシステム MY CAR で工場出荷時の設定にリセットできます。メニューシステムについては、MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)

車内のエアディストリビューション

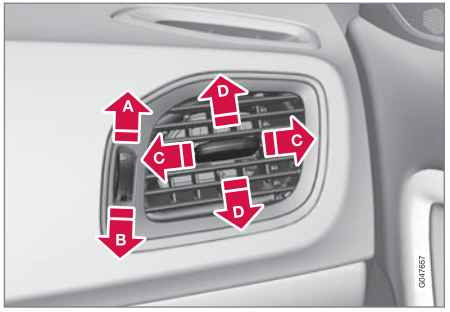
外気は、車内数箇所の空気吹出口に分配されます。



エアディストリビューションは、**AUTO** モードで自動的に制御されます。

必要に応じて手動でも操作できます。エアディストリビューションの一覧表(p. 180)を参照してください。

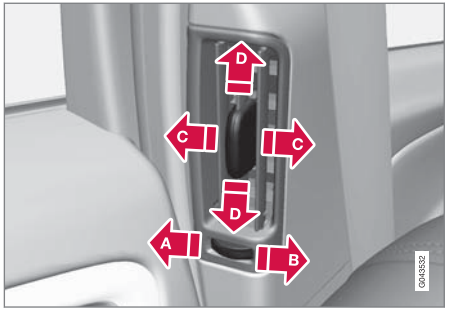
ダッシュボードの空気吹出口



- A 開ける
- B 閉める
- C 左右方向の送風
- D 上下方向の送風

パワーウインドの曇りを取り除く際は、両サイドの空気吹出口の吹き出し方向をパワーウインド側に向けます。

ドアピラーの空気吹出口



- A 閉める
- B 開ける
- C 左右方向の送風
- D 上下方向の送風

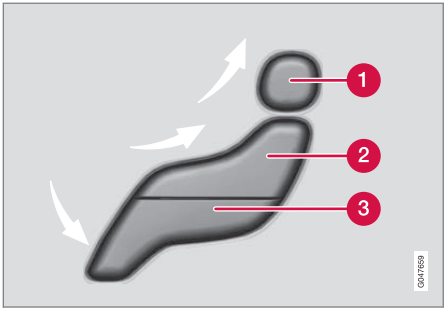
気温が低いときにウインドの曇りを取り除くには、空気吹出口の吹き出し方向をウインド側に向けます。

気温が高いときにリアシートに送風するには、空気吹出口の吹き出し方向をリアシート側に向けます。

注意

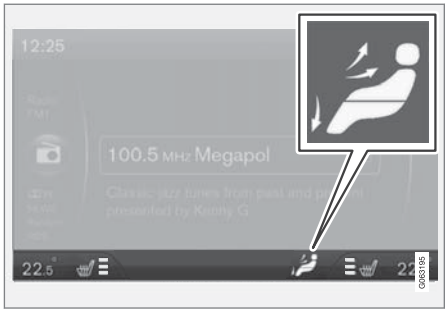
小さなお子様は、風に敏感ですのでご注意ください。体調を崩すおそれがあります。

エアディストリビューション



1. エアディストリビューション – ウインドスクリーンデフロスター
2. エアディストリビューション – ダッシュボード空気吹出口
3. エアディストリビューション – フロアベンチレーション

ここには、3 個のボタンがあります。ボタンを押すと対応したアイコンが画面に点灯し(次図参照)、アイコン前方に選択されているエアディストリビューションが表示されます。詳しくは、エアディストリビューションの一覧表 (p. 180) を参照してください。



選択されているエアディストリビューションがセンターコンソールの画面に表示されます。

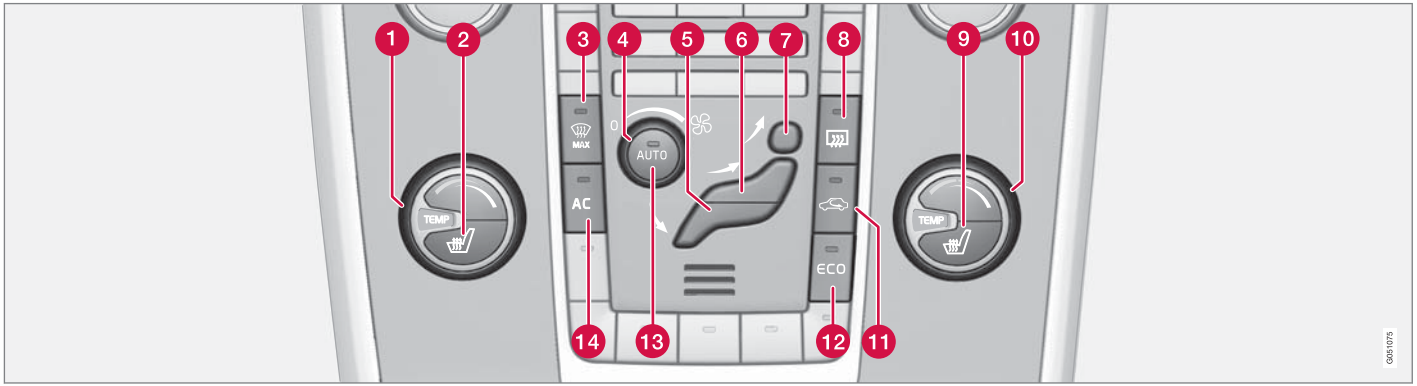
関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって（p. 168）
- 自動調節（p. 177）
- エアディストリビューション – リサーキュレーション（p. 179）

オートマチック・エアコンディショナー – ECC

ECC(オートマチック・エアコンディショナー)は、選択した車内温度を維持します。運転席側と助手席側でそれぞれ異なる温度を設定することができます。

自動機能は、温度、エアコンディショナー、ファン速度、リサーキュレーション、エアディストリビューションを自動で調節します。



1. 左側温度調節ダイヤル(p. 177)
2. 電気式フロントシートヒーター(p. 175)、左側
3. ヒーテッドウインドスクリーン*および最大デフロスター(p. 178)
4. ファン(p. 176)
5. エアディストリビューション(p. 171) – フロアベンチレーション
6. エアディストリビューション – ダッシュボード空気吹出口
7. エアディストリビューション – ウインドスクリーンデフロスター
8. リアウインドおよびドアミラーデフロスター(p. 147)
9. 電気式フロントシートヒーター(p. 175)、右側
10. 右側 温度調節ダイヤル(p. 177)
11. リサーキュレーション(p. 179)
12. ECO* (p. 347)
13. **AUTO** – オートマチック・エア・コンディショナー(p. 177)
14. **AC** – エアコンディショナーオン/オフ(p. 178)

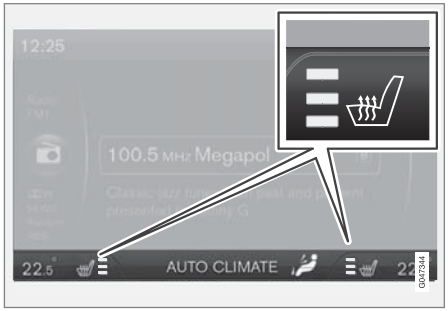
関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって(p. 168)

* オプション/アクセサリー。

フロントシートヒーター*

フロントシートヒーターはヒーターレベルを3段階に調節できます。寒い日でも快適に過ごすことができます。



現在のヒーターレベルは、センターコンソールの画面に表示されています。

レベルを変更する、または機能をオフにするには、ボタンを繰り返し押します。

ヒーターには以下の3段階のヒーターレベルがあります。

- ヒーターレベル「強」 – センターコンソールの画面にオレンジ色のランプが3個点灯します(前図参照)。
- ヒーターレベル「中」 – 画面にオレンジ色のランプが2個点灯します。
- ヒーターレベル「弱」 – 画面にオレンジ色のランプが1個点灯します。
- ヒーターがオフになります。ランプはすべて消灯します。

⚠ 警告

ヒーテッドシート機能の温度変化や温度上昇を感じにくい方や、ヒーテッドシートの操作のわからない方は、ヒーテッドシートに着座しないでください。火傷を負うおそれがあります。

運転席シートヒーターのオートスタート

運転席シートヒーターのオートスタート機能を作動させておくと、エンジン始動時に運転席シートのヒーターレベルが「強」になります。

オートスタートは車両が冷えていて、周囲温度が約+10 ℃未満のときに作動します。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムについては、MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)
- リアシートヒーター* (p. 176)

リアシートヒーター*

リアシート[1]のドア側シートではヒーターレベルを3段階に調節できます。寒い日でも快適に過ごすことができます。

現在のヒーターレベルは、プッシュボタンのランプに表示されます。

レベルを変更する、または機能をオフにするには、ボタンを繰り返し押します。

ヒーターには以下の3段階のヒーターレベルがあります。

- ヒーターレベル「強」 – ランプが3個点灯します。
- ヒーターレベル「中」 – ランプが2個点灯します。
- ヒーターレベル「弱」 – ランプが1個点灯します。
- ヒーターがオフになります。ランプはすべて消灯します。

⚠ 警告

ヒーテッドシート機能の温度変化や温度上昇を感じにくい方や、ヒーテッドシートの操作のわからない方は、ヒーテッドシートに着座しないでください。火傷を負うおそれがあります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)
- フロントシートヒーター* (p. 175)

ファン

ファンはウインドの曇りを防ぐため、つねに作動させてください。

ⓘ 注意

ファンが完全に停止していて、エアコンディショナーがオフのときは、ウインド内側が曇るおそれがあります。

ファンノブ

ノブを回して、ファンスピードを調節します。**AUTO** を選択している場合、ファン速度は 自動で(p. 177)調整されます。前回設定されていたファン速度は解除されます。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)
- オートマチック・エアコンディショナー – ECC (p. 174)

[1] インテグレーテッドチャイルドシート(p. 86)の装備を選択した場合、リアシートヒーターは装備されていません。

自動調節

この自動機能は、温度(p. 177)、エアコンディショナー(p. 178)、ファンスピード(p. 176)、リサーキュレーション(p. 179)、エアディストリビューション(p. 171)を自動的に調節します。

これらの機能のいずれかを手動に切り替えても、それ以外の機能は自動的にコントロールされ続けます。**AUTO** を押すと、手動設定はすべて解除されます。画面に **オートエアコン** が表示されます。

自動モードのファン速度はメニューシステム MY CAR で設定することができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

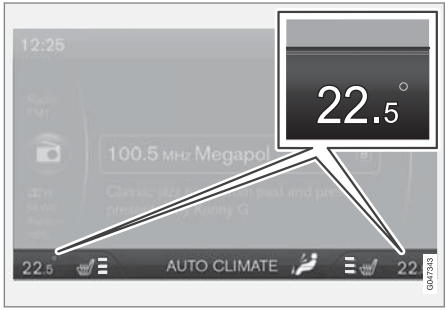
- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)

車内の温度コントロール

エンジンを始動すると、前回の温度設定が再開します。

注意

希望する温度より高い温度または低い温度にセットしても、希望した温度に達するまでの時間が早まることはありません。



現在の温度がセンターコンソールの画面の両側に表示されます

温度はノブを用いて、運転席側および助手席側別々に調整できます。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)
- 実際の温度 (p. 169)
- オートマチック・エアコンディショナー – ECC (p. 174)

エアコンディショナー

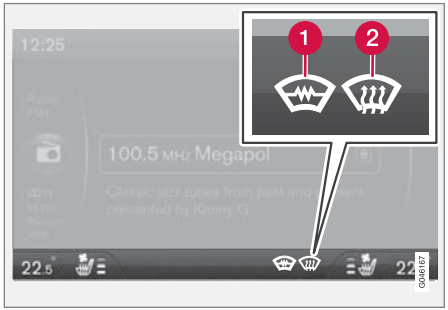
エアコンディショナーは、必要に応じて冷房や除湿を行います。

AC ボタン内の LED が点灯している場合には、冷暖房はシステムにより自動制御されています。

AC ボタン内の LED が消灯している場合には、冷暖房は解除されています。それ以外の機能は、引き続き自動制御されています。最大デフロスター機能 (p. 178) をオンにすると、エアコンディショナーが自動的に作動し、最大設定で除湿を行います。

ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去

ヒーテッドウインドスクリーン*と最大デフロスターを使用すると、ウインドスクリーンやパワーウインドの曇りや霜を素早く除去できます。



選択の設定がセンターコンソールの画面に表示されます。

1. ヒーテッドウインドスクリーン*
2. 最大デフロスター

この機能は、ボタンの LED が点灯しているときに作動します。

レベルを変更する、または機能をオフにするには、ボタンを繰り返し押します。

ヒーテッドウインドスクリーン非装備車のデフロスターのレベルは 1 つだけです。

- ウインドへの送風 – 画面にシンボル (2) が点灯します。
- 機能がオフになる – シンボルが消灯します。

ヒーテッドウインドスクリーン装備車のデフロスターにはレベルが 2 つあります。

- ウインドスクリーンヒーターの起動 [2] – 画面にシンボル (1) が点灯します。
- ウインドスクリーンヒーターの起動 [2] とウインドへの送風 – 画面にシンボル (1) および (2) が点灯します。
- 機能がオフになる – シンボルが消灯します。

注意

ヒーテッドウインドスクリーンおよび赤外線ウインド (p. 23) は、トランスポンダーやその他の通信機器の性能に影響をおよぼすことがあります。

[2] ウインドスクリーンヒーターが作動し C の文字がリアビューミラーに表示された場合は、必ずコンパス (p. 148)*の再調整を行ってください。

* オプション/アクセサリー。

注意

ウインドスクリーンの各側の端にある三角部分には電熱機能がないため、他の部分よりも除氷に時間がかかることがあります。

注意

エンジンがオートストップ(p. 339)すると、ヒーテッドウインドスクリーンは利用できなくなります。

車内の除湿効果を最大にするため、最大デフロスター機能がアクティブになると、次の操作も実施されます：

- エアコンディショナーが自動的に作動します。
- 車内のリサーキュレーションシステムと空気清浄システムが自動的に停止します。

注意

ファンが最高速度で作動すると、ノイズレベルが増加します。

デフロスターをオフにすると、エアコンディショナーは元の設定に戻ります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)

エアディストリビューション – リサーキュレーション

リサーキュレーションを選択するといやな臭いや排気ガスなどが車内へ侵入するのを防ぐことができます。内気が循環し、外気が取り込まれません。

リサーキュレーション作動中は、ボタン内のオレンジ色のLEDが点灯します。

重要

リサーキュレーションを長時間続けると、特に冷寒時は霜や水滴が付着してウインドの内側が曇るおそれがあります。

タイマー

タイマー機能を作動させると、手動で作動させたリサーキュレーションモードが解除されます。解除までの時間は、外気温により異なります。ウインドに霜や曇りが付きにくくなり、汚れた空気が車内を循環し続けるおそれが少なくなります。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

注意

最大デフロスターを選択しているときは、リサーキュレーションは作動しません。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)
- 車内のエアディストリビューション (p. 171)
- エアディストリビューション – 一覧表 (p. 180)

エアディストリビューション – 一覧表

3 つのボタンを使用してエアの送風方向 (p. 171) を選択します。

	エアディストリビューション	用途
	ウインドに向けて送風。空気吹出口から送風。空気は内気循環されません。エアコンディショナーは常時作動します。	霜や曇りを早くとる場合。
	デフロスターベントを介してウインドスクリーンおよびリアウインドにエアを送風。空気吹出口から送風。	気温が低く湿度が高い気候条件下での曇りや霜を防ぎます(送風レベルを低くし過ぎないようにしてください)。
	ウインドに向けて送風、およびダッシュボードの空気吹出口から送風。	気温が高く乾燥した環境のときに、車内を快適な状態に保ちます。
	ダッシュボードの空気吹出口から、上半身に送風。	気温が高いとき、冷房効果を高めます。

	エアディストリビューション	用途
	フロアおよびウインドに向けて送風。ダッシュボードの空気吹出口から送風。	冷寒時、または湿度の高い環境のときに、車内を快適な状態に保ちます。
	フロアおよびダッシュボードの空気吹出口に送風。	快晴で涼しい外気温の場合。
	フロアに送風。ダッシュボードの空気吹出口およびウインドに向けて送風。	足元を暖房または冷房する場合。
	ウインドに向けて送風、ダッシュボードの空気吹出口から送風、およびフロアに送風。	高温の乾燥した気候のときにフロア付近を冷房する、または寒冷時に車内の上部を暖房する場合。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって（p. 168）
- エアディストリビューション – リサーキュレーション（p. 179）

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*

プリコンディショニングを行うと、出発前に車両のヒーター、エンジンおよび車内の準備を整えておくことができるため、走行中の摩耗やエネルギー消費を低減することができます。

このヒーターは、直接(p. 184)またはタイマー(p. 185)で起動することができます。

外気温が 15 ℃以上あるときは、ヒーターは作動しません。ヒーターの最長作動時間は 50 分です。

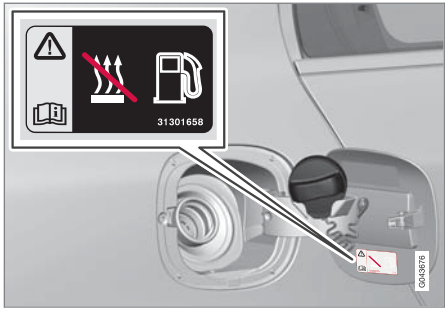
⚠ 警告

フューエルドリブンヒーターは屋内で使用しないでください。見えないところで排気ガスが発生しています。

ⓘ 注意

フューエルドリブンヒーターが作動すると、右側のホイールハウジングから煙が出る場合がありますが、これは異常ではありません。

燃料の補給



燃料給油口フラップの警告表示

⚠ 警告

燃料がこぼれると、引火するおそれがあります。燃料を補給する前に、フューエルドリブンヒーターのスイッチを必ずオフにしてください。

コンバインド・メーター・パネルでヒーターがオフになっていることを確認してください。ヒーターが作動している場合には、ヒーターのシンボルが表示されます。

坂道での駐車

急な坂道に駐車するときは、フューエルドリブンヒーターに燃料が供給されるように、車両前部が坂の下側を向くようにしてください。

バッテリーおよび燃料

バッテリーの充電量が低い場合、あるいは燃料残量が少ない場合、ヒーターが自動的に停止して、インフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。ステアリングホイールの方向指示器レバー(p. 151)の **OK** ボタンを 1 回押して、メッセージを確認してください。

❗ 重要

ヒーターを使用しての短距離走行を繰り返すと、バッテリーが放電し、エンジンが始動できなくなる場合があります。

定期的にパーキングヒーターを使用する場合は、ヒーターを作動させた時間と同じ時間、車両を走行するようにしてください。バッテリーを十分な充電状態に保つことができます。ヒーターは 1 回につき最長 50 分間使用されます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ (p. 187)
- アディショナルヒーター* (p. 189)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – ダイレクトスタート

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターは、直接始動することができます。

ダイレクトスタート操作方法

- インフォメーション・ディスプレイ
- リモートコントロールキー*
- 携帯*

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター(p. 183)をダイレクトスタートすると、ヒーターが 50 分間作動します。

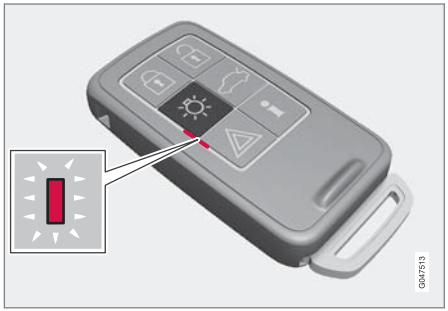
エンジン冷却水の温度が適切な温度に達すると、車内の暖房を開始します。

> **注意**
>
> ヒーター作動中でも、エンジンを始動して走行することができます。

インフォメーション・ディスプレイからのダイレクトスタート

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使って **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. ヒーターを作動させるには、次のメニューで **直接ｽﾀｰﾄ** までスクロールし、**OK** で選択します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

リモートコントロールキーでダイレクトスタートを起動*



PCC*付きリモートコントロールキーのインジケーターランプ

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターは、リモートコントロールキーを使用して作動させることができます。

– アプローチライト用のボタン を 2 秒間押したままにします。

  非常点滅灯は、合図の内容に応じて点滅パターンが異なります。

  - 5 回短く点滅した後、約 3 秒間点灯する – 信号が車両に届き、ヒーターの作動が開始された。
  - 5 回短く点滅する – 信号は車両に届いたが、ヒーターの作動は開始されていない。
  - 非常点滅灯が消灯したまま – 信号が車両に届いていない。

ヒーターが作動しているときにインフォメーションボタン を押すと、インジケーターランプがその状態を車両のロック状況(p. 210)と共に表示します。状態を確認している間、インジケーターランプは早い間隔で 2 回ずつ点滅し、ヒーターが作動するとランプは点灯したままになります。

ヒーター作動中は、トリップコンピューターにも状態が表示されます。

アプリ*によるダイレクトスタート

作動および選択した設定に関する情報は、Volvo On Call*アプリから利用することができます。

* オプション/アクセサリー。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – タイマー（p. 185）
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – 即時停止（p. 185）
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ（p. 187）

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – 即時停止

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターはインフォメーション･ディスプレイから直接オフにすることができます。

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使って **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. ヒーターをオフにするには､次のメニューで **停止** までスクロールして、**OK** を選択します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – ダイレクトスタート（p. 184）
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – タイマー（p. 185）
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ（p. 187）

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – タイマー

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター(p. 183)のタイマーは車両の時計に接続しています。

タイマーには 2 つの異なる時刻を設定できます。タイマーに表示される時刻とは、エンジンが暖機され始動できる状態になる時刻を意味します。車両の電子システムが、外気温に基づいてヒーターを作動させる時間を決定します。

> **注意**
>
> 車両の時計をリセットすると、プログラムされたタイマーの時刻はすべて消去されます。

調節 [3]

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤル(p. 151)を使用して、タイマー **ヒーター** の 1 つへスクロールし、**OK** で選択します。
3. コントロールダイヤルを使用して 2 つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で確定します。
4. **OK** を軽く押すと、点灯している時刻表示に移動します。

[3] タイマーの設定はエンジンを停止している場合のみ可能です。

5. 希望する時刻が表示されるまで、コントロールダイヤルを回します。
6. **OK** を押すと、分が点滅します。
7. 希望する分が表示されるまで、コントロールダイヤルを回します。
8. **OK**[4] を押して、設定を確定します。
9. **RESET** を使ってメニュー構成の前の画面に戻ります。
10. 2 つ目のタイマーを選択する(ステップ 2 の続き)か、**RESET** を押してメニューを終了します。

始動

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使って **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. コントロールダイヤルを使用して 2 つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で起動します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

機能オフ

タイマーで起動したヒーターを、設定時間の途中で停止させることができます。次の手順に従ってください。

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使って **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
   > タイマーが設定されていても起動されていない場合には、時計のアイコンが設定されている時間の隣に表示されます。
3. コントロールダイヤルを使用して 2 つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で確定します。
4. 次の操作を行いタイマーを解除します。
   - **OK** をしばらく押したままにします、もしくは
   - **OK** を軽く押して、メニューを続行します。その後タイマーの停止を選択し、**OK** で確定します。
5. **RESET** を押すとメニューを終了します。

タイマーで起動させたヒーターを(p. 185)機能をオフにすることができます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ (p. 187)

[4] **OK** をもう一度押すと、タイマーが起動します。

* オプション/アクセサリー。

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター(p. 183)に関するシンボルおよびディスプレイテキストは、コンバインド・メーター・パネル(p. 102)がアナログ式か液晶デジタル式かによって異なります。

ヒーターが起動すると、インフォメーション・ディスプレイ内のヒーターのシンボルが点灯します。

いずれかのタイマーが起動すると、起動したタイマーのシンボルがディスプレイに点灯し、同時にセットされている時間がシンボルの横に表示されます。

アナログ式コンバインド・メーター・パネルの起動タイマーのシンボル

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルの起動タイマーのシンボル

以下の表に、表示される表示・警告灯とディスプレイテキストがまとめられています。

シンボル	メッセージ	意味
		ヒーターが起動し、作動しています。
	燃料式ﾋｰﾀｰ停止 ﾊﾞｯﾃﾘｰ節電ﾓｰﾄﾞ	エンジンを始動しやすくするため、車両の電子機器によりヒーターが停止されました。

シンボル	メッセージ	意味
	燃料式ヒーター停止 燃料レベル低下	燃料残量が少ないため、ヒーターを起動することができません。これは、エンジンの始動と約 50 km の走行を可能にするためです。
	燃料式ヒーター サービスが必要です	ヒーターが作動していません。サービス工場に修理を依頼してください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

メッセージはしばらくすると自動的に消えます。または、方向指示器レバー(p. 151)の **OK** ボタンを押すと消えます。

アディショナルヒーター*

寒冷地[5]では、エンジンを作動温度に到達させ、車内を十分に暖房するためにアディショナルヒーターが必要な場合があります。

ディーゼルエンジン装備の車両には、フューエルドリブンアディショナルヒーター(p. 189)が装備されています。

準寒冷地[5]のディーゼルエンジン車両には、フューエルドリブンヒーターの代わりに電気アディショナルヒーター(p. 190)が装備されています。

一部ガソリンエンジン装備の車両[6]には、電気アディショナルヒーターが装備され、車両のエアコンディショナーシステムに一体化されています。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 183)

フューエルドリブンアディショナルヒーター*

車両には、電熱式(p. 190)またはフューエルドリブンアディショナルヒーター(p. 189)が装備されています。

アディショナルヒーターは、エンジン回転中に追加の暖房が必要になると自動的に作動します。

車内の温度が設定温度に達したとき、またはエンジンを停止したときに、自動的に停止します。

注意

アディショナルヒーターが作動すると、右側のホイールハウジングから煙が出る場合がありますが、これは異常ではありません。

オートモード/シャットダウン

必要に応じて、アディショナルヒーターの自動始動手順をオフにすることができます。

注意

ボルボでは、短距離の運転のときには、フューエルドリブンアディショナルヒーターをオフにしておくことをお薦めします。

1. エンジンを始動する前に:キー位置 I (p. 119) を選択してください。
2. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
3. コントロールダイヤルを使用して、 **補助ヒーター**[7] または **設定**[8] へスクロールし、**OK** で選択します。
4. コントロールダイヤルを使用して **ON** または **OFF** のいずれかを選択し、**OK** で確定します。
5. **RESET** を押すとメニューを終了します。

注意

メニューオプションは、キー位置 I のときにしか、表示されません。そのため、調整が必要であれば、エンジンを始動する前に実行してください。

車内ヒーター*

アディショナルヒーターにタイマー機能が装備されている場合は、車内ヒーター(p. 183)としても使用できます。

[5] 関連地域に関しては、ボルボ指定ディーラーにお問い合わせください。
[6] 関連エンジンに関しては、ボルボ指定ディーラーにお問い合わせください。
[7] アナログ式コンバインド・メーター・パネル
[8] 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル

電気アディショナルヒーター*

車両には、フューエルドリブン(p. 189)または電気アディショナルヒーター(p. 189)が装備されています。

ヒーターは手動で制御できませんが、その代わりに、外気温 14 ℃未満でエンジンが始動されると自動的に起動し、車内の温度が設定された温度に達すると自動的にオフになります。

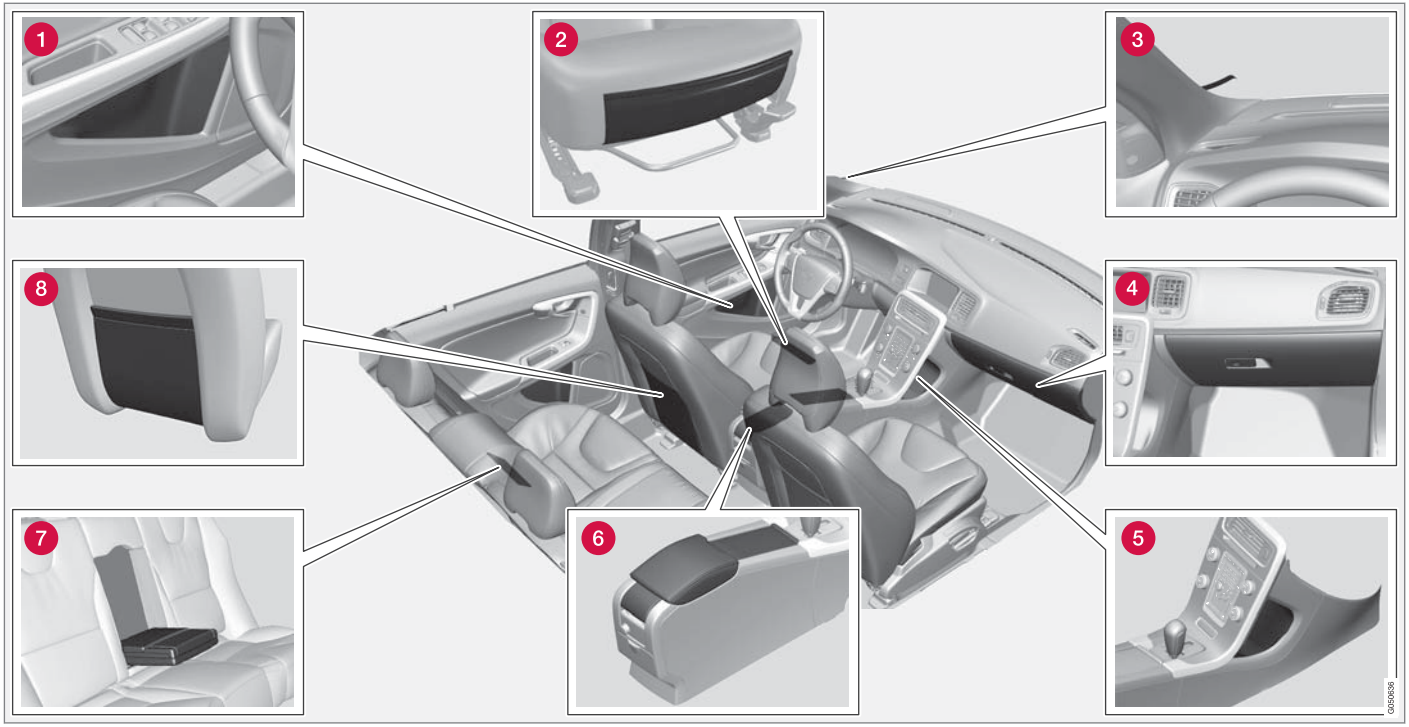
関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*（p. 183）

荷物の積み込みおよび収納

収納スペース

車内の収納スペースの概要



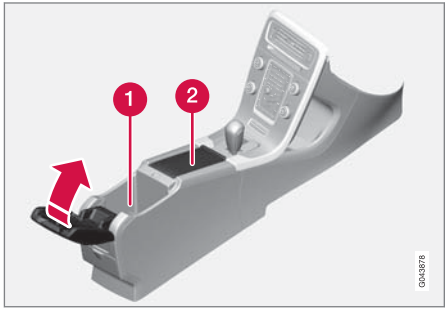
1. ドアパネルの小物入れ
2. フロントシートクッション前端部の収納ポケット*
3. チケットクリップ
4. グローブボックス(p. 194)
5. 小物入れ
6. 小物入れ、カップホルダー(p. 194)
7. リアシートアームレストのカップホルダー*
8. 小物入れポケット

⚠ 警告

携帯電話やカメラ、アクセサリー用リモートコントロールなど固定されていない物体は、グローブボックスや収納ポケットに収納しておいてください。急ブレーキをかけたときや衝突事故の際に、乗員がケガをするおそれがあります。

トンネルコンソール

トンネルコンソールはフロントシートの間にあります。



1. 収納ボックス(CD などの収納用)およびアームレスト下の USB*/AUX 端子
2. 運転席および助手席用カップホルダーを含みます。

関連情報

- 収納スペース（p. 192）

グローブボックス

グローブボックスは助手席側にあります。

オーナーズマニュアル、地図などを収納することができます。リッドの内側に、ペンなどのホルダーもあります。グローブボックスのロック*(p. 224）には、 キーブレード（p. 212）を使用します。

関連情報

- 収納スペース（p. 192）

フロアマット*

フロアマットはゴミや泥などを集めます。ボルボでは、専用開発したフロアマットをご用意しています。

⚠ 警告

各シートではフロアマットを 1 枚だけ使用してください。また、運転席のマットがペダルの横や下に引っかかることがないように、運転する前に、マットがピンに確実に固定されていることを確認してください。

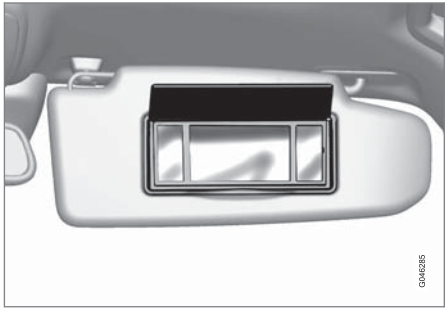
関連情報

- 内装の清掃（p. 452）

* オプション/アクセサリー。

メイクアップミラー

メイクアップミラーはサンバイザーの裏側にあります。



ランプ付きメイクアップミラー

カバーを開けると、ランプが点灯します。

関連情報

- ランプ交換 – メイクアップミラーランプ (p. 423)

トンネルコンソール – 12V 電源ソケット

電源ソケット(12V)はカップホルダー の横とトンネルコンソールの後ろにあります。

トンネルコンソールの 12V 電源ソケット(フロントシート)

トンネルコンソールの 12V 電源ソケット(リアシート)

この電源ソケットはディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話など、12V 電源用に設計されているさまざまなアクセサリーに使用することができます。電源ソケットを使用する際は、リモートコントロールキーをキー位置 I (p. 119)またはそれ以上に設定する必要があります。

⚠ 警告

電源ソケットを使用していないときは、つねにカバーをしておいてください。

注意

ディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話などのオプション装備品やアクセサリーが車内の 12V 電源ソケットに接続されたままになっていると、リモートコントロールキーが取り外されている場合や車両がロックされている場合であっても、例えばプリセットされた時間にパーキングヒーターが起動するときなどにエアコンディショナーシステムにより起動される場合があります。

このため、使用していないオプション装備品やアクセサリーは、電源ソケットから外すようにしてください。バッテリーが放電するおそれがあります。

重要

同時に 1 つしか電源ソケットを使用しない場合には、電源ソケットは最大 10A(120W)まで供給できます。トンネルコンソールの両方の電源ソケットを同時に使用する場合には、電源ソケットごとに 7.5A(90W)の制限が適用されます。

緊急パンクリペアーキット用コンプレッサーが 2 つの電源ソケットのいずれかに接続された場合には、他方の電源ソケットに電流消費機器を接続しないでください。

注意

緊急パンクリペア(p. 394)キット用コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。

関連情報

- 12V 電源ソケット – カーゴスペース*(p. 199)

荷物の積み込み

最大許容重量は、車両重量により異なります。

乗員および車両に装着されているアクセサリーの総重量の分だけ、最大許容重量は小さくなります。

重量についての詳細は、重量 (p. 461)を参照してください。

テールゲートはライティングパネル上のボタン、またはリモートコントロールキーにより開くことができます。ロック/ロック解除 – テールゲート (p. 224)を参照してください。

警告

車両の走行性能は、積載物の重量や積載位置の影響を受けます。

荷物の積み込みに関する注意事項

- 荷物は、リアシートのバックレストにもたれかかるように置いてください。

リアシートのバックレストのいずれかを折り畳む際には、荷物によってフロントシートの WHIPS システムの機能に支障が出ないように十分ご注意ください。WHIPS – 着座姿勢 (p. 74)を参照してください。

* オプション/アクセサリー。

- 荷物を中央に置いてください。
- 重い荷物は、できるだけ低い位置に載せてください。倒したバックレストに重い荷物を置くことは避けてください。
- 鋭利な荷物は、内張りを傷付けないように柔らかい物で覆ってください。
- 荷物はストラップなどを使用して、荷物固定用アイレットに確実に固定してください。

⚠ 警告

固定されていない 20 kg (44 ポンド)の荷物は、50 km/h (30 mph)の速度で前面衝突したときには 1,000 kg (2,200 ポンド)の衝撃に相当します。

⚠ 警告

荷物を高く積み上げると、インフレータブルカーテンの保護効果が損なわれるおそれがあります。

- バックレストよりも高い位置に、荷物を積み上げないでください。

⚠ 警告

荷物は、必ず確実に固定してください。急ブレーキをかけたときに荷物が投げ出されて、乗員が大ケガをするおそれがあります。

鋭利な荷物は、柔らかい物で覆ってください。

長いものの積み降ろしは、必ずエンジンを停止してパーキングブレーキをかけてから行なってください。荷物がギヤレバーやギヤセレクターに当たってギヤが入ると、車両が動き出すおそれがあります。

関連情報

- 荷物固定用アイレット (p. 198)
- カーゴネット* (p. 199)
- 荷物の積み込み – 長いもの (p. 197)
- ルーフの荷物 (p. 198)

荷物の積み込み – 長いもの

トランクルーム/カーゴスペースに荷物を積み込み(p. 196)やすくするため、リアシートバックレストを倒すことができます。長いものを載せるために、助手席シート[1] バックレストを前方に倒す*こともできます。

リアシートバックレストを倒す

リアシートバックレストを倒す必要がある場合、シート、リア (p. 124)を参照してください。

[1] コンフォートシートのみに適用されます。

ルーフの荷物

ルーフに荷物を積載するためのロードキャリアには、ボルボ開発のものが推奨されます。車両への損傷を防ぎ、走行中の安全を最大限に確保するためです。

ロードキャリアを取り付けるときは、付属の取付説明書に従ってください。

- ロードキャリアおよび荷物の固定状態をときどき点検してください。荷物はリテーニングストラップなどを使用して、確実に固定してください。
- ロードキャリア全体に重量が均等に配分されるように、荷物を載せてください。重い荷物は、下になるように載せてください。
- 荷物のサイズが大きい程空気抵抗が増えて、燃費が悪くなります。
- 安全運転を心がけてください。急発進、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。

⚠ 警告

ルーフ上に荷物を積載して走行するときは、車両の重心が変わり走行安定性が悪くなりますのでご注意ください。

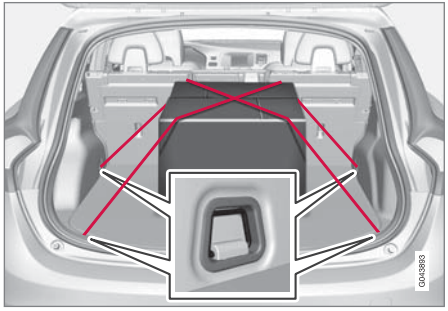
ルーフ最大許容荷重(ロードキャリアおよびスペースボックスなどを含む)については、重量（p. 461)を参照してください。

関連情報

- 荷物の積み込み（p. 196）

荷物固定用アイレット

折りたたみ式の荷物固定アイレットは、カーゴスペース内の荷物固定地点として、ストラップを固定するために使用されます。



⚠ 警告

硬い物や尖った物、重い物が確実に固定されていない場合には、急ブレーキの際に飛び出してケガの原因となるおそれがあります。

大きい物や重い物は、シートベルトまたはストラップベルトで必ず確実に固定してください。

関連情報

- 荷物の積み込み（p. 196）

荷物の積み込み – バッグホルダー*

バッグホルダーは、買い物袋などの固定に使用します。袋が倒れたり、袋の中の物がカーゴスペース内に散乱することを防ぎます。

フロアハッチ下のバッグホルダー

1. フロアハッチの一部となっているホルダーを開けます。
2. バッグをストラップで固定し、持ち手をフックにかけます。

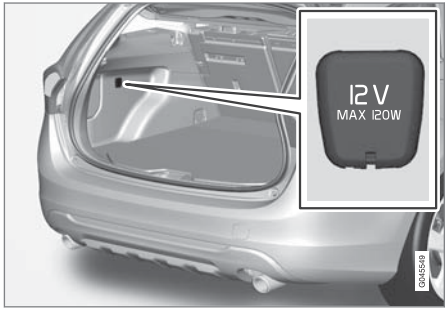
関連情報

- 荷物の積み込み（p. 196）

＊ オプション/アクセサリー。

12V 電源ソケット – カーゴスペース*

この電源ソケットはディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話など、12V 電源用に設計されているさまざまなアクセサリーに使用することができます。



電源ソケットを使用するときは、カバーを開けます。

- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチに挿入されていないときでも、電源ソケットには電流が通っています。

重要

最大 10A（120W）まで供給できます。

注意

エンジンが停止中に電源ソケットを使用すると、車両のバッテリーが放電してしまうおそれがありますので、ご注意ください。

注意

緊急パンクリペアーキット用コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。ボルボ推奨の緊急パンクリペアーキット(TMK)の使用については、緊急パンクリペアー（p. 394)を参照してください。

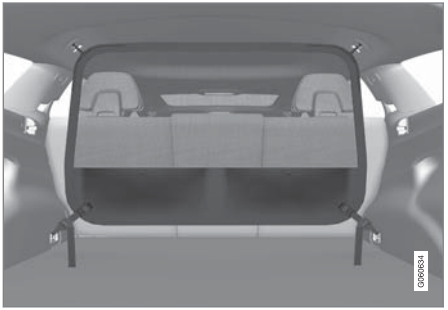
関連情報

- トンネルコンソール – 12V 電源ソケット（p. 195）

カーゴネット*[2]

カーゴネットは、急ブレーキの際などに荷物が座席に投げ出されることを防ぎます。

取り付け



安全のため、カーゴネットをつねに正しく取り付け、固定してください。

ネットは強靭なナイロン繊維製で、取り付け位置は、車内の 2 箇所から選択できます。

- リア装着 – リアシートバックレストの後ろ
- フロント装着 – フロントシートバックレストの後ろ

2 一部市場では標準装備。

⚠ 警告

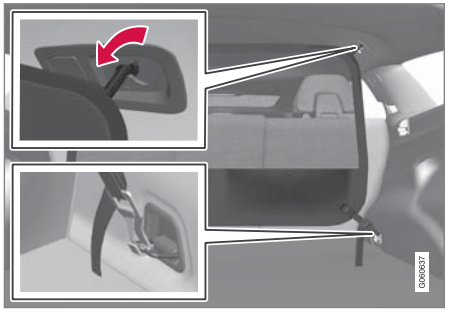
カーゴスペース内の積荷は確実に固定してください。また、正しく装着されたセーフティネットを使用してください。

リア装着

1. カーゴネットを広げます。カーゴネットの収納ポケットが後方を向いていることを確認してください。
2. ネットの固定フックの 1 つを後ろ側ルーフマウンティングに引っかけます。

   ネットのもう一方の固定フックを反対側のルーフマウンティングに引っかけます。

   ネットの固定フックを注意深く前方に押し、各ルーフマウンティングの前方エンドポジションに合わせてください。



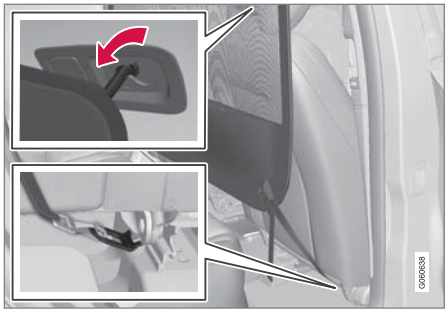
3. フックを左右の荷物固定用アイレットに引っかけ、ピンを下に押してストラップを引っ張ることで、カムロックを締めつけます。

フロント装着

1. カーゴネットを広げます。カーゴネットの収納ポケットが後方を向いていることを確認してください。
2. シートを可能な範囲でもっとも前方の位置まで動かします。
3. ネットの固定フックの 1 つを前側ルーフマウンティングに引っかけます。

   ネットのもう一方の固定フックを反対側のルーフマウンティングに引っかけます。

   ネットの固定フックを注意深く前方に押し、各ルーフマウンティングの前方エンドポジションに合わせてください。



4. フックを左右のシートレール上にあるアイレットに引っかけ、ピンを下に押してストラップを引っ張ることで、カムロックを締めつけます。

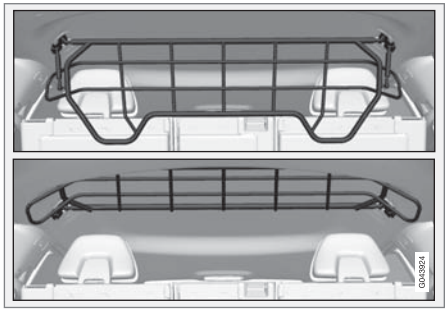
関連情報

- 荷物の積み込み（p. 196）
- スチールガードネット*（p. 201）

* オプション/アクセサリー。

スチールガードネット*

スチールガードネットは、急ブレーキの際などに荷物やペットが座席に投げ出されることを防ぎます。



設置

スチールガードネットの下部をつかみ、後方に引き/上げます。

重要

ラゲッジカバーが装着されている場合、スチールガードネットを設置する/収納することはできません。

取り付け/取り外し

スチールガードネットは、カーゴスペースを広く使うことが必要な場合には、簡単にルーフに収納しておくことができるので、通常、車両に取り付けたまましておきます。スチールガードネットは分解し、車両から取り外すこともできます。

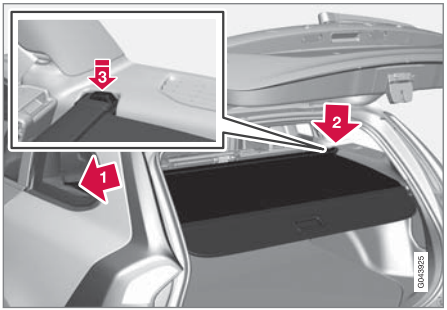
取り付け/取り外しに必要なツールや方法については、購入時に添付されていたインストラクション[3]をご覧ください。

安全のため、カーゴネットを付け直す際には、つねに正しく取り付け、固定してください。

関連情報

- カーゴネット*（p. 199）
- 荷物の積み込み（p. 196）
- 荷物固定用アイレット（p. 198）

ラゲッジカバー*[4]



カーゴスペースからラゲッジカバーを引き出して、カーゴスペースリアピラーリアポストにあるフックに引っかけます。

重要

ラゲッジカバーが装着されている場合、スチールガードネットを設置する/収納することはできません。

ラゲッジカバーの取り付け

1. ラゲッジカバーの片方のエンドピースを、サイドパネルの凹部に入れます。
2. もう一方のエンドピースを、反対側の凹部に入れます。

[3] インストールに関するインストラクション(no. 30756681)。
[4] 一部市場では標準装備。

3. 両側を押し込みます。正しく固定されると、カチッと音がして、赤いマークが見えなくなります。
   > 両方のエンドピースがロックされていることを確認してください。

ラゲッジカバーの取り外し

1. 片方のエンドピースのボタンを押し、エンドピースを持ち上げて出します。
2. 注意してカバーを上/外側に向けて傾けると、反対側のエンドピースは自動的に外れます。

ラゲッジカバーのリアシーリングディスクの収納

ラゲッジカバー巻取り状態で、ラゲッジカバーのリアシーリングディスクは、カーゴスペース内に水平に突き出た状態になります。

- シーリングディスクを後方に軽く引いてサポートシェルフから外し、下げます。

関連情報

- 荷物の積み込み（p. 196）
- 荷物の積み込み – 長いもの（p. 197）

ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー

リモートコントロールキーは、特に、車両のロック/ロック解除および始動に使用されます。

リモートコントロールキーには、基本バージョンのリモートコントロールキーと、PCC (Personal Car Communicator)*付きリモートコントロールキーの 2 種類があります。

機能	基本[A]	PCC[B] 付き
ロック/ロック解除および脱着式キーブレード	X	X
キーレスロック/ロック解除		X
キーレスエンジン始動		X
インフォメーションボタンおよびインジケーターランプ		X

A 5 ボタンキー
B 6 ボタンキー

PCC 付きリモートコントロールキーは、基本バージョンのリモートコントロールキーよりも高機能で、キーレス始動およびロック/ロック解除(キーレスドライブ(p. 216))やいくつかの独自機能(p. 210)に対応しています。

すべてのリモートコントロールキーには、金属製の脱着式キーブレード(p. 212)が付いています。リモートコントロールキーが識別できるように、外から見える部分のデザインには、2 種類あります。

リモートコントロールキーは追加注文することができます。ただし、車両に付属しているもの以外のタイプはできません。車両 1 台に対してプログラムおよび使用可能なキーは 6 個までです。

車両には、リモートコントロールキーが 2 つ搭載されています。

⚠ 警告

車内にお子様が残る場合：

運転者が車から離れる場合は、リモートコントロールキーを必ず抜いて、パワーウインドおよびサンルーフの電源をオフにしてください。

関連情報

- リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)

リモートコントロールキー – 紛失

リモートコントロールキーを紛失した場合は、サービス工場で新しいキーを注文できます。ボルボ指定のサービス工場を推奨します。

残りのリモートコントロールキーをボルボのサービス工場へお持ちになってください。不正に使用されることを防ぐため、紛失したリモートコントロールキーのコード番号を車両のシステムから消去する必要があります。

現在車両に登録されているキーの数は、メニューシステム MY CAR で確認できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)

リモートコントロールキー – パーソナライズ*

リモートコントロールキー(p. 204)のキーメモリーを使用すると、車両の一部の設定を運転者ごとに個別に変更することができます。

キーメモリー機能は運転席パワーシート*などとの組み合わせで作動させることができます。

ドアミラー(p. 145)、運転席シート、ステアリングホイール操舵力(p. 234)、コンバインド・メーター・パネルのテーマ、コントラストおよびカラーモード(p. 103)の設定はメモリーに保存することができます(車両の装備レベルに応じて異なる)。

この機能[1]は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

この機能が作動している場合、設定は自動的にキーメモリーに関連付けられます。したがって、設定が変更されると、特定のリモートコントロールキーのメモリーに変更が自動的に保存されます。

設定の保存

設定を保存し、リモートコントロールキーのキーメモリーを使用するには、次の手順に従ってください。

1. メモリーに設定[2]を保存するリモートコントロールキーを使用して、車両をロック解除します。
2. メニューシステム MY CAR でキーメモリー機能が作動していることを確認してください。
3. シートおよびドアミラーなどを好みの位置に調節します。
4. 使用中のリモートコントロールキーのメモリーに設定が保存されます。

次回、同じリモートコントロールキーで車両をロック解除すると、キーメモリーに保存されている位置に自動的に調節されます(そのリモートコントロールキーの前回使用時以降に位置が変更されていた場合)。

非常停止

シートが不意に動き出した場合は、シート用設定ボタンまたはメモリーボタンいずれか 1 つを押すと停止します。

停止後、リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すと、シートはキーメモリーに記憶されている位置まで再び移動します。運転席ドアを必ず開けておかなければなりません。

⚠ 警告

挟まれるおそれがあります。お子様にシートの操作をさせないでください。シートの調節は、シートの前後や下になにも物がない状態で行ってください。リアシートの乗員が挟まれないように注意してください。

設定の変更

複数の人が各自リモートコントロールキーを持って車両に近づくと、最初に運転席ドアを開けた人の設定に合わせて、シートやドアミラーなどの位置が調節されます。

A さんがリモートコントロールキー A で運転席ドアを開けた後、B さんがリモートコントロールキー B で運転する場合、次の方法で設定を変更することができます。

- 運転席ドア側に立つか、運転席に座った状態で、B さんが自分のリモートコントロールキーのロック解除ボタンを押します。 リ

[1] MY CAR では **カーキーメモリ** と呼ばれます。
[2] この設定により、パワーシートのメモリー機能に保存されている設定に影響が出ることはありません。

モートコントロールキー – 機能 (p. 208) を参照してください。

- シート設定ボタン 1〜3 の、3 つのメモリーの 1 つを選択します。シート、フロント – 電動* (p. 122)を参照してください。
- シートおよびドアミラーを手動で調節します。シート、フロント – 電動* (p. 122)およびドアミラー (p. 145)を参照してください。

設定の再有効化

車両をロックした場合、または車両がロック解除された状態で 30 分経過した場合、キーメモリーは解除され、標準の運転者プロフィールが設定されます。現在のリモートコントロールキーのキーメモリーを再度有効にするには、以下の操作が必要です。

キーレス始動およびロックシステム非装備車の場合

リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押して車両をロック解除すると、キーメモリーに保存されている設定が有効になります。

キーレス始動およびロックシステム装備車の場合

以下の操作を行うと、キーメモリーが有効になります。

1. リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すか、またはキーレスロック解除を使用して車両をロック解除します。
2. 車両がロック解除されている場合、運転席ドアを開けるとキースキャンが実行されます。固有のリモートコントロールキーが見つかると、そのキーに保存されている設定が有効になります。車両がロックされている場合、前のステップを参照してください。

関連情報

- PCC 付きリモートコントロールキー* – 独自機能 (p. 210)

ロック/ロック解除 – インジケーター

リモートコントロールキー(p. 204)を使用して車両をロック/ロック解除すると、方向指示器が点滅して正常に作動したことを知らせます。

- ロック作動 – 1 回点滅し、ドアミラーが格納[3] されます。
- ロック解除 – 2 回点滅し、ドアミラーが展開[3] します。

方向指示器は、すべてのドアを閉めた状態で、すべてのロックが一度にロックされた場合にのみ点滅します。

機能の選択

ロック作動/解除をライトで表示する方法に関しては、車両のメニューシステム MY CAR で別の方法に変更することができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

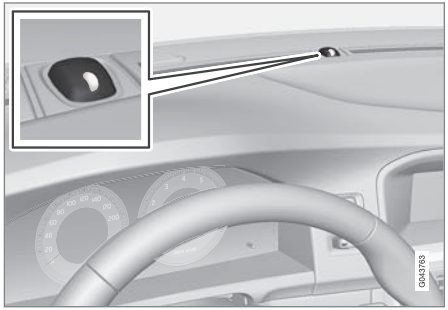
関連情報

- キーレスドライブ* (p. 216)
- ロックインジケーター (p. 207)
- アラームインジケーター* (p. 229)

[3] 格納式パワードアミラー装備の車両のみ。

ロックインジケーター

ウインドスクリーン付近の LED が点滅している場合には、車両はロックされています。



アラームインジケーター(p. 229)と同じ LED

注意

このインジケーターはアラームが装備されていない車両にも装備されています。

関連情報

- ロック/ロック解除 – インジケーター (p. 206)

イモビライザー

電子式イモビライザーは、侵入者が車両を始動するのを防ぐ盗難防止システムです。

各リモートコントロールキー(p. 204)には、固有のコードが使用されています。正しいコードのリモートコントロールキーを使用しなければ、エンジンを始動することができません。

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに表示される以下のエラーメッセージは、電子式イモビライザーに関連します。

メッセージ	意味
キーを挿入して下さい	リモートコントロールキーの読み取りエラー。キーをイグニッションスイッチから取り出し、もう一度挿入し直して、再度エンジンの始動を試みてください。
キーが見つかりません	始動時のリモートコントロールキーの読み取りエラー。再度エンジンの始動を試みてください。 エラーが解消しない場合:リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込み、再度、エンジンの始動を試みてください。
ｲﾓﾋﾞﾗｲｻﾞｰ 再始動して下さい	始動中のイモビライザーのエラー。エラーが解消しない場合:ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

エンジンの始動については、エンジンの始動 (p. 324)を参照してください。

関連情報

- 追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー* (p. 208)

追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー*

追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー[4] が装備されている場合、車両を追跡して位置を割り出し、イモビライザーを遠隔操作で作動させることができます。

このシステムの起動に関するお問い合わせやご相談は、最寄りのボルボディーラーにご連絡ください。

関連情報

- リモートコントロールキー（p. 204）
- イモビライザー（p. 207）

リモートコントロールキー – 機能

基本バージョンのリモートコントロールキーには、ドアのロックおよびロック解除などの機能があります。

機能

基本バージョンのリモートコントロールキー

- ロック
- ロック解除
- アプローチライト
- テールゲート
- パニックアラーム機能

PCC*(Personal Car Communicator)付きリモートコントロールキー

Information(インフォメーション)

ボタン機能

ロック – ドアおよびテールゲートをロックして、アラームをセットします。

長押しすると、すべてのウインドとサンルーフ*が同時に閉まります。詳しくは、グローバルオープニング機能（p. 223)を参照してください。

⚠ 警告

リモートコントロールキーを使用してウインドを閉める場合は、乗員の手などを挟まないように注意してください。

[4] 特定市場のみ。使用には Volvo On Call*が必要。

ロック解除 - ドアおよびテールゲートをロック解除して、アラームを解除します。

ボタンを長く押すと、すべてのウインドが同時に開きます。詳しくは、グローバルオープニング機能 (p. 223)を参照してください。

この機能は、すべてのドアを同時にロック解除する設定から、ボタンを 1 回押すと運転席のドアロックのみが解除され、10 秒以内に再度押すと残りすべてのドアがロック解除される設定に変更することができます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で変更できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

アプローチライト - 車両から少し離れた場所から、ライトを点灯させることができます。詳しくは、アプローチライト (p. 141)を参照してください。

テールゲート(p. 224) - テールゲートのみのロックとアラームを解除します。

パニックアラーム機能 - 緊急時に注意を促すための機能です。

ボタンを 3 秒以上押し続けるか、3 秒以内に続けて 2 回押すと、方向指示器およびホーンが作動します。

アラームが作動してから 5 秒以上経過後、再び同じボタンを押すと停止させることができます。または、約 3 分が経過すると自動的に停止します。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 204)
- PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能 (p. 210)
- ロック/ロック解除 - 車外から (p. 221)

リモートコントロールキー - 作動範囲

リモートコントロールキー(基本バージョン)の機能の作動範囲は、車両から約 20 m 以内です。

ボタンが押されたことを車両が認識しない場合には、車両に近寄ってからもう一度試行してください。

注意

周囲の電波、建物、地形などによって、リモートコントロールキーの機能が妨げられる場合があります。車両は、つねにキーブレード(p. 213)でロック/ロック解除できます。

エンジン作動中や、キーが I または II の位置(p. 119)にあるときにリモートコントロールキーが車両から持ち出された場合、すべてのドアが閉じられると、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告メッセージが表示され、同時に短い警告音が鳴ります。

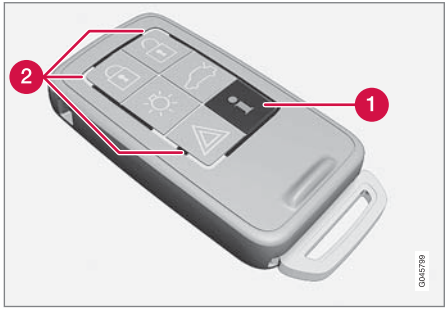
リモートコントロールキーを車内に戻してから OK ボタンを押すか、またはすべてのドアを閉めると、メッセージが消えます。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 204)
- リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)

PCC 付きリモートコントロールキー* – 独自機能

PCC (Personal Car Communicator)付きリモートコントロールキーはインフォメーションボタンおよびインジケーターランプを搭載し、基本バージョンのリモートコントロールキー (p. 204)よりも機能が強化されています。



PCC 付きリモートコントロールキー

1 インフォメーションボタン

2 インジケーターランプ

インフォメーションボタンを使用すると、インジケーターランプを介して車両から情報を得ることができます。

インフォメーションボタンの使用方法

– インフォメーションボタン を押します。

  › すべてのインジケーターランプが約 7 秒間点滅し、ライトがリモートコントロールキーの周囲を回ります。この状態は、車両からの情報がスキャンされていることを示しています。

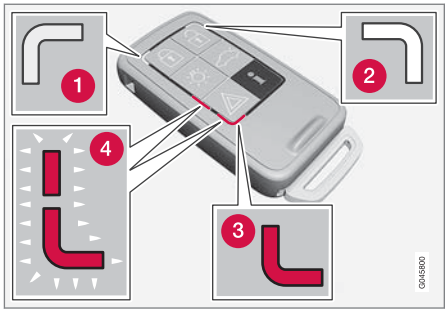
  この間に別のボタンを押すと、読み取りは中断されます。

注意

インフォメーションボタン をいろいろな場所で繰り返し押しても(7 秒経過後、および PCC 周囲のランプが回った後でも)、インジケーターランプが 1 つも点灯しない場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

インジケーターランプは、次の図のような情報を表示します。

* オプション/アクセサリー。



1. 緑のランプが点灯 – 車両はロックされています。
2. 黄色のランプが点灯 – 車両はロック解除されています。
3. 赤いランプが点灯 – 車両がロックされた後、アラームが作動しています。
4. 両方のインジケーターランプの赤いランプが交互に点滅 – 過去 5 分以内に、アラームが作動しました。

関連情報

- PCC 付きリモートコントロールキー* – 作動範囲（p. 211）

PCC 付きリモートコントロールキー* – 作動範囲

PCC(Personal Car Communicator)付きリモートコントロールキーの作動範囲は、ドアおよびテールゲートをロック/ロック解除するときが車両から約 20 m 以内で、その他の機能は約 100 m 以内です。

ボタンが押されたことを車両が認識しない場合には、車両に近寄ってからもう一度試行してください。

注意

周囲の電波、建物、地形などによって、インフォメーションボタンの機能が妨げられる場合があります。

リモートコントロールキーが作動範囲外のとき

車両からの距離が遠過ぎるためにリモートコントロールキーが情報を読み取れない場合は、車両の状態に関する情報は更新されず、リモートコントロールキーの周囲のインジケーターランプは回りません。

同じ車両に複数のリモートコントロールキーが使用された場合、直前にロック/ロック解除した際に使用されたリモートコントロールキーにのみ正しい状態が表示されます。

注意

作動範囲内でインフォメーションボタン を使用したときにインジケーターランプが点灯しない場合、リモートコントロールキーと車両との前回の通信が周囲の電波、建物、地形などによって妨げられたことが原因である可能性があります。

関連情報

- キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの作動範囲（p. 217）
- リモートコントロールキー – 作動範囲（p. 209）

脱着式キーブレード

リモートコントロールキーには金属製の脱着式キーブレードが付いており、一部機能の起動や操作に使用できます。

キーブレードは特別なコード番号を使用していますので、新しいキーを注文される場合は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

キーブレードの機能

脱着式キーブレードを使用して：

- リモートコントロールキーでセントラルロックを作動できない場合は、左側フロントドアを手動でロック解除することができます。 脱着式キーブレード – ドアロック解除 (p. 213)を参照してください。
- リアドアの手動チャイルドロックを作動/解除(p. 227)できます。
- 電気的不具合が発生した場合などには、右側フロントドアおよびリアドアを手動でロック(p. 221)することができます。
- グローブボックスやカーゴスペースへのアクセスを制限できます(プライバシーロック(p. 213)*。
- 助手席乗員用のエアバッグ(PACOS*)を作動/解除(p. 70)することができます。

関連情報

- リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)
- リモートコントロールキー (p. 204)

脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け

脱着式キーブレード(p. 212)の取り外し/取り付けは次の手順で行います。

キーブレードを取り外す

1. スプリングキャッチを横にスライドさせます。
2. 同時にキーブレードを、まっすぐ引き抜きます。

キーブレードを元に戻す

注意しながらキーブレードをリモートコントロールキー(p. 204)に取り付けます。

1. リモートコントロールキーのキーブレード差し込み溝を上に向けて持ち、キーブレードを差し込みます。
2. キーブレードを軽く押し込み固定します。所定の位置に固定されると、カチッと音がします。

関連情報

- 脱着式キーブレード – ドアロック解除 (p. 213)
- チャイルドロック – 手動による作動 (p. 227)
- 助手席側エアバッグ – 作動/解除* (p. 70)

* オプション/アクセサリー。

脱着式キーブレード – ドアロック解除

リモートコントロールキー(p. 204)でセントラルロックを作動できない場合(リモートコントロールキーの電池が消耗した場合など)は、脱着式キーブレード(p. 212)を使用することができます。

リモートコントロールキーでセントラルロックを解除できない場合(例えば、リモートコントロールキーの電池が消耗した場合など)は、以下のように左側フロントドアをロック解除することができます。

1. 左側フロントドアハンドルのロックシリンダーにキーブレードを差し込み、ロック解除します。図および詳細については、キーレスドライブ* – キーブレードによるロック解除 (p. 219)を参照してください。

> **注意**
>
> キーブレードを使用してドアをロック解除し、その後ドアを開けると、アラームが作動します。

2. イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、アラームを解除します。

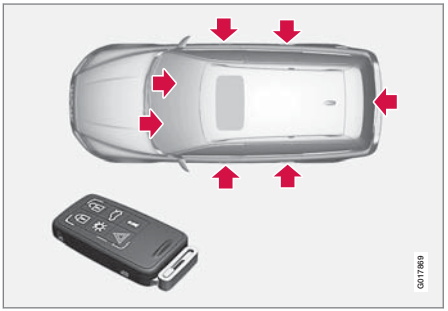
キーレス始動およびロックシステム装備車の場合、キーレスドライブ* – キーブレードによるロック解除 (p. 219)を参照してください。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 204)
- リモートコントロールキー – 電池の交換 (p. 215)

プライバシーロック*

プライバシーロック機能は、車をサービスに出すときや、ホテルなどの係員付き駐車サービスを利用する際を想定したものです。グローブボックスがロックされ、テールゲートロックはセントラルロックから切り離されます。テールゲートは、フロントドアのセントラルロックボタンやリモートコントロールキー(p. 204)では、ロック解除できなくなります。



キーブレードを**つけた状態**での、リモートコントロールキーによるロック作動箇所

キーブレードを**外して**プライバシーロックを**作動させ**、リモートコントロールキーでロック

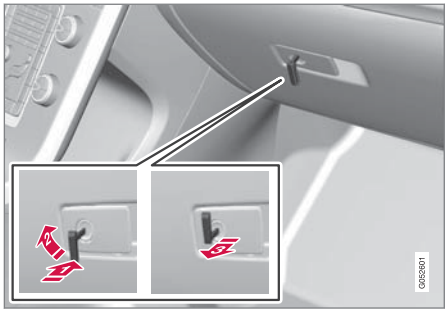
このため、キーブレードを取り外したリモートコントロールキーは、アラーム(p. 228)のセット/解除、ドアのロック解除、車両の始動のみに使用できます。

キーブレードを外してリモートコントロールキーを渡し、キーブレードは車両の持ち主が保管してください。

注意

テールゲートを閉じる前に、カーゴスペースのラゲッジカバー(p. 201)を忘れずに取り出してください。

作動/非作動状態にする



プライバシーロックの作動

プライバシーロックを作動させるには：

1. キーブレードをグローブボックスのロックシリンダーに差し込みます。
2. キーブレードを時計回りに 180 度回します。
3. キーブレードを抜き取ります。同時にコンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

グローブボックスがロックされ、テールゲートは、リモートコントロールキーやセントラルロックボタンでは、ロック解除できなくなります。

注意

キーブレードをリモートコントロールキーに戻さず、安全な場所に保管してください。

- ロック解除は逆の手順で行います。

グローブボックスのみをロックする方法については、ロック/ロック解除 – グローブボックス(p. 224)を参照してください。

リモートコントロールキー – 電池の交換

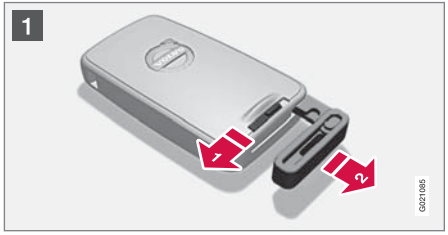
リモートコントロールキーの電池[5] は交換が必要になることがあります。

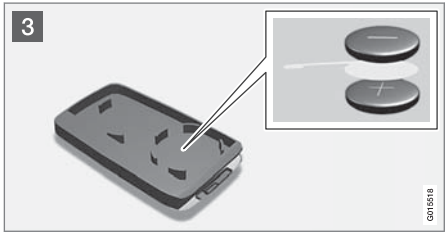
以下の場合には、リモートコントロールキーの電池を交換する必要があります。

- コンバインド・メーター・パネルのインフォメーションシンボルが点灯してディスプレイに **キー電池切れ マニュアルを参照して下さい** が表示された場合。

および/または

- 車両から 20 m 以内の距離でリモートコントロールキーのロック操作ができなくなった場合。





開ける

1 1 スプリングキャッチを横にスライドさせます。

2 同時にキーブレードを、まっすぐ引き抜きます。

2 3 スプリングキャッチの後側にある穴に 3 mm のマイナスドライバーを差し込み、十分注意してこじって、リモートコントロールキーのカバーを開けます。

注意

カバーを開けたときに電池が落下しないように、リモートコントロールキーのボタン面を上に向けてください。

重要

新しいバッテリーやその端子表面を手で触れないでください。機能が低下するおそれがあります。

電池の交換

3 カバー内側の電池の + および - 極が、どの方向に入っているかよく注意してください。

リモートコントロールキー(電池 1 個)

1. 注意して、電池を取り外します。
2. + 側を下に向けて、新しい電池を取り付けます。

PCC*付きリモートコントロールキー(電池 2 個)

1. 注意して、電池を取り外します。
2. + 側を上に向けて、新しい電池を 1 個入れます。
3. 白いプラスチックタブを間に入れ、+ 側を下に向けて 2 個目の新しい電池を取り付けます。

[5] PCC 付きリモートコントロールキーには、電池が 2 個使用されています。

電池タイプ

CR2430、3V という表示の電池を使用してください。リモートコントロールキーには 1 個、PCC 付きリモートコントロールキーには 2 個必要です。

> **注意**
>
> ボルボでは、リモートコントロールキー/PCC のバッテリーには、UN Manual of Test and Criteria, Part III, sub-section 38.3 の適合品を使用することをお薦めしています。工場出荷時のバッテリーまたはボルボ指定のサービス工場で交換されたバッテリーは、上記の基準を満たしています。

閉める

1. カバーを元の位置に戻します。
2. リモートコントロールキーのキーブレード差し込み溝を上に向けて持ち、キーブレードを差し込みます。
3. キーブレードを軽く押し込み固定します。所定の位置に固定されると、カチッと音がします。

> **重要**
>
> 使用済みのバッテリーは、環境に優しい方法で処分してください。

[6] PCC 付きリモートコントロールキーのみ。

関連情報

- リモートコントロールキー（p. 204）
- リモートコントロールキー – 機能（p. 208）

キーレスドライブ*

キーレスドライブ装備車には、キーを使わずに操作できる始動およびロックシステムが搭載されています。

キーレス始動およびロックシステムが装備されている場合、リモートコントロールキー（p. 204）[6] をイグニッションスイッチに挿入することなく、車両を始動、ロックおよびロック解除することができます。リモートコントロールキーはポケットの中に携帯しておくだけで機能します。両手に荷物を持っている場合などでも、ドアを開けることができ、大変便利です。

車両のリモートコントロールキーの両方にキーレスドライブ機能が付いています。予備のリモートコントロールキーを注文することもできます。

車両の電気系統は、リモートコントロールキーを使用して、3 種類のレベル – キー位置 **0**、**I** および **II**（p. 119）のいずれかに設定することができます。

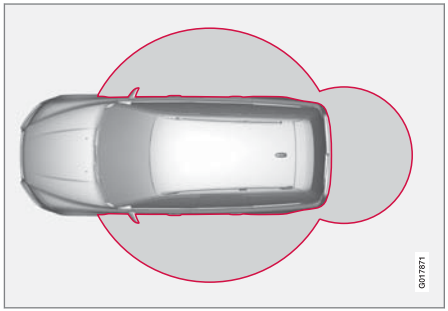
関連情報

- キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの作動範囲（p. 217）
- キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの安全な取り扱い（p. 217）
- キーレスドライブ* – リモートコントロールキー機能への干渉（p. 218）

キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの作動範囲

リモートコントロールキーのボタンを押さずにドアやテールゲートをロック解除するには[7]、リモートコントロールキーがドアハンドルまたはテールゲートから約 1.5 m 以内の範囲になければなりません。

ドアをロック/ロック解除する際はリモートコントロールキーを携帯しておく必要があります。車両の反対側のドアから、リモートコントロールキーでロック/ロック解除することはできません。



前図の赤で囲まれた部分は、システムのアンテナがカバーする範囲を示しています。

エンジン作動中や、キーが I または II の位置 (p. 119)にあるときにリモートコントロール

キーが車両からすべて持ち出された場合、すべてのドアが閉じられると、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告メッセージが表示され、同時に警告音が鳴ります。

リモートコントロールキーが車内に戻されると警告メッセージが消え、次のいずれかにより警告音も止まります。

- いずれかのドアを開閉する
- リモートコントロールキーをイグニッションロックに挿入する
- **OK** ボタンを押す

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 216)
- キーレスドライブ* – アンテナ位置 (p. 220)

キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの安全な取り扱い

車両のリモートコントロールキーの取り扱いには、十分注意してください。

リモートコントロールキー[8] の 1 つが車内に残されている場合、車両に登録されているもう 1 つのリモートコントロールキーで車両がロックなどされることのないように、キーレスドライブ機能が解除されます。この機能は何者かが不正に車内に入ることを防ぎます。

機能が解除されたキーは、次回もう一方のリモートコントロールキーで車両をロック解除したときに機能を回復します。

重要

PCC 付きリモートコントロールキーは車内に放置しないでください。車内に何者かが侵入してリモートコントロールキーを持ち去った場合、イグニッションスイッチのリモートコントロールキーを押して、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すことにより、車両を始動することができます。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 216)

[7] PCC(パーソナル・カー・コミュニケーター)付きリモートコントロールキーに適用されます。

キーレスドライブ* – リモートコントロールキー機能への干渉

電磁場および電磁遮蔽は、リモートコントロールキーのキーレスドライブ機能(p. 216)を妨げるおそれがあります。

> **注意**
>
> PCC を携帯電話や金属の物体の近く(10〜15 cm 以内)に置いたり、保管したりしないでください。

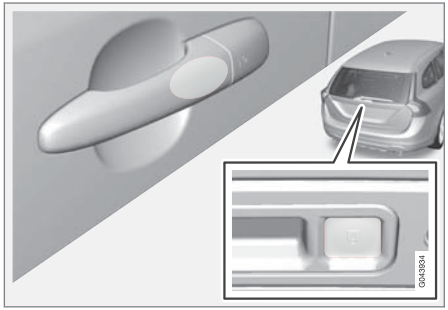
干渉が発生した場合、リモートコントロールキーおよびキーブレードを基本バージョンのリモートコントロールキーのように使用してください。 リモートコントロールキー – 機能(p. 208)を参照してください。

関連情報

- リモートコントロールキー – 電池の交換(p. 215)
- キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの安全な取り扱い(p. 217)
- キーレスドライブ* – リモートコントロールキーの作動範囲(p. 217)

キーレスドライブ* – ロック

キーレス始動およびロックシステム装備車の外側ドアハンドルには感圧性のある領域があり、テールゲートのラバー加工されたプレッシャープレートの隣には、ロック/ロック解除用のラバー加工されたボタンがあります。



アウタードアハンドルの感圧性のある領域とテールゲートのラバー加工プレッシャープレート横のラバー加工ボタン

ドアハンドルの感圧性のある領域を長押しするか、テールゲートに 2 つあるラバー加工したボタンの小さい方を押すかで、ドアおよびテールゲートをロックしてください。ウインドスクリーンのロックインジケーター(p. 207)が点滅を始めると、ロック作動が完了したことが確認できます。

すべてのドアおよびテールゲートが閉まっている状態でロックボタンを押さないと、ドアおよびテールゲートはロックされません。

> **注意**
>
> オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセレクターレバーを P 位置にしないと、車両のロックまたはアラームのセットをすることができません。

> **注意**
>
> リモートコントロールキーが作動範囲内にある場合、洗車の際にシステムが作動する可能性があります。

関連情報

- キーレスドライブ*(p. 216)
- アラームインジケーター*(p. 229)

[8] PCC(パーソナル・カー・コミュニケーター)付きリモートコントロールキーに適用されます。

キーレスドライブ* – ロック解除

ドアハンドルを手で握るか、テールゲートのラバー加工されたプレッシャープレートを押すと、ロックが解除します。通常通り、ドアまたはテールゲートを開けてください。

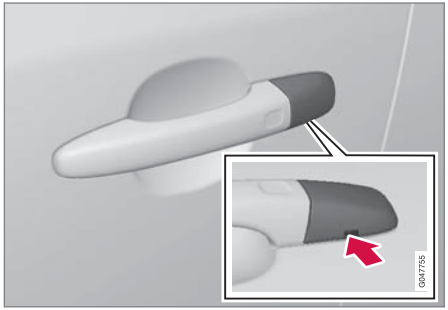
> **注意**
>
> ドアハンドルは通常、ハンドルを握る手を感知しますが、厚手の手袋をはめているときや、非常に速い動作で操作を行った場合には、もう一度やり直すか、手袋を外すことが必要となる場合があります。

関連情報

- キーレスドライブ*（p. 216）
- キーレスドライブ* – ロック（p. 218）

キーレスドライブ* – キーブレードによるロック解除

リモートコントロールキーでセントラルロックをロック解除できない場合（例えば、電池が消耗した場合など）は、脱着式キーブレードで左側フロントドアを開けることができます。



キーブレード用の穴。カバーをゆるめるために使用します。

ロックシリンダーにアクセスするには、ドアハンドルのプラスチックカバーを取り外すことが必要です。これはキーブレードを使用して行うこともできます。

1. キーブレードをドアハンドルのプラスチックカバー下側の穴に約 1 cm まっすぐ押し入れます。こじらないでください。
   > ブレードが穴の中にまっすぐ押し上げられると、プラスチックカバーが外れます。
2. キーブレードをロックシリンダーに差し込み、ドアのロックを解除します。
3. ロックを解除したら、プラスチックカバーを元通りに取り付けます。

> **注意**
>
> キーブレードを使用して運転席側のドアをロック解除して開けると、アラームが作動します。PCC をイグニッションスイッチに差し込むとオフになります。アラーム* – リモートコントロールキーが使用できない（p. 230）を参照してください。

関連情報

- キーレスドライブ*（p. 216）
- 脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け（p. 212）
- アラーム*（p. 228）

キーレスドライブ* – ロック設定

キーレス始動およびロックシステム装備車のロック設定を変更するには、メニューシステム MY CAR でロック解除するドアを指定します。

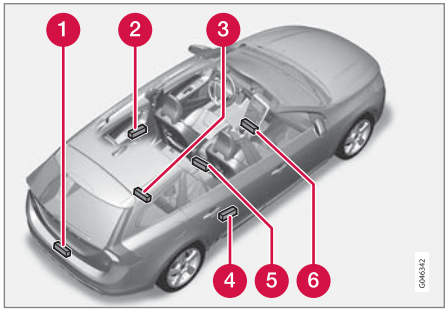
メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 216)

キーレスドライブ* – アンテナ位置

キーレス始動およびロックシステム装備車には、車両のさまざまな場所に多くのアンテナが装備されています。



1. リアバンパー、中央
2. 左リアドアハンドル
3. カーゴスペース中央奥のフロア下部
4. 右リアドアハンドル
5. センターコンソール、後部下側
6. センターコンソール、前部下側

⚠ 警告

心臓ペースメーカーをご使用のお客様は、ペースメーカーからキーレスシステムのアンテナまでの距離が 22 cm 以内にならないようにしてください。ペースメーカーとキーレスシステムが、相互に干渉するおそれがあります。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 216)

* オプション/アクセサリー。

ロック/ロック解除 – 車外から

車外からのロック/ロック解除はリモートコントロールキー(p. 204)を使用します。リモートコントロールキーで、車外からすべてのドアおよびテールゲートを同時にロック/ロック解除することができます。ロック解除では別の手順の選択が可能です(リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)参照)。

ロック作動手順を開始するには、運転席ドアが閉じていることが必要です。それ以外のドアやテールゲートが開いている場合には、それらが閉じた時点で、ロックが作動し、アラームがセットされます。キーレスロックシステム*装備車の場合、すべてのドアとテールゲートが閉じている必要があります。

注意

リモートコントロールキーを車内に残したままロックしないよう、ご注意ください。

リモートコントロールキーでロック/ロック解除できない場合は、電池が消耗している場合があります。脱着式キーブレードで左側フロントドアをロック/ロック解除してください(脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け (p. 212)参照)。

注意

キーブレードで車両のロックを解除した後ドアを開くと、アラームが作動しますのでご注意ください。リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込むとアラームが停止します。

警告

リモートコントロールキーで外側からドアをロックすると、内側からはドアを開けることができなくなります。車内に残った人が閉じ込められるおそれがありますので、ご注意ください。

詳しくは、デッドロック* (p. 226)を参照してください。

オートリロック機能

ドアまたはテールゲートは、ロック解除後 2 分以内に開けないと自動的に再ロックされます。この機能は、誤ってロック解除された状態のまま車両が放置されるのを防ぎます(アラーム装備車の場合は、アラーム* (p. 228)を参照してください)。

関連情報

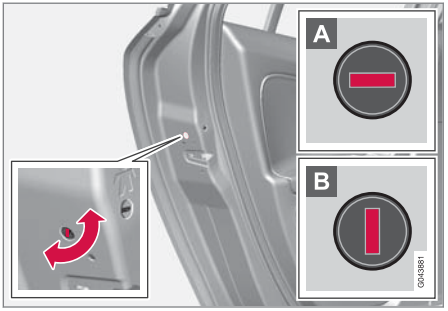
- ロック/ロック解除 – 車内から (p. 222)
- キーレスドライブ* (p. 216)

手動ドアロック

電気的不具合が発生した場合などには、手動で車両をロックすることが必要となります。

左側フロントドアは、ロックシリンダーと脱着式キーブレードを使ってロックすることができます。キーレスドライブ* – キーブレードによるロック解除 (p. 219)を参照してください。

それ以外のドアには、ロックシリンダーはありませんが、各ドアの端面にロックノブがあり、それを回してからドアを閉めると機械的にロックされて、外側から開けることができなくなります。この場合でもドアは内側から開けることができます。



手動ドアロック。チャイルドロック(p. 227)と混同しないでください。

– 脱着式キーブレードでノブを回してください。脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け (p. 212)を参照してください。

A ドアは外側からは開かなくなります。

B ドアは、外側からも内側からも開けることができます。

注意

- ドアのノブコントロールは、そのドアのみに作動します。すべてのドアに同時に作動するわけではありません。
- 手動チャイルドロックを作動しているリアドアを手動でロックすると、車外からも車内からも開けることができなくなります 。チャイルドロック – 手動による作動 (p. 227)を参照してください。この方法でロックされたドアは、リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンでのみロック解除できます。

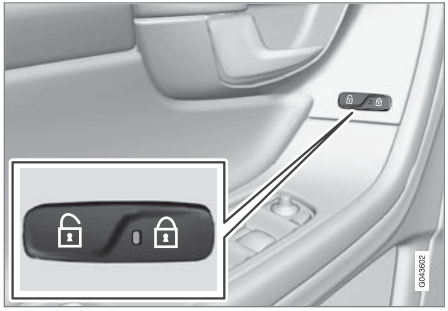
関連情報

- リモートコントロールキー – 電池の交換 (p. 215)

ロック/ロック解除 – 車内から

運転席、および助手席ドアにあるセントラルロック*を使用してすべてのドアとテールゲートを同時にロック、またはロック解除することができます。

セントラルロック



セントラルロック

- ボタンの片方 を押すとロックされ、もう片方 を押すとロック解除されます。

ボタン を押し続けると、すべてのパワーウインドが同時に*開きます。

ロック解除

ドアは2通りの方法で、内側からロック解除することができます。

- セントラルロックボタン を押します。

長押しすると、すべてのパワーウインド*も同時に開きます。(グローバルオープニング機能 (p. 223)も参照。)

- ドアハンドルを引いてドアを開けてください。1つの動作で、ドアがロック解除され、開きます。

ロックボタン内のランプ

セントラルロックには、2つの種類があります。種類に応じて、運転席のセントラルロックボタンのランプが示す意味が異なっています。

セントラルロックボタンが運転席ドアのみにあり、他のドアにはボタンがない場合：

- ランプが点灯している場合には、すべてのドアがロックされています。

セントラルロックボタンが、両側のフロントドアにあり、電動ロックボタンが各リアドアにある場合：

- ランプが点灯している場合には、そのドアがロックされていることを示します。すべてのランプが点灯している場合には、すべてのドアがロックされています。

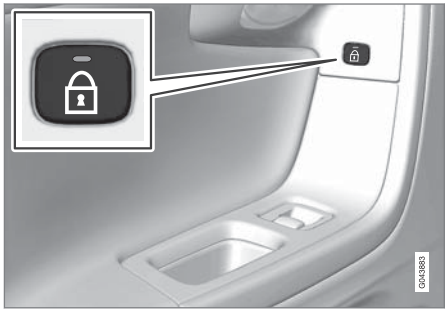
ロック作動

- セントラルロックボタン を押します。閉まっているドアはすべてロックされます。

長押しすると、すべてのパワーウインドとサンルーフも同時に閉まります(グローバルオープニング機能(p. 223)も参照してください)。

* オプション/アクセサリー。

ロックボタン*リアドア



ドアがロックされるとボタンのランプが点灯します。

リアドアのロックボタンはそのドアのみをロックします。

ドアをロック解除するには：

- ドアハンドルを引きます。ドアはロック解除され、開きます。

オートロック

ドアおよびテールゲートは、車両が動き出すと自動的にロックすることができます。

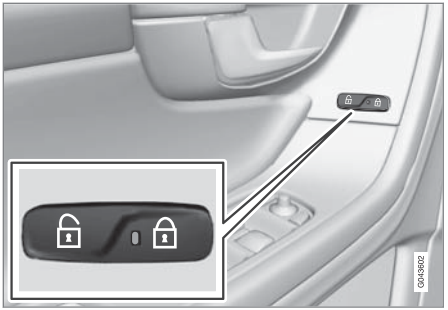
この機能は、メニューシステム **MY CAR** で起動/解除できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR（p. 154)を参照してください。

関連情報

- ロック/ロック解除 – 車外から（p. 221）
- アラーム*（p. 228）
- リモートコントロールキー – 機能（p. 208）

グローバルオープニング機能

グローバルオープニング機能は、すべてのパワーウインドを同時に開閉し、例えば気温の高いときに、車内に外気を素早く入れるためなどに使用することができます。



セントラルロックボタン

リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンの 🔓 のシンボルを長押しすると、すべてのパワーウインドが同時に**開きます**。同様に 🔓 シンボルを長押しすると、すべてのパワーウインドが同時に**閉まります**。

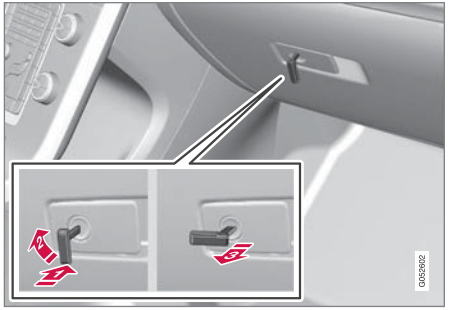
関連情報

- ロック/ロック解除 – 車内から（p. 222）
- パワーウインド（p. 144）

ロック/ロック解除 – グローブボックス

グローブボックス(p. 194) グローブボックスのロックは、脱着式キーブレードでのみ作動/解除できます。

キーブレードについては、脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け (p. 212)を参照してください。



グローブボックスのロック：

1. 上図のようにキーブレードをグローブボックスのロックシリンダーに差し込みます。
2. キーブレードを時計回りに 90 度回します。
3. キーブレードを抜き取ります。

- ロック解除は逆の手順で行います。

プライバシーロックについては、プライバシーロック* (p. 213)を参照してください。

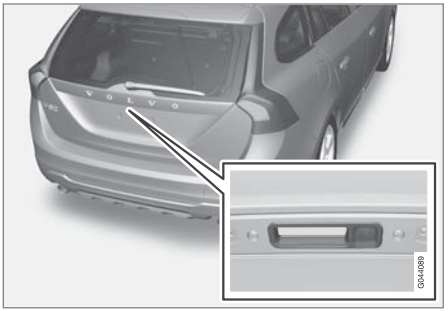
関連情報

- リモートコントロールキー (p. 204)

ロック/ロック解除 – テールゲート

テールゲートを開く、またはロック/ロック解除するにはいくつかの方法があります。

手動で開く



電気接点付きラバープレート

テールゲートは電動ロックで閉まったままとなります。

開ける：

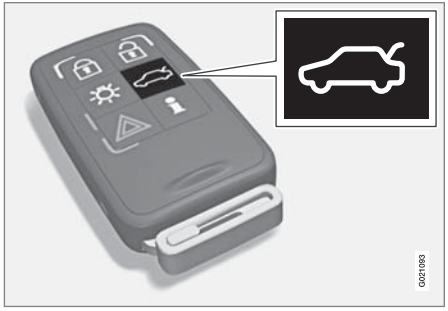
1. アウターハンドルの下に 2 つあるラバー加工されたプレッシャープレートのうち、幅の広いほうを軽く押してください。ロックがリリースされます。
2. テールゲートをいっぱいまで開くには、アウターハンドルを持ち上げます。

* オプション/アクセサリー。

重要

- テールゲートのロックを解除するのにほとんど力は要りません。ラバー加工されたプレッシャープレートを軽く押してください。
- テールゲートを開ける際には、ラバー加工されたプレッシャープレートは持ち上げないでください。ハンドルを使用してください。強い力がかかると、ラバー加工されたプレッシャープレート部分の電気接点が損傷を受ける場合があります。

リモートコントロールキーによるロック解除



リモートコントロールキーの ボタンを使用して、テールゲートのみアラームを解除し*、テールゲートのロックを解除することができます。

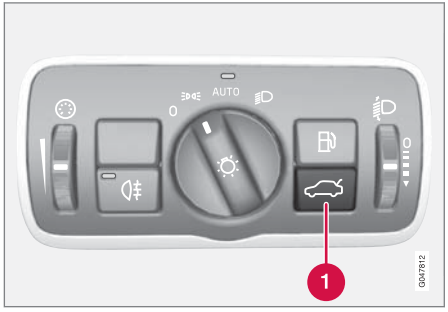
ダッシュボードのロックインジケーター(p. 207)の点滅が停止し、すべてのドア/テールゲートのロックが解除され、アラーム*のレベルセンサー、ムーブメントセンサー、テールゲートオープンセンサーが解除されていることを示します。

ドアはロックされた状態で、ドアのアラームは作動します。

- テールゲートがロック解除されますが、開きません。アウターハンドルの下側のラバー加工されたプレッシャープレートを軽く押し、テールゲートを開けます。

2 分以内にテールゲートが開かれないと、ロックが再作動し、アラームも再びセットされます。

車内からロック解除する



1 ロック解除、テールゲート

テールゲートをロック解除するには：

– ヘッドライトコントロールパネルにあるボタン(1)を押します。
  › テールゲートはロック解除され、2 分以内であれば開けることができます(車両が内側からロックされた場合)。

リモートコントロールキーによるロック

– リモートコントロールキーのロックボタン を押します。リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)を参照してください。
  › ダッシュボードのロックインジケーターが点滅を始めます。これで、車両がロックされ、アラーム*が起動されたことを示します。

関連情報

- ロック/ロック解除 – 車内から (p. 222)
- ロック/ロック解除 – 車外から (p. 221)

デッドロック*

デッドロック[9] を使用するとすべてのドアハンドルが機械的に施錠されるため、内側および外側からドアを開けることができなくなります。

デッドロック機能は、リモートコントロールキー(p. 204)で起動します。ドアがロックされてから約 10 秒後に作動します。

注意

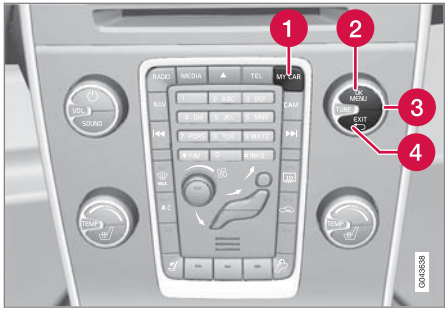
遅延時間内にドアが開けられた場合には、手順が中断され、アラームは解除されます。

デッドロック機能が作動している場合、車両をロック解除するには、必ずリモートコントロールキーを使用する必要があります。脱着式キーブレード(p. 212)を使用して、左フロントドアをロック解除することもできます。また、キーレスドライブ*装備車の場合、ドアハンドルまたはテールゲートのハンドルに触れることで、ドアおよびテールゲートをロック解除する/開くことができます。

警告

車内に人が閉じ込められる危険を防止するため、デッドロック機能を解除しない限り、車内に人を残して車両から離れないでください。

一時的に解除する



選択されているメニューオプションに、＋マークが表示されます。

1. **MY CAR**
2. **OK MENU**
3. **TUNE** ノブコントロールスイッチ
4. **EXIT**

車内に人を残したまま車外からドアをロックする場合、一時的にデッドロック機能を解除することができます。これはメニューシステム **MY CAR** で行われます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

注意

- 車両がロックされているときは、アラームが有効になっていますのでご注意ください。
- いずれかのドアを車内から開けた場合、アラームが作動します。

上記はデッドロックが一時的に無効にされていない場合に適用されます。

関連情報

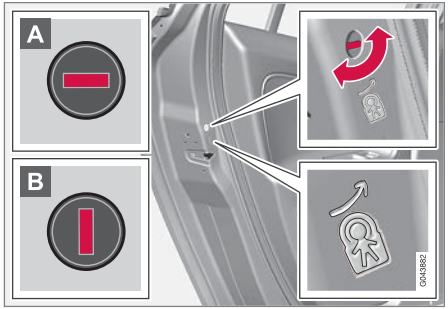
- キーレスドライブ* – キーブレードによるロック解除 (p. 219)
- リモートコントロールキー (p. 204)

9 アラームと併用のみ。

チャイルドロック – 手動による作動

チャイルドロックは、お子様が内側からリアドアを開けるのを防ぎます。

チャイルドロックの作動/解除



チャイルドロックがかかった状態。これは手動ドアロック(p. 221)とは異なります。

チャイルドロック用コントロールは左右リアドアの後端にあり、ドアが開いているときにのみ操作できます。

チャイルドロックの作動/解除は：

– リモートコントロールキーの脱着式キーブレード(p. 212)でノブを回してください。

A ドアは内側から開かなくなります。

B ドアは、外側からも内側からも開けることができます。

⚠ 警告

リアドアには両側ともノブコントロールが2つずつあります。チャイルドロックと手動ドアロックは異なります。

ⓘ 注意

- ドアのノブコントロールは、そのドアのみに作動します。両方のリアドアに同時に作動するわけではありません。
- 電動チャイルドロック装着車には、手動チャイルドロックは装着されていません。

関連情報

- チャイルドロック – 電動ロック* (p. 227)
- ロック/ロック解除 – 車内から (p. 222)
- ロック/ロック解除 – 車外から (p. 221)

チャイルドロック – 電動ロック*

電動式チャイルドロックは、お子様が車内からリアドアまたはウインドを開けることができないようにする機能です。

作動

チャイルドロックは、**0**以外のすべてのキー位置(p. 119)で作動/解除できます。作動/解除は、エンジンを切ってから2分が経過するまで実行できます。ただし、いずれのドアも開いていないことが前提です。

チャイルドロックの作動は：

運転席ドアのコントロールパネル

1. エンジンを始動するか、キーを **0** 以外の位置に回してください。

2. 運転席ドアのコントロールパネルのボタンを押します。
   > コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに リアチャイルドロック 作動 のメッセージが表示され、ボタンのライトが点灯すると、ロックが作動しています。

チャイルドロックが作動しているとき：

- パワーウインドは、運転席ドアのコントロールパネルスイッチでのみ開けることができます。
- リアドアは内側から開けられません。

エンジンを切ると、その時点での設定が保存されます。すなわち、エンジン停止時にチャイルドロックが作動していれば、次回エンジンを始動したときにも作動したままとなります。

関連情報

- チャイルドロック – 手動による作動 (p. 227)
- ロック/ロック解除 – 車内から (p. 222)

アラーム*

アラームは、何者かが車内へ侵入した際などに鳴る警報装置です。

作動可能状態のアラームは、次のようなときに作動します：

- ドア、ボンネット、またはテールゲートが開けられたとき [10]
- 車内の動きを感知したとき(ムーブメントセンサー*装着車の場合)
- 車両が持ち上げられたり、けん引されたとき(チルトセンサー*装着車の場合)
- バッテリーケーブルの接続が外されたとき
- サイレンの接続を切断しようとしたとき

アラームシステムに不具合があると、コンバインド・メーター・パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

注意

車内でなんらかの動きが検知されると、ムーブメントセンサーによりアラームが作動します。気流も動きとして感知されます。このため、ウインドまたはサンルーフが開いたままになっている場合や車内ヒーターが作動している場合には、アラームが作動するおそれがあります。

こうした状況を避けるには：車両から離れる場合には、ウインド/サンルーフを閉じてください。車に一体化されている車内ヒーター(またはポータブル電気ヒーター)を使用する場合には、空気吹出口からの気流が車内上方に向かうことがないように気流を調整してください。また、監視レベルを下げる方法もあります。アラームの機能解除* (p. 230)を参照してください。

注意

アラームシステムの部品は、絶対にご自身で修理や改造をしないでください。保険が適用されなくなる場合があります。

アラームのセット

– リモートコントロールキーのロックボタンを押します。

10 特定市場に適用。

アラームを非作動状態にする

– リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押します。

作動したアラームの停止

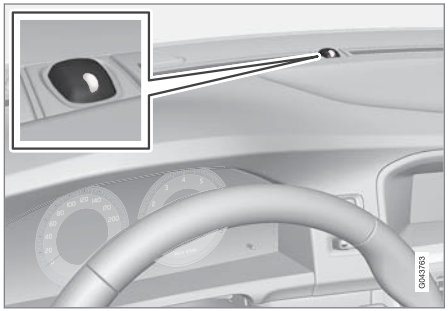
– リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すか、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます。

関連情報

- アラームインジケーター*（p. 229）
- アラーム* – 自動再セット（p. 229）
- アラーム* – リモートコントロールキーが使用できない（p. 230）

アラームインジケーター*

アラームインジケーターはアラームシステム（p. 228）の状態を示します。



ロックインジケーター（p. 207）と同じ LED

ダッシュボードにある赤い LED が、アラームシステムの状態を表示します：

- LED 消灯 – アラームが解除されています。
- LED が 2 秒に 1 回点滅 – アラームがセットされています。
- アラームを解除後（および、イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、I 位置にするまでの間）、LED が速く点滅 – アラームが作動しました。

アラーム* – 自動再セット

アラームの自動再セットは、アラーム（p. 228）をセットし忘れた状態で、車両が放置されるのを防ぐ機能です。

リモートコントロールキーで車両をロック解除（およびアラーム解除）してから 2 分以内にドアまたはテールゲートを開けないと、アラームは自動的に再びセットされます。同時に車両もロックされます。

関連情報

- アラームの機能解除*（p. 230）

アラーム* – リモートコントロールキーが使用できない

アラーム(p. 228)をリモートコントロールキーで解除できない場合(リモートコントロールキーの電池(p. 215)が消耗した場合など)は、次の手順で車両のロックとアラームを解除して、エンジンを始動することができます。

1. 脱着式キーブレード(p. 219)を使用して、運転席ドアを開けます。
   > アラームが作動し、アラームインジケーター(p. 229)が高速点滅して、サイレンが鳴ります。

2. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます。
   > アラームが解除され、アラームインジケーターが消灯します。
3. エンジンを始動します。

アラームシグナル*

アラーム(p. 228)が発動すると、サイレンが鳴り、すべての方向指示器が点滅します。

- サイレンは、30 秒間またはアラームを解除するまで鳴ります。サイレンには独自のバッテリーが接続されており、車両のバッテリーと関係なく機能します。
- すべての方向指示器が 5 分間、またはアラームを解除するまで点滅します。

アラームの機能解除*

ムーブメントセンサーおよびチルトセンサーを一時的に解除してアラームを解除します。

車内に犬を残すときや、列車やフェリーで車両を搬送する場合などは、アラーム(p. 228)が誤作動しないように、ムーブメントセンサーおよびチルトセンサーを一時的に解除してください。

この手順は、デッドロック(p. 226)[11] の一時解除と同じです。

関連情報

- アラームインジケーター* (p. 229)

型式認定 – リモートコントロールキーシステム

リモートコントロールキーの型式認定が表内に記載されています。

ロックシステム、標準

国/地域	
EU、中国	

キーレスロックシステム(キーレスドライブ)

国/地域	
EU	
韓国	
中国	
香港	

関連情報

- リモートコントロールキー（p. 204）

11 アラームと併用のみ。

運転者サポート

ステアリングホイール操舵力の調節*

速度感応式パワーステアリングは、車速が上がるとステアリングを重くしてハンドル操作をしやすくします。

高速道路では、ステアリングはさらに重く感じられます。駐車時や低速走行時はステアリングホイールが軽くなり、ハンドル操作が容易にできます。

ステアリングホイール操舵力は、路面反応性やステアリング感度といった好みに合わせて、メニューシステム **MY CAR** (p. 154) で 3 段階から選択できます。

- メニューシステムで、**ｽﾃｱﾘﾝｸﾞの重さﾚﾍﾞﾙ** を検索し、**低**、**中**、または **高** を選択します。

走行中はこの設定にアクセスすることができません。

注意

状況により、パワーステアリングの温度が上がりすぎて、一時的に冷却が必要になることがあります。この間、パワーステアリングのアシスト力が低下するため、ステアリングホイールを回すときに、通常よりも少し重く感じられることがあります。

ステアリングのアシスト力が一時的に低下すると、コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。

関連情報

- MY CAR (p. 154)

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 概要

スタビリティ・システム ESC (Electronic Stability Control) は、横滑りの回避を支援し、車両のトラクションを向上させます。

ESC システムの作動中は、ブレーキペダルを踏むと振動音が聞こえます。アクセルペダルを踏み込むと、通常よりゆっくり加速します。

警告

- スタビリティ・システム ESC 機能は、運転を手助けし、安全性を向上させるための補助的な運転者サポートであり、交通条件、気象条件および道路条件によっては対応できない状況があります。
- ESC は運転者の注意および判断に代わるものではありません。現行の交通規則および規制に従い、他の車両と適切な距離をとって、適切な速度で安全に車両を運転することは、つねに運転者の責任です。

ESC システムは以下の機能で構成されています。

- アクティブ・ヨー・コントロール(AYC)
- スピンコントロール
- トラクション・コントロール・システム
- エンジン・ドラッグ・コントロール(EDC)

* オプション/アクセサリー。

- コーナー・トラクション・コントロール(CTC)
- トレーラー・スタビリティ・アシスト(TSA)

アクティブ・ヨー・コントロール(AYC)
この機能は、個々の車輪の回転と制動力をコントロールして、車両を安定させます。

スピンコントロール
この機能は、加速中に駆動輪が空転することを防ぎます。

トラクション・コントロール・システム
この機能は、低速走行時に作動し、アクセルを踏んだときに駆動輪の片側が空転すると、その車輪の駆動力を空転していない側の車輪に伝えます。

エンジン・ドラッグ・コントロール(EDC)
EDC (Engine Drag Control) は、滑りやすい路面を低めのギヤで走行中にエンジンブレーキをかけた場合や、シフトダウンした場合などに、不意なホイールロック防止します。

走行中の不意なホイールロックは、運転者が車両の制御を失う原因の一つとなります。

コーナー・トラクション・コントロール(CTC)*
アーチ形になった高速道路の入り口などで、他の車両の速度に迅速に追い付けるように、CTC はアンダーステアを補正し、内側のホイールをスピンさせずに通常以上の加速を可能にします。

トレーラー・スタビリティ・アシスト*(TSA)[1]
トレーラー・スタビリティ・アシスト (p. 373) 機能は、車両とトレーラーが蛇行を始めた場合に安定化を図るものです。詳しくは、 トレーラーなどのけん引* (p. 366)を参照してください。

> **注意**
> 運転者が **Sport** モードを選択すると、この機能は解除されます。

関連情報
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 操作 (p. 235)
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - シンボルおよびメッセージ (p. 237)

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 操作

レベルの選択 - Sport モード
ESC はつねに起動しています。解除することはできません。

しかし、運転者が **Sport** モードを選択すると、よりアクティブな運転が可能になります。

Sport モードはメニューシステム MY CAR で選択されます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

Sport モードでは、システムがアクセルペダルやステアリングホイールの動き、さらにコーナリングをモニターし、通常よりもアクティブに運転していると判断すると、一定範囲内で後輪の意図的なスリップを許容します。スリップが一定レベルを超えると、システムが介入し、車両を安定させます。

例えば、運転者がアクセルペダルから足を放して、意図的なスリップを止めると、ESC システムが介入して、車両を安定させます。

Sport モードでは、車両が動けなくなった場合や、砂や深い雪など滑りやすい表面を走行している際にも、最大のトラクションが得られるようになります。

[1] Trailer Stability Assist はボルボ純正トウバーの取り付けに含まれます。

Sport モードは、このシンボルがコンバインド・メーター・パネル内に点灯することで表示されます。この表示は、運転者が機能の選択を解除するまで、またはエンジンを停止するまで続きます。次回のエンジン始動後には、ESC システムは通常モードに戻ります。

関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 概要 (p. 234)
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – シンボルおよびメッセージ (p. 237)

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – シンボルおよびメッセージ

一覧表

シンボル	メッセージ	意味
	ESC 一時 OFF	ブレーキディスクが高温になり過ぎて、ESC システムが一時的に制限されたことを示します。ブレーキ温度が正常に戻ると、機能は自動的に作動状態に戻ります。
	ESC ｻｰﾋﾞｽが必要です	ESC システムが解除されています。 • 安全な場所に停車して、エンジンを一時停止し、その後再始動してください。 • メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
 および 	ﾒｯｾｰｼﾞ	コンバインド・メーター・パネル(p. 102)にディスプレイテキストが表示されます。ご確認ください。
	2 秒間点灯します。	エンジン始動時のシステムチェックを行っています。
	点滅状態	ESC システムが起動中です。
	点灯状態	**Sport** モードが起動されました。 **注意：**このモードの場合、ESC システムは解除されていません。一部制限されているだけです。

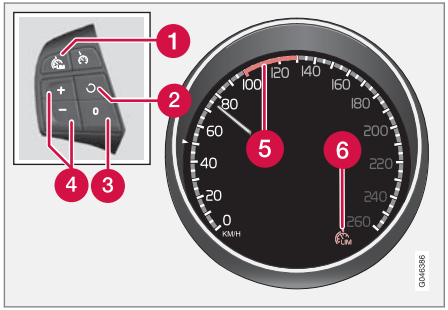
関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 234)
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 操作 (p. 235)

速度リミッター*

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。

概要



ステアリングリモコンおよびコンバインド・メーター・パネル

1. 速度リミッター – オン/オフ
2. スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
3. スタンバイモード
4. 起動して上限速度を調整
5. 選択した速度
6. 速度リミッターがアクティブ

関連情報

- 速度リミッター* – 開始する (p. 239)
- 速度リミッター* – 一時的解除およびスタンバイモード (p. 240)
- 速度リミッター* – 速度超過時のアラーム (p. 241)
- 速度リミッター* – 解除 (p. 241)

速度リミッター* – 開始する

オンにして起動する

速度リミッターがアクティブであれば、そのシンボル(6)と共に、コンバインド・メーター・パネルに設定した上限速度の横にマーク(5)が表示されます。

上限速度を選択し、メモリーに保存する作業は、走行中でも、静止している際にも実行できます。

走行中

1. ステアリングホイールの ボタンを押して、速度リミッターをオンにします。
   > コンバインド・メーター・パネルに速度リミッターのシンボル(6)が点灯します。
2. 車両が設定したい上限速度で走行している間に:コンバインド・メーター・パネルの設定したい上限速度の横にマーク(5)が表示されるまで、ステアリングホイールの + または – ボタンを押します。
   > 速度リミッターがアクティブになり、設定した上限速度がメモリーに記録されます。

静止時

1. ステアリングホイールの ボタンを押して、速度リミッターをオンにします。

2. コンバインド・メーター・パネルの設定したい上限速度の横にマーク(5)が表示されるまで、+ ボタンでスクロールします。
   > 速度リミッターがアクティブになり、設定した上限速度がメモリーに記録されます。

関連情報
- 速度リミッター* (p. 239)

速度リミッター* – 速度変更

設定されている速度の変更

設定した上限速度は、ステアリングホイールの + または − ボタンを軽く押すか長押しすると変更できます。

+/- 5 km/h (+/- 5 mph)調整するには:

- 短く押すと、押すたびに+/- 5 km/h (+/- 5 mph)ずつ変化します。

+/- 1 km/h (+/- 1 mph)調整するには:

- ボタンを押したままにし、設定したい上限速度に達したら手を放します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

関連情報
- 速度リミッター* (p. 239)

速度リミッター* – 一時的解除およびスタンバイモード

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。

一時的解除 – スタンバイモード

一時的に速度リミッターを解除し、スタンバイモードにするには:

– 0 を押します。
   > コンバインド・メーター・パネルのマーク(5)の色が緑から白に変わります。運転者は設定した上限速度を一時的に上回ることができます。

   ↺ を1回押すと速度リミッターが再起動されます。マーク(5)の色が白から緑に変わり、車両の最高速度が再び制限されるようになります。

アクセルペダルによる一時的解除

速度リミッターはアクセルペダルによってもスタンバイモードにできます。すなわち急速に加速し、危険な状況から脱出できます:

* オプション/アクセサリー。

– アクセルペダルを奥まで踏み込みます。
  › コンバインド・メーター・パネルには設定した上限速度が色のついたマーク(5)で表示されます。運転者は設定した上限速度を一時的に上回ることができます。このマーク(5)の色はこの間、緑から白に変わります。

    速度リミッターは、アクセルペダルを解放すると自動的に再起動し、車両の速度は選択/設定した上限速度まで減少します。ディスプレイのシンボル(5)の色が白から緑に変わり、車両の最高速度はそれまでのように制限されるようになります。

関連情報
- 速度リミッター*（p. 239）
- 速度リミッター* – 開始する（p. 239）
- 速度リミッター* – 速度変更（p. 240）
- 速度リミッター* – 解除（p. 241）
- 速度リミッター* – 速度超過時のアラーム（p. 241）

速度リミッター* – 速度超過時のアラーム

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。

急な下り坂では、エンジンブレーキだけでは不十分となり、設定した上限速度を超過する場合があります。こうした状態では、警告音が鳴り、運転者に注意を喚起します。

この信号は、運転者が減速し、設定した上限速度以下となるまで鳴りつづけます。

注意

アラームは、直前の 30 秒間に − または ↺ のいずれのボタンも押されず、速度が 3 km/h（約 2 mph)以上超過してから 5 秒たった場合にのみ発せられます。

関連情報
- 速度リミッター*（p. 239）
- 速度リミッター* – 速度変更（p. 240）
- 速度リミッター* – 開始する（p. 239）
- 速度リミッター* – 一時的解除およびスタンバイモード（p. 240）
- 速度リミッター* – 解除（p. 241）

速度リミッター* – 解除

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。

速度リミッターを解除するには:

– ステアリングホイールの LIM ボタンを押します。
  › コンバインド・メーター・パネルの速度リミッター用シンボル(6)と設定速度の選択(5)が両方とも消灯します。設定されている速度は消去されるため、↺ ボタンで元に戻すことはできません。

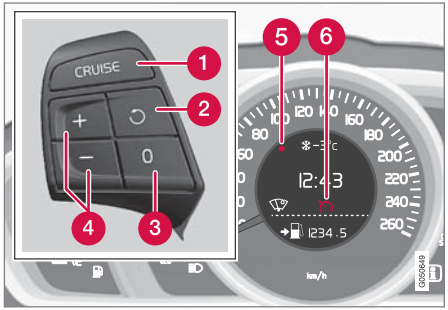
    運転者はアクセルペダルを使用して、制限なく速度を選択できるようになります。

関連情報
- 速度リミッター*（p. 239）
- 速度リミッター* – 開始する（p. 239）
- 速度リミッター* – 一時的解除およびスタンバイモード（p. 240）
- 速度リミッター* – 速度超過時のアラーム（p. 241）

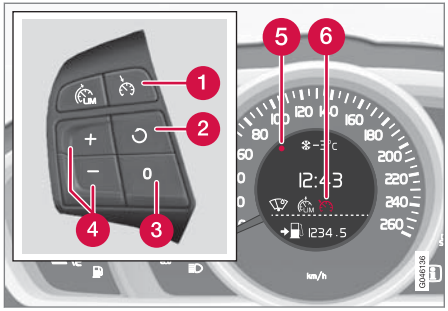
クルーズコントロール*

クルーズコントロール（CC - Cruise Control）は、運転者が一定の速度を維持するのをサポートします。このため、車の流れが一様な高速道路やまっすぐな道が長く続くときによりリラックスした運転が楽しめます。

概要



速度リミッター**非装備**[2]の車両のステアリングリモコンとコンバインド・メーター・パネル



速度リミッター**装備**[2]の車両のステアリングリモコンとコンバインド・メーター・パネル

1. クルーズコントロール – オン/オフ
2. スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
3. スタンバイモード
4. 作動および速度調整
5. 設定速度（グレー表示 = スタンバイモード）
6. クルーズコントロールアクティブ – シンボルが白く点灯（グレー表示 = スタンバイモード）

⚠ 警告

交通状況によく注意をはらい、クルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車を制御してください。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

- クルーズコントロール* – 速度の管理（p. 243）
- クルーズコントロール* – 一時解除およびスタンバイモード（p. 244）
- クルーズコントロール* – 設定速度の再開（p. 244）
- クルーズコントロール* – 解除（p. 245）
- アダプティブクルーズコントロール – ACC*（p. 249）

[2] 各市場に適用される最新情報は、ボルボ・ディーラーにお問い合わせください。

クルーズコントロール* - 速度の管理

作動、速度の設定または設定速度の変更が可能です。

作動/速度設定

クルーズコントロールの起動：

- ステアリングホイールの **CRUISE**（速度リミッター**非装備**）または（速度リミッター**装備**）ボタンを押します。

› コンバインド・メーター・パネルのクルーズコントロールシンボル(6)が点灯します - クルーズコントロールはスタンバイモードです。

クルーズコントロールを作動させるには：

- 設定したい車速に達したらステアリングホイールの + または − ボタンを押します。

› その時点の速度がメモリーに記憶され、コンバインド・メーター・パネルのマーク(5)が選択速度で点灯し、シンボル(6)がグレーから白に変わります - 車両は記憶された速度になります。

注意

クルーズコントロールは、車速が 30 km/h (20 mph)未満のときは使用できません。

設定されている速度の変更

設定されている速度は、ステアリングホイールの + または − ボタンを軽く押すか長押しすると変更できます。

5 km/h (5 mph)調整するには：

- 短く押すと、押すたびに 5 km/h (5 mph)ずつ変化します。

1 km/h (1 mph)調整するには：

- ボタンを押したままにし、設定したい速度に達したら手を放します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

+/− ボタンを押す前にアクセルペダルによって車速が上昇した場合、記憶されるのは、ボタンが押された時点での車速です。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、クルーズコントロールの設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールでセットした速度に戻ります。

注意

クルーズコントロール用のボタンのいずれかを数分間押したままにすると、クルーズコントロールがブロックされ無効になります。クルーズコントロールを再起動するには、一旦停車し、エンジンを再始動することが必要です。

関連情報

- クルーズコントロール*（p. 242）

クルーズコントロール* – 一時解除およびスタンバイモード

この機能は一時的に解除し、スタンバイモードにすることができます。

一時解除 – スタンバイモード

一時的にクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには:

- ステアリングホイールの 0 ボタンを押します。

› コンバインド・メーター・パネルのマーク(5)およびシンボル(6)の色が白からグレーに変わり、クルーズコントロールは一時的に解除されます。

運転者の介入によるスタンバイモード

次のような場合には、クルーズコントロールが一時的に解除され、自動的にスタンバイモードになります:

- フットブレーキが使用された
- クラッチペダルが 1 分以上踏み込まれたままになった[3]
- セレクターレバーを N 位置にした
- 運転者が、設定されている速度よりも速い速度を 1 分間以上維持した

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

自動スタンバイモード

次のような場合には、クルーズコントロールが一時的に解除され、スタンバイモードになります:

- タイヤのグリップ力が失われたとき
- エンジン回転数が低い、または高過ぎるとき
- 車速が 30 km/h (20 mph)を下回ったとき

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

関連情報

- クルーズコントロール* (p. 242)
- クルーズコントロール* – 速度の管理 (p. 243)
- クルーズコントロール* – 設定速度の再開 (p. 244)
- クルーズコントロール* – 解除 (p. 245)

クルーズコントロール* – 設定速度の再開

クルーズコントロール (CC - Cruise Control) は一定速度を維持した走行をサポートします。

一時解除およびスタンバイモード(p. 244) の後に、設定速度を再開することができます。

クルーズコントロールをスタンバイモードから再開するには:

- ステアリングホイールの ボタンを押します。

› コンバインド・メーター・パネルのマーク(5)およびシンボル(6)の色がグレーから白に変わり、車両は最後に記憶された速度になります。

注意

ボタンを選択して再開すると、急加速する場合があります。

関連情報

- クルーズコントロール* (p. 242)
- クルーズコントロール* – 速度の管理 (p. 243)

[3] 一度クラッチを切って、別のギヤにシフトする場合には、スタンバイモードになりません。

- クルーズコントロール* - 一時解除およびスタンバイモード（p. 244）
- クルーズコントロール* - 解除（p. 245）

クルーズコントロール* - 解除

ここでは解除方法が説明されています。

クルーズコントロールを解除するには、ステアリングホイールの(1)ボタンを使用するか、エンジンを停止します。設定されている速度は消去されるため、↺ ボタンで元に戻すことはできません。

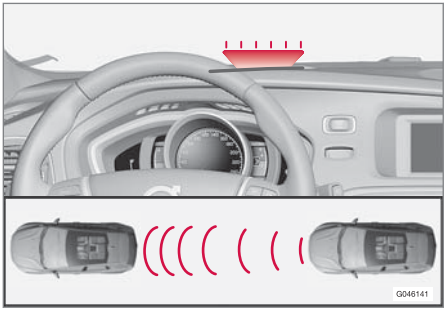
関連情報

- クルーズコントロール*（p. 242）
- クルーズコントロール* - 速度の管理（p. 243）
- クルーズコントロール* - 一時解除およびスタンバイモード（p. 244）
- クルーズコントロール* - 設定速度の再開（p. 244）

車間警告機能*

車間警告機能（Distance Alert）は、先行車との車間時間が短くなりすぎた場合に運転者に警告するシステムです。

車間警告機能は、車速が 30 km/h（20 mph）以上で作動し、同じ方向に走行している前方車両のみに反応します。対向車、低速で走行している車両、または停止している車両に対して、車間情報は表示しません。



オレンジ色警告灯 [4]

前方を走行している車両との間隔が、設定車間時間を下回ると、ウインドスクリーンのオレンジ色の警告灯が点灯したままとなります。

[4] 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

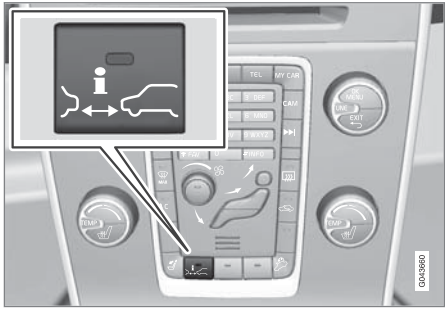
注意

アダプティブクルーズコントロール作動中は、車間警告機能は解除されます。

警告

車間警告機能は、前方の車両との車間時間が、プリセットされた値より短くなったときにのみ反応します。自車の車速とは関係しません。

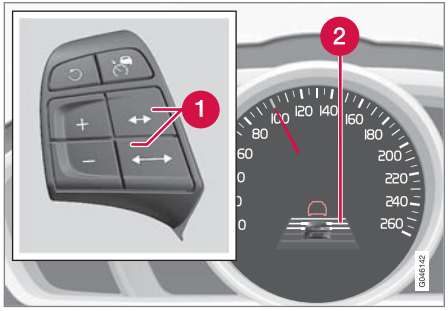
操作



センターコンソールのボタンを押して、システムをオン/オフします。ボタンの LED が点灯しているとき、システムは作動しています。

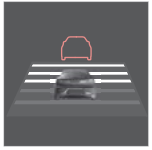
選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム **MY CAR**（p. 154）で制御します。メニューシステムでは、**距離警告** 機能を検索してください。

車間時間の設定



車間時間のコントロールおよびシンボル

1. 車間時間 – 増加/減少
2. 車間時間 – オン



先行車との車間時間を選択し、コンバインド・メーター・パネルに 1～5 本の横線で表示されます。横線が多いほど車間時間が長いことを示します。横線が 1 本であれば、前方の車両まで約 1 秒であることを示し、横線が 5 本あれば、約 3 秒であることを示します。

アダプティブクルーズコントロール（p. 250）作動中も、同じシンボルが表示されます。

注意

車速が高くなるほど、一定車間時間に相当する計算上の距離（単位：メートル）が長くなります。

設定された車間時間は、アダプティブクルーズコントロール（p. 250）機能も使用します。

各地の交通法規で許可されている車間時間のみを使用してください。

関連情報

- 車間警告機能* – 機能限界（p. 247）
- 車間警告機能* – シンボルおよびメッセージ（p. 248）

* オプション/アクセサリー。

車間警告機能* – 機能限界

この機能は、アダプティブクルーズコントロール(p. 249)およびオートブレーキ機能付衝突警告システム(p. 276)と同じレーダーセンサーを使用します。機能には限界があります。

注意

陽射しが強いときや光の反射があるとき、光の明暗が著しく変わるとき、あるいは運転者がサングラスを着用しているときは、ウインドスクリーンの警告灯が見えにくい場合がありますのでご注意ください。

悪天候下での走行時や曲がりくねった道路では、前方を走行している車両を感知するレーダーセンサーの性能が低下します。

また、レーダーセンサーの感知能力は、車両の大きさ(オートバイなど)にも左右されます。場合によっては設定よりも短い車間距離で警告灯が点灯したり、警告灯が全く点灯しなかったりすることがあります。

極端に高速で走行すると、センサー視野の限界により、設定より短い距離で警告灯が点灯する場合があります。

レーダーセンサーの機能限界についての詳細は、レーダーセンサー – 機能限界 (p. 263)および (p. 281)を参照してください。

関連情報

- 車間警告機能* (p. 245)
- 車間警告機能* – シンボルおよびメッセージ (p. 248)

車間警告機能* – シンボルおよびメッセージ

この機能がその限界により低下している場合には、シンボルとメッセージがコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

シンボル[A]	メッセージ	意味
	ﾚｰﾀﾞｰが遮られて います ﾏﾆｭｱﾙ参照	車間警告機能が一時的に解除されています。 雨が激しく降っている場合や、泥などがレーダーセンサーの前にたまると、レーダーセンサーが遮られ他の車両を感知することができません。 レーダーセンサーの機能限界(p. 263)を参照してください。
	衝突警告ｼｽﾃﾑ ｻｰﾋﾞｽが必要です	車間警告機能およびオートブレーキ機能付衝突警告システムが、完全または部分的に解除されています。 メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

[A] シンボルは概略図です – 車両モデルによって異なる場合があります。

関連情報

- 車間警告機能*（p. 245）
- 車間警告機能* – 機能限界（p. 247）

アダプティブクルーズコントロール - ACC*

アダプティブクルーズコントロール（ACC - Adaptive Cruise Control）は、運転者が一定の速度を維持し、前方を走行している車両との車間時間をあらかじめ選択した時間に維持するのに役立ちます。

アダプティブクルーズコントロールは、交通量が安定した高速道路や長い直線の幹線道路を長時間走行する際に、よりリラックスした走行を可能にします。

運転者が設定したい速度(p. 253)と前方の車両との車間時間(p. 254)を設定します。レーダーセンサーが、前方に自車よりも低速で走行する車両を感知すると、自車の車速を自動的にその車両に合わせます。前方の車両がいなくなると、車両は選択されていた速度に戻ります。

アダプティブクルーズコントロールが解除されている、またはスタンバイモードに設定(p. 255)されているときに前方の車両に異常に接近すると、代わりに車間警告機能(p. 245)が車間距離が短いことを警告します。

⚠ 警告

交通状況によく注意をはらい、アダプティブクルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車両を制御してください。

アダプティブクルーズコントロールは、運転状況、交通、天候、路面の状態などにより使用できない場合があります。

オーナーズマニュアル内のアダプティブクルーズコントロールに関するセクションすべてに目を通してください。この機能を使用するにあたって注意すべき作動限界が記載されています。

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときでも、車間距離や速度を正しく維持する責任は運転者にあります。

重要

アダプティブクルーズコントロール・コンポーネントのメンテナンスは、必ずボルボ指定のサービス工場でのみ行ってください。

点検整備の後しばらくは、ACC 機能の動作が幾分制限されることがあります。走行しているうちにシステムの校正が行われ、自動的に本来の機能を回復します。

オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション車には、アダプティブクルーズコントロールに拡張機能の渋滞アシスタント(p. 257)が追加されています。

関連情報

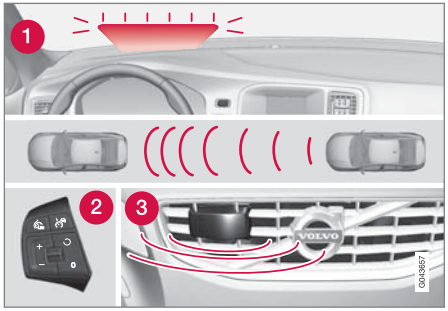
- アダプティブクルーズコントロール* - 機能（p. 250）
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要（p. 252）
- アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理（p. 253）
- アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定（p. 254）
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時解除およびスタンバイモード（p. 255）
- アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し（p. 256）
- アダプティブクルーズコントロール* - 解除（p. 257）
- アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント（p. 257）
- アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える(p. 259)
- レーダーセンサー（p. 263）
- レーダーセンサー - 機能限界（p. 263）

- アダプティブクルーズコントロール* – 故障点検および対処（p. 260）
- アダプティブクルーズコントロール* – シンボルおよびメッセージ（p. 261）

アダプティブクルーズコントロール* – 機能

アダプティブクルーズコントロールは、クルーズコントロールシステムおよび車間距離測定システムで構成されています。

機能の概要



機能の概要 [5]

1. 運転者にブレーキ操作を促す警告灯
2. ステアリングホイールのステアリングリモコン（p. 252）
3. レーダーセンサー（p. 263）

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールは、衝突を回避するシステムではありません。システムが前方を走行する車両を感知しない場合は、運転者が車両を操作しなければなりません。

アダプティブクルーズコントロールは、人や動物には反応しません。また、自転車やオートバイなどの小型車両にも対応していません。さらに、車高の低いトレーラー、対向車、低速で走行している車両、または静止している車両および物体に対して、ブレーキを作動させることもありません。

アダプティブクルーズコントロールは、市街地走行中、渋滞時、ジャンクション走行時、滑りやすい路面走行時、水溜りが多い路面や雪や泥に覆われている路面走行時、激しい雨や雪の中の走行時、視界が悪いとき、曲がりくねった道路走行中などは使用しないでください。

前方走行車両との距離（p. 254）をレーダーセンサー（p. 263）によって計測します。クルーズコントロール機能は、アクセルおよびブレーキにより速度を制御します。アダプティブクルーズコントロールがブレーキを作動させるとき、低い音が出る場合がありますが、異常ではありません。

[5] 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールがブレーキを作動させるときは、ブレーキペダルが動きます。挟まれるおそれがあるので、ブレーキペダルの下に足を置かないでください。

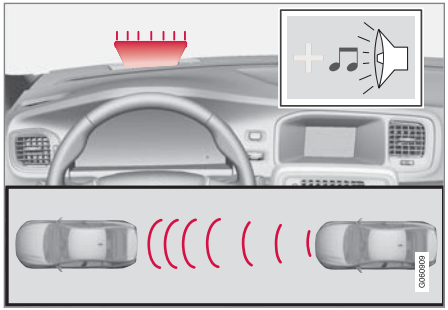
アダプティブクルーズコントロールは、同じ車線上を走行する前方車両との車間時間(p. 254)を設定に従って維持することを目的としています。レーダーセンサーが前方に車両を感知できない場合、車両は運転者の設定した速度を維持します。前方を走行している車両が設定速度を超えた場合にも、運転者の設定した速度を維持して走行します。

アダプティブクルーズコントロールは、速度をスムーズに制御します。急ブレーキが必要な状況では、必ずご自分でブレーキをかけてください。速度差が大きく異なる場合や、前方の車両が急ブレーキをかけた場合などです。 レーダーセンサーには限界がある(p. 263) ため、不意にブレーキがかかったり、あるいはまったくブレーキがかからないことがあります。

アダプティブクルーズコントロールを起動すると、車速が 30 km/h[6] (20 mph)から 200 km/h (125 mph)までの別の車両に追従して走行できるようになります。車速が 30 km/h (20 mph)未満になった場合や、エンジン回転数が低くなりすぎると、クルーズコントロールはスタンバイモード(p. 255)になり、オートブレーキが作動しなくなります。この場合、運転者自身で車両を制御して、前方車両との間に安全な距離を保つ必要があります。

運転者にブレーキ操作を促す警告灯

アダプティブクルーズコントロールのブレーキ能力は、車両のブレーキ能力の約 40%に相当します。



衝突の危険を知らせる警告音および警告灯[7]

アダプティブクルーズコントロールのブレーキ能力以上のブレーキを必要とするときに、運転者がブレーキをかけない場合は、衝突警告システム(p. 276)の警告灯が点灯して警告音が鳴り、運転者がただちにブレーキ操作を行う必要があることを警告します。

ⓘ 注意

陽射しが強いとき、光のコントラストが極端なとき、運転者がサングラスを着用しているとき、運転者が前方をまっすぐ見ていないときなどは、ウインドスクリーンの警告灯が見えにくいことがあります。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールは、レーダーユニットが検知した車両に対してのみ警告を発します。そのため、警告を発しない場合や、警告に遅延が生じる場合があります。

- 絶対に警告が出るまで待たないでください。必要に応じてブレーキをかけてください。

急な坂道や重い荷物を積載しての走行

アダプティブクルーズコントロールは主に、平坦な路面走行時用に設計されています。重い荷物を積載したり、トレーラーをけん引しながら急な下り坂を走行する場合には、前方の車両と適切な距離を保つことがむずかしい場合があり

[6] 渋滞アシスタント(p. 257)(オートマチックトランスミッション車)は、0〜200 km/h (0〜125 mph)の速度範囲で作動することができます。
[7] 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

ます。このような場合には、特に注意をはらい、いつでも減速できるようにしてください。

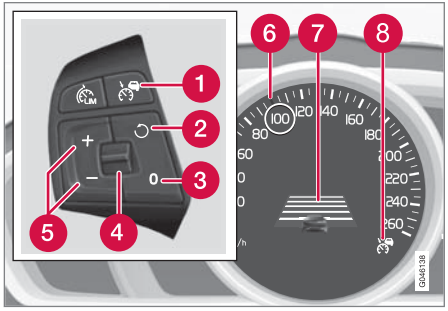
関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 解除 (p. 257)
- アダプティブクルーズコントロール* – 追い越し (p. 256)

アダプティブクルーズコントロール* – 概要

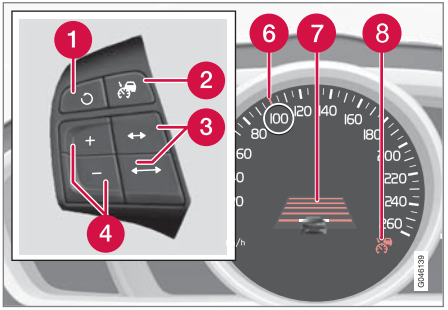
アダプティブクルーズコントロールとステアリングホイールのステアリングリモコンの操作は、速度リミッター搭載の有無によって異なります[8]。

アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター装備



1. クルーズコントロール – オン/オフ
2. スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
3. スタンバイモード
4. 車間時間 – 増加/減少
5. 作動および速度調整
6. 記録されている速度付近の緑色のシンボル (白色 = スタンバイモード)
7. 車間時間
8. シンボルが緑色であれば ACC が作動しています (白色 = スタンバイモード)

アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター非装備



1. スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
2. クルーズコントロール – オン/オフまたはスタンバイモード
3. 車間時間 – 増加/減少
4. 作動および速度調整
5. (未使用)

[8] 各市場に適用される最新情報は、ボルボ・ディーラーにお問い合わせください。

6 記録されている速度付近の緑色のシンボル(白色 = スタンバイモード)

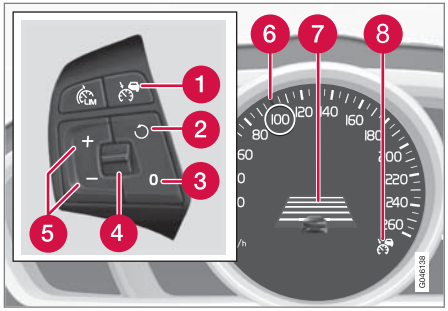
7 車間時間

8 シンボルが緑色であればACCが作動しています(白色 = スタンバイモード)

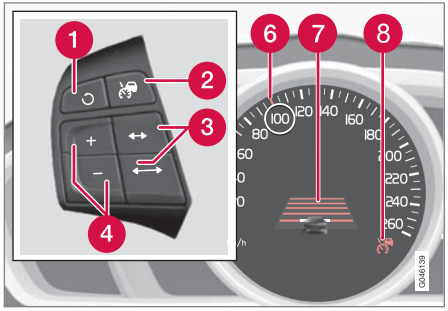
関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 機能 (p. 250)
- アダプティブクルーズコントロール* – シンボルおよびメッセージ (p. 261)

アダプティブクルーズコントロール* – 速度の管理



アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター**装備** [9]



アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター**非装備** [9]

ACC の起動:

- ステアリングホイールの ボタンを押します。コンバインド・メーター・パネルに同様のシンボル(8)が白く点灯し、アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモード(p. 255)になっていることがわかります。

ACC を作動させるには:

- 設定したい車速に達したらステアリングホイールの + または − ボタンを押します。

› 現在の速度がメモリーに記憶され、コンバインド・メーター・パネル内の記憶された速度の周りに「拡大鏡」(6)が数秒間表示されます。シンボルは白から緑に変わります。

このシンボルが白から緑に変わると、ACCがアクティブになり、車両は記憶された速度を維持します。

シンボルに別車両の画像が表示されている場合にのみ、先行車との**車間距離**がACCにより制御されます。

[9] 図の各部の説明は「アダプティブクルーズコントロール – 概要」(p. 252)に記載されています。

同時に速度間隔がマークされます：

- 緑色のシンボルが付いた高い方の速度がプログラムされている速度です。
- 低い方の速度が先行車両の速度です。

設定されている速度の変更

設定されている速度は、ステアリングホイールのボタン ＋ または － を軽く押すか長押しすると変更できます。

+/- 5 km/h (+/- 5 mph)ずつ調整するには：

- 短く押すと、押すたびに+/- 5 km/h (+/- 5 mph)ずつ変化します。

+/- 1 km/h (+/- 1 mph)ずつ調整するには：

- ボタンを押したままにし、設定したい速度に達したら手を離します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

＋/－ ボタンを押す前にアクセルペダルによって車速が上昇した場合、記憶されるのは、ボタンが押された時点での車速です。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。

アクセルペダルを放すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

> **注意**
>
> アダプティブクルーズコントロール用のボタンのいずれかを数分間押したままにすると、アダプティブクルーズコントロールがブロックされ無効になります。アダプティブクルーズコントロールを再起動するには、一度停車し、エンジンを再始動することが必要です。
>
> 状況によっては再起動できないことがあります。その場合、コンバインド・メーター・パネル(p. 261)に **ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ は 利用できません** と表示されます。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール － ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* － 概要 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* － 機能 (p. 250)

アダプティブクルーズコントロール* － 車間時間設定

先行車との車間時間を選択し、コンバインド・メーター・パネルに 1～5 本の横線で表示されます。横線が多いほど車間時間が長いことを示します。横線が 1 本であれば、前方の車両まで約 1 秒であることを示し、横線が 5 本あれば、約 3 秒であることを示します。

車間時間を設定/変更するには：

- ステアリングホイールのステアリングリモコン(p. 252)のコントロールダイヤルを回します(または、速度リミッター非装備の車両のでは ↔/↔ ボタンを使用します)。

低速走行時、車間距離が短いときは、アダプティブクルーズコントロールが車間時間を若干増やします。

前方を走行している車両の後をスムーズかつ快適に走行できるように、状況によりアダプティブクルーズコントロールが、車間時間を大幅に変更する場合があります。

車間時間が短いと、走行中に万が一不測の事態が発生した場合、運転者が回避操作を行う反応時間が短くなることにご注意ください。

車間警告機能(p. 245)の作動中も同じシンボルが表示されます。

＊ オプション/アクセサリー。

注意

- 車速が速くなるほど、一定車間時間に相当する計算上の距離(単位：メートル)が長くなります。
- 各地の交通法規で許可されている車間時間のみを使用してください。
- アダプティブクルーズコントロールがオンになっているときに速度の上昇に反応しないように思われる場合、先行車との車間時間が設定時間よりも短いことが考えられます。

速度の管理(p. 253)についてさらに詳しく知るために参照してください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール - ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* - 機能 (p. 250)
- アダプティブクルーズコントロール* - 解除 (p. 257)

アダプティブクルーズコントロール* - 一時解除およびスタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは一時的に解除し、スタンバイモードにすることができます。

一時解除/スタンバイモード、速度リミッター装備

一時的にアダプティブクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- ステアリングホイールの 0 ボタンを押します。

このシンボルと設定されている速度のシンボルが緑から白に変わります。

一時解除/スタンバイモード、速度リミッター非装備

一時的にアダプティブクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- ステアリングホイールの ボタンを押します。

運転者の介入によるスタンバイモード

次のような場合には、アダプティブクルーズコントロールが一時的に解除され、自動的にスタンバイモードになります：

- フットブレーキが使用された
- クラッチペダルが 1 分以上踏み込まれたままになった [10]
- ギヤセレクターレバーが N 位置に動かされた(オートマチックトランスミッション)
- 運転者が、設定されている速度よりも速い速度を 1 分間以上維持した

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

自動スタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは、他のシステム(スタビリティ・システム ESC(p. 234)など)に依存します。これらのシステムのいずれかが作動を停止した場合、アダプティブクルーズコントロールは自動的に解除されます。

自動的に解除されると、警告音が鳴り、コンバインド・メーター・パネルにメッセージ **ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙは ｷｬﾝｾﾙされました** が表示されます。運転者はただちに必要な運転操作を行い、前方を走行する車両との車間距離を維持してください。

次のようなときに、自動的に解除されます：

10 一度クラッチを切って、別のギヤにシフトする場合には、スタンバイモードになりません。

- 運転者がドアを開けたとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- エンジン回転数が低い、または高過ぎるとき
- 車速が約 30 km/h[11] (20 mph)を下回ったとき
- タイヤのグリップ力が失われたとき
- ブレーキ温度が高温になったとき
- レーダーセンサーが雪や激しい雨などでブロックされているとき(レーダー波が遮られているとき)

セットした速度に戻る

アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモードの場合、ステアリングホイールの ボタンを 1 回押すとアダプティブクルーズコントロールが再開されます。車速は、メモリーに記録されている速度に設定されます。

注意

ボタンを使用してクルーズコントロールを再度オンにすると、速度が著しく上昇することがあります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 概要 (p. 252)
- クルーズコントロール* (p. 242)

アダプティブクルーズコントロール* – 追い越し

車両が先行車を追従しているときに運転者が方向指示器[12] を出して追い越しの意図を示すと、アダプティブクルーズコントロールは先行車の方向への一時的な加速を補助します。

この機能は、車速が 70 km/h (43 mph)を超えているときに作動します。

警告

この機能は追い越し時以外の状況で多く作動することがあります(例えば、車線変更時や別の道路への合流時に方向指示器を使用したときなど – 車両は一時的に加速します)。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 概要 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* – 機能 (p. 250)

11 渋滞アシスタント装備車には適用されません。静止(0 km/h)するまで作動します。
12 左ハンドル車では左側の、右ハンドル車では右側の方向指示器のみです。

アダプティブクルーズコントロール* – 解除

速度リミッター装備のステアリングリモコン

アダプティブクルーズコントロールは、ステアリングホイールのステアリングリモコン (p. 252)の ボタンを使用してオフにします。設定/記憶されている速度は消去されるため、 ボタンで元に戻すことはできません。

速度リミッター非装備のステアリングリモコン

ステアリングホイールの ボタンを短く押すと、アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモード(p. 255)になります。もう 1 回短く押すとスイッチがオフになります。設定/記憶されている速度は消去されるため、 ボタンで元に戻すことはできません。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 機能 (p. 250)
- アダプティブクルーズコントロール* – シンボルおよびメッセージ (p. 261)

アダプティブクルーズコントロール* – 渋滞アシスタント

車速が 30 km/h (20 mph)未満の場合はアダプティブクルーズコントロールの拡張機能の渋滞アシスタントも機能します。

オートマチックトランスミッション車のアダプティブクルーズコントロールには、渋滞アシスタント("Queue Assist"と呼ばれる場合もあります)が装備されています。

渋滞アシスタントには、次のような機能があります:

- 拡張速度範囲 – 30 km/h (20 mph)未満および静止時
- 追従対象車両の変更
- 静止時にはオートブレーキは停止
- パーキングブレーキの自動作動

アダプティブクルーズコントロールで設定できる最低速度は 30 km/h (20 mph)です。静止するまで先行車の追従が可能でも、30 km/h (20 mph)未満の速度を選択することは**できません**。

対応速度範囲の拡張

注意

運転席ドアを閉め、運転者がシートベルトを着用するまで、アダプティブクルーズコントロールは起動できません。

オートマチックトランスミッション車では、アダプティブクルーズコントロールは 0～200 km/h (0～125 mph)の速度範囲で先行車の追従が可能です。

注意

車速が 30 km/h (20 mph)未満のときにアダプティブクルーズコントロールを作動させるためには、前方の車両との間に適度の車間距離が必要です。

渋滞時や赤信号など、停止する時間が約 3 秒以内であれば、自動的に走行が始まります。先行車両が動き出すまでにそれ以上の時間がかかる場合には、アダプティブクルーズコントロールはオートブレーキによりスタンバイモードになります。運転者は以下の方法のいずれかでクルーズコントロールを再開する必要があります。

- ステアリングホイールの ボタンを押す

または

- アクセルペダルを踏み込む

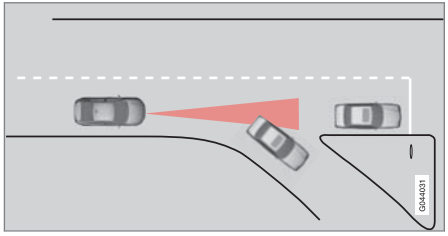
› これにより、アダプティブクルーズコントロールによる前方の車両への追従が再開されます。

注意

渋滞アシスタント機能は、最大 4 分間車両を静止させておくことができます。それ以上経過すると、パーキングブレーキが作動し、アダプティブクルーズコントロールが解除されます。

- アダプティブクルーズコントロールを再起動できるようにするには、パーキングブレーキを解除する必要があります。

追従対象車両の変更



追従対象となっている先行車両が突然曲がった場合には、前方の車両が停止していることに突然気づく場合があります。

アダプティブクルーズコントロールにより、30 km/h (20 mph)**未満**の速度で別の車両に追従している際に、目標車両が走行車両から静止車両に変わった場合、アダプティブクルーズコントロールは静止車両に合わせてブレーキをかけます。

警告

アダプティブクルーズコントロールにより、30 km/h (20 mph)を**超える**速度で先行車両に追従している際に、目標車両が先行車両から静止車両に変わった場合には、アダプティブクルーズコントロールは静止している車両を無視して、セットされている速度を維持します。

- 運転者は注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけてください。

追従対象車両の変更による自動スタンバイモード

以下の場合、アダプティブクルーズコントロールは、解除されてスタンバイモードになります。

- 速度が 5 km/h (5 mph)未満で、アダプティブクルーズコントロールが、追従対象が静止車両なのか別の障害物(減速帯など)なのかを判断できない場合。
- 速度が 5 km/h (5 mph)未満で、先行車が曲がったためアダプティブクルーズコントロールが追従する車両がなくなった場合。

静止時のオートブレーキの終了

状況により、渋滞アシスタントは静止時のオートブレーキを停止することがあります。このため、ブレーキが解除され、車両が動き出す場合があります。運転者はご自分でブレーキをかけ、適切な位置を保ってください。

次のような状況では、渋滞アシスタントがフットブレーキを解除し、アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモードになります。

- 運転者がブレーキペダルに足を載せたとき
- パーキングブレーキを操作したとき
- ギヤセレクターレバーが **P**、**N** または **R** 位置になったとき
- 運転者がアダプティブクルーズコントロールをスタンバイモードにしたとき

パーキングブレーキの自動作動

一定の状況では、渋滞アシスタントによってパーキングブレーキが作動し、静止している車両を静止状態に保ちます。

そうした状況が発生するのは：

- 運転者がドアを開けたときか、シートベルトを外したとき
- ESC が **Normal** から **Sport** モードに変わったとき
- 渋滞アシスタントにより車両が 4 分以上静止状態になったとき
- エンジンが停止したとき
- ブレーキがオーバーヒートしたとき

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 概要 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* – 機能 (p. 250)

アダプティブクルーズコントロール* – クルーズコントロール機能に切り替える

ACC から CC への切り替え

アクティブクルーズコントロールのシンボルはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

CC Cruise Control	ACC Adaptive Cruise Control
クルーズコントロール	アダプティブクルーズコントロール

ボタンを 1 回押すとクルーズコントロールのアダプティブな部分(車間距離を保つシステム)が解除されます。この場合、車両は設定/記憶された速度を維持します。

- ステアリングホイールの ボタンを**長押し**すると、コンバインド・メーター・パネルのシンボルが から に変わります。

› このようにして標準クルーズコントロール (p. 242) CC (Cruise Control) が起動します。

⚠ 警告

ACC から CC に切り替えると、車両は自動的にはブレーキを作動させません。設定した速度を保つだけです。

CC から ACC に戻す

ボタンを 1～2 回押してクルーズコントロールを解除します。解除の指示(p. 257)に従ってください。次回システムをオンにするとアダプティブクルーズコントロールが作動します。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* – 概要 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* – 機能 (p. 250)

アダプティブクルーズコントロール* – 故障点検および対処

コンバインド・メーター・パネルに **ﾚｰﾀﾞｰが遮られて います ﾏﾆｭｱﾙ参照** というメッセージが表示された場合、アダプティブクルーズコントロールのレーダーセンサー(p. 263)が前方に他の車両を検知できないことを意味しています。

このメッセージは、車間警告機能(p. 245)またはオートブレーキ機能付衝突警告システム(p. 276)のいずれも作動していないことを示しています。

以下の表には、表示メッセージの考えられる原因と、その対処法の例が記載されています。

原因	対処
グリル内のレーダーセンサー前面が泥、氷、雪などに覆われている。	グリル内のレーダーセンサー前面の、泥、氷、雪などをきれいに取り除いてください。
激しい雨や雪で、レーダーシグナルが遮られている。	対処法なし。激しい雨や雪のときは、レーダーが機能しない場合があります。
路面から跳ね上がる水や雪により、レーダーシグナルが遮られている。	対処法なし。水たまりの多い道や雪道では、レーダーが機能しない場合があります。
レーダーセンサー前面を清掃した後でもメッセージが消えない。	しばらくお待ちください。障害が解消されたことをレーダーが感知するまで、数分間かかる場合があります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール* – 概要（p. 252）
- アダプティブクルーズコントロール* – 機能（p. 250）
- アダプティブクルーズコントロール* – シンボルおよびメッセージ（p. 261）

アダプティブクルーズコントロール* – シンボルおよびメッセージ

アダプティブクルーズコントロールがシンボルとメッセージの両方、またはどちらか一方を表示する場合があります。例を以下に示します。必要に応じて表示される推奨事項に従って下さい。

シンボル	メッセージ	意味
	シンボルが緑色	車両はセットされている速度を維持します。
	シンボルが白色	アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモードになっています。
		標準クルーズコントロールが手動で選択されています。
	ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙを ON するには ESC をﾉｰﾏﾙに設定 して下さい	スタビリティ・システム(ESC)(p. 234)が通常モードに設定されるまで、アダプティブクルーズコントロールは起動できません。
	ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙは ｷｬﾝｾﾙされました	アダプティブクルーズコントロールが解除されています。運転者はご自分で車速を調節してください。
	ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙは 利用できません	アダプティブクルーズコントロールが起動できません。 次のような原因が考えられます： • ブレーキ温度が高温になった • レーダーセンサーが雪や雨などで遮られた

シンボル	メッセージ	意味
	ﾚｰﾀﾞｰが遮られて います ﾏﾆｭｱﾙ参照	アダプティブクルーズコントロールが一時的に解除されています。 ● 激しい雨や泥などをレーダーセンサー前面に受けているため、レーダーセンサーが遮られ他の車両を感知することができません。 この場合、運転者は通常のクルーズコントロール(CC)に切り替える(p. 259)ことができます。ディスプレイテキストにより適切な代替措置に関する情報が得られます。 レーダーセンサーの機能限界(p. 263)を参照してください。
	ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｻｰﾋﾞｽが必要です	アダプティブクルーズコントロールが解除されています。 ● ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
	ﾌﾞﾚｰｷを踏んで 車両を停止状態に して下さい + 可聴アラーム [A]	車両が静止しているときにクルーズコントロールによりフットブレーキが解除されパーキングブレーキを作動させ、車を静止状態に保ちます。しかし、パーキングブレーキに不具合があると、車両が動き出すことがあります。 ● 運転者がご自分でブレーキを操作することが必要です。運転者がブレーキペダルを踏むか、アクセルペダルを操作するまでメッセージが表示されたままとなり、アラーム音が鳴ります。
	30 km/h 未満 先行車両が必要です [A]	前方の起動距離内に車両がなく、30 km/h (20 mph)未満で走行している際にアダプティブクルーズコントロールを起動しようとすると表示されます。

[A] 渋滞アシスタント装備車のみ。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール - ACC* (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* - 機能 (p. 250)

レーダーセンサー

レーダーセンサーの役割は、同じ方向に同じ車線を走行している乗用車や大型車を感知することです。

レーダーセンサーは以下の機能に使用されます。

- 車間警告機能*
- アダプティブクルーズコントロール*
- オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム*

重要

車両のグリルに目に見える損傷がある場合、もしくはレーダーセンサーへの損傷が疑われる場合には、

- ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

グリル、レーダーセンサーまたはそのブラケットが損傷を受けたり、ゆるんだりすると、この機能は全く機能しなくなるか、機能不良を起こす場合があります。

レーダーセンサーは、絶対に改造しないでください。改造して使用することは、違法行為です。

関連情報

- レーダーセンサー – 機能限界（p. 263）
- アダプティブクルーズコントロール – ACC*（p. 249）
- 衝突警告システム*（p. 276）
- 車間警告機能*（p. 245）

レーダーセンサー – 機能限界

レーダーセンサー(p. 263)には、検知範囲などの限界があります。

以下の場合、アダプティブクルーズコントロールの先行車検知能力が著しく低下します。

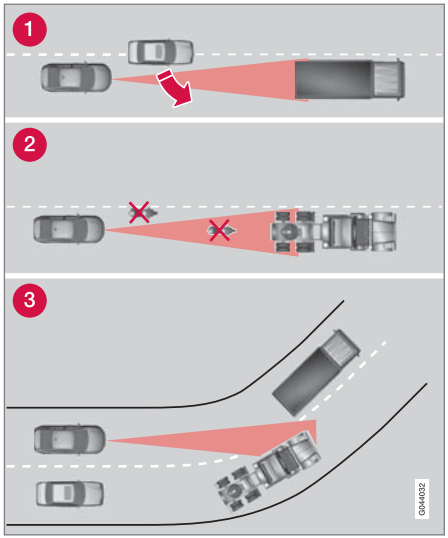
- 前方の車両の速度が自車の速度と大きく異なる。
- 激しい雨や泥、またはその他の障害物がレーダーセンサーの前方を塞いで、レーダーセンサーが遮られる。

注意

レーダーセンサーの前面はつねにきれいな状態を保ってください。「メンテナンス」(p. 280)のページを参照してください。

検知範囲

レーダーセンサーの視界には限界があります。状況によっては別の車両を検知したり、検知が遅れたりする場合があります。



ACC の視野

1. レーダーセンサーは、自車と前方を走行している車両との間に割り込んで来る車両など、至近距離の車両を感知するのに時間がかかります。
2. オートバイなどの小型車や、車線の中央を走行していない車両を感知しない場合があります。
3. カーブで、感知していた車両とは異なる車両を感知したり、感知中の車両を見失う場合があります。

⚠ 警告

交通状況によく注意をはらい、アダプティブクルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車両を制御してください。

アダプティブクルーズコントロールは、運転状況、交通、天候、路面の状態などにより使用できない場合があります。

オーナーズマニュアル内のアダプティブクルーズコントロールに関するセクションすべてに目を通してください。この機能を使用するにあたって注意すべき作動限界が記載されています。

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときでも、車間距離や速度を正しく維持する責任は運転者にあります。

⚠ 警告

グリルの前に、補助ライトなどのアクセサリー類を絶対に取り付けないでください。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールは、衝突を回避するシステムではありません。システムが前方を走行する車両を感知しない場合は、運転者が車両を操作しなければなりません。

アダプティブクルーズコントロールは、人や動物には反応しません。また、自転車やオートバイなどの小型車両にも対応していません。さらに、対向車、低速で走行している車両、または静止している車両に対して、ブレーキを作動させることもありません。

アダプティブクルーズコントロールは、市街地走行中、混雑した交通状況、ジャンクション走行時、滑りやすい路面走行時、水溜りが多い路面や雪や泥に覆われている路面走行時、激しい雨や雪の中の走行時、視界が悪いとき、曲がりくねった道路走行中などは使用しないでください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール – ACC*（p. 249）
- 衝突警告システム*（p. 276）
- 車間警告機能*（p. 245）

* オプション/アクセサリー。

型式認定 – レーダーシステム

レーダーユニットの型式認定が次の表に記載されています。

市場	ACC[A]	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)[B]	シンボル	型式認定
ブラジル	✓			Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito à proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Modelo: L2C0038TR 1071-10-3451 EAN: 07897843800248
		✓		Modelo: L2C0055TR 1500-15-8065 EAN: 07897843840978
ヨーロッパ	✓	✓		Hereby, Delphi Electronics & Safety declares that L2C0038TR / L2C0055TR are in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC. The Declaration of Conformity may be consulted at Delphi Electronics & Safety / 2151 E. Lincoln Road / Kokomo, Indiana 46902 USA

市場	ACC[A]	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)[B]	シンボル	型式認定
アラブ首長国連邦	✓			TRA REGISTERED No: 0018923/09 DEALER No: DA37380/15
		✓		TRA REGISTERED No: ER37357/15 DEALER No: DA37380/15
インドネシア	✓			14785/POSTEL/2010 1982
		✓		38806/SDPPI/2015 4927
ヨルダン	✓			Type Approval No.: TRC/LPD/2009/87 Equipment type: Low Power Device (LPD)
		✓		Type Approval No.: TRC/LPD/2015/3 Equipment Type: Low Power Device (LPD)
韓国	✓			Certification No. DPH-L2C0038TR
		✓		Certification No. MSIP-CMI-DPH-L2C0055TR

市場	ACC[A]	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)[B]	シンボル	型式認定
モロッコ	✓			AGREE PAR L'ANRT MAROC Numero d'agrement : MR 4838 ANRT 2009 Date d'agrement : 22/05/2009
		✓		AGREE PAR L' ANRT MAROC NUMÉRO D' AGRÉMENT: MR 9929 ANRT 2014 DATE D' AGRÉMENT: 26/12/2014
モルドバ	✓	✓		1024
シンガポール	✓	✓	Complies with IDA standards DA105753	Complies with IDA Standards DA105753
南アフリカ	✓		ICASA	TA-2009/163 APPROVED
		✓		TA-2014/2390 APPROVED

市場	ACC[A]	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)[B]	シンボル	型式認定
台湾	✓			CCAB09LP4590T3
		✓		CCAB15LP0680T0

A ACC = Adaptive Cruise Control
B BLIS = Blind Spot Information

関連情報

- レーダーセンサー (p. 263)

City Safety™

City Safety™ は、渋滞時の走行などで、前方の交通状況の変化や注意不足などによる衝突事故を回避するための、補助機能です。

City Safety™ 機能は、50 km/h (30 mph)未満の速度で作動し、前方の車両と衝突する危険が差し迫っているにも関わらず、運転者がブレーキやステアリングにより早急に対応しない場合に、車両に自動的にブレーキをかけて運転者を補助します。

City Safety™ は、運転者がブレーキをかけ遅れたときに作動します。そのため、あらゆる状況で運転者の補助となるわけではありません。

不必要な介入を避けるため、City Safety™ は直前まで作動しないように設計されています。

City Safety™ が装備されているからといって、運転スタイルを変更しないでください。ブレーキの作動を City Safety™ のみに頼っていると、いずれ衝突事故が発生します。

City Safety™ が作動したことがわかるのは、通常、衝突寸前になったときのみです。

車両にオートブレーキ機能付衝突警告システム (p. 276)*が装備されている場合は、この 2 つのシステムは互いに補完し合います。

重要

City Safety™ コンポーネントのメンテナンスおよび交換は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

警告

City Safety™ は、走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

City Safety™ は、自車の進行方向と異なる方向に走行している車両、小型車両やオートバイ、人間や動物に対しては反応しません。

City Safety™ は速度差が 15 km/h (9 mph) 未満のときに衝突を回避できます。速度差がこれ以上になると、衝突時の速度を減少させる効果のみとなります。最大のブレーキ力を得るには、運転者がブレーキペダルを踏むことが必要です。

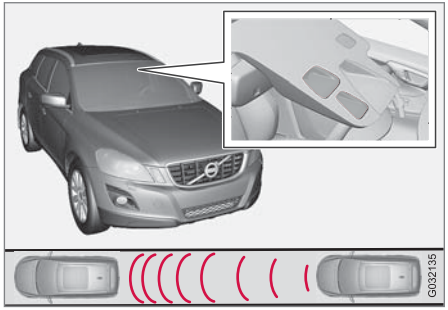
必要なときは City Safety™ の作動を待たず、すみやかにブレーキをかけてください。走行中に適切な車間距離や速度を維持することは運転者の責任です。

関連情報

- City Safety™ – 機能の限界 (p. 271)
- City Safety™ – 機能 (p. 270)
- City Safety™ – 操作 (p. 270)
- City Safety™ – レーザーセンサー (p. 273)
- City Safety™ – シンボルおよびメッセージ (p. 275)

City Safety™ – 機能

City Safety はウインドスクリーン上端に装着されたレーザーセンサーにより、車両前方の交通を感知します。衝突の危険性が差し迫ると、City Safety が自動的にブレーキをかけます。これは、急ブレーキと感じられる場合があります。



レーザーセンサーの送信/受信ウィンドウ [13]

前方の車両との速度差が 4～15 km/h (3～9 mph)であれば、City Safety により衝突が完全に回避できます。

City Safety により、短時間で鋭くブレーキがかけられ、通常の状況であれば、前方の車両のすぐ手前で車を停止させることができます。多くの運転者にとっては、これは通常の運転スタイルの範囲内ではないため、不快に感じられる場合があります。

速度差が 15 km/h (9 mph)を超える場合、City Safety だけでは衝突を回避できないおそれがあります。フルブレーキをかけるためには、運転者がブレーキを踏むことが必要です。フルブレーキをかけると、速度差が 15 km/h (9 mph)より大きくても衝突が回避できる可能性があります。

この機能が作動してブレーキがかかると、コンバインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示され、この機能が作動していることを示します。

注意

City Safety によりブレーキが作動する際には、ブレーキランプが点灯します。

関連情報

- City Safety™ – 機能の限界 (p. 271)
- City Safety™ (p. 269)
- City Safety™ – 操作 (p. 270)
- City Safety™ – レーザーセンサー (p. 273)
- City Safety™ – シンボルおよびメッセージ (p. 275)

City Safety™ – 操作

City Safety™ は、渋滞時の走行などで、前方の交通状況の変化や注意不足などによる衝突事故を回避するための、補助機能です。

オン/オフ

注意

City Safety™ 機能は、エンジンが始動すると自動的に作動します。

葉が茂った枝などがボンネットやウインドスクリーンにかかるようなオフロード走行時などには、City Safety™ を解除することをお薦めします。

City Safety™ はメニューシステム **MY CAR** (p. 154)で制御されます。エンジン始動後、この機能は以下の方法で解除することができます。

- **MY CAR** で **運転支援システム** を検索し、**シティーセーフティ** で **OFF** を選択してください。

  ただし、次回エンジンを始動すると、機能は再び作動状態となります。エンジンを停止したときに機能が作動していたか解除されていたかは関係ありません。

[13] 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

⚠ 警告

City Safety™ を手動で無効にした際も、レーザーセンサーはレーザー光線を発します。

関連情報

- City Safety™ (p. 269)
- City Safety™ – 機能の限界 (p. 271)
- City Safety™ – 機能 (p. 270)
- City Safety™ – レーザーセンサー (p. 273)
- City Safety™ – シンボルおよびメッセージ (p. 275)
- MY CAR (p. 154)

City Safety™ – 機能の限界

City Safety センサーは、昼夜を問わず前方の車両を感知するように設計されています。

ただし、この機能にはいくつかの限界事項があります。

大雪や激しい降雨、濃霧、風塵、吹雪などでセンサーの機能が制限されると、City Safety は通常通り機能しない場合や、まったく機能しなくなる場合があります。ウインドスクリーンの曇り、汚れ、氷や雪により、機能が妨害される場合もあります。

積荷が突き出していることを示す布/テープなどの垂れ下がる物体や、補助ライトやブルバーなどボンネットより高い位置にあるアクセサリーによっても、機能が制限されます。

City Safety 内のセンサーからのレーザー光線は、ライトの反射状況を測定するものです。センサーは反射作用の低い物体は検知できません。車両後部にはナンバープレートやリフレクターがあるため、通常は光を十分に反射させることができます。

路面が滑りやすいときには、制動距離が長くなるため、City Safety が衝突を回避する能力が低下する場合があります。そのような状況では、ABS[14] および ESC[15] システムが、安定性を保ちながら、可能な範囲でもっとも優れた制動力を発揮します。

車両後退中は、City Safety は一時的に解除されます。

City Safety は 4 km/h (3 mph) 未満の低速では作動しません。駐車時など、非常に低速で前方の車両に接近している状況でこのシステムが作動しないのはそのためです。

運転者の操作がつねに優先されます。そのため、衝突が回避できない状態でも、運転者が明確にステアリングを操作したり、アクセルペダルを操作したりしているときには、City Safety は介入しません。

City Safety により静止している物体との衝突が回避された場合には、車両は、最大 1.5 秒間静止したままとなります。移動している前方車両のために車両にブレーキがかかった場合には、先行車両が維持している車速と同じ速度に減速します。

マニュアルトランスミッション装備の車両では、City Safety により、車両が静止状態になると、事前に運転者がクラッチペダルを踏み込まない限り、エンジンが停止します。

14 (Anti-lock Braking System) – アンチロックブレーキシステム
15 (Electronic Stability Control) – エレクトロニックスタビリティコントロール

注意

- レーザーセンサー装着部のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、汚れなどは取り除き、きれいな状態を保ってください(センサー位置(p. 270)の図を参照してください)。
- レーザーセンサー装着部のウインドスクリーンに、異物を貼り付けたり取り付けたりしないでください。
- ボンネットから氷や雪を取り除いてください。雪や氷の高さが 5 cm を超えないようにしてください。

故障点検および対処

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージ **ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照** が表示される場合、レーザーセンサーが遮られ先行車を検知できないことを示しています。すなわち City Safety が機能していないことを表します。

レーザーセンサーが遮られている場合でも、**ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照** メッセージが表示されない場合もあります。運転者はレーザーセンサー前のエリアがつねにきれいな状態であるように、注意してください。

以下の表は、表示されるメッセージの考えられる原因と、対処方の例を示しています。

原因	対処
レーザーセンサー装着部のウインドスクリーン表面が汚れているか、氷または雪が付着しています。	センサー装着部のウインドスクリーン表面の泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
レーザーセンサーの視界が妨害されている。	妨害している物体を取り除いてください。

重要

レーザーセンサーの窓の前のウインドスクリーンにひび割れ、擦り傷、飛び石による傷があり、その範囲が約 0.5 x 3.0 mm 以上の場合は、ウインドスクリーンの交換をサービス工場に依頼してください。(センサーの位置は、センサーの位置(p. 270)の図を参照してください)。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。

処置を施さないと、City Safety™ の性能が十分発揮されなくなるおそれがあります。

City Safety™ の故障や機能低下を防ぐために、さらに以下が該当します。

- ボルボは、レーザーセンサーの前のエリアにあるひび割れ、擦り傷、飛び石による傷は**修復せず**に、ウインドスクリーン全体を交換することをお薦めします。
- ウインドスクリーンを交換する前にボルボ指定のサービス工場に連絡して、適切なウインドスクリーンが注文され、取り付けられるようにしてください。
- ウインドスクリーンワイパーを交換する際は、ボルボ社が承認している(または同等の)製品を使用してください。

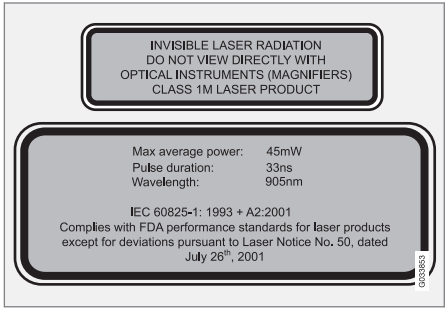
関連情報

- City Safety™ (p. 269)
- City Safety™ - 機能 (p. 270)
- City Safety™ - 操作 (p. 270)

City Safety™ - レーザーセンサー

City Safety™ 機能はレーザー光線を発するセンサーを備えています。(センサーの位置については図を参照(p. 270)してください。)故障やレーザーセンサーへのサービスが必要な場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。レーザーセンサーを操作する際は、指定の手順を遵守することが不可欠です。

以下の 2 つのラベルはレーザーセンサーに関するものです。



図の上のラベルは、レーザー光線の等級を説明するものです。

- レーザー光線 - 光学機器を使用してレーザー光線をのぞきこまないでください - クラス 1M レーザー製品。

図の下のラベルは、レーザー光線の物理的データを説明するものです。

- IEC 60825-1:1993 + A2:2001。2001 年 7 月 26 日付けの「Laser Notice No. 50」に準じた偏差を除き、FDA(米国食品医薬品局)のレーザー製品性能基準に準拠。

レーザーセンサーの放射線データ

以下の表はレーザーセンサーの物理的データを特定しています。

最大パルスエネルギー	2.64 µJ
最大平均出力	45 mW
パルス幅	33 ns
発散角(水平 × 垂直)	28° × 12°

⚠ 警告

これらの指示を遵守しない場合、目にケガをするおそれがあります。

- レーザーセンサーから 100 mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど、拡大機能のある光学機器を使ってレーザーセンサー(拡散性不可視レーザー光線を放出しています)を覗き込まないでください。
- レーザーセンサースペアパーツのテスト、修理、取り外し、調節、交換は、資格のあるサービス工場で実行しなければなりません。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。
- 有害な放射線に曝されることがないように、ここで指定されている以外の調整やメンテナンスは一切行わないでください。
- 修理者は、レーザーセンサー用に作成されたサービス工場インフォメーションを遵守しなければなりません。
- レーザーセンサーを取り外さないでください(これにはレンズの取り外しも含まれます)。取り外したレーザーセンサーは、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B の条件を満たしません。レーザー等級 3B は目に対する安全を保証しておらず、従って、ケガをする危険を伴います。
- レーザーセンサーをウインドスクリーンから取り外す際には、その前にセンサーのコネクターを外すことが必要です。
- レーザーセンサーをウインドスクリーンに装着する際は、必ず装着が終わってから、センサーのコネクターを接続してください。
- レーザーセンサーは、リモートコントロールキーがキー位置 II (p. 119)の場合、エンジンが停止していてもレーザー光線を発します。

関連情報

- City Safety™ (p. 269)
- City Safety™ – 機能の限界 (p. 271)
- City Safety™ – 機能 (p. 270)
- City Safety™ – 操作 (p. 270)
- City Safety™ – シンボルおよびメッセージ (p. 275)

City Safety™ – シンボルおよびメッセージ

City Safety™(p. 269)システムによるオートブレーキ時に、コンバインド・メーター・パネルにシンボルが 1 つ以上点灯し、ディスプレイテキストが表示されることがあります。ディスプレイテキストは、方向指示器レバーの OK ボタンを押して、確認できます。

シンボル	メッセージ	意味/対処
	ｼﾃｨｾｰﾌﾃｨによる ｵｰﾄﾌﾞﾚｰｷ	City Safety™ によりブレーキが自動的に作動しています/作動しました。
	ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照	障害物があるため、レーザーセンサーが一時的に機能していません。 • センサーをブロックしている障害物を取り除き、センサー前面のウインドスクリーンをきれいにしてください。 レーザーセンサー機能限界(p. 271)を参照してください。
	ｼﾃｨｾｰﾌﾃｨ ｻｰﾋﾞｽが必要です	City Safety™ が解除されています。 • メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- City Safety™ (p. 269)
- City Safety™ – 機能の限界 (p. 271)
- City Safety™ – 機能 (p. 270)
- City Safety™ – 操作 (p. 270)
- City Safety™ – レーザーセンサー (p. 273)

衝突警告システム*

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、歩行者やサイクリスト、自車の前方で停止している車両、あるいは同じ方向に走行している車両に衝突する危険があるときに運転者をサポートする機能です。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは、運転者がブレーキをかけ遅れたときに作動します。そのため、あらゆる状況で運転者の補助となるわけではありません。

不必要な介入を避けるため、オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは直前まで作動しないように設計されています。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは、衝突を防止する、または衝突速度を低減することができます。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムが装備されているからといって、運転スタイルを変更しないでください。ブレーキの作動をオートブレーキ機能付衝突警告システムのみに頼っていると、いずれ衝突事故につながる可能性があります。

2 段階のシステムレベル

車両の装備に応じて、オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムには以下の 2 つのタイプがあります。

レベル 1

障害物があっても、運転者への警告[16] には、可視信号や警告音のみが使用されます。オートブレーキは作動しないため、運転者はご自分でブレーキをかける必要があります。

レベル 2

障害物があれば、可視信号や警告音によって、運転者に警告が発せられます。妥当な時間内に運転者が反応しなければ、ブレーキが自動的に作動します。

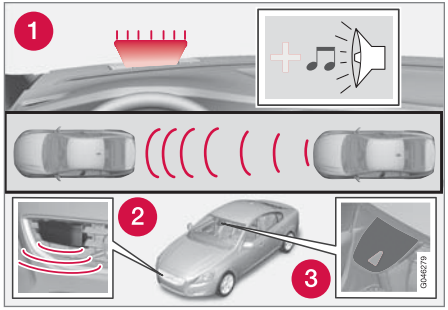
> **重要**
>
> オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムの内部コンポーネントのメンテナンスは、サービス工場で実施する必要があります。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

関連情報

- 衝突警告システム* – 機能（p. 277）
- 衝突警告システム* – 歩行者の検知（p. 279）
- 衝突警告システム* – サイクリストの検知（p. 278）
- 衝突警告システム* – 操作（p. 280）
- 衝突警告システム* – 機能の限界（p. 282）
- 衝突警告システム* – カメラセンサー機能限界（p. 283）
- 衝突警告システム* – シンボルおよびメッセージ（p. 285）

16「レベル 1」の場合、サイクリスト用の警告はありません。

衝突警告システム* – 機能



機能の概要 [17]

1. 衝突の危険を知らせる警告音および警告灯
2. レーダーセンサー [18]
3. カメラセンサー

オートブレーキ機能付衝突警告システムでは、次の順に 3 段階の介入が行われます。

1. **衝突警告システム**
2. **ブレーキサポート** [18]
3. **オートブレーキ** [18]

衝突警告システム、および City Safety™ (p. 269) は互いに補完し合います。

1 – 衝突警告

まず運転者に衝突事故が切迫していることが警告されます。

衝突警告システムは、歩行者、サイクリストまたは車両が自車の前方を自車と同じ方向に移動している、または自車の前方で停止している場合に検知することができます。

歩行者やサイクリスト、車両との衝突の危険がある場合には、赤の警告灯 (1) が点滅し、警告音が鳴って運転者に注意を促します。

2 – ブレーキサポート [18]

衝突警告の後もさらに衝突の危険が増した場合は、ブレーキサポートが作動します。

つまり、穏やかにブレーキシステムを作動させることで、急ブレーキの準備をします。このとき、わずかな衝撃を感じる場合があります。

運転者が素早くブレーキペダルを踏むと、フルブレーキがかかります。

システムが衝突を回避するのに不十分だと判断すると、ブレーキサポートが運転者のブレーキを補助します。

3 – オートブレーキ [18]

オートブレーキ機能は最後に作動します。

この時点でも運転者が事故を回避するための行動を開始せず、衝突の危険が切迫した場合には、運転者がブレーキをかけるかどうかに関係なく、オートブレーキ機能が作動します。この場合、衝突時の速度を減少させるためにフルブレーキがかかります。もしくは、衝突を避けるのに十分であれば、制動力が制限されます。サイクリストに対しては、警告およびフルブレーキ介入が大きく遅れたり、同時に作動することがあります。

17 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。
18 システムレベル 2 のみ。

⚠ 警告

衝突警告システムは、走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。衝突警告システムは、自車の進行方向とは異なる方向に走行している車両やサイクリスト、または動物には反応しません。

衝突の危険が高くなったときにのみ、警告が出ます。この「機能」の項と「作動限界」の項には、機能の限界が説明されています。オートブレーキ機能付衝突警告システムを使用する前に必ずお読みください。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、車速が 80 km/h (50 mph)を超えると解除されます。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、街灯が点灯していても、暗がりやトンネル内では作動しません。

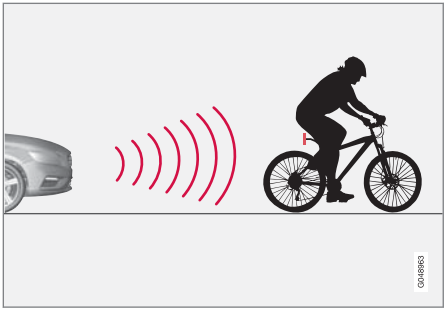
オートブレーキ機能により、衝突事故を回避、または衝突速度を低下させることができます。ブレーキの性能を最大限に発揮させるため、たとえ車両にオートブレーキがかかっている場合でも、運転者は必ずブレーキペダルを踏み込むようにしてください。

衝突警告システムが作動するまで待つことは絶対にしないでください。オートブレーキ付衝突警告システムが使用されているときでも、適切な距離と速度を維持する責任はつねに運転者にあります。

関連情報

- 衝突警告システム*（p. 276）

衝突警告システム* – サイクリストの検知



システムは、同じ方向に進むサイクリストを後ろから捉えます。

システムがサイクリストだと認識できる最適な例 – 体と自転車の輪郭、真後ろおよび車両の中央ラインから

* オプション/アクセサリー。

システムが最大限の性能を発揮するためには、サイクリスト検知機能が自転車と乗る人の体の輪郭に関するできるだけ明瞭な情報を得ることが必要です。すなわち、自転車、頭部、両腕、両肩、両脚、胴体に加え、人間のような動きのパターンが検知できることを意味します。

自転車と乗る人の体の大部分がカメラの視界に入っていない場合には、システムはサイクリストを検知することができません。

- システムは、大人用の自転車に大人が乗っている場合にサイクリストを検知することができます。
- その自転車には可視性の高い認定された[19]後方反射板が高さ 70 cm 以上の位置に取り付けられていることが必要です。
- システムは、同じ方向に進むサイクリストを真後ろからのみ検知することができます。斜め方向や横方向からは検知できません。
- 車両の左右サイドから伸ばした仮想上のライン上を進むサイクリストは、遅れて検知されたり、全く検知されないことがあります。
- 夜明けや夕暮れには、人間の目と同様にシステムがサイクリストを検知できる能力が低下します。
- 街灯が点灯していても、暗がりやトンネルの走行中は、システムのサイクリスト検知機能が解除されます。
- サイクリスト検知機能の効果を最大限に発揮させるためには、City Safety™ 機能を起動する必要があります。City Safety™ (p. 269)を参照してください。

⚠ 警告

オートブレーキ機能およびサイクリスト検知機能付衝突警告システムは、運転操作を補助するものです。

この機能には次のような限界があります：

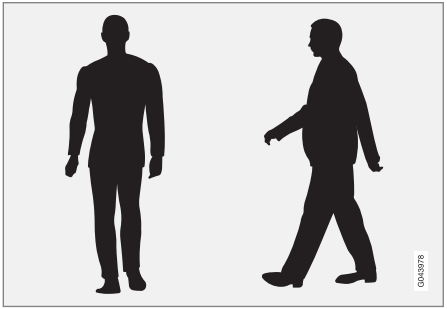
- あらゆる状況ですべてのサイクリストを検知できるわけではありません。例えば、一部が隠れているサイクリストなどは検知できません。
- 身体の輪郭がはっきりわからないような服装の人が乗っている自転車、あるいは側面から接近するサイクリストは検知できません。
- 後部に赤い反射板がついていない自転車は検知できません。
- 大きい荷物などを積んでいる自転車は検知できません。

車両を適切に運転し、速度に応じて安全な距離を保つことは、つねに運転者の責任です。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 276)

衝突警告システム* – 歩行者の検知



体型が明確で、システムが歩行者であると認識できる最適な例

システムが最大限の性能を発揮するためには、歩行者を検知するシステム機能が、体型に関しできるだけ明瞭な情報を得ることが必要です。すなわち、頭部、両腕、両肩、両脚、胴体に加え、人間のような動きのパターンが検知できることを意味します。

体の大部分がカメラの視界に入っていない場合には、システムは歩行者を検知することができません。

[19] 反射板は市場の交通当局の推奨および条件を満たしている必要があります。

- 歩行者が検知されるには、全身が見え、身長が 80 cm 以上であることが必要です。
- カメラセンサーが夜明けや夕暮れに歩行者を検知できる能力は、人間の目と同様に限られています。
- 暗闇やトンネル走行中は、街灯が点灯している場合でも、カメラセンサーの歩行者検知機能が解除されます。

⚠ 警告

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、運転操作を補助するものです。この機能はあらゆる状況でどのような歩行者でも検知できるわけではありません。例えば、以下のような場合は検知できません。

- 体の一部が隠れている歩行者、体の輪郭がわかりにくい衣服を着用している歩行者、または身長が 80 cm 未満の歩行者。
- 大きな荷物などを運んでいる歩行者。

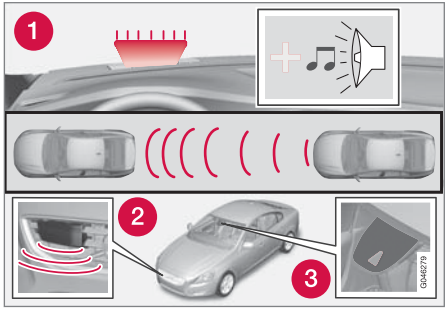
車両を適切に運転し、速度に応じて安全な距離を保つことは、つねに運転者の責任です。

関連情報

- 衝突警告システム*（p. 276）

衝突警告システム* – 操作

警告信号オン/オフ



1. 衝突の危険があるときの警告音および警告灯 [20]

衝突警告システムの警告音と警告灯はオンまたはオフに設定できます。

エンジンを停止したときの設定は記憶され、次回エンジンを始動したときに同じ設定になります。

ⓘ 注意

ブレーキサポートおよびオートブレーキ機能は、つねに作動しています。非作動状態にすることはできません。

衝突警告システムは、センターコンソールの画面およびメニューシステム **MY CAR**（p. 154）を使用して設定します。

警告灯と警告音

衝突警告システムの警告灯および警告音が作動可能状態の場合、エンジンを始動させるたびに、警告灯（前の図の（1））の別々の光点を短く点灯させることにより警告灯がテストされます。

エンジンの始動後、警告灯と警告音はオフになります。

- メニューシステム **MY CAR**（p. 154）の **運転支援システム** で **衝突警告** を検索し、機能のチェックを外します。

警告音

エンジンの始動後、警告音は単独でオン/オフにすることができます。

- メニューシステム **MY CAR**（p. 154）の **衝突警告** で **警告音** を検索し、オンまたはオフを選択します。

その後、衝突警告システムは警告灯のみで表示されるようになります。

警告距離の設定

警告距離は、警告灯が点灯して警告音が鳴るまでの距離設定です。

- メニューシステム **MY CAR**（p. 154）の **衝突警告** で **車間警告** を検索し、**長く**、**ノーマル**、または **短く** を選択します。

[20] 図は略図です。車両モデルおよび詳細は実際と異なる場合があります。

警告距離の設定によって、システムの感度が変化します警告距離が **長く** のときは、警告が早く出ます。最初に **長く** を選択し、警告が出る回数が多く感じる場合は、警告距離を **ノーマル** に変更してください。

警告距離 **短く** は、ダイナミックな運転を行うときなど、例外的な場合にのみ使用してください。

注意

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときは、衝突警告システムが解除されている場合でも、警告灯および警告音がクルーズコントロールにより作動します。

衝突警告システムは運転者に衝突の危険を警告しますが、運転者の反応時間を短くすることはできません。

衝突警告システムが効果を発揮できるよう、つねに車間警告機能(p. 245)の車間時間を4-5にセットして走行してください。

注意

状況により、警告距離**長く**を設定していても、警告が出るタイミングが遅いと感じる場合があります。(例えば、前方を走行している車両と自車の速度差が大きいときや、前方の車両が急ブレーキをかけたときなど。)

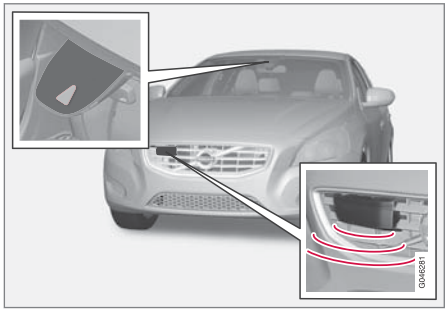
警告

どのような自動システムであっても、あらゆる状況で100%適切に機能するという保証はありません。このため、けっして他者や車両を対象にオートブレーキ機能付衝突警告システムをテストしないでください。重大な物損事故や人身事故、場合によっては死亡事故が発生するおそれがあります。

設定の確認

現在の設定は、センターコンソールの画面とメニューシステム(p. 154) **MY CAR** で操作することができます。

メンテナンス



カメラおよびレーダーセンサー [21]

センサーが正しく機能するように泥や氷、雪などをきれいに取り除き、洗車用洗剤と水で定期的に洗浄してください。

注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

関連情報

- 衝突警告システム*(p. 276)

[21] 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

衝突警告システム* – 機能の限界

機能には限界があります。例えば、このシステムは車速が 4 km/h (3 mph)に達するまでは作動しません。

陽射しが強いとき、光の反射があるとき、運転者がサングラスを着用しているとき、運転者が前方をまっすぐ見ていないときなどは、衝突警告システムの警告灯図(1)(p. 277)が見えにくい場合があります。このため、警告音はつねに作動状態にしてください。

路面が滑りやすいときには、ブレーキ距離は長くなるため、衝突を回避する能力が低下する場合があります。そのような状況では、ABS および ESC(p. 234)システムが、安定性を保ちながら、可能な範囲でもっとも優れた制動力を発揮します。

注意

陽射しの強いときなどに車内の温度が上昇すると、衝突警告灯が一時的に非作動となる場合があります。このような場合は、メニューシステムで解除されていても警告音が作動します。

- 前方を走行する車両との距離が近いときや、ステアリングホイールやペダルの動きが大きいとき(スポーティなドライビングスタイルのとき)は、警告が出ない場合があります。

警告

交通状況や外部環境の影響によって、レーダーまたはカメラセンサーが前方の歩行者、サイクリスト、車両を正しく検出できない場合には、警告やブレーキの介入が遅れたりまったく作動しない場合があります。

センサーシステムが歩行者やサイクリストを検知できる範囲は限られています[22]。歩行者およびサイクリストが対象の場合、このシステムは車速が 50 km/h (30 mph)以下のときに効果的な警告およびブレーキ介入を行うことができます。停止車両や低速の車両に対する警告およびブレーキ介入は、速度が 70 km/h (43 mph)以下のときに効果を発揮します。

夜間や視界が悪いときには、停止している車両、あるいは低速で走行している車両に対する警告が出ない場合があります。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、車速が 80 km/h (50 mph)を超えると解除されます。

衝突警告システムは、アダプティブクルーズコントロール(p. 249)と同じレーダーセンサーを使用します。詳しくは、レーダーセンサーの機能の限界(p. 263)を参照してください。

22 サイクリストに対しては、警告およびフルブレーキ介入が大きく遅れたり、同時に作動することがあります。

警告が出る回数が多過ぎる、または警告が邪魔に感じる場合は、警告距離を短くします (p. 280)。この場合、システムが警告を出すタイミングが遅くなり、警告の回数が減ります。

リバースギヤが作動すると、オートブレーキ機能付衝突警告システムは一時的に解除されます。

オートブレーキ機能付衝突警告システムは 4 km/h (3 mph)未満の低速では作動しません。駐車時など、非常に低速で前方の車両に接近している状況でこのシステムが作動しないのはそのためです。

運転者が活発に運転を行っている状況では、衝突警告システムの作動がわずかに遅延されます。これは、不要な警告を最小限に抑えるためです。

オートブレーキにより静止している物体との衝突が回避された場合には、車両は、最大 1.5 秒間静止したままとなります。移動している前方車両のために車両にブレーキがかかった場合には、先行車両が維持している車速と同じ速度に減速します。

マニュアルトランスミッション装備の車両では、オートブレーキにより車両が静止状態になると、事前にドライバーがクラッチペダルを踏み込まない限り、エンジンが停止します。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 276)

衝突警告システム* – カメラセンサー機能限界

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、歩行者やサイクリスト、自車の前方で停止している車両、あるいは同じ方向に走行している車両に衝突する危険があるときに運転者をサポートする機能です。

この機能は車両のカメラセンサーを使用します。カメラセンサーには一部限界があります。

車両のカメラセンサーは、オートブレーキ機能付衝突警告システムだけでなく、以下の諸機能によっても使用されます。

- アクティブハイビーム(p. 133)
- ロード・サイン・インフォメーション (p. 292)
- Driver Alert Control – DAC(p. 296)
- レーンアシスト(p. 299)

注意

カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。

カメラセンサー前面のウインドスクリーンに、なにも貼り付けたり、取り付けたりしないでください。カメラの効力に支障が出て、カメラを使用している各システムが作動しなくなる原因となります。

カメラセンサーは、人間の目と同様に限界があります。例えば、暗闇、大雪や大雨、濃霧では、反応が鈍くなる場合があります。このような状況の下では、カメラに依存するシステムの機能が大幅に低下するか、一時的に解除される場合があります。

前方から強い光が射し込んでいるとき、路面からの反射光があるとき、路面に雪や氷があるとき、路面が汚れているとき、車線マーキングが見えにくいときなども、カメラセンサーの機能(例えば、車線のスキャンや他車を感知する機能)が著しく低下するおそれがあります。

カメラセンサーの視野には限界があります。このため、状況によっては歩行者、サイクリスト、車両が検知されないか、検知が遅れる場合があります。

◀◀ 気温が非常に高いときは、カメラの機能を保護するために、エンジン始動後約 15 分間、カメラが一時的にオフになる場合があります。

故障点検および対処

ディスプレイに **ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照** のメッセージが表示される場合は、カメラセンサーが遮られているため、車両前方の歩行者、サイクリスト、他の車両、または路面標識を感知できないことを意味します。

同時に、この場合はオートブレーキ機能付衝突警告システムに加え、以下の機能も完全に機能を発揮しません。

- アクティブハイビーム
- Driver Alert Control
- レーン・キーピング・エイド
- ロード・サイン・インフォメーション

以下の表は、表示されるメッセージの考えられる原因と、対処法の例を示しています。

原因	対処
カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面が汚れているか、氷または雪が付着している。	カメラ前方のウインドスクリーン表面の泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
濃霧や激しい雨、雪などが原因で、カメラが正しく機能していない。	対処法なし。激しい雨や雪のときは、カメラが機能しない場合があります。
カメラ前方のウインドスクリーン表面を清掃した後でもメッセージが消えない。	しばらくお待ちください。障害が解消されたことをカメラが感知するまで、数分間かかる場合があります。
ウインドスクリーンの内側とカメラの間に汚れが付着した。	ボルボ指定のサービス工場で、ウインドスクリーン内側のカメラカバーを清掃してください。

関連情報

- 衝突警告システム*（p. 276）

* オプション/アクセサリー。

衝突警告システム* – シンボルおよびメッセージ

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、歩行者やサイクリスト、自車の前方で停止している車両、あるいは同じ方向に走行している車両に衝突する危険があるときに運転者をサポートする機能です。

シンボル A	メッセージ	意味
	衝突警告ｼｽﾃﾑ OFF	衝突警告システムが解除されています。 エンジンを始動したときに表示されます。 約 5 秒後、または OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	衝突警告ｼｽﾃﾑは 利用できません	衝突警告システムを作動できません。 運転者がシステムを起動するときに表示されます。 約 5 秒後、または OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	ｵｰﾄﾌﾞﾚｰｷが 作動しました	オートブレーキが作動しました。 OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 ● カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。 カメラセンサー機能限界(p. 283)を参照してください。

シンボル[A]	メッセージ	意味
	ﾚｰﾀﾞｰが遮られて います ﾏﾆｭｱﾙ参照	オートブレーキ機能付衝突警告システムが、一時的に解除されています。 激しい雨や泥などをレーダーセンサー前面に受けているため、レーダーセンサーが遮られ他の車両を感知することができません。 レーダーセンサーの機能限界(p. 263)を参照してください。
	衝突警告ｼｽﾃﾑ ｻｰﾋﾞｽが必要です	オートブレーキ機能付衝突警告システムが、完全または部分的に解除されています。 ● メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

[A] シンボルは概略図です – 車両モデルによって異なる場合があります。

関連情報

- 衝突警告システム*（p. 276）
- 衝突警告システム* – 機能（p. 277）
- 衝突警告システム* – 歩行者の検知（p. 279）
- 衝突警告システム* – サイクリストの検知（p. 278）
- 衝突警告システム* – 操作（p. 280）
- 衝突警告システム* – 機能の限界（p. 282）
- 衝突警告システム* – カメラセンサー機能限界（p. 283）

BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)*

BLIS (Blind Spot Information) は、交通量の多い複数車線の道路で運転者をサポートする機能です。

BLIS は次のような車両の存在を警告して運転者をサポートします。

- 死角に入っている車両
- 右側および左側の車線を走行しながら急接近する車両

BLIS 機能の CTA(p. 289) (Cross Traffic Alert) は次のような場合に警告を発する運転者支援機能です。

- 後退時に左右から接近する車両

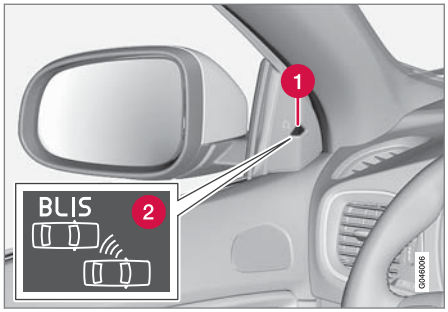
⚠ 警告

BLIS は補助機能です。あらゆる状況で機能するとは限りません。

BLIS は、安全運転やルームミラーやドアミラーの使用に代わるものではありません。

BLIS は運転者の責任および注意に代わるものではけっしてありません。安全を確認して車線変更を行うのはつねに運転者の責任です。

概要



BLIS ランプの場所 [23]

1. インジケーターランプ
2. BLIS 表示

ⓘ 注意

他の車両を感知した側のインジケーターランプが点灯します。車両が両側から追い越されている場合は、左右のインジケーターランプが点灯します。

メンテナンス

BLIS 機能のセンサーは、車両の各隅のリアフェンダー/バンパーの内側にあります。

この表面はきれいな状態に保ってください。左側も同様です。

- 最大の機能を確保するために、センサーの前のエリアはきれいに保つようにしてください。

関連情報

- BLIS* – 操作 (p. 288)
- BLIS – シンボルおよびメッセージ (p. 291)
- CTA* (p. 289)

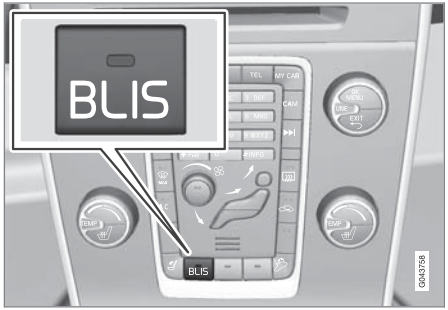
[23] 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

BLIS* - 操作

BLIS (Blind Spot Information) は、交通量の多い複数車線の道路で運転者をサポートする機能です。

BLIS の作動/解除

BLIS はエンジンが始動すると起動します。これは、ドアパネルのインジケーターランプが 1 回点滅することで確認できます。



オン/オフボタン

BLIS 機能は、センターコンソールの **BLIS** ボタンを押して作動/解除することができます。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム MY CAR (p. 154) で制御します。

BLIS を作動/解除すると、ボタンのランプが点灯/消灯し、コンバインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示され、その変更を確認することができます。ドアパネルのインジケーターランプが起動時に 1 回点滅します。

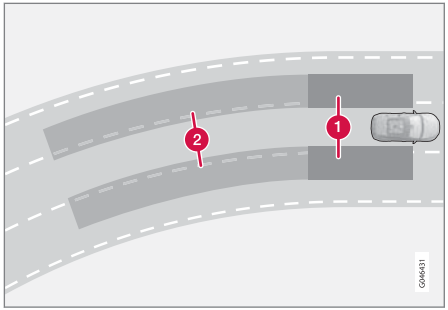
メッセージを消去するには：

- 左側レバースイッチの **OK** ボタンを押します。

または：

- 約 5 秒待機すると、メッセージが消えます。

BLIS の作動



BLIS の原理：1. 死角ゾーン 2. 急接近する車両のゾーン

BLIS 機能は、車速が 10 km/h (6 mph) を超えているときに作動します。

このシステムは、以下の場合に反応するように設計されています。

- 他車両が自車両を追い越した場合
- 他車両が自車両に急接近した場合

BLIS がゾーン 1 で車両を検知した場合、またはゾーン 2 で急接近する車両を検知した場合、ドアパネルの BLIS ランプが点灯したままとなります。この状況で運転者が警告が発せられている側の方向指示器を出すと、BLIS ランプが点灯から強い点滅に変わります。

⚠ 警告

BLIS は、急カーブでは作動しません。

BLIS は、後退時には作動しません。

機能限界

- 泥、氷、雪がセンサーを覆っていると機能が低下し、警告を発することができなくなります。その場合、BLIS は危険を検知できません。
- センサーがある領域に物体やテープ、ラベルなどを貼り付けないでください。
- 車両の電気系統にトレーラーが接続されると、BLIS が解除されます。

重要

BLIS および CTA 機能コンポーネントの修理またはバンパーの塗装修理はサービス工場で実施する必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

＊ オプション/アクセサリー。

関連情報

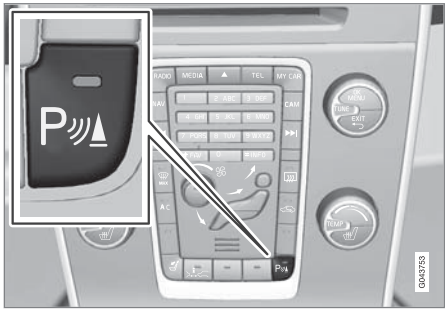
- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)* (p. 287)
- BLIS – シンボルおよびメッセージ (p. 291)

CTA*

BLIS 機能 CTA (Cross Traffic Alert) は、後退中に横方向の交通を警告して運転者をサポートします。CTA は BLIS(p. 287)の補助機能です。

CTA の作動/解除

CTA はエンジンが始動すると起動します。これは、ドアパネルの BLIS 用インジケーターランプが 1 回点滅することで確認できます。



パークアシストおよび CTA 用センサーのオン/オフ

CTA 機能はパークアシスト(p. 308)ON/OFF ボタンで個別に解除/起動させることができます。再起動時には、BLIS ランプが 1 回点滅します。

ただし、CTA 機能が解除された後も BLIS 機能は作動し続けます。

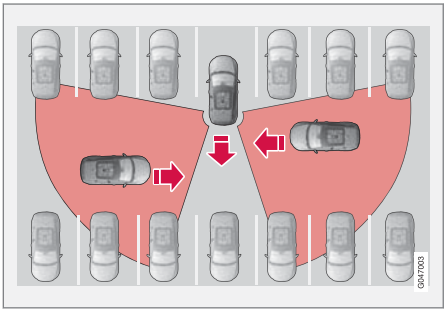
⚠ 警告

CTA は補助機能です。あらゆる状況で機能するとは限りません。

CTA は、安全運転やルームミラーやドアミラーの使用に代わるものではありません。

CTA は運転者の責任および注意に代わるものではけっしてありません。安全を確認して後退を行うのはつねに運転者の責任です。

CTA の作動



CTA の原理

CTA は、駐車場から出る際などの後退時に左右から接近する車両を検知して BLIS 機能を補助します。

CTA は第一に車両の検知を目的に設計されています。場合によっては、サイクリストや歩行者を検知できることもあります。

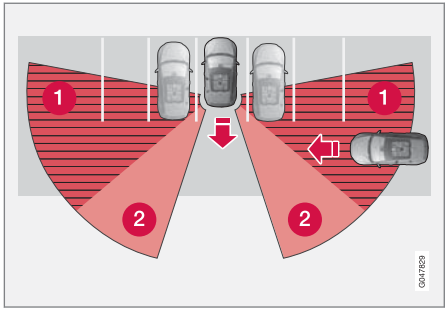
CTA は後退時のみ作動します。トランスミッションをリバース位置に入れると自動的に作動します。

- CTA が左右から接近する物体を検知すると、警告音が鳴ります。警告音は、接近してくる物の方向に合わせて左側または右側のスピーカーから発せられます。
- また、CTA は BLIS ランプも点灯させて警告を発します。
- 画面の PAS グラフィック (p. 308) のアイコンが点灯してさらなる警告を発します。

機能限界

CTA の機能には限界があり、あらゆる状況で最適に動作するわけではありません。例えば、CTA センサーは他の駐車車両や障害物を通り越して「見る」ことはできません。

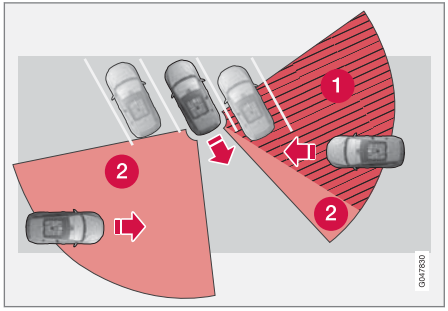
CTA の「視野」が初めから制限されていると、車両が急接近するまで検知できないことがあります。以下がその例です。



駐車スペースのかなり奥に駐車している場合

1 CTA の死角範囲

2 CTA が検知できる範囲



斜めの駐車スペースでは、CTA の片側は完全に「見えない」ことがあります。

ただし、運転者がゆっくりと後退すれば、妨げになっている車両/障害物に対する角度が変わり、そこからは死角範囲が急速に縮小します。

その他の機能限界の例：

- 泥、氷、雪がセンサーを覆っていると機能が低下し、警告を発することができなくなります。その場合、CTA は危険を検知できません。
- 車両の電気系統にトレーラーが接続されると、CTA が解除されます。

重要

BLIS および CTA 機能コンポーネントの修理またはバンパーの塗装修理はサービス工場で実施する必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

メンテナンス

BLIS および CTA 機能のセンサーは、車両の各隅のリアフェンダー/バンパーの内側にあります。

この表面はきれいな状態に保ってください。左側も同様です。

- 最大の機能を確保するために、センサーの前のエリアはきれいに保つようにしてください。
- センサーがある領域に物体やテープ、ラベルなどを貼り付けないでください。

関連情報

- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)*(p. 287)
- BLIS – シンボルおよびメッセージ (p. 291)

BLIS – シンボルおよびメッセージ

BLIS(Blind Spot Information)(p. 287) および CTA(Cross Traffic Alert)(p. 289) の機能に不具合が生じたり、機能が中断した場合は、コンバインド・メーター・パネルにシンボルと説明のメッセージが表示されます。表示された指示に従ってください。

メッセージの例：

メッセージ	意味
CTA OFF	CTA を手動で解除しています。BLIS は作動しています。
BLIS および CTA OFF トレーラーあり	トレーラーが車両の電気系統に接続されているため、BLIS および CTA が一時的に機能していません。
BLIS および CTA サービスが必要です	BLIS および CTA が機能していません。 • メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

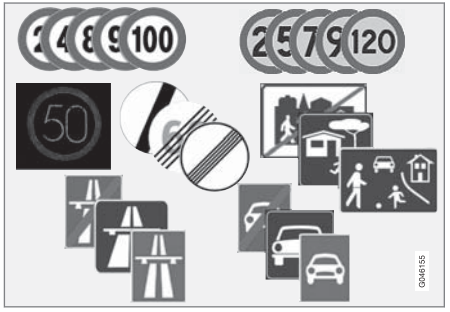
ディスプレイテキストは、方向指示器レバーの **OK** ボタンを押して、確認できます。

関連情報

- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)*(p. 287)

ロード・サイン・インフォメーション(RSI)*

ロード・サイン・インフォメーション（RSI - Road Sign Information）は、通過した速度に関する道路標識を運転者に知らせる補助機能です。



読み取り可能な速度関連の標識の例 [24]

RSI の機能は、高速道路や幹線道路の起点/終点時の速度や、追い越禁止などの情報を運転者に知らせます。

高速道路や公道に関する標識と制限速度の標識の両方を通過した場合は、RSI は制限速度のシンボルを表示します。

⚠ 警告

- ロード・サイン・インフォメーション機能は、運転を手助けし、安全性を向上させるための補助的な運転者サポートであり、交通条件、気象条件および道路条件によっては対応できない状況があります。
- ロード・サイン・インフォメーションは運転者の注意および判断に代わるものではありません。現行の交通規則および規制に従い、他の車両と適切な距離をとって、適切な速度で安全に車両を運転することは、つねに運転者の責任です。

RSI オン/オフ

ロード・サイン・インフォメーションの機能は選択式であり、運転者が**オン**または**オフ**を選択することができます。

RSI をオンにするには、次の手順に従ってください。

1. メニューシステム **MY CAR** で機能を検索および特定します。MY CAR (p. 154) を参照してください。
2. **OK/MENU** を 1 回押して **道路標識情報** オプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

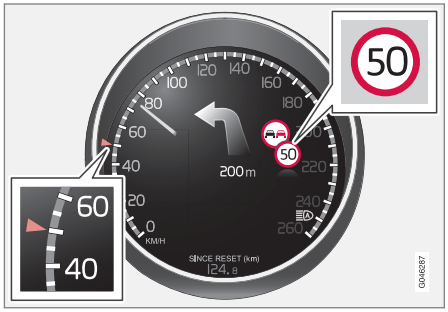
関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* – 操作 (p. 293)
- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* – 機能限界 (p. 295)

[24] コンバインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。本マニュアル内の図は例の一部です。

ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* – 操作

ロード・サイン・インフォメーション機能(RSI[25])は、標識および状況に応じて、さまざまな方法で道路標識を登録および表示します。



記録されている速度情報 [26]

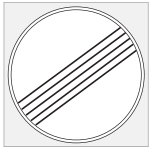
RSI が制限速度と共に道路標識を記録している場合、この標識がコンバインド・メーター・パネルにシンボルで表示されます。

現在の制限速度に関するシンボルと共に、該当する場合には、追い越しが禁止されていることを示す標識 [26] が表示されることもあります。

制限速度または高速道路の終点

RSI が制限速度の終了(高速道路の終点など)を意味する「間接的な速度標識」を検知すると、対応する道路標識のシンボルがコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

間接的な速度標識 [26] の例：



全制限の終点

高速道路の終点

コンバインド・メーター・パネルのシンボルは10～30 秒後に消えて、次の速度関連標識を通過するまで非表示のままになります。

制限速度の変化

制限速度が変わるときに直接的な速度標識を通過すると、対応する道路標識のシンボルがコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

直接的な速度標識 [26] の例：

コンバインド・メーター・パネルのシンボルは約 5 分後に消えて、次の速度関連標識を通過するまで非表示のままになります。

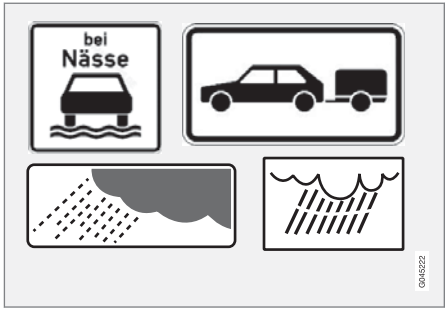
Sensus Navigation

Sensus Navigation 装備車では、以下の場合にナビゲーション装置から速度情報が読み取られます。

- 制限速度を間接的に示す標識(高速道路、中央分離帯付き道路、市街地終わり標識など)を検知した場合。
- 前に検知した速度標識の適用区間が終了したと仮定されるが、新しい標識が検知されていない場合。

[25] Road Sign Information
[26] 道路標識は市場によって異なります。本マニュアル内の図は例にすぎません。

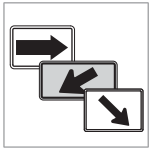
付加的標識



付加的標識の例 [26]

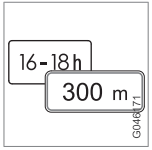
場合によっては、同一道路上であっても、異なる制限速度標識が掲示されている場合があります。このような場合には、付加的標識が表示されることで、複数の制限速度が適用されていることがわかります。また、現在通行中の箇所は、雨や霧発生時には特に事故が発生しやすい場所であることもあります。

雨に関連した付加的標識はウインドスクリーンワイパーが作動しているときにのみ、表示されます。



市場によっては、出口に適用される速度が矢印を含む付加的標識で表示されます。

この種の付加的標識を含む速度標識は、運転者が方向指示器を使用している場合にのみ表示されます。



制限速度の中には、特定の距離の走行後、または特定の時間帯のみ適用されるものがあります。このような状況では、制限速度を示すシンボルの下の付加的標識で運転者の注意を促します。

コンバインド・メーター・パネルの速度シンボル [26] の下にある空フレームの付加的標識のシンボルは、RSI が現在の制限速度の補足となる付加的標識を検知したことを示しています。

速度警告オン/オフ

RSI の **制限速度警告** 補助機能は選択式であり、運転者が**オン**または**オフ**を選択することができます。

速度警告は、制限速度を 5 km/h (5 mph)以上超えたときに、コンバインド・メーター・パネルの制限速度のシンボル [26] が一時的に点滅することによって表示されます。

速度アラート をオンにするには、次の手順に従ってください。

1. メニューシステム **MY CAR** で機能を検索および特定します。MY CAR (p. 154) を参照してください。
2. **OK/MENU** を 1 回押して **速度アラート** オプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

[26] 道路標識は市場によって異なります。本マニュアル内の図は例にすぎません。

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* (p. 292)
- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* – 機能限界 (p. 295)
- MY CAR (p. 154)

ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* – 機能限界

ロード・サイン・インフォメーション(RSI[27])機能は、一部の状況で動作が制限されることがあります。

RSI のカメラセンサーには人間の目と同様に限界があります。詳しくは、カメラセンサーの制限事項(p. 283)の項を参照してください)。

市町村や地域の名前の標識など、全般的な制限速度に関する情報を間接的に示す標識は、RSI では記録されません。

以下のようなものが、RSI 機能を低下させる可能性があります。

- 色があせた標識
- カーブに設置された標識
- 向きが変えられた標識や損傷のある標識
- 道路よりも非常に高い位置に設置された標識
- 全体または一部が隠れている標識や設置位置が不適切な標識
- 霜や雪、泥で完全にまたは部分的に覆われている標識
- 最新情報が反映されていない、正しくない、または速度情報がない[28] デジタル道路地図[29]

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* (p. 292)
- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* – 操作 (p. 293)

[27] Road Sign Information
[28] 地域によっては、速度情報の含まれる地図データがない場合があります。
[29] Sensus Navigation 装備車のみ。

ドライバー・アラート・システム*

Driver Alert System は、運転者の運転操作能力が低下している場合、または不注意により走行車線を逸脱した場合、運転者をサポートするように設計されています。

Driver Alert System には異なる機能があり、これらの機能は同時にまたは個別に作動させることができます。

- ドライバー・アラート・コントロール – DAC(p. 297)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング – LDW(p. 299)

または：

- レーン・キーピング・エイド – LKA(p. 303)

オンになっている機能はスタンバイモードにセットされており、車速が 65 km/h (40 mph)を超えると自動的に作動します。

この機能は、車速が約 60 km/h (37 mph)を下回ると再び解除されます。

どちらの機能もカメラを使用し、走行車線の両側の車線マークを感知することにより機能します。

⚠ 警告

ドライバー・アラート・システムはあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

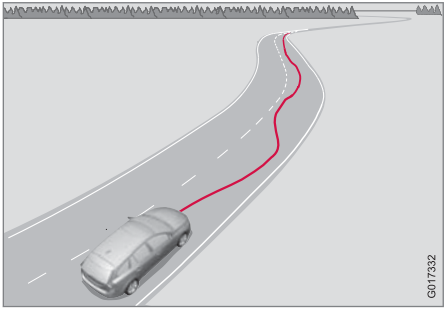
関連情報

- Driver Alert Control(DAC)* (p. 296)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)
- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)

Driver Alert Control(DAC)*

DAC 機能は、運転者の運転能力が低下し始めたとき、例えば、集中力が低下したときや、居眠り運転を始めたときに、運転者に注意を促す機能です。

DAC は、主に幹線道路で徐々に運転能力が低下する場合を想定しています。この機能は、市街地走行を意図したものではありません。



走行している車線の両側の車線マークをカメラが感知し、運転者がステアリングホイールを操作する動きと比較します。車両が車線マークに合わせて走行していない場合、運転者に警告を与えます。

運転者が疲労していても、運転能力に影響が出ない場合もあります。このような場合、運転者に警告を与えない場合があります。少しでも疲

労感を感じたら、DAC から警告が出ていなくても、必ず停車して休憩することが重要です。

注意

この機能があっても、長時間続けて運転することは避けてください。運転者は定期的に休憩し、十分休んでから運転してください。

作動限界

状況により、運転能力が低下していなくてもシステムが警告を発する場合があります。例えば:

- 強い横風が吹いているとき
- わだちが多い路面を走行しているとき

注意

カメラセンサーには、一定の限界(p. 283)があります。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム* (p. 296)
- Driver Alert Control(DAC)* - 操作 (p. 297)
- Driver Alert Control(DAC)* - シンボルおよびメッセージ (p. 298)

Driver Alert Control(DAC)* - 操作

センターコンソール画面のメニューシステムから設定します。

オン/オフ

Driver Alert 機能は、メニューシステム **MY CAR**(p. 154) を使用してスタンバイモードに設定することができます。

- チェックマークあり - 機能オン
- チェックマークなし - 機能オフ

機能

Driver Alert は車速が 65 km/h (40 mph)を超えると作動し、60 km/h (37 mph)を超過している間作動し続けます。

走行が不安定になると警告音が鳴り、ディスプレイテキスト **ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰｱﾗｰﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ 休憩してください** が表示されて、運転者に注意を促します。同時に、コンバインド・メーター・パネルに関連のシンボルが点灯します。それでも運転能力が向上しない場合、しばらくすると再警告されます。

警告灯は消すことができます。

- 左側レバースイッチの **OK** ボタンを押します。

警告

Driver Alert Control からのアラームは必ず真剣に受け止め、対処してください。眠気に襲われている運転者は、自分のコンディションを自覚していない場合が多く見受けられます。

アラームが鳴った場合、または疲労を感じている場合:

- できるだけ早く車両を安全に停止して、休憩してください。

研究調査により、疲労時の運転は酒または興奮剤の影響下での運転と同様の危険があることがわかっています。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム* (p. 296)
- Driver Alert Control(DAC)* (p. 296)

Driver Alert Control(DAC)* - シンボルおよびメッセージ

DAC (p. 296) は、さまざまな状況でコンバインド・メーター・パネルまたはセンターコンソールの画面にシンボルおよびディスプレイテキストを表示することがあります。

下に一部の例を挙げています。

シンボル[A]	メッセージ	意味
	ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰｱﾗｰﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ 休憩してください	車両の運転が不安定になっています。運転者は、警告音およびテキストで警告を受けます。
	ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 • カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。 カメラセンサー機能限界(p. 283)を参照してください。
	ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰｱﾗｰﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ ｻｰﾋﾞｽが必要です	システムが解除されています。 • メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

[A] シンボルは概略図です - 車両モデルによって異なる場合があります。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム* (p. 296)
- Driver Alert Control(DAC)* (p. 296)
- Driver Alert Control(DAC)* - 操作 (p. 297)

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能*

レーン・デパーチャー・ウォーニング(Lane Departure Warning)の目的は、高速道路や主要幹線道路などの走行中に、車両が不意に車線から逸脱する危険を低減することです。

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW)またはLKA

レーンアシストには、以下の2種類のバージョンがあります。

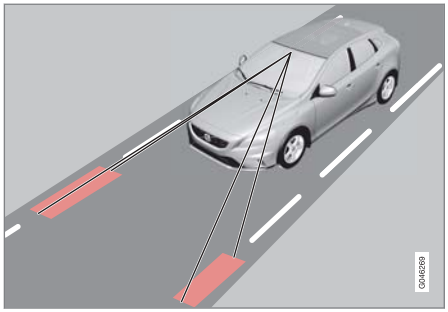
- LDW – **車線警告** – 警告音またはステアリングホイールの振動で運転者に警告します。
- LKA – **車線内走行維持補助** (Lane Keeping Aid) – ステアリング操作を行って車両を車線内に戻し、警告音またはステアリングホイールの振動で運転者に警告します。

車両にはいずれかのシステムが装備されています。装備システムは市場およびエンジンタイプによって決まっています。

車両にLDWとLKAのどちらが装備されているか不確かな場合：

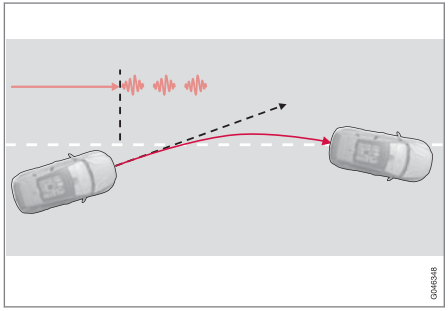
- メニューシステム **MY CAR** を開き、**運転支援システム** を確認します。**レーン逸脱警告** の場合はLDWが、**レーン・キーピング・エイド** の場合はLKAが装備されています。

LDWの原理



(図は概略図です。実際の車両とは異なります。)

カメラが道路/車線の境界線を検知します。



ステアリングホイールの振動による警告[30]

車両が片側の車線の境界線を越えると、警告音またはステアリングホイールの振動によって運転者に警告します。ステアリングホイールの振動は状況により異なります。車両が境界線を越える時間が長いほど、振動時間が長くなります。

注意

車両が車線マークを越えるときに、1回警告します。つまり、左右タイヤの間に車線マークがあるときは警告音がしません。

警告

レーンアシストは、運転者を支援する機能に過ぎません。走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

安全運転を行い、適用されている法律や交通規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能 (p. 300)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 操作 (p. 301)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能限界 (p. 301)

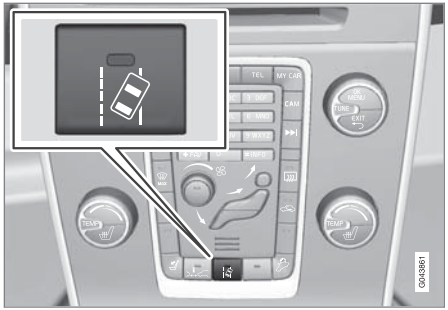
[30] 図は、境界線を越えたときの3種類の振動を示しています。

- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – シンボルおよびメッセージ (p. 302)
- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)
- ドライバー・アラート・システム* (p. 296)

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能

レーン・デパーチャー・ウォーニング (Lane Departure Warning) 機能は、いくつかの設定が可能です。

オフおよびオン



センターコンソールのボタンを押して、機能をオン/オフにします。機能がオンになると、ボタンのランプが点灯します。

さまざまな状況に応じ、この機能はコンバインド・メーター・パネルに直感的なグラフィックでわかりやすく表示されます。

パーソナル選択

設定を行うには、センターコンソールの画面から **MY CAR** のメニューシステムを使用します。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

オプションを選択してください：

- **スタートアップでオン** – 機能は、エンジンを始動すると毎回スタンバイモードに設定されます。他の設定値は、前回エンジンを停止したときと同じです。
- **感度向上** – 感度が上がります。警告が早く出るようになり制限項目が減ります。

関連情報

- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)
- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 操作

レーン・デパーチャー・ウォーニング(Lane Departure Warning)は、さまざまな状況に応じてコンバインド・メーター・パネルに直感的なグラフィックでわかりやすく表示されます。下に一部の例を挙げています。

LDW 機能の境界線

- LDW シンボルの境界線が白い - 機能作動中で片側または両側の境界線を検知している。
- LDW シンボルの境界線がグレーである - 機能は作動しているが、左右いずれの境界線も検知していない。

または：

- LDW シンボルの境界線がグレーである - 車速が 65 km/h (40 mph)を下回っているため、機能がスタンバイモードになっている。
- LDW シンボルに境界線が示されていない - 機能は非作動状態になっている。

関連情報

- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能* (p. 299)
- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能限界

レーン・デパーチャー・ウォーニング(Lane Departure Warning)のカメラセンサーには人間の目と同様に限界があります。

詳細情報についてはカメラセンサー機能限界 (p. 283)を参照してください。

注意

以下のように LDW により何の警告も発せられない状況があります。

- 方向指示器がオンになっている
- 運転者がブレーキペダルに足を載せている[31]
- アクセルペダルを素早く踏み込んだとき[31]
- ステアリングホイールを急に動かしたとき[31]
- 車両が転覆するほど急に旋回したとき

関連情報

- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能* (p. 299)
- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)

[31] 「**感度向上**」が選択されているときには警告が発せられることがあります。レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) - 機能 (p. 300)を参照してください。

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – シンボルおよびメッセージ

レーンアシスト機能がない場合は、コンバインド・メーター・パネルにシンボルと説明のメッセージが表示されることがあります。該当する場合は、その指示に従ってください。

メッセージの例：

シンボル	メッセージ	意味
	ﾚｰﾝﾃﾞﾊﾟｰﾁｬｰｳｫｰﾆﾝｸﾞ ON/ﾚｰﾝﾃﾞﾊﾟｰﾁｬｰｳｫｰﾆﾝｸﾞ OFF	機能をオン/オフします。 スイッチをオン/オフするときに表示されます。 テキストは約 5 秒後に消えます。
	ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 ● カメラセンサーの前のウインドスクリーンをきれいに拭いてください。 カメラセンサー機能限界(p. 283)を参照してください。
	ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰｱﾗｰﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ ｻｰﾋﾞｽが必要です	システムが解除されています。 ● メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能*（p. 299）
- レーン・キーピング・エイド(LKA)*（p. 303）

レーン・キーピング・エイド(LKA)*

レーン・デパーチャー・ウォーニングの目的は、高速道路や主要幹線道路などの走行中に、車両が不意に車線から逸脱する危険を低減することです。

レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW)またはLKA

レーンアシストには、以下の2種類のバージョンがあります。

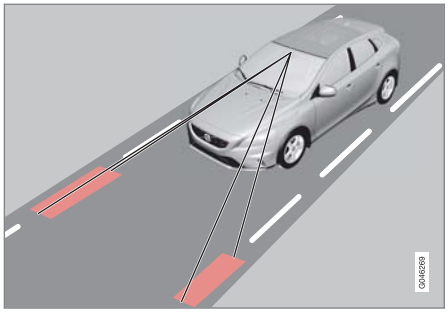
- LDW – **車線警告** – 警告音またはステアリングホイールの振動で運転者に警告します。
- LKA – **車線内走行維持補助**(Lane Keeping Aid) – ステアリング操作を行って車両を車線内に戻し、警告音またはステアリングホイールの振動で運転者に警告します。

車両にはいずれかのシステムが装備されています。装備システムは市場およびエンジンタイプによって決まっています。

車両にLDWとLKAのどちらが装備されているか不確かな場合：

- メニューシステム **MY CAR** を開き、**運転支援システム** を確認します。**レーン逸脱警告** の場合はLDWが、**レーン・キーピング・エイド** の場合はLKAが装備されています。

LKAの原理



(図は概略図です。実際の車両とは異なります。)

カメラが道路/車線の境界線を検知します。

車両が境界線を越えそうになると、レーン・キーピング・エイドは軽度のステアリングホイール操舵力を駆使して、自発的にステアリング操作を行い、車両を車線内に戻します。

車両が境界線を踏む、または越えると、レーン・キーピング・エイドがステアリングホイールを振動させて運転者に警告します。

⚠ 警告

レーンアシストは、運転者を支援する機能に過ぎません。走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

安全運転を行い、適用されている法律や交通規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

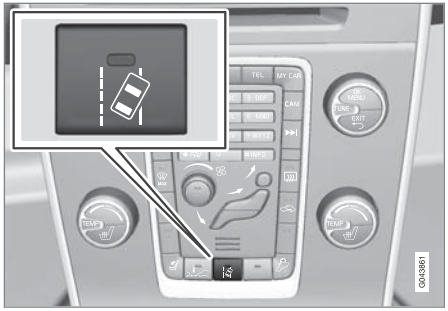
- レーン・キーピング・エイド(LKA) – 機能 (p. 304)
- レーン・キーピング・エイド(LKA) – 作動 (p. 305)
- レーン・キーピング・エイド(LKA) – 機能限界 (p. 306)
- レーン・キーピング・エイド(LKA) – シンボルおよびメッセージ (p. 307)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)
- ドライバー・アラート・システム* (p. 296)

レーン・キーピング・エイド(LKA) – 機能

レーン・キーピング・エイド (Lane Keeping Aid) 機能は、いくつかの設定が可能です。

オフおよびオン

レーン・キーピング・エイドは、車線境界線がはっきりと視認できる道路で速度が65～200 km/h (40～125 mph)のときに作動します。車線の幅が 2.6 m 未満の狭い道路では、この機能は一時的に解除されます。



センターコンソールのボタンを押して、機能をオン/オフにします。機能がオンになると、ボタンのランプが点灯します。

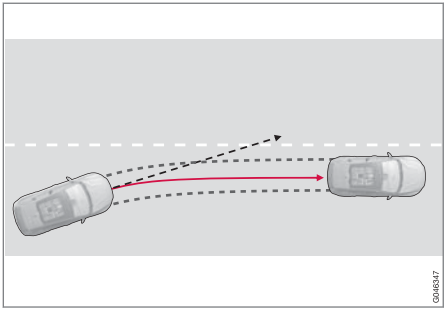
選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールに On/Off ボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム **MY CAR** で制御します。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 154)を参照してください。

また、以下の項目も **MY CAR** で選択することができます。

- ステアリングホイールの振動による警告:**バイブレーションのみ** – オンまたはオフ。
- アクティブステアリング:**ハンドルアシストのみ** – オンまたはオフ。
- ステアリングホイール内の振動とアクティブステアリングの両方による警告:**全機能** – オンまたはオフ。

アクティブステアリング

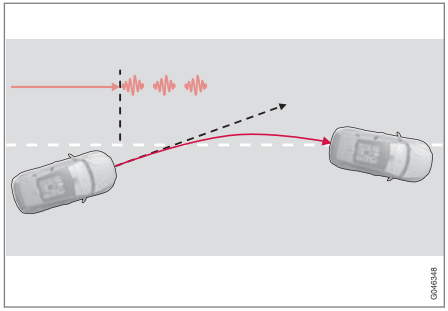
レーン・キーピング・エイドは、車両を車線境界線の内側に維持するように努めます。



LKA は介入して、ステアリング操作を行います。

方向指示器の操作がない場合に車両が左右いずれかの車線に接近すると、システムが車両を車線内に戻します。

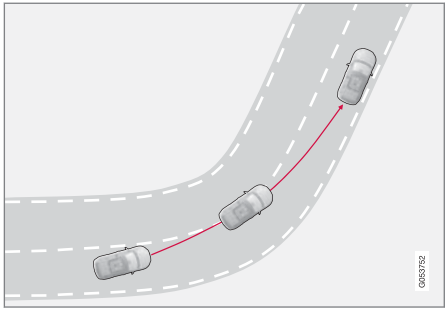
ステアリングホイール振動付き警告



LKA はステアリング操作を行い、ステアリングホイールの振動で警告します。[32]

車両が境界線を越えると、レーン・キーピング・エイドはステアリングホイールを振動させて運転者に警告します。[33] この警告は、軽度のステアリングホイール操舵力を加えることにより車両を強制的に車線内に戻すかどうかに関係なく行われます。

ダイナミックコーナリング



LKA は、急カーブの内側車線を走行しているときには介入しません。

状況により、レーンアシストは、ステアリング操作や警告を行うことなく、境界線からのはみ出しを容認することがあります。視界が開けているときに隣接車線を使用して近回りをする場合などがその一例です。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)

レーン・キーピング・エイド(LKA) – 作動

レーン・キーピング・エイド(Lane Keeping Aid)は、さまざまな状況に応じてコンバインド・メーター・パネルに直感的なグラフィックでわかりやすく表示されます。下に一部の例を挙げています。

注意

方向指示器が作動している間、LKA は一時的に解除されます。

LKA は境界線を認識して、境界線をたどります。

レーン・キーピング・エイドが作動中に境界線を検知/認識すると、LKA シンボルが白い線でこれを表示します。

32 図は、境界線を越えたときの 3 種類の振動を示しています。
33 ステアリングホイールの振動は、状況により異なります。車両が境界線を越える時間が長いほど、振動が強くなります。

- 灰色の境界線 - レーン・キーピング・エイドが車両の当該側の線を検知していません。

LKA が右側に介入します。

レーン・キーピング・エイドが介入して、当該側の境界線から離れるように操舵します。この状況は以下のように表示されます。

- 当該側：赤線

関連情報

- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)

レーン・キーピング・エイド(LKA) – 機能限界

レーン・キーピング・エイド(Lane Keeping Aid)のカメラセンサーには人間の目と同様に限界があります。

詳細情報については、カメラセンサー機能限界 (p. 283)を読み、衝突警告システム* – 操作 (p. 280)を参照してください。

> **注意**
>
> 非常に過酷な状況では、レーンアシストにより運転者を正しく支援することが困難な場合があります。このような場合には、機能をオフにすることをお薦めします。
>
> そのような状況の例は:
>
> - 道路工事
> - 冬季特有の道路状態
> - 路面の状態が悪いとき
> - 著しくスポーティーな走行スタイル
> - 悪天候で視界が悪くなっているとき

運転者の手はステアリングホイールに

レーン・キーピング・エイドが作動するためには、運転者がステアリングホイールを握っている必要があります。LKA は手がステアリングホイールに接触しているかモニターし続けます。手の接触が検知されないと、運転者にステアリング操作を自発的に行うように促すディスプレイテキストが表示されます。

運転者がリクエストに従ってステアリング操作を開始しないと、レーン・キーピング・エイドがスタンバイモードになり、運転者が車両の操舵を再開するまでこのモードのままとなります。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)

レーン・キーピング・エイド(LKA) – シンボルおよびメッセージ

レーンアシスト機能がない場合は、コンバインド・メーター・パネルにシンボルと説明のメッセージが表示されることがあります。該当する場合は、その指示に従ってください。

メッセージの例：

シンボル	メッセージ	意味
	ｳｲﾝﾄﾞｽｸﾘｰﾝｾﾝｻｰが 遮られています ﾏﾆｭｱﾙ参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 ● カメラセンサーの前のウインドスクリーンをきれいに拭いてください。 カメラセンサーの機能限界については、衝突警告システム* – カメラセンサー機能限界 (p. 283)および衝突警告システム* – 操作 (p. 280)を参照してください。
	ﾚｰﾝｷｰﾋﾟﾝｸﾞｴｲﾄﾞ ｻｰﾋﾞｽが必要です	システムが解除されています。 ● メッセージが消えない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
	ﾚｰﾝｷｰﾋﾟﾝｸﾞｴｲﾄﾞ 中断されました	LKA はスタンバイモードに設定されています。機能が再度オンになったら、LKA シンボルの線で表示されます。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド(LKA)* (p. 303)
- レーン・デパーチャー・ウォーニング(LDW) – 機能* (p. 299)

パークアシスト*

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

パークアシストの音量は、継続的な警告音が聞こえている間に、センターコンソールの **VOL** ノブを使用して調節することができます。**SOUND** 押して表示されるオーディオ設定メニュー、または車両の メニューシステム(p. 154)**MY CAR**[34] で調節することもできます。

パークアシストには、2 種類のタイプがあります：

- リアのみ
- フロントおよびリア

注意

トウバーが車両の電気系統に組み込まれている場合には、トウバーの突き出し部分も駐車スペースの計算時に考慮されるようになります。

警告

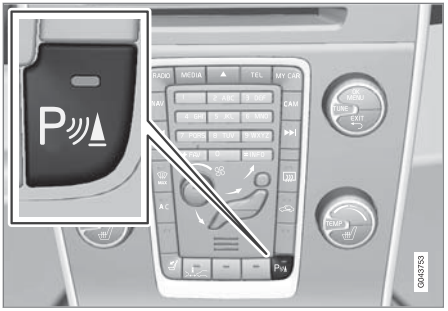
- パークアシスト機能は、運転を手助けし、安全性を向上させるための補助的な運転者サポートであり、交通条件、気象条件および道路条件によっては対応できない状況があります。
- パーキングセンサーには死角があり、すべての物体を感知することはできません。
- 車両のそばに人間やペットなどがいる場合がありますので、特にご注意ください。
- パークアシストは運転者の注意および判断に代わるものではありません。現行の交通規則および規制に従い、他の車両と適切な距離をとって、適切な速度で安全に車両を運転することは、つねに運転者の責任です。

関連情報

- パークアシスト* – 機能 (p. 308)
- パークアシスト* – フロント (p. 310)
- パークアシスト* – リア (p. 309)
- パークアシスト* – センサーの清掃 (p. 311)
- パークアシスト* – 異常表示 (p. 311)
- パークアシスト・カメラ* (p. 312)

パークアシスト* – 機能

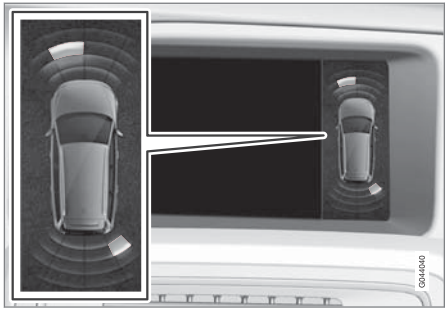
パークアシストは、エンジン始動時に自動的に起動し、スイッチのオン/オフランプが点灯します。ボタンでパークアシストを解除すると、LED は消灯します。



パークアシストのオン/オフおよび CTA*

車両に CTA (p. 289)が装備されている場合、BLIS (p. 287)のインジケーターランプが 1 回点滅した後、ボタンの使用によりパークアシストが起動します。

[34] オーディオ・メディアシステムに応じて異なります。



表示画面ビュー – 左フロントと右リアの障害物を示します。

センターコンソールのスクリーンに、車両と障害物の位置関係が表示されます。

4 つのセンサーの内、どれが障害物を検知しているかマークで表示します。マークの表示が車両に近ければ近いほど、車両と検知された障害物の距離が短いことを示します。

車両前後の障害物に近づくと、確認音の間隔が短くなります。オーディオユニットからのサウンドなどは、自動的にミュート(消音)になります。

センサーと障害物の距離が 30 cm 以内になると、確認音が連続した音に変わり、アクティブなセンサーに一番近いフィールドが着色表示されます。車両の前後両方で、連続音が鳴る距離内に障害物が検知された場合には、ラウドスピーカーから交互に音が聞こえます。

重要

チェーンや光沢のある細いポール、低い柵などの物体が「信号遮蔽」領域に入ってきたために、センサーがこれらの物体を一時的に検知せず、本来なら途切れのないトーンに変わるはずのパルス音が、不意に停止する場合があります。

センサーはプラットフォームなどの高い物体を検知することはできません。

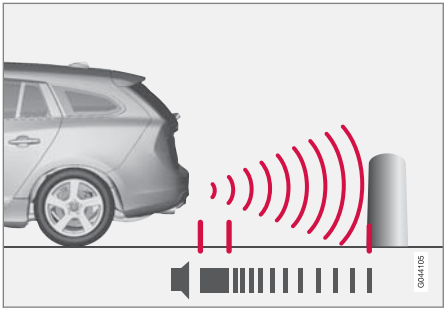
- このような場合には特に注意をはらって、車両の操縦/移動を極めてゆっくり実行するか、実行中の操作を完全に停止してください。センサーからの情報がつねに信頼できるとは限らない状況であるため、車両やその他の物体を破損させる危険があります。

関連情報

- パークアシスト*（p. 308）
- パークアシスト* – フロント（p. 310）
- パークアシスト* – リア（p. 309）
- パークアシスト* – センサーの清掃（p. 311）
- パークアシスト* – 異常表示（p. 311）
- パークアシスト・カメラ*（p. 312）

パークアシスト* – リア

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。



車両後方の有効距離は、約 1.5 m です。確認音は、リアスピーカーから発信されます。

リアパークアシストは、リバースギヤにシフトしたときに作動します。

トレーラーなどをトウバーに接続した状態で後退する際には、リアパークアシストが自動的に解除されます。センサーがトレーラーに反応するためです。

注意

ボルボ純正トレーラーケーブルを使用せずに、トウバーにトレーラーまたはバイクキャリアーを取り付けて後退する際には、センサーがトレーラーやバイクキャリアーに反応しないように、パークアシストを手動で解除することが必要になる場合があります。

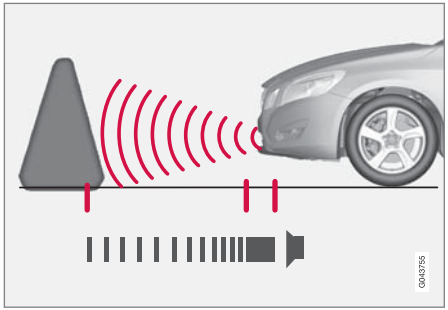
関連情報

- パークアシスト*（p. 308）
- パークアシスト* – 機能（p. 308）
- パークアシスト* – フロント（p. 310）
- パークアシスト* – センサーの清掃（p. 311）
- パークアシスト* – 異常表示（p. 311）
- パークアシスト・カメラ*（p. 312）

パークアシスト* – フロント

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

エンジンを始動するとパークアシストが自動的に起動し、スイッチのオン/オフライトが点灯します。ボタンでパークアシストを解除すると、LED は消灯します。



車両前方の有効距離は、約 0.8 m です。確認音は、フロントスピーカーから発信されます。

フロントパークアシストは車速が 10 km/h (6 mph)以下のときに作動します。

車速が速すぎる(11 km/h (7 mph)以上)ためにパークアシストの作動が解除された場合、速度を 10 km/h (6 mph)未満に下げると作動状態に戻ります。

注意

パーキングブレーキを作動した場合、またはオートマチックトランスミッション車両で **P** モードを選択した場合は、パークアシストが非作動状態になります。

重要

補助ライトなど装着時 : センサーの邪魔にならないように注意してください。補助ライトを障害物として検知して、誤作動する場合があります。

関連情報

- パークアシスト*（p. 308）
- パークアシスト* – 機能（p. 308）
- パークアシスト* – リア（p. 309）
- パークアシスト* – センサーの清掃（p. 311）
- パークアシスト* – 異常表示（p. 311）
- パークアシスト・カメラ*（p. 312）

* オプション/アクセサリー。

パークアシスト* – 異常表示

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーションシンボルが常時点灯し、ディスプレイテキスト **ﾊﾟｰｷﾝｸﾞｱｼｽﾄｼｽﾃﾑ ｻｰﾋﾞｽが必要です** が表示された場合は、パークアシストが解除されています。

重要

状況によっては、システムが使用する周波数と同じ周波数の外部の音源などにより、パークアシストが誤作動する場合があります。

例えば、車のホーン、濡れたアスファルトの路面でのタイヤの音、エアブレーキ、オートバイの排気音などです。

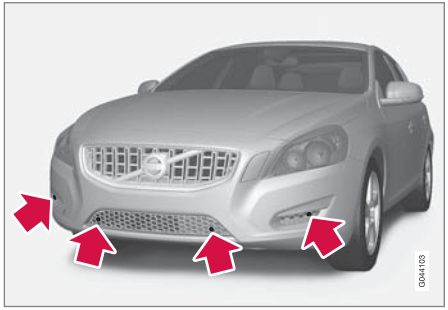
関連情報

- パークアシスト*（p. 308）
- パークアシスト* – センサーの清掃（p. 311）
- パークアシスト* – 機能（p. 308）
- パークアシスト* – フロント（p. 310）
- パークアシスト* – リア（p. 309）
- パークアシスト・カメラ*（p. 312）

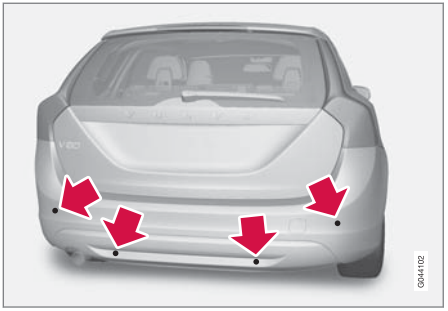
パークアシスト* – センサーの清掃

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

センサーを正しく機能させるため、水とカーシャンプー（洗車用洗剤）で定期的に洗浄してください。



センサーの位置（フロント）



センサーの位置（リア）

注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーが誤作動する、機能が低下する、またはまったく機能しなくなる場合があります。

関連情報

- パークアシスト*（p. 308）
- パークアシスト* – 機能（p. 308）
- パークアシスト* – フロント（p. 310）
- パークアシスト* – リア（p. 309）
- パークアシスト* – 異常表示（p. 311）
- パークアシスト・カメラ*（p. 312）

パークアシスト・カメラ*

パーキングカメラは、リバースギヤを選択したときに起動する補助システムです。

このカメラからの画像は、センターコンソールの画面に表示されます。

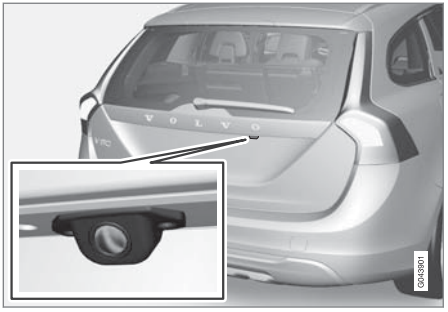
注意

トウバーが車両の電気系統に組み込まれている場合には、トウバーの突き出し部分も駐車スペースの計算時に考慮されるようになります。

警告

- パーキングカメラ機能は、運転を手助けし、安全性を向上させるための補助的な運転者サポートであり、交通条件、気象条件および道路条件によっては対応できない状況があります。
- パーキングカメラには死角があり、すべての物体を感知することはできません。
- 車両のそばに人間やペットなどがいる場合がありますので、特にご注意ください。
- 画面上の物体/障害物は、画面上の見かけより、車両に接近している可能性があります。
- パーキングカメラは運転者の注意および判断に代わるものではありません。現行の交通規則および規制に従い、他の車両と適切な距離をとって、適切な速度で安全に車両を運転することは、つねに運転者の責任です。

機能と操作



カメラはテールゲート開閉用ハンドルの隣にあります。

カメラにより、車両後方の様子や、側面から現れるものを見ることができます。

カメラは、車両後方の広いエリアや、バンパーやトウバーの一部も表示します。

画面上の物体はわずかに傾いているように見えますが、これは異常ではありません。

注意

画面上の物体は、画面上の見かけより、車両に接近している可能性があります。

別の画像が表示されている場合には、パーキングカメラシステムが自動的に切り替わり、カメラ画像が画面に表示されます。

* オプション/アクセサリー。

リバースギヤを選択すると、その時点でのステアリングホイールの角度に合わせ、後輪の予想進路が画面に 2 本の実線で表示されます。このため、縦列駐車や狭い場所への後退、トレーラーのけん引が容易になります。車両のおおよその輪郭も点線で表示されます。ガイドラインはオフにすることができます。設定(p. 315)のセクションを参照してください。

車両にパークアシストセンサー(p. 308)*も装備されている場合、検知された障害物との距離を示すために、センサーからの情報が色分けされてグラフィック表示されます。後述の「リバースセンサー装備車」を参照してください。

このカメラは、リバースギヤが解除された後約 5 秒間、または、車速が前進の場合は 10 km/h (6 mph)、後退の場合は 35 km/h (22 mph)を超えるまで作動し続けます。

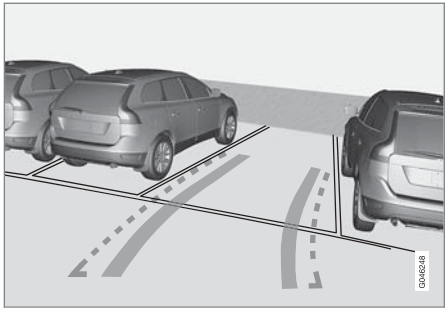
周囲の明るさ

カメラの画像は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。このため、画質と輝度は若干変化します。明かりが乏しい状況では、画質がわずかに悪くなることがあります。

注意

もっとも効率的に作動するように、カメラのレンズに泥や雪、氷が付着していないように気をつけてください。これは暗いときには特に重要です。

ガイドライン



ガイドラインが運転者に表示される際の例

画面上のガイドラインは、車体後方の地面に引かれたように画面に表示され、ステアリング角に応じて変化します。運転者は、車両が旋回しているときでも、車両の進行方向を確認することができます。

注意

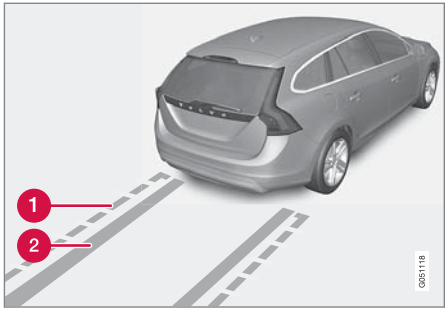
- 車両に電気的に接続されていないトレーラーをけん引中に後退する際には、ディスプレイに表示される線は**車**の経路で、トレーラーの経路ではありません。
- トレーラーが車両のエレクトリカルシステムに電気的に接続されている場合には、画面には線は表示されません。
- ボルボ純正トレーラーケーブルを使用してトレーラーをけん引するときには、パーキングカメラは自動的に非作動状態になります。

重要

リアカメラ画像を選択した場合、モニターには車両後方の様子のみが表示されます。後退中に操舵するときには、車両の横および正面を確認してください。

▶▶

境界線



システムの複数の線

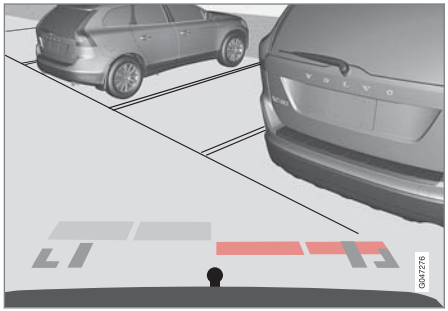
1 車両軌道ガイドライン

2 後輪軌道ガイドライン

点線(1)フレームは、バンパー後方約 1.5 m のゾーンを示します。また、ドアミラーや車両の角など、車のもっとも突き出た部分の限界も示します(車両の旋回時も同様)。

サイドラインの間に表示される幅広の後輪軌道ガイドライン(2)は、車両が通過する場所を示し、障害物がない場合には、バンパーから約 3.2 m 後方まで続きます。

リバースセンサー装備車*



色の付いたフィールド(センサーごとに 1 つずつ)は、距離を示します。

車両にパークアシストセンサー(p. 308)も装備されている場合、障害物を検知したセンサーごとに領域が色分けされて表示されます。

障害物までの距離が減少すると、着色表示の色も薄黄色から黄色、オレンジ色を介して赤色へと変化します。

カラー/ペイント	距離(メートル)
淡黄色	0.7-1.5
黄色	0.5-0.7
オレンジ	0.3-0.5
赤色	0-0.3

関連情報

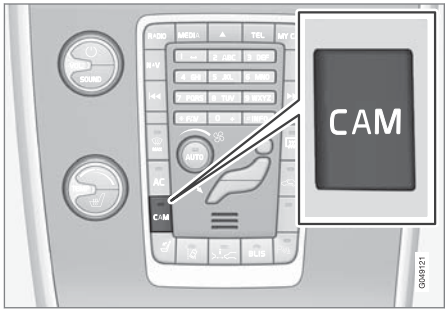
- パークアシスト・カメラ – 設定 (p. 315)
- パークアシスト・カメラ – 機能限界 (p. 316)
- パークアシスト* (p. 308)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 316)

* オプション/アクセサリー。

パークアシスト・カメラ – 設定

オフのカメラをオンにする

リバースギヤを選択するとカメラは自動的にオンになりますが、以下の操作により手動でオンにすることもできます。



- **CAM** を押します。現在のカメラ画像が画面に表示されます。

設定を変更する

パーキングカメラの設定は、画面にカメラの画像が表示されているときに変更することができます。

1. カメラの画像が表示されているときに、**OK/MENU** を押します。画面にさまざまなオプションのメニューが表示されます。
2. **TUNE** を使用して、目的のオプションにします。
3. **OK/MENU** を 1 回押してオプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

トウバー

カメラはトレーラーけん引時にも便利です。トレーラー方向へのトウバーの予想軌跡に対応するパークアシストのラインを、後輪軌道ガイドラインと同様に、画面に表示することができます。

後輪軌道ガイドラインの表示またはトウバーの軌跡の表示は切り替えることができます。両方を同時に表示することはできません。

1. カメラ画像が表示されているときに **OK/MENU** を押します。
2. **TUNE** を使用して、**トウバー軌道ガイドライン** オプションを選択します。
3. **OK/MENU** を 1 回押してオプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

ズーム

正確な操作が必要な場合、カメラ画像を拡大表示することができます。

- **CAM** を押すか、**TUNE** を回します。繰り返し押す/回すと、通常ビューに戻ります。

利用可能なオプションが他にもある場合、ループで表示されます。目的のカメラ画像が表示されるまで、押して/回してください。

関連情報

- パークアシスト・カメラ*（p. 312）
- パークアシスト*（p. 308）
- パークアシスト・パイロット(PAP)*（p. 316）

パークアシスト・カメラ – 機能限界

注意

サイクルキャリアなどアクセサリーを車両の後ろに取り付けるとカメラの視界を遮るおそれがあります。

注意事項

画面上では隠れている部分が比較的小さく見えていても、実際に視界から隠れているのは、相当大きな領域である場合がありますのでご注意ください。障害物の実際の大きさは、車両がかなり接近するまでわからない場合があります。

- カメラのレンズの泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
- カメラレンズは、ぬるま湯と洗車用洗剤で定期的に洗浄してください。レンズを傷つけないように注意してください。

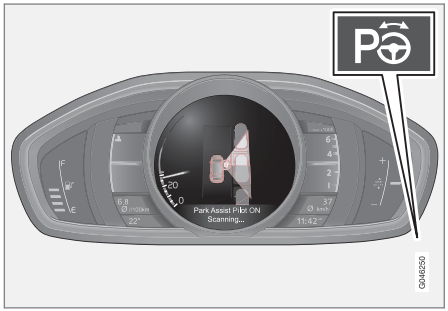
関連情報

- パークアシスト・カメラ*（p. 312）
- パークアシスト・カメラ – 設定（p. 315）
- パークアシスト*（p. 308）

パークアシスト・パイロット(PAP)*

パークアシスト・パイロット(PAP - Park Assist Pilot)は、まず十分なスペースがあるかを確認し、その後ステアリングホイールを操作して、運転者が車両を一定のスペースに駐車する作業をサポートします。

異なる操作を行う必要がある場合、コンバインド・メーター・パネルはシンボル、グラフィックおよびテキストを使用して、必要な操作を表示します。



オン/オフボタンはセンターコンソール上にあります。

注意

トウバーが車両の電気系統に組み込まれている場合には、トウバーの突き出し部分も駐車スペースの計算時に考慮されるようになります。

警告

- PAP 機能は、運転を手助けし、安全性を向上させるための補助的な運転者サポートであり、交通条件、気象条件および道路条件によっては対応できない状況があります。
- 車両のそばに人間やペットなどがいる場合がありますので、特にご注意ください。
- PAP は運転者の注意および判断に代わるものではありません。現行の交通規則および規制に従い、他の車両と適切な距離をとって、適切な速度で安全に車両を運転することは、つねに運転者の責任です。

関連情報

- パークアシスト・パイロット(PAP)* – シンボルおよびメッセージ（p. 321）
- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 操作（p. 318）
- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 機能（p. 317）

* オプション/アクセサリー。

- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 制限事項 (p. 320)
- パークアシスト* (p. 308)
- パークアシスト・カメラ* (p. 312)

パークアシスト・パイロット(PAP)* – 機能

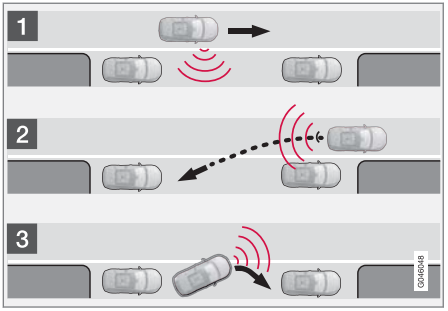
注意

PAP 機能はスペースの寸法を測り、車両を操舵します。運転者の役割は以下の通りです。

- 車両周辺に目を配ります
- コンバインド・メーター・パネルに表示される指示に従います
- ギヤシフトを行います(後退/前進)
- 安全速度の制御、維持を行います
- ブレーキを操作し、停止します

エンジンが始動し、以下の条件が満たされると、PAP が起動します。

- PAP 機能の作動中に ABS[35] または ESC[36] 機能が介入してはならない。これらの機能は急勾配や滑りやすい路面などで起動することがあります。詳しくは、フットブレーキおよびスタビリティ・システム ESC(p. 234)のセクションを参照してください。
- 車両にトレーラーが接続されていないこと。
- 速度が 50 km/h (30 mph)未満であること。



PAP の原理

PAP 機能は以下の手順で駐車を行います。

1. システムが駐車スペースを探し、スペースを計測します。計測中の車速は 30 km/h (20 mph)以下でなければなりません。
2. 後退中に、車両は駐車スペースに入るように操舵されます。
3. 車両を前進/後退させて、車両を駐車スペースに入れます。

関連情報

- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 316)
- パークアシスト* (p. 308)
- パークアシスト・カメラ* (p. 312)

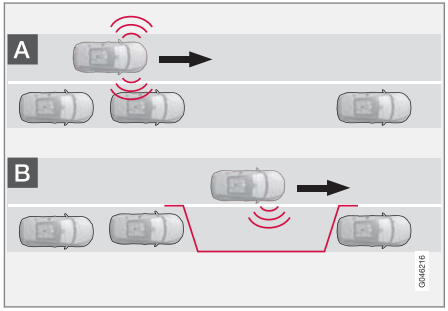
35 (Anti-lock Braking System) – アンチロックブレーキシステム
36 (Electronic Stability Control) – エレクトロニックスタビリティコントロール

パークアシスト・パイロット(PAP)* – 操作

注意

駐車中にステアリングホイールを操作する際、ステアリングホイールの位置によっては、メーター・パネルの指示が見えなくなることがありますのでご注意ください。

1 – スペースの探索と広さの確認



注意

PAP 機能はスペースの寸法を測り、車両を操舵します。運転者の役割は以下の通りです。

- 車両周辺に目を配ります
- コンバインド・メーター・パネルに表示される指示に従います
- ギヤシフトを行います(後退/前進)
- 安全速度の制御、維持を行います
- ブレーキを操作し、停止します

注意

PAP が駐車スペースを探しているときは、車両から駐車スペースまでの距離が 0.5～1.5 m (1.6～5.0 ft)である必要があります。

PAP 機能は駐車スペースを探して、その広さが十分かどうかを確認します。次の手順に従ってください。

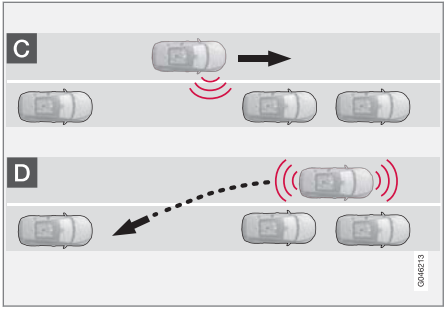
1. このボタンを押して PAP を起動させます。走行速度は 30 km/h (20 mph)以下に維持してください。
2. コンバインド・メーター・パネルを注視し、グラフィックおよびテキストで停車を指示されたときにすぐに停車できるようにしておきます。
3. グラフィックおよびテキストで停車を指示されたときに停車します。

注意

PAP は車両の助手席側にある駐車スペースを探し、指示を表示して、車両を案内します。しかし、必要であれば、運転席側の路上に駐車させることもできます。

- 運転席側の方向指示器を作動させてください。システムは運転席側の駐車スペースを探します。

2 – 後退



車両の後退時、PAP は車両を操舵して、駐車スペース内に誘導します。次の手順に従ってください。

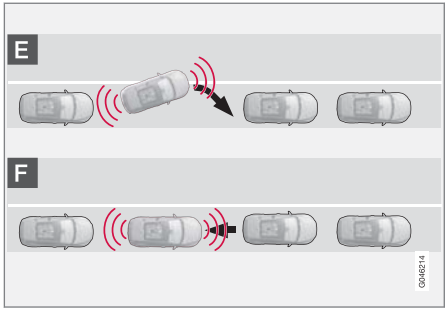
* オプション/アクセサリー。

1. 車両の後方に障害物がないことを確認して、リバースギヤに入れます。
2. ステアリングホイールにふれることなく、車両を 7 km/h (4 mph)以下の速度で慎重に後退させます。
3. コンバインド・メーター・パネルを注視し、グラフィックおよびテキストで停車を指示されたときにすぐに停車できるようにしておきます。

注意

- PAP 機能が作動している間は、ステアリングホイールに手を触れないようにしてください。
- ステアリングホイールの動きが一切妨げられず、自由に回転できるようにしてください。
- 最適な結果を得るためには、ステアリングホイールが回転し終わるのを待ってから、前進/後進を始めてください。

3 – 位置調整



車両が後退して駐車スペースに入ったら、車両の位置をまっすぐに修正して位置を調整する必要があります。

1. 1 速ギヤか D の位置にし、ステアリングホイールが動きを止めるまで待ち、その後ゆっくり前進してください。
2. グラフィックおよびディスプレイテキストで停車を指示されたときに停車します。
3. リバースギヤにして、車両を後退させ、グラフィックおよびディスプレイテキストで停車を指示された時点で停車します。

機能が自動的にオフになり、画像とメッセージにより、駐車が完了したことが表示されます。後で運転者による位置の修正が必要になることがあります。正しく駐車されているかどうかは、運転者のみが判断できます。

重要

パークアシストがセンサーを使用するときと比べ、PAP がセンサーを使用するときには、警告距離が短くなります。

関連情報

- パークアシスト・パイロット(PAP)* – シンボルおよびメッセージ (p. 321)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 機能 (p. 317)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 制限事項 (p. 320)
- パークアシスト* (p. 308)
- パークアシスト・カメラ* (p. 312)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 316)

パークアシスト・パイロット(PAP)* – 制限事項

以下の場合、PAP は動作を停止します。

- 車速が速すぎるとき(7 km/h (4 mph)以上)
- 運転者がステアリングホイールに触れたとき
- ABS[37] または ESC[38] 機能がオンになったとき(滑りやすい路面でタイヤがグリップを失ったときなど)

PAP の手順が停止するとディスプレイテキストが表示されます。

注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

重要

状況によっては、PAP が駐車スペースを見つけることができない場合があります。システムが使用するのと同じ超音波周波数を発信している外部サウンドソースによって、センサーが干渉を受けることがその理由の一つとして考えられます。

例えば、車のホーン、濡れたアスファルトの路面でのタイヤの音、エアブレーキ、およびオートバイの排気音などです。

注意事項

パークアシスト・パイロットは、補助機能に過ぎず、失敗のない全自動の機能ではないことを忘れないでください。したがって、運転者はいつでも介入できるように準備しておかなければなりません。他にも、駐車するときに留意しておかなければならないことがいくつかあります。

- PAP は、駐車されている車両の現在位置を基準にアシスト機能を開始します。他の車両が正しく駐車されていないと、車両のタイヤおよびホイールリムを縁石で損傷するおそれがあります。
- PAP は直線道路での駐車を想定しています。道路の急カーブや曲がり角での駐車は想定されていません。このため、PAP が駐車スペースの広さを測定するときには、車両が駐車スペースと平行になっていることを確認してください。
- 道幅の狭い道路では、操舵のための十分なスペースがないため、駐車スペースを見つけられないことがあります。このような場合は、道路の駐車したい側に車両をできるだけ近づけて運転すると、システムはスペースを見つけやすくなります。
- アシスト機能操作中には、車両の前部が対向車の方向に動く可能性があることにご注意してください。
- センサーの検知エリアより高い場所にある物体は、アシスト機能操作に必要な計算を行うときに考慮されません。このため、PAP が駐車スペースに対してステアリングを切るタイミングが早くなりすぎることがあります。したがって、このような駐車スペースへの駐車は避けてください。
- PAP によって選択されたスペースが駐車に適しているかを判断するのは、運転者の責任です。
- 承認タイヤ[39] を適切な空気圧で使用してください。タイヤの空気圧は PAP の駐車機能に影響をおよぼします。

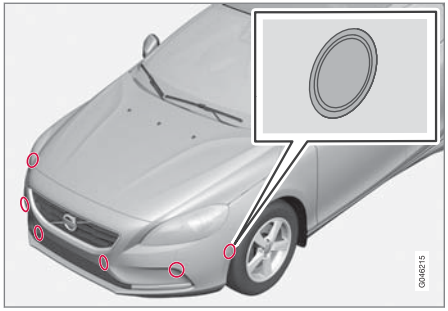
37 (Anti-lock Braking System) – アンチロックブレーキシステム
38 (Electronic Stability Control) – エレクトロニックスタビリティコントロール
39「承認されているタイヤ」とは、納車時に装着されていたのと同じメーカーの、同じタイプのタイヤを指します。

- 大雨または雪のときには、システムが駐車スペースを正しく測定できないことがあります。
- タイヤチェーンまたはスペアタイヤを装着している場合には、PAP を使用しないでください。
- 荷物が車両から飛び出している場合、PAP を使用しないでください。

重要

別の承認済みホイールリムおよび/またはタイヤサイズに変更すると、タイヤの円周が変化するおそれがあるため、PAP システムのパラメータの更新が必要になることがあります。ボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

メンテナンス



PAP センサーはバンパー [40] に配置されており、フロントに 6 個、リアに 4 個取り付けられています。

PAP が正常に作動するように、PAP センサーを水と洗車用洗剤で定期的に清掃してください。

関連情報

- パークアシスト* (p. 308)
- パークアシスト・カメラ* (p. 312)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 316)
- パークアシスト* – センサーの清掃 (p. 311)

パークアシスト・パイロット(PAP)* – シンボルおよびメッセージ

異なる操作を行う必要がある場合、コンバインド・メーター・パネルはシンボル、グラフィックおよびテキストを使用して、必要な操作を表示します。

コンバインド・メーター・パネルは、シンボルおよびメッセージの組み合わせを変更して、さまざまな内容のメッセージを表示し、適切な処置に関する明確なアドバイスを伝えることがあります。

PAP の不具合を示すメッセージが表示された場合、ボルボ指定のサービス工場に連絡することをお薦めします。

関連情報

- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 操作 (p. 318)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 機能 (p. 317)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* – 制限事項 (p. 320)
- パークアシスト* (p. 308)
- パークアシスト・カメラ* (p. 312)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 316)

[40] 注意: 図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

運転操作の要領

エンジンの始動

エンジンは、リモートコントロールキーおよびSTART/STOP ENGINE ボタンで始動、停止します。

リモートコントロールキーが引き出された/挿入されたイグニッションスイッチと START/STOP ENGINE ボタン

重要

リモートコントロールキーを不適切な向きで押し込まないでください。脱着式キーブレードが付いた側を持つようにしてください。脱着式キーブレード – 取り外し/取り付け（p. 212）を参照してください。

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し、一番奥まで押し込みます。
2. クラッチペダルを最大限に踏み込みます[1]。（オートマチックトランスミッション車の場合は、ブレーキペダルを踏み込みます。）
3. START/STOP ENGINE ボタンを押して放します。

エンジンを始動すると、エンジンが始動するかオーバーヒート保護機能が作動するまでスターターモーターが作動し続けます。

重要

3 回始動を試みてもエンジンが始動しない場合には、3 分待ってからもう一度試みてください。バッテリーが回復すると、始動できる可能性が高くなります。

警告

エンジン始動後やけん引中は、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチから絶対に抜かないでください。

警告

車両から離れる際には、必ずリモートコントロールキーをイグニッションスイッチから取り出してください。また車内にお子様を残す場合は特に、キー位置が 0 になっていることを確認してください。キー位置については、キー位置（p. 119）を参照してください。

注意

冷寒時、エンジン始動後のエンジン回転数が、通常よりも若干高くなる場合があります。これは、エミッションシステムをできるだけすみやかに正常な作動温度にして有害な排気ガスを抑え、環境を保護するためです。

キーレス始動（キーレスドライブ）*

キーレス（p. 216）でエンジンを始動するには、手順 2～3 に従ってください。

注意

エンジンを始動するには、キーレススタートおよびロック機能内蔵のリモートコントロールキーが車内またはトランクルーム/カーゴスペース内にあることが前提です。

[1] 車両が動いているときは、START/STOP ENGINE ボタンを押すだけでエンジンが始動します。

* オプション/アクセサリー。

⚠ 警告

走行中やけん引中は、リモートコントロールキーを車両から**絶対に**取り出さないでください。

関連情報

- エンジンを切る（p. 325）

エンジンを切る

エンジンを切る場合は START/STOP ENGINE ボタンを使用します。

エンジンを停止するには

- **START/STOP ENGINE** を押します。エンジンが停止します。

ギヤセレクターレバーが **P** 位置でない場合や、車両が静止していない場合には:

- **START/STOP ENGINE** を 2 度押すか、エンジンが停止するまでボタンを押したままにしてください。

関連情報

- キー位置（p. 119）

ステアリングホイールロック

ステアリングホイールロックは、盗難時などに車両の操舵を困難にします。ステアリングホイールロックが作動または解除されるときには、機械的なノイズが聞こえる場合があります。

機能

- エンジンが停止した後、運転席ドアが開くと、ステアリングホイールロックが起動します。
- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ[2]内にある状態で、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すと、ステアリングホイールロックは解除されます。

関連情報

- エンジンの始動（p. 324）
- キー位置（p. 119）
- ステアリングホイール（p. 126）

[2] キーレス始動およびロックシステム装備車の場合、リモートコントロールキーを車内に置いておくだけで十分です。

エンジンリモートスタート(ERS)*

エンジンリモートスタート（ERS - Engine Remote Start）を使用すると、車両のエンジンを離れた場所から始動できるため、出発前に車内をあらかじめ暖房/冷房しておくことができます。エンジンリモートスタートには、キーおよび Volvo On Call*を使用する方法があります。

エアコンディショナーシステムは自動設定で起動します。エンジンをエンジンリモートスタートで始動すると、エンジンは最大で 15 分間作動し、その後停止します。エンジンリモートスタートを 2 回続けて使用した場合には、通常の方法でエンジンを始動しないとエンジンリモートスタートを再使用することはできません。

エンジンリモートスタートはオートマチックトランスミッション車およびボンネットスイッチ[3]装備車でのみ使用できます。

注意

エンジンリモートスタート機能はリモートコントロールキーの電池の寿命に影響をおよぼします。したがって、エンジンリモートスタートを頻繁に使用する場合には、年 1 回の割合で電池の交換が必要になります。リモートコントロールキー – 電池の交換 (p. 215)を参照してください。

注意

アイドリング中は、地域や国の法律規則に配慮してください。エンジン作動中の騒音レベルに関する地域や国の規則および規制も順守してください。

警告

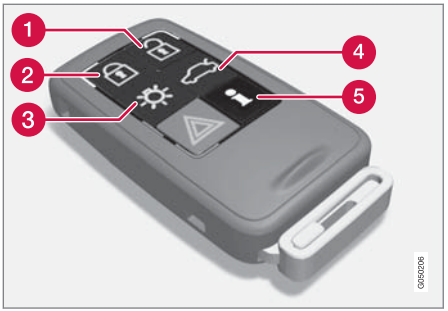
車両をリモートスタートする際には、必ず以下の条件が満たされていることを確認してください。

- 誰かが車両に目を配っていること。
- 車内または車両の周囲に人や動物などがいないこと。
- 車両が、閉鎖され、換気のない場所に駐車されていないこと。排気ガスにより人や動物に危害がおよぶおそれがあります。

関連情報

- エンジンリモートスタート(ERS) – 操作 (p. 326)
- エンジンリモートスタート(ERS) – シンボルおよびメッセージ (p. 328)

エンジンリモートスタート(ERS) – 操作



キー上のエンジンリモートスタート用ボタン

[3] XC60、アラーム装備車、4 気筒エンジン搭載のほとんどの車両、または新規で ERS が選択されている場合に使用可能。

1. ロック解除
2. ロック作動
3. アプローチライト
4. テールゲートのロック解除
5. インフォメーション[4]

エンジンをリモートスタートする前に

エンジンを遠隔始動するには、車両がロックされ、ボンネットが閉じている必要があります。

次の手順に従ってください。

1. キーのボタン(2)を軽く押します。
2. その直後にボタン(3)を長押し(2秒以上)します。

エンジンリモートスタートの条件が整っている場合には、以下が発生します。

1. 方向指示器が数回素早く点滅します。
2. エンジンが始動します。
3. 方向指示器が3秒間点灯して、エンジンが始動したことを示します。

注意

エンジンリモートスタートした後は、車両はロックされたままとなりますが、アラーム*は解除されています。

PCC[5] キーの場合

ボタンを押すと、アプローチライト[6]の表示灯が数回点滅した後、エンジンリモートスタートの条件がすべて整っている場合には、点灯に変わります。しかし、リモートスタートによってエンジンが始動したとは限りません。

リモートスタートによりエンジンが始動したかどうか確認するには、ボタン(5)を押してください。エンジンが始動している場合には、ボタン(2)および(3)の表示灯が点灯します。

作動する機能

エンジンがリモートスタートした場合には、以下の機能が作動します。

- エアコンディショナーシステム
- オーディオ/ビデオシステム
- アプローチライト

作動しない機能

エンジンをリモートスタートした場合には、以下の機能は作動しません。

- ヘッドライト
- ポジションランプ/テールランプ
- ナンバープレートランプ
- ウインドスクリーンワイパー

エンジンリモートスタートの停止

以下の手順を踏むと、リモートスタートしたエンジンが停止します。

- リモートコントロールキーのボタン(1)、(2)または(4)を押す
- 車両のロックを解除する
- ドアを開ける
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み込む
- ギヤセレクターレバーをP位置から動かす
- エンジンをリモートスタートしてから15分以上経過する

エンジンリモートスタートで始動したエンジンをオフにすると、方向指示器が3秒間点灯したままになります。

4 PCCキーのみ。PCC付きリモートコントロールキー* – 独自機能 (p. 210)を参照してください。
5 PCCキーについての詳細はPCC付きリモートコントロールキー* – 独自機能 (p. 210)を参照してください。
6 アプローチライトに関する詳細は、 リモートコントロールキー – 機能 (p. 208)およびアプローチライト (p. 141)を参照してください。

関連情報
- エンジンリモートスタート(ERS)*（p. 326）
- エンジンリモートスタート(ERS) – シンボルおよびメッセージ（p. 328）

エンジンリモートスタート(ERS) – シンボルおよびメッセージ

ERS 機能に不具合が生じたり、機能が中断した場合には、コンバインド・メーター・パネルにシンボルと説明のディスプレイテキストが表示されます。

ERS 機能が利用できません

メッセージ	意味
リモートスタートできません 試行回数が多すぎます	ERS スタートは続けて 2 回までしか許可されていないため、ERS 機能が利用できません。
リモートスタート無し フューエルレベル低下	燃料残量が少ないために、ERS 機能が利用できません。
リモートスタート無し ギヤがPポジションに 入っていません	ギヤセレクターレバーが P 以外の位置にあるため、ERS 機能が利用できません。
リモートスタート無し 車内にドライバーがいます	車内に乗員がいるために、ERS 機能が利用できません。
リモートスタート無し バッテリー残量低下	バッテリーの電圧が低いために、ERS が利用できません。エンジンを始動して、バッテリーを充電してください。
リモートスタート無し エンジン故障警告	エンジンから警告メッセージが出ているため、ERS 機能が利用できません。サービス工場[A]にご連絡ください。
リモートスタートOFF エンジンクーラントレベル低下	クーリングシステムからエラーメッセージが出ているため、ERS 機能が利用できません。クーラント – レベル（p. 414）を参照してください。
リモートスタート無し ドア開	ドア/テールゲートが閉じていないために、ERS 機能が利用できません。
リモートスタートなし フード開	ボンネットが閉じていないために、ERS 機能が作動しません。
リモートスタート無し ロックされていません	車両がロックされていないために、ERS 機能が利用できません。
リモートスタートなし 車内にキーあり	キーが車内にあるため、ERS 機能が作動しません。

[A] ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

* オプション/アクセサリー。

中断された ERS 機能

メッセージ	意味
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF ｷﾞﾔが Pﾎﾟｼﾞｼｮﾝに入っていません	ギヤセレクターレバーが P 以外の位置にあるため、ERS 機能が中断されました。
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF 車内にﾄﾞﾗｲﾊﾞｰがいます	車内に乗員がいるために、ERS 機能が中断されました。
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF ｴﾝｼﾞﾝ故障警告	エンジンからエラーメッセージが出ているため、ERS 機能が中断されました。サービス工場 A にご連絡ください。
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF ｴﾝｼﾞﾝｸｰﾗﾝﾄﾚﾍﾞﾙ低下	クーリングシステムからエラーメッセージが出ているため、ERS 機能が中断されました。
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF ﾌｰﾄﾞ開	ボンネットが開いているため、ERS が中断されました。
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF ﾊﾞｯﾃﾘｰ残量低下	バッテリー電圧が低すぎるため、ERS が中断されました。
ﾘﾓｰﾄｽﾀｰﾄOFF ﾌｭｰｴﾙﾚﾍﾞﾙ低下	燃料残量が少なすぎるため、ERS が中断されました。

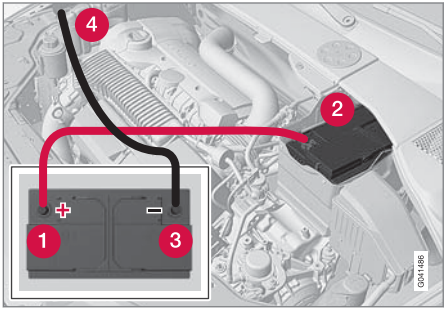
A ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

関連情報

- エンジンリモートスタート(ERS)*（p. 326）
- エンジンリモートスタート(ERS) – 操作（p. 326）

別のバッテリーによるジャンプスタート

メインバッテリー（p. 428）が放電した場合は、他のバッテリーにジャンパーケーブルなどを接続してエンジンを始動することができます。



車両をジャンプスタートする際には、ショートなどの損傷を防ぐため、次の手順を厳守してください。

1. 車両の電気系統をキー位置 **0** にします。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。
2. 電気を供給する側のバッテリーが 12V であることを確認してください。

3. 電気を供給する側のバッテリーが他車に取り付けられている場合には、その車両のエンジンを切り、2 台の車が接触していないことを確認してください。
4. 赤いリード線の一方のクランプを他車のバッテリーのプラス端子(1)に接続します。

重要

エンジンルーム内の部品とショートしないように、ジャンパーケーブルは慎重に接続してください。

5. 自車のバッテリーのフロントカバーのクリップを開けて、カバーを取り外します。メインバッテリー - 交換 (p. 430)を参照してください。
6. 赤いリード線の他方のクランプを車両のプラス端子(2)に接続します。
7. 黒いリード線の一方のクランプを他車のバッテリーのマイナス端子(3)に接続します。
8. 黒いジャンパーケーブルの反対側のクランプをアースポイント(右側エンジンマウンティング上部、アウターボルト頭部(4))に接続します。
9. 始動を試みたときに火花が発生することを防ぐため、ジャンパーケーブルのクランプは確実に接続してください。
10. 「電気を供給する側の車両」のエンジンを始動し、アイドリングよりも若干高い回転数(約 1,500 rpm)で数分間回転させます。
11. バッテリーが放電した車両のエンジンを始動させます。

重要

始動操作中には、ケーブルと車両の接続部に触れないでください。火花が発生するおそれがあります。

12. リード線を逆の順序で外します。先に黒いジャンパーケーブルを外し、次に赤いジャンパーケーブルを外してください。
    > 黒いブースターケーブルのクランプがバッテリーのプラス端子や、赤いブースターケーブルのクランプに接触しないよう注意してください。

警告

- バッテリーからは、非常に引火性の高い、酸素と水素の混合ガスが発生します。ジャンパーケーブルを正しく接続しないと、火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- フューエルシステムコンポーネントまたは可動部にはジャンパーケーブルを接続しないでください。高温のエンジンパーツに注意してください。
- バッテリー液には、腐食性の強い希硫酸が使用されており、触れると重度のヤケドを負うおそれがあります。
- 電解液が目、皮膚または衣服に付着した場合は、ただちに大量の水で洗い流してください。目に入った場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- バッテリーの近くでは絶対に喫煙しないでください。

関連情報

- エンジンの始動 (p. 324)

トランスミッション

トランスミッションには 2 種類あります。マニュアルトランスミッションとオートマチックトランスミッションです。

- マニュアルトランスミッション(p. 331)
- オートマチックトランスミッション、ギヤトロニック (p. 332)

重要

駆動システムのコンポーネントへの損傷を防止するために、トランスミッションの作動温度が点検されます。オーバーヒートのおそれがある場合には、コンバインド・メーター・パネルの警告灯が点灯し、ディスプレイテキストが表示されます。ディスプレイテキストの指示に従ってください。

関連情報

- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)

マニュアルトランスミッション

トランスミッションの機能はギヤ比を速度と必要な出力に応じて変化させます。

ギヤシフトパターン

マニュアルトランスミッションには 6 つのギヤがあり、シフトパターンがギヤセレクターレバーに記されています。

- ギヤチェンジをしている間は、クラッチペダルを最大限まで踏み込みます。
- ギヤチェンジをしているとき以外は、クラッチペダルから足を離してください。

警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキを使用してください。ギヤに入れておくだけでは、不十分な場合があります。

リバースギヤインヒビター

リバースギヤインヒビターは、前進時に誤ってリバースギヤにシフトしないように、誤操作を防止します。

- セレクターレバーに印刷されているギヤシフトパターンに従います。ギヤセレクターレバーを **R** 位置に動かす際には、ニュートラルポジション **N** から始めてください。
- リバースギヤへのシフトは、車両が完全に停止してからおこなってください。

関連情報

- トランスミッション (p. 331)
- トランスミッションフルード – グレードおよび容量 (p. 469)

ギヤシフトインジケーター*

ギヤシフトインジケーターは、次にギヤを上げる、または下げる適切なタイミングを運転者に知らせます。

環境に優しい走行を心がける上で大切な点は、適切なギヤで走行し、タイミングよくギヤを変更することです。

モデルによっては補助としてGSI（Gear Shift Indicator）がついているものがあります。これは最良の燃費を得るためのギヤチェンジのタイミングを表示する機能です。

しかし、パフォーマンスや振動のない走行といった特性を考慮すると、高めのエンジン回転数でギヤ変更を行う方がよい場合があります。フレーム内に表示されている数字は、現在のギヤを示しています。

オートマチックトランスミッション

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル、ギヤシフトインジケーターあり

フレーム内に表示されている数字は、現在のギヤを示しています。

関連情報

- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)

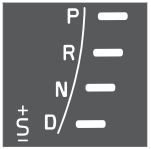
オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)*

Geartronic(ギヤトロニック)には、オートマチックとマニュアルの2つのギヤモードがあります。

D：オートマチックギヤポジション。+/-：マニュアルギヤポジション。S：スポーツモード*

ギヤセレクターレバーの位置が、コンバインド・メーター・パネル(p. 102)に次のように表示されます：P、R、N、D、S*、1、2、3 など。

ギヤポジション



オートマチックギヤポジションはコンバインド・メーター・パネルの右側に表示されます。(一度にひとつのマーカーが点灯します。現在のギヤセレクターレバーの位置のみを示します。)

* オプション/アクセサリー。

スポーツモードのシンボル「S」は、このモードが作動するとオレンジ色になります。

パーキングポジション – P

エンジンを始動するときまたは駐車するときは、P 位置を選択してください。

ギヤセレクターレバーを P 位置から動かすときには、キー位置を II にして、ブレーキペダルを踏み込む必要があります。キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119)を参照してください。

P 位置では、トランスミッションが機械的にロック状態になります。駐車するときには、パーキングブレーキ(p. 352)もかけてください。

注意

車両をロックしてアラームをセットするには、ギヤセレクターレバーがP位置であることが条件になります。

重要

車両が必ず停止してから、P 位置に入れてください。

警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキをかけてください。状況によっては、オートマチックトランスミッション車の P 位置に入れておくだけでは、不十分な場合があります。

リバースポジション – R

車両が必ず停止してから、R 位置に入れてください。

ニュートラルポジション – N

トランスミッションが、どのギヤにも入っていない状態です。エンジンを始動することができます。ギヤセレクターレバーが N 位置にあり、車両が停止しているときは、パーキングブレーキをかけてください。

ギヤセレクターレバーをN位置から他の位置に動かす場合は、リモートコントロールキーを II 位置にしてブレーキペダルを踏みながら動かします。キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119)を参照してください。

ドライブポジション – D

D 位置は、通常走行時に使用する位置です。加速に応じて、すべての前進ギヤ間で自動的にシフトアップ、シフトダウンが行われます。ギヤセレクターレバーを R 位置から D 位置に動かすときは、必ず車両が停止してから行ってください。

Geartronic(ギヤトロニック) – マニュアルギヤポジション(+S-)

運転者はGeartronic(ギヤトロニック)オートマチックトランスミッションを使用して、手動でギヤチェンジすることもできます。アクセルペダルを放すと、エンジンブレーキがかかります。

マニュアルギヤポジションにするには、レバーを D から横へ一番奥の「+S-」まで動かします。コンバインド・メーター・パネルのシンボル「+S-」が白からオレンジに変わり、選択したギヤに応じて、1、2、3 などの数字がボックス内に表示されます。

- レバーを 「+」(プラス)側に押して放すと、1 ギヤずつシフトアップして、レバーは + と - との間の、静止位置に戻ります。

または：

- レバーを「-」(マイナス)側に引いてシフトダウンして放します。

マニュアルギヤシフトモード「+S-」は、走行中いつでも選択することができます。

Geartronic(ギヤトロニック)では、車速が選択しているギヤの速度設定範囲を下回ると、自動的にシフトダウンしてノッキングやストールを防ぎます。

オートマチックモードに戻るには：

- レバーを D のエンドポジションまで横方向に動かします。

注意

トランスミッションにスポーツプログラムが備わっている場合は、ギヤセレクターレバーを「**+S-**」位置で前後に動かした場合のみ、トランスミッションがマニュアルモードになります。コンバインド・メーター・パネルの表示が **S** から選択されたギヤの表示(**1**、**2**、**3**)に変わります。

パドル*

ギヤセレクターレバーを使用するマニュアルギヤチェンジに加えて、ステアリングホイールに「パドル」と呼ばれるコントロールがあります。

ステアリングホイールのパドルを使用してギヤチェンジを行うには、まずこれを作動可能状態にする必要があります。これは、パドルのひとつをステアリングホイール側に引いて行います。コンバインド・メーター・パネルの表示が「**D**」から現在のギヤを表す数字へと変わります。

ギヤを一段変更するには：

- パドルのひとつを後方(ステアリングホイール側)に引いて放します。

両方のステアリングホイールパドル

1 「**-**」：ひとつ下のギヤを選択します。

2 「**+**」：ひとつ上のギヤを選択します。

エンジン回転速度が許容範囲内の場合は、パドルを引くとギヤチェンジが実行されます。

ギヤチェンジの度に、コンバインド・メーター・パネルの数字が変わり、現在のギヤを表示します。

注意

自動解除

ステアリングホイールのパドルが使用されていないとこの機能はしばらくしてから解除されます。コンバインド・メーター・パネルの表示が現在のギヤの表示から「**D**」へ戻ります。

エンジンブレーキの使用中は例外です。エンジンブレーキの使用中はパドルは作動可能です。

手動解除

ステアリングホイールパドルシフターは手動で解除することもできます。

- 両側のパドルをステアリングホイール方向に引いたまま保持し、コンバインド・メーター・パネルの表示が現在のギヤの数字から「**D**」に変わった時点で手を離します。

スポーツモード*でもパドルをギヤセレクターと共に使用することができます。その場合、パドルは解除されずつねに作動します。

* オプション/アクセサリー。

Geartronic(ギヤトロニック) - スポーツモード*(S)[7]

スポーツモードでは車両がスポーティな反応を示すようになり、エンジン回転数が高めになります。同時に、アクセルの反応が敏感になります。アクティブなドライビングでは低めのギヤを優先し、シフトアップのタイミングを遅らせます。

スポーツモードを作動させるには：

- ギヤセレクターレバーを **D** から横へ「**+S-**」まで動かします。コンバインド・メーター・パネルの表示が **D** から **S** へ変わります。

スポーツモードは、走行中いつでも選択することができます。

Geartronic(ギヤトロニック) - ウィンターモード

滑りやすい路面では、手動で3速ギヤを選択すると、発進しやすくなる場合があります。

1. ブレーキペダルを踏み、セレクターレバーを **D** から一番奥の「**+S-**」に動かします。コンバインド・メーター・パネルの表示が、**D** から数字 **1**[8] に変わります。
2. ギヤレバーを前方 **+**(プラス)側に2回押して、3速ギヤを選択します。ディスプレイ表示が、**1** から **3** に変わります。
3. ブレーキペダルを放して、注意してアクセルを踏みます。

「ウィンターモード」は、低いエンジン回転で駆動輪のエンジンパワーを抑えて発進します。

キックダウン

アクセルペダルをフロアの奥まで(通常、フルアクセルと思う位置よりもさらに深く)踏み込むと、ただちに低いギヤにシフトダウンします。これをキックダウンと呼びます。

アクセルペダルをキックダウン位置から戻すと、トランスミッションは再び自動的にシフトアップします。

キックダウンは追い越しなど、最大加速が必要なときに使用してください。

安全機能

エンジンのオーバーレブを防止するために、トランスミッションコントロールプログラムには、ダウンシフトインヒビターが装備されており、キックダウン機能を制限しています。

Geartronic(ギヤトロニック)は、エンジン回転速度が高いために、エンジンに損傷を与えるおそれがあるようなダウンシフト/キックダウンは許可しません。エンジン回転速度が高い状態では、この方法でシフトダウンしても、なにも起こりません。もともとのギヤがかみ合ったままとなります。

キックダウンすると、エンジン回転速度に応じて、ギヤ位置が1つ以上シフトダウンします。車速がそのギヤでの最高速度に達すると、エンジンを損傷させないように自動的にシフトアップします。

けん引

車両をけん引する必要がある場合 - けん引 (p. 374)のセクションの重要情報を参照してください。

関連情報

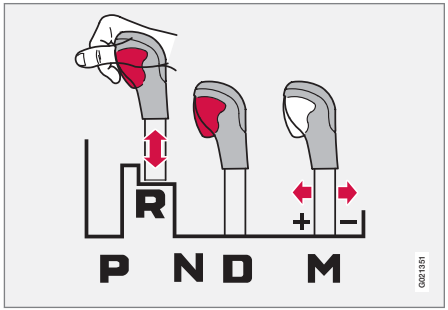
- トランスミッションフルード - グレードおよび容量 (p. 469)
- トランスミッション (p. 331)

[7] 一部のエンジンのみ。
[8] 車両にスポーツモード*が装備されている場合は、「**S**」がまず表示されます。

ギヤセレクターインヒビター

ギヤセレクターインヒビターには、メカニカル式とオートマチック式の 2 つのタイプがあります。

メカニカルギヤセレクターインヒビター



M：マニュアルシフト[9] – 「+/–」または「スポーツモード」

ギヤセレクターレバーは、**N** 位置と **D** 位置の間で前後に自由に動かすことができます。それ以外の位置はロックされており、レバーにあるインヒビターボタンを押してロックラッチを解除します。

インヒビターボタンを押すと、レバーは **P** 位置、**R** 位置、**N** 位置、**D** 位置の間で前後に自由に動かすことができます。

オートマチックギヤセレクターインヒビター

オートマチックトランスミッションは、特殊な安全装置を備えています：

パーキングポジション (P)
エンジン作動、車両停止：

- ギヤセレクターレバーを他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏みながら動かします。

エレクトリックギヤインヒビター – シフトロックパーキングポジション (P)
ギヤセレクターレバーを **P** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏み込み、キー位置 (p. 119) を **II** にする必要があります。

シフトロック - ニュートラル (N)
ギヤセレクターレバーが **N** 位置で、車両が約 3 秒以上静止 (エンジン回転とは関係なく) している場合、レバーは固定されます。

ギヤセレクターレバーを **N** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏み込み、キー位置 (p. 119) を **II** にする必要があります。

注意

セレクターレバーとインヒビターボタンの隙間に、指を挟まないように注意してください。

オートマチックギヤセレクターインヒビターを解除する

バッテリーの放電などが原因で車両を運転できない場合、車両を移動させるためには、ギヤセレクターレバーを **P** 位置から動かすことが必要です。

1. センターコンソールの後ろのコンパートメントのラバーマットを持ち上げて、コンパートメントの底にあるキーブレード (p. 212) 用の穴[10] を見つけます。
2. 穴の中のバネ式ボタンをキーブレードで探し、キーブレードでボタンを押さえます。
3. ギヤセレクターレバーを **P** 位置から動かし、キーブレードを引き上げます。
4. ラバーマットを元の位置に戻します。

[9] 図は概略図です。
[10] 穴は 2 つあります。ひとつはキーブレード用、もうひとつはラバーマット固定用です。

関連情報

- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)

坂道発進補助装置(HSA)*[11]

上り坂で走行または後退を始める前に、フットブレーキを放すことができます。HSA (Hill Start Assist)機能は、坂道発進時に車両が後退するのを防止します。

この機能では、足をブレーキペダルからアクセルペダルへ動かす間の数秒間、ブレーキシステム内の圧力が保持されます。

一時的に保持されるブレーキ効果は、数秒経過するか、ドライバーが加速すると、解除します。

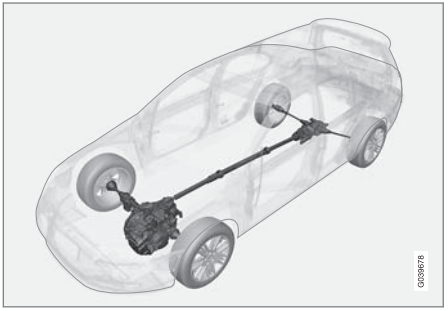
関連情報

- エンジンの始動 (p. 324)

全輪駆動(AWD)*

全輪駆動により最適なトラクションが得られます。

全輪駆動(AWD)システムは、常時作動しています



全輪駆動車(All Wheel Drive)では、車両の 4 輪すべてに同時に駆動力がかかります。

駆動力は前輪と後輪の間で、自動的に配分されます。電子制御式のクラッチシステムにより、路面状況に応じて最適なグリップが得られるように駆動力が分配されます。このため、トラクションが最適化され、ホイールスピンが抑制されます。通常の走行状況では、駆動力の大半が前輪に分配されます。

AWD は、降雨時、降雪時、および路面凍結時の走行安定性を向上させます。

11 エンジンおよびトランスミッションの組み合わせに応じて異なります。組み合わせによっては HSA を装備できないことがあります。

関連情報

- Hill Descent Control(HDC)* (p. 338)

Hill Descent Control(HDC)*12

HDC は、エンジンブレーキに例えることができます。下り坂を走行中にアクセルペダルから足を離すと、通常はエンジンの回転抵抗で減速します(エンジンブレーキ)。しかし、道路の勾配が急になり、車両の積載重量が大きくなると、エンジンブレーキにもかかわらず、車両の惰性速度は上昇します。HDC 機能は自動的にフットブレーキをかけてこの状況を補正します。

HDC の概要

HDC により、急な下り坂でも、フットブレーキを使わず、アクセルペダルの操作だけで、加速/減速させることができます。アクセルペダルの感度が低下し、一定範囲では、ペダルを最大限まで作動させても、エンジン回転速度を調整することしかできないため、ペダルがより厳密に操作できます。ブレーキシステムが自動的に作動し、車両を一定の低い速度に保つため、運転者はステアリングに神経を集中させることができます。

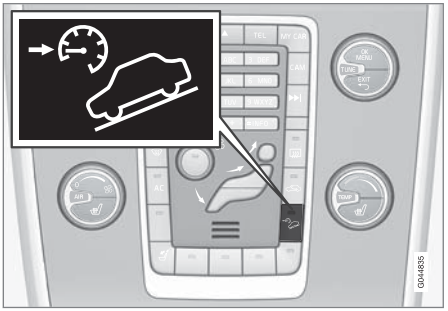
HDC は、路面の起伏が激しく、スリップしやすい箇所がある急な坂で走行する場合、特に効果を発揮します(例えば、トレーラーに積んだボートを斜面から進水させるときなど)。

⚠ 警告

HDC はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

機能



HDC オン/オフ

HDC のオン/オフは、センターコンソールのスイッチの 1 つを使用して切り替えます。機能をオンにすると、スイッチ内のランプが点灯します。

HDC が作動している場合、コンバインド・メーター・パネルのシンボルが点灯し、ディスプレイテキスト ﾋﾙﾃﾞｨｾﾝﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ ON が表示されます。

12 AWD の V60 Cross Country のみに装備可能です。

マニュアルトランスミッション車の場合、この機能は1速ギヤおよびリバースギヤのときにのみ作動します。

オートマチックトランスミッション車の場合、マニュアルギヤシフトモード(+S)でギヤ 1 を選択するか、または R を選択する必要があります。この選択はコンバインド・メーター・パネルに数字の 1 または R で表示されます。オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)を参照してください。

注意

オートマチックトランスミッション車の場合、D 位置では、HDC は作動できません。

操作

HDC 機能が作動すると車両にエンジンブレーキがかかり、約 10 km/h (6 mph)以下の速度で走行するようになります(後退時は約 7 km/h (4 mph)以下)。アクセルペダルを踏むと、そのとき選択されているギヤの速度範囲内で加速することができます。アクセルペダルを放すとただちにブレーキがかかり、坂の勾配に関係なく、前進速度は約 10 km/h (6 mph)、後退速度は約 7 km/h (4 mph)まで減速し、ブレーキペダルの操作を必要としません。

HDC 機能が作動すると、ブレーキランプが自動的に点灯します。運転者は、フットブレーキを踏めばいつでも減速または停車することができます。

HDC は、以下のような場合に解除されます :

- センターコンソールのオン/オフボタンを使用した場合。
- マニュアルトランスミッション車で 1 または R 以外のギヤを選択した場合。
- オートマチックトランスミッション車でマニュアルギヤシフトモードのときに 1 または R 以外のギヤを選択した場合。

機能は、いつでも解除することができます。勾配の急な下り坂を走行中に解除した場合、解除は即時ではなく徐々に行われます。

注意

HDC がオンのときは、アクセルペダルの操作からエンジンが反応するまで時間がかかるように感じられます。

関連情報

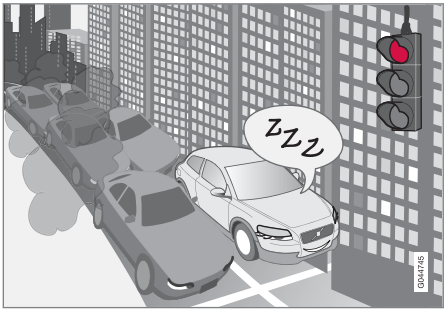
- 全輪駆動(AWD)* (p. 337)
- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)
- マニュアルトランスミッション (p. 331)

Start/Stop*

エンジンとトランスミッションの組み合わせによっては、交通渋滞で静止した場合や信号待ちで停止した場合に作動する Start/Stop 機能が装備されています。この機能の働きにより、渋滞や信号待ちのときにはエンジンが自動的に一時停止し、走行が再開できるようになったらエンジンが自動的に再始動します。

環境への配慮は、ボルボ・カー・コーポレーションの全活動を導くコア・バリューです。この目標から、いくつかのエネルギー節減機能が生まれました。そのひとつが Start/Stop 機能です。すべてが連携して燃費を節減し、その結果、排出ガスを低減させています。

Start/Stop の概要



エンジンが停止します。より静かでクリーンです。

Start/Stop 機能があれば、適切な機会があればエンジンをオートストップさせることができる

◀◀ ため、能動的に環境に配慮した走行を心がけることができます。

車両のメニューシステム MY CAR には、**DRIVe** 項目にボルボの Start/Stop システムに関する情報と省エネ走行の推奨事項が表示されます。

マニュアルトランスミッションまたはオートマチックトランスミッション
トランスミッションがマニュアルかオートマチックかで Start/Stop 機能は異なっていますのでご注意ください。

関連情報

- Start/Stop* – 機能と操作 (p. 340)
- エンジンの始動 (p. 324)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートしない (p. 344)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートする (p. 343)
- Start/Stop* – エンジンが停止しない (p. 342)
- Start/Stop* – 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 344)
- Start/Stop* – シンボルおよびメッセージ (p. 345)
- バッテリー – Start/Stop (p. 432)

Start/Stop* – 機能と操作

Start/Stop 機能は、キーを使用してエンジンを始動すると自動的に作動します。

Start/Stop 機能は、キーを使用してエンジンを始動すると自動的に作動します。この機能のシンボルがコンバインド・メーター・パネル内に点灯し、ON/OFF ボタン [13] が点灯して運転者に知らせます。

エアコンディショナーシステムのファンを高速で使用している場合や、極端な大音量でオーディオシステムを使用している場合などでは、こうした機能が一時的に軽減される場合がありますが、照明やラジオなど車両の通常のシステムは、エンジンオートストップ中も通常通り機能します。

エンジンのオートストップ

エンジンのオートストップが機能するには、以下の条件が整っている必要があります。

条件	M/A [A]
クラッチペダルを踏んでセレクターレバーをニュートラル位置に動かしてください。エンジンが自動的に停止します。	M
フットブレーキを使用して車両を停止し、足をペダルに載せたままにしてください。エンジンがオートストップします。	A

[A] M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

ECO 機能が作動している場合、車両が完全に静止する前にエンジンがオートストップすることがあります。

エンジンタイプによっては、ECO 機能の作動有無に関わらず、車両が静止する前にエンジンがオートストップすることがあります。

エンジンがオートストップした場合は、Start/Stop 機能用のコンバインド・メーター・パネルのシンボルが点灯します。

[13] ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

エンジンオートスタート

条件	M/A[A]
セレクターレバーがニュートラル位置にあるときに： 1. クラッチペダルを踏み込むか、アクセルペダルを踏んでください。エンジンが始動します。 2. 適切なギヤを選択して走行を開始します。	M
フットブレーキをゆるめてください。エンジンがオートスタートし、走行を再開することができます。	A
フットブレーキを踏んだまま、アクセルペダルを踏み込んでください。エンジンがオートスタートします。	A
下り坂走行時には、以下のオプションも利用できます。 フットブレーキをゆるめ、車両を発進させてください。通常の歩行速度を上回ると、エンジンが始動します。	M + A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

Start/Stop 機能の解除

状況によっては、オート Start/Stop 機能を一時的に解除した方がよい場合があります。これは、このボタンを押すことで実行できます[13]。

コンバインド・メーター・パネルの Start/Stop のシンボルと ON/OFF ボタンのランプの消灯によって、機能が解除されていることがわかります。

Start/Stop 機能は、ボタンを押して再起動するか、次回キーを使ってエンジンが始動されるまで解除されたままとなります。

関連情報

- Start/Stop*（p. 339）
- エンジンの始動（p. 324）
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない（p. 344）
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする（p. 343）
- Start/Stop* - エンジンが停止しない（p. 342）
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション)（p. 344）
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ（p. 345）
- バッテリー - Start/Stop（p. 432）

13 ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

Start/Stop* – エンジンが停止しない

Start/Stop 機能が起動していても、エンジンは必ずしも自動的に停止するとは限りません。

次の場合にはエンジンはオートストップしません。

条件	M/A[A]
キーで始動した後、または直前のオートストップの後、車速が約 10 km/h (6 mph)に達していないとき	M + A
運転者がシートベルトのバックルを外したとき	M + A
メインバッテリーの容量が最低許容レベルを下回っているとき	M + A
エンジンが通常の作動温度に達していないとき	M + A
外気温が氷点前後または約 30 ℃を超えているとき	M + A
ウインドスクリーンの電熱機能が作動しているとき	M + A
空調が事前に設定されている値とは異なっているとき。これは、換気ファンが高速で回転していることで示されます。	M + A
車両が後退しているとき	M + A
メインバッテリーの温度が氷点下か、高すぎるとき	M + A
運転者がより大きくステアリングホイールを操作したとき	M + A
エキゾーストシステムの粒子フィルターがいっぱいになったとき。一時的に非作動になった Start/Stop 機能は、自動クリーニングサイクル が実行されるとすぐに再起動されます (ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF) (p. 364)参照)。	M + A
道路の勾配が非常に急なとき	M + A
車両の電気系統にトレーラーが電気的に接続されているとき	M + A
ボンネットが開いているとき[B]	M + A
トランスミッションが通常の作動温度に達していないとき	A
大気圧が海抜 1,500～2,500 m に相当する気圧以下であるとき。大気圧は周囲の気象条件により変化します。	A
アダプティブクルーズコントロール渋滞アシスタントが起動しているとき	A
ギヤセレクターレバーが **R**、**S** の位置[CD] または「**+/–**」[D] のとき	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。
B 一部のエンジンのみ。
C スポーツモード
D ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

関連情報

- Start/Stop* (p. 339)
- Start/Stop* – 機能と操作 (p. 340)
- エンジンの始動 (p. 324)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートしない (p. 344)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートする (p. 343)
- Start/Stop* – 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 344)
- Start/Stop* – シンボルおよびメッセージ (p. 345)
- バッテリー – Start/Stop (p. 432)

Start/Stop* – エンジンがオートスタートする

運転者が走行を継続する意思がなくても、オートストップしたエンジンが再始動する場合があります。

以下のような状況では、運転者がクラッチペダルを踏み込んでいない場合(マニュアルトランスミッション)や、ブレーキペダルから足を離した場合(オートマチックトランスミッション)に、エンジンがオートスタートします。

条件	M/A[A]
ウインドが曇ったとき。	M + A
空調が事前に設定されている値とは異なっているとき。	M + A
一時的に電流消費量が増加しているときや、バッテリー容量が最低許容レベルを下回ったとき。	M + A
ブレーキペダルを繰返し踏み込んだとき。	M + A
ボンネットが開いているとき[B]。	M + A
車両が動き始めたとき、または、車両が完全に静止することなくオートストップした場合に速度が少し上昇したとき。	M + A
ギヤセレクターレバーが **D** または **N** の位置のときに運転席ベルトロックが外されたとき。	A
ステアリングホイールを操作したとき[B]。	A
ギヤセレクターレバーが **D** の位置から **S** の位置[CD]、**R** または「**+/–**」の位置になったとき[D]。	A
ギヤセレクターレバーが **D** の位置のときに運転席ドアが開かれたとき。「ピーン」という音とディスプレイテキストにより、Start/Stop 機能がアクティブであることがわかります。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。
B 一部のエンジンのみ。
C スポーツモード
D ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

⚠ 警告

エンジンがオートストップした際には、ボンネットを開けないでください。エンジンが突然オートスタートする場合があります。ボンネットを開ける前に、**START/STOP ENGINE** ボタンを使用して通常通りエンジンをオフにしてください。

関連情報

- Start/Stop* (p. 339)
- Start/Stop* – 機能と操作 (p. 340)
- エンジンの始動 (p. 324)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートしない (p. 344)
- Start/Stop* – エンジンが停止しない (p. 342)
- Start/Stop* – 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 344)
- Start/Stop* – シンボルおよびメッセージ (p. 345)
- バッテリー – Start/Stop (p. 432)

Start/Stop* – エンジンがオートスタートしない

エンジンは、オートストップの後、オートスタートしないことがあります。

以下の状況では、オートストップ後もエンジンがオートスタートしません。

条件	M/A[A]
クラッチを切らずにギヤがかみ合っているとき。オートスタートさせるためセレクターレバーをニュートラル位置に入れるよう、ディスプレイテキストが表示されます。	M
運転者がシートベルトを着用していません。	M
運転者がシートベルトを着用しておらず、ギヤセレクターレバーが **P** 位置で運転席ドアが開いているとき。この場合通常のエンジン始動手順を行う必要があります。	A

[A] M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

関連情報

- Start/Stop*（p. 339）
- Start/Stop* – 機能と操作（p. 340）
- エンジンの始動（p. 324）
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートする（p. 343）
- Start/Stop* – エンジンが停止しない（p. 342）
- Start/Stop* – 不意の停止(マニュアルトランスミッション)（p. 344）
- Start/Stop* – シンボルおよびメッセージ（p. 345）
- バッテリー – Start/Stop（p. 432）

Start/Stop* – 不意の停止(マニュアルトランスミッション)

始動に失敗し、エンジンが停止した場合には、以下の手順に従ってください。

1. 運転席のシートベルトがシートベルトバックルに固定されているか確認してください。
2. クラッチペダルをもう一度踏み込んでください。エンジンが自動的に始動します。
3. 場合によっては、セレクターレバーをニュートラル位置にすることが必要です。この場合、コンバインド・メーター・パネルには、テキスト **ギアをニュートラルにする** が表示されます。

関連情報

- Start/Stop*（p. 339）
- Start/Stop* – 機能と操作（p. 340）
- エンジンの始動（p. 324）
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートしない（p. 344）
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートする（p. 343）
- Start/Stop* – エンジンが停止しない（p. 342）
- Start/Stop* – シンボルおよびメッセージ（p. 345）
- バッテリー – Start/Stop（p. 432）

* オプション/アクセサリー。

Start/Stop* – シンボルおよびメッセージ

Start/Stop 機能は、コンバインド・メーター・パネルにディスプレイテキストを表示することができます。

ディスプレイテキスト

状況によっては、このインジケーターランプと共に、Start/Stop 機能がコンバインド・メーター・パネルにディスプレイテキストを表示することがあります。このような場合には、実行すべき推奨手順があります。いくつかの例が以下の表に示されています。

シンボル	メッセージ	情報/処置	M/A[A]
	ｵｰﾄｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ ｻｰﾋﾞｽが必要です	Start/Stop が機能していません。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。	M + A
	ｵｰﾄｽﾀｰﾄ ｴﾝｼﾞﾝ回転中 + 警告音	エンジンがオートストップした状態およびギヤセレクターレバーが D 位置の状態で運転席ドアを開けると作動します。	A
	ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝを 押して下さい	エンジンはオートスタートしません。通常通り START/STOP ENGINE ボタンで始動してください。	M + A
	ｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙを踏んで 始動して下さい	エンジンはオートスタートの準備が整っており、クラッチペダルが踏み込まれるのを待っています。	M
	ﾌﾞﾚｰｷとｸﾗｯﾁを踏んで 始動して下さい	エンジンはオートスタートの準備が整っており、ブレーキまたはクラッチペダルが踏み込まれるのを待っています。	M
	ｷﾞﾔをﾆｭｰﾄﾗﾙに 入れて始動して下さい	クラッチを解除せずにギヤがかみ合っています。ギヤを解除して、セレクターレバーをニュートラル位置に入れてください。	M

シンボル	メッセージ	情報/処置	M/A[A]
	ﾎﾟｼﾞｼｮﾝをP またはNに入れてから始動して下さい	Start/Stop 機能は解除されています。ギヤセレクターレバーを **N** または **P** 位置にし、**START/STOP ENGINE** ボタンを押して、通常通りにエンジンを始動してください。	A
	ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝを 押して下さい	エンジンはオートスタートしません。**START/STOP ENGINE** ボタンを押し、ギヤセレクターレバーを **P** または **N** 位置にしてエンジンを通常通り始動してください。	A

[A] M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

処置を行ってもメッセージが消えない場合には、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場を推奨します。

関連情報

- Start/Stop* (p. 339)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 340)
- エンジンの始動 (p. 324)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない (p. 344)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする (p. 343)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 342)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 344)
- バッテリー - Start/Stop (p. 432)

* オプション/アクセサリー。

ECO ドライブモード*

ECO はオートマチックトランスミッション車向けの画期的な機能で、燃料消費量を(運転スタイルに応じて)最大 5%削減できます。この機能を使用すると、運転者は環境に優しい運転を一層積極的に行うことができます。

概要

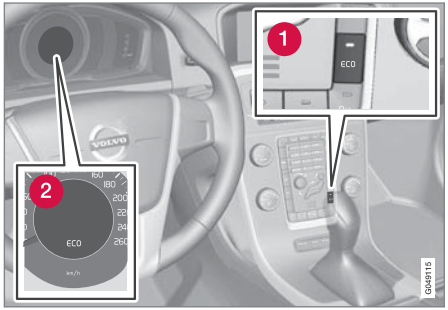
ECO 機能をオンにすると、以下の点に変化が生じます。

- トランスミッションでのシフトポイント
- エンジンマネジメントおよびアクセルペダルのレスポンス
- Start/Stop 機能 - 車両が完全に静止する前にエンジンがオートストップできる。
- Eco Coast 機能がオンになる - エンジンブレーキが解除される。
- エアコンディショナーシステムの設定 - 一部の電力消費機器が解除されるか、または出力制限付き作動する。

注意

ECO 機能をオンにすると、エアコンディショナーシステムの設定のいくつかのパラメーターが変更され、一部の電力消費機器の機能が制限されます。一部の設定は手動でリセットできますが、すべての機能を回復させるには、ECO 機能をオフにする必要があります。

ECO - 操作



1 ECO オン/オフ

2 ECO シンボル

エンジンを切ると、ECO 機能は解除されます。したがって、エンジンの始動後、毎回作動させる必要があります。一部のエンジンは例外ですが、ECO Cruise が作動しているときには、コンバインド・メーター・パネルの **ECO** シンボルと ECO ボタンのランプの点灯で簡単に確認することができます。

ECO 機能オンまたはオフ

ECO 機能が解除されると、コンバインド・メーター・パネルの **ECO** シンボルと ECO ボタンのランプが消灯します。この機能は、ECO ボタンをもう一度押すまでオフのままになります。

Eco Coast - 機能

Eco Coast サブ機能では、エンジンブレーキが解除され、代わりに車両の運動エネルギーを惰性走行に使用して、惰性走行の距離を伸ばします。運転者がアクセルペダルから足を離すと、トランスミッションとエンジンの接続が自動的に切り離され、エンジン回転数は最小限の燃料消費でアイドリング回転数まで低下します。

この機能は、制限速度の低い区間に入るときなど、減速が予想されている状況での使用が想定されています。

Eco Coast は先を見越した運転を可能にし、運転者はいわゆる「Pulse & Glide」技術を用いて、ブレーキの使用を最小限に抑えることができます。

Eco Coast と一時的な ECO 機能解除を組み合わせた場合も、全体として燃料消費量の低減に役立ちます。したがって：

▶▶

- Eco Coast オン:エンジンブレーキ**なし**で長距離の惰性走行 = 低燃料消費

および

- ECO 機能解除:エンジンブレーキ**使用**で短距離の惰性走行 = 最小燃料消費

注意

ただし、最適な低燃費を実現するために、使用距離が短い場合には Eco Coast の使用を避けてください。

Eco Coast の起動

以下の条件が満たされているときに、アクセルペダルから完全に足を離すと、機能が起動します。

- **ECO** ボタンがオン
- ギヤセレクターレバーが **D** 位置
- 速度が約 65-140 km/h (40-87 mph)の範囲内
- 下り坂の場合、勾配が約 6%以下

解除する Eco Coast

状況により、Eco Coast 機能を解除することが望ましい場合があります。例えば、以下のような状況が該当します。

- 急勾配の下り坂 - エンジンブレーキの使用が必要になるため。
- 追い越し操作が迫っている場合 - 可能な限り安全に追い越しを完了できるようにするため。

Eco Coast の解除とエンジンブレーキの使用再開は、以下の手順で行うことができます。

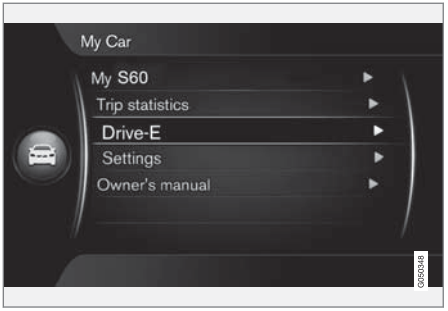
- **ECO** ボタンを押します。
- セレクターレバーをマニュアル「**S+/-**」位置にします。
- ステアリングホイールパドルシフターを使用して、ギヤチェンジを行います。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み込みます。

Eco Coast - 機能の限界

以下の場合、この機能は使用できません。

- クルーズコントロールが作動している
- 下り坂で勾配が約 6%を超えている
- ステアリングホイールパドルシフター*を使用して、マニュアルギヤチェンジを行った
- エンジンとトランスミッションの両方、またはどちらか一方が通常作動温度ではない
- ギヤセレクターレバーを **D**-から「**S+/-**」位置に動かした
- 速度が約 65-140 km/h (40-87 mph)の範囲から外れている

さらに詳しい情報と設定



車両のメニューシステム **MY CAR** には、ECO コンセプトに関する詳細情報が含まれています。MY CAR (p. 154)を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 168)

フットブレーキ

フットブレーキはブレーキシステムの一部です。

安全上の理由により、車両には 2 つのブレーキ回路があります。一方のブレーキ回路が損傷すると、ブレーキペダルのストロークが長くなり、通常よりも強い力でペダルを踏み込まなければ正常な制動効果が得られない状態になります。

ブレーキサーボは、ブレーキペダルの踏力を補助する働きをします。

⚠ 警告

ブレーキサーボは、エンジン作動時にのみ作動します。

エンジンが停止しているときにフットブレーキを使用する場合は、ペダルが重く感じられ、通常よりも強い力でペダルを踏み込む必要があります。

坂道や起伏のある場所に駐車している場合、坂道発進補助装置(HSA)* (p. 337)*機能搭載車両は、ペダルが普段よりもゆっくりと通常の位置に戻ります。

起伏の激しい地域や、重い荷物を積載して走行するときは、エンジンブレーキを使用してください。長い下り坂を走行するときは、上りのときと同じギヤを使用すると、エンジンブレーキをもっとも効率的に活用することができます。

重い荷物を積載した場合についての詳細は、エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 465)を参照してください。

濡れた路面におけるブレーキ作動

大雨の中をブレーキを踏むことなく長時間に渡り走行した場合、その後ブレーキを使用した際にブレーキの効きがわずかに遅れる場合があります。この現象は、洗車後にも起こる場合があります。こういった場合は、強めにブレーキを踏み込む必要があります。このような場合に備え、先行車両との距離は十分にとるようにしてください。

濡れた路面を走行後、および洗車後は、ブレーキをしっかりと踏み込みます。これによりブレーキディスクが温まり、より素早く乾燥し、腐食から保護します。ブレーキをかけるときは、その時々の交通状況を考慮してください。

融雪剤が散布された路面におけるブレーキ作動

融雪剤が散布された路面を走行すると、塩分の層がブレーキディスクとブレーキパッドに形成される場合があります。これにより、制動距離が長くなることがあります。そのため、先行車両との安全距離を通常よりも長くとるようにしてください。また、以下の点についても注意が必要です。

- 何度かブレーキをかけ、塩分の層を取り除きます。ブレーキをかけることにより、他の道路利用者に危険がおよばないようにします。
- 走行を終了する際、および次の走行を開始する前に、ゆっくりとブレーキペダルを踏みます。

メンテナンス

信頼できる安全性能を維持するため、整備手帳・保証書に記載されているボルボメンテナンスサービス間隔に従って、定期点検を行って下さい。

交換したばかりの新品のブレーキパッドおよびブレーキディスクは、数百キロメートル走行して部品が馴染むまでは本来の制動効果を発揮しません。制動効果の不足分を補うために、ブレーキペダルを通常よりも強めに踏み込んでください。ボルボでは、認定されたブレーキライニングの使用を推奨しています。

❗ 重要

ブレーキシステム構成部品の摩耗状況を定期的に点検してください。

手順に関する情報をサービス工場にお問い合わせいただくか、サービス工場に点検を依頼してください。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

シンボルおよびメッセージ

シンボル	意味
	警告灯が点灯したままの場合は、ブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードレベルが低いときは補充し、ブレーキフルードが減った原因を確認してください。
	エンジン始動時に 2 秒間点灯します。これはシステムチェックです。

⚠ 警告

と が両方同時に点灯している場合は、ブレーキシステムに不具合があるおそれがあります。

リザーバータンクのブレーキフルードレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯し続ける場合は、最寄りのボルボ指定のサービス工場まで慎重に走行し、ブレーキシステムの点検を受けてください。

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。

ブレーキフルードが減った原因を確認してください。

関連情報

- パーキングブレーキ（p. 352）
- フットブレーキ – アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯（p. 351）
- フットブレーキ – エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス（p. 351）
- フットブレーキ – アンチロックブレーキシステム（p. 350）

フットブレーキ – アンチロックブレーキシステム

アンチロックブレーキシステム ABS(Anti-lock Braking System)は、ブレーキ時にホイールがロックされるのを防ぎます。

この機能は、操舵が可能な状態を保ち、ハンドル操作で衝突を回避できるようにします。ABS が作動すると、ブレーキペダルに振動が感じられる場合がありますが、これは異常ではありません。

エンジン始動後、ブレーキペダルから足を放したときに、ABS の自己診断機能が短時間作動します。低速走行時に、ABS システムの自動テストがさらに行われることがあります。このテスト中には、ブレーキペダルで振動が感じられることがあります。

関連情報

- フットブレーキ（p. 349）
- パーキングブレーキ（p. 352）
- フットブレーキ – アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯（p. 351）
- フットブレーキ – エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス（p. 351）

フットブレーキ – アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯

アダプティブブレーキランプは、急ブレーキをかけた際、後続車にそれを知らせて注意を促すためのものです。このライトは通常のブレーキランプ(点灯)と異なり、点滅を繰り返します。

アダプティブブレーキランプは、50 km/h (31 mph)を超える速度で走行中に急ブレーキをかけたときに作動します。車両が 10 km/h (6 mph)未満に減速すると、ブレーキランプが点滅から通常の点灯に戻ります。同時に車両の非常点滅灯(p. 138)が作動します。非常点滅灯は、運転者が加速し再び車両速度が上がるまで、またはスイッチをオフにするまで点滅します。

関連情報

- フットブレーキ (p. 349)
- パーキングブレーキ (p. 352)
- フットブレーキ – エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 351)
- フットブレーキ – アンチロックブレーキシステム (p. 350)

フットブレーキ – エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス

エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス EBA(Emergency Brake Assist)は、ブレーキ力を強めて制動距離を縮めます。

EBA は、運転者のブレーキ操作の傾向を感知して必要に応じてブレーキ力を強めます。ブレーキ圧力は、ABS システムが作動するレベルまで増大します。EBA 機能は、ブレーキペダルの踏力が弱まると一時停止します。

> **注意**
>
> EBA 機能が作動し、フルブレーキ効果を発揮している間は、ブレーキペダルが通常よりも少し奥に入りますが、ブレーキペダルは離さずに踏み続けてください。ブレーキペダルを離すと、ブレーキの作動が止まります。

関連情報

- フットブレーキ (p. 349)
- パーキングブレーキ (p. 352)
- フットブレーキ – アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 351)
- フットブレーキ – アンチロックブレーキシステム (p. 350)

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは、ホイール 2 輪を機械的にロック/ブロックして、静止状態の車両が動き出すことを防止します。

機能

エレクトリックパーキングブレーキが作動すると、電動モーターの音がかすかに聞こえる場合があります。この音は、パーキングブレーキの自動機能点検のときにも聞こえる場合があります。

パーキングブレーキは、車両が停止しているときは後輪のみに作動します。パーキングブレーキを車両が動いているときに作動させると、通常のフットブレーキと同様に 4 輪に作動します。車両がほぼ停止した時点で後輪のみの作動に変わります。

バッテリー電圧低下

バッテリー電圧が低下すると、パーキングブレーキの作動や解除ができなくなります。バッテリー電圧が低すぎる場合は、他車などのバッテリーを接続してください。別のバッテリーによるジャンプスタート （p. 329）を参照してください。

パーキングブレーキの作動

パーキングブレーキコントロール作動

1. フットブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
2. パーキングブレーキコントロールを押します。
   › コンバインド・メーター・パネルのシンボル Ⓟ が点滅し始めます。シンボルが点灯したままの状態になるとパーキングブレーキが作動しています。
3. フットブレーキペダルをゆるめて、車両が静止したままであることを確認します。

駐車時はつねに、1 速ギヤをかみ合わせておく（マニュアルトランスミッション）か、またはギヤセレクターレバーを **P** 位置（オートマチックトランスミッション）に入れます。

エマージェンシーブレーキ

緊急時には、パーキングブレーキコントロールを押さえ続けると、車両が動いている状態でパーキングブレーキをかけることができます。コントロールから手を離すと、ブレーキ動作は停止します。

注意

高速時にはエマージェンシーブレーキが作動している間、確認音が鳴ります。

坂道での駐車

上り坂で駐車する場合：

- ステアリングホイールを**車道側**に若干回します。

下り坂で駐車する場合：

- ステアリングホイールを**歩道側**に若干回します。

警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキを使用してください。状況によっては、ギヤ（オートマチックトランスミッション車の場合は **P**）に入れておくだけでは、不十分な場合があります。

パーキングブレーキの解除

パーキングブレーキコントロール解除

マニュアルトランスミッション車

手動解除

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます[14]。
2. フットブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
3. パーキングブレーキコントロールを押します。
   > パーキングブレーキが解除され、コンバインド・メーター・パネルのシンボル Ⓟ が消灯します。

> **注意**
>
> パーキングブレーキは、ブレーキペダルの代わりにクラッチペダルを踏み込み、手動解除することもできます。ボルボは、ブレーキペダルの使用をお薦めします。

自動解除

1. エンジンを始動します。
2. 1 速ギヤまたはリバースギヤに入れます。
3. クラッチをゆるめて、アクセルペダルを踏み込みます。
   > パーキングブレーキが解除され、コンバインド・メーター・パネルのシンボル Ⓟ が消灯します。

オートマチックトランスミッション車

手動解除

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます[14]。
2. フットブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
3. コントロールを引きます。
   > パーキングブレーキが解除され、コンバインド・メーター・パネルのシンボル Ⓟ が消灯します。

自動解除

1. シートベルトを着用します。
2. エンジンを始動します。
3. フットブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
4. ギヤセレクターレバーを **D** または **R** 位置に動かして、アクセルペダルを踏み込みます。
   > パーキングブレーキが解除され、コンバインド・メーター・パネルのシンボル Ⓟ が消灯します。

> **注意**
>
> 安全のため、エンジンが回転していて運転者がシートベルトを着用しているときにのみ、パーキングブレーキが自動解除されます。オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセレクターレバーが **D** または **R** 位置のときにアクセルペダルを踏み込むと、ただちにパーキングブレーキが解除されます。

上り坂で重い荷物を積載しているとき

車に大きな負荷がかかっているとき(重い荷物を積載しているときや、トレーラーけん引時など)に、傾斜の急な上り坂でパーキングブレーキを自動解除すると、車が後方に下がるおそれがあります。これを防ぐため、パーキングブレー

[14] キーレス始動およびロックシステム装備車の場合：**START/STOP ENGINE** を押します。

キコントロールを保持してください。エンジンが十分な駆動力を得たら、コントロールを放してください。

ブレーキライニングの交換

エレクトリックパーキングブレーキの構造上、リアブレーキライニングは必ずボルボ指定のサービス工場で交換してください。

シンボルおよびメッセージ

コンバインド・メーター・パネルのディスプレイテキストの表示、削除については、メッセージ – 取り扱い (p. 154)を参照してください。

シンボル	メッセージ	意味/対処
(P)!	″メッセージ″	• コンバインド・メーター・パネルのメッセージを読みます。
Ⓟ		パーキングブレーキが作動するまでの間、メーター・パネルのシンボルが点滅します。 それ以外で、このシンボルが点滅するときは、不具合が発生しています。 • コンバインド・メーター・パネルのメッセージを読みます。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ 解除が不十分です	不具合が発生したため、パーキングブレーキが解除されません。 • ブレーキの作動と解除を試みてください。 何回か試行しても、不具合が解決されない場合： • ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。 注意：このエラーメッセージが表示されているときに走行を続けると、警告音が鳴ります。

シンボル	メッセージ	意味/対処
	パーキングブレーキが掛かっていません	不具合が発生したため、パーキングブレーキが作動しません。 ● ブレーキの作動と解除を試みてください。 何回か試行しても、不具合が解決されない場合： ● ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。 このメッセージは、マニュアルトランスミッション車でいずれかのドアを開けたまま低速走行した場合にも、表示されます。運転者に、パーキングブレーキが誤って解除されているおそれがあることを知らせます。
	パーキングブレーキ サービスが必要です	不具合が発生しています。 ● ブレーキの作動と解除を試みてください。 何回か試行しても、不具合が解決されない場合： ● ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

不具合が解消される前に駐車しなければならない場合は、坂道での駐車と同様にステアリングホイールを回して、セレクターレバーを 1 速に入れてください(マニュアルトランスミッション車の場合)。あるいは、ギヤセレクターレバーを P 位置に入れてください(オートマチックトランスミッション車の場合)。

ディスプレイテキストは、方向指示器レバーの OK ボタンを押して、確認できます。

関連情報

- フットブレーキ（p. 349）

水たまりでの運転

水たまりでの運転とは、冠水した道路上の深い水たまりを通る走行を意味します。その際は、十分な注意が必要です。

水深が 25 cm 以下(V60 Cross Country は 30 cm 以下)の場合は、歩行速度未満で走行することが可能です。水の流れがある場合は、十分に注意して走行してください。

水たまりを走行するときは、低速を維持し、車両を停止させないでください。水たまり通過後、ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキライニングが濡れたり泥が付着すると、ブレーキが効くまでの時間が長くなるおそれがあります。

- 水たまりなどを走行した後は、必要に応じてエレクトリックヒーターおよびトレーラーカップリングのコネクターを清掃してください。
- ドアシルに届くほどの深い水たまりに、長い間停車しないでください。電気装置の故障の原因となるおそれがあります。

重要

エアフィルターに水が入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

深さが 25 cm(V60 Cross Country の場合は 30 cm)を超えると、水がトランスミッションに侵入するおそれがあります。システム内のフルードを混濁させて、システムの耐用年数が短くなるおそれがあります。

コンポーネント、エンジン、トランスミッション、ターボチャージャー、ディファレンシャル、またはその内部コンポーネントが洪水、静水ロック、またはオイル不足により損傷した場合、保証は適用されません。

深い水溜りの中でストールしたときは、エンジンを再始動しないでください。車両をけん引して、水溜りから外に出して、ボルボ指定のサービス工場に搬送してください。エンジン故障の危険があります。

関連情報

- 車両移動 (p. 376)
- けん引 (p. 374)

オーバーヒート

起伏の激しい地域や気温が高いときなど特殊な条件では、エンジンやドライブシステムがオーバーヒートする場合があります。特に重い荷物を積載しているときは、ご注意ください。

トレーラーけん引時にオーバーヒートが発生した場合の情報は、 トレーラーなどのけん引* (p. 366)を参照してください。

- 気温の高い状況下で走行するときは、グリルの前に補助ライトなどを取り付けないでください。
- エンジンのクーリングシステムの温度が異常に高くなると、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告灯が点灯して、ディスプレイテキスト **ｴﾝｼﾞﾝ高温 安全に停車して下さい** が表示されます。安全な場所に停車して、エンジンを数分間アイドリングさせて温度を下げてください。
- ディスプレイテキスト**ｴﾝｼﾞﾝ高温 ｴﾝｼﾞﾝを停止して下さい**または**ｸｰﾗﾝﾄﾚﾍﾞﾙ低下 安全に停車して下さい**が表示された場合は、停車してエンジンを止めてください。
- トランスミッションが過熱した場合は、内蔵の保護機能が作動し、コンバインド・メーター・パネルの警告灯が点灯し、ディスプレイにディスプレイテキスト **ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ高温 減速して下さい** または **ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ高温 安全に停車し 冷却するまで待機** が表示され

＊ オプション/アクセサリー。

ます。表示された指示に従って減速し、安全な場所に停車して、エンジンを数分間アイドリングさせて、トランスミッションの温度を下げてください。

- 車両がオーバーヒートすると、冷暖房が一時的に停止する場合があります。
- 長時間過酷な条件下で走行した後は、停車直後にエンジンを停止しないでください。

注意

エンジン停止後も、エンジンクーリングファンがしばらく回転を続ける場合がありますが、これは異常ではありません。

テールゲート/トランクリッドを開けたままでの走行

テールゲートを開けたまま走行する際に、有害な排気ガスがカーゴスペースから車内へ入ることがあります。

警告

テールゲートを開けたまま、走行しないでください。テールゲート開口部から、有害な排気ガスを車内に引き込んでしまうおそれがあります。

関連情報

- 荷物の積み込み（p. 196）

過負荷 – メインバッテリー

車内のさまざまな電気機器により、メインバッテリー(p. 428)にさまざまな負荷が加わります。車両がオフの状態で キー位置 II (p. 119) を使用することは避けるようにしてください。代わりに、I 位置を使用すると、電力の消費を抑えることができます。

電気系統に負担をかけるような、各種アクセサリーにも注意してください。車両がオフのときは、電力を大量に消費するような機能を使用しないでください。そのような機能の例は：

- ベンチレーションファン
- ヘッドライト
- ウインドスクリーンワイパー
- オーディオシステム(大音量)

メインバッテリー電圧が低下すると、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに **ﾊﾞｯﾃﾘｰ電圧低下 ﾊﾟﾜｰｾｰﾌﾞﾓｰﾄﾞ** のメッセージが表示されます。バッテリーの負担を軽減するために節電機能が働いて、ベンチレーションファンやオーディオシステムなど、一部の機能を解除または制限します。

– この場合には、車両を始動し、走行するなど、エンジンを最低 15 分回転させたままにして、バッテリーを充電してください。メインバッテリーは、車両が静止したままエンジンをアイドリングさせるよりも、走行時の方が効率よく充電できます。

長距離走行の前に

長距離走行の前には、以下の点検を行いましょう。

- エンジンの作動状態や燃料消費量(p. 473)が正常であるか、確認してください。
- 燃料、オイル、その他のフルードなどが漏れていないか確認してください。
- すべてのバルブ(電球)の機能、およびタイヤのトレッドの深さを点検してください。
- 一部の国では、三角警告板(停止表示板)(p. 389)の装備が法律により義務付けられています。

関連情報

- エンジンオイル – 点検および補充 (p. 410)
- タイヤの交換 – タイヤを取り外す (p. 385)
- ランプ交換 – 概要 (p. 417)

冬季の運転

冬季の運転では、安全に走行するためいくつかの点検を行うことが重要です。

冷寒時は、特に次の点に注意してください:

- グリコールを 50%含むエンジンクーラント(p. 414)を必ず使用してください。このクーラントは約 -35 ℃までエンジンを凍結から保護します。健康を害する危険を避けるため、異なる種類のクーラントを混合しないでください。
- 凝結水が発生しないように、燃料タンクを満タンにしてください。
- エンジンオイルの粘度は非常に重要です。粘度の低いオイル(やわらかいオイル)を使用すると冷寒時にエンジンが始動しやすくなり、またエンジンが暖機されるまでの燃料消費量が低減されます。適切なオイルについての詳細は、エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 465)を参照してください。

重要

過酷な条件下で走行するときや、気温が高いときは、粘度の低いオイルは絶対に使用しないでください。

- メインバッテリーの状態および充電レベルを必ず点検してください。冷寒時はメインバッテリーに大きな負担がかかり、容量が低下します。
- リザーバータンクの凍結を防ぐため、不凍性のウォッシャー液(p. 427)を使用してください。

降雪や路面凍結のおそれがあるときは、ロードホールディングを最適化するため、ボルボ社では全輪へのウインタータイヤの装着をお薦めします。

注意

一部の国では、ウインタータイヤの使用が法律によって義務付けられています。一部の国では、スタッドタイヤの使用が禁止されています。

スリップしやすい路面での運転

スリップしやすい路面での運転を体験してください。安全で、なおかつスリップしやすい場所を選んで運転し、車両がどのような動きをするか体験してください。

関連情報

- 冬季の運転 (p. 358)

燃料給油口フラップ – 開閉

燃料給油口フラップは次のように開閉します。

燃料給油口フラップの開閉

ライティングパネルのボタンを押すと、燃料給油口フラップが開きます。

コンバインド・メーター・パネルのディスプレイのシンボル内の矢印は、車両のどちら側にフューエルキャップがあるかを示しています。

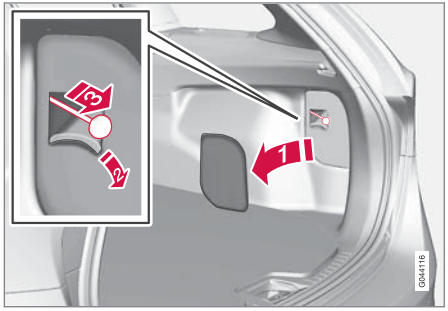
- 燃料給油口フラップは、カチッと音が聞こえるまで押して閉めてください。

関連情報

- 適切な給油方法（p. 360）

燃料給油口フラップ – 手動

燃料給油口フラップが車内のスイッチで開かない場合は、手動で開けることができます。



1. カーゴスペースのサイドハッチを開き、取り外します(燃料給油口フラップと同じ側)。
2. シール材の穴があいた部分を開けひろげ、ハンドルの付いた緑色のコードを見つけてください。
3. カチッという音がして燃料給油口フラップが開くまで、コードをまっすぐ後方に引きます。

重要

ワイヤーは丁寧に引いてください。ハッチロックを解除するのに、ほとんど力は要りません。

関連情報

- 適切な給油方法（p. 360）

適切な給油方法

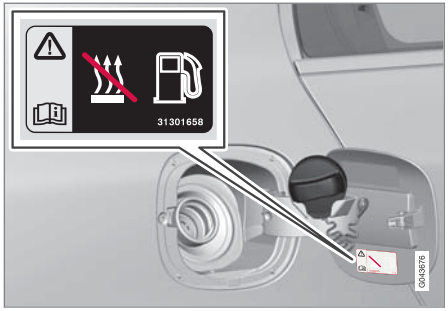
燃料補給時の重要な注意事項

重要

- ディーゼルエンジン搭載車にディーゼル以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- ガソリンエンジン搭載車にガソリン以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- 指定グレードの燃料を使用してください。

誤った燃料を少量でも使用すると、燃料系統やエンジンが損傷するおそれがあります。

フューエルキャップの開閉



燃料フィラーキャップはフラップに引っかけることができます。

外気温が高いときは、燃料タンク内の圧力が上がっている場合があります。キャップはゆっくり回して開けてください。

- 給油が完了したら、フューエルキャップを元に戻して、カチッカチッと音が数回聞こえるまで回して締めてください。

適切な給油方法

1. 車両への使用が承認されている燃料を使用してください。

   承認されている燃料の詳細については、ガソリン(p. 362)およびディーゼル(p. 362)のそれぞれの項を参照してください。

2. 燃料タンクに燃料を入れ過ぎないようにご注意ください。給油機が最初に自動停止した時点で、給油をやめてください。

注意

過度に給油すると、気温の高いときはタンク内の燃料が膨張して漏れ出すおそれがあります。

燃料容器での給油 [15]

燃料容器を使用して補給する場合、トランクルーム/カーゴスペース内のフロアハッチの下にある漏斗を使用してください。

漏斗をフィラーパイプにしっかりと差し込んでください。フィラーパイプには開閉式のカバーが付いています。漏斗のパイプをカバーの奥まで入れてから給油を開始してください。

関連情報

- 燃料給油口フラップ – 手動 (p. 359)
- 燃料 – 取り扱い (p. 361)

15 ディーゼルエンジン搭載車のみに適用されます。

燃料 – 取り扱い

エンジン出力が低下したり燃費が悪化するおそれがありますので、ボルボ社が指定するグレードに満たない燃料は使用しないでください。

⚠ 警告

燃料の微粒子を吸い込んだり、燃料の飛沫が目に入らないように、注意してください。

万が一、燃料の飛沫が目に入った場合、コンタクトレンズを使用している際はコンタクトレンズを取り出して、十分な流水で最低 15 分間目を濯いだ後、医師による診察を受けてください。

燃料は絶対に誤飲しないでください。ガソリン、バイオエタノール、これらの混合物およびディーゼル燃料は毒性が非常に強く、飲み込んだ場合、永久的な障害、あるいは死にいたるおそれがあります。万が一、燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

地面にこぼれた燃料が、引火するおそれがあります。

燃料を補給する前に、フューエルドリブンヒーターのスイッチを必ずオフにしてください。(該当車両)

絶対に電源の入った携帯電話を携帯して燃料を補給しないでください。受発信の際の微弱な電流から出る火花により燃料蒸気に引火して、火災やヤケドを負うおそれがあります。

重要

異なるタイプの燃料を混合した場合や、推奨されていない燃料を使用した場合には、ボルボの保証およびその他のサービス契約はすべて無効になります。これは、どのエンジンにも当てはまります。

注意

悪天候、トレーラーをけん引しながらあるいは標高の高い地域での走行、不適切な燃料の使用などが組み合わさると、車両が本来の性能を発揮できない場合があります。

関連情報

- 燃料 – ディーゼル (p. 362)
- ディーゼル微粒子除去フィルター(DPF) (p. 364)
- 燃料消費量および CO2 排出量 (p. 473)
- 燃料タンク – 容量 (p. 471)

燃料 – ガソリン

ガソリンはガソリンエンジン搭載車用のエンジン燃料です。

大手メーカーのガソリンのみを使用してください。品質が疑われるような燃料は、絶対に使用しないでください。ガソリンは、EN 228 または JIS K 2202 規格に適合している必要があります。

重要

- エタノール含有量が体積パーセントで10%以下の燃料が使用できます。
- JIS K2202 E3、JIS K2202 E10 および EN 228 E10 ガソリン(体積パーセントで10%以下のエタノール混合)は使用が許可されています。
- エタノールの混合率が E10(体積パーセントで 10%以下のエタノール混合)よりも高い燃料(例：E85)は使用が禁止されています。

オクタン価

- 通常の走行条件では、95 RON 以上のガソリンを使用することができます。
- 性能を最適化し、燃料消費量を低減するため、98 RON の使用をお薦めします。

外気温が+38 ℃以上の天候下で走行する場合は、性能を最適化して燃費をよくするため、できるだけ高いオクタン価のガソリンを使用してください。

重要

- 触媒コンバーターが損なわれないよう、必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- 金属添加物の含まれている燃料は使用しないでください。
- ボルボ社が推奨していない燃料添加剤は一切使用しないでください。

関連情報

- 燃料 – 取り扱い (p. 361)
- 経済走行 (p. 365)
- 燃料消費量および CO2 排出量 (p. 473)
- 燃料タンク – 容量 (p. 471)

燃料 – ディーゼル

ディーゼルはディーゼルエンジン搭載車用のエンジン燃料です。

大手メーカーのディーゼル燃料のみを使用してください。品質が疑われるような燃料は、絶対に使用しないでください。EN 590、SS 155435、または JIS K 2204 規格に適合しているディーゼル燃料のみ使用してください。ディーゼルエンジンは、燃料の汚染(過剰な量の硫黄や金属など)に敏感です。

寒冷時(0 ℃未満)は、ディーゼル燃料の中にパラフィンが析出して、着火不良の原因となることがあります。販売されている燃料の品質は季節および気候帯により調整されていますが、極端な気象条件や古い燃料、異なる気候帯の移動が原因でパラフィンが析出することがあります。

タンク内の燃料の量が多ければ、凝結水の発生が防止できます。給油時はフューエルフィラーパイプの周囲が汚れていないか点検してください。塗装面に燃料をこぼさないように注意してください。塗装面にこぼれた燃料は、洗剤と水を使用して洗い流してください。

重要

ディーゼル燃料の条件：

- EN 590、SS 155435 または JIS K 2204 規格に適合している
- 硫黄含有量が 10 mg/kg 以下である
- FAME[16] (B7)が 7 vol %以下である

重要

次のようなディーゼル燃料は、絶対に使用しないでください：

- 特殊な燃料添加剤
- 船舶用ディーゼル燃料
- 暖房用の油
- FAME[17] および植物油

これらの燃料はボルボ社の推奨基準に達しておらず、摩耗を早め、エンジンが損傷する原因になります。不正な燃料を使用したことが原因で発生した損傷には、ボルボ社の保証は適用されません。

燃料切れ

燃料切れでエンジンがストールした場合には、燃料システムを点検する必要があります。燃料タンクに軽油を満たした後、エンジンを再始動する前に、これを実行してください。

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し､エンドポジションまで押し込みます。詳しくは、キー位置 (p. 119)を参照してください。
2. ブレーキやクラッチペダルを**踏み込まずに START** ボタンを押してください。
3. 約 1 分間待ちます。
4. エンジンを始動します。ブレーキとクラッチペダルの両方､またはどちらか一方を踏み込み、もう一度 **START** ボタンを押します。

注意

燃料が切れて、燃料を補給する前に：

- できる限り平坦な地面に停車してください。車両が傾いていると、燃料供給部分にエアポケットができる可能性が高くなります。

フューエルフィルターのドレーン(凝結水を排出させる)[18]

フューエルフィルターは、燃料から凝結水を分離します。凝結水は、エンジンの不具合の原因となることがあります。

最適な性能を維持するために、指定のサービス間隔に従ってフューエルフィルターを交換することと、この用途向けに開発された純正パーツを使用することが重要です。

メンテナンスノート(整備手帳)に指定されている間隔に従って、フューエルフィルターから凝結水を排出してください。また燃料タンクに不純な燃料が補給されたおそれがある場合も、フューエルフィルターから排出してください。詳しくは、ボルボサービスプログラム (p. 402)を参照してください。

重要

フューエルフィルター内の水を除去する働きをする特殊添加剤もあります。

関連情報

- 燃料 – 取り扱い (p. 361)
- ディーゼル微粒子除去フィルター(DPF) (p. 364)
- 燃料消費量および CO2 排出量 (p. 473)

16 脂肪酸メチルエステル
17 FAME (B7)が 7 vol %以下のディーゼル燃料を使用できます。
18 5 気筒エンジンのみに適用。

ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF)

ディーゼルエンジン搭載車は、より効率のよいエミッションコントロールのため、ディーゼル微粒子除去フィルターが装着されています。

通常の走行時、排気ガス中の粒子状物質はフィルターに集められます。いわゆる「再生」が開始されると、フィルターに吸着した微粒子が燃焼され、フィルターが空になります。再生を開始するためには、エンジンが通常の作動温度に達している必要があります。

ディーゼル微粒子除去フィルターの再生は自動で行われ、通常 10～20 分かかります。平均速度が低い場合、再生時間が多少長くなる場合があります。再生中は、燃料消費量が若干増える場合があります。

冷寒時の再生

低温時に短距離を頻繁に運転する場合には、エンジンは通常の作動温度に到達しません。このため、ディーゼル微粒子除去フィルターの再生が実行されず、フィルターは空になりません。

フィルターの約 80%まで微粒子が詰まると、コンバインド・メーター・パネルに黄色の三角警告灯が点灯し、インフォメーション・ディスプレイに **ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ微粒子ﾌｨﾙﾀｰが 一杯です。ﾏﾆｭｱﾙを 参照して下さい** のメッセージが表示されます。

エンジンが暖機されるまで(可能であれば高速道路や主要幹線で)走行して、フィルターの再生を開始させます。約 20 分以上、走行を続けてください。

注意

再生中は、以下のような状況が発生する場合があります。

- 一時的にエンジン出力のわずかな減少が感じられる
- 燃費が一時的に上昇する
- 焦げたような臭いがする

再生が完了すると、警告メッセージは自動的に消えます。

冷寒時にパーキングヒーター*を使用すると、エンジンをより早く正常な作動温度にすることができます。

重要

フィルターに微粒子が詰まると、エンジンの始動が困難になる場合や、フィルターが機能しなくなる場合があります。この結果、フィルターの交換が必要になる場合があります。

関連情報

- 燃料 – 取り扱い（p. 361）
- 燃料 – ディーゼル（p. 362）
- 燃料消費量および CO2 排出量（p. 473）
- 燃料タンク – 容量（p. 471）

＊ オプション/アクセサリー。

触媒コンバーター

触媒コンバーターは、排気ガスを浄化する働きがあります。短時間で作動温度に達するように、エンジンの近くの排気系統に装着されています。

触媒コンバーターは、モノリスタイプ(セラミックまたは金属製)です。表面に金属(白金、ロジウムおよびパラジウム)が吸着されており、これらの金属が触媒として作用し、排気ガス中の有害物質の化学反応(酸化・還元)を促進します。

ラムダソンド™ ヒーター付き酸素センサー

ラムダソンドは有害な排気ガスを低減し、燃焼効率を向上させるためのエンジンコントロールシステムの一部です。詳しくは、燃料消費量および CO2 排出量 (p. 473)を参照してください。

酸素センサーが排気ガスに含まれる酸素の濃度を絶えずモニターします。その結果をエンジンの燃料噴射をコントロールする電子装置に送ります。空燃比は継続的に調節されます。調節機能は、効率のよい燃焼のために最適な条件を生み出すだけでなく、三元触媒コンバーターと共に、有害物質(炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物)の排出量を低減する働きをします。

関連情報

- 燃料 – ガソリン (p. 362)
- 燃料 – ディーゼル (p. 362)

経済走行

先を予測して、運転スタイルと速度をその時々の交通状況に合わせながらスムーズに運転することで、環境に優しい、経済的な走行をすることができます。

- ECO Guide* を使用してください。車両がどれくらい効率的に運転されているかを確認できます。Eco guide および Power guide* (p. 106)を参照してください。
- 燃料消費量をさらに低く抑えるために、ECO ドライブモード[19] をオンにしてください。
- Eco Coast[20] フリーホイール機能を使用してください。エンジンブレーキが解除され、車両の運動エネルギーを使用して、惰性走行の距離を伸ばすことができます。
- 走行条件に合わせ、できるだけ高いギヤで走行してください。エンジン回転が低ければ、燃料消費も小さくなります。ギヤインジケーター(p. 332)[21] を使用してください。
- 一定の速度で走行し、他の車両や障害物との間に十分な距離を確保して、ブレーキ操作を最小限に抑えてください。
- 高速走行では、燃料消費量が増加します。速度が速くなると、空気抵抗が大きくなります。
- エンジンが暖機されるまでアイドリングを続けるより、始動後すみやかに発進し、通常の負荷で運転してください。エンジンは、冷えているときの方が暖まっているときよりも多くの燃料を消費します。
- 正しいタイヤ空気圧で走行し、空気圧は定期的に点検してください。 最適な効果を得るために、ECO タイヤプレッシャーを選択してください。タイヤ – 承認された空気圧 (p. 474)を参照してください。

- 使用するタイヤにより、燃費が変わります。適切なタイヤに関する情報は、ディーラーにお問い合わせください。
- 冬季以外は、ウインタータイヤを使用しないでください。
- 不必要な荷物は車から取り出してください。荷物が多いほど、燃料消費も多くなります。
- 他の道路使用者に支障を与えない場合は、エンジンブレーキを有効に使用して減速してください。
- ルーフ上にスペースボックスや荷物などを載せて走行すると、風の抵抗が大きくなり、燃料消費量が増加します。使用していないロードキャリアは取り外してください。
- 不必要に、パワーウインドを開けて走行しないでください。

ボルボ・カー・コーポレーションの環境フィロソフィーについては、環境理念（p. 25）を参照してください。

燃料消費量については、燃料消費量および CO2 排出量（p. 473）を参照してください。

⚠ 警告

下り坂走行時などであっても、車が動いている間はけっしてエンジンを停止しないでください。パワーステアリングやブレーキサーボといった重要なシステムが作動しなくなります。

関連情報

- 燃料 – 取り扱い（p. 361）
- 燃料消費量および CO2 排出量（p. 473）
- 燃料タンク – 容量（p. 471）

トレーラーなどのけん引*

トレーラーを使用した走行では、トーイングブラケットやトレーラー、トレーラー内の荷物の配置など、考慮すべき重要なポイントがいくつかあります。

最大許容重量は、車両重量により異なります。乗員およびトウバーなど車両に装着されているアクセサリーの総重量の分だけ、最大許容重量が小さくなります。詳しくは、重量（p. 461）を参照してください。

ボルボ指定のサービス工場でトーイングブラケットを取り付けた場合は、トレーラーけん引に必要な装備が整っています。

- 認定されたタイプのトーイングブラケットをご使用ください。
- トウバーを後付けする場合は、トレーラーけん引のために必要な装備が整っているか、ボルボ指定のディーラーで確認してください。
- トウボールにかかる荷重が最大荷重を超えないように、トレーラー内の重量を配分してください。
- タイヤの空気圧は、定員乗車時の推奨空気圧に調節してください。タイヤ空気圧については、タイヤ – 承認された空気圧（p. 474）を参照してください。

19 オートマチックトランスミッション車に適用されます。
20 「ECO ドライブモード」を参照してください。
21 マニュアルトランスミッション車に適用されます。

- トレーラーなどのけん引時は、エンジンに通常の場合よりも大きい負担がかかります。
- 新車時は、重いトレーラーなどのけん引をひかえてください。少なくとも 1,000 km 走行するまで、お待ちください。
- 長い急な下り坂では、ブレーキに通常よりも大きな負担がかかります。シフトダウンして、速度を調節してください。
- 安全のため、トレーラーけん引中の車両用の速度制限を上回らないようにしてください。速度と重量に関する規則を厳守してください。
- トレーラーをけん引して勾配の急な長い坂道を上るときは、低速で走行してください。
- 道路の勾配が 12%を超える場合は、トレーラーなどのけん引を行わないでください。

トレーラーケーブル

車両のトーイングブラケットのコネクターが 13 ピンコネクターで、トレーラーのコネクターが 7 ピンコネクターの場合は、アダプターが必要です。ボルボ社が認可したアダプターを使用してください。ケーブルが地面に触れていないことを確認してください。

トレーラーの方向指示器とブレーキランプ

トレーラーの方向指示器が故障している場合は、コンバインド・メーター・パネル内の方向指示器が通常より速く点滅し、インフォメーション・ディスプレイにテキスト **ﾄﾚｰﾗｰｳｲﾝｶｰ故障** が表示されます。

トレーラーのブレーキランプのいずれかに不具合が生じると、**ﾄﾚｰﾗｰｽﾄｯﾌﾟﾗﾝﾌﾟ故障** というテキストが表示されます。

オートレベライザー*

車両の搭載重量に関係なく(ただし、最大許容重量以下)、リアショックアブソーバーが一定の高さに維持します。停車時は、リアサスペンションが少し下がりますが、これは異常ではありません。

トレーラーの重量

ボルボ社の最大許容トレーラー重量については、けん引重量およびトウボール荷重 (p. 462)を参照してください。

注意

このマニュアルに記載されたトレーラーの最大許容重量は、ボルボ社が指定した重量です。各国の法律によって、トレーラーの最大許容重量やトレーラーけん引時の最高速度が厳しく制限されている場合があります。トウバーによっては、車両が実際にけん引できる重量よりも大きい最大許容荷重が認定されているものもあります。

警告

けん引に関する重量の注意事項を厳守してください。緊急回避操作や急ブレーキ時に、車両が操縦不能となるおそれがあります。

関連情報

- トレーラーなどのけん引* – マニュアルトランスミッション (p. 368)
- トレーラーなどのけん引* – オートマチックトランスミッション (p. 368)
- トーイングブラケット/トウバー* (p. 369)
- ランプ交換 – 概要 (p. 417)

トレーラーなどのけん引* – マニュアルトランスミッション

起伏の激しい地域や気温が高いときにトレーラーをけん引して走行すると、車両がオーバーヒートするおそれがあります。

オーバーヒート

起伏の激しい地域や気温が高いときにトレーラーをけん引して走行すると、車両がオーバーヒートするおそれがあります。

- エンジン回転速度が 4,500 rpm (ディーゼルエンジンでは 3,500 rpm)を超えない範囲で走行してください。エンジンオイルの温度が異常に高くなるおそれがあります。

関連情報

- トレーラーなどのけん引* (p. 366)

トレーラーなどのけん引* – オートマチックトランスミッション

起伏の激しい地域や気温が高いときにトレーラーをけん引して走行すると、車両がオーバーヒートするおそれがあります。

- オートマチックトランスミッションは、負荷とエンジン回転速度に合った適切なギヤを選択します。
- オーバーヒートが発生した場合は、警告灯がコンバインド・メーター・パネル内に点灯し、インフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。表示された指示に従ってください。

急勾配の坂

- オートマチックトランスミッションをエンジンに無理な負担がかかるような高いギヤに選択しないでください。つねに高いギヤでエンジン回転速度を低めに保つことがよいとは限りません。

坂道での駐車

1. フットブレーキを踏みます。
2. パーキングブレーキをかけます。
3. ギヤセレクターレバーを **P** 位置に入れます。
4. フットブレーキを離します。

- トレーラーなどをけん引して駐車するときは、ギヤセレクターレバーを **P** 位置に入れてください。必ずパーキングブレーキをかけてください。
- トレーラーを接続した状態でやむをえず坂道に駐車する場合は、必ず輪止めを使用してください。

坂道発進

1. フットブレーキを踏みます。
2. ギヤセレクターレバードライブポジション **D** に入れます。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. フットブレーキを離し、走行を始めてください。

関連情報

- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 332)

トーイングブラケット/トウバー*

トーイングブラケットは車両にトレーラーを連結して走行できるようにするためのものです。

脱着式トウバー装着車では、着脱セクションの取り付け指示に慎重に従ってください。脱着式トウバー* – 取り付け/取り外し（p. 371）を参照してください。

⚠ 警告

ボルボ純正脱着式トウバー装着車の場合：

- 指示に従って慎重に取り付けてください。
- 走行前に、脱着式セクションを必ずキーでロックしてください。
- インジケーターウィンドウが緑になっていることを確認してください。

重要な点検

- トウバーのトウボールはつねに清掃し、定期的にグリースを塗ってください。

ⓘ 注意

振動ダンパー付きのヒッチを使用する際には、トウボールは絶対にグリースを塗らないでください。

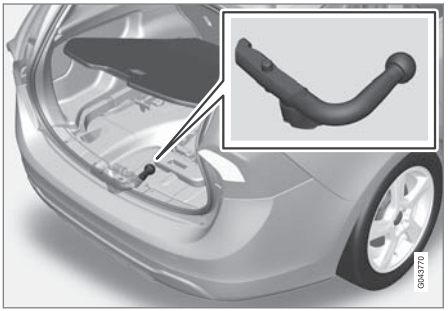
トウボールにクランプ固定するタイプのサイクルキャリアを取り付ける場合も同様です。

関連情報

- トレーラーなどのけん引*（p. 366）

脱着式トウバー* – 保管

脱着式トウバーはカーゴスペースに保管してください。



トウバーの収納スペース

❗ 重要

トウバーは、使用後に必ず取り外して車両の所定位置に保管してください。

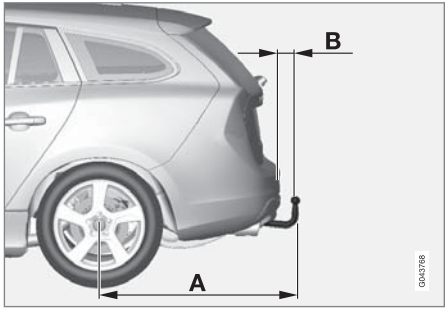
関連情報

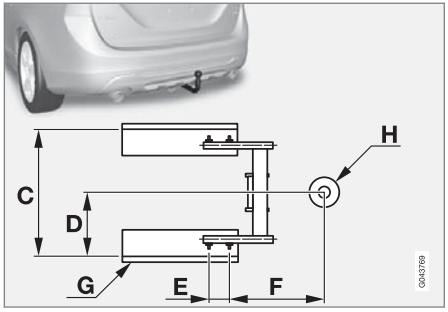
- 脱着式トウバー* – 仕様（p. 370）
- 脱着式トウバー* – 取り付け/取り外し（p. 371）
- トレーラーなどのけん引*（p. 366）

脱着式トウバー* – 仕様

脱着式トウバーの仕様

仕様





マウンティングポイントの寸法(mm)	
A	998
B	81
C	854
D	427
E	109
F	282
G	サイドメンバー
H	ボールセンター

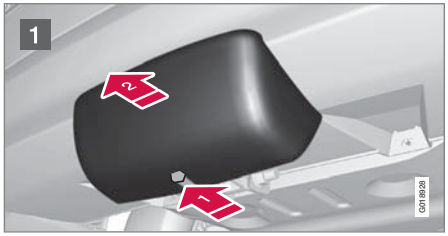
関連情報

- 脱着式トウバー* – 取り付け/取り外し (p. 371)
- 脱着式トウバー* – 保管 (p. 369)
- トレーラーなどのけん引* (p. 366)

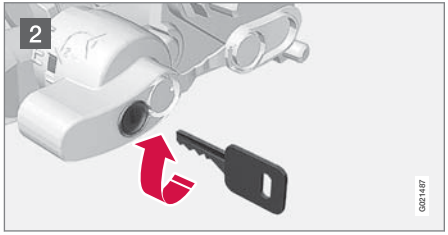
脱着式トウバー* – 取り付け/取り外し

脱着式トウバーの取り付け/取り外しは次のように行います。

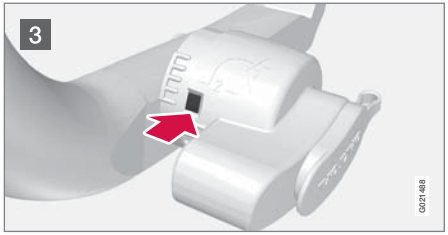
取り付け



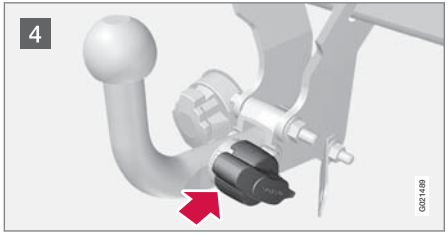
1 最初にキャッチ 1 を押し、プロテクティブカバーをまっすぐ後方 2 に引いて取り外します。



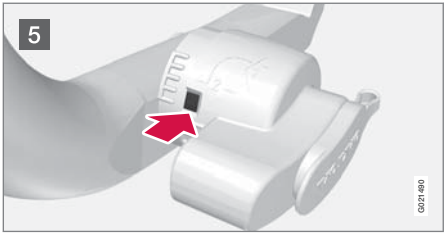
2 キーを右に回して、ロック解除位置になっていることを確認します。



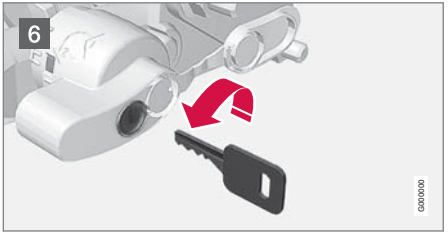
3 インジケーターウインドが赤になっていることを確認します。



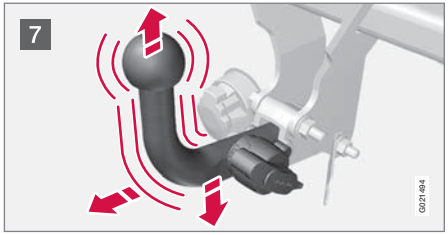
4 カチッと音がするまで、トウバーを差し込みます。



5 インジケーターウインドが緑になっていることを確認します。



6 ロック位置までキーを左に回します。ロックからキーを抜きます。



7 トウバーを上下および後方に引いて、確実に固定されているか確認します。

⚠ 警告

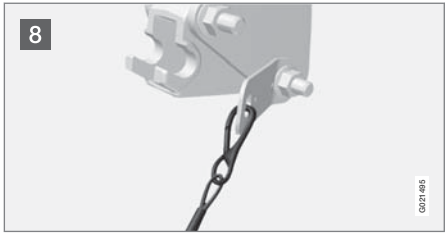
トウバーが正しく装着されていない場合は、必ず一度取り外してから、前ページの指示に従って装着し直してください。

重要

トウボールのみにグリースを塗り、トウバーの他の部分は、きれいで乾燥した状態を保ってください。

注意

振動ダンパー付きのヒッチを使用する際には、トウボールは絶対にグリースを塗らないでください。

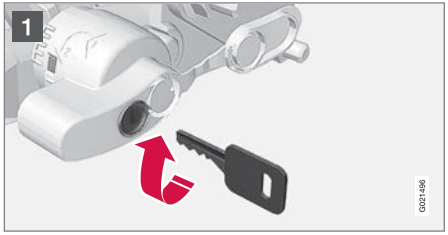


8 セーフティケーブル

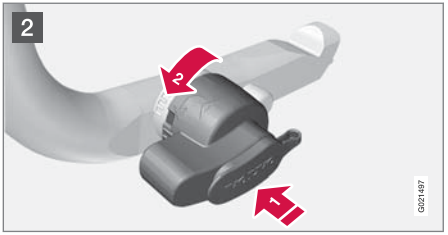
⚠ 警告

トレーラーのセーフティケーブルは必ず適切なブラケットに接続してください。

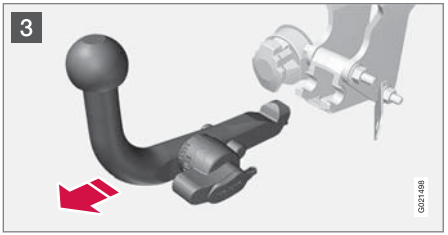
トウバーの取り外し



1 キーを差し込んで右に回し、ロックを解除します。



2 ロッキングホイール 1 を押し込み、カチッと音がするまで左に 2 回します。



3 ロッキングホイールを下に向けて、止まるまで回します。この位置で保持したまま、トウバーを後方に引き上げます。

⚠ 警告

トウバーを車内に置く場合は、確実に固定してください。脱着式トウバー* – 保管 (p. 369)を参照してください。

* オプション/アクセサリー。

4 プロテクティブカバーをカチッと音がするまで押し込みます。

関連情報

- 脱着式トウバー* – 保管 (p. 369)
- 脱着式トウバー* – 仕様 (p. 370)
- トレーラーなどのけん引* (p. 366)

トレーラー・スタビリティ・アシスト – TSA[22]

トレーラー・スタビリティ・アシスト TSA (Trailer Stability Assist) 機能は、車両とトレーラーが蛇行を始めた場合に安定化を図るものです。

TSA は スタビリティ・システム (p. 234) ESC[23] に含まれています。

機能

蛇行は、どのような車両とトレーラーの組み合わせでも発生します。通常、蛇行は高速走行時に発生します。しかし、トレーラーに過剰な負荷がかかっている場合や、積荷の配分が不適切(後に偏っている)な場合、低めの走行速度でも発生するおそれがあります。

蛇行が発生する要因として、次のようなものがあります。

- トレーラーをけん引している車両が、強い突風を横から受けた場合
- でこぼこ道や、穴の上を走行した場合
- 乱雑なハンドル操作

操作

いったん蛇行が発生してしまうと抑制するのは非常に難しく、抑制できない場合もあります。こうなると車両およびトレーラーの運転操作が困難になり、別車線にはみ出したり、車道を逸脱するおそれがあります。

トレーラー・スタビリティ・アシスト機能は、車両の動き(特に横方向の動き)を連続的に監視します。蛇行を感知すると前輪の左右個別にブレーキをかけ、車両およびトレーラーの安定化を図ります。多くの場合、この段階で車両の制御が回復します。

TSA の初期制御で回復しない場合は、車両およびトレーラーのすべての車輪にブレーキをかけ、エンジン出力を低下させます。蛇行が徐々に解除され、車両およびトレーラーが安定すると、システムは停止します。これで、運転者は車両を再び完全に制御できるようになります。詳しくは、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 操作 (p. 235)を参照してください。

その他

TSA は高速走行時に作動することがあります。

> **注意**
>
> 運転者が **Sport** モードを選択すると、TSA 機能が解除されます(エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 概要 (p. 234)を参照してください)。

22 ボルボ純正トウバーの取り付けに含まれます。
23 (Electronic Stability Control) – エレクトロニック・スタビリティ・コントロール

運転者が蛇行を修正しようとして、ハンドルを激しく操作すると、TSA が作動しない場合があります。蛇行を引き起こしているのがトレーラーか運転者か、システムでは判断できないためです。

TSA システムが作動しているときは、コンバインド・メーター・パネルの **ESC**[23] のシンボルが点滅します。

関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) – 概要 (p. 234)

けん引

けん引では、けん引ロープを使用して 1 台の車両をもう 1 台の車両がけん引します。

けん引を行う前に、必ず法律で定められている制限速度などを確認してください。

1. 車両の非常点滅灯を作動させます。
2. けん引ロープをけん引フックに取り付けます。
3. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し、**START/STOP ENGINE** ボタンをしばらく押したままにしてステアリングホイールロックを解除します。キー位置 **II** になります。キー位置の詳細については、キー位置 (p. 119) を参照してください。
4. けん引中は、リモートコントロールキーを絶対に抜かないでください。
5. けん引車の速度が低下した場合には、不必要な急な引きを避けるために、ブレーキペダルを軽く踏み、ロープが張った状態を保ちます。
6. 足は必ずブレーキペダルに置いて、いつでも踏める状態にしてください。

⚠ 警告

- けん引を開始する前に、ステアリングホイールロックが解除されていることを確認してください。
- リモートコントロールキーを必ず **II** 位置にしてください。**I** 位置では、全エアバッグが非作動状態になります。
- けん引中は、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチから絶対に抜かないでください。

⚠ 警告

エンジンが OFF になっているとブレーキサーボやパワーステアリングが機能しません。ブレーキペダルを踏み込むには約 5 倍の力が必要となり、ステアリングも通常よりかなり重く感じられます。

マニュアルトランスミッション

けん引を始める前に:

- ギヤセレクターレバーをニュートラルに入れ、パーキングブレーキを解除します。

オートマチックトランスミッション Geartronic(ギヤトロニック)

けん引を始める前に:

[23] (Electronic Stability Control) – エレクトロニック・スタビリティ・コントロール

– ギヤセレクターレバーを N に入れ、パーキングブレーキを解除します。

重要

必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。

- オートマチックトランスミッション車はけん引時の走行速度 80 km/h (50 mph)以下、けん引距離 80 km 以内を厳守してください。

ジャンプスタート

けん引によって、エンジンを始動させないでください。バッテリーが放電した場合は、他のバッテリーを接続します。エンジンが始動しない場合は別のバッテリーによるジャンプスタート (p. 329)を参照してください。

重要

エンジンをけん引始動しようとすると、触媒コンバーターに損傷が発生するおそれがあります。

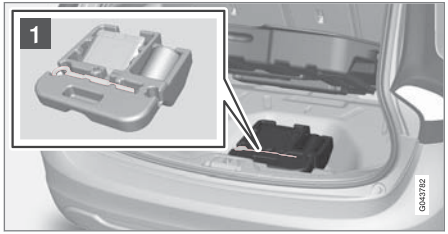
関連情報

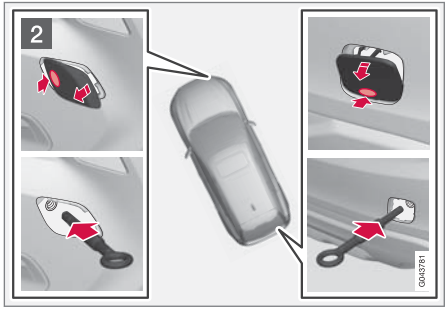
- 非常点滅灯 (p. 138)
- けん引フック (p. 375)
- 車両移動 (p. 376)

けん引フック

けん引フックは、フロントまたはリアバンパーの右側にある、カバーがついたネジ式のソケットに取り付けます。

けん引フックの取り付け





1 カーゴスペースのフロアハッチ下にある収納場所から、けん引フックを取り出します。

2 けん引フック取付け部のカバーには 2 種類あり、それぞれ開け方が異なっています。

- 溝が付いたカバーの場合、コインなどを溝に差し込んで、外向きに回してください。その後、カバー全体を外側に曲げ、取り外してください。
- それ以外のカバーでは、片側または角に印が付いています。この印を指で押しながら、コインなどを使用して反対側を引き出します。カバーは軸の周りを回転するように開き、取り外すことができます。

けん引フックを、フランジが当たるまでねじ込みます。ホイールレンチを使用するなどして、けん引フックを確実に取り付けてください。

けん引フックは、使用後に必ず取り外して、元の位置に戻してください。

最後にカバーを忘れずにバンパーに付け直してください。

レッカー車の平台へ車両を引き上げるときには、けん引フックを使用できる場合があります。車両の位置と車高により、使用の可否が決まります。レッカー車のスロープの傾斜が急すぎない場合、または車高が十分ではない場合、けん引フックで車両の引き上げを試みると、車両が損傷するおそれがあります。必要に応じ、レッカー車のリフト装置を使用して車両を持ち上げてください。

⚠ 警告

車両をレッカー車の平台へ引き上げる際は、レッカー車の後ろに人が立っていたり、物が置かれていてないか必ず確認してください。

重要

けん引フックは、路面での車両のけん引専用です。溝に落ちた車両の引き上げなどには**使用しないで**ください。車両移動が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

関連情報

- けん引（p. 374）
- 車両移動（p. 376）

車両移動

車両移動とは他の車両によって自車を輸送することを指します。

車両移動が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

レッカー車の平台へ車両を引き上げるときには、けん引フックを使用できる場合があります。車両の位置と車高により、使用の可否が決まります。レッカー車のスロープの傾斜が急すぎない場合、または車高が十分ではない場合、けん引フックで車両の引き上げを試みると、車両が損傷するおそれがあります。必要に応じ、レッカー車のリフト装置を使用して車両を持ち上げてください。

⚠ 警告

車両をレッカー車の平台へ引き上げる際は、レッカー車の後ろに人が立っていたり、物が置かれていてないか必ず確認してください。

重要

けん引フックは、路面での車両のけん引専用です。溝に落ちた車両の引き上げなどには**使用しないで**ください。車両移動が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

重要

必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。

関連情報

- けん引（p. 374）

ホイールおよびタイヤ

タイヤ – メンテナンス

特にタイヤには、荷重を支え、路面のグリップ力を提供し、振動を抑制して、ホイールを摩耗から保護する機能があります。

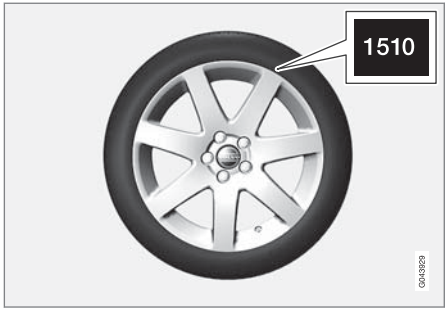
走行特性

タイヤは、車両の走行特性に大きく影響します。タイヤの種類、サイズ、タイヤ空気圧、速度記号は、車両の性能に大きな意味を持ちます。

タイヤの耐用年数

製造日から 6 年以上経過したタイヤは、摩耗していなくても必ず専門家による点検が必要です。ほとんど使用されていない場合や、一切使用されていない場合でも、タイヤは経年劣化し、変質します。そのため、機能が低下します。これは、将来使用するために保管しておくタイヤすべてに当てはまります。亀裂や変色などがあるタイヤは、絶対に使用しないでください。

新しいタイヤ



タイヤは消耗品です。製造後数年が経過すると、タイヤはしだいに硬くなり、接地性が悪くなります(経年劣化)。タイヤを交換するときは、できるだけ製造年が新しいタイヤと交換してください。特に、ウインタータイヤの場合は重要です。最後の 4 桁の数字は、そのタイヤの製造週と製造年を表しています。これはタイヤの DOT マーク(Department of Transportation)と呼ばれ、例えば 1510 のように表示されます。図中のタイヤは 2010 年第 15 週に製造されたものです。

サマータイヤおよびウインタータイヤ

サマータイヤとウインタータイヤを交換するときなどは、タイヤをどこから取り外したかわかるように、例えば、左前輪なら**「左前」**、右後輪なら**「右後」**のように、各タイヤに必ずマークを付けてください。

摩耗とメンテナンス

タイヤ空気圧(p. 380)が適正であれば、タイヤは均一に磨耗します。タイヤの寿命および摩耗は、運転スタイル、タイヤ空気圧、気候および路面状況などに影響されます。

タイヤの片減りなどを防ぎ、タイヤの摩耗を均一にするため、前輪と後輪のタイヤをローテーションすることをお薦めします。初回は約 5,000 km 走行後、その後 10,000 km の走行ごとに実施してください。

トレッド溝の深さについてご不明な点は、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。タイヤ間で摩耗の度合いが著しく異なる(トレッドの深さの差が> 1 mm より大きい)場合には、一番摩耗が少ないタイヤを必ず後輪に装着してください。アンダーステア時は、車両後部が片側に横滑りするよりまっすぐ前進するため、オーバーステア時より修正しやすいのが普通です。後輪が横滑りすると、車輌のコントロールを完全に失う可能性がありますので、後輪が前輪より早くグリップ力を失うことがないようにすることが重要です。

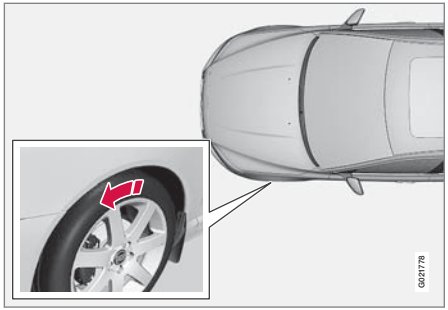
⚠ 警告

タイヤが損傷していると、車両を制御できなくなるおそれがあります。

保管
ホイールにタイヤを取り付けた状態で保管するときは、横に寝かせるか吊るすかをしてください。立てかけた状態で保管しないでください。

関連情報
- タイヤ – サイズ（p. 382）
- タイヤ – 速度記号（p. 383）
- タイヤ – ロードインデックス（p. 383）
- タイヤ – 回転方向（p. 379）
- タイヤ – トレッド磨耗インジケーター（p. 380）

タイヤ – 回転方向
トレッドパターンが一方向にのみ回転するようにデザインされているタイヤは、サイドウォール部にタイヤの回転方向が矢印で表示されています。



矢印は、タイヤの前進回転方向を示します。

タイヤの使用期間中、前進時の回転方向がつねに同じになるように装着してください。タイヤは前後の入れ替えはできますが、絶対に左右を入れ替えないでください。タイヤが正しく装着されていない場合、降雨時などでブレーキ性能が低下する原因になります。摩耗が少ない(トレッド溝が深い)タイヤをリアに装着すると、スリップしにくくなります。

注意

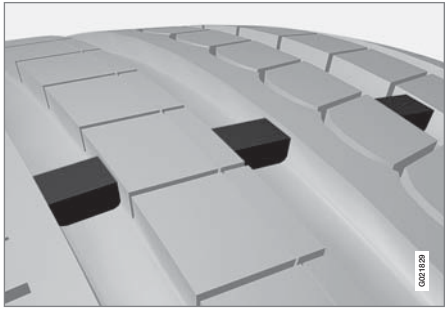
同じタイプ、同じサイズで、同じメーカーのものを装着するよう徹底してください。

適正なタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表(p. 474)に表示されています。

関連情報
- タイヤ – サイズ（p. 382）
- タイヤ – 速度記号（p. 383）
- タイヤ – ロードインデックス（p. 383）
- タイヤ – メンテナンス（p. 378）
- タイヤ – トレッド磨耗インジケーター（p. 380）

タイヤ – トレッド磨耗インジケーター

タイヤの摩耗インジケーターはタイヤのトレッド溝の深さの状態を示します。



タイヤの摩耗インジケーター

トレッド摩耗インジケーターは、タイヤのトレッドパターンの縦溝を横切るように埋め込まれている細い隆起物です。タイヤの側面にTWI(Tread Wear Indicator)の文字が表示されています。トレッド溝の深さが 1.6 mm になると、トレッドはトレッド摩耗インジケーターと同じ高さになります。すみやかに新しいタイヤと交換してください。摩耗したタイヤは、雨や雪で濡れた路面などでグリップ力が非常に悪くなり、スリップの原因になります。

関連情報

- タイヤ – サイズ（p. 382）
- タイヤ – 速度記号（p. 383）
- タイヤ – ロードインデックス（p. 383）
- タイヤ – 回転方向（p. 379）
- タイヤ – メンテナンス（p. 378）

タイヤ – 空気圧

タイヤの空気圧はそれぞれ異なる場合があります。空気圧の測定単位はバール(bar)です。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧は、毎月点検してください。

- 推奨タイヤサイズのタイヤ空気圧
- ECO プレッシャー[1]

タイヤの空気圧は、必ずタイヤが冷えているときに測定してください。「冷えたタイヤ」とは、外気温と同じ温度のタイヤを指します。タイヤは数 km 走行しただけで温まり、内部の空気圧が上がります。

タイヤ空気圧が不十分であれば、燃料消費が増加し、タイヤの寿命が短くなり、車両の走行特性に悪影響をおよぼします。タイヤ空気圧が低すぎると、走行中にタイヤが過熱して損傷するおそれがあります。タイヤ空気圧は、走行快適性やロードノイズ、走行特性に影響します。

注意

タイヤ空気圧は時間と共に低下しますが、これは異常ではありません。タイヤ空気圧は、外気温によっても変化します。

タイヤ空気圧表示ラベル

運転席側ドアピラー(フレームとリアドアの間)にタイヤ空気圧表示ラベルがあり、異なる荷重および走行速度におけるタイヤの適正空気圧が表示されています。これはタイヤ空気圧表にも指定されています。タイヤ – 承認された空気圧 (p. 474)を参照してください。

燃費、ECO プレッシャー

荷重が軽く(3 人以下)、走行速度が 160 km/h (100 mph)以下の場合、ECO プレッシャーを選択すると燃費を最大限に向上させることができます。ロードノイズをできるだけ抑えて走行快適性を最大限に高めたい場合、さらに低い快適空気圧の使用をお薦めします。

(タイヤ – 承認された空気圧(p. 474)を参照してください。)

関連情報

- タイヤ – サイズ (p. 382)
- タイヤ – 速度記号 (p. 383)
- タイヤ – ロードインデックス (p. 383)
- タイヤ – メンテナンス (p. 378)
- タイヤ – トレッド磨耗インジケーター (p. 380)
- タイヤ – 承認された空気圧 (p. 474)

[1] ECO プレッシャーにより、燃費が向上します。

ホイールおよびホイールリムサイズ

ホイールおよびリムのサイズは以下の表内の例のように設計されています。

車両全体が認定されています。つまり、ホイール(ホイールリム)とタイヤの特定の組み合わせが認定されています。

ホイール(リム)には、7Jx16x50 のようにホイールサイズが記されています。

7	ホイールリム幅(単位：インチ)
J	リムフランジプロファイル
16	ホイールリム径(単位：インチ)
50	オフセット(単位：mm、ホイールの中央から、ホイールのハブとの接触面までの距離)

関連情報

- タイヤ – サイズ（p. 382）
- タイヤ – 承認された空気圧（p. 474）

タイヤ – サイズ

車両のタイヤのサイズは指定されています。以下の表の例を参照してください。

タイヤの規格は、タイヤの側面に表示されています。**表示例**：215/55R16 97W

215	タイヤ断面の幅(mm)
55	断面の高さと幅の比を、百分率で表した値(偏平率)
R	ラジアルタイヤ表示
16	ホイールリム径(単位：インチ)
97	最大許容タイヤロードのコード、タイヤロードインデックス(LI)
W	制限速度の速度記号(SS)(この場合 270 km/h(168 mph)まで使用可能であることを示す)。

車両は特定のホイールリムおよびタイヤの組み合わせで車両全体の認定を受けています。

関連情報

- タイヤ – 速度記号（p. 383）
- タイヤ – ロードインデックス（p. 383）
- タイヤ – 回転方向（p. 379）
- タイヤ – メンテナンス（p. 378）
- タイヤ – 承認された空気圧（p. 474）
- ホイールおよびホイールリムサイズ（p. 382）

タイヤ – ロードインデックス

ロードインデックスはタイヤの耐荷重を示す指標です。

各タイヤには最大許容重量、ロードインデックス(LI)が指定されています。タイヤの最大積載重量は、車両の重量により異なります。最小許容インデックスはタイヤロードインデックス一覧表に記載されています。印刷版オーナーズマニュアルの「仕様」を参照してください。

関連情報

- タイヤ – サイズ（p. 382）
- タイヤ – 承認された空気圧（p. 474）
- タイヤ – 速度記号（p. 383）
- タイヤ – メンテナンス（p. 378）

タイヤ – 速度記号

タイヤには、それぞれ走行が可能な最高速度が指定されており、速度記号(SS – Speed Symbol)が付いています。

タイヤの速度記号は、少なくとも車両の最高速度と対応していることが必要です。下の表は各速度記号(SS)の速度制限を示しています。この規定の唯一の例外はウインタータイヤ(p. 384)[2] です。ウインタータイヤの場合は、表示よりも下位の速度記号のものを使用することができます。そのようなタイヤを選択した場合、タイヤの速度記号で示されている速度よりも速く走行しないでください(例：Q の場合、走行可能な最高速度は 160 km/h (100 mph)です)。ただし、車両の制限速度は交通法規で決められています。タイヤの速度記号で決められるものではありません。

注意

制限速度が一覧表に示されています。

Q	160 km/h (100 mph)（ウインタータイヤのみ）
T	190 km/h (118 mph)
H	210 km/h (130 mph)
V	240 km/h (149 mph)
W	270 km/h (168 mph)
Y	300 km/h (186 mph)

警告

車両には、ロードインデックス(p. 383)(LI)および速度記号(SS)が同じか、それ以上のタイヤを装着してください。ロードインデックスや速度記号が低すぎるタイヤを使用すると、タイヤがオーバーヒートするおそれがあります。

関連情報

- タイヤ – サイズ（p. 382）
- タイヤ – ロードインデックス（p. 383）
- タイヤ – 回転方向（p. 379）

[2] 金属製スタッド付きのタイヤと金属製スタッドのないタイヤの両方。

ホイールボルト

ホイールボルトはホイールをハブに固定するために使用されます。各種揃っています。

重要

ホイールボルトは 140 Nm (103 ft. lbs.)で締め付ける必要があります。強く締め過ぎたり、締め付けが足りないと、ナットおよびボルトが損傷するおそれがあります。

ボルボ社の認定を受けた、ボルボ純正品、または純正アクセサリーパーツのみを使用してください。トルクレンチを使用して、締め付けトルクを確認してください。

ホイールボルトのねじ山には、潤滑剤を**使用しないでください**。

ロックホイールボルト*

ロックホイールボルト*は、アルミホイールおよびスチールホイールの両方に使用することができます。トランクルーム/カーゴスペースのフロア下には、ロックホイールボルト用スリーブを収納するスペースがあります。

関連情報

- ホイールおよびホイールリムサイズ (p. 382)

ウインタータイヤ

ウインタータイヤは冬季の道路条件に適したタイヤです。

ウインタータイヤ

ウインタータイヤは、ボルボ社が推奨するタイヤサイズを装着してください。タイヤサイズは、エンジンタイプにより異なります。ウインタータイヤで走行する際には、必ずすべての車輪に正しいタイプのタイヤを装着してください。

注意

もっとも適したホイールリムとタイヤタイプに関しては、ボルボディーラーにご相談ください。

スタッド付きタイヤ

スタッド付きのウインタータイヤ装着車は、スタッドがタイヤに適正にはまるように、500～1,000 km の距離を穏やかに慣らし走行してください。タイヤ(特にスタッド)の耐用年数を長くすることができます。

注意

スタッド付きタイヤの使用に関する規則は、国により異なります。

トレッド溝の深さ

冬期は、凍った路面、道路の雪、低い気温などが原因で、暖かい季節よりもタイヤに大きな負荷がかかります。ボルボ社は、溝の深さが 4 mm 以上のウインタータイヤの使用をお薦めします。

タイヤチェーンについて！

タイヤチェーンは、前輪のみに装着してください(全輪駆動車(AWD)も同様です)。タイヤチェーンを装着しているときは、絶対に 50 km/h (31 mph)を超える速度で走行しないでください。また、タイヤチェーンおよびタイヤの両方が著しく摩耗するため、タイヤチェーンを装着したまま雪のない道路を走行しないでください。

警告

ボルボ純正タイヤチェーン、または車両モデル、タイヤサイズ、ホイールリムサイズに適合した同等品を使用してください。ご不明な点があれば、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。不適切なチェーンを使用すると、車両への深刻な損傷や事故の原因となります。

関連情報

- タイヤの交換 – タイヤを取り外す (p. 385)

* オプション/アクセサリー。

タイヤの交換 – タイヤを取り外す

車両のホイールは、例えばウインターホイールやウインタータイヤに交換が可能です。

スペアタイヤ*

スペアタイヤの設置方法には 2 通りの方法があり、タイヤバッグ入りの状態またはトランクルーム/カーゴスペースのフロア下に収納された状態で設置されています。

以下の記載は、スペアタイヤを車両用のアクセサリーとして購入した場合にのみ有効です。

車両にスペアタイヤが装備されていない場合は、「緊急パンクリペアーキット(TMK)」(p. 394)に関する情報をご覧ください。

スペアタイヤは、パンクしたときに純正のタイヤに交換するまで一時的に、短時間のみ装着する応急用のタイヤです。スペアタイヤを装着したときは、すみやかに純正のタイヤに交換してください。スペアタイヤを装着すると、車両の走行特性が変わる場合がありますのでご注意ください。このスペアタイヤは通常のホイールより小さくなっています。このため、車高が低くなります。高めの縁石に注意し、自動洗車機は使用しないでください。フロントアクスルにスペアタイヤが取り付けられている場合には、同時にタイヤチェーンを装着することはできません。全輪駆動の車両では、リアアクスルの駆動を解除することができます。スペアタイヤは修理しないでください。

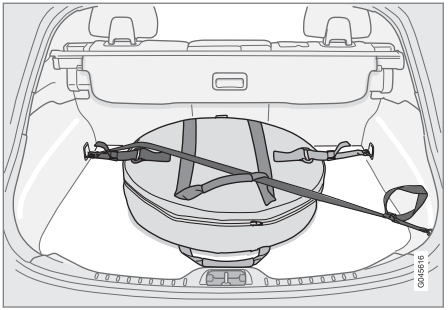
スペアタイヤの適正なタイヤ空気圧については、タイヤ空気圧表(p. 474)を参照してください。

重要

- スペアタイヤ装着時は、必ず 80 km/h (50 mph) 未満で走行してください。
- 「テンポラリースペアタイヤ」(応急用)タイプのスペアタイヤを同時に 2 本以上装着して走行しないでください。

スペアタイヤは、スペアタイヤスペース内に外側を下にして収納されています。スペアタイヤおよびフォームブロックは、同じボルトで固定されています。フォームブロック内にすべてのツールが入っています。

スペアタイヤはタイヤバッグに入っています。カーゴスペースにストラップで固定することが必要です。



荷物固定用アイレットが 4 つ付いた車両

スペアタイヤバッグのハンドルをご自分の方に向けて回してください。縫い付けられたテンションストラップフックをフロント荷物固定用アイレットに取り付けてください。長いストラップをフロント荷物固定用アイレットの片方に取り付け、ストラップをスペアタイヤの上に斜めにはわせ、上側ハンドルに通してください。短いテンションストラップを長いストラップに締め付けてください。リア荷物固定アイレットを取り付け、締めてください。

バッグ入りのスペアタイヤの取り出し

1. ストラップをゆるめ、スペアタイヤをカーゴスペースから取り出し、スペアタイヤバッグから取り出してください。
2. カーゴスペースのフロアマットを持ち上げます。

3. フォームブロックからツールとジャッキを取り出します。

取り外し

やむをえず交通量の多い場所でタイヤ交換する場合は、三角警告板(停止表示板)(p. 389)を設置してください。車両およびジャッキ* が、水平で固い地面の上にあることを確認してください。

1. パーキングブレーキ(p. 352)をかけて、ギヤをリバースに入れます。オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセレクターレバーを **P** 位置に入れます。

⚠ 警告

ジャッキが損傷していないか、すべてのネジ山がよく潤滑されているか、泥などが付着していないか確認してください。

ⓘ 注意

ボルボ社は、車両搭載ジャッキ*のみの使用を推奨しています。ジャッキを使用できる車種名が、ジャッキのラベルに記されています。

ラベルには、指定最低リフト位置におけるジャッキの最大リフト力も記されています。

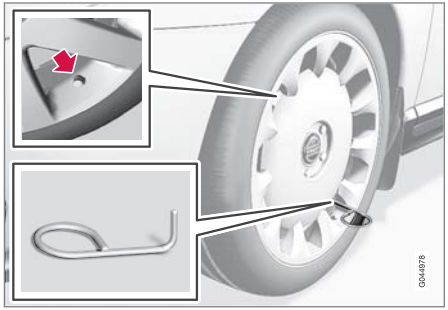
2. フォームブロックに収納されているジャッキ*、ホイールレンチ*、ホイールカバー取り外しツール*、およびホイールボルトプラスチックキャップ取り外しツールを取り出します。別のジャッキを使用する場合は、車両リフトアップ (p. 405)を参照してください。

ホイールボルトのプラスチックキャップ取り外しツール

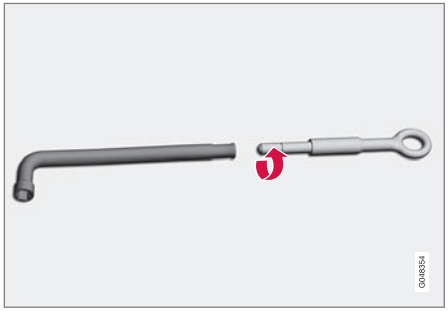
3. 地面に接しているタイヤの前後に輪止めをします。重い木片や、大きな石などで代用しても構いません。

* オプション/アクセサリー。

4. スチールホイール装着車には、脱着式のホイールカバーが付いています。取り外しツールをフルタイヤカバーに引っかけ、引っ張って外します。ホイールカバーは手で取り外すこともできます。



5. けん引フックが止まるまでねじ込んでホイールレンチ*とつなぎ合わせます。



重要

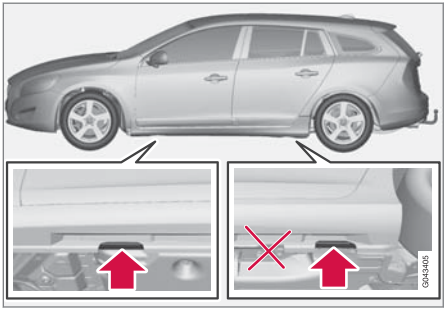
けん引フックは、必ずホイールレンチ*の奥まで完全にねじ込んでください。

6. 専用ツールを使用して、ホイールボルトからプラスチックキャップを取り外します。
7. ホイールボルトを、ホイールレンチ* で反時計方向に½～1 回転ゆるめます。

警告

地面とジャッキの間、およびジャッキポイントとジャッキの間に、なにも挟まないでください。

8. ジャッキポイントは、車両の両側に 2 箇所ずつあります。ボディワークのフランジがジャッキの頭部の刻み目に当たるようにジャッキ* を巻き上げます。



重要

地面が平坦かつ水平で、安定していることを確認してください。

9. パンクしたタイヤが地面から離れるまで、車体をジャッキアップします。ホイールボルトを取り外し、ホイールを外します。

▶▶

⚠ 警告

ジャッキで車を持ち上げているときは、絶対に車の下に入らないでください。

車両をジャッキで持ち上げる前に、乗員は全員車の外に出てください。交通量の多い場所でタイヤを交換せざるを得ない場合、乗員は安全な場所に退避しておく必要があります。

ⓘ 注意

通常のカージャッキは、パンクしたタイヤの交換時やウインタータイヤ/サマータイヤの取り換え時など、短時間で使用することだけを想定したものです。車両をジャッキアップするときには、特定の車両モデル専用のジャッキを使用する必要があります。
ジャッキをより頻繁に使用する場合や、単純なタイヤ交換より長い時間使用する場合には、修理工場用のジャッキの使用をお薦めします。この場合、そのジャッキに添付の取扱指示に従ってください。

関連情報

- タイヤの交換 – 取り付け（p. 388）
- ジャッキ*（p. 390）
- 三角警告板(停止表示板)（p. 389）
- ホイールボルト（p. 384）

タイヤの交換 – 取り付け

スペアタイヤの取り付けは正しい順序に従って行うことが重要です。

取り付け

⚠ 警告

ジャッキで車を持ち上げているときは、絶対に車の下に入らないでください。

車両をジャッキで持ち上げる前に、乗員は全員車の外に出てください。交通量の多い場所でタイヤを交換せざるを得ない場合、乗員は安全な場所に退避しておく必要があります。

1. ホイールとハブの接合面をきれいにします。
2. ホイールを取り付けます。ホイールボルトを確実に締め付けます。

   ホイールボルトのねじ山には、潤滑剤を**使用しないでください**。
3. タイヤが回らなくなる位置まで車体を下げます。

4. ホイールボルトを対角線順に締め付けます。必ず正しいトルクで締め付けてください。締め付けトルク:140 Nm。トルクレンチを使用して、締め付けトルクを確認してください。
5. ホイールボルトにプラスチックキャップを取り付けます。
6. ホイールカバーを取り外した場合には付け直してください。

* オプション/アクセサリー。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して緩めにくくなることがあります。

注意

ホイールカバーを取り付ける際には、ホイールカバーのバルブ用の穴が、必ずホイールリムのバルブ上にかぶさるようにしてください。

サイズの異なるタイヤに変更する場合

タイヤサイズの変更ごとにソフトウェアのアップデートについて、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。サイズの異なるタイヤ(大または小)に変更する場合や、サマータイヤとウインタータイヤを交換する場合には、ソフトウェアのダウンロードが必要になることがあります。

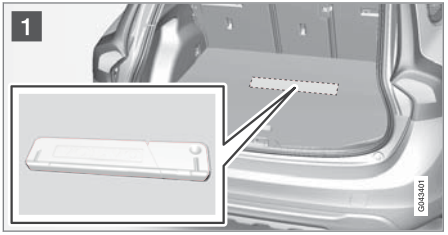
関連情報

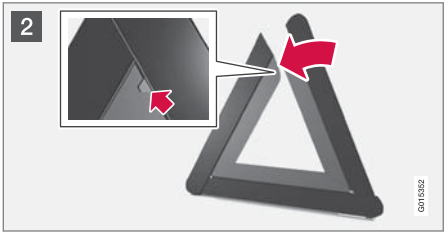
- タイヤの交換 – タイヤを取り外す (p. 385)
- ジャッキ* (p. 390)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 389)
- ホイールボルト (p. 384)

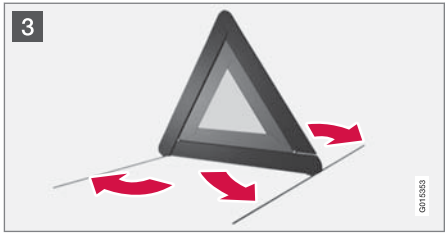
三角警告板(停止表示板)

三角警告板(停止表示板)は他の道路利用者に停止車両の存在を知らせるために使用します。

保管および収納







1 フロアハッチを持ち上げて、三角警告板(停止表示板)を取り出します。

2 ケースから三角警告板(停止表示板)を取り出して広げ、2 箇所の開いている端を合わせて組み立てます。

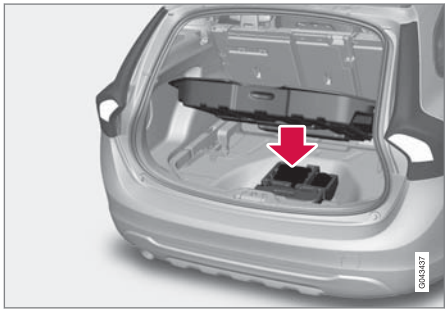
3 三角警告板(停止表示板)のサポートレッグを広げます。

三角警告板(停止表示板)の使用に関する規則を厳守してください。三角警告板(停止表示板)は、通行の邪魔にならない所定の位置に置いてください。

使用後は、三角警告板(停止表示板)をケースに収納して、カーゴスペースに確実に固定してください。

ツール

車両にはけん引フック、ジャッキ*、ホイールレンチ*も付属しています。



トランクルーム/カーゴスペースフロア下には、車両のけん引フック、ジャッキ*さらにホイールレンチ*が収納されています。また、ロックホイールボルト用スリーブおよびプラスチック製ホイールボルトキャップ用ツールを収納するスペースもあります。

関連情報

- 緊急パンクリペアー (p. 394)
- けん引フック (p. 375)
- タイヤの交換 – タイヤを取り外す (p. 385)
- ホイールボルト (p. 384)
- ジャッキ* (p. 390)

ジャッキ*

ジャッキは、タイヤの交換時に車両を持ち上げるために使用します。

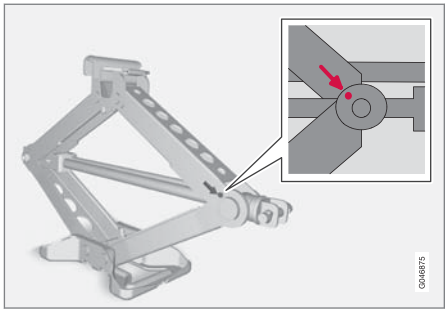
車両搭載のジャッキは、パンクしたスペアタイヤ交換用としてのみ使用してください。ジャッキのネジ部には、グリースをよく塗っておいてください。

注意

通常のカージャッキは、パンクしたタイヤの交換時やウインタータイヤ/サマータイヤの取り換え時など、短時間で使用することだけを想定したものです。車両をジャッキアップするときには、特定の車両モデル専用のジャッキを使用する必要があります。
ジャッキをより頻繁に使用する場合や、単純なタイヤ交換より長い時間使用する場合には、修理工場用のジャッキの使用をお薦めします。この場合、そのジャッキに添付の取扱指示に従ってください。

* オプション/アクセサリー。

ツール類を元の位置に戻す



使用後は、ツールおよびジャッキ*を必ず正しい位置に戻してください。ジャッキのクランクを、正しい位置にしなければなりません。

重要

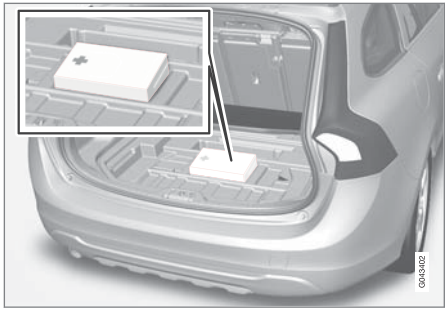
ツールおよびジャッキ*を使用しないときは、車両のトランクルーム/カーゴスペースの所定位置に収納してください。

関連情報

- 三角警告板(停止表示板) (p. 389)
- 緊急パンクリペアー (p. 394)

救急用品キット*

救急箱には救急用品キットが入っています。



救急用品キットが入ったケースは、カーゴスペースのフロア下にあります。

タイヤ・プレッシャー・モニタリング*[3]

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システムは、1 輪以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときにコンバインド・メーター・パネルの表示灯で警告します。

一部の市場では、タイヤ・プレッシャー・モニタリングの装備が法律で義務づけられています。システムが機能している場合でも、タイヤのメンテナンスは実施してください。

タイヤ・プレッシャー・モニタリングの表示灯

関連情報

- タイヤ・モニタリング(TM)* (p. 392)

3 一部市場では標準装備。

タイヤ・モニタリング(TM)*4

TM (Tyre Monitor) システムはタイヤの回転速度を感知して、タイヤ空気圧が正しいかを特定します。

システムの概要

タイヤ空気圧が低すぎる場合、タイヤの直径が変化するため、回転速度にも変化が生じます。各タイヤを比較することにより、システムは空気圧の低すぎるタイヤの有無を特定することができます。

システムが機能している場合でも、タイヤのメンテナンスはおこなってください。

メッセージ

タイヤ空気圧が低すぎると、コンバインド・メーター・パネルの表示灯(!)が点灯し、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **タイヤ空気圧低下 点検して調整して下さい**
- **ﾀｲﾔ空気圧ﾓﾆﾀｰ ｻｰﾋﾞｽが必要です**
- **ﾀｲﾔ空気圧ﾓﾆﾀｰ 現在利用できません**

重要

TM システムに不具合が発生した場合、コンバインド・メーター・パネルの表示灯 (!) が約 1 分間点滅した後、点灯に変わります。コンバインド・メーター・パネルにはメッセージも表示されます。

メッセージの削除

1. タイヤプレッシャーゲージを使用して、指示通りに全タイヤの空気圧を点検します。
2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、タイヤを適切な空気圧に調節します。
3. **MY CAR** で TM システムを再校正します。

注意

タイヤ空気圧を正しく調節するには、タイヤが冷えた状態で空気圧を点検する必要があります。「タイヤが冷えた状態」とは、タイヤが外気温と同じ温度である状態です(車両の停止から約 3 時間後)。数キロ走行するだけでタイヤ温度が上昇し、タイヤ空気圧も上昇します。

警告

- タイヤ空気圧が正しくないと、タイヤに不具合が発生し、運転者が車両を制御できなくなるおそれがあります。
- システムはタイヤの突然の損傷を事前に予測することはできません。

TM 校正

TM システムが正しく機能するには、タイヤ空気圧の基準値を決定する必要があります。この作業は、タイヤ交換後またはタイヤ空気圧の調節後に、**MY CAR** でシステムを再校正することにより毎回行う必要があります。

例えば、積載物が重いときや高速走行(160 km/h (100 mph)超過)するときには、タイヤ空気圧の調節が必要です。そして、調節の後にシステムを再校正する必要があります。

4 一部市場では標準装備。

再校正
設定は、センターコンソールのコントロールで行います。MY CAR (p. 154)を参照してください。

1. エンジンを止めます。
2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、すべてのタイヤを必要な空気圧に調節します。

   または、タイヤ空気圧表を参照してください。
3. エンジンを始動し、車両を静止状態のまま維持します。
4. メニューシステム **MY CAR** を開き、**タイヤモニター** メニューを選択します。
5. **較正を開始**を選択して、OK をタップします。
6. すべてのタイヤの点検と調節が完了した後、OK をタップして校正を開始します。
7. 走行を開始します。
   > 35 km/h (22 mph)を超える速度で走行中に校正が行われます。エンジンを停止すると校正は一時的に中断されますが、再び走行を開始するとバックグラウンドで自動的に再開されます。校正が完了しても、システムからの確認通知はありません。

新しい基準値は上記のステップ 1～7 を再度行うまで適用されます。

注意

TM システムは、タイヤ空気圧を調節した場合、またはタイヤ交換のたびに校正し直す必要があります。新しい基準値が記憶されないと、システムは正しく機能できません。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して緩めにくくなることがあります。

システムおよびタイヤの状態
システムおよびタイヤの現在の状態は、センターコンソールの画面で確認することができます。

1. メニューシステム **MY CAR** を開きます。
2. **タイヤモニター** メニューを選択します。
   > タイヤ空気圧の状態が色で区別されて表示されます。

状態は以下のようにタイヤごとに色分けされます。

- すべて緑色:システムは正常に作動しています。タイヤ空気圧はすべてのタイヤで推奨レベルを少し上回っている状態です。
- 黄色のホイール:該当するタイヤの空気圧が低すぎます。
- 全ホイール黄色:複数のタイヤの空気圧が低すぎる状態です。
- すべてのホイールがグレーでメッセージ **ﾀｲﾔ空気圧ﾓﾆﾀｰ 現在利用できません**:タイヤ空気圧システムが一時的に無効な状態です。システムを再びオンにするには、35 km/h (22 mph)を超える速度で短時間走行することが必要になる場合があります。
- すべてのホイールがグレーでメッセージ **ﾀｲﾔ空気圧ﾓﾆﾀｰ ｻｰﾋﾞｽが必要です**:システムにエラーが発生しました。ボルボ・ディーラーまたはサービス工場にご連絡ください。

関連情報
- タイヤ - 空気圧 (p. 380)

緊急パンクリペアー

緊急パンクリペアーでは、緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK)を使用して、パンクの穴を塞ぎ、タイヤ空気圧(p. 474)の点検、調整を行います。

緊急パンクリペアーキット(p. 395)には、コンプレッサーとシーリング剤ボトルが入っています。このキットは応急修理用です。シーリング剤は、トレッド部のパンクした箇所を効果的に塞ぎます。

緊急パンクリペアーキットは、タイヤのサイドウォール部のパンク修理には使用しないでください。大きな亀裂、ヒビ割れなどの修理に、緊急パンクリペアーキットを使用しないでください。

注意

緊急パンクリペアーキットは、タイヤのトレッド部のパンクした部分をシールすることのみを目的としています。

注意

緊急パンクリペアーキット用コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。

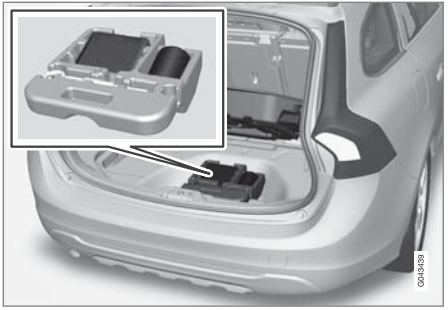
関連情報

- 緊急パンクリペアーキット – 位置(p. 394)
- 緊急パンクリペアーキット – 概要(p. 395)
- 緊急パンクリペアーキット – 操作(p. 396)
- ツール(p. 390)

緊急パンクリペアーキット – 位置

緊急パンクリペアーでは、緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK)を使用して、パンクの穴を塞ぎ、タイヤ空気圧の点検、調整を行います。

緊急パンクリペアーキットの収納場所



パンクリペアーキットは、カーゴスペースのフロアマット下にあります。

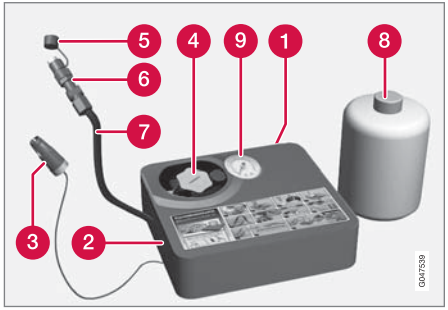
関連情報

- 緊急パンクリペアーキット – 概要(p. 395)
- 緊急パンクリペアー(p. 394)

緊急パンクリペアーキット – 概要

緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK)の構成部品の概要

パーツはトランクルーム/カーゴスペースのフロアの下に収納されています。



1. 制限速度の表示ラベル
2. スイッチ
3. 電気コード
4. ボトルホルダー(オレンジ色キャップ)
5. プロテクティブキャップ
6. プレッシャーリリーフバルブ
7. エアホース
8. シーリング剤ボトル
9. プレッシャーゲージ

シーリング剤ボトル

使用期限が切れる前に、シーリング剤ボトルを中身ごと交換してください。取り外した容器は、危険ゴミとして廃棄してください。

使用後には、シーリング剤ボトルを交換する必要があります。交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼してください。

⚠ 警告

シーリング剤ボトルには、1.2エタノールおよび天然ゴムラテックスが入っています。

誤飲すると危険です。皮膚に触れると、アレルギー反応を起こすおそれがあります。

皮膚に触れたり、目に入らないようにご注意ください。

お子様の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 警告

- シーリング剤が皮膚に付着した場合、石けんと大量の水ですぐに洗い流してください。
- シーリング剤が目に入った場合、洗眼液または大量の水ですぐに洗い流してください。違和感が解消されない場合、医師の診察を受けてください。

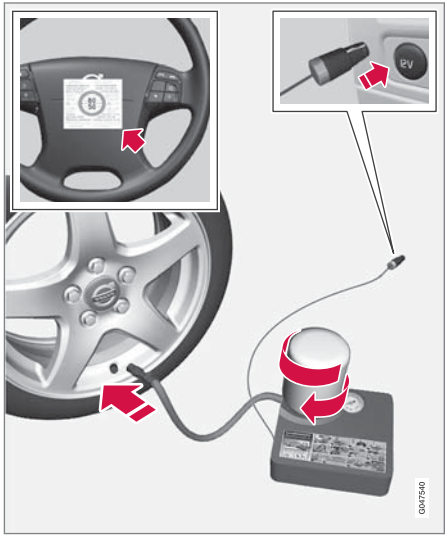
関連情報

- 緊急パンクリペアーキット – 位置 (p. 394)
- 緊急パンクリペアー (p. 394)

緊急パンクリペアーキット – 操作

緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit(TMK)でパンクを塞ぎます。

緊急パンクリペアーキット



各パーツの機能については、緊急パンクリペアーキット – 概要 (p. 395)を参照してください。

1. 車が往来する場所で作業する場合は、必ず三角警告板(停止表示板)を立てて、非常点滅灯を作動させてください。

   釘などが刺さってパンクした場合、刺さっているものをタイヤに残したままにしてください。穴を塞ぐのに役立ちます。

2. 制限速度のラベル(コンプレッサーの側面に貼付)をはがして、ステアリングホイールに貼り付けます。緊急パンクリペアーキット使用後は、絶対に 80 km/h (50 mph)を超える速度で走行しないでください。

3. スイッチが **0** (オフ)位置にあることを確認し、電源コードおよびエアホースを適切に配置します。

4. オレンジ色のキャップをコンプレッサーから外し、シーリング剤ボトルのコルクを外します。

注意

ご使用の前にボトルのシールを開けないでください。ボトルを締め込むと、シールが自動的に開封されます。

5. ボトルをボトルホルダーの下までねじ込みます。
   > ボトルおよびボトルホルダーにはシーリング材の漏れ防止のために戻り止めが装備されています。一旦ねじ込むと、ボトルはボトルホルダーから外すことができません。ボトルの取り外しは、ボルボ指定のサービス工場で行う必要があります。

警告

- シーリング剤が皮膚に付着した場合、石けんと大量の水ですぐに洗い流してください。
- シーリング剤が目に入った場合、洗眼液または大量の水ですぐに洗い流してください。違和感が解消されない場合、医師の診察を受けてください。

警告

使用後は、ボトルをホルダーから外さないでください。ボトルには、液漏れを防ぐためのリバースキャッチが付いています。

6. タイヤのダストキャップを外します。

   エアホースにプレッシャーリリーフバルブが完全にねじ込まれていることを確認し、エアホースのバルブコネクターをタイヤのエアバルブにネジ部の下までねじ込みます。

7. 電気コードをもっとも近くの 12V 電源ソケットに接続して、車両を始動します。

注意

コンプレッサーの作動中には、その他の 12V 電源ソケットを一切使用しないでください。

警告

エンジン作動中、お子様だけを車内に残したまま、車両から絶対に離れないでください。

8. スイッチを I（オン）位置にして、コンプレッサーを起動します。

警告

コンプレッサーでタイヤに空気を充填している間は、タイヤの横に立たないでください。タイヤにヒビ割れ、ふくらみなどの異常が認められた場合は、ただちにコンプレッサーを停止してください。このような場合は、走行しないでください。ロードサイド・アシスタンス・サービスに連絡して、タイヤ販売店への移動を依頼してください。指定のタイヤ販売店をお薦めします。

注意

コンプレッサーが作動すると圧力は 6 バール程度まで上昇しますが、約 30 秒後に圧力は低下します。

9. 7 分間タイヤに空気を充填します。

重要

コンプレッサーは 10 分以上作動させないでください。過熱するおそれがあります。

10. コンプレッサーのスイッチを切り、プレッシャーゲージの圧力を確認します。タイヤ空気圧が 1.8 ～ 3.5 バールであれば正常です。（タイヤ空気圧が高すぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。）

警告

タイヤ空気圧が 1.8 バール（22 psi）以下の場合は、タイヤのパンク穴が大き過ぎることを意味します。このような場合は、走行しないでください。ロードサイド・アシスタンス・サービスに連絡して、タイヤ販売店への移動を依頼してください。指定のタイヤ販売店をお薦めします。

11. コンプレッサーをオフにして、電気コードを外します。
12. エアホースをタイヤのエアバルブから外して、ダストキャップをタイヤに元通りに取り付けます。
13. 残りのシーリング剤の漏れ防止のため、エアホースに保護キャップを取り付けます。機材をトランクルーム/カーゴスペースに入れてください。

14. シーリング剤でパンク穴が確実に塞がれるように、すみやかに 80 km/h (50 mph)以下の速度で 3 km 以上走行し、その後に事後点検を行います。

注意

最初の数回転ではタイヤのパンク穴からシーリング剤が噴き出します。

警告

車両を発進させるときには、車両の近くに誰もいないこと、シーリング剤が誰にもかからないことを確認してください。距離は 2 m(7 feet)以上である必要があります。

15. 事後点検：

    エアホースをタイヤのエアバルブに接続し、プレッシャーゲージを使用してタイヤ空気圧を点検します。緊急パンクリペアー – 再点検 (p. 398)を参照してください。

関連情報

- 緊急パンクリペアー (p. 394)
- 緊急パンクリペアー – 再点検 (p. 398)
- 緊急パンクリペアーキット – 概要 (p. 395)

[5] 1 バール = 100 kPa

緊急パンクリペアー – 再点検

緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit(TMK)でタイヤの処置をした場合は、約 3 km 走行した後に、再点検を行う必要があります。

空気圧の点検

タイヤシーリング用品を取り出します。コンプレッサーのスイッチをオフにします。

1. タイヤのダストキャップを外します。

   エアホースを取り出し、バルブコネクターをタイヤのエアバルブにネジ部の下までねじ込みます。

2. プレッシャーゲージの圧力を読み取ります。

   - タイヤ空気圧が 1.3 バール[5] 未満の場合は、タイヤのパンク穴が十分に塞がっていません。このような場合は、走行しないでください。ロードサイド・アシスタンス・サービスに連絡してください。
   - タイヤ空気圧が 1.3 バール[5] 以上ある場合は、タイヤ空気圧ラベルの適正な空気圧に達するまで、空気を充填します。タイヤ – 承認された空気圧 (p. 474)を参照してください。
   - タイヤ空気圧が高すぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。

3. タイヤに空気を注入する必要がある場合：

   1. 電気コードをもっとも近くの 12V 電源ソケットに接続して、車両を始動します。
   2. コンプレッサーをオンにして、タイヤ空気圧ラベルに記載されている適正な空気圧に達するまで空気を注入します。
   3. コンプレッサーを止めます。

4. タイヤシーリング用品を取り外します。

   残りのシーリング剤の漏れ防止のため、エアホースに保護キャップを取り付けます。

警告

使用後は、ボトルをホルダーから外さないでください。ボトルには、液漏れを防ぐためのリバースキャッチが付いています。

5. ダストキャップをタイヤに元通りに取り付けます。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して緩めにくくなることがあります。

注意

シーリング剤ボトルおよびホースを使用した後は、必ず新品と交換してください。交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼してください。

警告

タイヤ空気圧は、定期的に点検してください。

最寄りのボルボ指定のサービス工場で、パンクしたタイヤを交換または修理してください。サービス工場に、シーリング剤でタイヤを修理したことを伝えてください。

警告

緊急パンクリペアーキット使用後は、絶対に80 km/h (50 mph)を超える速度で走行しないでください。応急修理をしたタイヤは、ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください(最高許容走行距離 : 200 km)。専門知識のあるスタッフが、そのタイヤは修理可能か、あるいは新しいタイヤと交換する必要があるか判断します。

関連情報

- 緊急パンクリペアー (p. 394)
- 緊急パンクリペアーキット – 操作 (p. 396)
- 緊急パンクリペアーキット – 概要 (p. 395)

緊急パンクリペアーキット – タイヤへの空気注入

車両の純正タイヤは、 緊急パンクリペアーキット(p. 395)に入っているコンプレッサーを使用して空気を入れることができます。

1. コンプレッサーのスイッチをオフにします。スイッチが **0** (オフ)位置にあることを確認し、電源コードおよびエアホースを取り出します。
2. タイヤのダストキャップを外し、エアホースのバルブコネクターをタイヤのエアバルブにネジ部の下までねじ込みます。
3. 電気コードをもっとも近くの 12V 電源ソケットに接続して、車両を始動します。

警告

車の排気ガスを吸入すると、生命に関わるおそれがあります。ガレージなどの密閉された場所や、十分な換気設備のない場所では、絶対にエンジンを始動しないでください。

警告

エンジン作動中、お子様だけを車内に残したまま、車両から絶対に離れないでください。

4. スイッチを **I** (オン)位置にして、コンプレッサーを起動します。

重要

コンプレッサーは 10 分以上作動させないでください。過熱するおそれがあります。

5. タイヤ空気圧表に記載されている空気圧になるように、タイヤに空気を注入します。タイヤ – 承認された空気圧（p. 474）を参照してください。タイヤ空気圧が高すぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。
6. コンプレッサーを止めます。エアホースおよび電気コードを外します。
7. ダストキャップをタイヤに元通りに取り付けます。

関連情報

- 緊急パンクリペアー（p. 394）
- 緊急パンクリペアーキット – 概要（p. 395）
- 緊急パンクリペアー – 再点検（p. 398）

保守点検

ボルボサービスプログラム

信頼できる安全性能を維持するため、メンテナンスノート(整備手帳)に記載されているボルボ点検整備要領に従って、点検整備をおこなってください。

点検整備は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。ボルボ指定のサービス工場にはボルボ車を熟知したメカニックがおり、専用工具やサービス資料も完備していますので、クオリティの高い点検整備をご提供することができます。

重要

ボルボ社の保証が適用されるためには、メンテナンスノート(整備手帳)の指示に従った点検を実施する必要があります。

関連情報

- エアコンディショナーシステム – 故障点検と修理 (p. 416)

コネクテッド・サービス予約*[1]

オンライン車両では、サービス、修理、予約情報を直接管理できます。

この方法[1]を利用すると、車内からサービスおよびサービス工場への入庫を直接予約できます。ご利用のディーラーに車両情報が送信され、ディーラーはサービス工場への入庫準備を行うことができます。ディーラーはお客様に連絡して、入庫予約の日時を決定します。一部の市場では、予約日時が近づくと、システムからお客様に予約情報が通知され、入庫予定日になると、ナビゲーションシステム[2]がサービス工場までお客様を案内することもできます。

サービスを使用する前に

Volvo IDおよびマイプロフィール

- Volvo ID を登録します。詳しい情報およびVolvo ID の作成方法については、Volvo ID (p. 24)を参照してください。
- www.volvocars.com へ移動し、ログインして次の手順に従ってください。

1. 車両がお客様のプロフィールに接続されていることを確認します。
2. お客様の連絡先が正しいことを確認します。
3. サービスおよび修理の件で連絡するボルボディーラーを選択します。
4. ご希望の通信手段(電話)を選択します。予約情報は必ず車両とお客様にメールで送信されます。

車両から予約する場合の必須条件

- 車両から予約情報を送受信するには、車両がインターネットに接続されている必要があります。車両をインターネットに接続する方法については、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。
- 予約情報はお客様がご契約の電話回線で送信されるため、情報の送信について許可が求められます。質問は1回だけです。その後、選択した接続に対して時間制限付きで適用されます。
- サービスを機能させるとともに、システムが車両の画面を介して通信できるようにするには、通知/ポップアップメッセージを許可する必要があります。**MY CAR** ソースの通常ビューで、**OK/MENU** を押し、**サービス & 修理 ➔ サービス & 修理の通知設定**の順に選択します。

サービスの使用

OK/MENU、**サービス & 修理** の順にタップすると、**MY CAR** の通常ビューからすべてのメニューおよび設定にアクセスできます。

サービスの予約が近づいた場合、また、車両の修理が必要になった場合(一部の状況のみ)、そ

[1] 特定市場に適用
[2] Sensus Navigation に適用されます。

の情報がコンバインド・メーター・パネル (p. 102)で通知され、画面にポップアップメニューの形で表示されます。

画面のサービスメッセージ

画面のポップアップメニューに表示される回答選択肢の意味：

- **はい** – 予約照会がディーラーに送信され、後からディーラーがお客様に予約日程案を連絡します。コンバインド・メーター・パネルのサービスランプおよびサービスメッセージが消えます。
- **いいえ** – 今後、画面にポップアップメッセージは表示されなくなります。コンバインド・メーター・パネルのメッセージは残ります。この選択肢を選択した後も、車内から手動予約を行うことができます。以下を参照してください。
- **あとで確認する** – 次回の車両始動時にポップアップメニューが表示されます。

サービスまたは修理の手動予約 [1]

1. センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押して、**サービス & 修理 ➔ ディーラー情報 ➔ サービスまたは修理を申し込む** を選択します。
   > 車両データが自動的にお客様のディーラーに送信されます。
2. ディーラーが車両に予約日程案を送信します。
3. 予約日程案を受け入れるか、新しい予約日程案を要求します。

予約を受け入れると、予約情報が車両に保存されます。「My bookings」を参照してください。車両は予約に関するメッセージを画面に表示して、お客様と自動的にやりとりし、サービス工場への入庫までお客様を案内します。

My bookings[1]

車両の画面に予約情報を表示します。予約日程案を受け入れるか、新しい予約日程案を要求します。

- **サービス & 修理 ➔ サービス & 修理の予約リスト**の順に選択します。

ディーラーに電話する [1]

車両に Bluetooth® で接続されている電話を使用して、ディーラーに電話することができます。電話の接続については、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。

- **サービス & 修理 ➔ ディーラー情報 ➔ ディーラーに電話する**の順に選択します。

ナビゲーションシステム [1, 2] の使用

ご利用のサービス工場を目的地または中継地としてナビゲーションシステムに入力してください。

- **サービス & 修理 ➔ ディーラー情報 ➔ 目的地に設定**の順に選択します。
- **サービス & 修理 ➔ ディーラー情報 ➔ 経由地として追加**の順に選択します。

1 特定市場に適用
2 Sensus Navigation に適用されます。

車両データの送信[1]

車両データは本社のボルボデータベース(ご利用のディーラーではありません)に送信され、ボルボディーラーは車両の車台番号(VIN[3])を使用してそのデータベースから車両情報を読み出します。車台番号(VIN)は車両のメンテナンスノート(整備手帳)に印刷されています。また、ウインドスクリーンの左下隅にも表示されています。

- **サービス & 修理 ➔ 車両データを送信**の順に選択します。

予約情報および車両データ

車内からサービスの予約を行うときには、予約情報と車両データが送信されます。車両データは以下の情報で構成されます。

- サービス要件
- 機能の状態
- フルードレベル
- メーター値
- 車台番号(VIN[3])
- 車両のソフトウェアバージョン

関連情報

- Volvo ID (p. 24)

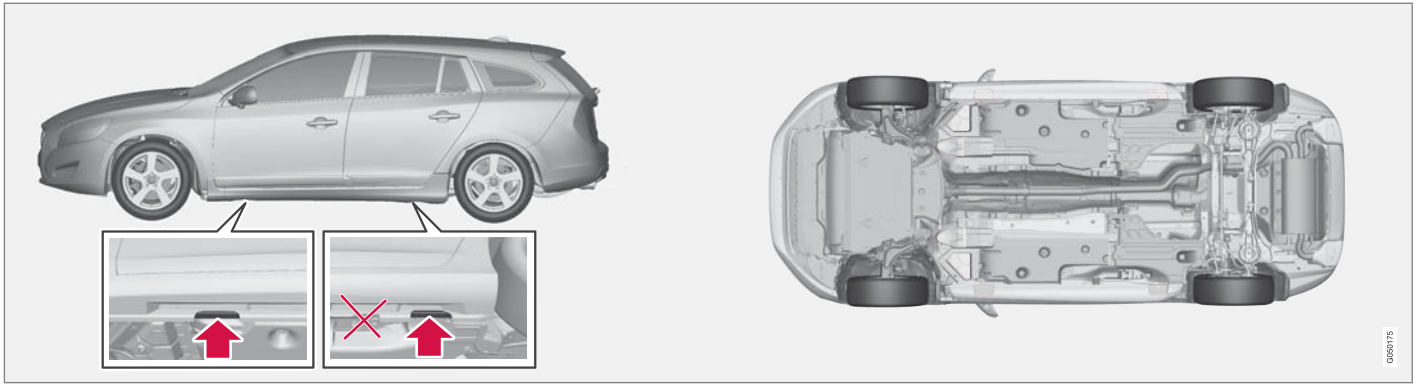
[1] 特定市場に適用
[3] 車台番号(VIN)

車両リフトアップ

車両をリフトアップする際は、ジャッキまたはリフトアームが車両下の所定位置に固定されていることが重要です。

注意

ボルボ社は、車両搭載ジャッキのみの使用を推奨しています。ボルボ純正以外のジャッキを使用する場合には、ジャッキに添付されている指示に従ってください。



車両付属ジャッキ用のジャッキポイント(矢印)とリフティングポイント(赤印)

車両をフロントガレージジャッキで持ち上げる場合、車両下のもっとも内側のリフティングポイント 4 箇所のいずれか 1 つの下に配置する必要があります。車両をリアガレージジャッキで持ち上げる場合、リフティングポイントのいずれか 1 つの下に配置する必要があります。車両がガレージジャッキから外れないように、注意してジャッキを配置してください。必ずアクスルスタンドなどを使用してください。

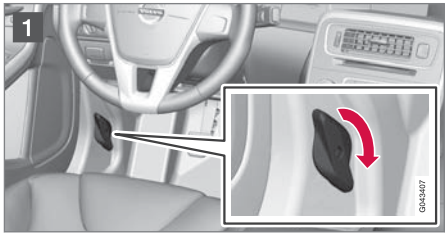
車両を 2 柱リフトで持ち上げる場合、フロントおよびリアリフティングアームを外側のリフティングポイント(ジャッキポイント)の下に配置することができます。別の方法として、フロントでは内側のリフティングポイントを使用することもできます。

関連情報

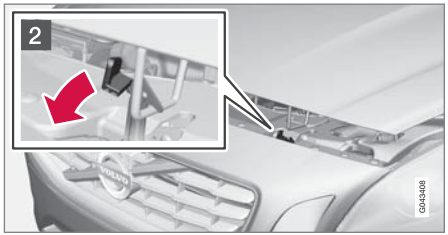
- タイヤの交換 – タイヤを取り外す (p. 385)

ボンネット – 開閉

ボンネットは、車内のハンドルを時計周りに回し、ラジエーターグリル横のロックを左に押すと開きます。



ボンネットを開くためのハンドルは、左側にあります。



1 ハンドルを 20～25 度時計回りに回します。キャッチが解除されると、音がします。

2 キャッチを左に押して、ボンネットを開けます。(キャッチフックは、ヘッドライトとラジエーターグリルの間にあります。図参照。)

⚠ 警告

ボンネットを閉めたときは、完全にロックしているか確認してください。

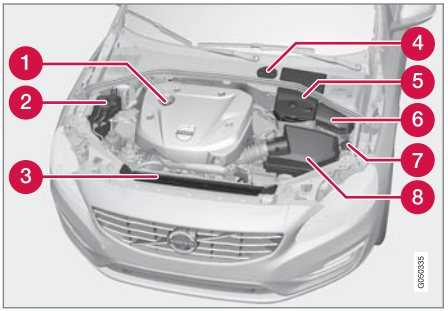
関連情報

- エンジンルーム – 点検 (p. 409)
- エンジンルーム – 概要 (p. 407)

エンジンルーム – 概要

この概要では、サービスと関係のあるコンポーネントをいくつか示します。

エンジンルーム 4 気筒



モデルおよびエンジンタイプにより、エンジンルームの外観が図と異なる場合があります。

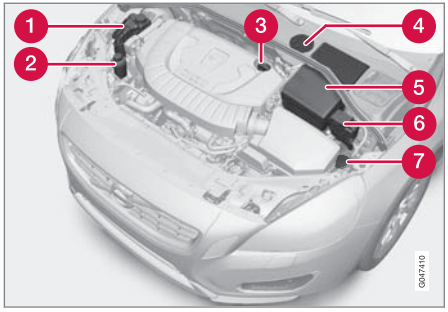
1. エンジンオイルフィラーパイプ
2. エキスパンションタンク (冷却水)
3. ラジエーター
4. ブレーキおよびクラッチフルード用リザーバータンク (運転席側に配置)
5. バッテリー
6. リレーおよびヒューズボックス
7. ウォッシャー液フィラーパイプ
8. エアフィルター

⚠ 警告

イグニッションシステムには、高電圧がかかり、出力も大きくなっています。イグニッションシステムの電圧は非常に高く危険です。エンジンルーム内でなんらかの作業をする場合には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。

車両の電気系統がキー位置 **II** のとき、あるいはエンジンが高温のときには、スパークプラグやイグニッションコイルに触れないでください。

エンジンルーム 5 気筒ディーゼル



モデルおよびエンジンタイプにより、エンジンルームの外観が図と異なる場合があります。

1. エキスパンションタンク（冷却水）
2. パワーステアリングフルードリザーバータンク
3. エンジンオイルフィラーパイプ
4. ブレーキおよびクラッチフルード用リザーバータンク（運転席側に配置）
5. バッテリー
6. リレーおよびヒューズボックス
7. ウォッシャー液フィラーパイプ

⚠ 警告

エンジンルーム内でなんらかの作業をする場合には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。

関連情報

- ボンネット – 開閉（p. 407）
- エンジンルーム – 点検（p. 409）

エンジンルーム – 点検

オイルおよびフルードには定期的な点検が必要なものがあります。

定期点検

次に挙げるオイルおよびフルードは、定期的(燃料補給時など)に点検してください。

- クーラント
- エンジンオイル
- パワーステアリングフルード(4 気筒エンジン搭載車以外)
- ウォッシャー液

⚠ 警告

ラジエーターファン(エンジンルーム前部のラジエーターの後方にある)は、エンジンが停止した後に自動的に作動を開始する、または最長で約 6 分間作動し続けることがあります。

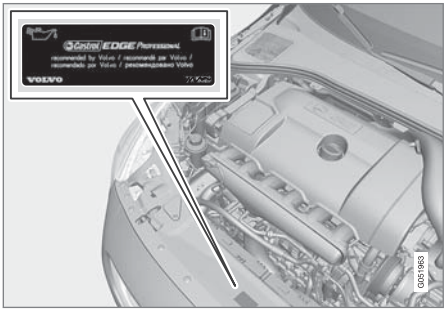
エンジンの洗浄は必ずサービス工場で実施してもらうようにしてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。エンジンが高温のときは、火災につながるおそれがあります。

関連情報

- ボンネット – 開閉 (p. 407)
- エンジンルーム – 概要 (p. 407)
- クーラント – レベル (p. 414)
- エンジンオイル – 点検および補充 (p. 410)
- パワーステアリングフルード – レベル (p. 415)
- ウォッシャー液 – 補充 (p. 427)

エンジンオイル – 概要

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。



ボルボ社の推奨品：

Castrol EDGE PROFESSIONAL

G050450

過酷な条件下で走行する場合は、エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 465)を参照してください。

重要

エンジンのサービスインターバルに適応できるように、工場で特別な合成エンジンオイルがエンジンに充填されています。このオイルは、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全を十分考慮して選定されています。

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。オイルの補充および交換時には、指定グレードのオイル以外使用しないでください。異なるオイルを使用すると、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全に悪影響を与えます。

指定グレードおよび粘度以外のオイルを使用した場合、ボルボ社の保証も適用されなくなります。

オイル交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼されることをお薦めします。

ボルボでは、オイルレベル上昇/低下警告システムや油圧低下警告システムに、異なるシステムを使用しています。一部のエンジンタイプの車両には、油圧センサーが装備されています。その場合、コンバインド・メーター・パネルの油圧低下警告灯 が使用されます。その他の車両には、オイルレベルセンサーが装備されています。メーター・パネルの警告灯 およびディスプレイテキストで運転者に警告します。また、両方のシステムを搭載しているモデルもあります。詳しくは、ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください。

エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換時期は、別冊のメンテナンスノート(整備手帳)を参照してください。

ボルボ社が指定するオイルグレードよりも高いグレードのオイルは、使用が認められています。ボルボは、過酷な状況下で走行する際には、指定のオイルよりもグレードの高いオイルの使用をお薦めします。エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 465)を参照してください。

補充量については、エンジンオイル – グレードおよび容量 (p. 466)を参照してください。

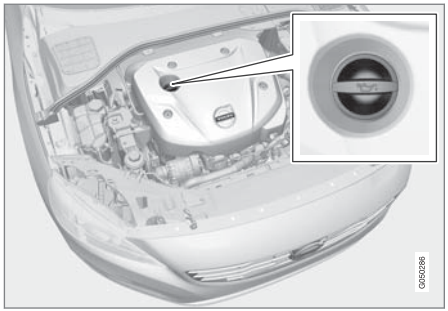
関連情報

- エンジンオイル – 点検および補充 (p. 410)

エンジンオイル – 点検および補充

オイルレベルは、電子式オイルレベルセンサーによって感知されます。

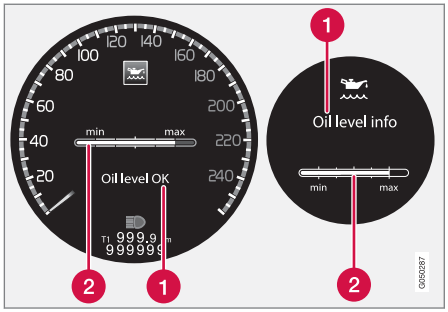
4 気筒



フィラーパイプ [4]

場合によっては、次のサービスまでの間にオイルを補充する必要があります。

コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示されるまで、エンジンオイルレベルユニットに対する処置は不要です。以下の図を参照してください。



ディスプレイに表示されたメッセージとグラフィック左側のディスプレイはデジタルコンバインド・メーターで右側のディスプレイはアナログ式です。

1. メッセージ
2. エンジンオイルレベル

オイルレベルは、エンジンが停止しているときに、コントロールダイヤルで電子式オイルレベルゲージを使用して点検します。メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル (p. 151)を参照してください。

⚠ 警告

メッセージ **オイル点検して下さい** が表示された場合、サービス工場で点検を受けてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。オイルレベルが異常に高くなっている場合があります。

重要

オイルレベルの低下が表示された場合、必ず指定された量(例：0.5 L)だけを補充してください。

注意

オイルが補充または排出されても、システムは変化を直接検出することができません。オイルレベルが正しく表示されるためには、車両を約 30 km (約 20 miles)走行させ、その後、エンジン停止状態で水平な場所に5 分間静止させておく必要があります。

⚠ 警告

高温のエキゾーストパイプの上に、オイルをこぼさないでください。火災につながるおそれがあります。

[4] 電子式オイルレベルセンサー付きエンジンには、オイルレベルゲージがありません。

オイルレベルの測定、4 気筒

オイルレベルの点検が必要であれば、以下の手順通りにおこなってください。

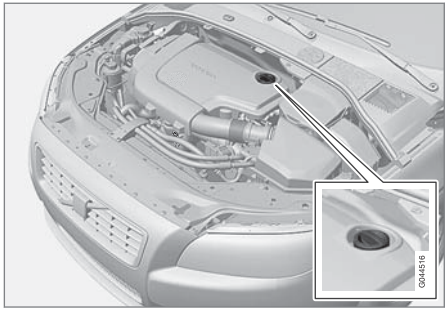
1. キー位置 II にします。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。
2. 左側レバースイッチのコントロールダイヤルを **ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ** 位置まで回します。
   > エンジンオイルレベルに関する情報が表示されます。

   メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル（p. 151）を参照してください。

注意

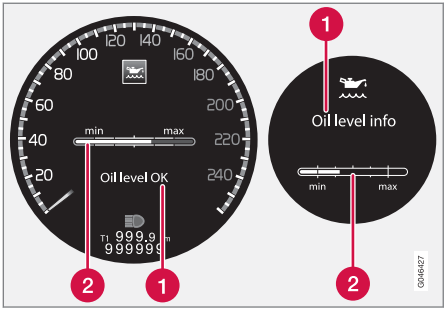
オイルレベルの適切な測定条件(エンジン停止からの経過時間、車両の傾き、外気温など)が満たされていないと、メッセージ **利用できません** が表示されます。これは車両のシステムに問題があることを示すものではありません。

5 気筒ディーゼル



フィラーパイプ[5]

コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示されるまで、エンジンオイルレベルユニットに対する処置は不要です。以下の図を参照してください。



ディスプレイに表示されたメッセージとグラフィック左側のディスプレイはデジタルコンバインド・メーターで右側のディスプレイはアナログ式です。

1. メッセージ
2. エンジンオイルレベル

オイルレベルは、エンジンが停止しているときに、コントロールダイヤルで電子式オイルレベルゲージを使用して点検します。メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル(p. 151)を参照してください。

[5] 電子式オイルレベルセンサー付きエンジンには、オイルレベルゲージがありません。

⚠ 警告

メッセージ **オイル点検して下さい** が表示された場合、サービス工場で点検を受けてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。オイルレベルが異常に高くなっている場合があります。

重要

メッセージ **ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ低下 0.5ﾘｯﾄﾙ補充して下さい** が表示されたら、オイルを0.5リットルのみ補充してください。

注意

オイルレベルは走行中にシステムによって検出されます。オイルが補充または排出されても、システムは変化を直接検出することができません。車両が約 30 km 走行するまで、オイルレベルの表示は正しくありません。

⚠ 警告

下の図の通りにオイルレベルが(3)または(4)のように表示されている場合には、それ以上オイルを補充しないでください。オイルレベルが、**MAX** を上回ったり、**MIN** を下回ったりしないようにしてください。エンジンが損傷を受けるおそれがあります。

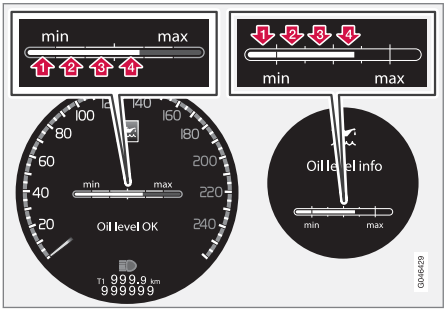
⚠ 警告

高温のエキゾーストパイプの上に、オイルをこぼさないでください。火災につながるおそれがあります。

オイルレベルの測定、5 気筒ディーゼル

オイルレベルの点検が必要であれば、以下の手順通りにおこなってください。

1. キー位置 **II** にします。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。
2. 左側レバースイッチのコントロールダイヤルを **ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ** 位置まで回します。
   > エンジンオイルレベルの情報が表示されます。次図を参照してください。ディスプレイにメッセージとグラフィックが表示されています。左側のディスプレイはデジタルコンバインド・メーターで右側のディスプレイはアナログ式です。
   >
   > メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション – コンバインド・メーター・パネル（p. 151）を参照してください。



数値 1～4 は補充レベルを示します。補充レベル(3)または(4)が表示されている場合には、オイルを補充しないでください。推奨補充レベルは 4 です。

関連情報

- エンジンオイル – 概要（p. 409）

クーラント – レベル

クーラントは内燃エンジンを冷却して正しい動作温度を維持させます。エンジンからクーラントに伝わった熱は車内ヒーターに使用されることがあります。

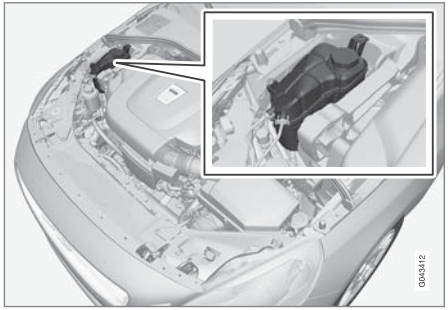
レベルの点検

クーラントレベルは、エキスパンションタンクの **MIN** と **MAX** のマークの間でなければなりません。冷却水の量が不足するとエンジンが過度に高温になり、損傷するおそれがあります。

注意

クーラントレベルは定期的に点検する必要があります。エンジンが冷えているときに点検してください。

補充



冷却水を補充するときは、容器に記載されている説明に従ってください。絶対に水だけを補充しないでください。冷却水の混合比が不適切な場合、凍結してエンジンが損傷するおそれがあります。

車両の下に冷却水が漏れている場合、冷却水から煙が発生している場合、または 2 リットル 以上の冷却水を補充してしまった場合は、必ず修理を依頼してください。クーリングシステムに不具合がある状態でエンジンを始動すると、エンジンが損傷するおそれがあります。

警告

クーラントは、非常に高温になります。エンジンが温まったときにクーラントを補充する場合は、エキスパンションタンクのキャップを少しずつゆるめて、タンク内の圧力を逃がしてください。

重要

- 塩素、塩化物、およびその他の塩類は、クーリングシステムに錆が発生する原因となります。
- ボルボ社が推奨する、防錆剤入りの冷却水(クーラント)を使用してください。
- 冷却水の混合比は、水 50%、クーラント 50%になるようにしてください。
- クーラントと混合する水には、承認された水質の水を使用してください。水質に問題がある場合は、ボルボ社が推奨する混合済みクーラントを使用してください。
- クーラント/クーリングシステムの部品交換の際は、承認された水質の水または混合済みクーラントでクーリングシステムを洗浄してください。
- エンジンに、十分な量の冷却水が必要です。冷却が十分ではないと、温度が異常に上昇し、シリンダーヘッドに損傷(亀裂)が発生するおそれがあります。

容量や水質基準に関しては、クーラント – グレードおよび容量 (p. 468)を参照してください。

ブレーキおよびクラッチフルード – レベル

ブレーキおよびクラッチフルードのレベルは、リザーバータンクの MIN と MAX のマークの間でなければなりません。

レベルの点検

ブレーキフルードおよびクラッチフルードは、リザーバータンクを共用しています。レベルは、リザーバータンクの内側にある MIN と MAX マークの間でなければなりません。このレベルは、定期的に点検してください。

ブレーキフルードは必ず 2 年ごと、または定期点検 2 回につき 1 回交換してください。

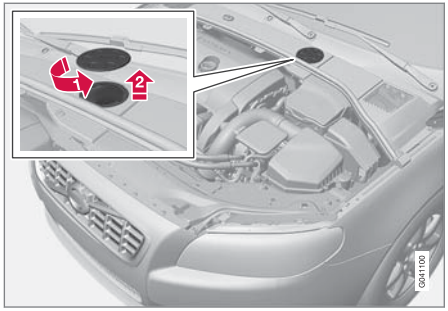
山道のような急ブレーキを頻繁に使用するような条件下や、高温多湿地域で使用する場合は、ブレーキフルードを必ず毎年交換してください。

ブレーキフルードの容量および推奨グレードについては、ブレーキフルード – グレードおよび容量（p. 470）を参照してください。

⚠ 警告

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの MIN マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。ブレーキフルードが減った原因を、ボルボ指定のサービス工場で点検する必要があります。

補充



リザーバータンクの位置（運転席側）

リザーバータンクは、エンジンルーム内のコールドゾーンを覆うカバーの下で保護されています。円形のカバーを外すと、その下にリザーバーキャップがあります。

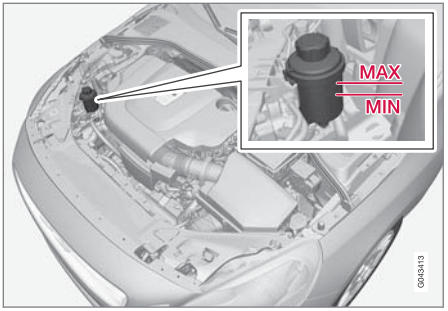
1. 覆いの上にあるカバーを回して開けます。
2. リザーバーキャップを外して、フルードを補充します。このレベルは、必ずリザーバータンク内側の MIN と MAX のマークの範囲内になるようにしてください。

! 重要

キャップを忘れず元通りに取り付けてください。

パワーステアリングフルード – レベル

4 気筒エンジン搭載車では、パワーステアリングフルードは使用されていません。別のエンジンが搭載されている車両の場合、パワーステアリングフルードレベルがリザーバータンクの MIN マークと MAX マークの間でなければなりません。フルードの交換は不要です。



! 重要

パワーステアリングフルードのレベルを点検するときは、パワーステアリングフルードリザーバータンクの周囲をきれいな状態に保ってください。カバーを開けないでください。

フルードレベルの点検は、定期的に行ってください。フルードの交換は不要です。レベルは、

▶▶

MIN マークと **MAX** マークの間でなければなりません。

フルードの推奨グレードについては、パワーステアリングフルード - グレード (p. 470)を参照してください。

⚠ 警告

パワーステアリングシステムに不具合がある場合やエンジンが停止した状態で車両をけん引する必要がある場合、通常よりもハンドルがかなり重くなります。けん引時の注意事項(p. 374)を参照してください。

エアコンディショナーシステム - 故障点検と修理

エアコンディショナーシステムは、必ずボルボ指定のサービス工場で点検整備および修理を行ってください。

故障点検および修理

エアコンディショナーシステムには、蛍光性の透写剤が含まれています。漏れ検知作業の際には、UV ライトを使用する必要があります。

ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

R134a 冷媒仕様車

⚠ 警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R134a が加圧充填されています。このシステムの保守や修理は、必ずボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

R1234yf 冷媒仕様車

⚠ 警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R1234yf が加圧充填されています。SAE J2845(自動車用 A/C システムに使用される冷媒の安全な点検整備および格納のための技術トレーニング)に従い、冷媒システムの点検整備および修理は、必ず資格および技能を有する技術者が行い、システムの安全を確保する必要があります。

関連情報

- ボルボサービスプログラム (p. 402)

ランプ交換 – 概要

車両のバルブの中には、運転者が交換できるものがあります。LED ランプおよびキセノンランプの交換については、サービス工場にご連絡ください。

バルブは指定(p. 424)されています。以下のリストには、バルブの位置や、LED[6] などの指定品を使用する光源、またはサービス工場[7] 以外での交換には適さない光源の位置が記載されています。

- アクティブキセノンヘッドライト – ABL(キセノンランプ)
- デイタイムランニングライト/ポジションランプ
- コーナリングライト
- サイド方向指示器、ドアミラー
- アプローチライト、ドアミラー
- ルームランプ(フロントカーテシーランプとは別)
- テールランプ
- サイドマーカーランプ
- ブレーキランプ

⚠ 警告

キセノンヘッドライトが装備されている車両では、キセノンランプの交換は、サービス工場で実施する必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。キセノンランプには高電圧ユニットが使用されているため、作業には細心の注意が必要です。

⚠ 警告

バルブ交換時には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119)を参照してください。

重要

バルブのガラス部分は、絶対に触らないでください。指などで触れると、付いた脂がバルブ点灯中に熱で蒸発してリフレクターに付着し、リフレクターが劣化します。

注意

不具合のあるバルブを交換した後でも、エラーメッセージが消えない場合には、車両をボルボ指定のサービス工場にお持ちください。

注意

ヘッドライトやリアランプなどのエクステリアランプでは、レンズの内側が一時的に曇る場合があります。これは異常ではありません。エクステリアランプは、このような曇りに耐えるように設計されています。ライトをしばらく点灯させると、曇りは自然に解消します。

関連情報

- ランプ交換 – ヘッドライト (p. 418)
- ランプ交換 – リアランプの位置 (p. 422)
- ランプ交換 – メイクアップミラーランプ (p. 423)
- ランプ交換 – カーゴスペースランプ (p. 423)
- ランプ交換 – ナンバープレートランプ (p. 423)

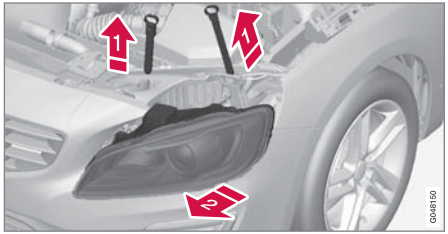
[6] LED(Light Emitting Diode)
[7] ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

ランプ交換 – ヘッドライト

ヘッドライトのすべてのバルブは、エンジンルームからヘッドライト全体を取り外して交換します。

ヘッドライトの取り外し

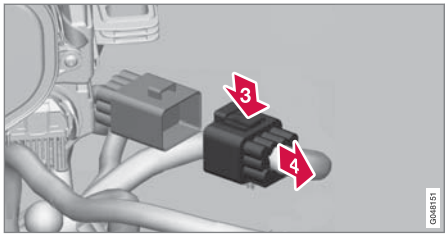
車両の電気系統をキー位置 **0** にします。キー位置 – 各レベルでの機能（p. 119）を参照してください。



1. ヘッドライトのロッキングピンを引き抜いてください。
2. ヘッドライトを交互に傾けてゆるめ、引き出します。

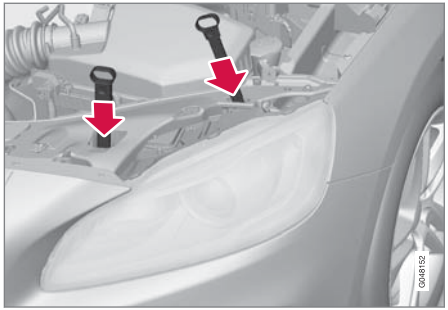
重要

ケーブルを引っ張らないでください。必ず、コネクターを引いてください。



3. 親指でクリップを押し下げながら、ヘッドライトコネクターを引き出します。
4. 同時にもう片方の手で、コネクターを引き出します。
5. ヘッドライトを取り外し、レンズを傷付けないように、柔らかい布などの上に置きます。
6. 該当バルブを交換します。

ヘッドライトの取り付け



1. カチッと音が聞こえるまでコネクターを差し込みます。
2. ヘッドライトおよびロッキングピンを元の位置に取り付けます。短いピンをラジエーターグリルに一番近いところに取り付けます。しっかりと差し込まれていることを確認してください。
3. 点灯するか確認します。

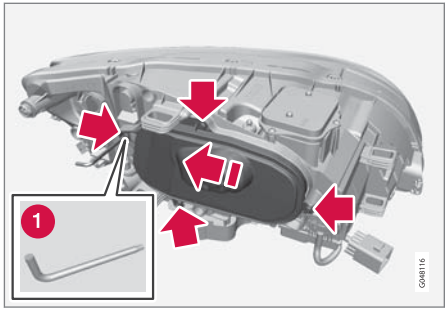
ライトのスイッチをオンにする前、またはリモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入する前に、コネクターが正しく差し込まれ、ヘッドライトが取り付けられている必要があります。

関連情報

- ランプ交換 – 概要（p. 417）
- ランプ交換 – ハイ/ロービームバルブ用カバー（p. 419）
- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – ハイ/ロービームバルブ用カバー

ハイ/ロービームのバルブへアクセスするには、ヘッドライトの大きい方のカバーを外します。



バルブを交換する前に、ランプ交換 – ヘッドライト (p. 418)を参照してください。

1. サイズ T20 のトルクスツール(1)を使用してカバーの 4 つのスクリューをゆるめます。完全にはゆるめないでください。(3〜4 回転で十分です。)
2. カバーを片側にスライドさせます。
3. カバーを外します。

逆の順序でカバーを元の位置に取り付けます。

関連情報

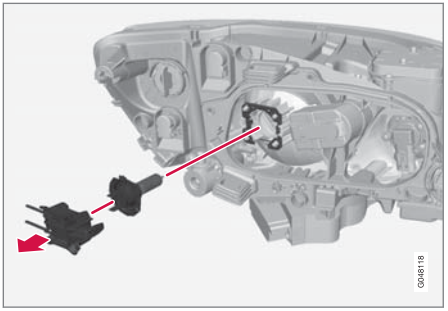
- ランプ交換 – ヘッドライト (p. 418)
- ランプ交換 – ロービーム (p. 419)
- ランプ交換 – ハイビーム (p. 420)
- ランプ交換 – エクストラハイビーム (p. 421)

ランプ交換 – ロービーム

ロービームバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。



1. ヘッドライト(p. 418)を外します。
2. カバー(p. 419)を外します。
3. バルブからコネクターを取り外します。
4. バルブをまっすぐ引き出します。
5. ランプ上のガイドピンがまっすぐ上を向くようにして取り付けてください。正しい場所にはまるとカチッと音が聞こえます。

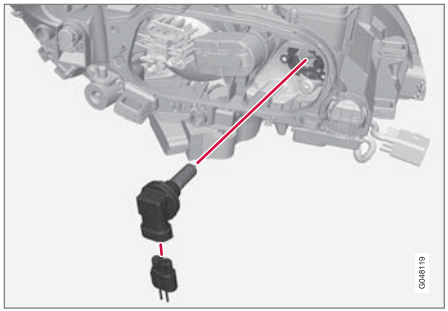
逆の順序で部品を元の位置に取り付けます。

関連情報
- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – ハイビーム

ハイビームバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

> **注意**
>
> ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。



1. ヘッドライト(p. 418)を外します。
2. カバー(p. 419)を外します。
3. バルブを反時計回りに回して外し、まっすぐ引き出します。
4. バルブからコネクターを取り外します。
5. バルブを交換してソケットにはめ込み、時計回りに回して固定します。取り付け可能な位置は、1 箇所のみです。

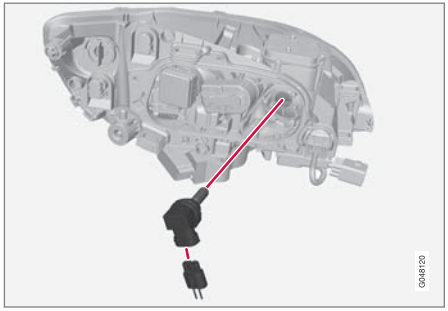
逆の順序で部品を元の位置に取り付けます。

関連情報
- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – エクストラハイビーム

エクストラハイビームのバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

> **注意**
>
> キセノンヘッドライト*装着車に適用されます。



1. ヘッドライト(p. 418)を外します。
2. カバー(p. 419)を外します。
3. バルブを反時計回りに回して外し、まっすぐ引き出します。
4. バルブからコネクターを取り外します。
5. バルブを交換してコネクターにはめ込み、時計回りに回して固定します。取り付け可能な位置は、1 箇所のみです。

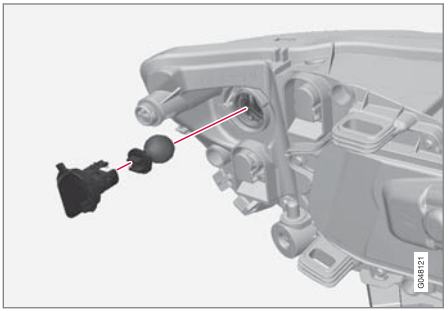
逆の順序で部品を元の位置に取り付けます。

関連情報

- ランプ – 仕様 (p. 424)

ランプ交換 – フロント方向指示器

方向指示器のランプはヘッドライトの小さい方のカバーの下に取り付けられています。



1. ヘッドライト(p. 418)を外します。
2. カバーをまっすぐ引き出して外します。
3. バルブホルダーを引いて、バルブを引き出します。
4. バルブを押しながら反時計回りに回して取り外します。

逆の順序で部品を元の位置に取り付けます。

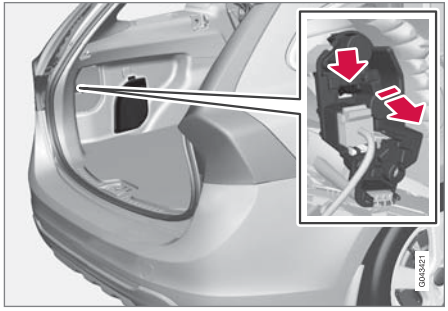
関連情報

- ランプ – 仕様 (p. 424)

ランプ交換 – リアランプ

リア方向指示器、リアフォグランプ、後退灯のバルブは、カーゴスペースの内側から交換します。

ランプハウジング、リア



リアランプクラスター内の後退灯、フォグランプおよび方向指示器のバルブは、カーゴスペースの内側から交換します。

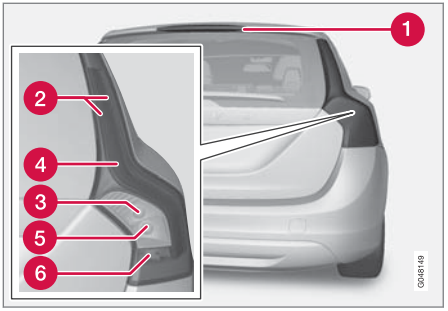
1. パネルを開きます。
2. バルブホルダーの前に取り付けられているシール材をまっすぐ引いて外します。
3. キャッチを押し下げ、バルブホルダーを引き出して外します。
4. 切れたバルブを押し込んで反時計回りに回し、取り外します。
5. 新しいバルブを取り付け、押し込みながら時計回りに回します。
6. バルブホルダーを再度取り付ける際には、キャッチを押し下げます。
7. シール材とパネルを再び取り付けます。

関連情報

- ランプ交換 – リアランプの位置（p. 422）
- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – リアランプの位置

リアのランプの位置が示されています。



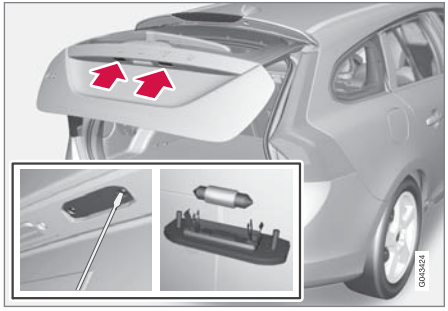
1. ブレーキランプ(LED)
2. テールランプ(LED)/サイドマーカーランプ(LED)
3. 方向指示器(p. 422)
4. ブレーキランプ(LED)
5. 後退灯
6. フォグランプ

関連情報

- ランプ交換 – 概要（p. 417）
- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – ナンバープレートランプ

ナンバープレートランプはテールゲートハンドルの下にあります。



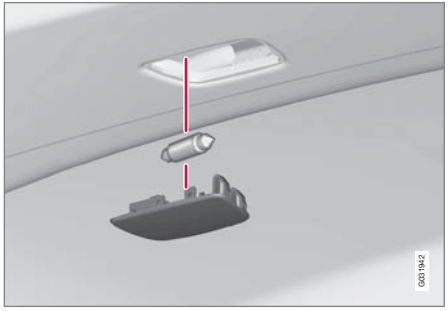
1. ドライバーを使用して、スクリューをゆるめて外します。
2. バルブハウジング全体を、注意して引き出します。
3. バルブを交換します。
4. バルブハウジングを元の位置に戻して、スクリューで固定します。

関連情報

- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – カーゴスペースランプ

カーゴスペースランプはテールゲートにあります。



1. パネルとランプハウジングの間にドライバーを差し込み、軽く押し開けながら注意してランプハウジングを外します。
2. バルブを交換します。
3. バルブが点灯することを確認して、ランプハウジングを元の位置に押し戻します。

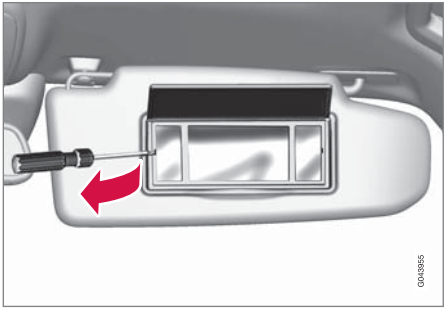
関連情報

- ランプ – 仕様（p. 424）

ランプ交換 – メイクアップミラーランプ

メイクアップミラーランプはランプレンズの内側に取り付けられています。

ランプレンズの取り外し



1. ランプレンズの下にドライバーを差し込み、軽く押し開けながら注意して端のロックラグを外します。
2. 注意してランプレンズを外します。
3. ラジオペンチを使用してバルブをまっすぐ横向きに引き出し、新しいバルブと交換します。注意！– バルブをペンチで強く挟まないでください。ランプレンズが壊れるおそれがあります。

ランプレンズの取り付け

1. ランプレンズを再び取り付けます。
2. 所定位置に押し入れてください。

関連情報

- ランプ – 仕様 (p. 424)

ランプ – 仕様

この仕様はバルブに該当します。LED ランプおよびキセノンランプの交換については、サービス工場にご連絡ください。

ライト	W[A]	タイプ
ロービームランプ、ハロゲン	55	H7 LL
ハイビームランプ、ハロゲン	65	H9
エクストラハイビーム、ABL	65	H9
フロント方向指示器	24	PY24W
フロントカーテシーランプ	3	T10 ソケット W2.1x9.5d
グローブボックスランプ	5	ソケット SV8.5 長さ 43 mm
メイクアップミラーランプ	1.2	T5 ソケット W2x4.6d
カーゴスペースランプ	5	ソケット SV8.5 長さ 43 mm
ナンバープレートランプ	5	C5W LL
リア方向指示器	21	PY21W LL
–	–	–
後退灯	21	H21W LL
リアフォグランプ	21	H21W LL

A ワット

関連情報

- ランプ交換 – 概要 (p. 417)

ワイパーブレード

ワイパーブレードはウインドスクリーンやリアウインドの水滴を取り除きます。ウォッシャー液を同時に使用してウインドを洗浄すると良好な視界を保つことができます。

ウインドスクリーンのワイパーブレードを交換する際は、サービスポジションにする必要があります。

サービスポジション

サービスポジションのワイパーブレード

ワイパーブレードの交換、清掃、持ち上げなどを行うため(例えば、ウインドスクリーン上の凍結した氷を除去するため)には、必ずサービスポジションにしてください。

重要

ワイパーブレードをサービスポジションにする前に、凍結していないことを確認してください。

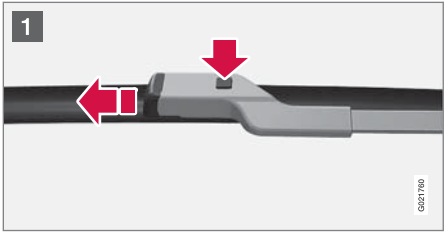
1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し[8]、**START/STOP ENGINE** ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にします。キー位置についての詳細は、キー位置 – 各レベルでの機能 (p. 119) を参照してください。
2. **START/STOP ENGINE** ボタンをもう一度軽く押し、車両の電気系統をキー位置 **0** にセットしてください。
3. 3 秒以内に右側レバースイッチを押し上げ、約 1 秒間その位置に保ってください。
   > ワイパーはまっすぐ立ち上がります。

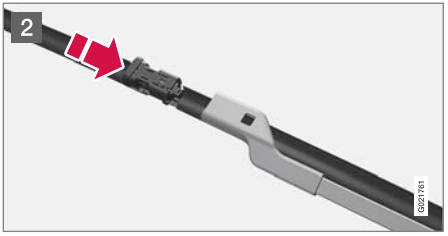
START/STOP ENGINE ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にすると(もしくは、エンジンを始動すると)、ワイパーは初動位置に戻ります。

重要

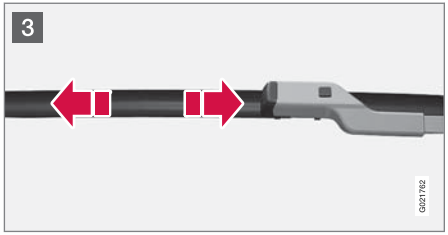
ウインドスクリーンからサービスポジションでワイパーアームが起こしてある場合には、ワイパーを始動する前に、ウインドスクリーンの方に倒して元の位置に戻してください。これは、ボンネットの塗装に傷を付けないようにするためです。

ワイパーブレードの交換





[8] キーレス始動およびロックシステム装備車の場合は不要。



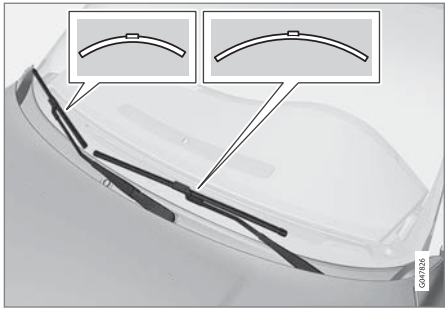
1 サービスポジションのときにはワイパーアームを折りたたんでください。ワイパーブレードのマウンティングにあるボタンを押しながら、ワイパーブレードをワイパーアームと並行方向にまっすぐ引き抜きます。

2 カチッと音がするまで、新しいワイパーブレードを差し込みます。

3 ワイパーブレードが確実に固定されているか確認します。

4. ワイパーアームをウインドスクリーンの方に倒して戻します。

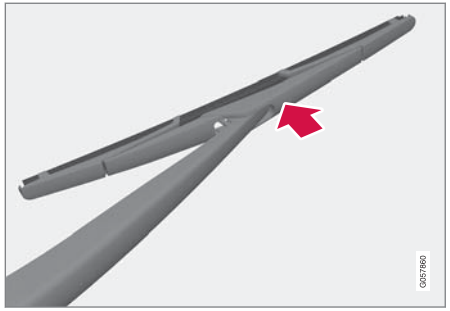
START/STOP ENGINE ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にすると(もしくは、エンジンを始動すると)、ワイパーはサービスポジションから初動位置に戻ります。



注意

ワイパーブレードは、長さが異なります。運転席側のワイパーブレードの方が、助手席側のワイパーブレードよりも長くなっています。

リアウインドワイパーブレードの交換



1. ワイパーアームを起こします。
2. ワイパーブレードをワイパーアームから外側に少し傾けます。
3. ワイパーアームをつかみ、親指の力でブレードを前方(矢印方向)に押して外します。
4. 新しいワイパーブレードを、所定位置に差し込みます。確実に取り付けられているか確認してください。
5. ワイパーアームをウインドスクリーンの方に倒して戻します。

清掃

ワイパーブレードおよびウインドスクリーンの清掃については、洗車 (p. 448)を参照してください。

重要

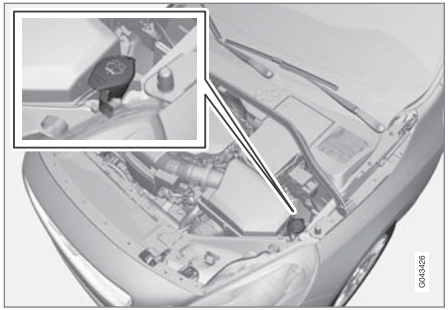
ワイパーブレードは定期的に点検してください。メンテナンスを怠ると、ワイパーブレードの耐用年数が短くなります。

関連情報

- ウォッシャー液 – 補充 (p. 427)

ウォッシャー液 – 補充

ウォッシャー液はヘッドライトとウインドの洗浄に使用します。気温が氷点下の場合は、凍結防止剤を含むウォッシャー液を必ず使用してください。



ブルーのキャップを開けて、ウォッシャー液を補充します。

ウインドスクリーンウォッシャーとヘッドライトウォッシャーは、ウォッシャー液リザーバータンクを共用しています。

注意

リザーバータンク内のウォッシャー液の残量が約 1 リットルになると、ウォッシャー液の補充を促すメッセージと シンボルがコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

指定グレード： ボルボ純正ウォッシャー液 – 寒冷時の氷点下の気温でも凍結から保護します。

重要

ボルボ純正ウォッシャー液、または推奨 pH(6～8)の同等品を適切に希釈(例:中性水と 1:1 の割合で希釈)して使用してください。

重要

ポンプやリザーバータンク、ホース内で凍結しないように、温度が氷点下のときは、凍結防止効果のあるウォッシャー液を使用してください。

容量：

- ヘッドライトウォッシャー**装備**の車両：5.4 リットル
- ヘッドライトウォッシャー**装備なし**の車両：4.0 リットル

関連情報

- ワイパーブレード（p. 425）
- ワイパーおよびウォッシャー（p. 141）
- ボンネット – 開閉（p. 407）

メインバッテリー – 概要

メインバッテリーは、車両のスターターモーターとその他の電気装備の駆動に使用されます。

メインバッテリーは、従来の 12V バッテリーです。

メインバッテリーの耐用年数および性能は、エンジンの始動回数、車両の使用状況、運転方法、および天候など、色々な要素に影響されます。

- エンジン作動中は、絶対にメインバッテリーの接続を外さないでください。
- メインバッテリーの配線が正しく、確実に接続されているか確認してください。

電圧(V)	12
冷寒始動電流(コールドスタートキャパシティ)[A] – CCA[B](A)	720
寸法、L×W×H（mm）	278×175×190
容量(Ah)	70

A EN 規格準拠
B Cold Cranking Amperes

重要

Start/Stop 機能装備車のメインバッテリーを交換する場合、EFB[9] タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

重要

補助バッテリーを交換する場合、AGM[10] タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

重要

メインバッテリーを交換する場合は、既存のバッテリーと冷間始動性能およびタイプ(バッテリーのラベルを参照)が同じバッテリーと交換してください。

注意

メインバッテリー容器のサイズは、元々取り付けられていたバッテリーの寸法と同じであるようにしてください。

9 Enhanced Flooded Battery
10 Absorbed Glass Mat

⚠ 警告

- バッテリーからは、非常に引火性の高い、酸素と水素の混合ガスが発生します。ジャンパーケーブルを正しく接続しないと、火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- フューエルシステムコンポーネントまたは可動部にはジャンパーケーブルを接続しないでください。高温のエンジンパーツに注意してください。
- バッテリー液には、腐食性の強い希硫酸が使用されており、触れると重度のヤケドを負うおそれがあります。
- 電解液が目、皮膚または衣服に付着した場合は、ただちに大量の水で洗い流してください。目に入った場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- バッテリーの近くでは絶対に喫煙しないでください。

重要

メインバッテリーまたは補助バッテリー (p. 432)を充電する場合、必ず充電電圧制御機能付きの最新バッテリーチャージャーを使用してください。高速充電機能は使用しないでください。バッテリーが損傷するおそれがあります。

重要

以下の指示に従わないと、外付けバッテリーやバッテリーチャージャーを接続した後、インフォテイメントシステムの節電機能が一時的に解除されたり、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメインバッテリーの充電状態に関するメッセージが一時的に表示されないことがあります。

- 外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを接続する際、車両のメインバッテリーのマイナス端子は**絶対に使用しないでください**。**車両シャシ**のみがアースポイントとして使用できます。

ケーブルクランプの取り付け方については、別のバッテリーによるジャンプスタート (p. 329)を参照してください。

注意

放電/充電を頻繁に繰り返すと、バッテリーの耐用年数が短くなります。

バッテリーの寿命は走行状況や気候などさまざまな要因の影響を受けます。バッテリーの始動能力は時間が経つにつれて徐々に低下しますので、長時間使用しなかった場合や、短距離の運転を繰り返した場合には、充電が必要になります。極端に気温が低い場合にも始動能力が低下します。

バッテリーを良好な状態に保つために、車両を毎週少なくとも 15 分程度運転するか、自動トリクル充電機能の付いたバッテリー充電器を接続しておくことをお薦めします。

バッテリーはつねにフルに充電された状態にしておくと、耐用年数をもっとも長くすることができます。

関連情報

- バッテリー – シンボル (p. 430)
- メインバッテリー – 交換 (p. 430)

バッテリー – シンボル

バッテリーには重要な情報と警告シンボルが表示されています。

バッテリーに表示されているシンボル

	安全ゴーグルを着用してください。
	車両のオーナーズマニュアルをお読みください。
	お子様の手の届かない場所に保管してください。
	腐食性の強い希硫酸が入っています。
	火花、火気禁止。
	爆発の危険。
	リサイクルに出すことが必要です。

注意

バッテリーには鉛が含まれているため、使用済みのメインバッテリーや補助バッテリーは、環境に配慮した適切な方法でリサイクル処理してください。

関連情報

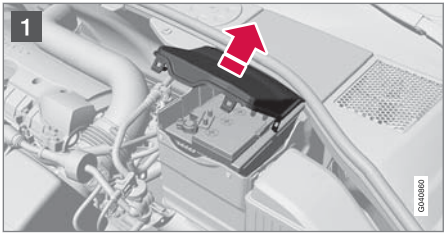
- メインバッテリー – 概要 (p. 428)
- バッテリー – Start/Stop (p. 432)

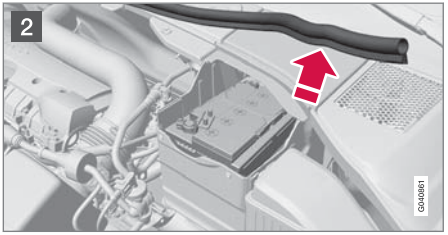
メインバッテリー – 交換

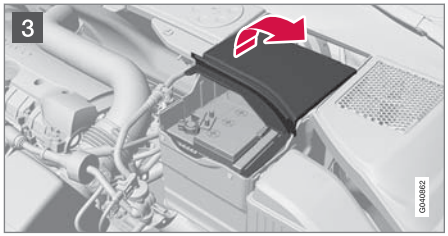
車両のメインバッテリーは、サービス工場へ入庫しなくても交換することができます。

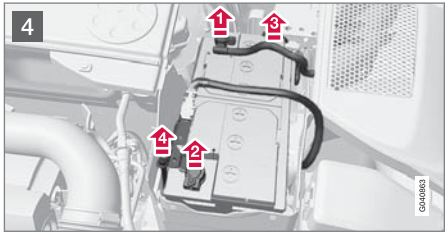
取り外し

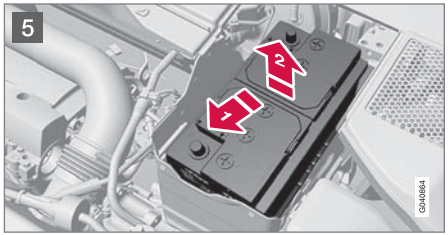
最初に：リモートコントロールキーをイグニッションスイッチから取り出します。少なくとも 5 分経過するまで、電気接続に手をふれないでください。これは、車両の電気系統が必要な情報をコントロールモジュールに記録できるようにするためです。











1 フロントカバーのクリップを開いて、カバーを外します。

2 ラバーモールディングをはずし、リアカバーを外せる状態にします。

3 スクリューを 1/4 回転ゆるめて、リアカバーを持ち上げて外します。

⚠ 警告

バッテリーのプラス端子とマイナス端子の接続や取り外しは、正しい順序で行ってください。

4

1 黒いマイナスの配線を外します。

2 赤いプラスの配線を外します。

3 バッテリーからベンチレーションホースを外します。

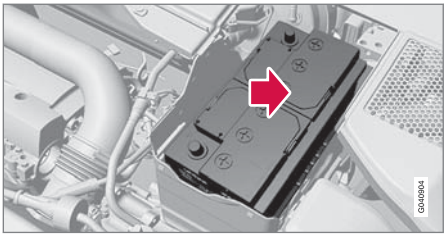
4 バッテリーを固定しているクランプのボルトをゆるめます。

5

1 バッテリーを脇へ動かします。

2 バッテリーを持ち上げます。

取り付け



1. バッテリーをバッテリーボックス内に置きます。
2. バッテリーボックスの後端まで、バッテリーを内側、および横に動かします。
3. バッテリー固定用クランプを締めてください。
4. ベンチレーションホースを接続します。
   > バッテリーとボディのソケットの両方に正しく接続されていることを確認してください。
5. 赤いプラスの配線を接続します。
6. 黒いマイナスの配線を接続します。
7. リアカバーを取り付けます(前の「取り外し」の項参照)。
8. ラバーモールディングを取り付けます(「取り外し」の項参照)。

9. フロントカバーを元の位置に取り付けて、クリップで固定します(「取り外し」の項参照)。

車両のメインバッテリーについては、メインバッテリー – 概要 (p. 428)および別のバッテリーによるジャンプスタート (p. 329)を参照してください。

バッテリー – Start/Stop

Start/Stop 機能を装備した車両には、メインバッテリーと補助バッテリーが備えられています。

Start/Stop 機能を装備した車両には、12V バッテリーが 2 個装着されています。始動時用の非常にパワフルなバッテリーと、Start/Stop 機能の始動手順を補佐する補助バッテリーの 2 つです。

Start/Stop 機能については、Start/Stop* (p. 339)を参照してください。

車両のメインバッテリーに関する詳細は別のバッテリーによるジャンプスタート (p. 329)を参照してください。

以下の表には、Start/Stop 機能装備車に使用されるメインバッテリーおよび補助バッテリーの仕様が示されています。

	バッテリー	
	メイン、12V	補助、12V
冷寒始動電流(コールドスタートキャパシティ)[A] – CCA[B](A)	720[C] 760[D]	左ハンドル車： 120[E] 170[F] 右ハンドル車： 120
寸法、L×W×H(mm)	278×175×190	左ハンドル車： 150×90×106[E] 150×90×130[F] 右ハンドル車： 150×90×106

* オプション/アクセサリー。

	バッテリー	
	メイン、12V	補助、12V
容量(Ah)	70	左ハンドル車： 8[E] 10[F] 右ハンドル車： 8

A EN 規格準拠
B Cold Cranking Amperes
C マニュアルトランスミッション
D オートマチックトランスミッション
E マニュアルトランスミッションと Start/Stop 機能の組み合わせでは、車両が完全に静止したときにのみオートストップします。
F その他

重要

Start/Stop 機能装備車のメインバッテリーを交換する場合、EFB[11] タイプ以上のバッテリーを取り付ける必要があります。

補助バッテリーを交換する場合、AGM[12] タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

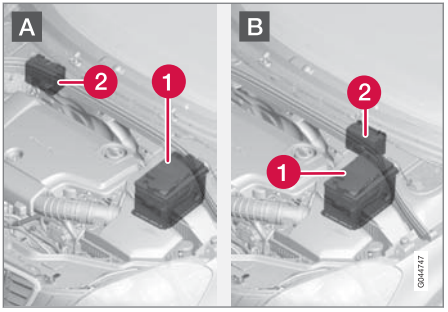
注意

- 車両の電流消費量が多いほど、オルタネーターの作動量が増し、さらにバッテリーの充電量を増やす必要があるため、燃料消費量の増加につながります。
- バッテリー容量が許容最低レベルを下回ると、Start/Stop 機能が解除されます。

電流消費量が多いために一時的に Start/Stop 機能が低下した場合には：

- 運転者がクラッチペダルを踏み込まなくてもエンジンがオートスタート[13] します(マニュアルトランスミッション)。
- 運転者がブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンがオートスタートします(オートマチックトランスミッション)。

バッテリーの位置



A: 左ハンドル車。B: 右ハンドル車。

1 メインバッテリー[14]

2 補助バッテリー

通常、補助バッテリーが始動時に使用するメインバッテリーより頻繁に点検整備を必要とすることはありません。ご質問や不具合があれば、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

11 Enhanced Flooded Battery
12 Absorbed Glass Mat
13 オートスタートは、セレクターレバーがニュートラル位置にあるときにしか実施されません。
14 メインバッテリーについての詳細は、メインバッテリー – 概要 (p. 428)を参照してください。

重要

以下の指示に従わない場合には、外付けバッテリーやバッテリーチャージャーを接続した後、Start/Stop 機能が一時的に機能しないことがあります。

- 外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを接続する際、車両のメインバッテリーのマイナス端子は**絶対に使用しないでください**。**車両シャシ**のみがアースポイントとして使用できます。

ケーブルクランプの取り付け方については、別のバッテリーによるジャンプスタート (p. 329) を参照してください。

注意

車両の通常の電気機能が使用できないほどメインバッテリーが放電してしまい、外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを使用してエンジンをジャンプスタートした場合でも、Start/Stop 機能は作動し続けます。その後間もなく Start/Stop 機能がエンジンをオートストップさせた場合、バッテリーの充電時間を確保できなかったためにバッテリー容量が不足し、エンジンオートスタートが機能しないおそれがあります。

車両をジャンプスタートした場合、またはバッテリーチャージャーでバッテリーを充電する時間が十分にない場合、車両によるバッテリーの充電が完了するまで Start/Stop 機能を一時的に無効にしておくことをお薦めします。外気温が+15 ℃の場合、車両でバッテリーを少なくとも 1 時間充電する必要があります。外気温がさらに低い場合、3〜4 時間の充電時間が必要になることがあります。バッテリーの充電には、外付けバッテリーチャージャーの使用をお薦めします。

メインバッテリーの充電については、メインバッテリー – 概要 (p. 428) を参照してください。

関連情報

- バッテリー – シンボル (p. 430)

電気系統

電気系統は単極で、シャシおよびエンジンをアースとして使用します。

車両には、電圧安定化オルタネーターが装備されています。

メインバッテリーのサイズ、タイプ、性能は車両の装備および機能によって異なります。

重要

メインバッテリーを交換する場合は、既存のバッテリーと冷間始動性能およびタイプ (バッテリーのラベルを参照) が同じバッテリーと交換してください。

関連情報

- メインバッテリー – 交換 (p. 430)
- メインバッテリー – 概要 (p. 428)

ヒューズ – 概要

車両の電装品は、多くのヒューズによりショートや過負荷から保護されています。

電装品または電気機能が作動しない場合、電気回路に一時的に過剰な負荷がかかったため、ヒューズが切れたおそれがあります。同じ箇所のヒューズが繰返し切れる場合は、該当するヒューズの電気系統が故障しているおそれがあります。ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください。

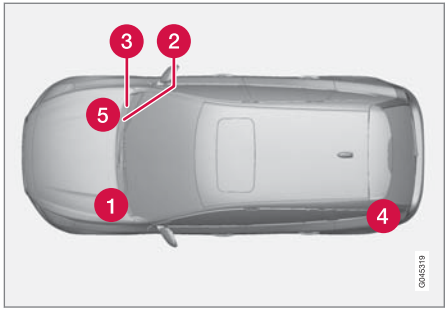
交換

1. ヒューズ表を参照して、該当するヒューズを探します。
2. ヒューズを取り外して、中央の曲がったワイヤーが焼き切れているか、側面から見て点検します。
3. 切れていたら、必ず同じ色、同じアンペアのヒューズと交換します。

⚠ 警告

ヒューズを交換する際、絶対に異なるヒューズまたは高アンペアのヒューズを使用しないでください。高アンペアのヒューズを使用すると、過大な電流が流れてもヒューズが切れず、配線を損傷させて発火し、火災を起こしたり、電装品を損傷させるおそれがあります。

セントラルエレクトリカルユニットの場所



左ハンドル車のセントラルエレクトリカルユニットの場所。右ハンドル車の場合、グローブボックス下のセントラルエレクトリカルユニットは左右逆になります。

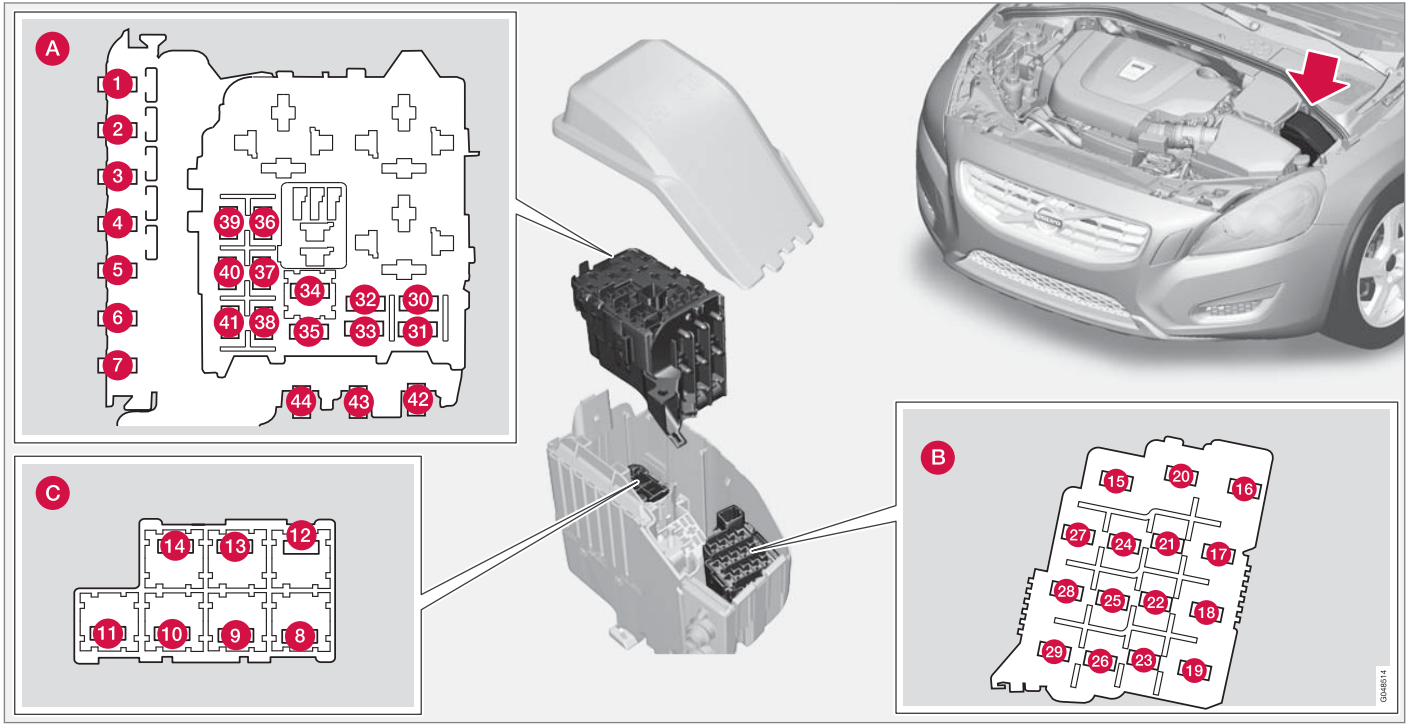
1. エンジンルーム
2. グローブボックス下
3. グローブボックス下
4. カーゴスペース、カーゴフロア下
5. エンジンルームコールドゾーン(Start/Stopのみ)

関連情報

- ヒューズ – エンジンルーム内（p. 436）
- ヒューズ – グローブボックス下（p. 440）
- ヒューズ – グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内（p. 442）
- ヒューズ – カーゴスペース内（p. 444）
- ヒューズ – エンジンルームのコールドゾーン内（p. 446）

ヒューズ – エンジンルーム内

エンジンルーム内のヒューズは、主にエンジンとブレーキシステムを保護します。



ヒューズ概要、エンジンルーム

カバーの内側に、ヒューズを交換するときに使用するヒューズプライヤーがあります。

位置(前図参照)

Ⓐ エンジンルーム、上部

Ⓑ エンジンルーム、前部

Ⓒ エンジンルーム、下部

これらのヒューズは、すべてエンジンルーム内のヒューズボックスにあります。(C)内のヒューズは(A)の下にあります。

カバーの内側に、各ヒューズの位置を示すラベルがあります。

- 1～7 および 42～44 のヒューズは、「Midi Fuse」タイプです。交換は、必ずサービス工場 [15] にご依頼ください。
- 8～15 および 34 のヒューズは、「JCASE」タイプです。交換は、必ずサービス工場 [15] にご依頼ください。
- 16～33 および 35～41 のヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A
❶	グローブボックス下のセントラルエレクトロニックモジュール(CEM)用プライマリーヒューズ [B]	50
❷	グローブボックス下のセントラルエレクトロニックモジュール(CEM)用プライマリーヒューズ	50
❸	カーゴスペース内のセントラルエレクトリカルユニット用プライマリーヒューズ [B]	60
❹	グローブボックス下のリレー/ヒューズボックス用プライマリーヒューズ	60
❺	グローブボックス下のリレー/ヒューズボックス用プライマリーヒューズ [B]	60
❻	-	-
❼	電気アディショナルヒーター*[B]	100
❽	ヒーテッドウインドスクリーン*[B]、左側	40
❾	ウインドスクリーンワイパー	30

	機能	A
❿	パーキングヒーター*	25
⓫	ベンチレーションファン [C]	40
⓬	ヒーテッドウインドスクリーン*[B]、右側	40
⓭	ABS ポンプ	40
⓮	ABS バルブ	20
⓯	ヘッドライトウォッシャー*	20
⓰	ヘッドライト光軸補正*、アクティブキセノンヘッドライト - ABL*	10
⓱	グローブボックス下のセントラルエレクトロニックモジュール(CEM)用プライマリーヒューズ	20
⓲	ABS	5
⓳	ステアリングホイール操舵力の調節*	5

[15] ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

	機能	A
20	エンジンコントロールモジュール、トランスミッションコントロールモジュール、エアバッグ	10
21	ヒーテッドウォッシャーノズル*	10
22	-	-
23	ライトスイッチ	5
24	-	-
25	-	-
26	-	-
27	リレーコイル	5
28	補助ライト*	20
29	ホーン	15

	機能	A
30	エンジンマネジメントシステム(4 気筒)用メインリレー内のリレーコイル、エンジンコントロールモジュール(4 気筒)	5
	エンジンマネジメントシステム(5 気筒ディーゼル)用メインリレー内のリレーコイル、エンジンコントロールモジュール(5 気筒ディーゼル)	10
31	トランスミッションコントロールモジュール	15
32	補助クーラントポンプ(4 気筒ディーゼル)	15
33	エンジンルームコールドゾーン内のセントラルエレクトリカルユニット内のリレーコイル Start/Stop	5
34	-	-
35	グローコントロールモジュール(5 気筒ディーゼル)	10
	エンジンコントロールモジュール(4 気筒)	20

	機能	A
36	エンジンコントロールモジュール(5 気筒ディーゼル)	15
	エンジンコントロールモジュール(4 気筒)	20
37	マスエアフローセンサー(4 気筒)、サーモスタット(4 気筒ガソリン)、EVAP バルブ(4 気筒ガソリン)、EGR 用クーリングポンプ(4 気筒ディーゼル)	10
	マスエアフローメーター(5 気筒ディーゼル)、コントロールバルブ(5 気筒ディーゼル)	15
38	ソレノイドクラッチ A/C(5 気筒ディーゼル)、バルブ(5 気筒ディーゼル)、オイルレベルセンサー	10
	バルブ(4 気筒)、オイルポンプ(4 気筒)、ラムダゾンド(ヒーター付き酸素センサー)、センター(4 気筒ガソリン)、ラムダゾンド(ヒーター付き酸素センサー)、リア(4 気筒ディーゼル)	15

* オプション/アクセサリー。

	機能	A[A]
39	ラムダソンド(ヒーター付き酸素センサー)、フロント(4 気筒)、ラムダソンド(ヒーター付き酸素センサー)、リア(4 気筒ガソリン) ラムダソンド(ヒーター付き酸素センサー) (5 気筒ディーゼル)、コントロールモジュール、ラジエーターローラーカバー(5 気筒ディーゼル)	15
40	イグニッションコイル(4 気筒ガソリン)	15
	ディーゼルフィルターヒーター(ディーゼル)	20
41	ソレノイドクラッチ A/C(4 気筒)、グローコントロールモジュール(4 気筒ディーゼル)、オイルポンプ(4 気筒ディーゼル)	7.5
	クランクケースベンチレーションヒーター(5 気筒ディーゼル)、オイルポンプオートマチックトランスミッション(5 気筒ディーゼル Start/Stop)	10

	機能	A[A]
42	クーラントポンプ(4 気筒ガソリン)	50
	グロープラグ(ディーゼル)	70
43	クーリングファン(ガソリン)	60/80[D]
	クーリングファン(ディーゼル)	80
44	パワーステアリング	100

A アンペア
B Start/Stop 機能装備の車両では、ヒューズ位置を示すラベルはありません。ヒューズ - エンジンルームのコールドゾーン内 (p. 446)を参照してください。
C Start/Stop 機能装備の車両では、ヒューズ位置を示すラベルはありません。ヒューズ - エンジンルームのコールドゾーン内 (p. 446)を参照してください。
D コントロールファンのモデルにより異なります。

関連情報

- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 440)
- ヒューズ - グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内 (p. 442)
- ヒューズ - カーゴスペース内 (p. 444)

ヒューズ – グローブボックス下

グローブボックスの下にあるヒューズは、主にインフォテイメントシステムとシート機能を保護します。

位置

	機能	AA
1	オーディオコントロールモジュール* 用プライマリーヒューズ、ヒューズ 16-20：インフォテイメント用プライマリーヒューズ	40
2	ウインドスクリーンウォッシャー、リアウインドウォッシャー	25

	機能	AA
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	ドアハンドル、キーレスシステム*	5
7	-	-

	機能	AA
8	運転席ドア、コントロールパネル	20
9	助手席ドア、コントロールパネル	20
10	右リアドア、コントロールパネル	20
11	左リアドア、コントロールパネル	20
12	キーレスシステム*	7.5

＊ オプション/アクセサリー。

	機能	A[A]
13	パワーシート、運転席側*	20
14	パワーシート、助手席側*	20
15	-	-
16	インフォテイメントコントロールモジュールまたは画面[B]	5
17	オーディオコントロールユニット(アンプ)*、TV*、デジタルラジオ*	10
18	オーディオコントロールモジュールまたはコントロールモジュール(センサス)[B]	15
19	テレマチックス*、Bluetooth*	5
20	-	-
21	サンルーフ*、車内ルーフランプ、クライメートセンサー*	5
22	12V 電源ソケット、トンネルコンソール	15
23	右リアシートヒーター*	15
24	左リアシートヒーター*	15
25	DSRC(Dedicated Short Range Communications)用コントロールモジュール 電気アディショナルヒーター*	5
26	助手席シートヒーター	15
27	運転席シートヒーター	15
28	パークアシスト*、パーキングカメラ*、BLIS*	5
29	AWD コントロールモジュール*	15
30	アクティブシャシ - Four-C*	10

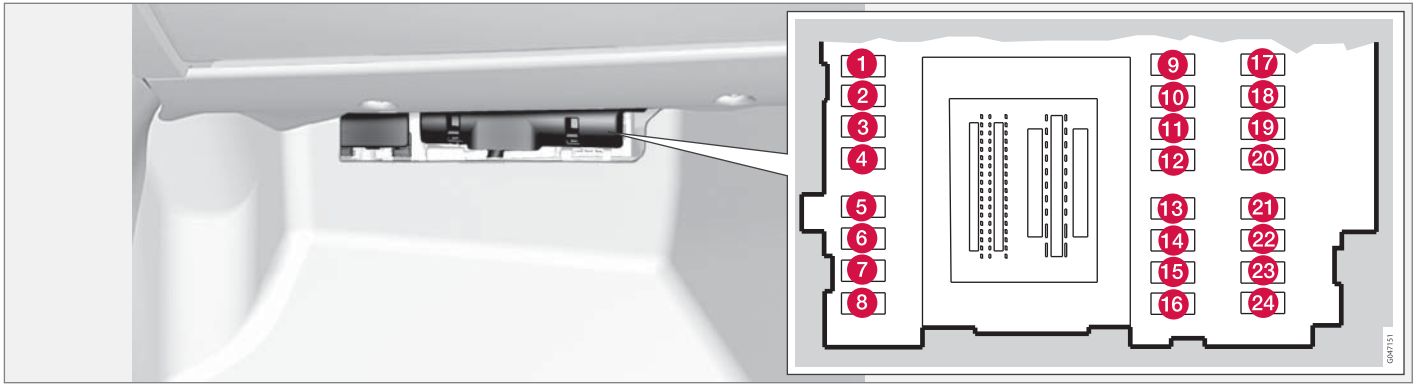
A アンペア
B 一部モデル

関連情報

- ヒューズ - エンジンルーム内 (p. 436)
- ヒューズ - グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内 (p. 442)
- ヒューズ - カーゴスペース内 (p. 444)
- ヒューズ - エンジンルームのコールドゾーン内 (p. 446)

ヒューズ – グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内

グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内のヒューズは、主にエアバッグと衝突警告システム機能を保護します。



位置

	機能	A
1	リアウインドワイパー	15
2	-	-
3	ルームランプ、運転席ドアコントロールパネル、パワーウインド、パワーシート*	7.5

	機能	A
4	コンバインド・メーター・パネル	5
5	アダプティブクルーズコントロール、ACC*、衝突警告システム*	10
6	ルームランプ、レインセンサー*	7.5
7	ステアリングホイールモジュール	7.5

	機能	A
8	セントラルロックシステム、燃料給油口フラップ	10
9	ステアリングホイールヒーター*	15
10	ヒーテッドウインドスクリーン*	15
11	ロック解除、テールゲート	10

* オプション/アクセサリー。

	機能	A[A]
⑫	折りたたみ式ヘッドレスト*	10
⑬	フューエルポンプ	20
⑭	アラーム用ムーブメントセンサー*、クライメートパネル	5
⑮	ステアリングホイールロック	15
⑯	サイレン*、データリンクコネクター OBDII	5
⑰	-	-
⑱	エアバッグ	10
⑲	衝突警告システム*	5
⑳	アクセルペダルセンサー、防眩機能付ルームミラー*、リアシートヒーター*	7.5
㉑	インフォテイメントコントロールモジュール(Performance)、オーディオ(Performance)	15
㉒	ブレーキランプ	5
㉓	サンルーフ*	20
㉔	イモビライザー	5

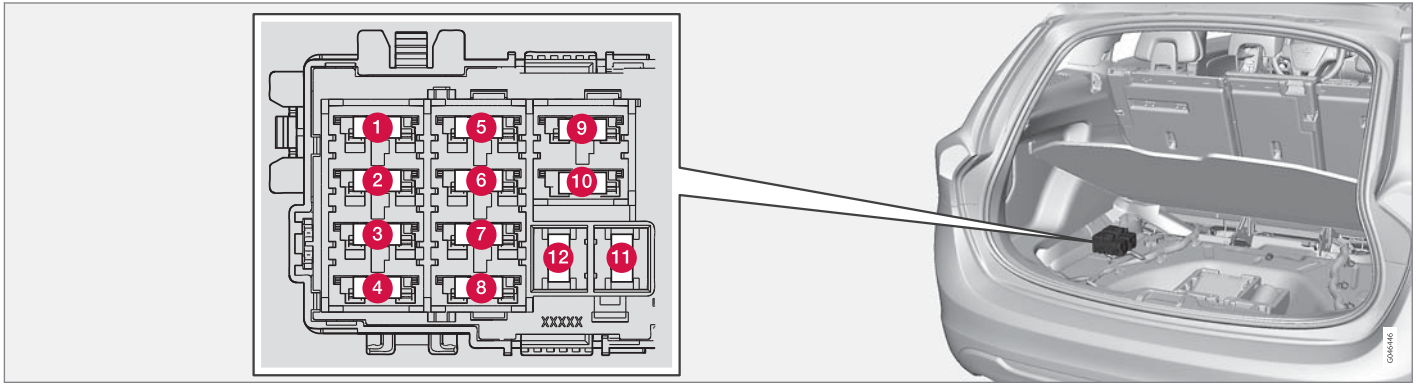
A アンペア

関連情報

- ヒューズ – エンジンルーム内（p. 436）
- ヒューズ – グローブボックス下（p. 440）
- ヒューズ – カーゴスペース内（p. 444）
- ヒューズ – エンジンルームのコールドゾーン内（p. 446）

ヒューズ – カーゴスペース内

カーゴスペース内のヒューズは、主にエレクトリックパーキングブレーキを保護します。



位置

	機能	A[A]
1	エレクトリックパーキングブレーキ(左)	30
2	エレクトリックパーキングブレーキ(右)	30
3	リアウインドデフロスター	30
4	トレーラーソケット 2*	15
5	-	-
6	カーゴスペースの 12V 電源ソケット	15
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	トレーラーソケット 1*	40
12	-	-

A アンペア

関連情報

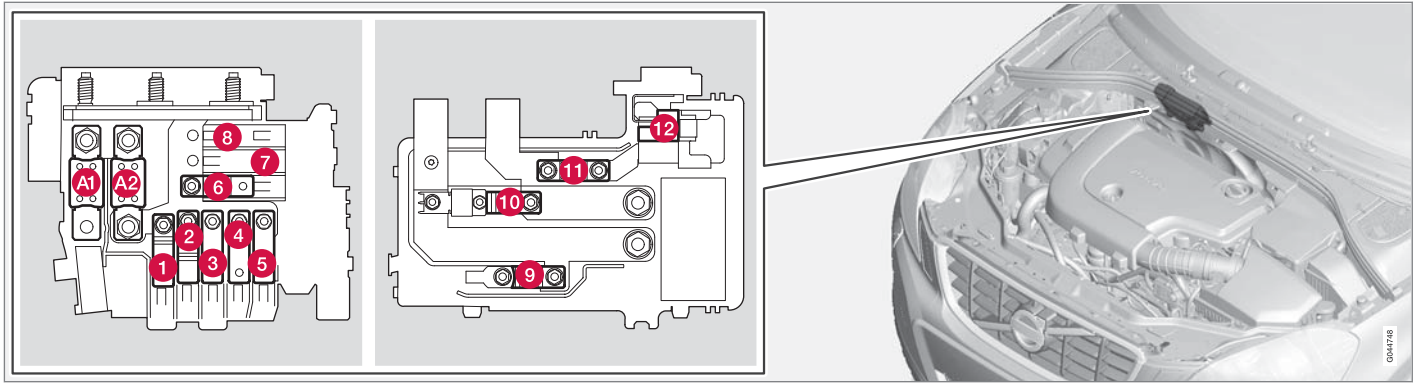
- ヒューズ – エンジンルーム内 (p. 436)
- ヒューズ – グローブボックス下 (p. 440)

* オプション/アクセサリー。

- ヒューズ – グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内（p. 442）
- ヒューズ – エンジンルームのコールドゾーン内（p. 446）

ヒューズ – エンジンルームのコールドゾーン内

エンジンルームのコールドゾーン内のヒューズは、Start/Stop 機能装備車に取り付けられています。



- A1 と A2 のヒューズは、「MEGA Fuse」タイプです。交換は、必ずサービス工場 [16] にご依頼ください。
- ヒューズ 1～11 は、「Midi Fuse」タイプです。交換は、必ずサービス工場 [16] にご用命ください。
- ヒューズ 12 は「Mini Fuse」タイプです。

Start/Stop についての詳細は、Start/Stop* (p. 339)を参照してください。

位置

	機能	AA
A1	エンジンルーム内のセントラルエレクトリカルユニット用メインヒューズ	175

16 ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

* オプション/アクセサリー。

	機能	A[A]
A2	グローブボックス下セントラルエレクトロニックモジュール(CEM)用メインヒューズ、グローブボックス下リレー/ヒューズボックス、カーゴスペース内のセントラルエレクトリカルユニット	175
1	電気アディショナルヒーター*	100
2	グローブボックス下のセントラルエレクトロニックモジュール(CEM)用プライマリーヒューズ	50
3	グローブボックス下のリレー/ヒューズボックス用プライマリーヒューズ	60
4	ヒーテッドウインドスクリーン*	60
5	カーゴスペース内のセントラルエレクトリカルユニット用プライマリーヒューズ	60
6	ベンチレーションファン	40
7	-	-
8	-	-
9	スタートリレー	30
10	-	-

	機能	A[A]
11	補助バッテリー	70
12	セントラルエレクトロニックモジュール(CEM) – 補助バッテリー基準電圧	5

A アンペア

関連情報

- ヒューズ – エンジンルーム内 (p. 436)
- ヒューズ – グローブボックス下 (p. 440)
- ヒューズ – グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内 (p. 442)
- ヒューズ – カーゴスペース内 (p. 444)

洗車

車両が汚れたらすぐに洗車してください。汚れがこびりつく前の方が清掃しやすいためです。傷がつく危険性も減り、新車のような輝きを保ちます。油水分離装置のある自動洗車機で洗車してください。カーシャンプー(洗車用洗剤)を使用してください。

手洗い

- 塗装面に付着した鳥のフンは、すみやかに取り除いてください。鳥のフンに含まれている成分が塗装を急速に変色させます。大量の水に浸したスポンジまたはやわらかい紙などを使用してください。変色の除去については、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。
- 車体の下面の汚れは、水でよく洗い落としてください。
- 泥を含む水がすべて洗い落されるまで車両全体を洗い流してください。洗浄中に引っかき傷ができるのを防止するためです。キーシリンダーなどには直接水をかけないでください。
- 汚れが取れにくい場合は、脱脂剤を温めないで使用してください。この場合、表面が日光によって熱くなっていないように、注意してください。
- 十分な量のぬるま湯と、カーシャンプー(洗車用洗剤)およびスポンジを使用して洗車してください。
- ワイパーブレードは、洗剤を入れたぬるま湯、またはカーシャンプー(洗車用洗剤)で洗ってください。
- きれいで柔らかいセーム皮またはスクレーパーなどを使用して、車体から水分を拭き取ってください。直射日光によって水滴が乾いてしまわないように注意すれば、水滴によってシミがつく可能性が低くなります。シミができると、場合によっては磨いてとることが必要になります。

⚠ 警告

エンジンの洗浄は、サービス工場にお問い合わせください。エンジンが高温のときは、火災につながるおそれがあります。

重要

ヘッドライトに汚れが付着していると、機能に影響します。定期的(燃料補給時など)に、ヘッドライトの清掃を行ってください。

腐食性のある洗剤は使用せず、代わりに水と傷がつかないようなスポンジで洗浄します。

注意

ヘッドライトやリアランプなどのエクステリアランプでは、レンズの内側が一時的に曇る場合があります。これは異常ではありません。エクステリアランプは、このような曇りに耐えるように設計されています。ライトをしばらく点灯させると、曇りは自然に解消します。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると簡単に早く洗車をすることができますが、自動洗車機のブラシでは完全に洗浄できない箇所が多数あります。良好な仕上がりをお求めの場合、手洗いによる洗車をお薦めします。自動洗車機による洗車を手洗いで補うこともお薦めします。

注意

最初の数カ月間は、自動洗車機の使用は避け、洗車は必ず手で行ってください。新車のうちは、塗装面がまだ完全に硬化していないためです。

高圧洗浄

高圧の水をかけるときは、ノズルの先端をボディ面から 30 cm以上離し、掃くように動かしてください。キーシリンダーなどには直接水をかけないでください。

ブレーキのテスト

⚠ 警告

洗車後は、パーキングブレーキも含め、ブレーキのテストを必ず行ってください。水分や錆がブレーキパッドに悪影響を与えていないか、ブレーキの制動効果が劣っていないか確認してください。

雨や雪の中を長時間走行しているときは、ブレーキペダルを数回軽く踏むようにしてください。摩擦熱により、ブレーキライニングを温めて水分を取り除くことができます。非常に湿度が高いときや冷寒時に発進したときにも、この方法が有効です。

ワイパーブレード

ワイパーブレードにアスファルト、埃、または融雪剤が付着していたり、ウインドスクリーンに虫や氷などが付着していると、ワイパーブレードの耐用年数が短くなります。

清掃に関して：

– ワイパーブレードはサービスポジションにします。ワイパーブレード (p. 425)を参照してください。

ⓘ 注意

ワイパーブレードおよびウインドスクリーンは、ぬるめの石けん水またはカーシャンプーで定期的に清掃してください。強い溶剤を使用しないでください。

外装プラスチック、ラバー、およびトリムコンポーネント

カラープラスチックパーツやラバー、トリムコンポーネント(光沢のあるトリムモールディングなど)を清掃および手入れするときは、ボルボ純正専用クリーナー(ボルボ・ディーラーでお求めになれます)のご使用をお薦めします。クリーナーの使用説明書の指示に従ってください。

パワーウインド周辺のフレーム、車両のルーフレール、ウインドのドアフレーム*には陽極酸化アルミニウムが使用されています。したがって、これらのパーツを洗うときには、変色防止のため、pH 値が 3.5～11.5 の範囲内のクリーナーのみを使用してください。

pH 値が 3.5～11.5 のクリーナーを使用して洗う必要のあるパーツ

❗ 重要

プラスチックおよびラバー部分に、ワックスがけおよびポリッシュ加工を行わないでください。

脱脂剤をプラスチックおよびラバー部分に使用する必要がある場合は、軽くこするようにしてください。柔らかい洗浄用スポンジを使用してください。

光沢のあるトリムモールディングを、磨かないでください。表面に傷が付いたり、光沢が失われたりする場合があります。

研磨剤の入った艶出し剤は使用しないでください。

重要

洗車するときには、pH 値が 3.5 未満または 11.5 以上の洗浄剤は使用しないでください。使用した場合、パワーウインドの周辺部やルーフラックなどの陽極酸化アルミニウムパーツが変色する可能性があります。

陽極酸化アルミニウムパーツには、絶対に金属研磨剤を使用しないでください。変色して表面処理が損なわれる可能性があります。

ホイール

ボルボ社が推奨するクリーナー以外使用しないでください。

洗浄後も、ホイールの塗装に付着したブレーキディスクからの金属粉じんが原因でスポークの根元に変色が残ることがあります。多くの場合、やわらかい布とペイントクリーナーを使用してきめ細やかに磨くと取り除くことができます。

特にクロームメッキされたアルミホイールの場合、強力なホイールクリーナーを使用すると、表面にキズやシミが付くおそれがあります。

関連情報

- 磨きおよびワックスがけ（p. 450）
- 内装の清掃（p. 452）
- 撥水/防塵加工コーティング（p. 451）

磨きおよびワックスがけ

車体の塗装面の艶が失われてきたときや、特に外装を保護したいときは、磨きとワックスがけを行ってください。

新車購入後約 1 年間はポリッシュの必要はありませんが、ワックスがけをすることはできます。直射日光が当たる場所での磨き、またはワックスがけは避けてください。

磨きやワックスがけは、車両をよく洗い、完全に乾かしてから行ってください。車両に付着したアスファルトやタールなどは、タール用クリーナーやホワイトガソリンを使用して取り除いてください。取れにくいシミなどは、車体塗装面専用の研磨コンパウンドを使用して取り除いてください。

磨き剤で磨いてから、液体または固形ワックスを使用してワックスがけを行ってください。使用する製品に記載されている使用説明書に、必ず従ってください。磨き剤とワックスが、一緒になったタイプもあります。

重要

プラスチックおよびラバー部分に、ワックスがけおよびポリッシュ加工を行わないでください。

脱脂剤をプラスチックおよびラバー部分に使用する必要がある場合は、軽くこするようにしてください。柔らかい洗浄用スポンジを使用してください。

光沢のあるトリムモールディングを、磨かないでください。表面に傷が付いたり、光沢が失われたりする場合があります。

研磨剤の入った艶出し剤は使用しないでください。

重要

ボルボ純正のペイントトリートメント以外使用しないでください。他のペイントトリートメントなどのシーリング、プロテクション、光沢シーリングなど、その他の処置によって、塗装面が損傷を受けるおそれがあります。ペイントトリートメントなどで生じた損傷は、ボルボ社の保証が適用されません。

関連情報

- 洗車（p. 448）

撥水/防塵加工コーティング

ウインド表面には、悪天候下でも良好な視界が確保できるようにコーティングが施されています。

撥水/防塵加工コーティング*

撥水加工コーティングは、経年劣化します。

メンテナンス：

- カーワックス、脱脂剤などは、撥水加工に影響を与えるおそれがあるので、ガラス表面に絶対に使用しないでください。
- ガラス面を清掃する際は、表層に傷を付けないよう、十分に注意してください。
- 雪や氷などを取り除く際は、ガラス表面加工を傷付けないように、プラスチック製のアイススクレーパーのみを使用してください。
- パワーウインドの撥水効果を維持するために、専用表面処理溶剤(ボルボ指ディーラーでお買い求めいただけます)のご使用をお薦めします。新車登録後約 3 年目以降は、補修加工を必ず毎年実施してください。

重要

ウインドの氷を除去するときに、金属製のアイススクレーパーを使用しないでください。ミラーの氷は、デフロスター機能を使用して除去してください。ウインドおよびドアミラー – ヒーター（p. 147)を参照してください。

関連情報

- 洗車（p. 448）

防錆

ボルボ車には、工場で入念な防錆処置が施されています。車体各部は、亜鉛メッキ処理されたシートメタルが使用されています。車体下部は防錆剤で保護されています。車体メンバー、ビーム類、およびサイドドアなどには、浸透性の防錆剤で薄いコーティングが施されています。

点検とメンテナンス

車両の防腐保護は、通常メンテナンスの必要はありませんが、車両をつねにきれいに保つことで錆のリスクを低減することができます。光沢のあるトリムコンポーネントには、強アルカリ洗剤や酸性洗剤は使用しないでください。飛び石傷を見つけた場合は、すみやかに修復を行ってください。

関連情報

- 塗装の損傷（p. 453）

内装の清掃

ボルボ社が推奨するクリーナーおよびカーケア製品のみを使用して定期的に清掃してください。汚れがついた場合はすぐに対処することが重要です。洗浄剤を使用する前に、掃除機をかけてください。

重要

- 濃い色のジーンズやスウェードなど、衣類の素材によっては、色落ちして内装を変色させるおそれがありますのでご注意ください。内装が変色した場合、すみやかに内装の汚れた箇所を清掃して、適切に対処することが重要です。
- 車内の清掃には、強力な溶剤(ウォッシャー液、ガソリン、ホワイトガソリンなど)を絶対に使用しないでください。内装やその他のインテリア用品を損傷するおそれがあります。
- 電気を扱うボタンおよびコントロールのあるコンポーネントには、絶対に洗浄剤を直接吹き付けないでください。代わりに、洗浄剤で湿らせた布を使用して、コンポーネントを拭いてください。
- 清掃時に尖った物やマジックテープなどを使用しないでください。内装布地に損傷を与えるおそれがあります。

布地内装および天井内装

ボルボ社は、布地内装および天井内装のお手入れのために、総合的な布地手入れ用品をご用意しています。説明書の指示通りに使用すると、内装の状態を良好に保つことができます。布地手入れ用品は、ボルボディーラーでお買い求めいただけます。

レザー製内装

ボルボ車のレザー製内装は、本来の外観が長続きするように処理されています。

レザー製内装は、時間の経過とともに変化して美しい風合いが生まれる、天然皮革の製品です。レザー特有の色や性質を保つためには、定期的な清掃とトリートメントが必要です。ボルボ社は、レザー製内装の清掃およびトリートメントのために、ボルボレザーケアキットという総合的なお手入れ用品をご用意しています。説明書の指示通りに使用すると、レザー表面の保護コーティングを良好な状態に保つことができます。

レザー特有の柔らかさと感触を保つため、年に1～4回清掃を行い、保護クリームを使用してお手入れされることをお薦めします(必要に応じて、お手入れの回数を増やしてください)。ボルボレザーケアキットは、ボルボディーラーでお買い求めいただけます。

レザーステアリングホイール

レザーは呼吸します。レザー製ステアリングホイールにビニールのカバーをかけないでください。レザーステアリングホイールの清掃には、ボルボレザーケアキットをお薦めします。

プラスチック製、金属製および木製インテリアパーツ

マイクロファイバークロス(ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください)などのご使用をお薦めします。マイクロファイバークロスを湿らせ、内装各部を拭いて清掃してください。

汚れをとるために、強く擦ったり、削らないでください。強いシミ抜き溶剤は、絶対に使用しないでください。取れにくい汚れには、ボルボ純正専用クリーナー(ボルボ指定のディーラーでお求めになれます)のご使用をお薦めします。

シートベルト

水および中性洗剤を使用してください。テキスタイル専用洗剤は、ボルボディーラーでお買い求めいただけます。シートベルトは、完全に乾かしてから巻き戻してください。

フロアマット

フロアカーペットを清掃するときは、フロアマットやトランクルーム/カーゴスペースのマットを取り外してください。埃や汚れは、掃除機で吸い取ってください。各フロアマットはピンで固定されています。

フロアマットを各ピンの部分でつかみ、まっすぐに持ち上げて取り外してください。

フロアマットを所定位置に装着する際には、各ピンの場所を押してください。

⚠ 警告

各シートではフロアマットを１枚だけ使用してください。また、運転席のマットがペダルの横や下に引っかかることがないように、運転する前に、マットがピンに確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットにシミができた場合には、掃除機をかけて掃除した後、特殊テキスタイルクリーナーをご使用ください。フロアマットの清掃には、必ずボルボボディーラーが推奨する洗剤をご利用ください。

関連情報

- 洗車（p. 448）

塗装の損傷

塗装は車両を錆から守るために重要な役割を果たしていますので、定期的に点検してください。塗装面にもっとも多く見られる損傷は、飛石による傷、引っかき傷、フェンダーやドア、バンパーの傷などです。

塗装面の小さな損傷の補修

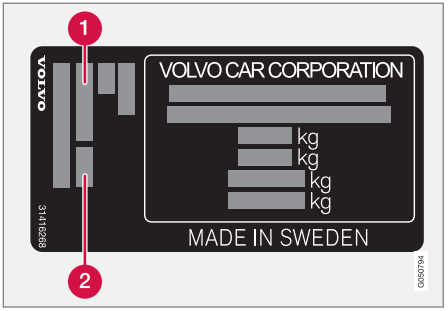
塗装面に傷が付いた場合は、錆が発生しないようにただちに補修してください。

必要となる可能性のある製品

- プライマー [17] – バンパーなどには、スプレー缶入りの癒着性プライマーが利用できます。
- 下塗りとクリアコート – スプレー缶入りやタッチアップペン/スティックタイプ [18] のものが利用できます。
- マスキングテープ
- 目の細かいサンドペーパー [17]

カラーコード

カラーコードの表示ラベルは、ドアピラーに貼付されています。右側リアドアを開けたときに確認できます。



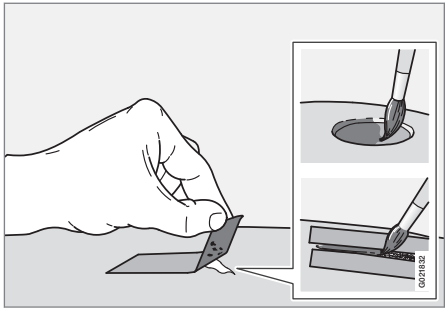
1 エクステリアカラーコード

2 準エクステリアカラーコード

必ず正しい色の塗料を使用してください。製品ラベルの位置については、タイプの表示 (p. 456) を参照してください。

17 必要時。
18 タッチアップペンのパッケージに含まれているインストラクションに従ってください。

小石などによる傷や引っかき傷など塗装面の小さな損傷の修理



塗装面の補修は、車体をよく洗って乾燥させ、気温が 15 ℃以上のときに行ってください。

1. 損傷のある表面にマスキングテープを貼ります。剥がれかけた塗装の薄片が取り除けるようにテープを剥がします。

   傷が金属表面(鋼板)に達している場合には、プライマーを使用するようにしてください。損傷がプラスチックの表面に達している場合には、癒着性プライマーを使用するとよりよい結果が得られます。スプレー缶の蓋にスプレーを吹きかけて、薄くブラシで伸ばします。

2. 必要であれば(尖った部分がある場合など)、塗装の前に非常に目の細かい研磨剤で軽く磨くことができます。表面を確実に洗浄して、乾くまでお待ちください。
3. プライマーをよく混ぜて、細い筆かマッチ棒などで損傷部分に塗ります。プライマーが乾いたら、下塗りとクリアコートで仕上げます。
4. 引っかき傷の場合も小石による傷と同様に補修しますが、必要に応じてマスキングテープを使用して、傷のない部分を保護します。

注意

小石などによる傷で、金属部分に達しておらず、塗装に損傷のない部分が残っている場合には、清掃後すぐ下塗りとクリアコートで処理してください。

関連情報

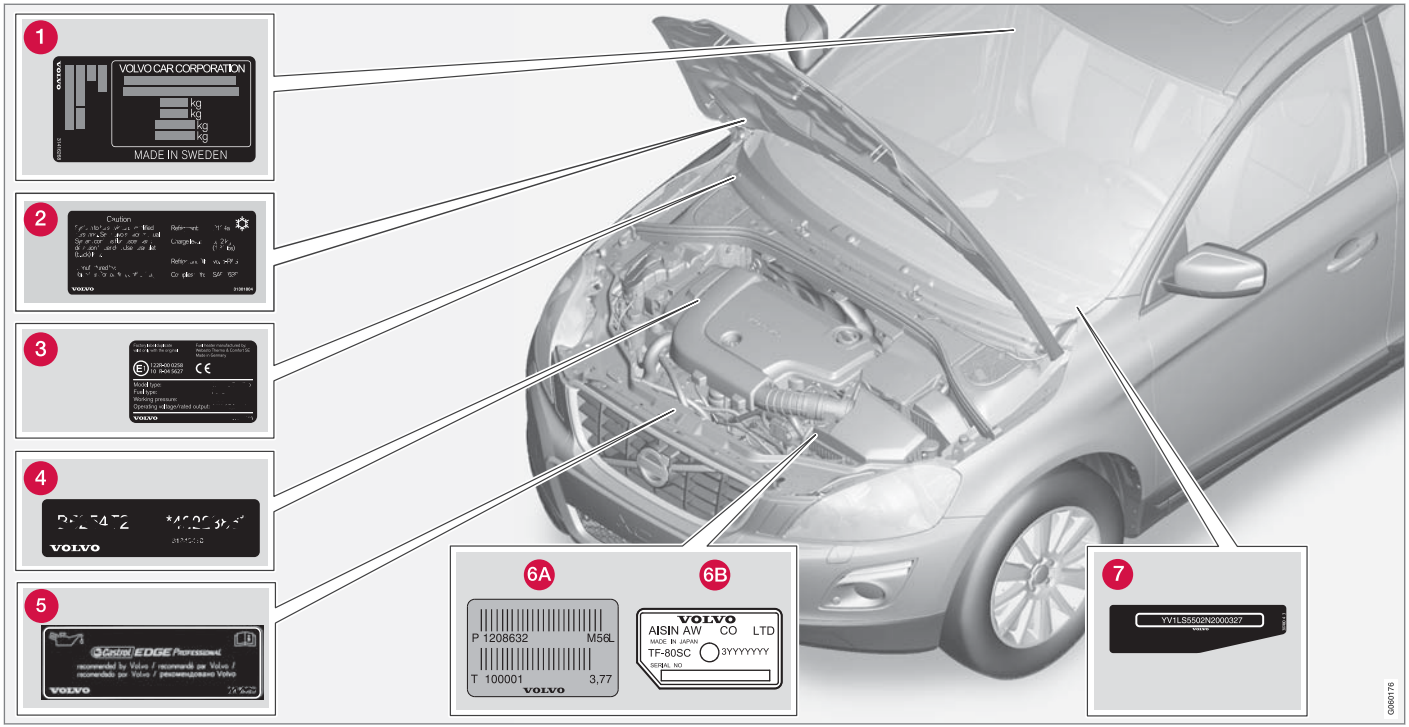
- 防錆 (p. 451)

仕様

タイプの表示

タイプの表示や車両識別番号など、車両固有の情報は車両のラベルに記載されています。

ラベルの位置



図は概略図です。詳細は、市場および車両モデルにより異なる場合があります。

ボルボ指定のディーラーに車両についてのお問い合わせや、パーツあるいはアクセサリーのご

注文をいただくときは、車両のシャシ(車台)番号(VIN)およびエンジンタイプをお知らせください。

1. タイプの表示、車台番号(VIN)、最大許容重量、エクステリアカラーコードおよび型式指定番号の表示ラベル。表示ラベルはドアピラーに貼付されています。右リアドアを開けたときに確認できます。
2. A/C システム用ラベル
3. パーキングヒーターラベル
4. エンジンコードおよびエンジンのシリアルナンバーの表示ラベル
5. エンジンオイル用ラベル
6. トランスミッション型式およびシリアルナンバーの表示ラベル
   - A マニュアルトランスミッション
   - B オートマチックトランスミッション
7. 車両の車台番号(VIN)の表示ラベル

実際の車両の各諸元値は、車検証記載の数値を参照してください。

注意

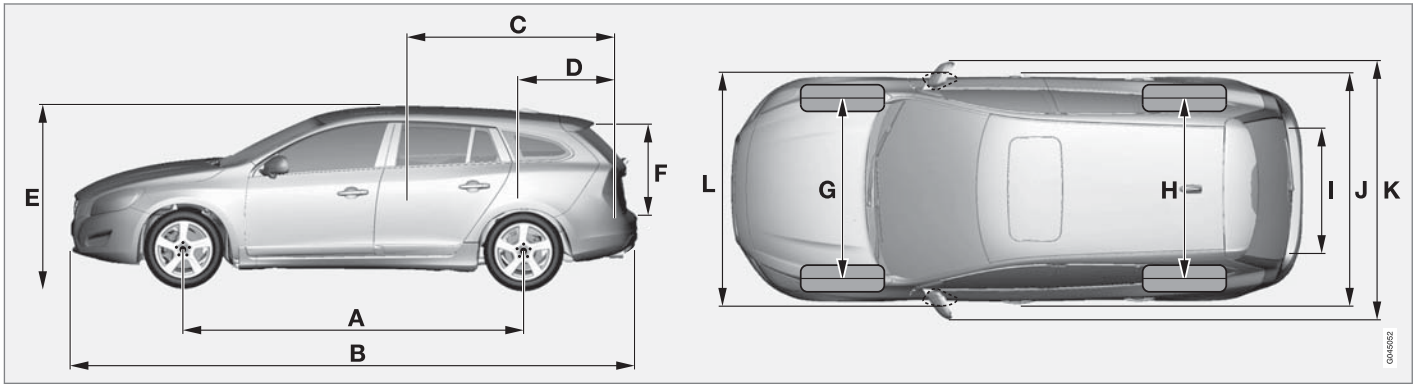
オーナーズマニュアルに掲載されている表示ラベルは、車両の表示ラベルと若干異なっている場合があります。ラベル掲載の目的は、ラベルの概観と車両に貼られている位置を示すことです。お客様の車両に関する情報は、車両内の各ラベルに記載されています。

関連情報

- 重量（p. 461）
- エンジンの仕様（p. 464）
- エアコンディショナーの仕様（p. 472）

寸法

車両の全長や高さなどの寸法が表内に記載されています。



V60CC[A]	寸法	mm
A	ホイールベース	2774
B	全長	4637
C	荷室の長さ(フロア上の寸法、バックレストを倒した状態)	1749
D	荷室の長さ(フロア上の寸法)	978

V60CC[A]	寸法	mm
E	全高	1545
F	荷室の高さ	658
G	トレッド(フロント)	1619[B] 1609[C]
H	トレッド(リア)	1577[B] 1567[C]

V60CC[A]	寸法	mm
I	荷室の幅(フロア上の寸法)	1082
J	全幅	1847 (1866[D])

V60CC[A]	寸法	mm
K	全幅(ドアミラーを含む)	2097
L	全幅(格納式ドアミラーを含む)	1899

A V60 Cross Country
B タイヤの幅 215 mm
C タイヤの幅 235 mm
D キーレスドライブ*装備

重量

最大車両総重量などは車両のラベルに記載されています。

車両重量には、運転者、燃料タンク(90%給油状態)、全フルードが含まれます。

乗員やアクセサリーの重量、トウボール荷重 (p. 462)(トレーラーけん引時)によって積載量は左右します。これらは車両重量には含まれていません。

最大許容重量 = 車両総重量 − 車両重量。

注意

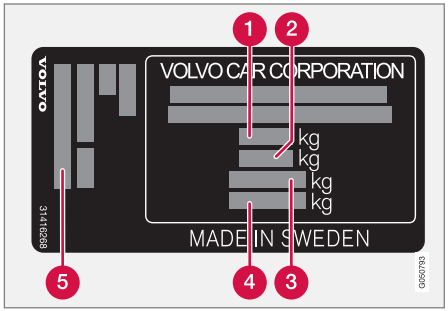
本書に記載の車両重量は、追加装備やアクセサリーのない、標準装備の車両に当てはまります。つまり、最大許容重量は、追加されたアクセサリーの重量だけ、減少します。

最大積載重量を減少させるアクセサリーの例としては、キネティック(Kinetic)、モメントゥム(Momentum)、およびスンムム(Summum)の各レベルのオプション装備、さらに、トウバー、ロードキャリア、スペースボックス、オーディオシステム、補助ライト、GPS、フューエルドリブンヒーター、スチールガードネット、カーペット、ラゲッジカバー、パワーシートなどがあります。

車両重量を確実に知るための方法は、実際に量ってみることです。

警告

車両走行性能は、搭載荷物の重量や、荷物を積む位置に影響を受けます。



ラベルの位置については、タイプの表示 (p. 456)を参照してください。

1. 最大車両総重量
2. 最大けん引重量(車両+トレーラー)
3. 最大許容前軸荷重
4. 最大許容後軸荷重
5. 装備レベル

最大荷重:車検証をご覧ください。

最大ルーフ荷重: 75 kg。

関連情報

- けん引重量およびトウボール荷重 (p. 462)
- 燃料消費量および CO2 排出量 (p. 473)

けん引重量およびトウボール荷重

トレーラーを使用して走行する際のけん引重量およびトウボール荷重が表内に記載されています。

最大重量、ブレーキ付きトレーラー

注意

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V60CC[A] エンジン	エンジンコード[B]	トランスミッション	最大重量、ブレーキ付きトレーラー(kg)	最大トウボール荷重(kg)
T5	B4204T11	オートマチック、TG-81SC	1600	75
T5 AWD	B4204T11	オートマチック、TG-81SC	1800	90
D3	D4204T4	マニュアル、M66	1800	90
D3	D4204T4	オートマチック、TG-81SC	1800	90
D4	D4204T14	マニュアル、M66	1800	90
D4	D4204T14	オートマチック、TG-81SC	1800	90
D4 AWD	D5244T21	オートマチック、TF-80SD	1900	90

A V60 Cross Country
B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 456)を参照してください。

最大重量、ブレーキのないトレーラー

最大重量、ブレーキのないトレーラー(kg)	最大トウボール荷重(kg)
750	50

関連情報

- 重量（p. 461）
- トレーラーなどのけん引*（p. 366）

エンジンの仕様

各エンジンタイプの仕様(出力など)が表内に記載されています。

> **注意**
>
> 搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V60CC[A] エンジン	エンジンコード[B]	出力 (kW/rpm)	出力 (hp/rpm)	トルク (Nm/rpm)	気筒数	シリンダー内径 (mm)	シリンダー行程 (mm)	総排気量 (リットル)	圧縮比
T5 / T5 AWD	B4204T11	180/5500	245/5500	350/1500-4800	4	82.0	93.2	1.969	10.8:1
D3	D4204T4	110/4250	150/4250	350/1500-2500	4	82.0	93.2	1.969	15.8:1
D4	D4204T14	140/4250	190/4250	400/1750-2500	4	82.0	93.2	1.969	15.8:1
D4 AWD	D5244T21	140/4000	190/4000	440/1500-2750	5	81.0	93.2	2.400	16.5:1

A V60 Cross Country
B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 456)を参照してください。

関連情報

- クーラント - グレードおよび容量 (p. 468)
- エンジンオイル - グレードおよび容量 (p. 466)

エンジンオイル – 過酷な走行条件

過酷な走行条件では、通常よりも油温が上昇したり、オイル消費量が増加する場合があります。以下に過酷な走行条件をいくつか挙げます。

次のような状況で長時間走行する場合は、通常よりも頻繁に オイルレベルを点検(p. 410)してください。

- キャラバンやトレーラーけん引時
- 山道走行時
- 高速走行時
- 外気温が-30 ℃以下、または+40 ℃以上の環境で走行する場合

前述の項目は、低温で短距離を走行する際にも当てはまります。

過酷な条件下で走行する場合は、100%化学合成オイルの使用を推奨しています。エンジンにさらなる保護を提供します。

ボルボ社の推奨品：

重要

エンジンのサービスインターバルに適応できるように、工場で特別な合成エンジンオイルがエンジンに充填されています。このオイルは、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全を十分考慮して選定されています。

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。オイルの補充および交換時には、指定グレードのオイル以外使用しないでください。異なるオイルを使用すると、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全に悪影響を与えます。

指定グレードおよび粘度以外のオイルを使用した場合、ボルボ社の保証も適用されなくなります。

オイル交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼されることをお薦めします。

関連情報

- エンジンオイル – グレードおよび容量 (p. 466)
- エンジンオイル – 概要 (p. 409)

エンジンオイル – グレードおよび容量

各エンジンタイプに対応するエンジンオイルのグレードおよび容量が表内に記載されています。

ボルボ社の推奨品：

注意

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V60CC[A] エンジン	エンジンコード[B]	オイルグレード	オイルフィルターを含む容量（リットル）
T5 / T5 AWD	B4204T11	カストロールエッジ Professional V 0W-20 または VCC RBS0-2AE 0W-20	約 5.6
D3	D4204T4	カストロールエッジ Professional V 0W-20 または VCC RBS0-2AE 0W-20	約 5.2
D4	D4204T14		約 5.2
D4 AWD	D5244T21	**オイルグレード：ACEA A3/B3/B4** **粘度：SAE 0W-30**	約 5.9

A V60 Cross Country
B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 456)を参照してください。

関連情報

- エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 465)
- エンジンオイル – 点検および補充 (p. 410)

クーラント – グレードおよび容量

各エンジンタイプに対する認定のクーラント容量が表内に記載されています。

指定グレード： ボルボ純正クーラントと水[1]を50%ずつ混ぜたもの。パッケージを参照してください。

注意

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V60CC[A] エンジン[B]		容量（リットル）
T5 / T5 AWD	B4204T11	8.3(8.7[C])
D4 AWD	D5244T21	8.9
D3	D4204T4	8.9(9.2[C])
D4	D4204T14	

A V60 Cross Country
B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 456) を参照してください。
C フューエルドリブンヒーター装備車に適用されます。

関連情報

- クーラント – レベル (p. 414)

1 水質は、基準 STD 1285.1 を満たしていなければなりません。

トランスミッションフルード – グレードおよび容量

各トランスミッションタイプの指定トランスミッションフルードおよび容量が表に記載されています。

マニュアルトランスミッション

マニュアルトランスミッション	容量(リットル)	指定されたトランスミッションフルード
M66	約 1.45	BOT 350M3

オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション	容量(リットル)	指定されたトランスミッションフルード
TF-80SD	約 7.0	AW1
TG-81SC	約 6.6[A] 約 7.5[B]	AW1

A ガソリンエンジン
B ディーゼルエンジン

注意

通常の走行条件下では、トランスミッションフルードの交換は不要です。ただし、過酷な走行条件下では、交換が必要になる場合もあります。

関連情報

- エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 465)
- タイプの表示 (p. 456)

ブレーキフルード – グレードおよび容量

ブレーキフルードとは、油圧ブレーキシステムでマスターブレーキシリンダーから機械式ブレーキに圧力を伝達する媒体のことです。

指定グレード： ボルボ純正 Dot 4 6等級 または同等のブレーキフルード

容量： 0.6リットル

関連情報

- ブレーキおよびクラッチフルード – レベル (p. 415)

パワーステアリングフルード – グレード

パワーステアリングフルードは車両のパワーステアリングシステムで使用される媒体です。

指定グレード： ボルボ推奨のパワーステアリングフルード

関連情報

- パワーステアリングフルード – レベル (p. 415)

燃料タンク – 容量

各エンジンタイプに対する認定の燃料タンクの容量が表内に記載されています。

エンジン	容量(リットル)	指定グレード
ガソリンエンジン	約 67	燃料 – ガソリン（p. 362）
ディーゼルエンジン	約 67	燃料 – ディーゼル（p. 362）

関連情報

- 適切な給油方法（p. 360）
- エンジンの仕様（p. 464）

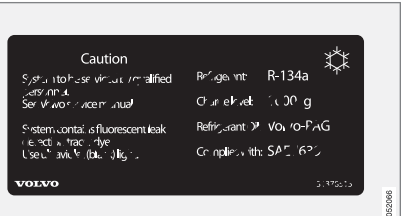
エアコンディショナーの仕様

車両のエアコンディショナーシステムは、市場に応じて、R1234yf または R134a のいずれかの冷媒を使用します。どちらの冷媒が使用されているかに関する情報は、ボンネットの内側に貼付されている表示ラベルで確認することができます。

エアコンディショナーシステムで使用されるフルードおよび潤滑剤の指定グレードおよび容量は以下の表に記載されています。

A/C ラベル

R134a 用ラベル



ラベルはボンネットの内側に貼付されています。

R1234yf 用ラベル

ラベルはボンネットの内側に貼付されています。

R1234yf のシンボル説明

シンボル	意味
	注記
	移動式エアコンディショナーシステム(MAC)
	潤滑剤タイプ
	移動式エアコンディショナーシステム(MAC)の整備は、資格および技能を有するメカニックが行う必要があります。
	可燃性冷媒

冷媒

R134a 冷媒仕様車

エンジン	重量	指定グレード
5 気筒ディーゼル	720 g	R134a
その他	800 g	

⚠ 警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R134a が加圧充填されています。このシステムの保守や修理は、必ずボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

R1234yf 冷媒仕様車

重量	指定グレード
750 g	R1234yf

⚠ 警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R1234yf が加圧充填されています。SAE J2845(自動車用 A/C システムに使用される冷媒の安全な点検整備および格納のための技術トレーニング)に従い、冷媒システムの点検整備および修理は、必ず資格および技能を有する技術者が行い、システムの安全を確保する必要があります。

コンプレッサーオイル

エンジン	容量	指定グレード
4 気筒	60 ml	PAG SP-A2
5 気筒	110 ml	PAG SP-A2

エバポレーター

重要

A/C システムのエバポレーターは、絶対に修理したり、以前に使用していたエバポレーターと交換したりしないでください。新しいエバポレーターは、SAE J2842 に基づいて認証および表示されている必要があります。

関連情報

- エアコンディショナーシステム – 故障点検と修理 (p. 416)
- タイプの表示 (p. 456)

燃料消費量および CO2 排出量

燃料消費量と CO2 排出量は、さまざまな原因で悪化することがあります。

燃費の増加には以下のような原因が考えられます。

- 車両に追加装備があり、車両の重量が増加している場合。
- 運転者の走行スタイル。
- モデルの基本バージョンに標準装備されているホイールよりも大きいホイールが装着されており、転がり抵抗が増加している場合。
- 高速で走行し、風抵抗が増加している場合。
- 燃料の品質、道路および交通の状況、天候、車両の状態。

前述の例が組み合わさると、燃料消費量が大幅に増加することがあります。

注意

悪天候、トレーラーをけん引しながらの走行、あるいは標高の高い地域での走行と不適切な燃料の使用などが組み合わさると、車両の燃料消費量が大幅に増加します。

関連情報

- 経済走行 (p. 365)
- 重量 (p. 461)

タイヤ - 承認された空気圧

各エンジンタイプに対する認定のタイヤ空気圧が表内に記載されています。

注意

提供されているエンジンとタイヤ、またその組み合わせは、市場により異なっており、ご利用いただけないものもございますので、あらかじめご了承ください。

V60CC[A] エンジン	タイヤサイズ	速度 (km/h)	重量、1～3 名乗車		最大荷重		ECO プレッシャー[B]
			フロント (kPa)[C]	リア (kPa)	フロント (kPa)	リア (kPa)	フロント/リア (kPa)
すべてのエンジン	215/65 R 16	0 - 160[D]	230	230	260	260	260
	235/55 R 17 235/50 R 18 235/45 R 19	160+[E]	240	240	280	280	-
テンポラリースペアタイヤ		80 以下[F]	420	420	420	420	-

A V60 Cross Country
B 経済走行
C 国によっては、SI 単位であるパスカル(pascal、Pa)の他に、バール(bar)が使用されます。1 bar = 100 kPa。
D 0 - 100 mph
E 100+ mph
F 最高 50 mph

関連情報

- タイヤ - サイズ（p. 382）
- タイヤ - 空気圧（p. 380）
- タイプの表示（p. 456）

50 音順索引

あ

アクティブ・ヨー・コントロール..... 234
アクティブキセノンヘッドライト..... 135
アクティブハイビーム..... 133
アクティブベンディングライト..... 135
アダプティブクルーズコントロール.... 249
　一時的解除..... 255
　追い越し..... 256
　解除する..... 257
　概要..... 252
　機能..... 250
　クルーズコントロール機能の変更... 259
　故障診断..... 260
　車間時間の設定..... 254
　スタンバイモード..... 255
　速度の管理..... 253
　レーダーセンサー..... 263
アディショナルヒーター
　電気式..... 189, 190
　フューエルドリブン..... 189
アプローチライト..... 141, 208
アラーム..... 228, 229, 230
　アラームインジケーター..... 229
　アラームシグナル..... 230
　アラームの機能解除..... 230
　アラームの点検..... 210
　自動作動..... 229
　リモートコントロールキーが作動しない..... 230
アレルギーおよび喘息を誘発する物質.. 170
アンビエントライト..... 140

い

イモビライザー..... 207
インジケーターランプ、PCC..... 210
インストルメントの概要
　左ハンドル車..... 96
　右ハンドル車..... 99
インテリア・エア・クオリティ・システム(IAQS)
　空気清浄..... 170
インフォメーション・ディスプレイ102, 103
インフォメーションディスプレイのメッセージ..... 153
インフォメーションボタン、PCC..... 210
インフレータブルカーテン..... 73

う

ウインタータイヤ..... 384
ウインターホイール..... 384
ウインド/ルームミラー/ドアミラー.... 451
ウインドスクリーン
　ヒーター..... 178
ウインドスクリーンウォッシャー..... 142
ウォッシャー
　ウインドスクリーン..... 142
　ウォッシャー液、補充..... 427
　リアウインド..... 143
ウォッシャー液..... 427

え

エアコンディショナー..... 178
　温度コントロール..... 177
　概要..... 168
　実際の温度..... 169
　自動調節..... 177
　センサー..... 169
　パーソナル選択..... 171
エアコンディショナー、フルード
　容量およびグレード..... 472
エアコンディショナーシステム
　修理..... 416
エアディストリビューション..... 171
　一覧表..... 180
　リサーキュレーション..... 179
エアバッグ 68
　運転席側..... 68

作動/非作動、PACOS..... 70
助手席側..... 68, 70
エアバッグシステム..... 67
警告灯..... 66
エコラベル、FSC、オーナーズマニュアル 28
エタノール含有量
体積に対し 10 %以下..... 362
エラーメッセージ
アダプティブクルーズコントロール. 261
ドライバー・アラート・コントロール298
メッセージおよびシンボル参照 261, 354
レーン・デパーチャー・ウォーニング302
LKA..... 307
エンジン
オーバーヒート..... 356
解除する..... 325
始動..... 324
Start/Stop..... 339
エンジン・ドラッグ・コントロール.... 235
エンジンオイル..... 409, 465
過酷な走行条件..... 465
グレードおよび容量..... 466
フィルター..... 409
エンジンオイル、注入..... 410
エンジンオイルレベルの点検..... 410
エンジン高温..... 356
エンジンの仕様..... 464
エンジンブレーキ、自動..... 338
エンジンブロックヒーター..... 183
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター
即時停止..... 185
タイマー..... 185
ダイレクトスタート..... 184
メッセージ..... 187
エンジンリモートスタート - ERS..... 326
エンジンルーム
エンジンオイル..... 409
概要..... 407
クーラント..... 414
点検..... 409
パワーステアリングフルード..... 415
ブレーキおよびクラッチフルード... 415
エンジンを停止する..... 325

お

オイル、エンジンオイルも参照... 465, 466
オイルレベルゲージ..... 411, 412
オイルレベル低下..... 410
応急手当..... 391
オートブレーキ機能付衝突警告システム 276
オートマチック・エアコンディショナー(ECC)..... 174
オートマチックトランスミッション.... 332
けん引および車両の回収..... 374
トレーラー..... 368
マニュアルギヤポジション(ギヤトロニック)..... 333
オートリロック機能..... 221
オーナーズマニュアル、エコラベル..... 28
オーバーヒート..... 356, 366
お子様
車内の位置..... 85
セーフティ..... 77
チャイルドシートおよびエアバッグ.. 85
チャイルドシートとサイドエアバッグ 72
チャイルドロック..... 77
オプション/アクセサリー..... 19
温度
実際の温度..... 169
温度コントロール..... 177
オンライン車両
コネクテッド・サービス予約..... 402

か

カーキーメモリー..... 205
カーゴスペース
固定ポイント..... 198

セーフティネット..... 199
ライト..... 140
ラゲッジカバー..... 201
外気温度計..... 112
外寸..... 459
回転方向..... 379
各種計器および操作ボタン..... 96, 99
ガソリンのグレード..... 362
型式認定
リモートコントロールキーシステム. 231
レーダーシステム..... 265
カメラセンサー..... 271, 283
カメラセンサーの故障診断..... 272
カラーコード、塗装..... 453
カラーコード、ペイント..... 453
ガラス
ラミネーテッド/強化..... 28
間欠ワイパー..... 141

き

キー..... 204, 206
キー位置..... 119
キーブレード..... 212, 213
キーブレードによるドアロック解除.... 219
キーレス - ロック..... 218
キーレス - ロック解除..... 219
キーレス始動(キーレスドライブ).. 216, 217, 218, 219, 220, 324
キーレスドライブ. 216, 217, 218, 219, 220, 324
ギヤシフトインジケーター..... 332
ギヤセレクターインヒビター..... 336
ギヤセレクターインヒビター、機械的に解除..... 336
ギヤセレクターインヒビターの解除.... 336
ギヤトロニック..... 333
救急用品キット..... 391
救急用品キット..... 391
三角警告板(停止表示板)..... 389
給油
燃料給油口フラップ..... 359
燃料給油口フラップ、手動で開く... 359
フューエルキャップ..... 360
補充..... 360
緊急パンクリペアーキット..... 394
位置..... 394
概要..... 395
再点検..... 398
対処..... 396
タイヤへの空気注入..... 399

く

空気清浄
車内..... 169, 170, 171
素材..... 171
空気清浄システム IAQS..... 170
クーラント
容量およびグレード..... 468
クーラント、点検および補充..... 414
クーリングシステム..... 356
オーバーヒート..... 356
曇り
ウインドの手入れ..... 168
ヘッドライト内の凝結水..... 448
クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)..... 170
クリーンエアフィルター..... 170
クルーズコントロール..... 242
一時的解除..... 244
解除する..... 245
セットした速度に戻る..... 244
速度の管理..... 243
グローバルオープニング機能..... 168, 223
グローブボックス..... 194
ロック..... 224

け

計器
スピードメーター..... 102, 104
タコメーター..... 102, 104
燃料計..... 102, 104
警告音
衝突警告システム..... 280
警告灯..... 103, 106, 110
アダプティブクルーズコントロール. 250
エアバッグ - SRS..... 110
警告..... 110
シートベルトリマインダー..... 65, 110
充電不良..... 110
衝突警告システム..... 280
スタビリティ&トラクション・コントロール・システム..... 234
パーキングブレーキ作動..... 110
ブレーキシステムの不具合..... 110
油圧低下..... 110
経済走行..... 365
けん引..... 374
けん引フック..... 375
けん引重量およびトウボール荷重..... 462
けん引フック..... 375

こ

小石などによる傷および引っかき傷.... 453
高圧ヘッドライトウォッシャー..... 143
コーナー・トラクション・コントロール 235
コーナリングライト..... 136
コンバインド・メーター・パネル. 102, 103
コンパス..... 148
校正..... 148

さ

サービスと修理の予約..... 402
サービスプログラム..... 402
サービスポジション..... 425
サイクリストの検知..... 278
再生..... 364
最大ルーフ荷重..... 461
サイドエアバッグ SIPS..... 72
座席、シート参照..... 121
サポート..... 18
三角警告板(停止表示板)..... 389
サンスクリーン、サンルーフ..... 151
サンルーフ
開閉..... 149
サンスクリーン..... 151
ピンチプロテクション..... 151
ベンチレーションポジション..... 150

し

シート..... 121
パワーシート..... 122
ヒーター..... 175, 176
フロントシートのバックレストを倒す..... 121
ヘッドレスト、リア..... 124
リアシートバックレストを倒す..... 124
シートのメモリー機能..... 122
シートベルト..... 62
シートベルトテンショナー..... 65
シートベルトリマインダー..... 65
着用..... 63
妊婦の方..... 64
ゆるめる..... 64
リアシート..... 65
シートベルトテンショナー..... 65
シートベルトリマインダー..... 65
自動洗車機..... 448
シミや汚れ..... 452
車間警告機能..... 245
機能の限界..... 247

シンボルおよびメッセージ..... 248
車間時間の設定..... 246
ジャッキ..... 390
車内小物入れなど..... 192
車内ヒーター..... 183
車両移動..... 376
車両重量..... 461
車両総重量..... 461
車両通行帯ヘッドライト照射パターン.. 136
車両リフトアップ..... 405
ジャンプスタート..... 329
渋滞アシスタント..... 257
収納スペース
グローブボックス..... 194
トンネルコンソール..... 194
重量
車両重量..... 461
出力..... 464
衝突、衝突事故を参照..... 75
衝突警告システム..... 276, 277
一般的機能の限界..... 282
機能..... 277
操作..... 280
歩行者保護..... 279
レーダーセンサー..... 263, 270
衝突事故..... 75
照明スイッチ..... 129
触媒コンバーター 365
けん引..... 375
シンボルおよびメッセージ
アダプティブクルーズコントロール. 261
オートブレーキ機能付衝突警告システム 275, 285
ドライバー・アラート・コントロール298
レーン・デパーチャー・ウォーニング302
LKA..... 307
シンボルマーク
警告灯..... 103, 106
表示灯..... 103, 106, 108

す

推奨チャイルドシート
一覧表..... 79
スキッド..... 358
煤フィルター..... 364
煤フィルターがいっぱい..... 364
スタビリティ・システム..... 234
スタビリティ&トラクション・コントロール・システム..... 234, 237
操作..... 235
スチールガードネット..... 201
ステアリングフォースレベル、ステアリングフォース参照..... 234
ステアリングホイール..... 126
ステアリングホイールの調節..... 126
ステアリングリモコン..... 127
パドル..... 127
ヒーター..... 127
ステアリングホイールのステアリングリモコン..... 127
ステアリングホイールの調節..... 126
ステアリングホイールのパドル..... 127
ステアリングホイールフォース、車速感応式..... 234
ステアリングホイールロック..... 325
スピンコントロール..... 234
スペアタイヤ..... 385
取り付け..... 388
滑りやすい路面での運転..... 358
スルーロードハッチ..... 197
寸法..... 459

せ

清掃
シートベルト..... 452
自動洗車機..... 448

洗車..... 448
内装..... 452
ホイールリム..... 450
セーフティモード..... 75
始動の試行..... 76
車両の移動..... 77
セーフティロック
お子様..... 77
洗車..... 448
全輪駆動(AWD)..... 337

そ

走行..... 358
クーリングシステム..... 356
テールゲートを開けたまま..... 357
走行距離..... 156
走行中にご注意いただきたいこと..... 358
走行統計..... 166
走行特性の最適化..... 234
速度記号、タイヤ..... 383
速度リミッター..... 239
一時的解除..... 240
開始..... 239, 240
解除..... 241
速度超過時のアラーム..... 241

た

タイプの表示..... 456
タイヤ
圧力..... 380, 474
ウインタータイヤ..... 384
回転方向..... 379
仕様..... 474
タイヤプレッシャーモニタリング..... 391, 392
トレッド溝の深さ..... 384
トレッド磨耗インジケーター..... 380
パンク修理..... 394
メンテナンス..... 378
タイヤ・プレッシャー・モニタリング391, 392
タイヤ空気圧表示ラベル..... 380
タイヤサイズ..... 382
タイヤモニタリング..... 392
脱着式トウバー
保管..... 369

ち

チャイルドシート..... 77
インテグレーテッドチャイルドシート 86
下げる..... 89
推奨..... 79
タイプ..... 91
チャイルドシート用のアッパーマウンティングポイント..... 93
チャイルドシート用 ISOFIX 対応アタッチメントシステム..... 89
着座姿勢..... 86
跳ね上げ..... 87
ISOFIX 対応アタッチメント付きチャイルドシートのサイズ等級..... 90
チャイルドロック..... 227

つ

ツール..... 390

て

ディーゼル..... 362
燃料切れ..... 363
ディーゼル微粒子除去フィルター..... 364
ディスプレイ照度..... 129
デイタイムランニングライト..... 131
テールゲート
ロック/ロック解除..... 224
デッドロック..... 226
一時的解除..... 226

解除..... 226
デフロスター..... 178
電気系統..... 434
電源ソケット..... 195
カーゴスペース..... 199
電動格納式ドアミラー..... 146
電動サンルーフ..... 149
電動パーキングブレーキ
バッテリー電圧低下..... 352

と

ドアミラー..... 145
自動防眩機能..... 146
リセット..... 146
ドアミラーのリセット..... 146
冬季の運転..... 358
トウバー
脱着式、アタッチメント..... 371
脱着式、取り外し..... 372
トウバー、トーイングブラケット参照.. 369
トウバー - 脱着式
取り付け/取り外し..... 371, 372
トーイングブラケット..... 369
仕様..... 370
時計、調節..... 113
塗装
カラーコード..... 453
塗装面の損傷と補修..... 453
ドライバー・アラート・コントロール
操作..... 297
ドライバー・アラート・システム - DAC 296
トラクション・コントロール..... 234
トラブルシューティング
アダプティブクルーズコントロール. 260
トランスポンダー..... 23
トランスミッション..... 331
オートマチック..... 332
マニュアル..... 331
トランスミッションオイル
容量およびグレード..... 469
トリップコンピューター156, 158, 162, 166
トリップメーター、リセット..... 159, 163
トリップメーター(走行距離計)... 113, 156
トレーラー..... 366
ケーブル..... 366, 367
蛇行 373
トレーラーなどのけん引..... 366
トレーラー・スタビリティ・アシスト235, 373
トレーラーなどのけん引..... 366
けん引重量..... 462
トウボール荷重..... 462
トレッド溝の深さ..... 384
トレッド磨耗インジケーター..... 380
トンネルコンソール..... 194
12V 電源ソケット..... 195
トンネルの検知..... 132

な

内装..... 452

に

二酸化炭素の排出..... 473
日常の手入れ..... 448
レザー製内装..... 452
荷物の積み込み
概要..... 196
長尺物..... 197
カーゴスペース..... 196
ルーフの荷物..... 198

ね

熱を反射するウインドスクリーン..... 23

燃料
燃費..... 380, 381
燃料タンク
容量..... 471

は

パーキングブレーキ..... 352
パークアシスト..... 308, 310
機能..... 308
後方..... 309
パークアシスト・センサー..... 311
不具合インジケーター..... 311
パークアシスト・カメラ 312
設定..... 315
パークアシスト・パイロット..... 316
機能..... 317
機能の限界..... 320
シンボルおよびメッセージ..... 321
操作..... 318
パークアシスト・パイロット - PAP.... 316
パーソナル・カー・コミュニケーター.. 211
ハイ/ロービーム..... 132
排ガス、有害、吸引..... 357
ハイビーム、自動起動..... 133
バイブレーションダンパー..... 369
バッグホルダー 198
バックレスト..... 121
フロントシートを倒す..... 121
リアシート、折りたたみ..... 124
撥水/防塵加工コーティング..... 451
撥水加工コーティング、清掃..... 451
バッテリー..... 329, 357, 428
過負荷..... 357
警告灯..... 430
交換..... 430
ジャンプスタート..... 329
バッテリーに表示されているシンボル 430
補助..... 432
メイン..... 428
メンテナンス..... 428
リモートコントロールキー/PCC..... 215
パニックアラーム機能..... 208
バルブ、仕様..... 424
パワーウインド..... 144
リセット..... 145
パワーウインドのリセット..... 145
パワーシート..... 122
パワーステアリングフルード
グレード..... 470
レベルの点検..... 415
パンク..... 394
ハンドブレーキ..... 352

ひ

ヒーター
シート..... 175, 176
ステアリングホイール..... 127
リアウインド..... 147
ルームミラー/ドアミラー..... 147
ヒーテッドワイパーブレード..... 143
非常点滅灯..... 138
ヒューズ
エンジンルーム内..... 436
エンジンルームのコールドゾーン内. 446
カーゴスペース内..... 444
概要..... 435
グローブボックス下..... 440
グローブボックスの下にあるコントロールモジュール内..... 442
交換..... 435
ヒューズボックス..... 435
表示灯..... 103, 106, 108
表示ラベル
の位置..... 456
ヒル・スタート・アシスト..... 337
ヒルディセントコントロール..... 338
ピンチプロテクション、サンルーフ.... 151

ふ

ファン
ECC..... 176
フォグランプ
リア..... 137
フットブレーキ..... 349, 350, 351
フューエル..... 361, 362
燃費..... 473
フューエルフィルター..... 363
フューエルドリブンヒーター
タイマー..... 185
プライバシーロック..... 213
フルード、容量... 427, 468, 469, 470, 471, 472
フルードおよびオイル. 468, 469, 470, 472
ブレーキ..... 349, 351
アンチロックブレーキシステム、ABS 350
コンバインド・メーター・パネル内のシンボル..... 350
ハンドブレーキ..... 352
ブレーキシステム..... 349, 350, 351
ブレーキフルードの補充..... 415
ブレーキランプ..... 137
EBA(エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス) 351
ブレーキおよびクラッチフルード..... 415
ブレーキフルード
グレードおよび容量..... 470
ブレーキランプ..... 137
フロアマット..... 194
フロントワイパー..... 141
レインセンサー..... 142

へ

ヘッドライト..... 418
ヘッドライト光軸調整..... 130
ヘッドライト制御..... 128
ヘッドライト内の凝結水..... 448
ヘッドライトパターン、調整..... 136
ヘッドライトビーム
車高調節..... 130
適応..... 136
ヘッドライトビームの適応..... 136
ヘッドレスト
下げる..... 124, 125
リアセンターシート..... 124
ベンチレーション..... 171

ほ

ホイール
清掃..... 450
タイヤチェーン..... 384
取り付け..... 388
取り外し..... 385
ホイール交換..... 385
ホイールボルト..... 384
ロック可能..... 384
ホイールリム、サイズ..... 382
方向指示器..... 138
防錆..... 451
ホームセーフライト点灯時間..... 140
ホーン..... 127
歩行者保護..... 276
ポジションランプ..... 130
保守
防錆..... 451
補助バッテリー..... 432
ボルボ・センサス..... 118
ボンネット、開ける..... 407

ま

マニュアルギヤポジション(ギヤトロニック)..... 333
マニュアルトランスミッション..... 331
　けん引および車両の回収..... 374
　トレーラー..... 368

み

磨き..... 450
水たまりでの運転..... 356

む

むち打ち症、WHIPS..... 73

め

メイクアップミラー..... 195
　ライト..... 139
メーター・パネルライト..... 129
メッセージおよびシンボル
　アダプティブクルーズコントロール. 261
　エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター..... 187
　オートブレーキ機能付衝突警告システム..... 275, 285
　ドライバー・アラート・コントロール298
　レーン・デパーチャー・ウォーニング302
　LKA..... 307
メッセージ..... 154
メニュー
　コンバインド・メーター・パネル... 151
　メニュー概要..... 152

ら

ライト
　アクティブキセノンヘッドライト... 135
　アクティブハイビーム..... 133
　アクティブベンディングライト..... 135
　アプローチライト..... 141, 208
　コーナリングライト..... 136
　コントロール..... 128, 139
　自動点灯機能、車内..... 140
　車内..... 139
　照明スイッチ..... 129
　ディスプレイ照度..... 129
　デイタイムランニングライト..... 131
　トンネルの検知..... 132
　ハイ/ロービーム..... 132
　バルブ、仕様..... 424
　ヘッドライト光軸補正..... 130
　ホームセーフライト..... 140
　ポジションランプ..... 130
　メーター・パネルライト..... 129
　リアフォグランプ..... 137
ラゲッジカバー..... 201
ラベル
　の位置..... 456
ラミネーテッドガラス..... 28
ランプ..... 417
ランプ、バルブ交換..... 417
　カーゴスペース..... 423
　ナンバープレートランプ..... 423
　ハイビーム(アクティブキセノンヘッドライト装備車)..... 421
　ハイビーム(ハロゲンヘッドライト装備車)..... 420
　バルブホルダー、リア..... 422
　方向指示器、フロント..... 421
　メイクアップミラー..... 423
　ロービーム(ハロゲンヘッドライト装備車)..... 419

り

リアウインド
　ヒーター..... 147

リアシート
ヒーター..... 176
リアバルブ
位置..... 422
リセット、トリップメーター..... 159, 163
リバースギヤインヒビター..... 331
リモートコントロールイモビライザー.. 208
リモートコントロールキー.. 204, 205, 206
機能..... 208
作動範囲..... 209, 217
損失..... 204
脱着式キーブレード..... 212, 213
電池の交換..... 215
リモートコントロールキーシステム、型式認定 231

る

ルーフ荷重、最大重量..... 461
ルームミラー..... 147
自動防眩機能..... 148
ルームミラー/ドアミラー
インテリア..... 147
コンパス..... 148
電動格納式..... 146
ドア..... 145
ルームミラーおよびドアミラー
ヒーター..... 147
ルームランプ..... 139
オートマチック..... 140

れ

冷媒..... 416
レインセンサー..... 142
レーザーセンサー..... 273
レーダーセンサー..... 250
機能の限界..... 263
レーン・キーピング・エイド(LKA) 303, 304
レーン・デパーチャー・ウォーニング - LDW 299, 300, 301
レーンアシスト
操作..... 301, 305, 306
レザー製内装、清掃方法..... 452

ろ

ロード・サイン・インフォメーション.. 292
機能の限界..... 295
操作..... 293
ロードインデックス..... 383
ロック
手動ロック..... 221
ロック..... 221
ロック解除..... 221, 222
ロック/ロック解除
グローブボックス..... 224
車内から..... 222
テールゲート..... 224
ロックインジケーター..... 207
ロック解除
車外から..... 221
車内から..... 222
ロック確認 206
ロックホイールボルト..... 384

わ

ワイパー/ウォッシャー..... 141
ワイパーブレード..... 425
交換..... 425
サービスポジション..... 425
清掃..... 426
リアウインドの交換..... 426
ワイパーブレード、ヒーテッド..... 143
ワックスがけ..... 450

A

ACC(アダプティブクルーズコントロール)..... 249
AWD(全輪駆動)..... 337

B

BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)..... 287, 288
BLIS のエラーメッセージ..... 291
BLIS のメッセージ..... 291

C

City Safety..... 269
CO_2 エミッション..... 473
CTA - Cross Traffic Alert..... 289
CZIP(クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ) 170

D

Driver Alert Control..... 296

E

ECC、オートマチック・エアコンディショナー..... 174
Eco Cruise..... 347
Eco guide 106
ECO ドライブモード..... 347
ECO プレッシャー..... 474
ECO モード..... 347
ERS(エンジンリモートスタート)..... 326

F

FSC、環境ラベル..... 28

G

GSI(ギヤセレクターレバーアシスタンス)..... 332

H

HDC..... 338

I

IAQS(インテリア・エア・クオリティ・システム)..... 170

L

LKA(レーン・キーピング・エイド) 303, 304

M

MY CAR..... 154

P

PACOS 70
PAP(パークアシスト・パイロット)..... 316
PCC(パーソナル・カー・コミュニケーター)
　機能..... 208
　作動範囲..... 211, 217
Power guide..... 106

S

Sensus..... 118

SIPS バッグ..... 72
Start/Stop..... 339
エンジンが停止しない..... 342
機能と操作..... 340

T

TM(タイヤモニター)..... 392
TPMS(タイヤ・プレッシャー・モニタリング)..... 391
TSA(トレーラー・スタビリティ・アシスト) 235, 373

V

Volvo ID..... 24

W

WHIPS
後部衝撃吸収リクライニング機構.... 73
チャイルドシート、ブースタークッション..... 73
着座姿勢..... 74

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

TP 23453 (Japanese), AT 1717, MY18, Copyright © 2000-2017 Volvo Car Corporation